

序

平成２２年度は、公立高等学校の授業料無償化等が実施され、教員の資質向上のための制度改革、学級編制及び教職員定数の改善に関する検討が国において進められるなど、教育制度の在り方が大きく変わろうとする年でありました。

このような中、県教育委員会では、知事部局と連携しながら、「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念として、その実現に向けた教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である、第６次福島県総合教育計画を平成２２年３月に策定しました。

本計画は、学校教育、生涯教育、文化・スポーツ、私立学校及び大学教育を包含するものであり、平成２２年度から平成２６年度までの５年間を計画期間とし、上記の基本理念に基づき、３つの基本目標を掲げるとともに、それぞれの目標について各施策を展開することにより、目標の達成を目指していくものであります。平成２２年度は計画の初年度にあたり、各施策を推進してまいりましたが、平成２３年３月１１日の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響により、本県教育分野の復興に向けて新たな対応が必要となりました。

さて、本教育年報は、平成２２年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望することができる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいています。

今後も本書が、教育施策や各種事業を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

平成２４年２月

福島県教育委員会

教 育 年 報 目 次

第 1 章 教育行政の概観

1 教育の情報化関係	4
2 義務教育関係	4
3 高等学校教育関係	4
4 特別支援教育関係	5
5 社会教育関係	5
6 文化関係	6
7 生涯学習関係	7
8 スポーツ関係	7
9 福利厚生関係	7

第 2 章 教 育 行 政

第 1 節	平成 22 年度福島県教育委員会重点施策	9
第 2 節	教育委員会	11
	1 教育委員会	11
	2 審議事項	11
第 3 節	教育庁組織	14
第 4 節	企画調整	15
	1 教職員現職教育計画の策定	15
	2 調整事務	15
第 5 節	広報・広聴	16
	1 教育県の実施策	16
	2 教育委員会だより	16
	3 教育年報	16
	4 福島県の実施策	16
	5 うつくしま ふくしま 教育ニュース	16
	6 教育庁各課・所・館の広報誌・紙	17
	7 教育長記者会見	18
	8 記者発表及び資料提供	18
	9 教育広聴会	19
	10 平成 22 年度「ふくしま教育の日」啓発推進事業	19
	11 県庁子ども参観デー	19
第 6 節	調査統計	20
	1 学校統計要覧の刊行	20
	2 地方教育費調査	20
	3 学校教員統計調査	20
	4 子どもの学習費調査	20
	5 進路状況等に関する調査	20
第 7 節	教職員の給与	20
	1 給料の改定	20
	2 給料の調整額	20
	3 給料の特別調整額	20
	4 通勤手当	20
	5 特殊勤務手当	20
	6 超過勤務手当	20
	7 期末・勤勉手当	21
	8 定時制通信教育手当	21
	9 産業教育手当	21
	10 義務教育等教員特別手当	21
第 8 節	附属機関等	21
	1 福島県学校教育審議会	21

	2 福島県社会教育委員の会議	22
	3 福島県文化財保護審議会	23
第9節	市町村教育委員会	23
	1 概要	23
	2 組織	23
	3 平成22年度市町村教育委員会援助指導の概要	24
第10節	職員団体との話し合い	25
	1 福島県教職員組合	25
	2 福島県高等学校教職員組合	25
	3 福島県立高等学校教職員組合	25
	4 福島県学校事務労働組合	25
第11節	不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件	26
	1 不利益処分審査請求事件	26
	2 損害賠償請求事件	26
第12節	特例民法法人の監督等並びに公益信託の引き受けの許可及び監督の状況	26
第13節	表彰及び叙勲	26
	1 教育・文化関係表彰	26
	2 文部科学大臣表彰	27
	3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲	28
第14節	奨学育英	30
	1 福島県奨学資金	30
	2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度	30
	3 財団法人福島県学生寮	30
第3章 教 育 財 政		
第1節	平成22年度決算	31
	1 歳入	31
	2 歳出	32
第2節	学校教育施設	34
	1 県立学校	34
	2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校(市町村立分)	36
第3節	産業教育振興法補助事業	37
	1 産業教育施設・設備の整備	37
第4節	理科教育振興法補助事業	37
	1 理科設備	37
	2 算数・数学特別設備	37
第5節	情報処理設備整備事業	37
	1 県単独事業	37
第4章 教育の情報化		
第1節	基盤整備	39
第2節	人材の育成・活用	39
第3節	教育用コンテンツの充実	40
第5章 義 務 教 育		
第1節	学校管理	41
	1 児童生徒数・学級数と教職員定数	41
	2 教職員人事・任用	43
	3 教育職員の免許	43
	4 学校の設置及び統廃合	44
	5 学校防火	44
	6 へき地対策	45

第2節	学校教育	47
1	概要	47
2	現職教育	49
3	教育課程	51
4	学力向上等	52
5	道德教育	52
6	特別活動	53
7	生徒指導・進路指導	53
8	幼稚園教育	54
9	へき地教育	54
10	環境教育	55
11	教科用図書	55
12	教育研究団体	56
第3節	国際化・科学技術の進展等への対応	59
1	中学生・高校生の科学・技術研究論文	59
2	中学生・高校生の国際理解・国際交流論文	59
第6章 高等学校教育		
第1節	学校管理	61
1	生徒数と教職員数	61
2	教職員人事・任用	65
3	学校の設置及び統廃合	68
第2節	学校教育	69
1	概要	69
2	現職教育	75
3	教育課程	76
4	学力向上対策等	76
5	生徒指導・進路指導	77
6	学校行事	77
7	産業教育	78
8	学校訪問	79
9	県立高等学校学校教育指導委員	79
10	教科用図書	80
11	教育研究団体	80
第7章 特別支援教育		
第1節	学校管理	83
1	児童生徒数と教職員定数	83
2	特別支援学校及び特別支援学級の実態	85
3	教職員人事・任用	87
第2節	学校教育	88
1	概要	88
2	現職教育	90
3	教育課程	92
4	訪問教育	92
5	研究指定校	92
6	生徒指導・進路指導	93
7	特別活動	93
8	学校訪問	93
9	県立学校教育指導委員	93
10	就学指導	94
11	教科用図書	94
12	教育研究団体	94

第8章 社 会 教 育

第1節	社会教育一般	97
1	概要	97
2	社会教育推進体制の充実	97
3	社会教育施設の整備充実	97
4	社会教育関係職員の研修	98
5	社会教育研究集会	98
6	社会教育指導員の設置	99
7	社会教育主事の市町村派遣	99
8	社会教育研修会	99
9	東北地区公民館大会（兼）福島県公民館研究集会	99
10	福島県公民館主事部会研修会	99
11	社会教育職員研修派遣	100
12	出版資料	100
第2節	地域教育力の向上	100
1	概要	100
2	体験活動・ボランティア推進センター事業	100
3	放課後子どもプラン	101
4	学校支援地域本部事業	102
第3節	家庭教育	103
1	概要	103
2	家庭教育支援推進事業	103
第4節	青少年教育	103
1	概要	103
2	十七字のふれあい事業	103
第5節	成人教育	104
1	概要	104
第6節	子どもの読書活動推進	104
1	概要	104
2	子どもの読書活動推進会議の設置	104
3	子ども読書活動推進環境整備事業	104
第7節	ユネスコ活動	104
1	概要	104
2	ユネスコ協会設立状況	104
3	東北ブロック・ユネスコ活動研究会（兼）福島県ユネスコ活動研修会	105
第8節	公民館等社会教育施設	105
1	概要	105
2	公民館を除く主な社会教育施設	105

第9章 文 化

第1節	概要	111
1	文化活動の振興	111
2	文化の伝承の充実	111
3	文化施設の整備充実	111
第2節	文化活動の振興	112
1	芸術文化活動発表機会の充実	112
2	第35回全国高等学校総合文化祭	116
第3節	文化財の愛護と伝統文化の継承	119
1	文化財保護体制の充実	119
2	文化財保存調査の推進	120
3	埋蔵文化財の保護の充実	120

	4 平成 22 年度文化財保存助成の充実	132
	5 文化財の愛護と公開の推進	133
	6 銃砲刀剣類の登録状況	133
第 4 節	財団法人福島県文化振興事業団による文化財保護の推進	134
	1 埋蔵文化財調査事業	134
	2 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業	136
	3 文化財センター整備業務	137

第10章 体育・健康

第 1 節	概要	139
	1 学校体育の充実	139
	2 学校保健・学校安全の充実	139
	3 食育の推進	139
	4 学校給食の充実	139
第 2 節	表彰	140
	1 体育関係	140
	2 学校保健・学校安全関係	140
	3 学校給食関係	142
	4 食育関係	143
第 3 節	学校体育	143
	1 学校体育関係各種研修	143
	2 福島県高等学校体育連盟	145
	3 福島県中学校体育連盟	147
	4 小学校運動競技奨励事業	148
第 4 節	学校保健・学校安全	148
	1 学校保健・学校安全研修会等	148
	2 児童・生徒の健康管理費補助	148
	3 教職員の健康管理	149
	4 福島県学校保健会	150
	5 独立行政法人日本スポーツ振興センター	150
第 5 節	学校給食	151
	1 学校給食実施状況	151
	2 学校給食に関する研修会	152
	3 学校給食用パン品質調査	152
	4 学校給食費	152
	5 食育に関する研修会等	152
	6 学校給食関係の国庫助成実績	152
第 6 節	体育施設	153
	1 公立学校施設整備補助	153

第11章 福 利 厚 生

	〔福利厚生事業〕	155
第 1 節	概要	155
第 2 節	保健・厚生事業	155
	1 保健事業	155
	2 厚生事業	157
第 3 節	貸付事業	159
	1 共済組合	159
第 4 節	宿泊・保養施設	160
第 5 節	児童手当	160
第 6 節	財産形成貯蓄制度	160
	〔福利給付事業〕	160
第 7 節	概要	160

第8節	短期給付	161
	1 共済組合	161
	2 互助会	161
第9節	長期給付	162
	1 恩給	162
	2 退職手当	162
	3 共済年金	163
第12章 福島県教育センター		
第1節	概要	165
	1 調査・研究事業	165
	2 研修事業	165
	3 情報教育事業	165
	4 教育相談事業	165
	5 教育図書・資料事業	166
第2節	調査・研究事業	166
	1 調査・研究	166
第3節	研修事業	167
	1 研修講座の概要	167
	2 研修講座	169
第4節	情報教育事業	170
第5節	教育相談	171
	1 対象別	171
	2 区分別	171
	3 地区別来所相談件数	171
	4 月別相談件数・回数	171
第6節	教育図書・資料事業	171
	1 教育図書・教育資料の収集	171
	2 教育資料の刊行	171
第13章 福島県養護教育センター		
第1節	概要	173
	1 教育相談事業	173
	2 教職員研修事業	173
	3 教育調査・研究事業	173
	4 教育図書・資料の収集・提供事業	173
	5 広報・啓発事業	173
	6 情報教育事業	174
第2節	障がい児の教育相談事業	174
	1 相談対象	174
	2 形態	174
	3 現状と課題	174
第3節	教職員研修事業	175
	1 教職員の研修講座	175
第4節	教育調査・研究事業	176
	1 調査研究	176
	2 プロジェクト研究	177
第5節	教育図書・資料の収集・提供事業	178
	1 教育図書・資料の収集・整理	178
第6節	広報・啓発事業	179
	1 所報「特別支援教育」(63号)	179
	2 研究紀要「第25号」	179
第7節	情報教育事業	179

	1 ソフトウェア開発と活用	179
	2 情報機器活用	179
	3 情報教育ネットワークと Web ページの充実	179
第14章	福島県立図書館	
第1節	概要	181
	1 運営の概要	181
	2 図書館協議会	181
第2節	資料の収集・整理	181
	1 図書館資料の収集	182
第3節	館内奉仕	183
	1 調査相談	183
	2 館内サービス	184
	3 館外個人貸出	184
	4 特別貸出	184
	5 地域資料	185
	6 逐次刊行物	185
	7 児童サービス	185
	8 複写サービス	185
	9 来館者用インターネットコーナー	185
	10 展示	185
第4節	館外奉仕	186
	1 移動図書館「あづま号」	186
	2 市町村援助のための支援貸出	186
	3 福島県立図書館資料の譲与	187
	4 学校図書館活動支援貸出	187
	5 学校図書館活動支援セット貸出	187
	6 読書会用文庫	187
	7 広報資料の発行	187
第5節	図書館協力	187
	1 相互協力と遠隔地返却	187
	2 県内図書館職員研修会	188
	3 県内大学図書館間相互利用制度	188
第15章	福島県立美術館	
第1節	概要	189
	1 美術館運営協議会	189
	2 他館等との連携	189
第2節	美術品の収集・保存	189
	1 収蔵作品点数一覧	189
	2 収集評価委員会	189
	3 平成 22 年度収蔵作品	189
	4 保存修復	190
第3節	展示事業	190
	1 常設展	190
	2 企画展	190
第4節	調査研究事業	193
	1 調査研究	193
	2 重点調査研究事項	193
第5節	普及事業	193
	1 館内解説	193
	2 美術館・学校教育連携事業	193
	3 博物館実習	194

	4 その他の事業	194
	5 鑑賞講座	194
	6 実技教室	194
	7 美術館への年賀状展	195
	8 友の会 協力会との連携	195
第16章	福島県立博物館	
第1節	概要	197
	1 運営の概要	197
	2 運営協議会	197
第2節	調査研究事業	197
	1 展示資料調査研究	197
第3節	収集整理事業	197
	1 収集展示委員会	197
	2 資料調査員会議	197
	3 資料収集	198
第4節	保存管理事業	198
	1 収集資料数	198
	2 資料の整理	198
	3 資料の保存	198
	4 資料撮影	199
	5 資料の貸出	199
第5節	展示企画事業	199
	1 常設展示	199
	2 企画展示	200
第6節	平成22年度行事	203
	1 講座等	203
第17章	福島県自然の家	
第1節	沿革及び所在地	211
	1 沿革	211
	2 所在地	211
第2節	教育目標及び基本的視点	211
	1 教育目標	211
	2 基本的視点	211
第3節	各施設の利用者数	211
福島県相馬海浜自然の家		
第1節	概要	213
	1 職員組織	213
	2 平成22年度重点目標と成果	213
第2節	施設・設備の概要	214
	1 所在地	214
	2 宿泊定員	214
	3 敷地面積	214
	4 建物面積	214
	5 運動広場面積	214
	6 設備・備品	214
第3節	利用状況	215
	1 月別利用状況	215
	2 利用団体別・宿泊日数利用状況	216
	3 研修活動の分類と実施団体数	216
第4節	企画事業	217

1 利用促進事業	217
2 4所協力による企画事業	217

福島県いわき海浜自然の家

第1節	概要	219
	1 平成22年度重点目標と成果	219
	2 職員組織	219
第2節	施設・設備の概要	200
	1 所在地	220
	2 宿泊定員	220
	3 敷地面積	220
	4 建物面積	220
	5 野外活動施設面積	220
	6 設備備品等	220
第3節	利用状況	221
	1 月別利用状況	221
	2 利用団体別・宿泊日数利用状況	222
	3 研修活動の分類と実施団体数	223
第4節	企画事業	225
	1 指導者の研修	225
	2 利用促進事業	225
	3 啓発的事業	225
	4 その他の企画事業	226
	5 協力事業	226

福島県郡山自然の家

第1節	概要	227
	1 職員組織	227
	2 平成22年度重点目標と成果	227
第2節	施設・設備の概要	228
	1 所在地	228
	2 宿泊定員	228
	3 敷地面積	228
	4 建物面積	228
	5 設備備品等	228
第3節	利用状況	229
	1 月別利用状況	229
	2 利用団体別・宿泊日数利用状況	230
	3 研修活動の分類と実施団体数	231
第4節	企画事業	232
	1 研修会事業	232
	2 利用拡大事業	232
	3 協力事業	233
第5節	その他	233

福島県会津自然の家

第1節	概要	235
	1 職員組織	235
	2 平成22年度重点目標と成果	235
第2節	施設・設備の概要	236
	1 所在地	236
	2 宿泊定員	236
	3 敷地面積	236

	4 建物面積……………	236
	5 運動広場面積……………	236
	6 設備備品等……………	236
第3節	利用状況……………	236
	1 月別利用状況……………	237
	2 利用団体別・宿泊日数利用状況……………	238
	3 研修活動の分類と実施団体数……………	239
第4節	企画事業……………	240
	1 指導者の研修……………	240
	2 利用促進事業……………	240
	3 その他の企画事業……………	241
第18章 福島県文化財センター白河館		
第1節	白河館の運営状況……………	243
	1 利用者数……………	243
	2 入館者の内訳と傾向……………	243
	3 団体利用者の内訳と傾向……………	243
	4 情報発信事業の利用者……………	244
	5 資料管理業務……………	244
	6 研修事業の状況……………	244
	7 体験学習事業の状況……………	245
	8 常設展事業……………	246
	9 企画展事業……………	246
	10 ボランティア運営事業……………	247
第19章 文化スポーツ局		
第1節	組織……………	249
第2節	附属機関……………	249
	1 福島県文化振興審議会……………	249
	2 福島県生涯学習審議会……………	249
	3 福島県スポーツ振興審議会……………	250
第3節	表彰……………	252
	1 文化功労賞受賞者……………	252
	2 第63回福島県文学賞受賞者……………	252
	3 文化・スポーツ知事感謝状受賞者……………	252
	4 体育・スポーツ関係……………	252
第4節	文化……………	257
	1 概要……………	257
	2 文化活動の振興……………	257
第5節	生涯学習……………	260
	1 概要……………	260
	2 生涯学習の推進体制……………	260
	3 生涯学習情報提供及び啓発……………	260
	4 第20回全国生涯学習フェスティバルの成果継承……………	261
	5 将来にわたる文化の担い手の育成……………	261
第6節	スポーツ……………	262
	1 概要……………	262
	2 生涯スポーツ・競技スポーツの振興……………	262
	3 体育・スポーツ施設……………	282
ふくしま海洋科学館		
第1節	施設の概要……………	283
	1 本館施設……………	283

	2 ふくしま海洋科学館子ども漁業博物館	283
	3 水生生物保全センター	283
	4 海水取水・送水施設	283
	5 展示生物の収集、蓄養施設	283
第2節	各種事業	283
	1 展示事業	283
	2 学習支援事業	284
	3 利活用促進事業	285
	4 地域交流事業	286
	5 海洋文化学習振興基金事業	286
第3節	月別入館者数	287
第4節	財団法人ふくしま海洋科学館の概要	287
	1 財団法人の名称	287
	2 財団法人の目的	287
	3 財団法人の事業	287
	4 基本財産	288
	5 組織	288

福島県文化センター

第1節	概要	289
	1 業務内容	289
第2節	施設の概要	289
	1 福島県文化会館	289
	2 福島県歴史資料館	289
第3節	事業の実施状況	289
	1 管理運営事業	289
	2 文化情報の発信	290
	3 歴史資料館事業	291
	4 受託事業	291
	5 文化事業	292
第5節	財団法人福島県文化振興事業団の概要	294
	1 財団法人の名称	294
	2 事業団の目的	294
	3 事業団の事業	294
	4 組織	294

第1章 教育行政の概観

平成22年度は、公立高等学校の授業料無償化等が実施され、教員の資質向上のための制度改革、学級編制及び教職員定数の改善に関する検討が国において進められるなど、教育制度の在り方が大きく変わろうとしていた。このような中、県教育委員会では、知事部局と連携しながら、「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念として、その実現に向けた教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である、第6次福島県総合教育計画を平成22年3月に策定した。

本計画は学校教育、生涯教育、文化・スポーツ、私立学校及び大学教育を包含するものであり、平成22年度から平成26年度までの5年間の計画期間としている。また、基本理念に基づき、以下の3つの基本目標を掲げるとともに、それぞれの目標について各施策を展開することにより、目標の達成を目指していく。

基本理念

”ふくしまの和で奏でる、
こころ豊かなたくましい人づくり

基本目標

基本目標1 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成

基本目標2 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現

基本目標3 豊かな教育環境の形成

基本目標を達成するための施策

基本目標1

施策1 子どもたちの豊かなこころを育みます

施策2 子どもたちの健やかな体をはぐくみます

施策3 子どもたちの生きる力を支える「確かな学力を身につかせます

施策4 望ましい勤労観・職業観をはぐくみます

施策5 障がいのある子どもたちが「地域で共に学び共に生きる教育」を推進します

施策6 高度情報化社会を主体的に生きていく力をはぐくみます

施策7 国際化の進展に対応できる人づくりを進めます

施策8 公立大学において、社会をリードし、地域に貢献する人づくりを進めます

基本目標2

施策9 地域全体で子どもたちを教え育てる取組みを支援します

施策10 家庭における教育を支援します

施策11 生涯を通して学習し、その成果が活きる環境を整備します

施策12 自然に親しみ、自然を尊重するところをはぐくみます

施策13 地域に根ざした伝統文化を保存・継承し、地域を愛するところをはぐくみます

基本目標3

施策14 教員の資質の向上を図ります

施策15 一人一人の子どもに教員が向き合うことができる環境を整備します

施策16 透明性の高い、開かれた教育を推進します

施策17 安全で安心できる学習環境の整備を促進します

施策18 地域における身近な文化・スポーツ環境を整備します

施策19 私立学校の振興を図ります

施策20 社会の変化に対応した学校改革を推進します

この計画の運用に当たっては、毎年度、基本目標ごとに重視する観点を定め、これに基づき実施する事業を明らかにするとともに、計画の進捗状況を点検・評価し、計画の適切な運用に努めることとしており、平成22年度は次の三つの観点を重視し、これらに沿った施策・事業を総合的に展開した。（★印は、知事部局所管の事業等）

平成22年度に重視する観点及び対応する重点事業

基本目標1において重視する観点

○生きる力をはぐくむ教育の推進

○ 少人数教育推進事業

個に応じたきめ細やかな指導が可能となるよう、小学校、中学校において30人及び30人程度学級編制に必要な教員を配置した。

○ ハートウォームプラン

不登校、いじめ、暴力、高校の中途退学など、児童生徒の問題行動が多様化・深刻化する状況を踏まえ、スクールカウンセラー等の配置による教育相談体制の充実を図るとともに、学校、家庭、地域社会が連携して生徒指導にあたる各種事業を総合的に展開することによって、問題行動の未然防止と早期解決を図った。

○ 読書活動推進事業

県子ども読書活動推進計画に基づき、家庭、地域、学校等の連携による読書活動を推進する環境整備を行った。

○ 児童生徒の体力向上推進事業

低下傾向にある児童生徒の体力・運動能力の向上に向けて小学校・中学校・高等学校の教員に対し、指導方法の改

善を図るための研修会等を実施した。

○ 地域スポーツ人材の活用実践支援事業

中学校の武道・ダンスの授業と中学校・高等学校の運動部に対し、県教育委員会が委嘱する地域スポーツ人材を派遣することにより内容の一層の充実を図った。

○ ふくしまっ子食育推進ネットワーク事業

栄養教諭の専門性を各地域で活用するためのネットワークを構築するとともに、食を要とした生活習慣を改善する取り組みや豊かな食育体験を展開し、学校、家庭、地域の協働による食育を展開した。

○ 学校すこやかプラン

メンタルヘルスに関する課題やアレルギー疾患、性や薬物に関する問題など、児童生徒を取り巻く現代的健康課題に対応するため、家庭や地域の関係機関が効果的に連携しながら支援できる体制を整備し、発達段階に応じた健康教育の推進を図った。

○ 「確かな学力」向上プラン

小・中学校においては、指導の改善に資する評価問題の作成と活用、教材開発、効果的な指導法の実践研究等を行った。高等学校においては、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取り組みを支援した。

○ 学力向上プロジェクト事業

小・中学校において、家庭学習を含めた学習習慣確立のための取り組みを行うとともに、高等学校において、英語、数学の学力向上を図る取り組みを行うことにより、生徒の大学進学希望の実現を図った。

○ 野口・朝河賞制定20周年記念事業

科学・技術研究論文「野口英世賞」と国際理解・国際交流論文「朝河貫一賞」が制定20周年を迎え、両博士の偉業を再認識するとともに、未来を担う中学生・高校生をはじめ広く県民一般が科学技術の推進と国際理解・国際交流について一層関心を高める機会とするための記念事業を実施した。

○ 中山間地域インターネット活用学校支援事業

インターネットによる小規模校同士の連携を図るための学習環境の整備とその活用により、中山間地域の児童生徒の学習意欲と学力の向上を図った。

○ 双葉地区教育構想（福祉健康人材育成プラン）

双葉地区において大学と連携し、福祉・健康に関する専門的な授業を行いながら連携型中高一貫教育を展開し、将来、総合的な健康づくりをコーディネートでき、福祉・健康分野で活躍する人づくりを推進した。

○ 地域医療を担う人材育成プラン

高等学校の医学部進学希望生徒に、地域医療の実情を理解させ、医学や地域医療に対する関心を高めて学習の動機付けを図り、進路希望の実現を支援し、地域医療に貢献できる人づくりを推進した。

○ キャリア教育充実事業（専門高校活性化事業）

農業高等学校、工業高等学校、商業高等学校において、

生徒の実践的な知識や技能の向上を図るとともに、地域に定着し、地域産業を担う人づくりのため、キャリア教育を推進した。

○ 特別支援教育総合推進事業

特別支援教育を総合的に推進するために、保健、福祉、医療、労働等の関係機関との連携による市町村における支援体制整備を促進した。

○ 地域教育相談推進事業

特別な支援を必要とする子どもたちとその保護者、担当教員等に対して教育相談を行い、教育、福祉、医療等が一体となった乳幼児期からの一貫した相談支援体制を整備し早期からの支援体制の充実を図った。

○ 県立相馬養護学校設置事業

相馬市立養護学校を平成22年4月より県立に移管し、特別支援教育のセンターの役割を持たせるなど相馬地方における特別支援教育の機能充実を図った。

○ キャリア教育充実事業（特別支援就労支援事業）

高等部を設置する県立特別支援学校14校全校を対象として、労働、福祉の各関係機関と連携を図り、職場での就労体験を通して生徒の幅広い職業観の育成や自己の適性の理解を促すとともに、企業等へ特別支援学校の取り組みを紹介することにより、理解啓発を図った。

○ 特別支援学校における医療的ケア実施事業

特別支援学校で学ぶ幼児児童生徒の障がいの重度・重複化に伴い、吸引等の医療的ケア（日常的応急の手当）を必要とする幼児児童生徒が常在しているため、これらの幼児児童生徒が健康で安全・安心な学校生活を送るとともにその保護者の負担を軽減するため医療的ケアを実施した。

○ 双葉地区教育構想（国際人育成プラン）

双葉地区教育構想の基本目標である「真の国際人として社会をリードする人材の育成」の実現のために、海外留学や英語を通した中高連携事業などにより、実践的なコミュニケーション能力や異文化理解に富む人づくりを推進した。

基本目標2において重視する観点

○ 地域の教育力向上への支援

○ 学校支援地域本部事業

地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図った。

○ 放課後子どもプラン（放課後子ども教室）

子どもの健全育成と安心して子育てできる地域社会の実現のため、放課後に子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進する「放課後子ども教室推進事業」（教育委員会）と「放課後児童健全育成事業」（保健福祉部）を連携し総合的な放課後対策事業として実施した。

○ 十七字のふれあい事業

子どもの心を豊かにはぐくむ体験活動を奨励し、その充

実のための社会環境づくりを促進するため、子どもと大人が共通の体験を通して感動したこと等を十七字の作品として募集した。

○ いきいき地域文化活力創出事業（文化施設連携）

文化施設において、魅力ある展示や講座等を行うことにより、県民が県民の宝である「ふくしまの文化」に触れる場と機会を提供した。また、文化施設相互の連携を推進し、さらに集客力を高めるとともに、県民の学びの場の充実を図った。

○ 県立学校における環境教育推進事業

産業廃棄物を出さない再利用可能な組み立て式ハウスを製作し、生徒の技術を向上させるとともに、ハウスを各種イベントに出展し、産業廃棄物削減の広報に努めた。

○ 指定文化財保存活用事業

文化財をより県民に開かれたものとする目的から、国指定及び県指定文化財に対し、修理等の保存事業と積極的な公開などの活用事業を一体的に実施する場合に補助を行った。

○ 埋蔵文化財周知事業

国民共有の歴史的遺産である埋蔵文化財の現地調査を実施し、より正確な情報を県民に提供した。また、都市計画等にも埋蔵文化財包蔵地の適切な保存活用を図るため、「埋蔵文化財包蔵地台帳」を整備するとともに、「福島県遺跡地図」を刊行し、「福島県遺跡情報システム」を更新した。

○ 21世紀ふくしま文化担い手推進事業（伝統芸能交流会）★

本県において、子どもを中心として受け継がれている伝統芸能等を、さらに次代に受け継ぐために発表の場や交流をすることにより、地域文化の担い手を育成した。

○ ふくしま総文交流推進事業

小中学生等が参加できるふくしま総文プレ大会開催等の文化交流事業を実施することにより、県民の文化活動の振興を図るとともに、文化活動や観光情報を始めとした本県の魅力を県外へ発信した。

○ いきいき地域文化活力創出事業 ★

地域資源に文化の光をあて、地域活性化に繋げる芸術祭を開催した。平成22年度は、漆をテーマに、空き店舗等を活用し、アーティスト等が滞在しながらワークショップ等を行うアーティスト・イン・レジデンス事業、会津地方の伝統工芸と漆のコラボレーションによる新たな芸術作品の創出の取組みなどを実施した。

○ 21世紀ふくしま文化担い手育成事業（ふくしま文化少年倶楽部）★

文化芸術活動への子どもたちの積極的な参画により、21世紀の本県文化の担い手を育成するため、ふくしま文化少年倶楽部を創設し、文学、音楽、美術、海洋文化、民俗学など、それぞれの分野における講師陣の講座を開設した。

基本目標3において重視する観点

○ 安心・安全で魅力ある学校づくり

○ 優秀教職員表彰制度

学習指導や生徒指導において、日常的に努力を積み重ね顕著な成果を上げている教職員を、優秀教職員として積極的に称え表彰することによって、教職員の志気を高めるとともに、教育活動全体の活性化を図った。

○ 県立学校等自動体外式除細動器整備事業

学校管理下などにおいて、児童生徒の心臓性突然死を未然に防ぐため、各県立学校等に自動体外式除細動器を配備し、救急体制の整備を図った。

○ 県有施設耐震改修事業（県立学校）

大規模な地震による児童・生徒等の安全確保及び地域住民の応急的な避難施設としての機能確保のため、耐震対策が必要な県立学校施設の耐震改修計画、改修工事等を行った。

○ 大規模改修事業（耐震化推進事業）

老朽化した学校施設の機能を回復する大規模改修とともに耐震改修を併せて行い、大規模な地震による災害時には応急的な避難施設となる学校施設の安全性を確保した。

○ うつくしま文化元氣ルネサンス事業 ★

県内の文化活動に対する理解を深め、「する・見る・支える」文化の醸成を図るため、全国レベルで優秀な成績を収めている団体・個人の活動の発表の場として「ふくしま文化元氣ルネサンスフェスタ」を開催した。

また、9月から11月を文化ルネサンスオータムキャンペーン期間として、パンフレットやホームページにより、県内の文化団体等が行う事業を集中的に広報した。

○ 声楽アンサンブルコンテスト全国大会開催事業 ★

日本の合唱レベルの向上を図るとともに、音楽文化の振興発展に寄与し、歌うことの楽しさを本県から全国に発信するため、公募及び各都道府県合唱連盟推薦の声楽アンサンブルグループによるコンテストを開催した。

○ 全国高等学校総合文化祭開催事業

平成23年度に本県において全国高等学校総合文化祭を開催することにより、次代の本県文化の担い手である高校生の豊かな感性や創造性をはぐくみ、郷土への誇りを醸成するとともに、本県の芸術・文化活動の活性化と裾野の拡大を図った。

○ 「陸上王国福島」基盤整備事業 ★

本県の陸上競技における優れた指導法を広げ、優秀な指導者の育成を図るとともに、小・中・高校生を含めた優れた競技者の発掘・育成・強化を図った。

○ ジュニアアスリート育成事業 ★

長期的展望に立った競技力の向上を図るため、将来有望な中・高校生を選抜し、育成・強化を図った。

○ 地域連携型人材育成事業（双葉地区教育構想）★

サッカー、バドミントン、ゴルフの3競技について、高度な指導を受けることにより、競技力向上を図り、世界に

通用する選手の育成を目指して行った。

○ スポーツによる中国ジュニアチームとの交流合宿事業 ★

本県の水泳競技（飛込）からオリンピック選手の輩出をめざすとともに、真の国際人として活躍できる人づくりを進めた。

○ 私立小中学校少人数教育推進事業補助金 ★

私立小学校・中学校において少人数教育を推進するため、30人程度学級編制導入やティーム・ティーチングを実施する私立学校に対して支援を行った。

○ 私立幼稚園子育て支援推進事業 ★

保護者の育児に対する経済的・精神的負担の軽減を図り、安心して子どもを産み育てられる環境の整備を図るため、私立幼稚園が行う子育て支援活動を支援した。

○ 認定こども園支援事業 ★

安心して子どもを産み育てられる環境の整備を図るため、認定こども園である私立幼稚園が行う子育て支援活動を支援した。

○ 高等学校等就学支援金 ★

私立高等学校等における教育に係る経済的負担の軽減を図り、教育の機会均等に寄与するため、生徒に対し授業料に充てるための就学支援金を支給した。

○ 私立高等学校就学支援事業 ★

私立高等学校において、経済的な理由により修学が困難な生徒に対し学校が授業料を減免した場合にその減免額を学校に助成し、就学機会の確保を図った。

○ 私立専修学校就学支援事業 ★

私立専修学校（高等課程）において、経済的な理由により修学が困難な生徒に対し学校が授業料を減免した場合にその減免額を学校に助成し、就学機会の確保を図った。

○ 双葉地区教育構想

双葉地区において日本サッカー協会の人材育成プログラムや国際協力機構、大学等との連携を軸にした連携型中高一貫教育を展開し、スポーツにおいて世界で活躍できるスペシャリストの育成に取り組むとともに、語学や福祉・健康の分野においても国際的な感覚を身に付けた、豊かな人間性と確かな学力を有する人づくりを推進した。

○ 相馬地方の特別支援学校の在り方調査検討事業

相馬市立養護学校の県立移管に伴い、今後、学校は、相馬地方の特別支援教育の充実に向けて大きな役割を果たすことになることから、学識経験者や地元首長及び保護者等から広く意見等を聴取し、学校に求められる役割や機能を実現するため、今後の学校施設等を含めた学校の在り方について検討した。

以上のほか、教育行政の主な動きは次のとおりである。

1 教育の情報化関係

平成13年に発表された「e-Japan戦略」では、「ミレニアム・プロジェクト『教育の情報化』を早期に達成し、ITを利用した教育を可能にする」ことが明記された。また、新しい学習指導要領には、各教科や総合的な学習の時間でコンピュータや情報通信ネットワーク等の活用を図ることが盛り込まれている。さらに、平成18年に発表された「IT新改革戦略」では、すべての教員へのIT機器の整備、IT活用による学力の向上などを行うことで、一層の情報化が求められている。

これらに対応すべく教育の情報化を推進するためには、①基盤整備、②人材の育成・活用、③教育用コンテンツの充実の3つの観点から取り組むことが重要であるとの認識に立ち、事業を実施してきており、情報通信技術を活用した教育に不可欠な“安定”かつ“安全”なネットワーク環境を、学校や教育関係機関などに提供するため、「うつくしま教育ネットワーク」の基盤整備も行ってきた。

インターネットを活用するなどして学習効果の向上を図るためには、コンピュータで指導できる教員の育成が急務であり、コンピュータを操作できる教員の育成に加えコンピュータで指導できる教員の育成を図る研修を実施している。

さらに、県、各市町村などに集録、所蔵されている教育情報などについて、データベース化し、インターネットから検索・閲覧可能な教育情報を提供している。

また、「うつくしま教育ネットワーク」では、テレビ会議システムを再構築し、学校のみならず各教育関係機関での積極的な利活用の促進を図っている。

2 義務教育関係

- (1) 県内の小・中学校児童生徒の「確かな学力の向上」を図るため、「確かな学力向上プラン」により、授業改善のための定着確認シート活用実践事業、「学力向上プロジェクト事業」により、学びの習慣を育てる事業を実施した。また、少人数教育の充実のために、30人程度学級又は少人数指導の教員を配置するなど、各市町村教育委員会への支援を通して、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、学力向上に努めた。
- (2) 総合的な生徒支援施策「ハートウォームプラン」の一環として、教育センターに学校教育相談員を配置し、電話相談等を実施した。また、小学校24校、中学校154校に文部科学省事業によるスクールカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適応問題への指導援助の強化を図った。さらに、カウンセリング研修会や各種連絡協議会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

3 高等学校教育関係

- (1) 国立大学をはじめとした生徒が希望する大学に合格できるようさらなる学力の向上を図るため、「学力向上プロジェクト事業」を実施した。
ア 学力向上推進プラン
○ 対象校 14校

○ 各校の取組み内容

- ・ 学ぶ意欲を高めるためのガイダンスの開催
- ・ 知的探究心向上のための講義・演習の実施
- ・ 予備校講師を活用した学習会の実施
- ・ 国公立大学二次試験対策等のためのテキスト作成
- ・ 大学入試問題を題材とした授業研究会の実施
- ・ 校内模擬試験の実施

イ 合同学習会

震災のため実施しなかった。

また、多様な進路希望を持つ生徒が、「確かな学力」だけでなく社会人としての基礎力を育成し、望ましい勤労観、職業観を育むことを目的として「確かな学力向上プラン」により「確かな学力」向上のための基礎力育成プランを県内高校25校で実施した。

- (2) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。
- (3) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ハートウォームプランとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

4 特別支援教育関係

- (1) 平成19年4月、学校教育法等の一部改正の施行により、特別支援教育は、特別支援学校のみならず、幼稚園、小・中学校、高等学校に在籍する発達障がいのある児童生徒等も含めて、特別な支援を必要とする児童生徒等が在籍するすべての学校において実施されることになった。このことを踏まえ、県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に答申を受けた。

本答申では、「子どもたちは、障がいのあるなしにかかわらず、地域に支えられるとともに、地域を支える一員として生きていくことが期待されていることから、地域の幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校、特別支援学校において、地域の関係機関による連携した支援の下、障がいのある子ども一人一人のニーズに応じた教育の実現を目指す。」として、「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念として掲げている。

本答申を具体的な施策に反映させるため、第6次福島県総合教育計画においては、「地域における支援体制の整備・充実と理解啓発の促進」、「小・中学校における特別支援教育の充実」、「高等学校における特別支援教育の充実」、「特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実」、「教員の特別支援教育に関する指導力の向上」の5項目を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

- (2) 高等部を設置する県立特別支援学校14校全校を対象として、労働、福祉の各関係機関と連携を図り、職場での就労体験を通して生徒の幅広い職業観の育成や自己の適性の理解を促すとともに、企業等へ特別支援学校の理解啓発に努めた。特に、障がいのある生徒一人一人の実態に応じた進路実現のため、高等部1年生を対象とした「フレッシュ就労体験」や、就労に結び付く作業学習の導入、障がい者就職面接会の参加や事業主への特別支援学校での取り組み紹介などを行う「就労チャレンジ事業」等を盛り込んだ「キャリア教育充実事業」を実施した。

- (3) 「特別支援教育総合推進事業」では、推進地域（本宮地域、田村地域、県南地域）、重点推進地域（南相馬市・飯館村、双葉地方、会津美里町）において、啓発セミナーや研修会等を実施し、支援体制整備を進めた。重点推進地域では、保健福祉部局と連携を図り、ポートフォリオ形式の相談支援ファイルを作成し、支援を充実させる取組みが進められた。推進地域や重点推進地域の中で、特別支援連携協議会と地域自立支援協議会の連携の在り方について検討を深めた市町村も出てきており、県内約54%の市町村で支援体制が整備された。

- (4) 「平成22年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校(13校)に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

盲学校、聾学校、大笹生養護学校、郡山養護学校、あぶくま養護学校、須賀川養護学校、西郷養護学校、石川養護学校、会津養護学校、平養護学校、いわき養護学校、富岡養護学校、相馬養護学校

5 社会教育関係

- (1) 県社会教育委員の会議では、本年度改定を行い、公募委員2名を含む16名に委嘱した。

本年度は、「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」に向けて、「学校支援地域本部事業」を中心とした地域の教育力向上をめざした施策について、体制づくりや人材育成等のあり方について審議した。

- (2) 子どもたちの育ちを支援するためには、地域社会全体で支え合うことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子どもプラン（放課後子ども教室）」や、地域人材や社

会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携を強化し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援地域本部事業」などを実施した。

- (3) 家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。

しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、家庭教育の自主性を尊重しつつ、家庭教育についての学習機会の提供や『保護者のための家庭教育資料 家庭教育サポートブック』の発行など子育てを支援する取組みの推進に努めた。

- (4) 青少年の豊かな人間性や社会性をはぐくむためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。

そのために、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し合い、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集・表彰・広報する「十七字のふれあい事業」を実施した。

- (5) 地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組みと関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。
- (6) 平成22年3月に策定した「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」を踏まえるとともに、平成22年が国民読書年にあたることもあり、機会をとらえて子どもの読書活動の推進キャンペーンを実施したり、研修会を開催したりするなど啓発、広報に努めた。
- (7) ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるとともに研修の機会を提供して、ユネスコ活動の充実発展に努めた。

6 文化関係

- (1) 県の新しい総合計画の策定を踏まえ、福島県文化振興条例（平成16年福島県条例第45号）に基づき平成17年3月に策定した「福島県文化振興基本計画」を見直し、文化振興による地域づくりを施策の柱に加えた新しい「福島県文化振興基本計画」～ふくしま文化元気創造プラン～を平成22年3月に策定した。なお、平成17年6月に設置した「福島県文化振興推進本部」については、文化、生涯学習及びスポーツ各分野の総合的・一体的な振興を図るため、平成22年3月に「福島県文化スポーツ振興推進本部」に組織改編した。
- (2) 県総合美術展覧会や県文学賞等の事業を実施するとともに、(財)福島県文化振興基金の利活用により、県民文化活

動の促進と発表機会の充実に努めた。

- (3) 県民の芸術文化の振興を図るため、県立美術館での「古代エジプト神秘のミイラ展」や県立博物館の「漆のチカラ 漆文化の歴史と漆表現の現在」などの企画展を開催した。
- (4) 国指定文化財では、史跡として白河市「小峰城跡」及び南相馬市「横大道製鉄遺跡」が指定された。

また史跡のうち白河市「白河舟田・本沼遺跡群」及び同市「白河官衙遺跡群 関和久官衙遺跡 借宿廃寺跡」に追加指定が行われた。

- 県指定文化財では、歴史資料として田村市「佐久間庸軒和算関係資料」及び重要有形民俗文化財として南会津町「伊南の歌舞伎衣装と道具」の計2件を新たに指定し、また、考古資料の喜多方市「松野千光寺経塚出土品」及び重要無形民俗文化財の二本松市「二本松の提灯祭り」に追加指定を行い、文化財の保護を図った。

- (5) 各種の開発から埋蔵文化財を保護するため、常磐自動車道など6事業について表面調査・試掘確認調査を実施した。

また、現状保存できない遺跡については、会津縦貫北道路など4事業で記録保存のための発掘調査を実施し、報告書を刊行した。

- (6) 文化財の保存と活用を一体的に図るため、文化財の修理等の保存事業と公開等活用事業を併せて実施する場合に助成を行う指定文化財保存活用事業を新たに実施し、国県指定等11件の助成を行った。
- (7) 文化面において、次代を担う本県の児童生徒が様々な分野で活躍した。

次年度に全国高等学校総合文化祭の本県開催を控え、「第35回全国高等学校総合文化祭プレ大会」や、高校生の文化部活動をさらに活性化させるために「高校文化部サポート事業」を実施するなど、高校文化部の振興を図る行事等を行った。

各種コンクール等においては、例年のとおり音楽関係分野の活躍がめざましく、第63回全日本合唱コンクール全国大会高等学校部門においては、安積高等学校が金賞および第1位相当の文部科学大臣賞を受賞し、また、安積黎明高等学校も31年連続32回目の金賞および兵庫県知事賞を受賞した。同コンクール中学校部門では、郡山市立郡山第二中学校が8年連続の金賞および第1位相当の文部科学大臣賞を受賞し、また、福島市立福島第一中学校も金賞を受賞した。第29回全日本小学校バンドフェスティバルにおいては、いわき市立平第三小学校および南相馬市立原町第一小学校が金賞を受賞した。

音楽以外の分野でも、第14回全国高校新聞年間紙面審査賞において、福島高等学校が最優秀賞を受賞。平成22年度全国高等学校全国簿記競技大会において、若松商業高等学校が優勝。第61回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定において、食品科学部門において福島明成高等学校の佐藤友美さんが最優秀賞を受賞するなど、本県のめざましい活躍が見られた。

7 生涯学習関係★

生涯学習施策の調査、審議を行う福島県生涯学習審議会において、福島県生涯学習基本計画の推進について審議した。

県内にある様々な機関と連携し、それぞれが実施する講座等を体系化して提供するとともに学習成果を活かした社会参加活動を支援するなど、県全域を対象とした総合的な広域的学習サービス提供システムである県民カレッジを「ふくしま学習空間・夢まなびと」の愛称で県民に提供し、生涯学習の推進に努めた。

平成20年度に開催された「第20回全国生涯学習フェスティバル」の成果を継承するため「福島こどものみらい映画祭」と「青春エムンドライブ」を開催し、生涯学習活動の振興を図った。

また、福島に育つ青少年の「将来にわたる文化の担い手の育成」を図るため、「詩の寺子屋」や「伝統芸能交流会」を実施し、青少年の文化活動を促進した。

8 スポーツ関係★

本県スポーツの振興・充実を図るため、(財)福島県スポーツ振興基金の助成事業として、「ふくしまスポーツフェスタ」「生涯スポーツキャンペーン」や「総合型地域スポーツクラブ支援事業」等を実施した。

また、本県競技力の向上を図るため、バドミントン競技及びゴルフ競技において、トップレベルの指導者を派遣し、中高連携の一貫した指導体制のもと、優秀な選手を育成する「専任コーチ等招へい事業」を実施した。

さらに、県内の小学生に広く周知し、応募のあった小学生を対象に「うつくしまスポーツキッズ発掘テスト」を実施し、その中から選抜された子どもたちに、競技団体による一貫指導プログラムにもとづいたトレーニングを経験させ、優秀な人材の発掘と育成を目標とした、「うつくしまスポーツキッズ発掘事業」を実施した。

さらには国民体育大会においても、陸上競技少年女子A100m・100mH、馬術競技少年団体障害飛越競技で優勝、バドミントン競技少年男子団体で2位になるなど、少年種目で多くの選手やチームが入賞した。

また、文化面と同様、スポーツ面においても、本県の児童生徒の活躍が見られた。

全国中学校体育大会でバドミントン競技の男子団体優勝、女子団体2位、男子シングルス小林優吾選手（富岡一中）が1位となったのをはじめ、2位3種目、3位1種目でいずれも富岡一中の選手が入賞したほか、陸上競技の岡崎達也選手（福島四中）が男子走り幅跳びで優勝した。

また、全国高等学校総合体育大会では、個人競技で陸上競技女子100mHの伊藤彩選手（喜多方高校）が優勝、剣道競技男子個人の鶴岡貴大選手（湯本高校）が2位、スキー競技男子コンバインドの渡部剛弘選手（猪苗代高校）が3位入賞したのをはじめ、団体競技でもバドミントン競技男子・女子団体で富岡高校が3位入賞するなど、多くの選手やチームが入

賞した。同じく定時制通信制大会では陸上競技走り幅跳びの鎌田悠暉選手（郡山萌世高校）が優勝した。

さらには国民体育大会においても、伊藤彩選手が陸上競技少年女子A100m、100mHで優勝した。

9 福利厚生関係

(1) 特定健康診査等を実施するとともに、教職員の生活習慣病の早期発見・早期治療に資するため、人間ドック等の健診事業を、県、市町村、公立学校共済組合、財団法人福島県教職員互助会等が連携を図りつつ実施した。

(2) 生活習慣病の予防に関する基礎知識や、教職員の主体的な健康管理の意識を高めるための各種セミナーの開催、医療機関との連携による健康相談等の事業を実施した。

第2章 教 育 行 政

第1節 平成22年度福島県教育委員会 重点施策

- ☆ 県教育委員会では、平成22年3月に策定した「ふくしまの和で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念とする「第6次福島県総合教育計画」に基づき、3つの基本目標を定めて各施策を展開し、目標の達成をめざして教育行政を推進している。
- ☆ この計画の適切な運用に努めるため、3つの基本目標ごとに毎年度、重視する観点を以下のように定め、これに基づき実施する事業を明らかにしている。
- ☆ 生涯学習、文化及びスポーツに関する事業については知事部局の企画調整部文化スポーツ局において所管しているが、県教育委員会も連携を図りながら推進していく。
(企画調整部文化スポーツ局の事業に★の記号を付す。)

「平成22年度に重視する観点」に対応した事業

基本目標1「知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成」において重視する観点
○生きる力をはぐくむ教育の推進
すべての子どもたちに「確かな学力」、「豊かなこころ」と「健やかな体」をバランスよくはぐくみます。
特に、新学習指導要領の円滑な実施、読書活動の推進や食育の推進に取り組みます。また、「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進します。

- 継続 少人数教育推進事業（再掲）
- 継続 道徳教育総合支援事業（道徳教育実践研究事業）
- 継続 人権教育開発事業
- 継続 十七字のふれあい事業（再掲）
- 継続 ハートウォームプラン（スクールカウンセラー等活用事業、スクールカウンセラー活用事業、学校教育相談員配置事業、緊急時カウンセラー派遣事業、子ども24時間いじめ電話相談事業、生徒指導・進路指導総合推進事業、魅力ある学校づくり調査研究事業）
- 継続 私立小中学校少人数教育推進事業補助金（再掲）★
- 継続 学校すこやかプラン（夢をはぐくむいのち生きいきプロジェクト事業）（再掲）
- 継続 幼児教育の振興
- 継続 私立幼稚園子育て支援推進事業（再掲）★
- 継続 認定こども園支援事業（再掲）★
- 継続 私立幼稚園心身障がい児教育費補助金（再掲）★
- 継続 読書活動推進事業
- 継続 ふくしま子ども憲章推進事業
- 継続 児童生徒の体力向上推進事業
- 継続 うつくしま広域スポーツセンター事業（再掲）★

- 継続 スポーツ関係団体運営・活動支援 ★
- 継続 地域スポーツ人材の活用実践支援事業
- 新規 ふくしまっ子食育推進ネットワーク事業（朝食摂取率100%週間運動、食育推進地域検討委員会、農業高校と連携した豊かな食育推進、食育推進コーディネーター研修会）
- 継続 学校すこやかプラン（健康教育推進者パワーアップ事業、子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業）
- 継続 少人数教育推進事業（再掲）
- 継続 私立小中学校少人数教育推進事業補助金（再掲）★
- 新規 「確かな学力」向上プラン
- 継続 学力向上プロジェクト事業
- 新規 野口・朝河賞制定20周年記念事業
- 継続 理科支援員配置事業
- 継続 スーパーサイエンスハイスクール事業
- 継続 科学・技術研究論文募集事業（野口英世賞）
- 継続 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト
- 継続 中山間地域インターネット活用学校支援事業
- 継続 双葉地区教育構想（福祉健康人材育成プラン）
- 継続 地域医療を担う人材育成プラン
- 継続 高等学校インターンシップ推進事業
- 継続 就職促進支援員配置事業（ふるさと雇用再生特別基金事業）
- 継続 企業OB等の地域人材を活用した教育支援・県内企業就職促進支援事業（ふるさと雇用再生特別基金事業）（再掲）★
- 継続 キャリア教育充実事業（専門高校活性化事業）
- 新規 特別支援教育総合推進事業
- 継続 地域教育相談推進事業
- 新規 特別支援教育体制促進事業
- 継続 私立幼稚園心身障がい児教育費補助金（再掲）★
- 継続 視覚障がい支援講師配置
- 継続 ADHD通級指導教室講師配置
- 継続 身体に障がいのある生徒に対する支援事業
- 新規 県立相馬養護学校設置事業
- 継続 キャリア教育充実事業（特別支援就労支援事業）
- 継続 特別支援学校における医療的ケア実施事業
- 継続 教員研修の充実
- 継続 情報化対応研修の充実
- 継続 県立学校校内LAN整備事業
- 継続 教育用コンピュータ機器の整備
- 継続 会津大学運営費交付金（再掲）★
- 新規 野口・朝河賞制定20周年記念事業（再掲）
- 継続 国際理解・国際交流論文募集事業（朝河貫一賞）
- 継続 ふくしまグローバルセミナー
- 継続 外国語指導助手（ALT）の配置
- 継続 英語スキットコンテスト事業

継 続 小学校外国語活動中核教員研修
 継 続 双葉地区教育構想（国際人育成プラン）
 継 続 医科大学運営費交付金★
 継 続 会津大学運営費交付金★

基本目標 2 「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」において重視する観点

○地域の教育力向上への支援

学校、家庭を含む地域がそれぞれの役割を確実に果たし、連携・協力を進めることができるよう、総合的に地域の教育力の向上を支援します。また、地域の宝である、文化財の保存・継承と適切な活用をバランスよく進めるとともに、伝統文化などの文化的資源を活かした文化の振興を図ります。

継 続 学校支援地域本部事業
 継 続 体験活動・ボランティア推進センター事業
 継 続 放課後子どもプラン（放課後子ども教室）
 継 続 読書活動推進事業（再掲）
 継 続 放課後子どもプラン（放課後子ども教室）（再掲）
 継 続 十七字のふれあい事業
 継 続 県民カレッジ推進事業（再掲）★
 新 規 夢わくわく「学ぶんジャー」プロジェクト★
 継 続 美術館・図書館・博物館の整備・充実
 新 規 いきいき地域文化活力創出事業（文化施設連携）
 継 続 県民カレッジ推進事業★
 継 続 県立学校における地域連携森林環境学習推進事業
 継 続 「尾瀬子どもサミット」小・中学生 3 県交流事業
 新 規 県立学校における環境教育推進事業
 継 続 エネルギーに関する教育支援事業
 新 規 指定文化財保存活用事業
 継 続 埋蔵文化財周知事業
 継 続 第 5 2 回北海道・東北ブロック民俗芸能大会
 新 規 2 1 世紀ふくしま文化担い手推進事業（伝統芸能交流会）★
 新 規 ふくしま総文交流推進事業
 新 規 指定文化財保存活用事業（再掲）
 新 規 いきいき地域文化活力創出事業★
 継 続 うつくしま文化元氣ルネサンス事業（文化と地域を結びつける展開モデルの提示・構築）★
 新 規 夢わくわく「学ぶんジャー」プロジェクト（福島の映像文化アーカイブ事業）★
 新 規 2 1 世紀ふくしま文化担い手推進事業（ふくしま文化少年倶楽部）★

基本目標 3 「豊かな教育環境の形成」において重視する観点

○安心・安全で魅力ある学校づくり

子どもたちが安全で安心できる教育環境づくりを進めるとともに、地域の特性などを生かし、魅力にあふれ、児童生徒一人一人の個性・能力が伸長する特色あ

る学校づくりに努めます。また、教員の専門性を高め、実践的指導力の向上を図るとともに、高いモラルと誇りを持って児童生徒の教育に当たることを推進します。

継 続 ライフステージに応じた研修の充実
 継 続 優秀教職員表彰制度
 継 続 指導不適切教諭等の資質向上事業
 継 続 学校支援地域本部事業（再掲）
 継 続 体験活動・ボランティア推進センター事業（再掲）
 継 続 教職員健康管理事業
 継 続 教職員メンタルヘルス事業
 継 続 教職員相談事業
 継 続 新任校長研修会
 新 規 校長のためのマネジメント講座
 継 続 「ふくしま教育の日」啓発
 継 続 「学校へ行こう運動」の推進
 継 続 ハートウォームプラン（再掲）
 継 続 県立学校等自動体外式除細動器整備事業
 継 続 県有施設耐震改修事業（県立学校）
 継 続 大規模改造事業（耐震化推進事業）
 継 続 高校等奨学資金貸付事業
 継 続 大学等奨学資金貸付事業
 新 規 高等学校等就学支援金（再掲）★
 継 続 私立高等学校就学支援事業（再掲）★
 継 続 私立専修学校就学支援事業（再掲）★
 継 続 うつくしま文化元氣ルネサンス事業★
 継 続 声楽アンサンブルコンテスト全国大会開催事業★
 新 規 ふくしま総文交流推進事業（再掲）
 継 続 県展開催事業★
 継 続 文学賞実施事業★
 新 規 いきいき地域文化活力創出事業（再掲）★
 継 続 うつくしま文化元氣ルネサンス事業（文化と地域を結びつける展開モデルの提示・構築（再掲））★
 継 続 全国高等学校総合文化祭開催事業
 新 規 ふくしま総文交流推進事業（再掲）
 継 続 うつくしま広域スポーツセンター事業★
 新 規 「陸上王国福島」基盤整備事業★
 継 続 ジュニアアスリート育成事業★
 継 続 地域連携型人材育成事業（双葉地区教育構想）★
 新 規 スポーツによる中国ジュニアチームとの交流合宿事業★
 継 続 うつくしまスポーツキッズ発掘事業★
 継 続 私立学校運営費補助金（一般分）★
 継 続 私立幼稚園心身障がい児教育費補助金★
 継 続 私立小中学校少人数教育推進事業補助金★
 継 続 私立幼稚園子育て支援推進事業★
 継 続 認定こども園支援事業★
 継 続 福島県私立学校教職員退職手当資金給付事業補助★
 継 続 福島県私学振興基金協会貸付金★
 継 続 私立学校運営費補助金（教育改革推進特別分）★

新 規 高等学校等就学支援金★
 継 続 私立高等学校就学支援事業★
 継 続 私立専修学校就学支援事業★
 継 続 企業OB等の地域人材を活用した教育支援・県内企業就職促進支援事業（ふるさと雇用再生特別基金事業）★
 継 続 学校運営状況調査★
 継 続 少人数教育推進事業
 継 続 私立小中学校少人数教育推進事業補助金（再掲）★
 継 続 中山間地域インターネット活用学校支援事業(再掲)
 継 続 学校改革調査事業
 継 続 高校改革懇談会事業
 継 続 双葉地区教育構想
 新 規 相馬地方の特別支援学校の在り方調査検討事業

第2節 教育委員会

1 教育委員会

平成22年10月15日に開催された教育委員会定例会において、委員長に鈴木芳喜委員が互選され、委員長職務代理者には、遠藤由美子委員が指定された。

職名	氏名	就任年月日	職業	備考
委員長	鈴木 芳喜	平成19年 12月22日 (2期目)	弁護士	福島市
委員長職務代理者	遠藤由美子	平成20年 10月19日	書籍 編集者	三島町
委 員	小野 栄重	平成21年 12月24日	会社代 表取締役	いわき市
委 員	日下龍一郎	平成20年 10月19日	農業 自営業	南相馬市
委 員	境野 米子	平成19年 4月1日	生活 評論家	福島市
教育長	遠藤 俊博	平成21年 4月1日		福島市

2 審議事項

4月定例会(22.4.23)

- 審議事項
 - (1) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
 - (2) 平成23年度福島県公立学校教員採用予定者数について
 - (3) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
 - (4) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
 - (5) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
 - (6) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- 報告事項
 - (1) 平成22年度福島県立高等学校入学者選抜の結果について
 - (2) 平成22年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜の結果について
 - (3) 平成23年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験実施に係る改善点について

5月定例会(22.5.21)

- 審議事項
 - (1) 福島県立高等学校の授業料等に関する条例の一部を改正する条例について
 - (2) 教育長臨時代理による処理の承認について
（平成21年度福島県一般会計補正予算（教育委員会関

係部分)について)

○ 報告事項

- (1) 平成23年度使用教科用図書の採択等に関する答申について

6月定例会(22.6.11)

○ 審議事項

- (1) 福島県教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価実施要綱について
- (2) 平成23年度使用教科用図書調査研究資料について
- (3) 福島県社会教育委員の任命について
- (4) 福島県立博物館運営協議会委員の任免について
- (5) スポーツ振興法第18条第5項に基づく意見照会の回答について
- (6) 平成22年度福島県指定重要文化財指定の諮問について
- (7) 平成22年度福島県指定重要有形民俗文化財指定の諮問について
- (8) 平成22年度福島県指定重要無形民俗文化財指定の諮問について
- (9) 福島県公立学校事務職員の懲戒処分について
- (10) 福島県市町村公立学校事務職員の懲戒処分について
- (11) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (12) 退職手当の支給について

7月定例会(22.7.23)

○ 審議事項

- (1) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
- (2) 福島県市町村公立学校教頭の人事について
- (3) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (4) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (5) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (6) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (7) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (8) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

8月定例会(22.8.20)

○ 審議事項

- (1) 平成23年度使用県立高等学校の教科用図書の採択について
- (2) 平成23年度使用県立特別支援学校小学部・中学部・高等部の教科用図書の採択について
- (3) スポーツ振興法第18条第5項に基づく意見照会の回答について
- (4) 福島県市町村公立学校教頭の人事について
- (5) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (6) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (7) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (8) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (9) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (10) 退職手当の支給について

9月定例会(22.9.10)

○ 審議事項

- (1) 平成23年度福島県立高等学校入学者選抜について
- (2) 平成23年度福島県立中学校入学者選抜について
- (3) 平成23年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜について
- (4) 平成23年度福島県公立学校実習助手採用予定者数及び平成23年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用予定者数について
- (5) 平成22年度9月補正予算案について(教育委員会関係部分)
- (6) 平成22年度教育・文化関係表彰について
- (7) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (8) 福島県公立学校教員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 工事請負契約の一部変更について
- (2) 福島県公立学校教員の分限処分について

10月定例会(22.10.15)

○ 審議事項

- (1) 平成23年度福島県立学校生徒募集定員について
- (2) 平成23年度人事異動方針及び各人事異動実施要項について
- (3) 平成23年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験の合格者について
- (4) 福島県市町村公立学校廃止の認可について
- (5) 平成22年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文朝河貫一賞の受賞者について
- (6) 平成22年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞の受賞者について
- (7) 公立学校永年勤続者表彰の取消しについて
- (8) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (9) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (10) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (11) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (12) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

11月定例会(22.11.19)

○ 審議事項

- (1) 福島県立図書館協議会委員の任免について
- (2) 福島県教育委員会教育長の給与、勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例案について
- (3) 福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例等の一部を改正する条例案について
- (4) 技能労務職員の給与の特例に関する規則の一部を改正する規則について
- (5) 平成22年度11月補正予算案について(教育委員会関係分)
- (6) 公の施設の指定管理者の指定案について
- (7) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (8) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 福島県教育庁事務職員及び福島県公立学校事務職員の

人事について

- (2) 平成22年度福島県立学校教職員の勤務評定について
- (3) 平成22年度福島県市町村立学校教職員の勤務評定について
- (4) 和解について
- (5) 判決について

12月定例会(22.12.17)

○ 審議事項

- (1) 福島県学校教育審議会への諮問について
- (2) 福島県立美術館運営協議会委員の任命について
- (3) 福島県市町村公立学校教頭の人事について
- (4) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (5) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (6) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (7) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (8) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (9) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (10) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (11) 福島県市町村公立学校教頭の懲戒処分について
- (12) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (13) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (14) 退職手当の支給について
- (15) 退職手当の支給について

○ 報告事項

- (1) 相馬養護学校の今後の在り方（報告書）について

1月定例会(23.1.21)

○ 審議事項

- (1) 福島県市町村公立学校廃止の認可について
- (2) 平成22年度教育・文化関係表彰について
- (3) 平成23年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験の合格者について
- (4) 平成23年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験の合格者について
- (5) 道路交通法違反関係教職員の懲戒処分等に関する基準の一部改正について
- (6) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (7) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (8) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 平成23年度人事異動（教員系）について

2月定例会(23.2.10)

○ 審議事項

- (1) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
- (2) 平成23年度当初予算案について（教育委員会関係部分）
- (3) 平成22年度2月補正予算案について（教育委員会関係部分）
- (4) 福島県教育関係職員定数条例の一部を改正する条例案について
- (5) 外国の地方公共団体の機関等に派遣される市町村立学

校職員の処遇等に関する条例案について

- (6) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見照会について

○ 報告事項

- (1) 学校運営協議会の設置について
- (2) 平成22年度福島県市町村公立学校教職員の勤務評定について
- (3) 平成22年度福島県立学校教職員の勤務評定について
- (4) 和解について

○ 協議事項

- (1) 平成23年度人事異動（教員系）について

2月臨時会(23.2.28)

○ 審議事項

- (1) 平成23年度教育庁及び教育機関の主要職員（教員系）の人事について
- (2) 平成23年度市町村公立小・中・特別支援学校長の人事について
- (3) 平成23年度市町村公立小・中・特別支援学校教頭の人事について
- (4) 平成23年度県立学校長の人事について
- (5) 平成23年度県立学校教頭の人事について
- (6) 指導不適切教諭等に対する措置について

第3節 教育庁組織

政策監兼教育次長（総務）	清野	隆彦
教育次長（業務）	藤田	充
教育庁参事（人事・企画）	篠木	敏明

課室名	職名	課長等名
教育総務課	課長	田中 義恭
	庁主幹兼副課長（総）	戸田 光昭
	企画主幹兼副課長（業）	源後 正能
	副課長兼主任主査	小檜山 滋人
財務課	庁参事兼課長	磯谷 義雄
	主幹兼副課長	慶徳 庄斎
施設財産室	室長	国分 敏明
	主幹	佐藤 隆
職員課	課長	薄 久男
	主幹兼副課長	大和田 修
	主幹	力丸 忠博
福利課	庁参事兼課長	佐藤 幹夫
	主幹兼副課長	亀岡 浩之
社会教育課	庁参事兼課長	沢 宏一
	主幹兼副課長	羽田 清治
	主幹	増子 清一
	主幹	瀬谷 真理子
文化財課	課長	片平 隆博
	主幹兼副課長	大平 好一
学習指導課	課長	本間 稔
	主幹兼副課長（総）	安斎 吾朗
	主幹兼副課長（業）	笠井 淳一
	主幹	吉田 啓一郎
学校生活健康課	課長	吉田 尚
	主幹兼副課長	大隅 義隆
	主幹	池田 健一郎
全国高等学校総合文化祭推進室	室長	笠原 裕二
	主幹	熊田 孝
特別支援教育課	課長	井戸川恵理子
	主幹兼副課長	芳賀 孝美
学校経営支援課	庁参事兼課長	久保田 範夫
	主幹兼副課長	佐藤 行広
	主幹	梅田 善幸
	主幹	本多 光弥

教育事務所		
教育事務所	所長・次長名	課長名
県北	所長 大竹 正志	総務社会教育(兼) 滝口 守弘
	次長(総) 滝口 守弘	学校教育 吉田 豊彦
	次長(業) 面川 三雄	
県中	所長 佐藤 馨	総務社会教育(兼) 酒井 英資
	次長(総) 酒井 英資	学校教育 大和田範雄
	次長(業) 矢吹 伸一	
県南	所長 大和田博行	総務社会教育(兼) 吉田 隆
	次長(総) 吉田 隆	学校教育 大場 健哉
	次長(業) 目黒 憲	
会津	所長 会田 智康	総務社会教育(兼) 樋山 公則
	次長(総) 樋山 公則	学校教育 菅野 哲哉
	次長(業) 箱崎二三彦	
南会津	所長 田中 靖則	総務社会教育(兼) 浅井源一郎
	次長(総) 浅井源一郎	学校教育(兼) 刈屋 俊樹
	次長(業) 刈屋 俊樹	
相双	所長 小山 金也	総務社会教育(兼) 堀 敬一
	次長(総) 堀 敬一	学校教育 山野辺康夫
	次長(業) 遠藤雄二郎	
いわき	所長 高橋 正人	総務社会教育(兼) 田村 昌一
	次長(総) 田村 昌一	学校教育(兼) 小澤 章雄
	次長(業) 小澤 章雄	

所管教育機関等		
教育機関名	所館長名	次長等名
福島県教育センター	滝田 文夫	次長(総務)
		村山 猛
		総務管理部長(兼)
		村山 猛
福島県養護教育センター	円谷 美智子	研究・研修部長
		太田 孝
		主幹兼事務長
		小池 和善
福島県立図書館	佐藤 義和	企画事業部長
		齋藤 秀美
福島県立図書館	佐藤 義和	副館長
福島県立美術館	酒井 哲朗	横山 喜一
福島県立美術館	酒井 哲朗	副館長
福島県立博物館	赤坂 憲雄	眞壁 眞
福島県立博物館	赤坂 憲雄	副館長
郡山自然の家	本田 樹	岸波 靖彦
郡山自然の家	本田 樹	次長
会津自然の家	石井 賢一	固山 博之
会津自然の家	石井 賢一	主幹兼次長
相馬海浜自然の家	穴戸 弘治	丹野 信介
相馬海浜自然の家	穴戸 弘治	主幹兼次長
いわき海浜自然の家	松岡 浩三	鈴木 修二
いわき海浜自然の家	松岡 浩三	主幹兼次長
いわき海浜自然の家	松岡 浩三	大堀 昌造

第4節 企画調整

1 教職員現職教育計画の策定

- (1) 教職員現職教育担当者会議を開催し、平成23年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

(2) 策定計画

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第1回	22. 5. 18	自治会館 302会議室	○平成22年度教職員現職教育計画作成日程について ○平成23年度教職員現職教育計画策定に向けた全体及び各課・所の検討事項について
第2回	22. 7. 16	西庁舎 401会議室	○第1回教職員現職教育担当者会議の確認 ○各課・所における予算化等を見通した具体的改善案について ○第23年度教職員現職教育計画の作成日程について ○平成23年度教職員現職教育計画の原稿依頼について

(3) 構成員

学習指導課

課長、主幹兼副課長、主任指導主事、担当指導主事

学校生活健康課

主幹、主任指導主事、主任栄養技師、担当指導主事

特別支援教育課

主幹兼副課長、主任指導主事、担当指導主事

教育総務課

庁企画主幹兼副課長、主任主査

社会教育課

主幹、主任社会教育主事、担当社会教育主事

学校経営支援課

主幹、主任管理主事、担当管理主事

教育センター

研究・研修部長、主任指導主事、担当指導主事

養護教育センター

企画事業部長、主任指導主事

2 調整事務

(1) 教育庁内企画・調整事務

- ア 総合教育計画に関する連絡調整
- イ 県教委重点施策に関する連絡調整
- ウ 県教委点検・評価に関する連絡調整
- エ 県重点事業に関する連絡調整
- オ 県重点施策策評価に関する連絡調整
- カ 政府予算対策に関する連絡調整
- キ 双葉地区教育構想推進事業に関する連絡調整

(2) 知事部局との調整事務

- ア 知事直轄
 - 安全で安心な県づくり推進庁内連絡会議
- イ 総務部
 - 行財政改革推進本部
- ウ 企画調整部
 - 県総合計画関係、政策評価関係、県重点事業関係、政府予算対策活動関係、過疎・中山間地域経営戦略本部会議、エネルギー政策検討会、電子社会推進本部会議、政策調整会議
- エ 生活環境部
 - ユニバーサルデザイン推進本部会議、青少年健全育成推進本部、うつくしま環境パートナーシップ会議、環境影響評価庁内連絡会議、循環型社会形成推進庁内推進会議、景観形成推進庁内連絡会、特定外来生物対応庁内連絡会、環境政策推進庁内連絡会、男女共同参画推進本部会議、環境・エネルギー施策推進庁内連絡会議、ふくしま地球温暖化対策推進本部会議、温暖化対策の推進に関する庁内連絡会議
- エ 保健福祉部
 - 少子高齢社会対策推進本部会議
- オ 商工労働部
 - 緊急経済・雇用対策本部会議、街なか再生プロジェクトチーム、企業誘致・立地企業振興対策本部会議
- カ 農林水産部
 - ふくしま県産木材利用推進会議
- キ 土木部
 - 県有建築物耐震対策推進連絡会議、都市計画行政連絡会議

第5節 広報・広聴

1 福島県の教育施策

(1) 編集方針

県教育委員会の教育行政施策等を、県民に広く伝えることにより、開かれた教育行政の推進に資するものとする。

(2) 内容

第6次福島県総合教育計画

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 8ページ カラー
イ 部数 8,000部

(4) 配付対象

市町村町役場、社会教育文化施設、県立医大附属病院、県立病院、県内公立学校、私立団体連合会、各教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

2 教育委員会だより

(1) 編集方針

教育庁の新陣容や教育行政の諸領域の中から広報を要する事項及び教職員に周知させる必要のあるものを掲載し、教育委員会施策の徹底を図る。

(2) 内容

県教育委員会重点施策、県教育委員会所管予算、県教育庁組織改編の概要、県教育委員会名簿・県教育庁新陣容、県教育庁の組織及び電話番号一覧、県教育庁各課・室配置図

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 8ページ
イ 部数 4,500部

(4) 配付対象

市町村教育委員会、県内公立学校、私立団体連合会、各教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

3 教育年報

(1) 編集方針

平成21年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

(2) 内容

平成21年度の本県教育行政の実績

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 291ページ
イ 部数 150部

(4) 配付対象

市町村教育委員会、各教育関係機関

4 福島県の教育

(1) 編集方針

本県教育の実績と教育行政の要点を図式化して掲載し、教育庁への来訪者等に配付し、本県教育に対する理解を図る。

平成22年度は、国際交流の機会の増加をふまえて、中国語簡体版200部、繁体版600部及び韓国語版200部も作成した。

(2) 内容

本県教育の実情及び教育行政の要点

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 8ページ カラー
イ 部数 1,100部

(4) 配付対象

県教育行政機関への来訪者、市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、北海道・東北各教育委員会等

5 うつくしま ふくしま 教育ニュース

(1) 編集方針

県教育委員会の教育行政施策、実績等を県民、特に保護者を対象として伝えることにより、本県教育に対する理解を図る。平成22年度は6月と10月に発行した。

(2) 内容

ア 第35号（6月発行）
第6次福島県総合教育計画
授業改善のための定着確認シート活用実践事業
本県の特別支援学校の役割について
イ 第36号（10月発行）
本県の学力向上のための取組みについて
子どもの体力向上推進事業について
ふくしま教育の日について

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ カラー
イ 部数 第35号284,000部
第36号280,000部

(4) 配付対象

県内公立学校の全保護者、私立幼稚園及び小・中・高等学校、市町村教育委員会、各教育関係機関等

6 教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 付 対 象
教育総務課	福島県の教育施策	教育施策等を掲載し、開かれた教育行政に資する。	1	A 4	8	8,000	市町村役場、学校、教育関係機関等
	教育委員会だより	本県の教育行政施策・人的配置の広報	1	A 4	8	4,500	学校、各教育関係機関等
	教 育 年 報	県教育委員会の前年度の実績の記録・保存	1	A 4	291	150	教育関係機関等
	福 島 県 の 教 育	本県教育の実情を図表を用いて集約(平成 22 年度は中国語版、韓国語版も作成)	1	A 4	8	1,100	〃
	う つ く し ま ふ く し ま 教 育 ニ ュ ー ス	教育施策等を分かりやすく保護者へ周知啓発	2	A 4	4	35 号 284,000 36 号 280,000	公立学校の全保護者、各教育関係機関等
福利課	ふ く し ま 福 利 だ よ り	教職員の福利・厚生事業の紹介等	4	A 4	12p×2回 8p×2回	21,200	全教職員
	福利厚生のおしり	教職員の福利・厚生事業の紹介等	1	A 5	100	21,200	〃
社会教育課	社 会 教 育	社会教育に関する情報全般	1	A 4	8	2,000	市町村教委、公民館等
総合文化祭推進室	県 外 向 け パ ン フ レ ッ ト	ふくしま総文開催の県外情報発信	1	A 4	1	14,000	宮崎大会、東京、隣県高文祭での配布
	ポ ス タ ー	ふくしま総文 P R	1	A 2	1	1,100	各市町村、高校、各県
	総 文 ニ ュ ー ス	総文トピックス	1	A 3	1	4,000	各学校
教育センター	要 覧	教育センターについての沿革、設置の趣旨、組織、予算、事業内容を掲載	1	A 4	20	200	学校、関係機関
	所報ふくしま「窓」	教育関係者の提言や県内教員の教育研究等についての紹介及び教育センターからの案内	1	A 4	6	—	web に掲載
	研 究 紀 要	研究の成果をとりまとめて刊行し、本県学校教育の向上に資する。	1	A 4	76	1,250	学校、関係機関
養護教育センター	セ ン タ ー 案 内 リ ー フ レ ッ ト	事業の内容・啓発	1	A 4 三折		200	関係機関
	所 報 「特別支援教育」	センターの取組みや国内外の教育動向等	1	A 4	6	—	web に掲載
	要 覧	沿革、事業体系、事業概要、施設・設備	1	A 4	7	—	〃
	研 究 紀 要	研究成果の発表	1	A 4	41	—	〃

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 付 対 象
図 書 館	館 報 あ づ ま	図書館業務の広報	1	A 4	4	1,700	図書館・関係機関
	県立図書館要覧	県立図書館の概況	1	A 4	16	—	web に掲載
美 術 館	美術館ニュース ART INFORMATION	企画展・普及事業等の案内	6	A 4 三折		各 12,000	関係機関、来館者等
	ミュージアム カレンダー	年間事業紹介	1	B 5 画面		4,000	〃
博 物 館	県立博物館年報	前年度の事業実績	1	A 4	85	400	関係機関
	県立博物館紀要	学芸員の調査・研究成果の報告	1	A 4	128	600	〃
	博物館だより	行事予定、企画展案内、講演要旨等	4	A 4	8	各 3,500	学校、関係機関
	はくぶつかん ニ ュ ー ス	月毎の博物館行事予定及び博物館にかかわるニュース	12	A 4	2	各 30,000	〃
	企画展ポスター・リーフレット	企画展紹介	3	ポスターB2 リーフレット A4		5,700 35,000	学校、関係機関 関係機関、来館者など
	年間催し物案内	主催行事などの紹介	1	200 × 294 四折		45,000	関係機関、来館者など
自 然 の 家	企画事業案内 (相 馬)	企画事業案内、実施期日、対象等	1	A 4 A 3	1 1	1,500 1,000	学校、関係機関
	利 用 ガ イ ド	施設全般、利用の仕方やプログラムについての紹介	1	A 4	25	1,200	各小中学校、公民館
	平成22年度利用案内 (い わ き)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	1	1,200	学校、関係機関
	企画事業案内 (郡 山)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	1		w e b 掲 載
	会津自然の家パンフ レット(会 津)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 3 (見開 裏表カラー)	4	3,000	学校、関係機関
文 化 財 センタ 白 河 館	年 報	沿革、事業の概要、入館者統計、予算等	1	A 4	30	500	関係機関
	まほろん通信	イベントの内容、体験学習の案内等	4	A 4	4	16,000	関係機関、利用者等
	研 究 紀 要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	A 4	100	500	関係機関

7 教育長記者会見

東日本大震災のため中止

8 記者発表及び資料提供

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
記者発表		1	1		1	2	2	1		1				9
資料提供		33	18	29	34	28	24	38	36	27	24	28	43	362

9 教育広聴会

(1) 目的

県民各層との対話をととして、多様化している県民の意向を積極的かつ多角的に把握し、県民と一体となった開かれた教育を推進するために実施する。なお、平成22年度は、第6次福島県総合教育計画の初年度であることから、本計画をふまえて県民の意見を聴くものとする。

(2) テーマ

「輝く未来に向けて、みんなで考えよう！明日のふくしまの教育」～子どもたちの『確かな学力』『豊かなこころ』『健やかな体』をはぐくむために～

(3) 内容

ア 開催形態

意見発表・意見交換

イ 会場

【会津地区】県立博物館

【県南地区】福島県文化財センター白河館まほろん

【県中地区】県立郡山萌生高等学校

ウ 開催日時

【会津地区】平成22年11月9日（火）13:10～15:00

【県南地区】平成22年11月16日（火）13:10～15:00

【県中地区】平成22年12月20日（月）13:10～15:00

エ 出席者

【会津地区】

（ア）意見発表者

村松 駿（生徒代表者）

植村優里香（ ）

渡辺 瞬（ ）

内海理佳子（ ）

阿部 鉄也（大学生代表）

永峯 寛（保護者代表）

鈴木 久人（ ）

岩原 稔（社会教育者）

（イ）県教育委員会関係者

境野 米子（県教育委員会委員）

日下龍一郎（県教育委員会委員）

清野 隆彦（県教育庁政策監）

田中 義恭（教育総務課課長）

吉田 尚（学校生活健康課長）

会田 智康（会津教育事務所長）

（ウ）傍聴者 21名

【県南地区】

（ア）意見発表者

溝井 尊紀（生徒代表者）

宮川 眞子（ ）

富永 道生（ ）

大野絵里佳（ ）

遠藤 恵（大学生代表）

藤田 龍文（保護者代表）

和知 裕幸（ ）

鈴木きよ子（社会教育者）

（イ）県教育委員会関係者

鈴木 芳喜（県教育委員会教育委員長）

遠藤由美子（県教育委員会委員）

境野 米子（ ）

小野 栄重（ ）

遠藤 俊博（県教育委員会教育長）

田中 義恭（教育総務課長）

沢 宏一（社会教育課長）

目黒 憲（県南教育事務所業務次長）

（ウ）傍聴者 22名

【県中地区】

（ア）意見発表者

須田 峰弘（生徒代表者）

佐久間麻由（ ）

佐藤 和弘（ ）

馬場 美里（ ）

武田 加奈（大学生代表）

新田 勝雄（保護者代表）

神山さとみ（ ）

工藤 信一（社会教育者）

（イ）県教育委員会関係者

鈴木 芳喜（県教育委員会教育委員長）

遠藤由美子（県教育委員会委員）

日下龍一郎（ ）

小野 栄重（ ）

藤田 充（県教育庁教育次長）

篠木 敏明（県教育庁庁参事）

田中 義恭（教育総務課長）

佐藤 馨（県中教育事務所長）

（ウ）傍聴者 20名

10 平成22年度「ふくしま教育の日」啓発推進事業

県民の教育に対する理解、関心を高め、学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期するため、平成15年3月にふくしま教育の日条例を制定し、ふくしま教育の日（11月1日）及びふくしま教育週間（11月1日～7日）を設けている。当該期間を含むその前後の期間において「教育の日」の趣旨にふさわしい取組みが実施されるよう、市町村や関係機関に働きかけるとともに普及啓発を図った。

11 県庁子ども参観デー

子どもたちに県庁を見学する機会を提供することにより、社会の仕組みや職業について理解を深めてもらい、職員の子どもたちについては、保護者の職場を訪問して働く姿を見ることにより、家族の絆を深める機会とした。

また、この取組みを広報することにより、市町村や民間企業等における職場参観の実施を啓発した。

- (1) 日時

平成22年8月20日(金) 8:45~12:05
- (2) 参観者

小学生とその保護者など計166人
- (3) 内容

ア 県庁見学(知事室・通信司令室・議場・河川流域総合情報システム室)
イ 教育庁見学(教育委員との懇談等)
ウ 県庁内職場見学

第6節 調査統計

平成22年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1 学校統計要覧の刊行
平成22年5月1日現在で調査した「学校基本調査」(指定統計第13号)の調査結果により、学校数、児童生徒数、教職員等の基本的事項を収録した「学校統計要覧」を刊行した。

2 地方教育費調査(一般統計)
この調査は、平成21会計年度において、学校教育、社会教育、生涯学習関連及び教育行政における県及び市町村(教育事務組合を含む。)から支出された経費並びに授業料等の収入の実態及び地方教育行政機関の組織等の状況を明らかにし、教育諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

3 学校教員統計調査(基幹統計)
この調査は、学校の教員構成並びに教員の個人属性・職務態様及び異動状況を調査し、教員に関する諸施策の検討・立案のための基礎資料を整備することを目的として文部科学省が実施したものである。

4 子どもの学習費調査(一般統計)
この調査は、子どもを公立又は私立の学校に通学させている保護者が、子どもの学校教育及び学校外活動のために支出した経費並びに世帯の年間収入の実態をとらえ、教育に関する国の諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

5 進路状況等に関する調査
この調査は、中学校・高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

第7節 教職員の給与

平成22年度の教職員の給与改定については、平成22年10月4日の県人事委員会給与勧告に基づき、給料及び諸手当について、平成22年11月定例県議会及び平成23年2月定例県議会において給与条例等の一部改正が提案され、議決・公布された。その概要は次のとおりである。

1 給料の改定(平成22年12月1日適用)
55歳を超える職員(教育職給料表3級以下の職員等を除く)の給料について、0.9%を減じることとされたこと。

2 給料の調整額(平成23年1月1日適用)
教育職給料表の適用を受ける職員のうち、特別支援教育に直接従事することを本務とする職員に対する給料の調整額の調整数が1.5から1.25に引き下げられたこと。

3 給料の特別調整額(管理職手当)
55歳を超える職員(教育職給料表3級以下の職員等を除く)の給料の特別調整額(管理職手当)について、0.9%を減じることとされたこと。(平成22年12月1日適用)
給料の特別調整額(管理職手当)に関する経過措置対象職員について、手当の定額化に伴う経過措置期間が終了とされたこと。(平成23年4月1日適用)

4 通勤手当(平成23年4月1日適用)
自動車等交通用具使用者の手当額が次のとおり改められたこと。

片道の 自動車等の 使用距離	手当額	
	自動車	自動車以外の原動機付きの交通用具
2 km 以上 4 km未満	2,300 円	2,000 円
4 km 以上 6 km未満	3,500 円	2,000 円
6 km 以上 8 km未満	4,700 円	2,400 円
8 km 以上 10 km未満	5,900 円	3,000 円
10 km 以上 12 km未満	7,000 円	3,500 円
12 km 以上 14 km未満	8,200 円	4,100 円
14 km 以上 16 km未満	9,400 円	4,700 円
16 km以上 18 km未満	10,600 円	5,300 円
18 km以上 20 km未満	11,700 円	5,900 円
20 km以上 22 km未満	12,900 円	6,500 円
22 km以上 24 km未満	14,100 円	7,100 円
24 km以上 26 km未満	15,300 円	7,700 円
26 km以上 28 km未満	16,400 円	8,200 円
28 km以上 30 km未満	17,600 円	8,800 円
30 km以上 32 km未満	18,800 円	9,400 円
32 km以上 34 km未満	20,000 円	10,000 円
34 km以上 36 km未満	21,100 円	10,600 円
36 km以上 38 km未満	22,300 円	11,200 円
38 km以上 40 km未満	23,500 円	11,800 円
40 km以上 45 km未満	26,000 円	13,000 円
45 km以上 50 km未満	28,600 円	14,300 円
50 km以上 55 km未満	31,000 円	15,500 円
55 km以上 60 km未満	33,200 円	16,600 円
60 km以上 65 km未満	35,000 円	17,500 円
65 km以上 70 km未満	37,700 円	18,900 円
70 km以上 75 km未満	40,400 円	20,200 円
75 km以上 80 km未満	43,100 円	21,600 円
80 km以上	45,800 円	22,900 円

5 特殊勤務手当(平成23年4月1日適用)
教員特殊業務手当に係る第4号手当について、現行の区分に加え、2時間以上4時間程度未満、日額1,200円の区分が新たに設けられたこと。

6 超過勤務手当(平成23年4月1日適用)
超過勤務時間数が1箇月について60時間を超えた場合の支給割合の特例について、日曜日又はこれに相当する日の勤務についても他の日と同様に支給割合割増の対象とされたこと。

7 期末・勤勉手当

職員の給与等に関する報告及び勧告に基づき、平成 22 年 12 月に支給する期末・勤勉手当の一部が次のとおり引き下げられたこと。

	区 分	引き下げ前	引き下げ後	引き下げ分
一般職員	期末手当	1.40ヶ月	1.30ヶ月	△0.10ヶ月
	勤勉手当	0.70ヶ月	0.65ヶ月	△0.05ヶ月
特定幹部職員	期末手当	1.20ヶ月	1.10ヶ月	△0.10ヶ月
	勤勉手当	0.90ヶ月	0.85ヶ月	△0.05ヶ月

また、支給割合が次のとおり改められたこと。(平成 23 年 4 月 1 日適用)

◎一般職員

	区 分	6月期	12月期	年間支給割合
改正前	期末手当	1.25ヶ月	1.30ヶ月	2.55ヶ月
	勤勉手当	0.70ヶ月	0.65ヶ月	1.35ヶ月
改正後	期末手当	1.225ヶ月	1.325ヶ月	2.55ヶ月
	勤勉手当	0.675ヶ月	0.675ヶ月	1.35ヶ月

◎特定幹部職員

	区 分	6月期	12月期	年間支給割合
改正前	期末手当	1.05ヶ月	1.10ヶ月	2.15ヶ月
	勤勉手当	0.90ヶ月	0.85ヶ月	1.75ヶ月
改正後	期末手当	1.025ヶ月	1.125ヶ月	2.15ヶ月
	勤勉手当	0.875ヶ月	0.875ヶ月	1.75ヶ月

8 定時制通信教育手当（平成23年 4 月 1 日適用）

定時制通信教育手当に関する経過措置対象職員について、手当の定額化に伴う経過措置期間が終了とされたこと。

9 産業教育手当（平成23年 4 月 1 日適用）

産業教育手当に関する経過措置対象職員について、手当の定額化に伴う経過措置期間が終了とされたこと。

10 義務教育等教員特別手当（平成23年 1 月 1 日適用）

手当額が引き下げられたこと。

第 8 節 附属機関等

1 福島県学校教育審議会

根拠法令

福島県学校教育審議会条例（昭和 41 年福島県条例第 42 号）

目的

- 教育委員会の諮問に応じ、学校教育の振興についての総合計画に関する事項及び学校教育についての基本的な重要施策に関する事項について調査審議する。
- 学校教育に関する事項について、必要があると認めるときは、教育委員会に対し、意見を申し出る。

(1) 福島県学校教育審議会委員

福島県学校教育審議会委員名簿

任期：平成22年3月19日～平成24年3月18日

	氏 名	役 職 名	備 考
学識経験を有する者	五十嵐 まりい	元会津若松市教育委員会委員	会長
	大 場 盛 子	南相馬市生涯学習推進委員会委員長	
	小 沢 喜 仁	福島大学共生システム理工学類教授	
	加 藤 卓 哉	福島民友新聞社編集局長	
	神 谷 健 二	(社)日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会副会長	
	神 山 敬 章	いわき明星大学人文学部現代社会学科教授	
	菊 池 千代子	西郷村教育委員会委員長	
	栗 城 善 和	連合福島会長代行	
	紺 野 嘉 昭	福島県商工会議所連合会理事	副会長 公募委員 公募委員
	錫 谷 和 子	元福島市学校給食センター運営委員	
	高 信 由美子	元矢祭町教育委員会教育長	
	高 橋 明 子	前福島県社会教育委員	
	長 島 俊 一	福島県農業協同組合中央会常務理事	
	浪 岡 真 澄	福島県 P T A 連合会顧問	
	浜 津 三千雄	福島民報社取締役編集局長	
市 町 村 長	室 井 伸 子	下郷町男女共同参画推進協議会会長	
	森 涼 一	福島県私立中学高等学校協会副会長	市長会推薦 町村会推薦(H23.6.17)～ H23.6.17) 町村会推薦(H23.6.18)～ H24.3.18)
	三 保 恵 一	二本松市長	
	浅 和 定 次	大玉村長	
	佐 藤 正 博	西郷村長	

(2) 審議・経過

平成23年1月19日諮問事項「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」

月・日	区 分	内 容
1月19日	諮 問	○ 教育長から会長へ諮問書を提出 ○ 諮問趣旨の説明について ○ 審議・質疑
2月 8日	(学校訪問)	○ 学校訪問 (中通り地区)
3月 3日	(学校訪問)	○ 学校訪問 (会津地区)
3月 4日	(学校訪問)	○ 学校訪問 (いわき地区)

2 福島県社会教育委員の会議

根拠法 社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条並びに福島県社会教育委員の定数及び任期に関する条例（昭和24年福島県条例第56号）

目 的 社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり必要な研究調査を行い、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

(1) 定例会の開催

ア 第1回定例会

(7) 日時 平成22年7月22日（木）10:30～

(4) 場所 西庁舎 4階 401会議室

(7) 内容

a 報告事項

平成22年度社会教育に関する主要施策・事業の概要について

b 審議事項

本県における社会教育推進のあり方について

イ 第2回定例会

(7) 日時 平成23年2月16日（水）10:00～

(4) 場所 自治会館 4階 402会議室

(7) 内容

a 報告事項

平成22年度社会教育関係事業報告について

b 審議事項

地域ぐるみで子どもの育ちを支援するために、「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」に向けて、「体制づくり」や「人材育成」に視点を当てながら、社会教育関係事業の推進について

福島県社会教育委員名簿

任期 平成22年6月20日～平成24年6月19日

区 分	氏 名	役 職 名	備 考
学校教育関係者	古 川 満里子	福島市立蓬莱東小学校長	
	根 上 正 志	福島市立野田中学校長	
	柳 沼 陽 一	福島県立光南高等学校長	
社会教育関係団体の関係者	渡 辺 仁	福島県公民館連絡協議会会長	副議長
	小 熊 敬 子	福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長	
	吉 田 恵 三	福島県連合青年会幹事	
	佐 藤 壮一郎	福島県PTA連合会理事	
	小 林 清 美	福島県婦人団体連合会理事	
	新井田 萬壽子	福島県子ども会育成会連合会会長	
	根 本 佳 夫	福島県商工会連合会専務理事	
	瀬 田 弘 子	特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク	
家庭教育関係者	根 本 早 苗	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会代表	
学 識関係者	伊 藤 行 和	元福島県立磐城女子高等学校長	
	浜 島 京 子	福島大学人間発達文化学類教授	議長
公 募	佐 藤 晴 美	主婦	
	小 椋 詳 子	学習塾専従者	

3 福島県文化財保護審議会

(1) 福島県文化財保護審議会委員

任期 平成21年4月1日~平成23年3月31日

氏 名	所 属 等	担 当 分 野	備 考
有 賀 祥 隆	前東北大学教授・文化審議会(文化財分科会)専門委員	絵画	
伊 藤 喜 良	福島大学教授・歴史学研究会・東北史学会	古文書(中世)・書跡・典籍	
大 内 寛 隆	東北史学会評議員・東北大学国史談話会員・福島県史学会監査・福島大学史学会員	古文書(近世)史跡	
岡 田 茂 弘	前東北歴史博物館長・日本考古学協会・国立歴史民俗博物館名誉教授	考古資料・史跡・埋蔵文化財	会長
懸 田 弘 訓	会津大学非常勤講師・民俗芸能学会・東洋音楽学会	有形・無形民俗文化財	
鈴 木 俊 行	(財)福島県都市公園・緑化協会・樹木医	天然記念物(植物)	
狩 野 勝 重	日本大学教授・工学博士	建造物・伝統的建造物群	
木 村 吉 幸	福島大学教授・福島県森林審議会委員	天然記念物(動物)	
小 島 美 子	国立歴史民俗博物館名誉教授・日本民俗音楽学会・民俗芸能学会	無形民俗文化財(芸能)	
田 辺 真 弓	郡山女子大学短期大学部教授・服装美学会・国際服飾学会	工芸品・染織	
辻 秀 人	東北学院大学教授・日本考古学協会	考古資料・史跡	
中 村 嘉 男	福島大学名誉教授・理学博士・福島県自然環境保全審議会委員	名勝・天然記念物	
藤 田 定 興	元 福島県文化センター歴史資料課長・日本考古学協会	歴史資料・工芸品(宗教関係)	
真 鍋 健 一	福島大学名誉教授・理学博士・日本地質学会	天然記念物(地質鉱物)	副会長
山 崎 京 美	いわき短期大学教授・文化財センター白河館運営協議会委員	考古資料・自然遺物	

(2) 会議

ア 第1回審議会

- (7) 期日 平成22年7月9日(金)
- (4) 場所 自治会館3階303会議室
- (7) 内容
 - a 諮問
福島県教育委員会より、平成22年度指定文化財の指定について、諮問がなされた。
 - b 審議事項
平成22年度福島県指定候補文化財について
 - c 報告事項
平成21年度福島県指定文化財等について
国指定文化財について

イ 第2回審議会

- (7) 期日 平成23年1月31日(月)
- (4) 場所 自治会館7階702会議室
- (7) 内容
 - a 平成22年度県指定候補文化財の審議

ウ 答申

- (7) 期日 平成23年3月2日(水)
- (4) 場所 教育長室
- (7) 内容
福島県教育委員会に対し、平成22年度福島県指定文化財4件の文化財について、指定するよう答申がなされた。

第9節 市町村教育委員会

1 概要

本県の市町村教育委員会数は、平成23年5月1日現在、13市46町村2組合の計61である。
県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

2 組織

平成23年5月1日現在、県内各市町村教育委員会の委員長及び教育長は次のとおりである。

教育委員会名	教育委員長	教 育 長
県北(9)		
福島市	芳賀 裕	佐藤俊市郎
伊達郡川俣町	佐藤 捷善	神田 紀
伊達市	遠藤 道雄	湯田 健一
伊達市国見町大枝小学校組合	佐藤 浩康	湯田 健一
伊達郡桑折町	大波 敏子	安藤 重男
伊達郡国見町	遊佐真紀子	武田 正昭
二本松市	宮前 貢	小泉 裕明
安達郡大玉村	斎藤 雅子	押山 利一
本宮市	仲川 清	原瀬久美子

教育委員会名	教育委員長	教 育 長
県中(12)		
郡山市	今泉 玲子	木村 孝雄
須賀川市	深谷 哲雄	坂野 順一
岩瀬郡鏡石町	吉田 栄新	高原孝一郎
岩瀬郡天栄村	矢部 文雄	武田 國男
石川郡石川町	橋本裕美子	高原 榮征
石川郡玉川村	野本 政雪	富岡ケイ子
石川郡平田村	久保木新作	吾妻 幹廣
石川郡浅川町	小室 孝行	佐川 善雄
石川郡古殿町	鈴木 茂	水野末之助
田村市	會田 昌男	佐藤 彦一
田村郡三春町	武地 優子	遠藤 真弘
田村郡小野町	山内 真弓	矢内今朝見
県南(9)		
白河市	藤田 克彦	伊藤 渉
西白河郡西郷村	菊池千代子	加藤 征男
西白河郡中島村	水野谷剛夫	佐藤 正敏
西白河郡矢吹町	藤井 義男	栗林 正樹
西白河郡泉崎村	本柳 功	齋藤 邦光
東白川郡棚倉町	鈴木 正男	渡邊 勇喜
東白川郡塙町	菊池 明夫	萩原 照夫
東白川郡矢祭町	鈴木 幹男	二階堂章信
東白川郡鮫川村	水野 春雄	奥貫 洋
会津(13)		
会津若松市	前田 智子	星 憲隆
耶麻郡磐梯町	高梨 敦子	齋藤 就治
耶麻郡猪苗代町	岩橋 紀男	土屋 重憲
喜多方市	上野利一郎	菅井 一良
耶麻郡北塩原村	藤田 基吉	佐藤 信寛
耶麻郡西会津町	伊藤てる子	佐藤 晃
河沼郡会津坂下町	宇内 一広	堀 幸一郎
河沼郡湯川村	白岩 孝一	大関 善壽
河沼郡柳津町	小林 銀一	新井田明義
大沼郡会津美里町	猪俣 一徳	佐治 和則
大沼郡三島町	小松 正志	北館 長一
大沼郡金山町	菅家 貞夫	目黒 則雄
大沼郡昭和村	羽染としの	栗城 金昭
南会津(5)		
南会津郡南会津町	渡部 謙一	五十嵐竹則
南会津郡下郷町	渡部 貴人	大竹 康隆
南会津郡檜枝岐村	星 孝道	平野 信之
南会津郡只見町	横山大太郎	齋藤 修一
南会津地方広域市町村圏組合	欠	五十嵐竹則

教育委員会名	教育委員長	教 育 長
相双(12)		
相馬郡新地町	加藤 潤一	村山 正之
相馬市	小畑 強子	安良 紀男
南相馬市	大石 力彌	青木 紀男
相馬郡飯舘村	佐藤 隆明	廣瀬 要人
双葉郡浪江町	大越たか子	畠山熙一郎
双葉郡葛尾村	松本 良子	猪狩 省造
双葉郡双葉町	岡村 隆夫	江尻 邦夫
双葉郡大熊町	八幡 哲由	武内 敏英
双葉郡富岡町	関本 征司	庄野富士男
双葉郡川内村	西山 光熙	石井 芳信
双葉郡楡葉町	松本ミサヲ	高橋 尚子
双葉郡広野町	黒田 征勝	芦川 鋭章
いわき(1)		
いわき市	緑川 幹朗	吉田 浩

3 平成22年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会を開催して助言指導を行うとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への援助に努めた。

(1) 平成22年度福島県市町村教育委員会教育長会議

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成22年4月15日(木)
- ウ 会場 西庁舎12F 講堂
- エ 出席者 市町村教育委員会教育長 57名
- オ 内容 平成22年度教育庁各課(室)・所の重点施策の説明

(2) 平成22年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

- ア 主催 福島県市町村教育委員会連絡協議会
福島県教育委員会
- イ 期日 平成22年11月12日(金)
- ウ 会場 自治会館6階 601会議室
- エ 参加者 平成21年11月14日から平成22年9月30日の間に任命された委員及び、それ以前に就任し未参加の委員 37名
- オ 内容
 - 講話
 - ・演題 「教育委員に期待するもの」
 - ・講師 福島県教育委員会教育長 遠藤 俊博
 - 講話
 - ・演題 「教育委員会の運営はいかにあるべきか」
 - ・講師 福島県市町村教育委員会連絡協議会長 芳賀 裕
 - 講義
 - ・演題 「教育委員会の組織と運営について」
 - ・講師 福島県教育庁職員課管理主事 佐藤 浩哉

(3) 平成22年度福島県町村教育長協議会研修大会県中大会

- ア 主催
福島県町村教育長協議会
- イ 期日
平成22年11月11日(木)～12日(金)
- ウ 会場
太平洋クラブ&リゾート 天栄村羽鳥湖高原
- エ 参加者
福島県町村教育長46名 他
- オ 内容
- 講話
- ・演題「福島県のエデュケーションの課題について」
 - ・講師 福島県教育委員会教育長 遠藤 俊博
- 講演
- ・演題「野球道」
 - ・講師 聖光学院高等学校 野球部監督 斎藤智也

第10節 職員団体との話し合い

平成22年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話し合いのうち、主なものは次のとおりである。

1 福島県教職員組合

- (1) 平成22年4月27日
- ア 給与抑制について
- イ 各種手当について
- ウ 多忙化解消について
- エ 子育て休暇・短期介護休暇について
- (2) 平成22年11月4日
- ア 給与改定、給与抑制、職務の級に直し等について
- イ 臨時的任用教職員の待遇及び勤務条件の改善について
- ウ 30人学級拡大について
- エ 多忙化解消について
- (3) 平成22年11月12日
- ア 給与改定等について
- イ 多忙化解消について
- ウ 定着確認シートについて
- エ 労働安全衛生管理体制等について
- オ 休暇等について
- (4) 平成23年1月12日
- 給与抑制について
- (5) 平成23年1月21日
- 給与抑制について
- (6) 平成23年1月24日
- 給与抑制について

2 福島県高等学校教職員組合

- (1) 平成22年4月28日
- ア 給与抑制について
- イ 諸手当について
- ウ 勤務時間短縮等について
- エ 教員定数改善について
- オ 旅費、需用費等について
- (2) 平成22年11月5日

- ア 給与抑制について
- イ 人事委員会勧告について
- ウ 人事評価等について
- エ 教員免許更新制について
- (3) 平成22年11月15日
- ア 給与改定等について
- イ 教員免許更新制について
- ウ 多忙化解消について
- エ 修繕費等について
- (4) 平成23年1月12日
- 給与抑制について
- (5) 平成23年1月24日
- 給与抑制措置について

3 福島県立高等学校教職員組合

- (1) 平成22年4月27日
- ア 旅費、需用費等について
- イ 勤務時間短縮等について
- ウ 部活動手当について
- エ 総括安全衛生委員会等について
- (2) 平成22年9月15日
- ア 就学奨励費について
- イ 講師、実習教員等へのパソコン貸与について
- (3) 平成22年11月5日
- 人事委員会勧告等について
- (4) 平成22年11月15日
- ア 給与改定等について
- イ 教職員の多忙化解消について
- ウ 修学旅行引率に係る勤務時間の変更について
- エ 週休日振替等について
- (5) 平成23年1月12日
- 給与抑制について
- (6) 平成23年1月24日
- 給与抑制について

4 福島県学校事務労働組合

- (1) 平成22年4月28日
- ア 給与抑制について
- イ 学校事務の共同実施について
- ウ 育児短時間勤務について
- エ 昇任昇給について
- エ 多忙化解消について
- (2) 平成22年11月4日
- ア 給与抑制について
- イ 学校事務の共同実施について
- ウ 昇任昇給について
- (3) 平成22年11月12日
- ア 給与抑制について
- イ 学校事務職員の定数について
- (4) 平成23年1月12日
- 給与抑制について
- (5) 平成23年1月24日
- 給与抑制について

第11節 不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件

1 不利益処分審査請求事件

平成23年3月31日現在、県人事委員会に不利益処分審査請求事件として係属中のものは10件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請 求 の 内 容	請 求 者	備 考
懲戒処分取消請求事件 (7 件)	昭 48.5.28 ～昭 60.3.29	昭 48 から昭 60 までに行われたストライキに係る懲戒処分についてその取消を請求	公立小・中学校 及び県立高等学校教職員 112 名	準備手続中
分限処分取消請求事件	平 20. 5.19	平 20.3.30 付分限処分についてその取消を請求	公立小学校教員	書面審理中
懲戒処分取消請求事件	平 22. 4. 3	平 22.2.12 付懲戒処分についてその取消を請求	公立小学校教員	同 上
懲戒処分取消請求事件	平 22. 9.24	平 22.7.23 付懲戒処分についてその取消を請求	公立高等学校教員	同 上

2 損害賠償請求事件

平成23年3月31日現在、裁判所に係属中の事件は1件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

事件名	提 訴 年月日	請求内容	当事者	進行状況
損害賠償請求控訴事件 仙台高等裁判所 平成 22 年(ネ) 第 684 号	平 22.11.29	県立養護学校に通う C (原告 A の子) が、学校の実習先である法人 B の設置による施設から外出し、列車にはねられ死亡した事故について、原告 A は、県が事故防止のための安全措置を講じる義務を怠った等として国家賠償法 1 条 1 項等により、また法人 B が監督義務等を怠った等として、1073 万円余りの損害賠償等を求め提訴。 平成 22 年 11 月 16 日に言渡しを受けた第一審判決に対して、一部不服があるとの理由で控訴を提起したもの。	控訴人 A 被控訴人 福島県 法人 B	平成 23 年 6 月 10 日 第 1 回口頭弁論 ※当初、3 月 14 日の予定であったものの、震災の影響により延期となった。

第12節 特例民法法人の監督等並びに
公益信託の引き受けの許可及び
監督の状況

平成23年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する特例民法法人は、特例財団法人59、特例社団法人7の計66である。

各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、収支予算書等の提出を求めた。

22年度に解散した法人は下記のとおり。新たに設立を許可した法人はない。

解散法人	財団法人福島県教育公務員弘済会教育振興財団	22. 4. 1解散
	財団法人坂本鉄蔵育英会	22. 12. 31解散
	財団法人松江奨学会	23. 3. 1解散
	財団法人福島県学生寮	23. 3. 31解散

なお、22年度に公益移行認定又は一般移行認可を受けた法人はない。

また、県教育委員会の所管に属する信託法第66条に規定する公益信託は3件である。

22年度に引き受けを許可した公益信託はない。

第13節 表彰及び叙勲

平成22年度教育・文化関係表彰式は11月1日(月)福島県文化センター大ホール、平成23年1月18日(木)福島テルサにおいて、それぞれ厳粛のうちにも盛大に行われた。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は12月1日(金)、また、教育者表彰式は11月30日(月)、文部科学省講堂において、それぞれ行われた。

1 教育・文化関係表彰

(1) 地方教育行政功労者(5名)

浅川町教育委員会委員	奥貫美知子
(前)白河市教育委員会教育長	平山伊智男
中島村教育委員会委員長	吉田 誠子
(元)塙町教育委員会教育長	郡司 正孝
(前)南会津町教育委員会委員長	渡部 文一

(2) 学校教育功労者(15名)

福島市立福島第一小学校長	平田 州一
福島市立福島第二小学校長	二瓶 哲
郡山市立芳山小学校長	工藤 博
郡山市立郡山第一中学校長	村越 秀樹
田村市立船引中学校長	船田 隆典

白河市立白河第一小学校校長	太田 雅信
会津若松市立謹教小学校校長	佐藤 玄
会津若松市立第四中学校校長	渡部 裕二
南相馬市立原町第二小学校校長	木幡 清明
いわき市立小名浜第一小学校校長	石川 哲夫
福島県立橘高等学校長	近藤 猛
福島県立安積高等学校長	鈴木 仁
福島県立磐城高等学校長	山ノ内壽太郎
福島県立相馬高等学校長	日下部文紀
福島県立郡山養護学校長	渡邊 世子

(3) 社会教育関係

ア 社会教育功労者(2名)

下郷町男女共同参画推進協議会会長	室井 伸子
双葉町社会教育委員の会議議長	岡田 常雄

イ 功績顕著な団体・施設(4団体・3施設)

〈社会教育団体〉
西会津町立西会津中学校父母と教師の会
飯舘村立飯樋小学校PTA
いわき市立草野小学校PTA
喜多方市岩月町婦人会
〈社会教育施設〉
郡山市立中田公民館
須賀川市稲田公民館
西郷村中央公民館

(4) 文化財保護関係

ア 文化財保護功労者(1名)

(元)いわき市文化財保護審議会会長	松本 友之
-------------------	-------

イ 功績顕著な団体・施設(1団体)

昭和村からむし生産技術保存協会

(5) 学校体育・学校保健関係

ア 学校保健功労者(3名)

塙町立片貝小学校 学校医	車田 憲哉
いわき市立川前中学校 学校歯科医	遠藤 松夫
喜多方商業高等学校 学校歯科医	小汲 喜郎

イ 功績顕著な団体(1団体)

湯川村立勝常小学校

(6) へき地教育関係

ア へき地教育功労者(2名)

川俣町立山木屋小・中学校	菅野 十一
南会津町立荒川中学校長	盛 義夫

イ 功績顕著な団体(1団体)

檜枝岐村立檜枝岐中学校

(7) 特別支援教育関係

ア 特別支援教育功労者(2名)

聾学校長	緑川 孝夫
いわき養護学校教諭	三橋 隆

(8) 永年勤続関係

	小学校	中学校	県立学校	教育庁	計
校長	5 5	2 6	4		8 5
教頭	5 3	1 2	1 6		8 1
教員	2 3 7	8 1	9 2		4 1 0
教員以外	3 8	2 0	1 6	1 6	9 0
計	3 8 3	1 3 9	1 2 8	1 6	6 6 6

(9) 特別功績者

ア 児童・生徒(団体)の部(9団体)

- 南相馬市立原町第一小学校マーチングバンド部
- いわき市立平第三小学校吹奏楽部
- 福島市立福島第一中学校合唱部
- 郡山市立郡山第二中学校合唱部
- 富岡町立富岡第一中学校男子バドミントン部
- 第10回全日本中学生バドミントン選手権大会
福島県選抜チーム(富岡町立富岡第一中学校)
- 安積高等学校合唱団
- 安積黎明高等学校合唱団
- 若松商業高等学校簿記研究部

イ 優秀教職員の部(18名)

福島市立蓬莱東小学校	主 査	高野 利男
郡山市立薫小学校	教 諭	土屋 直之
須賀川市立阿武隈小学校	教 諭	善方 威浩
西郷村立米小学校	教 諭	芳賀 幸子
会津若松市立城南小学校	教 諭	猪野 典由
会津美里町立本郷第一小学校	教 諭	平塚 学
只見町立只見小学校	教 諭	安齋 憲治
福島市立福島第一中学校	教 諭	佐藤 厚生
二本松市立小浜中学校	教 諭	長澤 潤
石川町立石川中学校	養護教諭	三森 弘子
喜多方市立塩川中学校	養護教諭	舟城 敬子
南会津町立檜沢中学校	養護教諭	渡邊サイ子
福島県立安積黎明高等学校	教 諭	佐藤 伸也
福島県立小名浜高等学校	教 諭	田中 徹
福島県立勿来工業高等学校	教 諭	池田 光治
福島県立いわき翠の杜高等学校	教 諭	須田 昌宏
福島県立盲学校	教 諭	渡邊 寛子
福島県立須賀川養護学校	教 諭	渡辺 史宏

2 文部科学大臣表彰

(1) 地方教育行政功労者表彰(5名)

(元)国見町教育委員会教育委員	高橋 佐七
南相馬市(旧鹿島町)教育委員会教育長	青木 紀男
(元)二本松市(旧二本松市)教育委員会教育長	渡邊 専一
鮫川村教育委員会委員長	中井 公子
小野町教育委員会教育長	吉田 勝人

(2) 教育者表彰(3名)

福島県立橘高等学校長	近藤 猛
福島市立福島第一小学校長	平田 州一
郡山市立郡山第一中学校長	村越 秀樹

3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲

(1) 平成22年春の叙勲

ア 瑞宝小綬章

勝間田敏男(教育功労 元福島県立相馬高等学校校長)

イ 瑞宝双光章

加藤 孝雄(教育功労 元会津若松市立第三中学校校長)

佐藤 利郎(教育功労 元原町第一中学校校長)

三戸 邦一(教育功労 元平第一中学校校長)

齋藤 常修(教育功労 元会津若松市立第一中学校校長)

松本 久芳(教育功労 元いわき市立平第一中学校校長)

津田 智(教育功労 元郡山市立芳山小学校校長)

(2) 平成22年秋の叙勲

ア 瑞宝小綬章

結城 勝夫(教育功労 元福島県立郡山高等学校校長)

伊藤 行和(教育功労 元福島県立磐城女子高等学校校長)

イ 瑞宝双光章

新國 正明(教育功労 元会津若松市立鶴城小学校校長)

鈴木 康平(教育功労 元福島市立清明小学校校長)

齋藤 光夫(教育功労 元福島市立福島第一中学校校長)

鈴木 信光(教育功労 元福島市立福島第三小学校校長)

三星 賢二(教育功労 元いわき市立平第三小学校校長)

村上 進(教育功労 元石川町立石川中学校校長)

菅野 シゲ(学校保健功労 学校薬剤師
(二本松市立二本松第三中学校 他))

(3) 高齢者叙勲(平成22年4月1日～平成23年3月1日発令)

ア 瑞宝双光章(教育功労)

郡 久雄(元会津若松市立神指小学校校長)

矢部 厚(元郡山市立永盛小学校校長)

吉川 正(元福島県立磐城農業高等学校校長)

田名網得平(元福島県立新地高等学校校長)

渡部 義男(元金山町立横田小学校校長)

吉田 義邦(元郡山市立富田小学校校長)

安田 賢二(元長沼町立長沼東小学校校長)

平岩 敏雄(元須賀川市立第二中学校校長)

保志 和吉(元福島県立勿来工業高等学校校長)

安藤 元介(元須賀川市立阿武隈小学校校長)

松田 正直(元福島市立大森小学校校長)

関 新(元南郷村立南郷第一小学校校長)

永山 忠雄(元いわき市立磐崎小学校校長)

古川 忠雄(元鏡石町立白江小学校校長)

堀切 光孝(元国見町立森江野小学校校長)

山形 光郎(元浪江町立荻野小学校校長)

粕壁隆二郎(元福島県立白河女子高等学校校長)

野村 順(元福島市立信夫中学校校長)

齋藤 重保(元福島県立小高工業高等学校校長)

馬場 三郎(元南郷村立南郷第一小学校校長)

佐川萬二郎(元棚倉町立高野小学校校長)

相樂 吾平(元郡山市立赤木小学校校長)

服部 博(元本郷町立本郷第一小学校校長)

菊地 豊(元猪苗代町立東中学校校長)

首藤 務(元福島市立月輪小学校校長)

赤津 孝(元いわき市立錦中学校校長)

野川 謙(元福島県立郡山商業高等学校校長)

(4) 死亡叙位・叙勲

《平成22年度》

正六位瑞宝双光章 秋 山 一 平

(元いわき市立菊田小学校校長)

従五位

長谷川 壽 郎

(元二本松市立二本松小学校校長)

正五位瑞宝小綬章

遠 藤 勝 美

(元福島県立相馬女子高等学校校長)

正六位瑞宝双光章

宗 像 清 次

(元いわき市立勿来第二小学校校長)

正六位瑞宝双光章

伊 藤 雄

(元福島市立平野小学校校長)

正六位瑞宝双光章

白 井 昭 三

(元福島県会津坂下町立八幡小学校校長)

正六位瑞宝双光章

鈴 木 政 勝

(元福島県東村立東中学校校長)

従五位

平 山 正 秋

(元福島県立福島女子高等学校校長)

正六位瑞宝双光章

森 山 薫

(元福島県浪江町立請戸小学校校長)

従六位

本 田 衷

(元二本松市公立学校医)

従五位瑞宝双光章

窪小谷 二 良

(元郡山市柴宮小学校校長)

従五位瑞宝双光章

佐 藤 弘

(元福島県桑折町立醸芳小学校校長)

正六位

芦 澤 寛 治

(元喜多方市立第二小学校校長)

従五位

佐久間 房 次

(元福島県立白河女子高等学校校長)

従五位瑞宝双光章

宗 田 勇 氣

(元福島県鮫川村立鮫川中学校校長)

正六位瑞宝小綬章

山 田 岩 男

(元福島県立東白川農商高等学校校長)

正六位

市 川 清 雄

(元福島県安達町立安達中学校校長)

従五位瑞宝小綬章

鈴 木 廣 通

(元福島県立磐城農業高等学校校長)

正六位瑞宝双光章

坂 本 題一郎

(元いわき市立勿来第一小学校校長)

正六位瑞宝双光章

酒井 和右エ門

(元福島市立北信中学校校長)

正六位

武 藤 成 能

(元喜多方市立第一小学校校長)

従五位

鈴 木 清 一

(元福島県鹿島町立上真野中学校校長)

従五位瑞宝双光章	楠 孝 順 (元福島県猪苗代町立猪苗代小学校校長)	従五位	松 川 昭 三 (元白河市立白河第一小学校校長)
従六位	目 黒 義 介 (元いわき市立植田小学校校長)	正六位瑞宝双光章	吉 田 啓 治 (元福島県小野町立小野中学校校長)
従五位	高 木 義 久 (元いわき市立湯本第二小学校校長)	従五位	黒 須 撰 三 (元福島市立福島第二中学校校長)
正六位瑞宝双光章	五十嵐 庸 (元福島県常葉町立常葉小学校校長)	正六位瑞宝双光章	阿 部 向 一 (元福島市立蓬萊東小学校校長)
正六位瑞宝双光章	渡 邊 一三郎 (元郡山市立郡山第一中学校校長)	正六位瑞宝双光章	佐 藤 信太郎 (元福島県猪苗代町立吾妻第二小学校校長)
従五位	松 本 久 (元いわき市教育委員会教育長)	従五位瑞宝双光章	萩 原 功 (元福島市立蓬萊小学校校長)
正六位瑞宝双光章	佐 藤 典 夫 (元福島県川俣町立山木屋小学校校長)	従五位	加 藤 四 郎 (元郡山市立郡山第六中学校校長)
従六位瑞宝双光章	安 田 透 (元郡山市立富田中学校校長)	正六位	野 木 與四郎 (元福島県保原町立富成小校長)
正七位瑞宝双光章	野 崎 潤 (元いわき市立平第五小学校校長)	正六位瑞宝双光章	菅 家 道 夫 (元福島県只見町立朝日小学校校長)
従五位	鈴 木 英 一 (元福島県立福島工業高等学校校長)	正六位瑞宝双光章	朝 倉 卯佐久 (元福島市立月輪小学校校長)
正六位	横 山 孝 一 (元福島県只見町立朝日小学校校長)	正六位瑞宝双光章	菅 野 幸 雄 (元福島市立松川小学校校長)
従六位瑞宝双光章	松 本 佳 夫 (元福島市立平石小学校校長)	正六位瑞宝小綬章	佐 藤 守 男 (元福島県立聾学校校長)
従五位瑞宝小綬章	小 林 暢 夫 (元福島県立郡山高等学校校長)	従五位	菅 家 勝 豊 (元福島県本宮町立本宮小学校校長)
正六位瑞宝双光章	長谷川 泰 造 (元福島県塩川町立塩川中学校校長)	正六位瑞宝双光章	遠 藤 茂 秀 (元須賀川市立大東中学校校長)
正六位瑞宝双光章	坪 井 松 男 (元福島県常葉町立常葉小学校校長)	従六位瑞宝双光章	廣 橋 良 子 (元福島県北塩原村立裏磐梯小学校校長)
従五位瑞宝双光章	橋 本 久 司 (元福島県安達町立油井小学校校長)	正六位瑞宝双光章	緑 川 武 夫 (元福島県西郷村立小田倉小学校校長)
正六位瑞宝双光章	安 藤 四加男 (元福島県岩瀬村立岩瀬中学校校長)	正六位	山 崎 文 雄 (元いわき市立小川中学校校長)
正六位	尾 形 藤治郎 (元福島市立大島中学校校長)	従五位	佐 藤 瑞 枝 (元磐城市立小名浜第二中学校校長)
従五位	和 田 三 郎 (元福島県立岩瀬農業高等学校校長)	従五位瑞宝双光章	星 義 彦 (元福島県本郷町立本郷中学校校長)
正六位瑞宝双光章	北 島 昭 平 (元福島県西郷村立熊倉小学校校長)	正六位	猪 狩 功 (元いわき市立四倉小学校校長)
従六位	富 永 健 (元福島県浅川町立浅川小学校校長)	正六位瑞宝双光章	遠 藤 豊 (元福島県石川町立野木沢小学校校長)
従六位瑞宝双光章	渡 邊 宗 孝 (元福島市立笹谷小学校校長)	正六位瑞宝双光章	山 本 昌 行 (元福島県梁川町立堰本小学校校長)
正六位瑞宝双光章	玉 川 孫 一 (元福島県下郷町立江川小学校校長)	正六位瑞宝双光章	佐 藤 穰 (元福島県会津高田町立第二中学校校長)
正六位瑞宝双光章	渡 辺 三 男 (元福島市立水保小学校校長)	正六位	今 井 直 行 (元福島県表郷村立表郷中学校校長)
正六位	吉 田 彌 (元福島県立安積高等学校校長)	正六位瑞宝双光章	佐 藤 善 逸 (元福島県檜葉町立檜葉北小学校校長)

正六位瑞宝双光章	市 川 壽 男 (元福島市立中野小学校長)
正六位瑞宝双光章	横 山 義 悦 (元喜多方市立上三宮小学校長)
正六位瑞宝双光章	黒 澤 一 男 (元福島県飯野町立明治小学校長)
正六位瑞宝双光章	佐 藤 留 藏 (元いわき市立内郷第二中学校長)
正六位瑞宝双光章	大 草 榮 治 (元福島市立北信中学校長)
従五位	蛭 田 丈 夫 (元福島県立磐城農業高等学校長)
正六位	舟 山 昇 (元福島県立安積女子高等学校長)
正六位	川 島 郁 郎 (元会津若松市立第一中学校長)
正六位瑞宝双光章	酒 井 信 公 (元喜多方市立入田付小学校長)
正六位	山 内 隆 馬 (元福島県会津高田町立藤川小学校長)

第14節 奨学育英

1 福島県奨学資金

(1) 貸与月額

区分	平成11～12年度 採用者	平成13～16年度 採用者	平成17年度以降 採用者
高等学校 高等専門学校	国公立15,000円 私立 19,000円	国公立16,000円 私立 20,000円	国公立 自宅 18,000円 自宅外23,000円 私立 自宅 30,000円 自宅外35,000円
大学	国公立34,000円 私立 39,000円	国公立35,000円 私立 40,000円	国公立35,000円 私立 40,000円

(2) 平成22年度の貸与状況

- ア 募集期間
平成22年4月入学以降～6月30日
- イ 奨学生決定
平成22年8月6日

ウ 貸与状況

区 分	継続貸与	新 規 貸 与		計
		応募者数	貸与者数	
高 等 学 校 高等専門学校	615 人	377 人	369 人	984 人
大 学	274 人	109 人	105 人	379 人
計	889 人	486 人	474 人	1,363 人

2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程 修学資金貸与制度

(1) 貸与月額

定時制課程

1～4 学年 14,000円

通信制課程

1～4 学年 14,000円

(2) 平成22年度の貸与状況

学 年 別	定時制	通信制	計
1 年 生	0 人		0 人
2 年 生	0		0
3 年 生	4		4
4 年 生	2		2
計	6	0	6

3 財団法人福島県学生寮

(1) 男子寮の概要

- ア 所在地 千葉県松戸市松戸638の4
- イ 施 設 鉄筋コンクリート造3階建
(一部4階建)
- ウ 収容定員 84名
- エ 所要経費
入寮寄付金 35,000円(入寮時のみ)
寮 費 月額 19,500円
食費、共通経費 月額 24,200円程度
- オ 入寮期間 平成23年3月31日まで

(2) 女子寮の概要

- ア 所 在 地 東京都渋谷区幡ヶ谷3丁目72番9号
- イ 施 設 鉄筋コンクリート造3階建
- ウ 収容定員 48名
- エ 所要経費
入寮寄付金 35,000円(入寮時のみ)
寮 費 月額 18,000円
食費、共通経費 月額 23,000円程度
- オ 入寮期間 平成23年3月31日まで

(3) その他

平成23年3月31日を以て廃止。平成20年度以降は募集を行っていない。

第3章 教 育 財 政

第1節 平成22年度決算

1 歳入

一般会計

(単位：千円)

款	項	決 算 額	%
分 担 金 及 び 負 担 金		725	0.0
	負 担 金	725	0.0
使 用 料 及 び 手 数 料		204,084	0.5
	使 用 料	55,331	0.1
	手 数 料	148,753	0.4
国 庫 支 出 金		36,461,211	90.2
	国 庫 負 担 金	34,949,805	86.5
	国 庫 補 助 金	1,457,697	3.6
	委 託 金	53,709	0.1
財 産 収 入		217,189	0.5
	財 産 運 用 収 入	51,213	0.1
	財 産 売 払 収 入	165,976	0.4
寄 附 金		0	0.0
	寄 附 金	0	0.0
繰 入 金		707,246	1.8
	特 別 会 計 繰 入 金	38,258	0.1
	基 金 繰 入 金	668,988	1.7
諸 収 入		664,523	1.7
	預 金 利 子	0	0.0
	貸 付 金 元 利 収 入	0	0.0
	受 託 事 業 収 入	377,062	1.0
	収 益 事 業 収 入	41,422	0.1
	雑 収 入	246,039	0.6
県 債		2,140,200	5.3
	県 債	2,140,200	5.3
計		40,395,178	100.0

福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

款	項	決 算 額	%
国 庫 支 出 金		353,131	54.4
	国 庫 補 助 金	353,131	54.4
繰 入 金		65,748	10.1
	一 般 会 計 繰 入 金	65,748	10.1
繰 越 金		18,544	2.9
	繰 越 金	18,544	2.9
諸 収 入		210,654	32.5
	預 金 利 子	129	0.0
	貸 付 金 元 利 収 入	210,413	32.5
	雑 入	112	0.0
財 産 収 入		466	0.1
	財 産 運 用 収 入	466	0.1
計		648,543	100.0

2 歳 出

(1) 県予算に占める教育費

(単位：千円)

区 分	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
県 予 算	902,219,686	100.0	930,097,114	100.0	882,935,852	100.0
教 育 費	210,840,185	23.4	205,791,040	22.1	205,198,116	23.2
教 育 委 員 会 所 管 分	187,218,639	20.8	181,634,540	19.5	180,958,093	20.5
知 事 部 局 所 管 分	23,621,546	2.6	24,156,500	2.6	24,240,023	2.7
教育委員会所管分総務費	176	0.0	176	0.0	176	0.0
教育委員会所管分災害復旧費	5,000	0.0	100,000	0.0	0	0.0

(決算額には繰越分を含む)

(2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

(単位：千円)

区分 (款・項・目)			当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
総務	管理費	費	176	0.0	176	0.0	176	0.0
総務	管理費	費	176	0.0	176	0.0	176	0.0
諸費	費	費	176	0.0	176	0.0	176	0.0
教育	総務	費	187,218,639	100.0	181,634,540	99.9	180,958,093	100.0
教育	委員会	費	18,972,763	10.1	14,515,158	7.9	14,287,271	7.9
教育	事務局	費	13,911	0.0	13,911	0.0	13,844	0.0
教育	事務局	費	3,722,051	2.0	3,692,995	2.0	3,673,061	2.0
教育	事務局	費	1,169,778	0.6	1,354,434	0.7	1,275,210	0.7
教育	指導	費	199,460	0.1	181,045	0.1	179,267	0.1
教育	指導	費	13,042,020	7.0	8,438,903	4.6	8,417,403	4.7
教育	指導	費	57,398	0.0	71,760	0.0	71,760	0.0
教育	指導	費	287,961	0.1	287,961	0.2	306,182	0.2
教育	指導	費	472,296	0.3	466,135	0.3	343,142	0.2
教育	指導	費	7,888	0.0	8,014	0.0	7,402	0.0
小教	職員	費	68,188,291	36.4	67,735,595	37.3	67,699,038	37.4
小教	職員	費	68,188,291	36.4	67,735,595	37.3	67,699,038	37.4
中教	職員	費	41,376,259	22.1	41,196,288	22.7	41,144,139	22.7
中教	職員	費	41,376,259	22.1	41,196,288	22.7	41,144,139	22.7
施設	整備	費	0	0.0	0	0.0	0	0.0
高等	学校	費	42,647,739	22.8	42,728,741	23.6	42,184,761	23.4
高等	学校	費	37,801,855	20.2	37,768,064	20.8	37,708,196	20.8
高等	学校	費	313,011	0.1	293,188	0.2	282,576	0.2
高等	学校	費	3,894,257	2.1	3,864,227	2.1	3,567,958	2.0
施設	整備	費	341,924	0.2	501,893	0.3	331,404	0.2
農業	学校	費	139,667	0.1	141,438	0.1	135,773	0.1
水産	学校	費	157,025	0.1	159,931	0.1	158,854	0.1
特別	支援	費	13,998,819	7.5	13,454,085	7.4	13,647,459	7.5
盲ろう	学校	費	1,782,498	1.0	1,648,345	0.9	1,661,610	0.9
養護	学校	費	11,708,803	6.2	11,321,572	6.2	11,428,341	6.3
21～22	大笹生養護学校校舎増改築	費	507,518	0.3	484,168	0.3	557,508	0.3
社会	教育	費	1,568,866	0.8	1,586,108	0.8	1,592,791	0.9
社会	教育	費	106,872	0.1	171,482	0.1	105,732	0.1
図書	館	費	67,106	0.0	68,815	0.0	136,826	0.1
自然	の家	費	200,418	0.1	214,647	0.1	195,489	0.1
文化	振興	費	68,829	0.0	68,829	0.0	68,829	0.0
文化	財保	費	568,108	0.3	509,602	0.3	492,540	0.3
美術	館	費	182,192	0.1	185,085	0.1	170,223	0.1
博物	館	費	141,477	0.1	133,784	0.1	189,324	0.1
文化	財セ	費	233,864	0.1	233,864	0.1	233,828	0.1
保健	体育	費	465,902	0.3	418,565	0.2	402,634	0.2
保健	体育	費	136,507	0.1	136,781	0.1	135,022	0.1
学校	保健	費	303,854	0.2	262,669	0.1	248,779	0.1
体育	振興	費	25,541	0.0	19,115	0.0	18,833	0.0
災害	復旧	費	5,000	0.0	100,000	0.1	0	0.0
文教	施設	費	5,000	0.0	100,000	0.1	0	0.0
公立	文教	費	5,000	0.0	100,000	0.1	0	0.0
計			187,223,815	100.0	181,734,716	100.0	180,958,269	100.0

福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

区 分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
奨学資金貸付事業費	587,049	100.0	643,258	100.0	641,096	100.0
奨学資金貸付事業費	587,049	100.0	643,258	100.0	641,096	100.0
貸付金	577,885	98.4	596,556	92.7	594,773	92.8
償還金	300	0.1	0	0.0	0	0.0
事務費	8,863	1.5	8,444	1.3	8,065	1.2
一般会計繰出金	1	0.0	38,258	6.0	38,258	6.0
計	587,049	100.0	643,258	100.0	641,096	100.0

第2節 学校教育施設

1 県立学校

(1) 学校建設の概要

平成23年5月1日現在の県立学校の現況は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると、鉄筋コンクリート造が72.4%、鉄骨その他造が25.6%と非木造建物が98.0%を占めており、木造建物が2.0%となった。

別表 県立学校建物の現況

区 分		高 等 学 校		盲・ろう学校		養 護 学 校		計	
		面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比
校 舎	R	m ² 674,578	% 84.6	m ² 10,934	% 74.9	m ² 71,313	% 95.2	m ² 756,825	% 85.3
	S	104,884	13.2	1,667	11.4	3,095	4.2	109,646	12.4
	W	17,818	2.2	2,006	13.7	473	0.6	20,297	2.3
	計	797,280	100.0	14,607	100.0	74,881	100.0	886,768	100.0
体 育 館	R	23,909	12.8	0	0.0	4,919	59.7	28,828	14.6
	S	162,246	86.8	2,240	100.0	3,322	40.3	167,808	85.0
	W	838	0.4	0	0.0	0	0.0	838	0.4
	計	186,993	100.0	2,240	100.0	8,241	100.0	197,474	100.0
寄 宿 舎	R	10,753	93.9	2,433	94.2	2,231	100.0	15,417	94.8
	S	703	6.1	92	3.6	0	0.0	795	4.9
	W	0	0.0	57	2.2	0	0.0	57	0.4
	計	11,456	100.0	2,582	100.0	2,231	100.0	16,269	100.0
計	R	709,240	71.2	13,367	68.8	78,463	91.9	801,070	72.8
	S	267,833	26.9	3,999	20.6	6,417	7.5	278,249	25.3
	W	18,656	1.9	2,063	10.6	473	0.6	21,192	1.9
	計	995,729	100.0	19,429	100.0	85,353	100.0	1,100,511	100.0

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

(2) 平成22年度事業実績

ア 高等学校一般施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費	財 源 内 訳		
				国 庫	その他	県 費
県有施設耐震改修事業	14	福島工業、福島西、川俣、安達、二本松工業、郡山北工業、郡山、白河実業、塙工業、会津、葵、平工業、小名浜、小高工業	千円 374,606	千円	千円 195,406	千円 179,200
大規模改造事業	41	福島明成、福島工業、福島西、川俣、梁川、保原、二本松工業、安積、安積御館、郡山商業、長沼、岩瀬農業、白河旭、白河実業、塙工業、修明、田村、小野、会津、葵、若松商業、会津工業、耶麻農業、大沼、川口、会津農林、田島、南会津、只見、磐城桜が丘、平工業、平商業、湯本、いわき海星、磐城農業、勿来、双葉、相馬、相馬農業、小高工業、いわき翠の杜	1,501,803	32,430	100,048	1,369,325
校舎改築事業	1	勿来工業	8,979	6,100		2,879
学校施設解体整備事業	4	若松商業、耶麻農業、会津農林、磐城農業	19,816	19,260		556
下水道接続事業	1	磐城農業	11,816	11,816		0
その他工事		一般補修、諸施設整備等	780,881	449,016	291,990	39,875
合 計	61		3,173,581	518,622	587,444	1,591,835

イ 特別支援学校施設整備事業(一般施設)

事 項 学校種別	学校名及び工事名	事 業 費	財 源 内 訳		
			国 庫	その他	県 費
盲 ・ ろ う	盲学校校舎耐震改修工事設計委託（寄宿舎） 聾学校校舎耐震改修設計委託 聾学校大規模改造工事 聾学校平分校体育館耐震改修工事 聾学校平分校校舎耐震基本計画作成委託	千円 29,857	千円	千円 27,053	千円 2,804
	一般施設整備等	33,971	33,072		899
	計	63,828	33,072	27,053	3,703
養 護	西郷養護学校校舎耐震基本計画作成委託	1,313			1,313
	須賀川養護学校わかくさ学習棟整備事業	0			0
	大笹生養護学校校舎増改築事業	484,167	203,483		280,684
	あぶくま養護学校校舎整備事業	215,220	215,220		0
	一般施設整備等	4,809	4,205		604
	計	705,509	422,908	0	282,601
合 計		769,337	455,980	27,053	286,304

2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）

(1) 構造物保有面積

平成23年5月1日現在（単位：㎡）

平成28年3月1日現在（単位：㎡）

区 分	小学校		中学校		小・中学校計		特別支援学校		幼稚園		
	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	
校 舎		㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%
	R	1,537,089	96	917,305	92	2,454,394	94	2,085	98	37,241	33
	S	39,030	2	29,809	3	68,839	3	41	2	58,526	51
	W	31,074	2	52,010	5	83,084	3	0	0	18,445	16
	計	1,607,193	100	999,124	100	2,606,317	100	2,126	100	114,212	100
屋 内 運 動 場	R	150,320	37	125,307	47	275,627	41	391	96	0	0
	S	241,409	60	139,412	52	380,821	57	15	4	0	0
	W	12,457	3	2,043	1	14,500	2	0	0	0	0
	計	404,186	100	266,762	100	670,948	100	406	100	0	0
寄 宿 舎	R	718	75	3,039	86	3,757	84	0	0	0	0
	S	0	0	312	9	312	7	0	0	0	0
	W	241	25	172	5	413	9	0	0	0	0
	計	959	100	3,523	100	4,482	100	0	0	0	0
計	R	1,688,127	84	1,045,651	84	2,733,778	84	2,476	77	37,241	33
	S	280,439	14	169,533	14	449,972	14	56	21	58,494	52
	W	43,772	2	54,225	2	97,997	2	0	2	18,445	15
	計	2,012,338	100	1,269,409	100	3,281,747	100	2,532	100	114,180	100

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

(2) 公立学校施設整備事業（市町村分交付決定額）
平成22年度 (単位：㎡, 千円)

区 分	単年度			国庫債務負担行為 (21～22)		
	学校数	補助 面積	負担金及 び交付金	学校数	補助 面積	負担金及 び交付金
公立中学校 校舎の新増築	5	2,537	237,997	1	295	27,641
公立小学校 屋内運動場 の新増築	3	546	59,640			
公立中学校 屋内運動場 の新増築	4	975	136,050	1	94	8,711
公立小・中 学校の統合	0	0	0			
公立小・中 学校危険 建物の改築	7	6,239	526,039			
公立小・中 学校不適格 建物の改築	15	15,219	1,862,374			
屋外環境 整備	2	16,348	23,229			
大規模改造	28	36,721	674,382			
地震補強	63	96,786	1,590,330			
地震改築	2	3,744	334,624			
公立幼稚園 の新増築	1	273	24,210			
太陽光発電	2		10,245			
地デジ設備・ 校内LAN	3		481			
計	(延べ 校数)			(延べ 校数)		
	135	179,388	5,479,601	2	389	36,352

第3節 産業教育振興法補助事業

1 産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備促進を図った。平成22年度における実施状況は次のとおりである。

設備

(1) 県単独事業

ア 老朽設備の整備	3,677 千円
イ 普通科等家庭科設備の整備	534 千円
ウ 学科改編等設備の整備	16,295 千円

第4節 理科教育振興法補助事業

1 理科設備

学校規模別設備現有状況

区分 規模別	学校数	基準金額	現有金額	現有率
	校	円	円	%
高校Ⅰ	90	7,268,986,000	1,088,152,321	15.0
高校Ⅱ	0	0	0	-
小計	90	7,268,986,000	1,088,152,321	15.0
盲学校	1	102,140,000	5,275,960	5.2
聾学校	4	91,369,000	10,365,979	11.3
養護学校	15	846,905,000	36,013,054	4.3
小計	20	1,040,414,000	51,654,993	5.0

2 算数・数学特別設備

学校規模別設備現有状況

区分 規模別	学校数	基準金額	現有金額	現有率
	校	円	円	%
高校Ⅰ	91	1,243,151,000	75,873,300	6.1
高校Ⅱ	0	0	0	-
小計	91	1,243,151,000	75,873,300	6.1
盲学校	1	10,502,000	42,400	0.4
聾学校	4	9,296,000	616,443	6.6
養護学校	15	122,642,000	4,233,832	3.5
小計	20	142,440,000	4,892,675	3.4

第5節 情報処理設備整備事業

1 県単独事業

(1) 教育用コンピュータの整備

92校（レンタル・保守） 272,669 千円

(2) 校内LAN保守

104校（特別支援・分校含む） 15,673 千円

第4章 教育の情報化

第1節 基盤整備

学校及び教育事務所等の教育関係機関が教育ネットワーク及びインターネットを利用できるよう、情報環境の基盤整備を目的としたネットワークである「うつくしま教育ネットワーク」を平成11年度から整備してきた。「うつくしま教育ネットワーク」は県教育センターを拠点とし、県立学校はもとより県内の学校などの教育関係機関との接続を可能としている。ネットワークの高速化を図るために、県の情報通信システムであるうつくしま世界樹への接続を進め、平成15年度に全県立学校の接続を完了するとともに、平成18年度には回線を更新することでその高速化を行った。これにより、高速回線で教育情報の提供・検索などができるようになり、電子情報利活用のため利便性の向上が図られた。

また、県立学校への情報機器の配備を進めるとともに、各教室等から校内外の情報の収集や伝達が可能となる校内LANの整備に取り組んでいる。校内LANの整備は、国の整備基準により普通教室に2台(当面は1台)と特別教室に1校あたり6台のコンピュータ等を配備している。

生涯学習については、インターネットを利用し、生涯学習に関する情報を県民に提供する「福島県生涯学習情報提供システム(まなびとファインダー等)」の運用を行っている。

さらに、平成18年1月の「IT新改革戦略」に基づき、校務事務の効率化及び情報管理の徹底のために、平成19年度から平成21年度までに、県立学校に教員1人1台に相当するパソコンの配備を行った。(平成21年度「学校情報通信技術環境整備事業費補助金を一部利用」)

また、児童・生徒の学習意欲の向上や教員の多忙化解消、特別支援学校における児童・生徒の交流に資するため、平成22年2月にテレビ会議システムの再構築を行った。

うつくしま教育ネットワークのサービス

- ・ ホームページの利用環境

学校や教育関係機関等のホームページを設置できるスペースを提供し、取り組みや研究成果などを広く共有する場を提供する。

- ・ 電子メールサービス

電子メールアカウントを、教職員、学校、教育関係機関等に発行する。

- ・ 不適切情報のフィルタリング

児童・生徒に触れさせたくない情報をネットワーク拠点で一元的に管理し、教育にふさわしい情報の提供を行う。

- ・ セキュリティやウィルス等への対策

- ・ 教育情報データベース・検索サービス
- ・ コミュニケーション環境(メーリングリスト、メールマガジン等)
- ・ ヘルプデスクによるネットワークサービスの相談受付
- ・ テレビ会議システムの運用
- ・ 県立学校基盤整備状況

年度	教職員 PC 配備実績	校内 LAN 整備
H12		48校
H13		25校
H14		15校
H15		7校
H16		4校
H17		3校
H18	※H19年度から配備	3校
H19	926台	
H20	735台	
H21	2,049台	7校

※うつくしま教育NW・世界樹への接続は、平成15年度に整備済み

- ・ 学校の基盤整備状況(小・中・高・特別支援学校)

項目	福島県	全国平均
コンピュータ1台当たりの児童生徒数	6.5人	6.6人
校務用PCの整備率	91.4%	99.2%
普通教室のLAN整備率	78.1%	82.3%
電子黒板のある学校	54.9%	69.3%
グループウェアの整備状況	40.8%	58.7%
校務支援システムの整備状況	35.4%	52.3%
デジタル教科書の整備状況	22.9%	13.5%
学校C I Oの整備状況	15.1%	23.5%

H23.3月現在 文部科学省調べ
(東日本大震災の影響による回答不能学校を除く)

第2節 人材の育成・活用

すべての教員がコンピュータを操作でき、コンピュータを用いて指導できることを目指して、研修の充実を図っている。

- ・ 人材の育成状況

項 目	福島県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価などに ICT を活用する能力	74.5%	76.1%
授業中に ICT を活用して指導できる能力	56.7%	62.3%
児童・生徒の ICT 活用を指導する能力	60.0%	61.5%
情報モラルなどを指導する能力	71.2%	71.4%
校務に ICT を活用する能力	70.0%	72.4%

H23.3月現在 文部科学省調べ
(東日本大震災の影響による回答不能学校を除く)

第3節 教育用コンテンツの充実

県及び各市町村、博物館、教育センター、学校等に登録、所蔵されている教育情報のデジタル化を推進し、「ふくしま教育情報データベース」として整備し、児童生徒にとって安全で利用しやすい検索・閲覧サービスを提供している。

また、平成15年度から本県の自然や歴史及び文化、人物等の様々な情報を集め、小・中学生向けの教育用コンテンツを整備する「うつくしま電子事典」を作成し、情報を提供している。

第5章 義 務 教 育

第1節 学校管理

1 児童生徒数・学級数と教職員定数

(1) 小学校

年 度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
本 校	548	547	546	540	538	531	530	525	512	511	497
分 室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分 校	24	24	22	20	18	12	10	10	9	8	8
計	572	571	568	560	556	543	540	535	521	519	505
前 差	△ 1	△ 1	△ 3	△ 8	△ 4	△ 13	△ 3	△ 5	△ 14	△ 2	△ 14

(2) 平成22年度の学級数別学校数(小学校)

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	91	245	112	41	8	497
分 室	—	—	—	—	—	—
分 校	8	—	—	—	—	8
計	99	245	112	41	8	505
構成比	20	48	22	8	2	100

(3) 中 学 校

年 度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
本 校	245	245	242	241	240	240	240	239	239	237	237
分 室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分 校	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	246	246	242	241	240	240	240	239	239	237	237
前 差	1	0	△ 4	△ 1	△ 1	0	0	△ 1	0	△ 2	0

※平成19年度から県立中学校を含む。

(4) 平成22年度の学級数別学校数(中学校)

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	78	94	56	8	1	237
分 室	—	—	—	—	—	—
分 校	—	—	—	—	—	—
計	78	94	56	8	1	237
構成比	33	40	26	3	1	100

(5) 公立幼稚園の設置状況

年 度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
園 数	237	237	233	232	225	219	218	216	210	209	206
園児数	11,923	11,917	11,691	11,540	11,874	11,643	11,742	11,541	11,162	11,083	10749

(6) 小学校児童数・学級数の推移

小学校の児童数は昭和34年度が最高で、その後は減少を続けてきた。昭和52年度を境に児童数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和60年度を境に児童数が再び減少傾向にあり、学級数も学級編制基準の改善にもかかわらず少しずつ減少している。

年 度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
単 式	4,939	4,855	4,948	5,041	4,947	5,125	5,042	4,950	4,948	4,849	4,795
複 式	179	192	194	193	196	183	211	218	202	219	197
特別支援	198	217	252	288	303	320	326	328	329	333	336

年 度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
児 童	137,796	134,878	132,229	130,290	127,494	125,795	123,856	121,591	120,270	118,036	116,177
学 級	5,316	5,264	5,394	5,522	5,446	5,628	5,579	5,496	5,479	5,401	5,328

(7) 中学校生徒数・学級数の推移

中学校の生徒数は昭和37年度が最高となり、その後は減少を続けてきた。昭和56年度を境に生徒数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和63年度より再び減少傾向にある。

年 度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
単 式	2,329	2,255	2,358	2,281	2,248	2,398	2,396	2,350	2,311	2,251	2,180
複 式	5	6	6	8	6	5	5	6	6	7	10
特別支援	97	105	115	126	131	144	142	153	162	177	191

年 度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
生 徒	78,740	76,315	73,115	70,573	68,680	67,489	66,447	65,234	63,696	62,642	60,746
学 級	2,431	2,366	2,479	2,415	2,385	2,547	2,543	2,509	2,479	2,435	2,381

(8) 小・中・特別支援学校条例定数の推移

年 度		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
小 学 校	教 員	7,905	7,858	7,816	7,784	7,791	7,762	7,640	7,490	7,402	7,293	7,235
	事 務 職 員	546	542	538	535	534	528	521	509	505	495	487
	充 指 導 主 事	31	25	26	26	26	26	27	26	19	15	22
	補 充 教 職 員	378	365	355	365	357	347	349	365	360	325	301
	県単独負担教員	37	200	362	350	344	320	312	305	272	246	211
	学校栄養職員	148	148	149	151	151	148	146	144	145	141	138
中 学 校	教 員	4,829	4,967	4,633	4,551	4,598	4,567	4,508	4,450	4,401	4,326	4,361
	事 務 職 員	245	240	238	232	234	232	230	231	225	229	228
	充 指 導 主 事	53	55	55	55	54	51	58	53	46	42	40
	補 充 教 職 員	171	157	155	177	171	165	182	159	178	152	145
	県単独負担教員	27	269	246	255	256	230	219	209	183	166	189
	学校栄養職員	63	65	64	64	67	66	65	64	61	66	67
	教 員	90	96	92	94	95	92	106	65	64	36	40
	事 務 職 員	6	6	6	6	6	6	6	4	4	2	2
	補 充 教 職 員	4	5	5	6	5	8	8	10	10	12	13
	県単独負担教員	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校栄養職員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1

2 教職員人事・任用

平成22年度人事に関する方針

教育に対する県民の期待と要望に応え、教育改革を推進し、本県教育の一層の充実と向上発展を期するためには、各学校の教育職員組織及び教育庁職員組織の充実・強化並びに各学校の教職員及び教育庁職員の士気の高揚を図らなければならない。

本委員会は、この実現を図るため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

I 基本方針

- 1 全県的視野に立ち、適材を適所に配置し、教育効果並びに行政効果の向上を図る。
- 2 教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、平成21年度に実施した教育事務所等の見直しの趣旨を踏まえ、教育庁職員組織の充実を図る。
- 3 厳正かつ適正な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の士気の高揚を図る。
- 4 教育に対する県民の期待と要望にこたえるため、人事の公平性、公正性、透明性の確保に一層努める。

II 重点

- 1 市町村立学校関係
 - (1) 教育の充実に努めるため、有能適格な教職員の採用と新進有為な人材の登用を図る。
 - (2) 教職員組織の充実と均衡に努めるため、計画的な異動の推進を図る。
 - (3) 特別支援教育及びへき地教育の振興を図るため、適任者を配置するとともに、適正な異動を行う。
 - (4) 管理監督の立場となる職への登用に当たっては、その職責の重要性にかんがみ、適任者を厳選し、適所に配置する。

◎平成22年度公立小・中学校人事(平成22年3月末公表)

(1) 異動件数

異動件数 2,768 件(前年度 2,872 件)104 件の減。異動件数が前年度に比べて減少したのは、児童生徒数の減少や学校の統廃合の影響及び採用数の減少によるものである。

(2) 採用について(教諭、養護教諭、事務職員等の区分ごとの数)

教職員としての資質、能力、人物、適性、健康等について判断し選考した。

ア 採用者は、小学校教諭 63 名、中学校教諭 35 名、養護教諭 21 名、学校事務職員 5 名、学校栄養職員 5 名である。

イ 採用者は小学校教諭が 23 名の減、中学校教諭が 5 名の減となり、今年度は 28 名の減となった。

ウ 教諭経験者については、平成19年度採用者より受験資格年齢を 35 歳以上 50 歳未満とし、志願者 33 名、採用者 6 名であった。

エ 一定期間教職経験を積んだ後、へき地校勤務とさせることを意図し、都市への配置を多くした。特に小・中学校とも、拠点校方式の初任者研修充実のため、地域の採用数を考慮した配置をした。

(3) 異動について

各学校の均衡を図るため、免許状、年齢構成、性別等に考慮して、努めて広域にわたるとともに、各地域の実態に応じ、都市、へき地等相互間の計画的な異動を積極的に行うようにした。

(4) 昇任について

ア 管理職への昇任は校長 61 名(小学校 37 名、中学校 24 名、前年度比 4 名増)、教頭 55 名(小学校 33 名、中学校 22 名、前年度比 9 名増)、計 116 名で前年度より 13 名増加した。

イ 女子教員の管理職登用に意を用いた。

小学校長 8 名、中学校長 1 名、小学校教頭 3 名、中学校教頭 2 名を登用した。

ウ 教頭の昇任は受考者 778 名に対し、55 名で昇任率は 7.1 %となっている。

(5) 退職について

ア 平成21年度末の退職者件数は 241 名で前年度に比べ 3 件の増である。

イ 退職者の内訳は定年退職者 133 名、勸奨による退職者 84 名、普通退職者 24 名となっている。

ウ 退職者中、校長は 73 名(小学校 42 名、中学校 31 名、市立特別支援学校 0 名)、教頭は 8 名となっている。

3 教育職員の免許

(1) 教育職員免許状の授与状況

平成22年度中に本県で授与した教育職員免許状は、総数で1,807件あり前年度より38件増となっている。

普通免許状は、前年度より49件増えて1,712件、臨時免許状は11件減で95件となっている。

普通免許状のうち平成22年度大学卒業者の占める割合は、約72%で、1,300件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	19件
同 一種免許状	172件
同 二種免許状	81件
中学校教諭専修免許状	39件
同 一種免許状	282件
同 二種免許状	24件
高等学校教諭専修免許状	45件
同 一種免許状	377件
幼稚園教諭専修免許状	1件
同 一種免許状	56件
同 二種免許状	468件

特別支援学校教諭専修免許状	1件
同 一種免許状	46件
同 二種免許状	67件
養護教諭専修免許状	1件
同 一種免許状	6件
同 二種免許状	8件
栄養教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	10件
同 二種免許状	9件
小学校助教諭免許状	49件
中学校助教諭免許状	7件
高等学校助教諭免許状	20件
幼稚園助教諭免許状	3件
養護助教諭免許状	3件
特別支援学校助教諭免許状	13件

4 学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立小・中学校の設置・廃止

	廃止(平成23. 3. 31)	設置(平成23. 4. 1)
小	伊達市立泉原小学校 古殿町立田口小学校 古殿町立宮本小学校 古殿町立大原小学校 古殿町立山上小学校 古殿町立大久田小学校 古殿町立論田小学校 田村市立牧野小学校	古殿町立古殿小学校
学	喜多方市立岩月小学校 喜多方市立入田付小学校	喜多方市立第三小学校
中 学 校	※ 該当なし	※ 該当なし

5 学校防火

学校防火は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図っているところである。

- ・学校防火計画及び防火診断の内容と方法の改善
- ・木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整備方法の改善
- ・児童生徒及び教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練の強化

平成 22 年度、学校火災は市町村立中学校において 1 件発生した。今後とも学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和 50 年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火又は放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の警備状況を見ると、その多くが機械警備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していくことが必要である。

平成 22 年度の学校防火診断の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

(1) 平成22年度公立小・中・特別支援学校防火診断項目

- ア 防火体制について
- イ 警備員、代行員の勤務状況について
- ウ 火気関係設備及び取り扱い状況について
- エ 電気設備について
- オ 消防用設備及びその管理について
- カ その他
 - ・諸表簿の管理状況
 - ・毒劇物・危険物等薬品の保管状況

(2) 学校防火診断の実施と指導

- ア 学校防火診断実施要項の趣旨を徹底させた。
 - イ 防火診断の結果に基づき、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会及び各小・中・特別支援学校に指導した。
- ※平成 21 年度より県教育委員会による研修を目的とした学校防火診断は実施しないこととしたが、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校における防火診断の適正な実施を行っていく。

6 へき地対策

(1) へき地学校の状況

ア へき地学校

級 地 教育事務所		4 級		3 級		2 級		1 級		準 1 級		特 地		教育事務所指定		計	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本 校	分 校
小 学 校	県 北							2		1				15		18	0
	県 中					3		7	1	4	1	3	1	26	1	43	4
	県 南			1	1	1		3				1		8		14	1
	会 津			1		4		4		1				8		18	0
	南会津					9				1				6		16	0
	相 双					3		2		2				4		11	0
	いわき			1	1	6	1	3		1		1		9	1	21	3
	計	0	0	3	2	26	1	21	1	10	1	5	1	76	2	141	8
中 学 校	県 北							1		1				5		7	0
	県 中					2		3		2		1		12		20	0
	県 南							1						4		5	0
	会 津					2		4		1				6		13	0
	南会津					5				1				3		9	0
	相 双					3		2						1		6	0
	いわき			1		5		3				1		4		14	0
	計	0	0	1	0	17	0	14	0	5	0	2	0	35	0	74	0
総 計		0	0	4	2	43	1	35	1	15	1	7	1	111	2	215	8
		0		6		44		36		16		8		113		223	

イ 特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数(休校中も含む)

小 学 校												中 学 校												合 計												
	学校数			児童数			学級数			教職員数			学校数			生徒数			学級数			教職員数			学校数			児童・生徒数			学級数			教職員数		
級地	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計			
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
3級	3	2	5	39	7	46	8	3	11	16	3	19	1	0	1	5	0	5	2	0	2	6	0	6	4	2	6	44	7	51	10	3	13	22	3	25
2級	26	1	27	1131	3	1134	119	1	120	230	1	231	17	0	17	596	0	596	48	0	48	157	0	157	43	1	44	1727	3	1730	167	1	168	387	1	388
1級	21	1	22	1429	30	1459	107	4	111	205	8	213	14	0	14	948	0	948	56	0	56	163	0	163	35	1	36	2377	30	2407	163	4	167	368	8	376
準1	10	1	11	790	4	794	53	2	55	101	2	103	5	0	5	355	0	355	19	0	19	55	0	55	15	1	16	1145	4	1149	72	2	74	156	2	158
特地 教育事 務所指 定	5	1	6	255	5	260	22	2	24	41	2	43	2	0	2	56	0	56	5	0	5	17	0	17	7	1	8	311	5	316	27	2	29	58	2	60
	76	2	78	6361	35	6396	426	5	431	813	5	818	35	0	35	4363	0	4363	207	0	207	493	0	493	111	2	113	10724	35	10759	633	5	638	1306	5	1311
合計	141	8	149	10005	84	10089	735	17	752	1406	21	1427	74	0	74	6323	0	6323	337	0	337	891	0	891	215	8	223	16328	84	16412	1072	17	1089	2297	21	2318

(2) へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、かつ分校も多いため複式学級が多い。したがって、教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

ア へき地教育の人事行政

「平成 21 年度人事異動方針」第 1 の 2 において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、フラットでフレキシブルな行政組織（F・F 型行政組織）の見直しの動向も踏まえ、教育庁職員組織の充実を図る」ことを基本としてかかげ、これを受けて平成 21 年度小・中・特別支援学校教職員人事異動実施要項 2 の 1 において「異動のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」ととし、へき地と各地域との計画的な異動の推進を図った。

また、へき地派遣制度によるへき地派遣、へき地学校勤務で優秀な実績をあげた者の管理職への抜てきなどの施策もあわせて実施した。

(ア) へき地異動

a 地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

- A 地域 市、主要町村の学校
- B 地域 特 A、A 及び C 地域以外の学校
- C 地域 へき地の学校（人事委員会、教育事務所の各指定学校）

b 異動基準

(a) へき地学校勤務については次の基準による。

- へき地学校勤務については、別表 1 による期間勤務した場合は満了とする。ただし、会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地学校勤務については、別表 2 による。
- へき地学校勤務未了者については、へき地学校へ計画的に転出させる。へき地学校勤務満了者であっても、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、へき地学校へ計画的に転出させる。
- すでに、へき地学校満了者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については考慮する。相当期間とは、2 年以上とする。

別表 1（教員のへき地校勤務年数）

級別	教育事務所指定のへき地	人事委員会指定へき地				
		特 準 1 級 地	1 級 地	2 級 地	3 級 地	4 級 地
勤続 年数	4 年以上	3 年以上		2 年以上		

別表 2（教員のへき地校勤務年数）

会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地勤務年数（新採は含まない）	へき地級地別	
	教育事務所指定	特 準 1 級 地、 1 級 地 以上
		2 年以上

(b) 小・中学校等教員の他管内へき地等への計画的異動実施計画

この計画により、へき地校勤務満了教員で、都市又は平地の学校に勤務する教員のうちから、成績優秀な中堅教員を厳選して計画的にへき地学校に派遣し、その教育実践をとおしてへき地教育振興に役立てることとした。派遣期間は 3 年以上である。

昭和 59 年度末からは特に東白川地区、南会津地区を重点地区に設定し、教育組織の充実強化を図った。

イ へき地学校教職員の経済的優遇策

(ア) へき地手当等の支給

人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。

- へき地手当

勤務するへき地学校等の級別区分に応じて、次のとおり支給される。

級 地	手 当 額	支給割合
4 級 地	（給料の月額＋教職調整額 ＋扶養手当）×支給割合	20/100
3 級 地		16/100
2 級 地		12/100
1 級 地		8/100
準 1 級 地		4/100

(注) 給料の月額＝給料月額＋給料の調整額

- へき地手当に準ずる手当

へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等（人事委員会指定）へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。

- ・ 異動日から 5 年間

（異動等の日における給料の月額＋教職調整額
＋扶養手当）× 4 %

- ・ 5 年を経過した後の 1 年間

（異動等の日における給料の月額＋教職調整額
＋扶養手当）× 2 %

ウ へき地学校教職員の配置に対する特別措置

へき地教育振興法第 4 条の 2 項に「都道府県は、へき地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもへき地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

(3) 今後の問題点

ア ヘき地学校の教職員配置の改善を図ること。

ヘき地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にヘき地に配置していく必要がある。

また、ヘき地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実にいっそう努力する必要がある。

イ 都市・平地とヘき地との人事異動を推進すること。

ヘき地学校勤務未了者を解消するため、これまでも計画的に平地、ヘき地の異動を推進してきた。今後一層計画的、広域的な異動を推進する必要がある。

第2節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

今年度は、平成22年度から平成26年度までの5年間を計画期間とし、本県の教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である「第6次福島県総合教育計画」の初年度に当たり、「“ふくしまの和”を奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念に、

①知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成

②学校、家庭、地域が一体となった教育の実現

③豊かな教育環境の形成

の3つの基本目標のもと、本県学校教育の推進を図ってきた。

とくに、「生きる力をはぐくむ教育の推進」「地域の教育力向上の支援」「安全・安心で魅力ある学校づくり」を、重視する3つの観点として、学校教育の推進を図ってきた。

(2) 指導組織

各課長を中心に、主幹、主任指導主事、指導主事及び各教育事務所学校教育課長、指導主事、県教育委員会委嘱学校教育指導委員(下表)によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数 (学校教育課長を含む)	10	10	7	10	5	8	5	55
市・町村教育委員会 指導主事等数	20	31	5	8	0	7	17	88

(3) 学校教育指導の重点

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「確かな学力」「豊かな人間性・社会性」の育成を図るため、教育課程の改善・充実、学習指導と生徒指導の充実に努めた。

ア 教育内容・方法の改善充実に努める。

(ア) 広報誌「教育ふくしま」、「学校教育指導の重点」などにより、具体的な実践例を紹介したり指導の重点を示したりし、授業の改善が図られるようにした。

(イ) 本県教育行政の推進を図るため、指導担当者の資質向上のための研究に努めた。

○ 指導担当者研究協議会

○ 学校教育課長等会議

○ 学力向上担当指導主事会議

○ 生徒指導担当指導主事会議

(ウ) 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、新学習指導要領の趣旨の徹底と教員の指導力向上を図った。

- 対象者~各校長・教頭及び教務主任等のうちから1名
- (エ) 福島県小・中学校教育研究会との共催により、教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。
- (オ) 各種研究学校(地区)を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。
- 文部科学省及び国立教育政策研究所の研究委託による研究指定校等
 - ・ 人権教育開発事業
 - ・ 道德教育総合支援事業
 - ・ 生徒指導・進路指導総合推進事業 ほか
- 県教育委員会による研究指定校
 - ・ 学力向上プロジェクト事業
 - ・ 中山間地域連携事業 ほか
- イ 教職員の資質と指導力の向上に努めた。
 - (ア) 小学校、中学校初任者研修の実施
 - (イ) 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施
 - (ウ) 授業改善研修会の実施
 - (エ) 中央研修講座への派遣
 - (オ) 教員海外派遣の実施
 - (カ) 長期研修生(内地留学)の派遣
 - (キ) 教育研究団体に対する援助と指導
 - (ク) 教職員研究論文の募集
- ウ ヘき地教育担当教員、免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。
 - (ア) ヘき地教育担当教員研修会
 - (イ) 中学校免許外教科担任教員研修会
- エ 幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。
 - (ア) 幼稚園等新規採用教員研修
 - (イ) 幼稚園経験者研修Ⅱ
 - (ウ) 幼稚園教育課程理解推進事業中央協議会
 - (エ) 幼稚園教育課程研究協議会
 - (オ) 幼児教育実技研修会
- オ 生徒指導の充実に努めた。
 - (ア) 各種研修会を実施し、生徒指導の充実に努めた。
 - 生徒指導担当指導主事研究協議会(2回)
 - (イ) 研究地域を指定し、生徒指導の充実・改善に努めた。
 - 生徒指導総合推進事業
 - (ウ) ハートウォームプラン事業を実施した。

いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとともに、不登校等の学校不適応問題の解決に努めた。

 - 教育相談体制の充実
 - ・ 学校教育相談員の設置(教育センターに配置)
 - ・ フリーダイヤル電話相談(ダイヤル SOS の設置)
 - ・ 24時間いじめ電話相談事業
 - 学校の取組みに対する支援
 - ・ スクールカウンセラーの配置
 - 教職員の資質向上
 - 教育相談専門研修及び関係機関との連携強化

カ 社会の変化に対応した教育の充実に努めた。

(ア) 情報化社会への対応

○ 学校におけるコンピュータ等の整備(地教委)

(イ) 国際化への対応

○ 語学指導等を行う外国青年招致事業の実施

○ 150名の外国JET青年の受入れ(118名を市町村教育委員会が配置[CIR5名を含む])

(4) 県立中学校入学者選抜

ア 基本方針

「平成23年度福島県立中学校入学者選抜における基本方針」

県立中学校入学者選抜に当たっては、適性検査及び作文の成績、面接の結果、並びに小学校の校長から提出される調査書を資料として、志願者の意欲・能力・適性等を総合的に判定し、入学予定者を決定するものとする。

(ア) 選抜の資料は次のとおりとする。

a 適性検査

問題発見・解決能力、思考力、判断力及び表現力等小学校における教育において身に付けた総合的な力をみる。

b 作文

与えられた課題について、考えたことや感じたことなどをまとめ表現する力をみる。

c 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

d 調査書

小学校での学習や生活の状況をみるために、各教科の学習の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などが記載された調査書を選抜資料に用いる。

なお、調査書は福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

(イ) 入学予定者の決定に当たっては、次の手順で行う。

まず、適性検査及び作文の成績の合計並びに調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、かつ、調査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を入学予定者とする。

次に、その他の者については、適性検査及び作文の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

(ウ) 選抜結果については、志願者及び志願者の在学している小学校の校長に通知するものとする。

(エ) 入学辞退その他の理由により入学予定者の定員に欠員が生じた場合は、入学予定者とならなかった者の中から速やかに新たな入学予定者を決定し、入学の意思を確認の上、補充するものとする。

イ 入学者選抜関係日程

6月9日 県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議(第1回)

7月15日 同上(第2回)
 8月18日 同上(第3回)
 8月18日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善に関する調査研究報告書提出
 10月12日～10月13日
 県中及び会津地区で入学者選抜実施要綱説明会実施
 10月15日 平成23年度入学者募集定員決定
 12月 6日～12月10日 出願書類受付
 1月 8日 適性検査、作文及び面接
 1月14日 選抜結果通知書の発送
 1月17日～1月21日 入学確約書提出
 1月24日～1月28日 欠員補充

2 現職教育

(1) 教職員等中央研修講座

ア 趣旨

校長、教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ 主催 文部科学省

ウ 会場 独立行政法人教員研修センター

エ 期間及び参加者

◇校長・教頭等研修講座

第3回 9月2日(木)～9月16日(木)

矢祭町立下関河内小学校校長 吉田 信也

伊達市立月館中学校校長 堂山 昭夫

南会津町立南郷中学校教頭 我妻雄比古

第4回 10月21日(木)～11月5日(金)

福島県立塙工業高等学校校長 渡邊 望

福島県立福島高等学校教頭 末永 仁

第5回 1月6日(木)～1月21日(金)

須賀川市立長沼東小学校教頭 佐藤 千春

いわき市立平第一小学校教頭 小川 幸一

第7回 2月9日(水)～2月14日(月)

いわき市総合教育センター指導主事 渡邊 貴彦

◇中堅教員研修

第1回 5月6日(木)～6月1日(火)

福島県立田島高等学校教諭 目黒 裕

福島県立白河旭高等学校教諭 斎藤 博

第3回 7月29日(木)～8月24日(火)

福島市立瀬上小学校教諭 佐藤 浩昭

田村市立滝根小学校教諭 小荒井真紀子

西会津町立群岡小学校教諭 坂内 浩一

いわき市立泉中学校教諭 山崎 喜保

第5回 11月15日(月)～12月10日(金)

郡山市立郡山第四中学校教諭 大橋 克全

郡山市立行健小学校教諭 宗像 善吉

いわき市立鹿島小学校教諭 鈴木 英直

相馬市立中村第一中学校教諭 菊地 寛

(2) 各種研修会

ア 福島県公立学校長研修会地区別研修会(公立小・中・特別支援学校長、県立学校長)

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数【参加 818 名】

○ 県北 6月22日(火)
 【伊達市ふるさと会館】 168 名

○ 県中 7月13日(火)
 【郡山市文化センター】 215 名

○ 県南 6月15日(火)
 【白河合同庁舎】 69 名

○ 会津 7月14日(水)
 【湯川村公民館・ユースピアゆがわ】 122 名

○ 南会津 6月29日(火)
 【南会津町御蔵入交流館】 28 名

○ 相双 6月30日(水)
 【南相馬市文化センター】 86 名

○ いわき 6月28日(月)
 【いわき合同庁舎】 130 名

イ 公立小・中・特別支援学校新任校長研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

5月13日(木)～5月14日(金) 小学校 35 名
 中学校 24 名

(エ) 講師 福島市立福島第一小学校長 平田 州一 他

ウ 公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

5月20日(木)～5月21日(金) 小学校 31 名
 中学校 20 名

(エ) 講師 福島市立福島第一中学校長 鈴木 昭雄 他

エ 公立小・中・特別支援学校新任教務主任研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数

○ 県北 6月17日(木)【自治会館】
 小学校 17 名 中学校 6 名 特別支援学校 0 名

○ 県中 5月11日(火)
 【ふくしま森の科学体験センター】

小学校 11 名 中学校 9 名 特別支援学校 0 名

○ 県南 7月30日(金)【白河合同庁舎】
 小学校 14 名 中学校 3 名 特別支援学校 0 名

○ 会津 5月24日(月)【ユースピアゆがわ】
 小学校 10 名 中学校 7 名 特別支援学校 0 名

○ 南会津 5月11日(火)【南会津合同庁舎】
 小学校 2 名 中学校 2 名 特別支援学校 0 名

○ 相双 5月17日(月)【南相馬合同庁舎】
 小学校 6 名 中学校 3 名 特別支援学校 0 名

オ 公立小・中学校経験者研修(I、II)

(ア) 経験者研修 I

- 主催 福島県教育委員会
- 期間・会場
 - a 4月～11月 教育事務所
 - b 5月～10月 勤務校
 - c 6月～11月 教育センター
- (小) 6月14日(月)～16日(水)
- (中) 10月18日(月)～20日(水)
- 10月20日(水)～22日(金)
- 参加人数(小学校62名、中学校55名)
- 講師 各教育事務所依頼の外部講師

(イ) 経験者研修Ⅱ

- 主催 福島県教育委員会
- 期間・会場
 - a 4月～11月 教育事務所
 - b 5月～10月 勤務校
 - c 7月～2月 教育センター
- (小) 10月6日(水)～10月8日(金)
- (中) 9月1日(水)～9月3日(金)
- 参加人数(小学校43名、中学校35名)
- 講師 各教育事務所依頼の外部講師・大学教授

カ 公立小・中学校初任者研修

- (ア) 校内における研修 180時間以上
- 各学校で年間を通じて計画し、実施する。
- (イ) 校外における研修 25日間(長期休業中9日以上)

a グループ研修 A

(7日間、各教育事務所の計画による)

- ・ 一般研修 1日間
- ・ 授業研修 2日間
- ・ へき地校研修 1日間
- ・ カウンセリング研修 2日間
- ・ 特別支援学校研修 1日間

b グループ研修 B

(12日間、各市町村教育委員会の計画による)

- ・ 一般研修 1日間
- ・ 研究発表集会等研修 5日間
- ・ 社会奉仕体験活動研修 2日間
- ・ 企業等体験研修 3日間
- ・ 他校種園参観研修 1日間

c 宿泊研修

- ・ 研修(国立磐梯青少年交流の家) 2泊3日
- ・ 研修(教育センター) 2泊3日

(ウ) 参加者数

- a 小学校 56名
- b 中学校 31名

ク 公立小・中・特別支援学校事務職員研修

- (ア) 新規採用職員研修
 - ・ 対象 平成22年度新規採用者
 - ・ 日数 前期5日間、後期5日間
 - ・ 参加人数 5名(小学校3名、中学校2名)
- (イ) 基礎力アップ研修
 - ・ 対象 採用後4年目

- ・ 日数 3日間
- ・ 参加人数 3名(小学校2名、中学校1名)

(ウ) 応用力アップ研修

- ・ 対象 採用後8年目
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 3名(小学校2名、中学校1名)

(エ) 実行力アップ研修

- ・ 対象 採用後12年目
- ・ 日数 3日間
- ・ 参加人数 8名(小学校6名、中学校2名)

(オ) 総合力アップ研修

- ・ 対象 採用後20年目、40歳以上
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 22名(小学校14名、中学校8名)

(カ) 新任係長研修会

- ・ 対象 新任の主任主査
- ・ 日数 3日間
- ・ 参加人数 4名(小学校3名、中学校1名)

※ 以上の会場は、いずれも「ふくしま自治研修センター」

ケ 事務職員研修(小・中学校)

- 主催 独立行政法人教員研修センター
- 期間 2月14日(月)～2月18日(金)
- 参加人数 3名(小学校2名、中学校1名)
- 会場 独立行政法人教員研修センター

(3) 教員長期研修

(研修機関、研修期間、研修生)

ア 上越教育大学

- (ア) 平成21年4月1日～平成23年3月31日
猪苗代町立翁島小学校教諭 矢作 英明
- (イ) 平成22年4月1日～平成24年3月31日
南会津町立檜沢中学校教諭 佐藤 謙二

イ 福島大学

- (ア) 平成21年4月1日～平成23年3月31日
福島市立茂庭小学校教諭 黒澤 和美
福島市立水原小学校教諭 今野 宏哉
本宮市立白沢中学校教諭 鬼塚 麻紀
須賀川市立第一中学校教諭 富岡 泰成
田村市立岩井沢小学校教諭 小林 勇二
白河市立大信中学校教諭 櫻井 宗成
会津美里町立本郷中学校教諭 高石 圭子
いわき市立泉小学校教諭 吉田 紀文
- (イ) 平成22年4月1日～平成24年3月31日
川俣町立山木屋中学校教諭 遠藤 理恵
伊達市立大石小学校教諭 渡辺 大輔
桑折町立睦合小学校教諭 廣居美貴子
郡山市立湖南小学校教諭 馬場 朝子
天栄村立湯本中学校教諭 村松 龍
会津若松市立謹教小学校教諭 岩本 宏幸
南相馬市立上真野小学校教諭 志賀 洋子

(4) 教員体験研修

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期間 3 か月

ウ 派遣者及び派遣先

学校名	職	氏名	派遣先
福島市立福島第二小学校	教諭	郡司 幸一	株式会社いちい
伊達市立梁川中学校	教諭	横山 裕一	財団法人福島県国際交流協会
二本松市立渋川小学校	教諭	黒子 学	株式会社辰巳屋
郡山市立桃見台小学校	教諭	堀江 茂樹	ハマツ観光株式会社
郡山市立郡山第五中学校	教諭	佐藤 哲也	ゼビオ株式会社
須賀川市立小塩江小学校	教諭	渡邊 潤	株式会社ヨークベニマル
小野町立浮金小学校	教諭	菅野 美和	株式会社うすい百貨店
棚倉町立棚倉中学校	教諭	大槻 英貴	リゾートトラスト株式会社
会津若松市立城北小学校	教諭	山内 亮	会津天宝醸造株式会社
会津若松市立行仁小学校	教諭	豊島正一郎	株式会社リオンドールコーポレーション
南会津町立檜沢小学校	教諭	室井 智子	会津みなみ農業協同組合
富岡町立富岡第一小学校	教諭	鈴木 博	株式会社日本フットボールヴィレッジ
葛尾村立葛尾中学校	教諭	宗像 良治	ふたば農業協同組合
いわき市立中央台北小学校	教諭	田島 裕司	株式会社古瀧
いわき市立玉川中学校	教諭	堀越 綾子	常磐興産株式会社 スパリゾートハワイアンズ

(5) 平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修(中学校)

教科	技術・家庭
氏名	清信 元博
職名	教諭
学校名	南相馬市立小高中学校
研修先	宮城教育大学(宮城県)
研修期間	9月13日～9月17日

(6) 教育研究奨励

ア 名称 福島県教職員研究論文

イ 主催 福島県教育委員会

ウ 応募資格

福島県公立幼稚園・小・中・高・特別支援学校の

教職員

エ 審査委員

福島大学総合教育研究センター教授 渡辺 博志

福島市清水学習センター 篠田 孝一

福島市子どもの夢をはぐくむ施設 野崎 修司

オ 応募数 44点

カ 入賞者

(ア) 特選

氏 名	所 属
只見町立只見小学校	団 体
教諭 加藤 正典	福島市立立子山小学校
福島市立福島第一小学校	団 体
教諭 菅家 篤	会津若松市立城南小学校

(イ) 入選

氏 名	所 属
棚倉町立棚倉小学校	団 体
教諭 蛭田 紀隆	いわき市立湯本第一小学校
教諭 渡邊 智幸	川内村立川内小学校
教諭 佐藤みゆき 講師 濱須 直文	相馬市立中村第二小学校
郡山市立郡山第二中学校	団 体
郡山市立芳山小学校	団 体
教諭 吉田 英俊	郡山市立上伊豆島小学校
教諭 酒井 央	鯉川村立鯉川小学校
教諭 高原 昇	喜多方市立松山小学校

(ウ) 奨励賞

氏 名	所 属
教諭 渡辺 貴生	いわき市立小名浜第一小学校
教諭 林 裕子	いわき市立永崎小学校
(代表) 教諭 阿部 昌弘	福島県立須賀川養護学校

3 教育課程

(1) 平成22年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

＜平成22年度福島県小学校教育課程研究協議会＞

ア 主催

福島県教育委員会

イ 実施期間

県北域内 9月10日(金)

県中域内 9月22日(水)

県南域内 9月7日(火)

会津域内 9月21日(火)

南会津域内 9月17日(金)

相双域内 9月1日(水)

いわき域内 9月9日(木)

ウ 実施教科等

総則、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

エ 参加者数 491名

〈平成22年度福島県中学校教育課程研究協議会〉

ア 主催

福島県教育委員会

イ 実施期間

県北域内 9月7日（火）

県中域内 9月2日（木）

県南域内 9月24日（金）

会津域内 9月15日（水）

南会津域内 9月17日（金）

相双域内 9月6日（月）

いわき域内 9月3日（金）

ウ 実施教科等

総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、
技術・家庭、外国語、道徳、総合的な学習の時間、
特別活動

エ 参加者数 266名

4 学力向上等

(1) 学力向上プロジェクト事業

ア 学びの習慣を育てる事業（義務）

イ 合同学習会（高校）

ウ 学力向上推進プラン（高校）

(2) 「確かな学力」向上プラン

ア 「授業改善のための定着確認シート活用実践事業」
（義務）

イ 「確かな学力」向上のための基礎力育成プラン
（高校）

(3) 少人数教育推進事業

学力向上や人間性・社会性の育成を総合的・効果的に
推進するための「個に応じた指導」の徹底を図るため、ティ
ーム・ティーチングや習熟度別等指導、及び30人学級編制
等の少人数教育を進め、教員等の目が子ども一人ひとりに
行き届き、きめ細やかな指導や評価ができる体制を作る。

○ 30人程度学級

○ 30人学級編制（小1、小2、中1）

5 道徳教育

(1) 道徳教育

ア 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成
を目的とした研修

(ア) 主催 中央指導者研修

独立行政法人教員研修センター

ブロック別指導者研修

独立行政法人教員研修センター、
福島県教育委員会

(イ) 会場 中央：独立行政法人教員研修センター

ブロック：ホテルルイズ（盛岡市）

(ウ) 期日

中央指導者研修 平成22年6月7日～11日

ブロック別指導者研修 平成22年8月9日～11日

〈中央指導者研修〉

氏名	勤務先	職名
渡部 早苗	南会津町立檜沢中学校	校長
藤田 篤	塙町立高城小学校	教頭
津田 宗人	会津教育事務所	指導主事
野原 光弘	郡山市立緑ヶ丘中学校	教諭

〈ブロック別指導者研修〉

氏名	勤務先	職名
内藤百合子	川俣町立富田小学校	校長
半杭 千歩	富岡町立富岡第二中学校	教頭
高田 健一	県南教育事務所	指導主事
川村 雅茂	いわき市教育委員会	指導主事
吉原 武志	田村高等学校	教諭

イ 小学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考え
を深める指導の充実」

(イ) 主催

福島県教育委員会、福島県小学校教育研究会
関係市町村教育委員会

(ウ) 会場・期日

地区 各地区ごとに設定(16会場) 7月～10月

ウ 中学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「心に力をあたえる道徳教育はどうあればよいか」
～美しいもの、命あるものに感動する心を育てる道
徳の指導のあり方～

(イ) 主催

福島県教育委員会、福島県中学校教育研究会
関係市町村教育委員会

(ウ) 会場・期日

地区 各地区ごとに設定(16会場) 7月～10月

(2) 道徳教育実践研究事業

○ 趣旨

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校、家庭及び
地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推
進するための実践研究を行い、その成果を普及すること
により道徳教育の充実に資する。

〔研究課題Ⅰ〕 学校のエデュケーションを踏まえた道徳教育の内
容の重点化

〔研究課題Ⅱ〕 道徳教育の計画的推進と道徳の時間の指
導の創意工夫

〔研究課題Ⅲ〕 指導体制や異校種、家庭・地域等との連
携体制の充実

○ 推進学校名：福島市立鳥川小学校

研究主題：「よりよい生活づくりを通して自己の生き方
を考える児童の育成」—学級活動（1）を
中核とした特別活動の充実—

研究期間：平成 21・22 年度

- 推進学校名：郡山市立桜小学校

研究主題：豊かな心をはぐくみ、未来への夢や希望を
ふくらませる子どもの育成～自分のよさや
可能性を実感することができる道德の時間
の在り方～

研究期間：平成 21・22 年度

(3) 道德教育推進協議会

- ア 福島県道德教育推進協議会

- 期日 平成23年 2 月 8 日（火）
○ 会場 自治会館

- イ 福島県道德教育地区別推進協議会

- 県内 6 地区で開催

- ウ 道德教育推進協議会

- 期日 平成23年 3 月11日（金）
○ 会場 文部科学省講堂
○ 参加者 県教育庁学校生活健康課

指導主事 渡邊 真魚

郡山市立桜中学校長 山田 好則

郡山市立桜小学校教諭 大内 順一

(4) 人権教育

- ア 文部科学省、人権教育開発事業（「人権教育研究指定校」）

- 目的

人権意識を培うための学校教育の在り方について、
幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する
指導方法等の改善及び充実に資する。

- 研究指定校 田村市立芦沢小学校

研究主題：「自分と他のよさを認め合い、思いやりを
持って行動できる児童の育成」

研究期間：平成 22 年度

- 研究指定校 田村市立船引南中学校

研究主題：「思いやりと感謝の心を持ち、誠実に行動
できる生徒の育成」

研究期間：平成 22 年度

- イ 人権教育指導者養成研修

- 主催 独立行政法人教員研修センター
○ 期日 平成22年10月19日～21日
○ 会場 独立行政法人教員研修センター
○ 参加者 田村市立芦沢小学校 教頭 中山 智成
田村市立船引南中学校
教諭 佐藤 洋美

6 特別活動

主な研修及び行事

(1) 県小学校教育研究会特別活動部会

- ア 主催

県小学校教育研究会

- イ 研究主題

望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、
よりよい生活や人間関係を築き、自主的、実践的な態度
を育てる特別活動の指導の在り方

- ウ 県研究協議会

- 期日 平成 22 年 10 月 19 日（火）
○ 会場 いわき市立中央台北小学校
中央台公民館

(2) 県中学校教育研究会特別活動部会

- ア 主催

県中学校教育研究会

- イ 研究主題

望ましい集団活動を通して、自己効力感を高め、主体
性をはぐくむ特別活動の指導はどうあればよいか。「集
団への所属感を高め、社会で生きる力をはぐくむ学校
行事の指導」

- ウ 県研究協議会

- 期日 平成 22 年 10 月 7 日（木）
○ 会場 郡山市立湖南中学校

7 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

- ア 指定地域による研究推進 浪江町

- 指定 文部科学省、魅力ある学校づくり調査研究事業
平成 22 年度

- イ 委託地域による研究推進

福島市 会津若松市 白河市 相馬市

- 委託 文部科学省、生徒指導・進路指導総合推進事
業（問題を抱える子ども等の自立支援に関
する調査研究） 平成 22 年度

- ウ 生徒指導研究連絡会議

文部科学省主催

- 期日 平成22年 6 月25日
○ 会場 文部科学省講堂
○ 参加者 県教育庁学校生活健康課

主任指導主事 渡辺 昇

会津教育事務所学校教育課

指導主事 佐原 健一

相双教育事務所学校教育課

指導主事 佐藤 博

いわき市教育委員会学校教育課

指導主事 草野 仁

- エ 生徒指導指導者養成研修

- 期日 平成22年 6 月14日～6 月29日
○ 会場 独立行政法人教員研修センター
○ 参加者 郡山市立郡山第五中学校

教諭 新田 泰尋

喜多方市立第二小学校 教諭 藤田 雅也

(2) 進路指導・キャリア教育

- ア キャリア教育指導者養成研修（東部ブロック）

(ア) 主催 独立行政法人教員研修センター

(イ) 会場 独立行政法人教員研修センター

(ウ) 期間 平成22年 5 月31日（月）～6 月 4 日（金）

- (エ) 参加者
 南会津町立館岩小学校教諭 阿久津 広恵
 福島市立信夫中学校教諭 栗城 敏彦
 福島県立本宮高等学校教諭 渡辺 志朗
- イ キャリア教育研修会
 22年度は実施せず

8 幼稚園教育

本年度公立幼稚園数206（休園4を含む）園であった。学級数は昨年より10学級減の569であったが、幼児数の減少から少人数保育になっているところが多い。県全体の平均学級園児数は、18.9人である。5歳児の就園率は、68.9%で（全国平均56.2%）東北第1位、全国でも3位となっている。幼稚園未設市町村の解消や就園率の地域格差是正、3年保育、その他混合保育、預かり保育など課題も多い。

「幼児教育実技研修会」、「新規採用教員研修会」「経験者研修Ⅱ」などの経験や職能に応じた研修により教員の資質の向上を図った。

さらに、幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育委員会、福島県公立幼稚園教育研究会並びに福島県全私立幼稚園協会等の協力を得て、次の事業を実施した。

(1) 幼稚園教育課程研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成22年9月17日～平成22年10月13日のうち1日
- ウ 会場（県内6地区）
 県北、県中、県南、会津・南会津、相双、いわき
- エ 内容
 ○ 幼稚園における学校評価についての説明
 ○ 幼稚園の教育活動及び運営に係る課題と対応策
- オ 参加者数 434名（6地区合計）

(2) 幼児教育実技研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成22年8月9日～8月11日
- ウ 会場 福島大学附属幼稚園
- エ 受講者 149名
- オ 内容 実技、演習

(3) 福島県幼稚園等新規採用教員研修

- ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会
- イ 会場 教育センターが定めた場所、勤務園、参観を希望する幼稚園、保育所、小学校
- ウ 日数 園外研修（教育センターの計画） 3泊4日
 〃（教育センターの計画） 3日間
 〃（幼稚園、保育園、小学校参観） 3日間
 園内研修（勤務園） 10日間
- エ 参加者 研修対象者 公立34名、私立94名 計128名
- オ 内容 講義……教師の役割、幼稚園教育の現状

- 演習……自然の中での遊び
 協議……諸問題、教師のかかわり
 実技……絵本のイメージと遊び、みんなで楽しむ歌やゲーム
 参観……生活科、保育実習
 実習……保育実習
 講演……幼児理解と援助など

(4) 幼稚園経験者研修Ⅱ

- ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会
- イ 期日 年間
- ウ 日数・内容・会場
 ○ 休業期間等における研修…5日以上
 ・共通研修………1日（教育センター）
 ・保育専門研修…2日程度
 （保育専門研修会 県教育センター2日）
 ・社会体験研修 ……1日（社会体験を行う各施設等）
 ・選択研修 ……1日以上（幼児教育実技研修会等）
 ○ 課業期間中における研修…7日以上
 ・保育力の向上研修
 ・教育課題研修
 ・パイオニア研修
- エ 参加者 公立13名、私立2名、計15名

9 へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校149校で、29.5%、中学校74校で31.4%を占め、小・中学校総数に対して30.1%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

(1) 複式学級担任教員研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成22年5月27日（木）～28日（金）
- ウ 会場 福島県教育センター
- エ 講師 小学校教諭他
- オ 参加者数 47名

(2) 中学校免許外教科担当教員研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成22年5月10日（月）～11日（火）
 平成22年5月17日（月）～18日（火）
- ウ 会場 福島県教育センター
- エ 講師 中学校教諭他
- オ 実施教科 美術、体育、技術、家庭
- カ 参加者数 98名

(3) 全国へき地教育研究大会

- 第59回全国へき地教育研究大会
- ア 主催 文部科学省、全国へき地教育研究連盟、
 広島県教育委員会
- イ 期日 平成22年10月21日（木）～22日（金）
- ウ 会場 全体会及び課題別分科会
 広島国際会議場
 学校別分科会 県内9会場
- エ 研究主題

○ 全国主題

「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成」

オ 派遣者氏名

氏 名	職	勤 務 先
小山 保昌	校 長	福島市立下川崎小学校
坂口 伸	教 頭	田村市立都路中学校
岡本 裕次	教 諭	田村市立都路中学校
西崎 香織	教 諭	葛尾村立葛尾小学校

(4) 第26回 福島県へき地・小規模学校教育研究会

(第26回 東北地区へき地教育研究大会を兼ねる)

ア 主催

へき地教育東北ブロック研究会
福島県へき地・小規模学校教育研究会

イ 期日

平成22年10月7日(木)～8日(金)

ウ 会場

全体会他 福島市福島テルサ
授業公開 福島市内の小・中学校4校

○ 県大会研究主題

「ふるさとのよさを生かし、豊かな心で、たくましく生きる子どもの育成」

10 環境教育

学校における環境教育は、学校教育全体を通して行う必要があり、自然とふれあいを深め自然を愛護することの大切さを理解させるように努めている。

(1) 「尾瀬サミット」小・中学生3県交流事業「尾瀬子どもサミット」

ア 主催

福島県教育委員会
群馬県・群馬県教育委員会
新潟県教育委員会

イ 期日

平成22年7月27日(火)～7月30日(金)

ウ 会場

福島県南会津郡檜枝岐村「尾瀬沼ヒュッテ」

エ 参加者数

福島県 県内小・中学生 20名
群馬県 県内小・中学生 20名
新潟県 県内小・中学生 20名

オ 活動内容

尾瀬レクチャー・フィールド活動・意見交換会

カ 知事報告会

平成22年7月30日(金) 県庁

11 教科用図書

(1) 平成23年度使用教科用図書の採択

公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、小学校用教科書、学校教育法附則第9条図書を採択した。中学校用教科書は継続採択であった。

ア 教科用図書選定審議会

(ア) 委員 16名

(イ) 任期 平成22年4月1日～平成22年8月31日

(ウ) 開催期日 第1回 平成22年4月13日
第2回 平成22年5月26日

(エ) 会場 第1回 福島県自治会館301会議室
第1回 福島県自治会館403会議室

イ 教科書展示会

平成22年6月18日から14日間、県内19の会場で開催した。会場及び来会者は下記のとおりである。

教科書センター (展示会場)	採択地区名	展示教科書(該当に○印)			展示会場設置場所(該当に○印)			来会者総数
		小・中・高	小・中	高	教科書センター	分館	その他	
福島教科書センター(福島市立図書館)	福島・伊達・安達地区	○			○			269
伊達教科書センター(保原中央公民館)	〃		○		○			157
二本松教科書センター(二本松文化センター)	〃		○		○			187
郡山教科書センター(郡山市立中央公民館)	郡山地区	○			○			428
須賀川教科書センター(須賀川市立第一中学校)	岩瀬地区		○		○			266
石川教科書センター(石川町公民館)	石川地区		○		○			133
三春教科書センター(三春小学校)	田村地区		○		○			105
〃(おおごえふるさと館)	〃		○				○	157
〃(小野町教育委員会)	〃		○				○	82
西白河教科書センター(白河中央公民館)	西白河・東白川地区	○			○			177
東白川教科書センター(棚倉町文化センター)	〃	○			○			89
会津若松教科書センター(鶴城小学校)	会津地区	○			○			60
喜多方教科書センター(喜多方第一小学校)	〃	○			○			124
会津坂下教科書センター(坂下小学校)	〃	○			○			18
南会津教科書センター(御蔵入交流館)	〃		○		○			47
南会津教科書センター南郷分館(総合支援南郷センター)	〃		○			○		24
相馬教科書センター(南相馬市中央図書館)	相馬地区	○			○			345
双葉教科書センター(富岡町文化交流センター)	双葉地区		○		○			186
いわき教科書センター(いわき市総合教育センター)	いわき地区	○			○			420
合 計	(展示会場19箇所) (採択地区10地区)	9	10		16	1	2	3274

ウ 平成23年度使用小学校教科書採択一覧（採択1年目）

種 目	国 語	書 写	社 会	地 図	算 数	理 科	生 活	音 楽	図 画 工 作	家 庭	保 健
採 択 地 区											
福島・伊達・安達	東 書	東 書	東 書	帝国	東 書	東 書	東 書	教 芸	東 書	開隆堂	東 書
郡 山	光 村	光 村	東 書	帝国	東 書	東 書	東 書	教 芸	開隆堂	東 書	学 研
田 村	東 書	東 書	東 書	帝国	東 書	東 書	東 書	教 芸	日 文	東 書	東 書
岩 瀬	光 村	教 出	東 書	帝国	東 書	東 書	教 出	教 出	日 文	東 書	東 書
石 川	光 村	光 村	東 書	帝国	東 書	東 書	東 書	教 出	開隆堂	開隆堂	東 書
西白河・東白川	光 村	光 村	東 書	帝国	東 書	東 書	東 書	教 出	開隆堂	開隆堂	東 書
会 津	光 村	光 村	東 書	帝国	東 書	東 書	東 書	教 出	日 文	東 書	東 書
相 馬	東 書	光 村	東 書	帝国	東 書	東 書	東 書	教 芸	日 文	東 書	東 書
相 双	光 村	光 村	東 書	帝国	東 書	東 書	東 書	教 芸	日 文	東 書	東 書
いわき	光 村	東 書	東 書	帝国	東 書	東 書	東 書	教 出	開隆堂	開隆堂	東 書

エ 平成23年度使用中学校教科書採択一覧（採択2年目）

種 目	国 語	書 写	社 会 (地 理 的分野)	社 会 (歴 史 的分野)	社 会 (公 民 的分野)	地 図	数 学	理 科 (第一 分野)	理 科 (第二 分野)	音 楽 (一 般)	音 楽 (楽 器 合奏)	美 術	保 健 体 育	技 術 ・家庭 (技術)	技 術 ・家庭 (家庭)	英 語
採 択 地 区																
福島・伊達・安達	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
郡 山	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書
田 村	東書	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
岩 瀬	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
石 川	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	開隆堂	開隆堂	東書
西白河・東白川	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
会 津	光村	東書	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
相 馬	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
相 双	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
いわき	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書

(2) 教科用図書無償給与

平成22年度も義務教育諸学校の全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。

また、平成23年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会及び県立特別支援学校・私立学校等の教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適性かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期 日	会 場	参集範囲
平成23年2月2日	郡山合同庁舎	県 中
平成23年2月4日	南相馬合同庁舎	相双・いわき
平成23年2月7日	県庁東分庁舎	県 北
平成23年2月9日	白河合同庁舎	県 南
平成23年2月14日	南会津合同庁舎	南 会 津
平成23年2月16日	湯川村公民館	会 津

1 2 教育研究団体

(1) 福島県公立幼稚園教育研究会

ア 研究主題（平成21年度～平成22年度）

A-1	幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるためにはどのような環境の構成や教師のかかわりが必要か。
A-2	健康な心と体を育て、幼児が進んで食べようとする気持ちをもつためにはどのような環境の構成や教師のかかわりが必要か。
B-1	特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について
C-1	幼稚園における子育て支援活動・預かり保育

C-2	幼稚園・保育所・小学校との連携
C-3	幼稚園における学校評価

イ 組織及び財政の状況

- 会長 高橋 友憲
- 会員数 959名
- 平成22年度決算額 1,596,323円
- 上記のうち補助金 なし

ウ 主な事業

- 研究協議会
 - (ア) 主催 福島県公立幼稚園教育研究会
 - (イ) 期日・会場
 - a 地区研究協議会 各地区（15地区）
9月～10月
 - (ウ) 指導助言者 指導主事等

(2) 福島県小学校教育研究会

ア 基本主題(平成22年度～平成24年度)

- (ア) 「確かな学びと豊かなかかわりを通して生きる力をはぐむ授業」

イ 各研究部研究主題

各研究部	研究主題
国語	児童一人一人の表現力や理解力を育成し、伝え合う力を高める指導はどうあればよいか。
社会	子ども一人一人が見学・調査、体験、表現など具体的な活動やかかわりを通して、社会的事象の意味や働きを考える社会科の授業はどうあればよいか。
算数	豊かな算数的活動を通して、共によりよい数理を創り上げ、算数を学ぶ楽しさや喜びを味わい、主体的に学ぶ子どもの育成を図る授業
理科	自ら自然にはたらきかけ、感じ、考え、実感できる理科学習の充実
生活科・総合	人・社会・自然に進んでかかわり、質の高い気付きや学びができる子どもを育成するにはどうすればよいか。
音楽	多様な音楽活動と豊かな学びを通して音楽を愛好する子どもの育成
図画工作	子ども一人一人につくり出す喜びを味わわせ、価値のある造形活動を通して、心豊かな子どもを育てる図画工作科の指導
家庭	子ども一人一人が基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、実践力を高める家庭科の学習はどうあればよいか。
体育	多様な運動の特性に触れる経験を通して、学び合う中で、めあての達成を目指して主体的に運動に取り組む子どもを育てる体育指導
道徳	道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導の充実
特別活動	望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、よりよい生活

や人間関係を築き、自主的、実践的な態度を育てる特別活動の指導の在り方

ウ 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 田母神光男(郡山市立柴宮小学校)
- (イ) 会員数 6,637名

- (ウ) 平成22年度決算額 5,457,034円

エ 主な事業

- 研究協議会
 - (ア) 主催 福島県小学校教育研究会
 - (イ) 共催 福島県教育委員会・開催地区関係市町村教育委員会
 - (ウ) 期日・会場
 - a 地区研究協議会 各地区
各地区の計画による
 - b 県研究協議会 10月5日(火)～10月28日(木)
県内11会場(1～2日)
 - (エ) 指導助言者 指導主事等

(3) 福島県中学校教育研究会

ア 研究主題

- (ア) 基本主題
「未来に向かって、確かな学力を身につけ、人間性豊かにたくましく生きる生徒の育成」

(イ) 各部研究主題

部会	平成22年度の研究主題・研究副主題
国語	思考力を養い、読むことの力を高めるための言語活動(話す・聞く・書く・読む)はどうあればよいか。 H22 指定教材における指導の工夫
社会	広い視野から社会的事象を見つめ、自分の考えを持って行動しようとする生徒を育成するための社会科の授業はどうあればよいか。 H22 学び合いを通して考えを深めさせる授業の工夫
数学	数学的活動の工夫を通して、数学的な思考力・表現力をはぐくむためには、どう指導すればよいか。 H22 学んだことを進んで活用する場の設定の工夫
理科	科学的体験を通し、共に学び合いながら、自然を探究する力を育てる授業はどうあればよいか。 H22 探究の結果や考察を伝え合い、自然認識を深め合う学習活動の工夫

- (7) 理事会 年5回開催
(イ) 会場 福島市

(5) 福島県中学校長会

ア 組織及び財政の状況

- (7) 会長 鈴木昭雄(福島市立福島第一中学校)
(イ) 会員数 238名
(ウ) 平成22年度の決算額 8,528,649円

イ 主な事業

- (7) 平成22年度福島県中学校長会総会
(イ) 開催期日 4月22日(木)
(ウ) 会場 福島県教育会館

(6) 福島県公立小・中学校教頭会

ア 組織及び財政の状況

- (7) 会長 遠藤久典(福島市立信陵中学校)
(イ) 会員数 738名
(ウ) 平成22年度の決算額 10,904,224円

イ 主な事業

- (7) 第25回福島県公立小・中学校教頭会研究大会いわき大会
(イ) 研究主題
「生きる力をはぐくむ豊かな学校をめざして」
～子ども・地域・教職員のよさを発揮し、共に高め合う魅力ある学校づくり～

(7) 福島県学校図書館協議会

ア 組織及び財政の状況

- (7) 会長 相楽 悦子(郡山市立明健小学校)
(イ) 加盟校 771校
平成22年度の決算額 985,529円

イ 主な事業

- (7) 第50回福島県学校図書館研究大会田村大会
(イ) 研究主題 「未来を拓き、豊かな学びの中核となる学校図書館」
(ウ) 開催期日 平成22年10月29日(金)
(エ) 会場 田村市立常葉幼稚園
田村市立常葉小学校
田村市立常葉中学校
(オ) 参加人数 253名

(8) 福島県公立小・中・特別支援学校事務研究協議会

ア 組織及び財政の状況

- (7) 会長 本田 義雄
(イ) 会員数 677名
(ウ) 平成22年度の決算額 3,993,485円

イ 主な事業

- 事務研修会
・分科会
・全体研修会
テーマ「子どもの学びを支援する学校経営事務をめざして」
・開催期日 平成22年8月19日(木)
・会場 ビッグパレットふくしま

部 会	平成22年度の研究主題・研究副主題
音 楽	生涯にわたって音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにする指導はどうあればよいか。 H22 創造性を育てる音楽活動の工夫
美 術	生徒一人一人に創造する喜びを味わわせ、心豊かに生きるための美術教育はどうあればよいか。 H22 美術教育の役割
保健体育	生涯にわたって運動に親しみ、健康で安全な生活を送るための資質や能力を培う指導はどうあればよいか。 H22 生涯にわたって運動に親しむ実践力を高めるための指導の工夫
技術・家庭	自ら課題を解決し、生活を主体的に営む力をはぐくむ指導はどうあればよいか。 H22 学びの手ごたえを実感させ、意欲を高める評価の工夫
英 語	生活に根ざした英語を活用させながら、実践的コミュニケーション能力の基礎をはぐくむ指導はどうあればよいか。 H22 生徒一人一人に生活に根ざした英語を駆使させることで、実践的コミュニケーション能力の基礎をはぐくむ授業の工夫
道 徳	心に力を与える道徳教育はどうあればよいか。 H22 美しいもの、命あるものに感動する心を育てる道徳の指導のあり方
特別活動	望ましい集団活動を通して、自己効力感を高め、主体性をはぐくむ特別活動の指導はどうあればよいか。 H22 集団への所属感を高め、社会で生きる力をはぐくむ学校行事の指導

イ 組織及び財政の状況

- (7) 会長 齋藤 嘉則(福島市立蓬萊中学校)
(イ) 会員数 3,813名
(ウ) 平成22年度の決算額 8,936,670円

ウ 主な事業

○研究協議会

- (7) 主催 福島県中学校教育研究会
(イ) 共催 福島県教育委員会
(ウ) 期日・会場
a 支部研究協議会 各支部
b 県研究協議会 10月7日(木)
県中・県南地区11会場
(エ) 指導助言者 指導主事

(4) 福島県小学校長会

ア 組織及び財政の状況

- (7) 会長 平田州一(福島市立福島第一小学校)
(イ) 会員数 498名
(ウ) 平成22年度の決算額 15,337,770円

イ 主な事業

第3節 国際化・科学技術の進展等への対応

1 中学生・高校生の科学・技術研究論文

野口英世賞募集

(1) 募集の趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖のぐち」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

平成22年9月1日（水）～平成22年9月10日（金）

(3) 応募数

中学校 68点(23校)

高等学校 24点(11校)

(4) 審査会

平成22年10月4日（月） 福島県自治会館

(審査員長)

福島大学学長 入戸野 修

(審査員)

福島大学教授 中村 泰久

福島大学教授 小沢 喜仁

いわき明星大学准教授 岩田 恵理

県中学校教育研究会理科専門部長 遠藤 二郎

県私立中学高等学校協会理事 唐木 義則

県高等学校教育研究会理科部会長 湯田 嘉朗

(5) 受賞者

【中学校】

・個人研究の部

賞	学 校 名	氏 名
最優秀賞	いわき市立久之浜中学校	佐川 睦実
優 秀 賞	福島市立岳陽中学校	千葉 尚哉
	桑折町立釀芳中学校	旗野 将貴

・共同研究の部

賞	学 校 名	団体名
最優秀賞	二本松市立小浜中学校	1年特設科学部
優 秀 賞	福島市立福島第一中学校	自然科学部
	白河市立白河中央中学校	自然科学班

【高等学校】

・個人研究の部

賞	学 校 名	氏 名
最優秀賞		該当なし
優 秀 賞	県立福島明成高等学校	樋口 佳菜

・共同研究の部

賞	学 校 名	団体名
最優秀賞	県立福島高等学校	サイエンス探究クラス スライムグループ
優 秀 賞	県立安達高等学校	自然科学部物理班
	県立喜多方高等学校	自然科学部ヘリック ス研究グループ

2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

朝河貫一賞募集

(1) 募集の趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

平成22年9月1日（水）～平成22年9月10日（金）

(3) 応募数

中学校 220点(21校)

高等学校 87点(9校)

(4) 審査会

平成22年10月5日（火） 福島県自治会館

(審査員長)

桜の聖母短期大学名誉教授 富良謝 純

(審査員)

郡山女子大学教授 J・ティルマント

福島学院大学短期大学部講師 玄 永 牧 子

福島民報社論説委員長 鈴木 久

福島民友新聞社編集局報道部長 菊 池 克 彦

福島県中学校校長会副会長 三 浦 義 久

福島県高等学校長協会普通部会長 富 田 昭 夫

(5) 受賞者
【中学校の部】

賞	氏 名	学 校 名	学年	論文の題名
最優秀賞	大和田 景 子	いわき市立平第一中学校	3	「橋」を架ける
優秀賞	内 堀 優 輝	福島大学附属中学校	3	「広島原爆の日」に思うこと
	吉 川 洋 佳	福島大学附属中学校	3	「地球人」として生きる
	星 結 衣	須賀川市立西袋中学校	3	心の扉を開こう
	新 家 杏 奈	いわき市立草野中学校	3	We 文化で世界をつなぐ
	高 橋 明日香	会津若松市立第一中学校	3	国境って何だろう
入 選	鈴 木 里 奈	磐梯町立磐梯中学校	3	カナダの取り組みから学んだこと
	山 崎 朝 日	浪江町立津島中学校	3	ぼくたちにもできること
学 校 賞	福島大学附属中学校			

【高等学校の部】

賞	氏 名	学 校 名	学年	論文の題名
最優秀賞	坂 本 美 波	県立白河旭高等学校	3	フィリピンの子供たちの今～日本とフィリピンの比較～
優秀賞	金 成 夏 海	県立福島高等学校	1	恩返しから恩送りへの国際交流
	関 根 萌	県立福島高等学校	1	国際交流における自我の目覚め
	宮 川 将一朗	県立福島高等学校	1	一歩前へ
	本 田 み か	県立福島高等学校	1	異文化とは何か
	酒 井 愛 理	県立いわき総合高等学校	2	当たり前という幸せ
入 選	斎 藤 伶 奈	県立白河高等学校	1	世界にはばたく教育
	田 崎 鮎 美	県立いわき総合高等学校	3	言葉という存在
学 校 賞	県立福島高等学校			

第6章 高等学校教育

第1節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

年度 区分		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
全 日 制	本 校	85	85	85	85	85	85	85	85	84	83
	分 校	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
定 時 制	独 立	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5
	併 置	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	分 校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注) 募集基準として学校数を算定した(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

年度 区分	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
卒業生数(A)	28,988	28,448	27,482	26,868	25,404	25,067	23,593	22,851	23,127	22,333	21,807	21,930
進学志願者数(B)	27,995	27,545	26,622	26,068	24,653	24,392	22,957	22,231	22,471	21,704	21,176	21,305
進学者数(C)	27,717	27,382	26,395	25,947	24,617	24,441	22,981	22,337	22,593	21,873	21,371	21,529
進学志願率(B/A)	96.6	96.8	96.9	97.0	97.0	97.3	97.3	97.3	97.2	97.2	97.1	97.2
進学率(C/A)	95.6	96.3	96.0	96.6	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2
入学率(C/B)	99.0	99.4	99.1	99.5	99.9	100.2	100.0	100.5	100.5	100.8	100.9	101.1

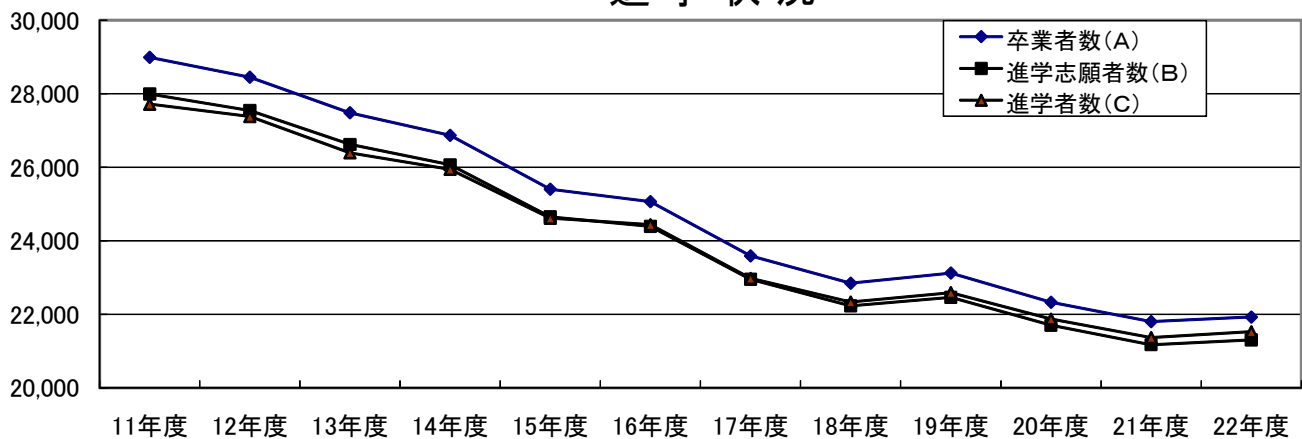
(注) 進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業生数は前年度より123名増加し、進学率は0.2ポイントアップし、入学率も0.2ポイントアップした。
平成22年度の進学者の内訳は次の通りである。

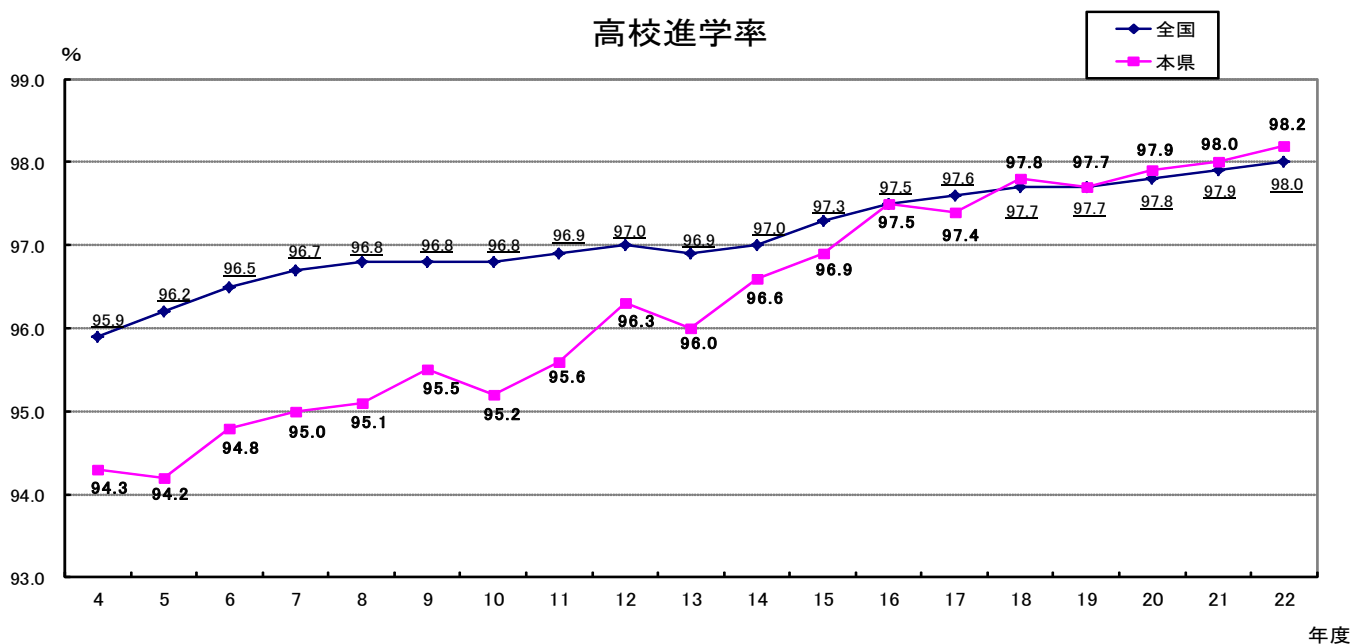
高等学校全日制 20,247名(94.0%)
 高等学校定時制 357名(1.7%)
 高等学校通信制 513名(2.4%)
 高等専門学校 252名(1.2%)
 特別支援学校高等部 160名(0.7%)

ア 中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移

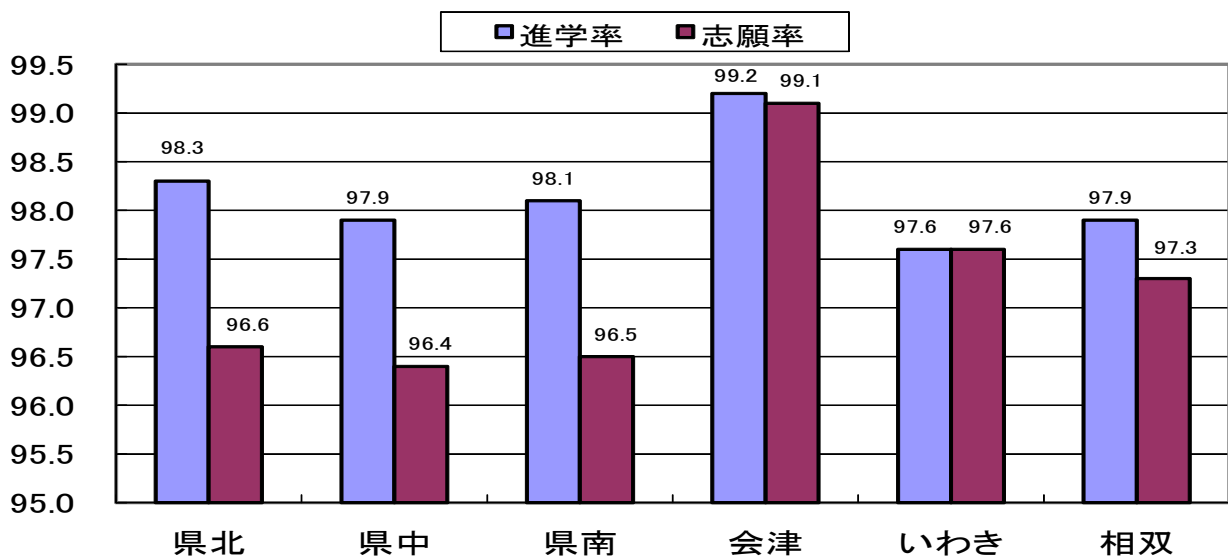
進学状況



高校進学率

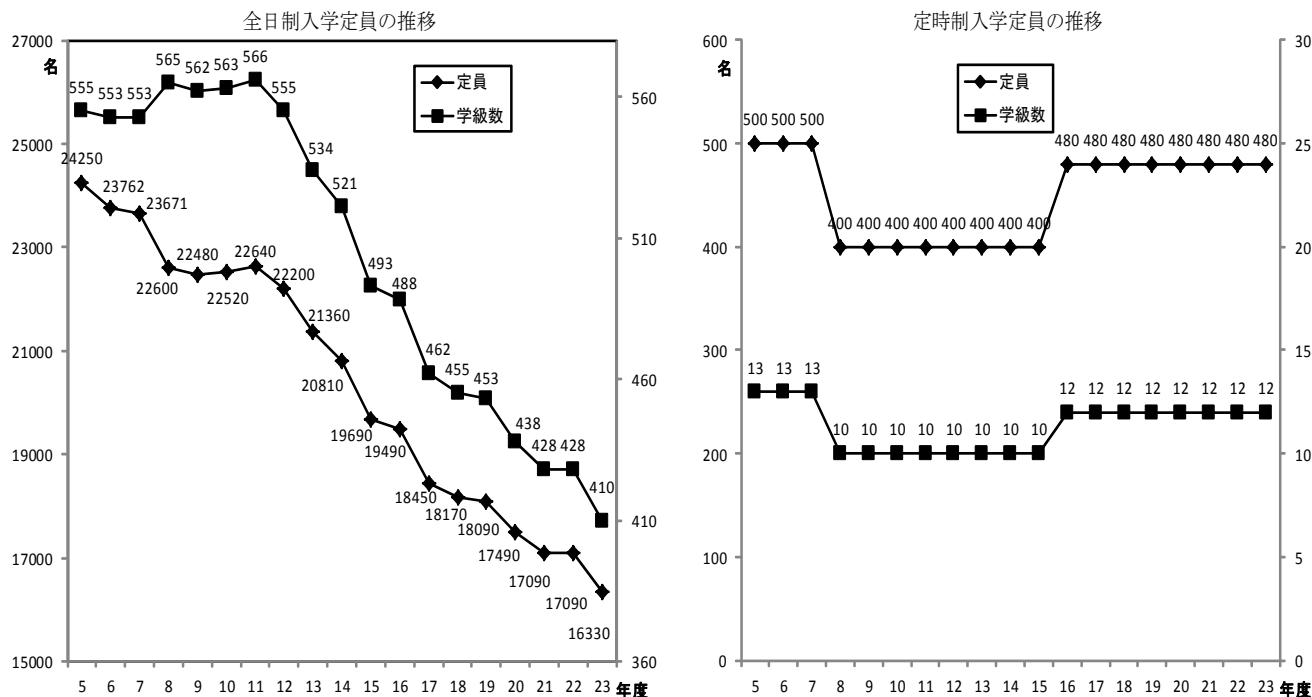


イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35 , 40	40	国際文化に関する学科	40	－
農業に関する学科	40	－	英語に関する学科	40	－
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	－
商業に関する学科	40	－	美術に関する学科	40	－
家庭に関する学科	40	－	国際科学に関する学科	40	－
水産に関する学科	40	－	総合学科	40	－
理数に関する学科	40	－	国際・スポーツに関する学科	40	－
文理に関する学科	40	－			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B 定員	B/A (%)	C 志願者数	C/A (%)	C/B (%)	D 入学者数	D/C (%)
13	27,482	21,360	77.7	23,771	86.5	111	20,712	87.1
14	26,868	20,810	77.5	23,458	87.3	113	20,246	86.3
15	25,404	19,690	77.5	23,303	91.7	118	19,268	82.7
16	25,067	19,490	77.8	20,659	90.4	116	18,988	83.8
17	23,593	18,450	78.2	20,634	87.5	113	17,928	86.9
18	22,851	18,170	79.5	19,988	87.5	113	17,508	87.6
19	23,127	18,090	78.2	20,130	87.0	111	17,530	87.1
20	22,333	17,490	78.3	19,368	86.7	111	16,934	87.4
21	21,807	17,090	78.4	18,975	87.0	111	16,666	87.8
22	21,930	17,090	77.9	18,996	86.6	111	16,599	87.4

(5) 県立高等学校生徒数（22.5.1現在）

学科の区分		課 程	全 日 制	定 時 制			専 攻 科	合 計	通 信 制
				学 年 制	単 位 制	計			
普 通 科	男		12,419	210	326	536		12,955	1,341
	女		13,305	197	506	703		14,008	1,376
	計		25,724	407	832	1,239		26,963	2,717
農 業 に 関する 学 科	男		1,619					1,619	
	女		1,341					1,341	
	計		2,960					2,960	
工 業 に 関する 学 科	男		6,108	83		83		6,191	
	女		543	15		15		558	
	計		6,651	98		98		6,749	
商 業 に 関する 学 科	男		1,768					1,768	
	女		3,519					3,519	
	計		5,287					5,287	
家 庭 に 関する 学 科	男		16					16	
	女		218					218	
	計		234					234	
水 産 に 関する 学 科	男		306				42	348	
	女		57				2	59	
	計		363				44	407	
理 数 に 関する 学 科	男		278					278	
	女		184					184	
	計		462					462	
文 理 に 関する 学 科	男		447					447	
	女		627					627	
	計		1,074					1,074	
国 際 文 化 に 関 する 学 科	男		52					52	
	女		188					188	
	計		240					240	
国 際 ・ ス ポ ー ツ に 関 する 学 科	男		157					157	
	女		169					169	
	計		326					326	
国 際 科 学 に 関 する 学 科	男		183					183	
	女		457					457	
	計		640					640	
英 語 に 関する 学 科	男		85					85	
	女		277					277	
	計		362					362	
体 育 に 関する 学 科	男		86					86	
	女		30					30	
	計		116					116	
美 術 に 関する 学 科	男		13					13	
	女		104					104	
	計		117					117	
総 合 学 科	男		1,807					1,807	
	女		2,834					2,834	
	計		4,641					4,641	
合 計	男		25,344	293	326	619	42	26,005	1,341
	女		23,853	212	506	718	2	24,573	1,376
	計		49,197	505	832	1,337	44	50,578	2,717

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区 分 学 校		年 度											
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
入 学 者	安 積 第 二 高 校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あ さ か 開 成 高 校	238	262	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	郡 山 萌 世 高 校	-	-	297	269	238	242	263	253	239	262	278	290
	計	238	262	297	269	238	242	263	253	239	262	278	290

区 分 学 校		年 度											
		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
卒 業 者	安 積 第 二 高 校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あ さ か 開 成 高 校	182	165	192	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	郡 山 萌 世 高 校				243	208	241	233	207	204	200	218	228
	計	182	165	192	243	208	241	233	207	204	200	218	228

(7) 県立高等学校教職員数の推移

区 分	種 別	高 等 学 校																				
		課 程	全 日 制 ・ 定 時 制										通 信 制									
	年度職 種	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
教 員	校 長	86	86	86	87	87	87	87	87	86	85											
	教 諭 等	4242	4213	4095	4052	3922	3853	3790	3730	3674	3617	37	37	37	37	37	36	37	37	37	37	
	養護教員	102	110	114	120	123	120	119	116	114	113											
	補充教員	184	176	125	132	151	155	161	167	155	148	1	1									
	講 師																					
	寄宿舎指導員	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5											
	実習助手	400	395	379	370	359	353	351	346	334	330											
	計	5020	4985	4804	4766	4647	4573	4513	4451	4368	4298	38	38	37	37	37	36	37	37	37	37	
事 務 職 員		298	293	285	285	276	274	272	266	263	262	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
雇 用 人	技 能 員	1	1	1	1	1																
	学校司書	72	72	68	68	66	65	65	64	61	62											
	用 務 員	72	69	65	59	58	57	56	56	56	54											
	ボイラ技師	18	18	18	19	18	18	17	16	16	14											
	栄 養 士	8	5	5	5	5	5	5	4	4	4											
	調理給食員	6	6	5	5	5	4	4	4	4	4											
	計	177	171	162	157	153	149	147	144	141	138											
練 習 船	技 能 職 員	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9											
	その他の職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13											
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22											
合 計		5517	5471	5273	5230	5098	5018	4954	4883	4794	4720	44	44	43	43	43	42	43	43	43	43	

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成22年度の高等学校教職員定数は、前年度比59人減の4,649人となった。このうち、教諭等は、前年度比57人減の3,654人である。

また、特殊教育については、前年度比80人増の1,485人となった。このうち、教諭等は、前年度比71人増の1,268人となった。

ア 新採用について

平成22年度は94名（国語16名・地理歴史9名・公民2名・数学9名・理科16名・保健体育12名・音楽2名・美術1名・英語9名・家庭1名・農業4名・工業9名・商業4名）の新採用教員を県立高等学校に配置した。

平成22年度に実施した平成23年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験の高等学校志願者数は、前年度比145名減の1,183名であったが、一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は101名（前年度比3名減）となり、そのうち辞退者を除く97名（前年度比3名増）が新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から7名、教育庁関係から現場復帰による3名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性を生かせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう

努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針の通り、本庁及び校長会との密接な連携のもとに、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて585名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 平成22年度県立学校教員異動基準

ア 一般基準

(7) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。

(イ) 優秀な人材の定時制（夜間）・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が担当年数（3年以上）勤務した場合の転出については、特に考慮する。

(ウ) 同一校には原則として、最低3年は勤務するものとする。

(エ) 2親等以内の者は、原則として、同一校勤務をさける。

イ 勤続年数による基準

次に該当する者は異動の対象とする。

- (ア) 採用後ひきつづき同一校に3年以上勤務した者
(イ) 同一校に8年以上勤務した者

ウ 地区及び学校群による基準

教職員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、各地区ごとに所在する学校を地理的特殊性を考慮して、A・B・C3群に分類し異動を促進する。

A・B・C各群の学校は別表①のとおりとする。

- (ア) 会津地区の4校(川口・田島・南会津・只見)、県南地区の5校(湖南・塙工・棚倉・東白川農商・東白川農商鮫川)、相双地区の3校(浪江津島・富岡川内・相農飯館)は、それぞれ1地区とみなす。

- (イ) 本宮は平成16年度より県北地区とし、平成16年度以降の転入・在籍者から適用する。

- (ウ) 群の取り扱いの変更は、別表②の適用年度以降の人事異動該当者について適用する。

- (エ) 昭和44年度以降採用者は、原則として、次の条件を満たすよう勤務させるものとする。

a 採用後15年以内に2地区以上の学校に勤務する。

b A・B2群の学校に勤務する。ただし、A群については、採用後15年以内とする。

- (オ) B・C群の学校に採用された者は、原則としてA群の学校に勤務するものとする。

- (カ) 同一校群内または学校群間の異動については、次の点に留意する。

a A群については、原則として、へき地間、分校間の異動は行わない。

b B群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。

c C群については、同一市内間の異動は行わない。

- (キ) 職業に関する学科の教員で、同一校勤続8年以上の者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に3年以上勤務した場合は、もとの地区内へ転出させることができる。

エ 平成21年度以降の採用者についての基準（以下「新基準」という。）

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

a 初任者

b 異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）

c 永年者

(イ) 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、Ⅰ・Ⅱ群に分類し異動を促進する。Ⅰ・Ⅱ群の学校は別表

③のとおりとする。

- a 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

ただし、若年者及び永年者が中通り地域の4校（湖南・塙工業・修明・修明鮫川）、会津地域の4校（川口・田島・南会津・只見）及び浜通り地域の3校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館）に勤務した場合の勤務年数は、原則として3年以上5年以内とする。

- b 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、Ⅱ群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてⅠ群の学校に勤務するものとする。

ただし、Ⅱ群普通系からⅡ群専門系への異動、Ⅱ群専門系勤務者のうち直近の勤務がⅠ群校の者のⅡ群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはⅡ群普通系内の異動も可とする。

- c 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

オ 平成24年度より、採用年度にかかわらず新基準を適用する。

ただし、平成20年度以前の採用者については、平成30年度までは2（2）ウの別表①及び（ウ）の別表②も準用し、（2）ウ（エ）を満たす者は、エ（イ）aの規定を満たす者とみなす。

- カ 寄宿舎指導員については、原則としてア、イ、ウに準ずるが、採用後20年以内に2地区の学校に勤務するものとする。

- キ 過員解消のための異動は、全県的な立場で優先的に取り扱う。

- ク 教員人事公募選考制度については、別に定める。

別表① 地区・群別学校分類表

地区	群	A	B	C	特別支援学校 (A群校扱い)
北	県	福島工業(定) 川俣 梁川 保原(定) 安達東 福島中央	福島商業 福島明成 福島北 保原 安達 二本松工業 本宮	福島 橘 福島工業 福島西 福島東 福島南	盲 聾(福島) 大笹生養護 須賀川養護(医大)
南	県	安積(御館) 長沼 石川 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世 白河第二 湖南 塙工業 修明 修明(鮫川)	須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 光南 白河実業 田村	安積 安積黎明 郡山東 郡山商業 郡山北工業 郡山 あさか開成 白河 白河旭	聾 郡山養護 あぶくま養護 あぶくま養護(安積) 須賀川養護 西郷養護 石川養護
津	会	猪苗代 耶麻農業 西会津 会津第二 川口 田島 南会津 只見	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 大沼 坂下 会津農林	会津 葵 会津学鳳 若松商業 会津工業	聾(会津) 会津養護 会津養護(竹田) 猪苗代養護
いわき		いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 遠野 いわき翠の杜	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工業 平商業	聾(平) 平養護 いわき養護
双	相	双葉翔陽 新地 浪江(津島) 富岡(川内) 相馬農業(飯館)	双葉 浪江 富岡 相馬農業 小高商業 小高工業	相馬 相馬東 原町	富岡養護

別表②

高 校 名	群	適用年度	高 校 名	群	適用年度	高 校 名	群	適用年度
小 野	A	52	白 河 実 業	B	61	棚 倉	A	平成9
福 島 明 成	B	56	川 俣	A	平成2	東白川農商	A	〃
福 島 北	B	〃	福 島 商 業	B	〃	あさか開成	C	平成11
いわき海星	A	〃	梁 川	A	平成8	光 南	B	〃
磐 城 農 業	A	〃	船 引	A	〃	石 川	A	〃
勿 来 工 業	A	〃	いわき光洋	C	〃	いわき光洋	B	平成16
双 葉 翔 陽	A	〃	勿 来	A	〃			
猪 苗 代	A	58	相 馬 農 業	B	〃			

別表③

群 地域・地区		I	II
中	北	福島工業（定） 福島北 川俣 梁川 保原 保原（定） 安達 二本松工業 安達東 本宮 福島中央	普通系 福島 橘 福島西 福島東 福島南
			専門系 福島商業 福島明成 福島工業
	通	安積（御舘） 湖南 須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 長沼 岩瀬農業 石川 田村 船引 小野 小野（平田） 郡山萌世	普通系 安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成
り	南	光南 塙工業 修明 修明（鮫川） 白河二	普通系 白河 白河旭
			専門系 白河実業
会	津	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 猪苗代 耶麻農業 西会津 大沼 川口 坂下 会津農林 田島 南会津 只見 会津二	普通系 会津 葵 会津学鳳
		会津学鳳中学校	専門系 若松商業 会津工業
浜	わ	湯本 小名浜 いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 遠野 四倉 いわき翠の杜	普通系 磐城 磐城桜が丘 いわき光洋
			専門系 平工業 平商業 いわき総合
	り	浪江 浪江（津島） 富岡 富岡（川内） 双葉翔陽 相馬農業 相馬農業（飯舘） 小高商業 小高工業 新地	普通系 双葉 相馬 原町
	双		専門系 相馬東

(3) 教頭複数制実施校（平成22年度実績）

福島	橘	福島西	福島北
川俣	保原	安積	安積黎明
郡山東	郡山北工	郡山	須賀川
岩瀬農業	光南	白河	白河旭

白河実業	修明	田村	葵
会津学鳳	会津工業	喜多方桐桜	磐城
磐城桜が丘	平工業	平商業	いわき総合
湯本	勿来工業	原町	郡山萌世
いわき翠の杜			
盲	聾	大笹生養護	郡山養護
あぶくま養護	須賀川養護	会津養護	平養護
いわき養護			

3 学校の設置及び統廃合

一公立高等学校の設置・廃止等（平成23年度）一

(1) 学校の新設・廃止

学校廃止 全日制 1 校

富岡高等学校・川内校

(2) 学級増 なし

(3) 学級減 全日制 1 8 校 1 8 学級

課程	学校名	内 容
全日制	福島北 福島東 福島南 川俣 二本松工業 郡山商業 田村 白河旭 会津 葵 喜多方 平商業 湯本 勿来 四倉 浪江 双葉翔陽 相馬東	総合学科1学級 普通科1学級 国際文化科1学級 普通科1学級 情報システム科1学級 国際経済科1学級 普通科1学級 普通科1学級 普通科1学級 普通科1学級 普通科1学級 普通科1学級 流通ビジネス1学級 普通科1学級 普通科1学級 普通科1学級 普通科1学級 総合学科1学級 総合学科1学級

(4) 募集停止 全日制 1 校 1 学級

課程	学校名	内 容
全日制	会津農林	生活経営科

(5) 35人学級編 全日制 3 校 6 学級

課程	学校名	内 容
全日制	川口 南会津 只見	普通科2学級 普通科2学級 普通科2学級

(6) 課程廃止 なし

(7) 学科転換・学科改編 なし

(8) 学科名変更 なし

(9) 校名変更 なし

(10) 連携型中高一貫教育校

課程	学校名	連携中学校
全日制	塙工業 田島 富岡 相馬東	塙 田島、檜沢、荒海 富岡第一、富岡第二、檜葉、広野 玉野、中村第一、中村第二、向陽、磯部

(11) 併設型中高一貫教育校

会津学鳳高等学校（会津学鳳中学校）

(12) 定時制・通信制 変更なし

(13) 専攻科 変更なし

第2節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、ティーム・ティーチングや習熟度別学習指導などを通じて生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

(2) 指導組織

学習指導課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、県立高校教諭38名を学校教育指導委員に指名し、各教科の指導活動の充実強化を図った。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 文部科学省指定研究校(研究開発学校)における研究実践の推進を図り、その成果の普及に努めた。

a 教科・科目の目標を明確にとらえ、指導内容を重点化して基礎学力の充実を図ること。

b 個性の伸長を図るために、一人一人の生徒の個性の理解に努めるとともに、指導の改善を図るなど、学習指導の個別化に努めること。

c 学習効果を高めるための評価の方法について研究し、改善を図ること。

d 分かりやすく、かつ質の高い授業の構築を目指して、授業の改善を図ること。

イ 学力向上を図る。

「英語・数学グレードアップ事業」を実施し、英語・数学の学力を向上させ、国立大学等への合格者の増加を図る。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一步調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導・特別活動担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実並びに情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

(4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

(エ) 経験者研修Ⅰ・Ⅱの対象教員等の授業改善を図るために、指導主事による学校訪問を実施した。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

- (エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。
- (オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

エ 使命感の高揚

- (ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。
- (イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事務防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。
- (ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

(5) 教育環境の整備充実

ア 学習環境の整備充実

- (ア) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。
- (イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。
- (ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

イ 学校事故防止の徹底

- (ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。
- (イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。
- (ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

(6) 県立高等学校入学者選抜

ア 基本方針

平成23年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

(ア) I期選抜

I期選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、面接の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）の結果、実技等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

- b I期選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多角的に評価するための資料の一つとして面接の結果を積極的に活用するものとする。

このため、面接の内容としては、受験生の個性や

学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

- c I期選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

(イ) II期選抜

II期選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに面接を実施する高等学校においては面接の結果とを併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 学力検査を実施する教科は、全日制の課程においては、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とする。

定時制の課程においては、各高等学校の判断により、実施教科を減じることができるものとする。

- b 学力検査の問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された各教科の目標及び内容を踏まえて、基礎的・基本的な内容の確実な定着をみる出題を一層工夫するとともに、論述式の解答を求める出題や思考力・分析力を問う出題をさらに工夫するものとする。

- c 学力検査問題の配点については、各問の標準配点に留意しつつ、各高等学校の判断により配点ができるものとする。

- d 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

- e II期選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

具体的には、次のようにして合否判定を行う。

- (a) 学力検査と調査書の成績の比重を同等とする場合

学力検査と調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果に特に問題のない者を合格とする。次に、その他の者については、学力検査の成績と調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

- (b) 学力検査と調査書の成績の比重を変える場合

学力検査と調査書の成績のいずれか一方に一定の数値を掛けて両者を加えて得られた成績と、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

ただし、学力検査と調査書の成績の比重を変え

る場合には、学力検査の特定の教科への傾斜配点及び自己申告による傾斜配点は実施しないものとする。

- f 面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

(ウ) Ⅲ期選抜

Ⅲ期選抜は、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（会津学鳳高等学校においては、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

- a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。
- b Ⅱ期選抜における学力検査の成績は、Ⅲ期選抜の資料とはしないものとする。
- c Ⅲ期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

(エ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため連携型選抜を実施する。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書及び面接の結果を資料とする。
- なお、各連携型高等学校長の判断により、学校の特色や連携している内容に応じて、課題研究レポート、適性検査等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。
- b 連携型選抜においては、各連携型高等学校が連携型中高一貫教育にふさわしい入学者を選抜するため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。
- c 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が地域の特性

に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、Ⅰ期選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとする。

- d 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校のⅠ期選抜へ出願することはできない。

- e 実施期日については、Ⅰ期選抜と同日又はⅠ期選抜に近接した日とする。

なお、併設型中高一貫教育校である会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

イ 入学者選抜関係日程

- 6月9日 県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議（第1回）
- 7月15日 同上（第2回）
- 8月18日 同上（第3回）
- 8月18日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善に関する調査研究報告書提出
- 10月12日～10月15日 県北・県中・県南・会津・南会津・いわき・相双の7地区で入学者選抜実施要綱説明会実施
- 10月15日 平成23年度入学者募集定員決定

(ア) Ⅰ期選抜関係日程

- 1月18日～1月21日 出願書類受付
- 2月1日（2日） 面接等
- 2月4日 合格内定通知
- 2月8日～2月10日 入学確約書提出
- 3月14日 合格者発表

(イ) Ⅱ期選抜関係日程

- 2月14日～2月17日 出願書類受付
- 2月18日～2月22日 出願先変更
- 2月23日～2月24日 調査書提出
- 3月8日 学力検査
- 3月8日又は9日 面接等
- 3月16日 合格者発表（中通り及び会津地区）
- 3月22日 合格者発表（浜通り）

(ウ) Ⅲ期選抜関係日程（中通り及び会津地区のみ実施）

- 3月23日～3月25日 出願書類受付
- 3月28日 出願先変更
- 3月30日 面接等
- 3月31日 合格者発表

(エ) 連携型選抜関係日程

1月18日～1月21日 出願書類受付
 I期選抜と同日又はI期選抜に近接した日 面接等
 2月4日 合格内定通知
 2月8日～2月10日 入学確約書提出
 3月14日 合格者発表

(オ) 通信制の課程選抜日程

2月14日～3月25日 出願書類受付
 4月8日 合格者発表(個人宛通知)

(カ) 特例による通信制の課程選抜日程

4月11日～4月28日 出願書類受付
 5月2日 合格者発表(個人宛通知)
 5月2日～5月9日 転学手続き
 5月13日～5月17日 転入学考査
 5月19日 合格者発表(学校宛通知)

ウ 志願者数・合格者数

(ア) I期選抜及び連携型選抜の志願者数・合格者数は、平成23年2月10日現在の調査による。

(イ) II期選抜の志願者数は平成23年2月22日現在の調査による。

(ウ) II期選抜の合格者数は平成23年4月12日現在の調査による。

(エ) III期選抜の合格者数は平成23年4月13日現在の調査による。

◇ 各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科、国際・スポーツ科が含まれる。

() 内は平成22年度入試のもの。

(1) I期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	9,650	2,402	1,663	2,401	4,064	1.69	970	1,574	2,544
農 業	1,040	426	297	372	669	1.57	209	238	447
水 産	160	56	75	14	89	1.59	52	12	64
工 業	2,280	990	1,356	144	1,500	1.52	930	104	1,034
商 業	1,720	658	347	893	1,240	1.88	177	538	715
家 庭	40	14	1	16	17	1.21	1	15	16
総 合	1,440	495	264	598	862	1.74	167	367	534
計	16,330 (17,090)	5,041 (5,281)	4,003 (4,538)	4,438 (4,925)	8,441 (9,463)	1.67 (1.79)	2,506 (2,604)	2,848 (3,025)	5,354 (5,629)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	440	138	83	107	190	1.38	44	84	128
工 業	40	12	11	2	13	1.08	9	2	11
計	480 (480)	150 (150)	94 (112)	109 (146)	203 (258)	1.35 (1.72)	53 (56)	86 (92)	139 (148)

(2) 連携型選抜

学科	入学定員	連携型選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通	240	126	73	69	142	1.13	67	65	132
工業	120	36	7	3	10	0.28	7	3	10
総合	240	70	38	51	89	1.27	26	44	70
計	560 (600)	232 (246)	118 (144)	123 (152)	241 (296)	1.04 (1.20)	100 (103)	112 (131)	212 (234)

(3) II期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	9,650	6,974	3,791	3,828	7,619	1.09			6,266
農業	1,040	593	435	292	727	1.23			553
水産	160	96	71	15	86	0.90			69
工業	2,280	1,236	1,290	112	1,402	1.13			1,156
商業	1,720	1,005	445	755	1,200	1.19			959
家庭	40	24	3	15	18	0.75			18
総合	1,440	747	379	446	825	1.10			729
計	16,330 (17,090)	10,675 (11,142)	6,414 (6,889)	5,463 (5,756)	11,877 (12,645)	1.11 (1.13)	(5,664)	(4,596)	9,750 (10,260)

※避難指示の対象となった地域の県立高等学校については、可否判定不能のため、全員合格とした。

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通	440	312	129	128	257	0.82			179
工業	40	29	20	1	21	0.72			17
計	480 (480)	341 (332)	149 (198)	129 (131)	278 (329)	0.82 (0.99)	(107)	(92)	196 (199)

(4) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

学校名	学科名	定員	志願者数			合格者数		
			男	女	計	男	女	計
福島北	総合	若干名	2	1	3	2	1	3
福島南	国際文化	若干名	0	3	3	0	3	3
あさか開成	国際科学	若干名	0	1	1	0	1	1
光南	総合	若干名	2	0	2	2	0	2
会津学鳳	総合	若干名	2	0	2	2	0	2
湯本	英語	若干名	1	0	1	1	0	1
相馬東	総合	若干名	0	0	0	0	0	0

(5) Ⅲ期選抜

《全日制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通科等	527	143	68	211	97	42	139
農 業	23	12	0	12	6	0	6
水 産	0	0	0	0	0	0	0
工 業	68	20	5	25	17	5	22
商 業	24	1	4	5	0	2	2
家 庭	6	1	3	4	1	2	3
総 合	26	7	4	11	7	4	11
計	674 (882)	184 (324)	84 (205)	268 (529)	128 (225)	55 (165)	183 (390)

《定時制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普 通	80	21	10	31	16	8	24
工 業	12	9	2	11	7	2	9
計	92 (133)	30 (43)	12 (33)	42 (76)	23 (25)	10 (24)	33 (49)

※いわき・相双地区のⅢ期選抜は実施せず。

◇ Ⅲ期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科、国際・スポーツ科が含まれる。

() 内は平成22年度入試のもの。

《全日制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜 合 格 者 数 内 定 者 数	連携型選抜 合 格 者 数 内 定 者 数	Ⅱ期選抜 合格者数	Ⅲ期選抜 合格者数	合格者数	
						男	女
普通科等	9,650	2,544	132	6,266	139		
農 業	1,040	447		553	6		
水 産	160	64		69	0		
工 業	2,280	1,034	10	1,156	22		
商 業	1,720	715		959	2		
家 庭	40	16		18	3		
総 合	1,440	534	70	729	11		
計	16,330 (17,090)	5,354 (5,629)	212 (234)	9,750 (10,260)	183 (390)	(8,596)	(7,917)

《定時制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜 合 格 者 数 内 定 者 数	連携型選抜 合 格 者 数 内 定 者 数	Ⅱ期選抜 合格者数	Ⅲ期選抜 合格者数	合格者数	
						男	女
普 通	440	128		179	24		
工 業	40	11		17	9		
計	480 (480)	139 (148)		196 (199)	33 (49)	(188)	(208)

2 現職教育

(1) 各種研修並びに講習会

名 称	期日	期間	会 場	参加者
校長研修会	5.10 ～5.11	2日	教育センター	新任県立学校校長 18名
教頭研修会	5.17 ～5.18	2日	教育センター	新任県立学校教頭28名
教職経験者 研修Ⅲ (中堅教員 研修)	10.27 ～ 10.29	3日	教育センター	教務主任、学年主任等の 中堅教員(学校運営上、 主要な職にある者) 71名
初任者研修 (第1次)	4.21 ～4.23	3日	教育センター	21年度高等学校初任 者研修対象教員 85名
〃 (第2次)	2.15 ～2.17	3日	教育センター	
〃 (教科別 研修)	(1班) 9.15 ～9.17	3日	・農業・水産 (磐城農業) ・理 科 (川俣) ・国 語 (小高商業) ・数 学 (葵) ・商 業 (小名浜) ・地歴・公民 (船引)	
	(2班) 9.29 ～10.1	3日	・英語 (福島南) ・工業 (平工業) ・保健体育 (勿来)	
	(3班) 10.27 ～10.29	3日	・美術 (相馬・相馬東) ・音 楽 (平商業・いわ き光洋) ・家 庭 (只見)	
	〃 (基本研修)	4.5 ～4.6	教育センター	
	〃 (地区別 研修)	4月～ 12月	各地区施設 学 校 等	
〃 (所属校に おける研修)	4月 ～3月	180 時間	各所属校	

名 称	期日	期間	会 場	参加者
経験者研修 I	(1班) 10.18 ～10.20 (2班) 10.20 ～10.22	3日	教育センター	県立学校教職経験5年 を経過した者 46名
各所属校に おける研修	5月 ～12月	5日 程度	各所属校	
経験者研修 II (第1次)	4.13	1日	教育センター	県立学校教職経験10年 を経過した者 73名
共 通				
教科指導 I	(1班) 7.14 ～7.15	2日		
教科指導 II	(1班) 2.7 ～2.8 (2班) 2.9 ～2.10			
授業の実践 I	8月 ～12月	1日	各会場校	
各所属校に おける研修	4月 ～1月	15日 程度	各所属校	
社会体験研修 (4地区)	4月 ～1月	3日	各所施設等	
新任教務主 任研修会	8.5	1日	磐城農業高校	新任教務主任のみ 22名
	8.20	1日	福島工業高校	
	8.20	1日	安積黎明高校	

(2) 教員体験研修 (2か月)

派遣者及び派遣先

郡山萌世高等学校	教諭	荒 敏子	ハマツ観光株式会 社
----------	----	------	---------------

3 教育課程

(1) 高等学校教育課程説明会

平成22年度は実施せず。

(2) 福島県高等学校教育課程講習会

ア 目的

新高等学校学習指導要領について、その趣旨の説明及び必要な研究協議を行い、高等学校教育の改善充実を図る。

イ 主催

文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日・会場・参加者数

地 区	期 日	会 場	参加者数
いわき・相双	8月3日	双葉翔陽高等学校	305
県中・県南	8月4日	清陵情報高等学校	446
県北	8月5日	福島南高等学校	273
会津・南会津	8月6日	会津学鳳高等学校	208
合 計			1,232

エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

部 会	参加者数	部 会	参加者数
総 則	60	外 国 語	150
国 語	136	家 庭	96
地理歴史	79	情 報	32
公 民	21	農 業	50
数 学	144	商 業	118
理 科	96	水 産	11
保健体育	101	福 祉	3
音 楽	29	計	1,232
美術・工芸	13		

(3) 情報教育の充実

ア 情報教育研修

(ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ 情報処理関係学科の設置状況

農 業	生産情報	福島明成、岩瀬農業
	情報技術	郡山北工業、平工業、会津工業
工 業	情報電子	清陵情報、福島工業
	情報システム	二本松工業
商 業	情報処理	福島商業、郡山商業、清陵情報、小高商業
	情報会計	福島南、本宮、清陵情報
	情報ビジネス	白河実業、若松商業
	経営情報	福島商業
	オフィス情報	須賀川
	情報マネジメント	修明
	情報システム	喜多方桐桜・平商業
水 産	情報通信	いわき海星

(4) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 29名

イ 配 置 ○県内21の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導

○県内7つの高校に各1名、県立中学校に1名配置、専任教員における指導

4 学力向上対策等

(1) 平成22年度文部科学省指定各種研究校

研究種別	学校名	指定年度	研究主題
スーパースサイエンスハイスクール	福島	19～23	大学や研究機関と連携して科学技術分野の先端的な研究にふれながら、地球的な視野で人間・社会・自然のさまざまな事象を科学的に探究しようとする態度を育成するとともに、過去の真理探究の歴史と人類全体の進歩への情熱に学んだ豊かな教養と人間性、倫理性をもった人材を育成するための研究
	会津学鳳	22～26	大学、研究機関、地元企業の協力のもとに、高度なコンピュータリテラシーをそなえ、国際化、情報化社会に夢ひらく豊かな創造性を持ち科学技術分野で活躍できる人材を、中学校・高等学校・大学の連携体制を通して育成するプログラムの研究開発

(2) 学力向上プロジェクト事業（英語・数学グレードアップ事業）

ア 学力向上推進プラン

高等学校において、英語、数学の学力の向上を図り、国公立大学等への合格者数を増やす。

（対象校14校）

福島、橘、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、白河、会津、会津学鳳、磐城、磐城桜が丘、いわき光洋、原町

イ 合同学習会

震災のため実施できず。

(3) 「確かな学力」向上プラン

ア 「確かな学力」向上のための基礎力育成プラン

高等学校において、多様な進路希望を持つ生徒が「確かな学力」だけでなく社会人としての基礎力を育成し、望ましい勤労観、職業観を育む。

(対象25校)

福島明成、梁川、安達東、清陵情報、長沼、光南、
白河旭、塙工業、船引、喜多方、喜多方東、猪苗代、
大沼、川口、坂下、田島、南会津、只見、小名浜、
いわき海星、遠野、富岡、富岡川内、相馬東、新地

県知事臨席校 3月1日 小名浜高等学校
〃 いわき海星高等学校
県議会議長臨席校 3月1日 安積高等学校
県議会副議長臨席校 3月1日 葵高等学校
県教育長臨席校 3月1日 富岡高等学校川内校

5 生徒指導・進路指導

(1) 教育事務所指導主事の活動

県内7地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

- ア 地区内の高等学校の訪問指導(計画・随時)
- イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助
- ウ 関係諸機関、諸団体との連携
- エ 生徒指導関係の情報と資料の収集
- オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

(2) スクールカウンセラーの配置

スクールカウンセラー配置校(45校)

福島明成、福島工業、福島北、福島東、川俣、梁川、
保原、二本松工業、安達東、本宮、安積(御館校含む)、
あさか開成、湖南、須賀川桐陽、清陵情報、長沼、
岩瀬農業、光南、白河実業、修明(鮫川校含む)、
石川、船引、小野(平田校含む)、葵、田島、喜多方東、
喜多方桐桜、耶麻農業、川口、会津農林、いわき総合、
小名浜、いわき海星、磐城農業、勿来、勿来工業、遠野、
四倉、浪江(津島校含む)、富岡(川内校含む)、
双葉翔陽、相馬農業(飯館校含む)、新地、郡山萌世、
いわき翠の杜

6 学校行事

(1) 卒業式

ア 県立高等学校卒業生数

性別	男	女	計
全日制	8,276	7,772	16,048
定時制	121	160	281
通信制	92	168	260
計	8,489	8,100	16,589

イ 卒業式実施期日

種別	全日制	定時制	通信制	計
3月1日	88	5	0	93
3月2日	1	1	0	2
3月3日	0	1	0	1
3月6日	0	0	1	1
計	89	7	1	97

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

(2) 修学旅行

県立高等学校()は前年度

ア 参加生徒総数 15,807人(16,379人)

イ 参加率 92.0%(96.3%)

ウ 行先

行先	北海道	関東	奈良 京都	近畿 中部	中国 近畿	九州	沖縄	海外
校数	5 (5)	1 (0)	31 (37)	0 (0)	17 (10)	4 (4)	29 (33)	6 (4)

エ 航空機利用 61校(67校)

北海道方面 5校(5校)

大阪方面 17校(21校)

九州方面 4校(4校)

沖縄方面 29校(33校)

海外 6校(4校)

オ 泊日数

1泊2日 0校(0校)

2泊3日 4校(4校)

3泊4日 76校(76校)

4泊5日 13校(13校)

カ 必要経費

生徒一人当たりの最高額 125,000円(120,687円)

最低額 69,294円(64,864円)

平均額 93,267円(95,440円)

キ 引率責任者

校長 39校(35校)

教頭 54校(58校)

7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

平成22年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

ア 平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	佐久間 智子	教諭	福島明成高等学校	静岡県三島市商工会議所	8月9日～8月13日
工業	佐藤 智美	教諭	勿来工業高等学校	富士ソフトアキバプラザ	8月3日～8月6日
商業	中 島 裕	教諭	小高商業高等学校	千葉商科大学	7月26日～7月30日
水産	菅原 孝夫	実習講師	いわき海星高等学校	茨城県立海洋高等学校	8月23日～8月27日
家庭	清野 志保	教諭	小野高等学校	家庭部会事務局	7月20日～7月23日
情報	吉田 克弘	教諭	岩瀬農業高等学校	千葉商科大学	7月26日～7月30日

イ 平成22年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	小野 浩嗣	教諭	白河実業高等学校	国立オリンピック記念 青少年総合センター	8月2日～8月4日
家庭	水添 智子	教諭	湯本高等学校	国立オリンピック記念 青少年総合センター	7月26日～7月27日

ウ 平成22年度産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
理科	猪股 一教	教諭	喜多方高等学校	福島大学	7月1日～9月30日
理科	高橋 信幸	教諭	浪江高等学校津島校	福島大学	7月1日～9月30日

8 学校訪問

(1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

(2) 訪問校

経験者研修Ⅰ、又は経験者研修Ⅱの該当者の勤務する学校から数校を選定する。

(3) 訪問学校一覧

福島商業高等学校	公民
福島明成高等学校	農業
福島北高等学校	国語
福島南高等学校	体育、商業
川俣高等学校	公民
保原高等学校	学校保健
安達高等学校	国語、体育
二本松工業高等学校	工業
安積黎明高等学校	地理歴史、理科
須賀川桐陽高等学校	数学
清陵情報高等学校	工業
岩瀬農業高等学校	英語
白河高等学校	理科
葵高等学校	数学
喜多方高等学校	地理歴史
喜多方東高等学校	国語
川口高等学校	家庭
会津農林高等学校	体育
田島高等学校	英語
平工業高等学校	工業
いわき光洋高等学校	理科
勿来高等学校	国語、理科
勿来工業高等学校	工業
遠野高等学校	家庭
双葉高等学校	数学
浪江高等学校	美術
双葉翔陽高等学校	商業
相馬東高等学校	英語
原町高等学校	体育
相馬農業高等学校	農業
須賀川養護学校郡山分校	学校保健

9 県立高等学校学校教育指導委員

教科名	氏 名	職名	学校名
国 語	佐藤 幸雄	教諭	安積高等学校
	佐々木 義史	教諭	双葉高等学校
	本田 一弘	教諭	葵高等学校
地理・歴史	緑川 悟史	教諭	福島高等学校
	小沼 仁一	教諭	磐城桜が丘高等学校
公 民	西田 直人	教諭	福島明成高等学校
	目黒 徹	教諭	安積高等学校
数 学	滝沢日佐人	教諭	郡山東高等学校
	佐藤 和義	教諭	相馬農業高等学校飯館校
	古川 和則	教諭	喜多方高等学校
理 科	佐藤 伸郎	教諭	福島東高等学校
	平山 勝則	教諭	小野高等学校平田校
	猪俣 豊	教諭	葵高等学校
	伊藤 哲章	教諭	磐城農業高等学校
保健体育	佐藤 真一	教諭	福島明成高等学校
	佐藤 雄治	教諭	双葉高等学校
	佐藤 理恵	教諭	福島高等学校
	江本 恵	教諭	喜多方高等学校
芸術(美術)	真柴 毅	教諭	本宮高等学校
	(音楽) 草野 嘉津子	教諭	郡山北工業高等学校
(書道)	佐藤 真紀	教諭	会津学鳳高等学校
英 語	内海 雅伸	教諭	白河実業高等学校
	田中 幹大	教諭	会津学鳳高等学校
	高城 賢哉	教諭	新地高等学校
家 庭	目時 千夏	教諭	小野高等学校
	五十嵐 慶子	教諭	会津農林高等学校
情 報	高倉 聡	教諭	いわき光洋高等学校
	小野寺 充	教諭	船引高等学校
農業・水産	久保木 均	教諭	岩瀬農業高等学校
	齋藤 泰靖	教諭	会津農林高等学校
	坂井 聖治	教諭	磐城農業高等学校
工 業	木村 勝人	教諭	福島工業高等学校
	福田 俊彦	教諭	二本松工業高等学校
	永山 広克	教諭	郡山北工業高等学校
商 業	鈴木 哲	教諭	会津工業高等学校
	白坂 正広	教諭	福島商業高等学校
定 通	車田 浩一	教諭	白河実業高等学校
	戸田 徳恵	教諭	会津第二高等学校
学校保健	鈴木 二美恵	養護教諭	須賀川高等学校
	渡邊 純子	養護教諭	会津養護学校

(40名)

10 教科用図書

(1) 教科書採択事務説明会

平成22年度は実施せず。

11 教育研究団体

(1) 福島県高等学校長協会

組織

平成22年度福島県高等学校長協会役員名簿

役職名	氏 名
会長	近藤 猛 (橘)
副会長	鈴木 仁 (安積)
副会長	渡部 裕一 (会津)
副会長	山ノ内壽太郎 (磐城)
副会長	日下部文紀 (相馬)
監査	佐藤 静子 (福西)
監査	星 浩次 (福南)
事務局長	平岩 典男 (福東)

支部

支 部	支部長	副支部長
県 北	近藤 猛 (橘)	岩渕 賢美 (福商) 富田 昭夫 (福島)
県 南	鈴木 仁 (安積)	杉 昭重 (黎明) 遠藤 秀雄 (郡山)
会 津	渡部 裕一 (会津)	秋山 芳廣 (大沼) 新田 銀一 (葵)
いわき	山ノ内壽太郎 (磐城)	雪下 芳昭 (湯本) 沼田 賢二 (小浜)
相 双	日下部文紀 (相馬)	山崎伊佐夫 (双葉) 遠藤 光 (相東)

理事会

	氏 名
理事会	近藤 猛 (橘) 富田 昭夫 (福島) 鈴木 仁 (安積) 岩渕 賢美 (福商) 渡部 裕一 (会津) 小澤 義喜 (明成) 山ノ内壽太郎 (磐城) 本橋 信一 (福工) 日下部文紀 (相馬) 渡邊 世子 (郡養) 平岩 典男 (福東)

専門委員会

◎印 委員長 ○印 副委員長

専門委員会	氏 名
管 理	◎青山 修身(修明) ○安藤 俊典(盲)
運 営	小澤 義喜(明成) 本橋 信一(福工)
委員会	兼田 信男(郡北) 三瓶 准一(白河)
	渡邊 望(塙工) 緑川 孝夫(聾)
	大和田久男(若商) 佐藤 淳一(耶農)
	真部 知子(会養) 箱崎 温夫(海星)
	菊地恵美子(い養) 山崎 亨(相養)
	近藤 猛 (橘)

◎印 委員長 ○印 副委員長

専門委員会	氏 名
教 育 課 題 委員会	◎畠 恵治(南会) ○菅野 元一(岩農) 菅田 健夫(保原) 鈴木 英雄(大笹) 菅野 正行(田村) 渡邊 恵一(石養) 神谷 仁 (川口) 鈴木 則喜(平工) 水野 晴夫(磐農) 鈴木 吉重(浪江) 大関 彰久(富養) 鈴木 仁(安積)
生 徒 指 導 委員会	◎遠藤 光(相東) ○吉田会津夫(萌世) 若林 吉男(福北) 湯田 恒弥(松工) 丹藤 茂 (あ開) 須田 晃雄(長沼) 渡邊 世子(郡養) 荒井 一成(猪代) 山崎 浩三(田島) 若菜 靖彦(猪養) 鎌倉 雅臣(勿来) 根本 和次(勿工) 渡部勢津子(翠杜) 佐藤 洋光(新地)
教 育 課 程 委員会	◎渡邊 州(梁川) ○二本松義公(相農) 星 浩次(福南) 志賀 一成(須桐) 柳沼 陽一(光南) 内田 貞俊(白実) 高坂 均(あ養) 小浜宗一郎(喜東) 鈴木 健司(只見) 本間 悦男(好間) 田村 秀夫(遠野) 山ノ内壽太郎(磐城)
高 校 入 試 検 討 委員会	◎阿部 隆(清陵) ○菅野 誠(安達) 古川 洋子(本宮) 坂爪 靖夫(湖南) 青田 誠(船引) 高屋 隆男(須養) 阿部 光成(西会) 秋山 芳廣(大沼) 田辺 英憲(坂下) 鈴木 浩一(い総) 雉子波敏司(四倉) 譽田 秀隆(富岡) 小野寺典子(双翔) 日下部文紀(相馬)
大 学 入 試 対 策 委員会	◎玉川 一郎(郡東) ○佐藤 静子(福西) 富田 昭夫(福島) 平岩 典男(福東) 杉 昭重(黎明) 遠藤 秀雄(郡山) 湯田 嘉朗(白旭) 新田 銀一(葵) 荒井 光廣(学鳳) 村越 洋子(喜方) 守谷 早苗(桜丘) 田代 公啓(光洋) 雪下 芳昭(湯本) 山崎伊佐夫(双葉) 八巻 義徳(原町) 渡部 裕一(会津)
就 職 指 導 対 策 委員会	◎東 陽一 (郡商) ○羽二生幸雄(会工) 岩渕 賢美 (福商) 佐藤 和紀 (川俣) 滝沢 弘明 (安東) 猪狩 幸一 (須川) 久保木勇三 (石川) 原田 宏明 (小野) 小野 誠子 (西養) 菅野 貴夫 (喜桐) 菅野 直芳 (会農) 橋本 清輝(平商) 沼田 賢二(小浜) 吉田 政勝(平養) 斎藤 貢一(小商) 伊藤 裕隆(小工)

部会長

部 会	氏 名
普 通 部 会	富田 昭夫（福島）
商 業 部 会	岩渕 賢美（福島商業）
農 業 部 会	小澤 義喜（福島明成）
工 業 部 会	本橋 信一（福島工業）
水 産 部 会	箱崎 温夫（いわき海星）
家 庭 部 会	小野寺典子（双葉翔陽）
定 通 部 会	吉田会津夫（郡山萌世）
特別支援部会	渡邊 世子（郡山養護）
理 数 部 会	三瓶 准一（白河）
英語国際部会	星 浩次（福島南）
体 育 部 会	菅野 正行（田村）
総合学科部会	柳沼 陽一（光南）

全国校長会

部 会	氏 名
理 事	近藤 猛（橘）
理 事	鈴木 仁（安積）
理 事	山ノ内壽太郎（磐城）
管理運営	青山 修身（修明）
教育課題	畠 恵治（南会津）
生徒指導	遠藤 光（相馬東）
教育課程	渡邊 州（梁川）
大学入試	玉川 一郎（郡山東）
就職対策	東 陽一（郡山商業）
同和教育	遠藤 光（相馬東）

役職名	氏名	所属校・職名
幹 事	皆川 正信	〃 福島商業高等学校教頭
〃	白坂 正広	〃 福島商業高等学校教諭
〃	高橋 忠明	〃 福島商業高等学校教諭
〃	高原 清香	〃 福島商業高等学校実習講師

(イ) 部会

部会名	部会長氏名	所属校・職名	会員数
養護教諭	富田 昭夫	福島高等学校長	156
保健体育	鈴木 則喜	平工業高等学校長	250
理 科	湯田 嘉朗	白河旭高等学校長	520
音 楽	荒井 一成	猪苗代高等学校長	96
農 業	小澤 義喜	福島明成高等学校長	236
工 業	本橋 信一	福島工業高等学校長	453
商 業	岩渕 賢美	福島商業高等学校長	364
定 通	本橋 信一	福島工業高等学校長	156
英 語	山ノ内壽太郎	磐城高等学校長	563
数 学	鈴木 仁	安積高等学校長	533
家 庭	羽二生 幸雄	会津工業高等学校長	177
美術工芸	原田 宏明	小野高等学校長	73

○会員数 3,577名

○平成22年度予算 8,906,793円

(2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(ア) 本部

平成22年度福島県高等学校教育研究会

役職名	氏名	所属校・職名
会長	岩渕 賢美	福島県立福島商業高等学校長
副会長	鈴木 仁	〃 安積高等学校長
〃	湯田 嘉朗	〃 白河旭高等学校長
委員	富田 昭夫	〃 福島高等学校長
〃	菅野 正行	〃 田村高等学校長
〃	小澤 義喜	〃 福島明成高等学校長
〃	本橋 信一	〃 福島工業高等学校長
〃	山ノ内壽太郎	〃 磐城高等学校長
〃	羽二生 幸雄	〃 会津工業高等学校長
〃	原田 宏明	〃 小野高等学校長
監査	佐藤 静子	〃 福島西高等学校長
〃	近藤 猛	〃 橘高等学校長

第7章 特別支援教育

第1節 学校管理

1 児童生徒数と教職員定数

(1) 児童生徒数の推移

種 別	部/年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
視覚障がい 特別支援学校	小学部	17	16	11	11	11	12	8	8	10	9
	中学部	9	14	14	14	8	5	11	12	10	7
	高等部	31	32	34	34	36	36	39	28	29	32
	計	57	62	59	59	55	53	58	48	49	48
聴覚障がい 特別支援学校	幼稚部	13	23	19	16	10	13	13	14	17	17
	小学部	55	52	51	45	42	39	33	35	35	44
	中学部	25	23	23	27	28	24	24	21	24	20
	高等部	14	21	29	29	25	24	27	25	23	24
	計	104	119	122	117	105	100	97	95	99	105
知的障がい 特別支援学校	小学部	437	435	439	364	427	457	460	462	464	493
	中学部	288	277	292	273	317	330	354	385	408	376
	高等部	393	450	451	404	479	546	601	657	670	746
	計	1,118	1,162	1,182	1,041	1,223	1,333	1,415	1,504	1,542	1,615
肢体不自由 特別支援学校	小学部	143	135	137	119	115	113	117	114	118	119
	中学部	87	81	73	76	71	80	67	77	73	71
	高等部	106	97	96	97	91	86	91	84	90	78
	計	336	313	306	292	277	279	275	275	281	268
病弱 特別支援学校	小学部	49	43	45	39	34	29	26	30	29	37
	中学部	51	52	57	45	43	39	39	39	40	36
	高等部	62	48	40	58	62	58	40	42	40	45
	計	162	143	142	142	139	126	105	111	109	118
計		1,780	1,799	1,811	1,651	1,799	1,891	1,950	2,033	2,080	2,154

※1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

(2) 平成22年度児童生徒数

(H22. 5. 1 学校基本調査、含む訪問学級)

部・学年		幼稚園部	小学部							中学部				高等部							専攻科	合計	総計
種別	性別													本科									
			1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	1	2	3	計						
視覚障がい 特別支援学校	男		0	1	1	1	1	1	5	2	0	2	4	6	2	4	12	8	20	29			
	女		0	1	1	1	1	0	4	2	0	1	3	4	3	3	10	2	12	19			
	計		0	2	2	2	2	1	9	4	0	3	7	10	5	7	22	10	32	48			
聴覚障がい 特別支援学校	男	8	7	5	6	1	4	3	26	2	5	5	12	7	3	2	12			58			
	女	9	2	2	4	5	1	4	18	2	5	1	8	3	4	5	12			47			
	計	17	9	7	10	6	5	7	44	4	10	6	20	10	7	7	24			105			
知的障がい 特別支援学校	男		58	57	48	66	59	49	337	78	94	86	258	187	143	135	465			1,060			
	女		23	26	29	18	22	21	139	25	43	41	109	93	68	78	239			487			
	計		81	83	77	84	81	70	476	103	137	127	367	280	211	213	704			1,547			
肢体不自由 特別支援学校	男		14	14	10	15	13	7	73	14	12	13	39	15	21	13	49			161			
	女		8	7	7	5	10	9	46	6	12	14	32	8	13	8	29			107			
	計		22	21	17	20	23	16	119	20	24	27	71	23	34	21	78			268			
病 弱 特別支援学校	男		2	5	1	4	2	8	22	4	8	6	18	9	4	8	21			61			
	女		1	2	4	2	1	5	15	5	7	6	18	9	6	9	24			57			
	計		3	7	5	6	3	13	37	9	15	12	36	18	10	17	45			118			

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

(3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

種 別 年 度		盲 学 校 ・ 聾 学 校										養 護 学 校									
		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
教 員	校 長	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12
	教 頭 ・ 教 諭	119	123	127	120	117	115	117	114	122	123	745	776	797	808	836	853	868	882	887	948
	養 護 教 諭	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	17	17	18	23	23	23	23	23	23	24
	兼 任 主 事																				
	補 充 教 員	6	8	5	8	7	8	9	11	7	10	94	71	46	58	98	71	94	120	148	147
	講 師																				
	寄 宿 舎 指 導 員	21	26	27	28	26	25	25	22	24	24	27	28	28	29	29	28	32	31	30	31
	実 習 助 手	8	8	8	8	8	8	6	8	8	8	22	22	22	22	22	22	22	22	22	24
計		159	170	172	170	164	162	163	161	167	171	916	925	922	951	1,019	1,008	1,050	1,089	1,121	1,186
事 務 職 員		11	11	11	11	11	11	11	11	11	10	43	44	45	45	46	47	46	45	44	48
雇 用 人	技 能 労 務 員																				
	学 校 司 書																				
	用 務 員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	9	8	8	9	9	9	8	8	8	6
	ボ イ ラ ー 技 師	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	1	1	1	0	0	1	1	1	2
	栄 養 職 員			2	1			2	2	2	2	1	1		1	2	3	4	6	6	7
	調 理 給 食 員														1						
	技 能 訓 練 士																				
	マ ッ サ ー ジ 師																				
	運 転 士	1	1	1	1	1						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	計	5	5	7	6	5	4	6	5	6	6	12	11	10	13	12	13	14	16	16	16
合 計		175	186	190	187	180	178	180	177	184	187	971	980	977	1,009	1,077	1,068	1,110	1,150	1,181	1,250

種 別 年 度		計									
		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
教 員	校 長	13	13	13	13	13	13	13	13	13	14
	教 頭 ・ 教 諭	864	899	924	928	953	968	985	996	1,009	1,071
	養 護 教 諭	20	20	21	27	27	27	27	27	27	28
	兼 任 主 事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	補 充 教 員	100	79	51	66	105	79	103	131	155	157
	講 師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄 宿 舎 指 導 員	48	54	55	57	55	53	57	53	54	55
	実 習 助 手	30	30	30	30	30	30	28	30	30	32
計		1,075	1,095	1,094	1,121	1,183	1,170	1,213	1,250	1,288	1,357
事 務 職 員		54	55	56	56	57	58	57	56	55	58
雇 用 人	技 能 労 務 員										
	学 校 司 書										
	用 務 員	11	10	10	11	11	11	10	10	10	8
	ボ イ ラ ー 技 師	3	3	3	3	2	2	3	2	3	4
	栄 養 職 員	1	1	2	2	2	3	6	8	8	9
	調 理 給 食 員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	技 能 訓 練 士										
	マ ッ サ ー ジ 師										
	運 転 士	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1
計		17	16	17	19	17	17	20	21	22	22
合 計		1,146	1,166	1,167	1,196	1,257	1,245	1,290	1,327	1,356	1,437

2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

(1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

障 が い 種 別	種 別 校 名	幼 稚 部		小 学 部		中 学 部		高 等 部				計	
								本 科		専 攻 科			
		学 級 数	幼 児 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	生 徒 数	学 級 数	生 徒 数	学 級 数	生 徒 数	学 級 数	児 童 生 徒 数
視 覚	県立盲学校			4	9	3	7	7	22	3	10	17	48
	小 計			4	9	3	7	7	22	3	10	17	48
聴 覚	県立聾学校	3	7	6	20	6	20	8	24			23	71
	県立聾学校福島分校	2	4	4	11							6	15
	県立聾学校会津分校	1	1	1	2							2	3
	県立聾学校平分校	2	5	5	11							7	16
	小 計	8	17	16	44	6	20	8	24			38	105
知 的 障 が い	県立大笹生養護学校			19	52	11	41	18	78			48	171
	県立あぶくま養護学校			27	85	23	85	35	180			85	350
	県立あぶくま養護学校安積分校			7	18	5	12					12	30
	県立西郷養護学校			10	28	7	26	8	40			25	94
	県立石川養護学校			14	34	9	23	10	55			33	112
	県立会津養護学校			18	60	11	49	20	94			49	203
	県立猪苗代養護学校			5	16	3	8	4	14			12	38
	県立いわき養護学校			27	82	15	52	20	100			62	234
	県立富岡養護学校			14	44	7	25	10	42			31	111
	県立相馬養護学校			5	17	4	9	7	42			16	68
	福島市立福島養護学校			11	42	7	31	14	78			32	151
	小 計			157	478	102	361	146	723			405	1,562
肢 体 不 自 由	県立郡山養護学校			29	76	15	40	18	46			62	162
	県立平養護学校			18	43	12	31	13	32			43	106
	小 計			47	119	27	71	31	78			105	268
病 弱	県立須賀川養護学校			6	16	7	16	15	45			28	77
	県立須賀川養護学校医大分校			3	15	3	6					6	21
	県立須賀川養護学校郡山分校			2	2	3	9					5	11
	県立会津養護学校竹田分校			1	4	2	5					3	9
	小 計			12	37	15	36	15	45			42	118
合 計		8	17	236	687	153	495	207	892	3	10	607	2,101

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別	小学校							中学校							計		
	種別 内容	弱視	難聴	知的 障がい	病弱	肢体 不自由	言語 障がい	情緒 障がい	小計	弱視	難聴	知的 障がい	病弱	肢体 不自由	言語 障がい		情緒 障がい	小計
県北	学校数		2	53		1		21	77		1	35	1	1		15	53	130
	学級数		2	60		1		23	86		1	39	1	1		16	58	144
	児童生徒数		4	227		3		94	328		1	145	1	8		45	200	528
県中	学校数		2	58				26	86			29		1		15	45	131
	学級数		2	59				28	89			29		1		15	45	134
	児童生徒数		3	193				124	320			94		1		39	134	454
県南	学校数			25				3	28	1	1	13				2	17	45
	学級数			26				3	29	1	1	13				2	17	46
	児童生徒数			74				4	78	1	1	49				2	53	131
会津	学校数			26				5	31			12				3	15	46
	学級数			27				6	33			13				3	16	49
	児童生徒数			105				27	132			26				6	32	164
南会津	学校数			7				1	8			3				1	4	12
	学級数			7				1	8			3				1	4	12
	児童生徒数			14				2	16			6				2	8	24
相双	学校数		1	29		1		12	43			18				5	23	66
	学級数		1	29		1		13	44			19				5	24	68
	児童生徒数		1	108		1		42	152			65				13	78	230
いわき	学校数	1		30		1		11	43	1		18				6	25	68
	学級数	1		34		1		11	47	1		20				6	27	74
	児童生徒数	1		141		2		41	185	1		81				20	102	287
計	学校数	1	5	228	0	3	0	79	316	2	2	128	1	2	0	47	182	498
	学級数	1	5	242	0	3	0	85	336	2	2	136	1	2	0	48	191	527
	児童生徒数	1	8	862	0	6	0	334	1211	2	2	466	1	9	0	127	607	1818

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別	小学校								中学校								計
	種別 内容	弱視	難聴	言語 障がい	自閉症	情緒 障がい	L D	ADHD	小計	弱視	難聴	言語 障がい	自閉症	情緒 障がい	L D	ADHD	小計	
県北	学 校 数			5	1		2	3	11				1		1	1	3	14
	学 級 数			8	2		3	3	16				1		1	1	3	19
	児童生徒数			134	44		55	42	275				3		7	9	19	294
県中	学 校 数		1	2				4	7			1					1	8
	学 級 数		1	3				4	8			1					1	9
	児童生徒数		13	35				20	68			7					7	75
県南	学 校 数							1	1								0	1
	学 級 数							1	1								0	1
	児童生徒数							5	5								0	5
会津	学 校 数			1				1	2								0	2
	学 級 数			2				1	3								0	3
	児童生徒数			23				5	28								0	28
南会津	学 校 数								0								0	0
	学 級 数								0								0	0
	児童生徒数								0								0	0
相双	学 校 数			3				2	5								0	5
	学 級 数			6				3	9								0	9
	児童生徒数			117				32	149								0	149
いわき	学 校 数			2		1		1	4			1					1	5
	学 級 数			4		1		1	6			1					1	7
	児童生徒数			67		9		13	89			6					6	95
計	学 校 数	0	1	13	1	1	2	12	30	0	0	2	1	0	1	1	5	35
	学 級 数	0	1	23	2	1	3	13	43	0	0	2	1	0	1	1	5	48
	児童生徒数	0	13	376	44	9	55	117	614	0	0	13	3	0	7	9	32	646

(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数

年 度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
対象児童生徒数	76	80	77	75	89	69	90	80	69	58	55	54	49	50	43	42	39
担 当 教 員 数	33	35	33	36	41	36	45	36	41	33	33	35	27	27	27	27	30

(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移

年 度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
猶 予 者 数	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
免 除 者 数	4	4	5	7	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成22年度の県立特別支援学校教職員の定数は、前年比67人増の1,355人となった。このうち、教諭等は、前年比62人増の1,226人である。

ア 新採用について

特別支援学校の新採用志願者数は、前年比114人増の333人であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は54人であり、52名が教諭として採用された。

イ 交流について

同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含め111人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流(転入)は26人で、高等学校との交流(転入)は15人であった。教育効果の向上が期待される。

(2) 平成22年度県立特別支援学校教員異動・交流基準

ア 一般基準

(ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡をはかるようにつとめる。

(イ) 同一校には原則として最低3年は勤務するものとする。

(ウ) 二親等以内の者(姻族を含む。)は原則として同一校勤務をさける。

イ 平成20年度以前の採用者についての基準

(ア) 勤続年数による基準

次の基準に該当する者は、原則として異動の対象とする。

○ 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者(以下「初任者」という。)

○ 同一校に8年以上勤務した者(以下「永年者」という。)

(イ) 地区、障がい及び群別の学校分類による基準

県立特別支援学校の地区別、障がい別の分類は別表1によるものとする。県南地区の2校(西郷養護学校、石川養護学校)は、1地区とみなす。

○ 昭和52年度以降、特別支援学校教員採用者は、原則として、15年以内に2地区および2障がい以上の学校に勤務するものとする。

○ 上記の2障がいの経験については、原則として別表1によるものとする。

ウ 平成21年度以降の採用者についての基準(以下「新基準」という。)

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

○ 初任者

○ 異動2校目において3年以上勤務したもの(以下「若年者」という。)

○ 永年者

(イ) 地域による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け異動を促進する。地域の学校は別表2のとおりとする。

○ 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

エ 平成24年度より、採用年度にかかわらず新基準を適用する。

ただし、平成20年度以前の採用者については、平成30年度まではイ(イ)別表1を準用し、(イ)○印昭和52年度以降、特別支援学校採用者の勤務基準を満たす者は、ウ(イ)の○印原則としての勤務基準の規定を満たす者とみなす。

オ 交流

特別支援学校及び小学校、中学校、高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校及び市町村公立小・中学校、県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として3年から8年とする。

別表１ 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校

群分類 障がい 地区	Ⅰ 群		Ⅱ 群		
	知的障がい教育を主とする学校	視覚障がい教育を主とする学校	聴覚障がい教育を主とする学校	肢体不自由教育を主とする学校	病弱教育を主とする学校
県北	大笹生養護	盲	聾(福島)		須賀川養護(医大)
県南	あぶくま養護 あぶくま養護(安積) ----- 西郷養護 石川養護		聾	郡山養護	須賀川養護 須賀川養護(郡山)
会津	会津養護 猪苗代養護		聾(会津)		会津養護(竹田)
いわき	いわき養護		聾(平)	平養護	
相双	富岡養護 相馬養護				

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) Ⅱ群内の学校のみ経験者は、Ⅰ群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) Ⅰ群の学校に勤務している者、又は勤務した者で、2障がいの経験を有していない者は、Ⅱ群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではなく、これまで2地区及び2障がいの勤務経験を有していない者、及び平成8年度以降平成20年度までの採用教員については、(1)、(2)の勤務経験を必要とする。

別表２ 県立特別支援学校地域別学校

地 域	地 区	学 校	
中通り	県北	盲聾(福島)	大笹生養護 須賀川養護(医大)
	県中	聾 須賀川養護 あぶくま養護	郡山養護 須賀川養護(郡山) あぶくま養護(安積)
	県南	石川養護	西郷養護
会津	会津	会津養護 聾(会津)	会津養護(竹田) 猪苗代養護
浜通り	いわき	平養護 聾(平)	いわき養護
	相双	富岡養護	相馬養護

第２節 学校教育

１ 概要

(1) 指導行政の基本方針

学校教育審議会答申（平成21年9月）の基本理念「地域で共に学び、共に生きる教育」をもとに、第6次総合教育計画を策定し、特別支援教育の推進に向けた取り組みを行った。また、新学習指導要領説明会を開催し、新学習指導要領の改訂の周知徹底を図った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもが障がいのない子どもと共に学環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境を整備した。第6次総合教育計画では、次の基本的な方針のもと、大きく5つの具体的な取り組みを示し、その充実に努めた。

○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもたちが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携を深めることなどにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

○ 具体的な取り組み

- ・ 地域における支援体制の整備・充実と理解啓発の促進
- ・ 小・中学校における特別支援教育の充実
- ・ 高等学校における特別支援教育の充実
- ・ 特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実
- ・ 教員の特別支援教育に関する指導力の向上

(2) 指導組織

課長、主幹兼副課長、主任管理主事1名、管理主事1名、主任指導主事1名、指導主事4名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育内容・方法の改善充実

(ア) 児童生徒の障がいの状態等に応じた適切な教育を行うために特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室等の教員に対し、教育課程実施に伴う指導上の問題点、個に応じた指導の工夫改善等について研修を行い、指導担当者の指導力の向上に努めた。

(イ) 各種研修会、要請訪問等を通して、幼児児童生徒の実態に応じた学習指導、生徒指導等の諸問題について協

議を深め、学校運営の質的向上に努めた。

- (ウ) 訪問教育においては、週3回の訪問を実施するとともに、そのうち1回は登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の児童生徒と交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、スクーリング(登校学習)を実施した。また、高等部における訪問教育の充実に努めた。

イ 生徒指導の充実

幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、生徒指導の機能を生かした授業や家庭及び関係機関との連携に努めた。

ウ 進路指導の充実

高等部を設置する県立特別支援学校14校全校を対象として、労働、福祉の各関係機関と連携を図り、職場での就労体験を通して生徒の幅広い職業観の育成や自己の適性の理解を促すとともに、企業等へ特別支援学校の理解啓発に努めた。特に、障がいのある生徒一人一人の実態に応じた進路実現のため、高等部1年生を対象とした「フレッシュ就労体験」や、障がい者就職面接会の参加や事業主への特別支援学校での取り組み紹介などを行う「就労チャレンジ事業」等を盛り込んだ「キャリア教育充実事業」を実施した。

エ 発達障がいの児童生徒への指導の充実

障がいの多様化に対応した教育課程の編成に努め、個に応じた指導計画の作成及び指導の充実に努めるなど、学習指導要領の趣旨を生かした特別支援学級経営の充実に努めた。また、通常の学級に在籍する発達障がいの児童生徒の理解や指導の在り方について、小・中学校特別支援教育コーディネーターを対象にした養成研修会を県内6か所で開催し、特別支援教育コーディネーターの資質向上に努めた。そのほか、幼稚園、小・中学校、高等学校等の教員を対象とした研修も開催し、指導力の向上に努めた。

オ 交流及び共同学習の推進

「総合的な学習の時間」等において、各学校が地域の人材を積極的に活用した学習活動や、地域の教材を利用した自然体験・社会活動体験等を実施することにより、児童生徒の「生きる力」を育み、自立し社会参加していくことを支援した。

カ 情報教育の充実

幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服し、学習を支援するために情報機器や情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用するとともに児童生徒の情報活用能力の育成に努めた。

(4) 教職員の資質と指導力の向上

- ア 「特別支援教育総合推進事業」事業担当者研修会の開催
事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等の報告並びに課題についての協議を行い、各教育事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育特別支援教育に関

する指導の重点や事業概要等について研究協議を行い、各教育事務所域内の特別支援教育の充実に向けた指導業務の円滑な推進を図った。

イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

ウ 特別支援学校初任者研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対して、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、中・高合同教科研修、コンピューターに関する研修、社会貢献活動体験研修等を行った。

エ 特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員6名を国立特別支援教育総合研究所の専門研修へ派遣した。

(5) 適正就学の推進

障がい児の適正な就学を図るため、市町村教育委員会及び小・中学校長を対象に就学指導協議会を県内7か所で開催した。また、市町村の就学指導における相談については、各教育事務所に対応し、障がい児の適正な就学指導の推進に努めた。

(6) 特別支援教育の推進

ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業

「平成22年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒(訪問教育や病院入院生徒は除く)が、在籍している学校(13校)に看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

盲学校、聾学校、大笹生養護学校、郡山養護学校、あぶくま養護学校、須賀川養護学校、西郷養護学校、石川養護学校、会津養護学校、平養護学校、いわき養護学校、富岡養護学校、相馬養護学校

【平成22年度医療的ケア実施運営協議会委員】	
氏 名	委嘱時の職名
三島 博	大原綜合病院・顧問
◎富樫 薫	県総合療育センター・所長
○鈴木 千衣	福島医科大学看護学部・准教授
平 信二	保健福祉部障がい福祉課・主幹
円谷美智子	県養護教育センター・所長
本田 隆光	いわき障害者就業・生活支援センター ふくいん・所長
鈴木 仁	白河こひつじ学園・相談支援アドバイザー
小檜山宗浩	盲学校・教頭
最上 学	聾学校・教頭
岡崎 典泰	大笹生養護学校・教頭
渡邊 周二	郡山養護学校・教頭
上妻 弘	あぶくま養護学校・教頭
菅野美恵子	須賀川養護学校・教頭
中野 茂	西郷養護学校・教頭
江尻 修	石川養護学校・教頭
大槻 孝昭	会津養護学校・教頭
齊藤 恵子	平養護学校・教頭
齋藤 寿紳	いわき養護学校・教頭
門馬 栄	富岡養護学校・教頭
佐藤 良弘	相馬養護学校・教頭
鈴木志保子	平養護学校・看護師

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

○ 平成22年6月22日(火)

【会議における検討事項】

○ ヒヤリハット報告について

【看護師研修会の開催】

○ 年1回の医療的ケア実施校看護師研修会を県養護教育センターにおいて実施した。

イ 「特別支援教育総合推進事業」による後期中等教育における発達障がい支援の充実

平成17年度～平成19年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度を活用して、川俣高等学校において高等学校における発達障がい等を含む特別な支援を必要とする生徒への支援モデル研究開発した。研究成果を県内の高等学校に普及させていくために、平成19年度～平成21年度まで、県重点事業「LD等の中高連携型生徒支援事業」により、小野高等学校、会津農林高等学校、相馬農業高等学校において、近隣中学校と連携した支援体制整備と相談支援員、学習支援員を活用した生徒支援の充実を図る取組を行った。これまでの実践の成果を踏まえ、平成22年度から「特別支援教育総合推進事業」において、新たに福島中央高等学校、新地高等学校を実践推進校に指定し、高等学校での実践の充実を図った。

ウ 地域支援体制の充実

地域教育相談推進事業として、県内5箇所で開催支援チームを編制し、巡回相談員による教育相談を実施した。相談件数1,530件となった。

また、特別支援学校では、地域の特別支援教育のセンターとして特別支援教育に関する研修会、教育相談を行い、市町村教育委員会等と連携を図り、地域に開かれた学校づくりを推進した。

2 現職教育

(1) 教職員の研修

研修会、講習会については、下表のとおり実施し、教職員の資質向上に努めた。

名 称	期 日	期 間	会 場	人 数	対 象
特別支援学校 教育課程運営 改善講座	8月20日	1 日	県養護教育 センター	44	特別支援 学校教員
特別支援学級 等新任担当教 員研修会	4月27日～ 28日	2 日	県養護教育 センター	65	特別支援 学級担当 教員
特別支援学校 養護教諭研修 会	8月20日	1 日	県養護教育 センター	27	特別支援学校 養護教諭
特別支援学校 経験者研修Ⅰ	5月18日 ～20日	3 日	県養護教育 センター	24	特別支援学校 教員
特別支援学校 経験者研修Ⅱ	6月8日 ～10日	3 日	県養護教育 センター	27	特別支援学校 教員
事例研究を中 心に児童生徒 理解を深める 学校教育相談 実践講座	前期6月29 日～30日 中期10月5 日～6日 後期2月21 日～22日	6 日	県教育セン ター	22	小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 教員

特別支援学校初任者研修

	名称	期 日	期間	会 場
宿泊研修	一次研修	8月4日～6日	3 日	県郡山自然の家
	二次研修	2月23日～25日	3日	県教育センター
養護教育センター研修	基本研修	4月13日～14日	2日	県養護教育センター
	カウンセリング研修	5月12日～13日	2日	県養護教育センター
	情報教育研修	6月16日（1班） 6月23日（2班）	1日	県養護教育センター
地区別研修	講習会研修会等参加研修	各校ごとに実施	1日	各地区内の該当学校等
	他校参観研修	各校ごとに実施	5日	各地区内の該当学校等
	企業等体験研修	各校ごとに実施	4日	各地区内の該当学校等
	社会奉仕体験活動研修	各校ごとに実施	2日	各地区内の該当施設
学部別研修		小学部11月10日 中学部11月10日 高等部11月10日	1日	須賀川養護学校 平養護学校 郡山養護学校
教育課程別研修		A 9月15日 B 9月15日 9月15日	1日	豊学校 石川養護学校 いわき養護学校
所属校研修			年間 180時間 以上	各所属校

(2) 特別支援教育教員短期研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修 2か月）

氏 名	職名	学校名	コース等	期 間
塚原 満	教諭	豊学校	聴覚障害教育コース	5月10日～7月9日
加藤 良一	教諭	いわき養護学校	自閉症・情緒障害教育コース	9月6日～11月11日
高橋 政喜	教諭	田村市立上大越小学校	発達障害教育コース	9月6日～11月11日
齋藤 隆康	教諭	郡山養護学校	肢体不自由教育コース	平成23年1月11日～3月16日
植田 貴子	教諭	須賀川養護学校	病弱教育コース	平成23年1月11日～3月16日
湯田 繁	教諭	猪苗代養護学校	知的障害教育コース	平成23年1月11日～3月16日

(3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター養成研修会

小・中学校の新任の特別支援教育コーディネーターを対象に、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と指導について研修を実施した。特別支援教育コーディネーターとしての資質の向上を図るとともに、発達障がいについての校内への理解啓発さらには担当教員への支援を行えることを目指した。

地 区	会 場	期 日	受講者数
県 北	県教育センター	6月3日	42
県 中	県養護教育センター	5月26日	40
県 南	西郷養護学校	5月27日	14
会 津	会津養護学校	6月1日	26
南 会 津	御蔵入交流館	6月2日	25
相 双	富岡養護学校	5月25日	27

(4) 高等学校特別支援コーディネーター養成研修会

高等学校の特別支援コーディネーターを対象に、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解と指導について研修を実施した。特別支援コーディネーターとしての資質の向上を図るとともに、発達障がいについての校内への理解啓発さらには担当教員への支援を行えることを目指した。

地 区	会 場	期 日	受講者数
県 北	福島南高等学校	6月15日	20
県 中	県養護教育センター	6月17日	20
県 南	白河旭高等学校	6月18日	8
会津・南会津	会津農林高等学校	6月22日	19
相 双	御蔵入交流館	7月1日	13
いわき	富岡養護学校	7月2日	16

(5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター養成研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを対象に、センターの機能の在り方、国や県の教育施策、コンサルテーションの進め方等について研修し、特別支援教育コーディネーターとしての専門性の向上を目指した。

地区	会 場	期 日	受講者数
県内	県養護教育センター	8月31日	38

3 教育課程

特別支援学校教育課程運営改善講座

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

地区	期 日	会 場	人数	参加対象
県内	8月20日 (金)	県養護教育センター	44	特別支援学校の教務主任等

4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング(登校学習)を実施した。

さらに、大笹生養護学校、郡山養護学校、会津養護学校、平養護学校では高等部の訪問教育を実施した。

実施状況は次のとおりである。

校 名	学 級 数 児 童 生 徒 数		学 級 数								児 童 生 徒 数								ス ク ーリ ン グ [*] 児 童 生 徒 数 [*]			
	小 学 部	病 院 訪 問	中 学 部	病 院 訪 問	高 等 部	病 院 訪 問	学 部 計	病 院 訪 問 計	小 学 部	病 院 訪 問	中 学 部	病 院 訪 問	高 等 部	病 院 訪 問	学 部 計	病 院 訪 問 計	小 学 部	中 学 部	高 等 部	計		
大 笹 生 養 護 学 校	2		1		1		4		4		2		1		7		2	1	1	4		
郡 山 養 護 学 校	3		1		1		5		7		1		1		9		4			4		
須賀川養護学校郡山分校		1		1				2														
石 川 養 護 学 校	1						1		1						1							
会 津 養 護 学 校	1				2		3		3				3		6		2		3	5		
平 養 護 学 校	1		1	1		3	2	4	1		2	3		9	3	12		2		2		
富 岡 養 護 学 校			1				1				1				1			1		1		
合 計	8	1	4	2	4	3	16	6	16		6	3	5	9	27	12	8	4	4	16		

※スクーリング児童生徒数は再掲。

5 研究指定校

(1) 県重点事業「特別支援教育総合推進事業」

ア 趣 旨

高等学校において、発達障がいの生徒が1.6%程度在籍していると考えられていることから、高等学校における発達障がい等の生徒への支援に継続して取り組んだ。高等学校と周辺中学校を実践推進校に指定し、高等学校において発達障がい等の生徒の特性に合わせた支援を行うほか、中高が連携し、継続的に援を受けられる体制の整備・充実に努めた。

イ 実践推進校

(ア) 高等学校（5校）

福島中央高等学校（学習支援）
新地高等学校（学習・相談支援）
小野高等学校（中高連携）
会津農林高等学校（中高連携）
相馬農業高等学校（中高連携）

(イ) 中学校（19校）

田村市立大越中学校 田村市立滝根中学校
小野町立小野中学校 小野町立浮金中学校
平田村立蓬田中学校 平田村立小平中学校
会津若松市立第三中学校 会津若松市立第四中学校
会津若松市立第五中学校 会津坂下町立第一中学校
会津坂下町立第二中学校 会津美里町立高田中学校
相馬市立向陽中学校 南相馬市立原町第一中学校
南相馬市立原町第二中学校
南相馬市立原町第三中学校 南相馬市立石神中学校
南相馬市立鹿島中学校 南相馬市立小高中学校

ウ 研究内容

- 特別支援コーディネーターを中心とした校内支援体制の整備・充実
- 支援員による学習・相談支援
- 中学校と高等学校との連携による一貫した支援の充実

6 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導援助に努めた。

(2) 進路指導

ア キャリア教育充実事業

(ア) 事業の趣旨

高等部を設置する県立特別支援学校14校全校を対象として、労働、福祉の各関係機関と連携を図り、職場での就労体験を通して生徒の幅広い職業観の育成や自己の適性の理解を促すとともに、企業等へ特別支援学校の取組みを紹介し理解啓発を図る。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 14校

(ウ) 実施状況

- a フレッシュ就労体験の実施(高等部1年生を対象に各学校において実施)
- b より実践的な作業学習の導入
 - ・ 作業学習の内容や手法の見直し
 - ・ 企業等からの指導助言
- c 就労チャレンジ事業
 - ・ 障がい者就職面接会への参加
 - ・ 企業への特別支援学校の取り組み紹介 等

7 特別活動

(1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業生数

学部 障がい	幼稚園	小学部	中学部	高等部	合計
視覚障がい		1	3	7	11
聴覚障がい	5	7	6	7	25
知的障がい		62	118	196	376
肢体不自由		15	26	21	62
病 弱		12	12	17	41
計	5	97	165	258	515

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

開催 学部	3月 1日 (火)	3月 11日 (金)	3月 16日 (水)	3月 18日 (金)	3月 23日 (水)	3月 28日 (月)	3月 29日 (火)	3月 30日 (水)	3月 31日 (木)	中 止 等
幼稚園										3
小学部		2	1	1	1	1	3	1	1	10
中学部		2		1	1	1	1		1	9
高等部	1	2		1	1		1		1	7

(2) 修学旅行

行き先 人数	行き先						日数					人数
	県 内	東 北	関 東	関 西	九州 ・ 沖縄	北 海 道	日 帰 り	一 泊 二 日	二 泊 三 日	三 泊 四 日	四 泊 五 日	
学部												
小学部	2	3	6				8	3				67
中学部	1		15				1	1	14			173
高等部			5	9	1	2	1	1	9	6		292

8 学校訪問

(1) 県立特別支援学校

ア 経験者研修

経験研修Ⅰ、Ⅱの研究授業日に、学校訪問を実施した。

No.	訪問日	学校名
1	9月14日	大笹生養護学校
2	9月21日	相馬養護学校
3	9月27日	富岡養護学校
4	10月13日	聾学校福島分校
5	10月14日	あぶくま養護学校
6	10月18日	郡山養護学校
7	10月27日	須賀川養護学校郡山分校

9 県立学校教育指導委員

氏 名	職名	所 属 校
高 橋 里 子	教諭	盲学校
香 取 重 治	教諭	聾学校福島分校
鈴 木 嘉 人	教諭	いわき養護学校
佐 藤 智	教諭	郡山養護学校
菅 野 和 彦	教諭	平養護学校
植 田 貴 子	教諭	須賀川養護学校
菅 藤 千 春	教諭	あぶくま養護学校
和 知 学	教諭	西郷養護学校

10 就学指導

(1) 福島県特別支援教育推進会議

ア 福島県特別支援教育推進会議委員

委 員	職 名
医 師	精神科医
医 師	小児科医（県総合療育センター）
学識見識者	大学教授
保 護 者	特別支援学校PTA連合会代表
関 係 機 関	NPO団体代表
関 係 機 関	中央児童相談所長
関 係 機 関	県保健福祉部子育て支援課長
関 係 機 関	県保健福祉部障がい福祉課長
関 係 機 関	県商工労働部雇用労政課長
教 育 関 係	小・中学校長会代表
教 育 関 係	高等学校長協会代表
教 育 関 係	特別支援学校長会代表
	県教育庁特別支援教育課長
	県養護教育センター所長

(2) 特別支援教育就学指導協議会

ア 期日及び会場

地 区	期 日	会 場	参加者数
県 北	6月 4日	自治会館	6 0
県 中	5月28日	県養護教育センター	5 0
県 南	5月21日	白河合同庁舎	3 1
会 津	6月 8日	新鶴公民館	4 4
南会津	6月 7日	南会津町立田島小学校	1 4
相 双	5月31日	南相馬合同庁舎	3 6
いわき	6月 2日	いわき合同庁舎	3 5

イ 参 加 者

- ・各市町村教育委員会就学指導関係者
- ・公立小・中学校長

ウ 講義と協議

- 講義「本県の特別支援教育の現状について」
- 事務説明及び協議
「就学事務の手続きについて」(対象；市町村教育委員会)
「支援体制整備と就学指導」(対象；市町村教育委員会)
- 事例研究及び協議
「自校における『地域で共に学び、共に生きる教育』の実現へ向けて」(対象：小・中学校長)

11 教科用図書

(1) 教科用図書事務説明会

ア 開催期日 平成22年6月16日(水)

イ 会場 自治会館

ウ 参加者 特別支援学校の教科用図書事務担当者

(2) 学校教育法附則第9条による一般図書の展示期日及び会場

- 6月24日(木)～6月25日(金) 福島大学附属特別支援学校
- 6月28日(月)～6月29日(火) 福島市立福島養護学校
- 6月30日(水)～7月 1日(木) 大笹生養護学校
- 7月 2日(金)～7月 6日(火) 相馬養護学校
- 7月 7日(水)～7月 8日(木) 富岡養護学校
- 7月 9日(金)～7月13日(火) いわき養護学校
- 7月14日(水)～7月16日(金) 石川養護学校
- 7月20日(火)～7月21日(水) 南会津町御蔵入交流館
- 7月22日(木)～7月26日(月) 聾学校会津分校
- 7月27日(火)～7月28日(水) あぶくま養護学校
- 7月29日(木)～7月30日(金) 県養護教育センター(一般公開)

12 教育研究団体

(1) 平成22年度福島県特別支援学校長会役員

役職名	氏 名	所 属 校
会 長	渡 邊 世 子	郡山養護学校
副会長	緑 川 孝 夫	聾学校
副会長	山 崎 壽 克	福島市立福島養護学校

(2) 平成22年度福島県特別支援学校教頭会役員

役職名	氏 名	所 属 校
会 長	齋 藤 文 助	郡山養護学校
副会長	岡 崎 典 泰	大笹生養護学校
副会長	瀬 谷 一 司	平養護学校

(3) 福島県特別支援教育研究会

ア 組 織

役職名	氏 名	所 属 校
会 長	山 崎 壽 克	福島市立福島養護学校
副会長	渡 邊 世 子	郡山養護学校
副会長	渡 邊 清 司	郡山市立富田小学校

イ 事業の概要

事業名	期 日	会 場	概 要
理事会	5月12日	郡山養護学校	年間事業計画、予算決算の審議、役員選出、特別支援教育研修主題について

(4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役員

役職名	氏 名	所 属
顧 問	太 田 緑 子	財団法人太田綜合病院名誉理事長
顧 問	鈴 木 典 夫	福島大学行政政策学類准教授
会 長	柳 沼 穹 壹	元あぶくま養護学校長
副会長	桜 井 和 朋	元県ＰＴＡ連合会長
副会長	穴 澤 由 美	元大笹生養護学校長
理 事	板 垣 正 彦	県北支部長
理 事	松 井 壽 則	県中支部長
理 事	三 品 胖	県南支部長
理 事	小 松 忠 夫	会津支部長
理 事	只 野 裕 一	相双支部長
理 事	大 谷 明	いわき支部長
監 事	円 谷 美智子	県養護教育センター所長
監 事	蓬 田 健 郎	元猪苗養護学校長

イ 事務局

(ア) 本部

事務局長 聾学校 校長 緑 川 孝 夫
幹事 " 教頭 最 上 学
" " 教諭 西 牧 順 子

(イ) 支部

支 部	事務局校	支 部	事務局校
県 北	盲学校	会 津	会津養護学校
県 中	郡山養護学校	相 双	相馬養護学校
県 南	西郷養護学校	いわき	平養護学校

第8章 社会教育

第1節 社会教育一般

1 概要

(1) 地域教育力の向上

子どもたちの育ちを支援するためには、地域社会全体で支え合うことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、次の事業を実施した。

- ・青少年の体験活動の支援や家庭教育支援、社会教育施設等での学習支援を行うボランティアの登録及びコーディネイトを推進する「体験活動・ボランティア推進センター事業」
- ・地域住民の参画を得て、放課後等における子どもたちの健全育成と安全安心な活動拠点づくりを推進する「放課後子どもプラン（放課後子ども教室）」
- ・地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援地域本部事業」

(2) 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。

しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、家庭教育の自主性を尊重しつつ、家庭教育についての学習機会の提供や『保護者のための家庭教育資料 家庭教育サポートブック』の発行など子育てを支援する取組みの推進に努めた。

(3) 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性をはぐくむためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。

そのために、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう次の事業を実施した。

- ・子どもの体験活動を奨励するとともに、子どもと大人が共通の体験から得た思いや感動を十七音で表現する作品づくりを通して、子どもの豊かな心を育成する「十七字のふれあい事業」

(4) 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組みと

関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

(5) 子どもの読書活動推進

平成22年度3月に策定した「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」を踏まえるとともに、平成22年が国民読書年にあたることもあり、機会をとらえて子どもの読書活動の推進キャンペーンを実施したり、研修会を開催したりするなど啓発、広報に努めた。

(6) ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるとともに研修の機会を提供して、ユネスコ活動の充実発展に努めた。

2 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

福島県生涯学習・社会教育担当者会議

第1回 日 時 平成22年4月16日（金）

場 所 まちなか宝生園

参加者 51名

第2回 日 時 平成23年2月10日（木）

場 所 西庁舎 講堂

参加者 60名

(2) 社会教育主事の設置

市町村における社会教育活動の充実を図るため、社会教育主事の設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質の向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校、家庭、地域住民の連携を促進するための活動が重要であることから、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

3 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、平成21年度に更新した「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験をととして青少年の健全育

成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実
に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設とし
て、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公
民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望
に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

市町村立図書館をおおむね2ヶ月に1回巡回して、図
書館運営の相談や相互貸借資料の運搬、各種資料の交流
等を行った。

4 社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

- ア 期日 平成22年5月27日（木）～28日（金）
イ 会場 福島県男女共生センター
ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び
社会教育関係者
エ 参加者数 84名（うち一般14名）
オ 講師
教育庁社会教育課主幹 増子 清一
男女共生センター社会教育主事 森 米吉
東北大学大学院教育学研究科准教授 石井山竜平
元 喜多方市家庭教育支援チーム員 幸田久美子
須賀川市西袋公民館生涯学習インストラクター 大柿 重子
安達郡大玉村立大玉中学校長 福本 隆

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

- ア 期日 平成22年8月26日（木）～27日（金）
イ 会場 郡山市労働福祉会館
ウ 参加対象
社会教育関係行政職員（公民館職員、社会教育主事等
の社会教育関係事業担当2年目以上の職員）、社会教
育指導員等
エ 参加者数 43名
オ 講師
高千穂大学人間科学部教授 松田 道雄
元 福島学院短期大学教授 塚本 繁

5 社会教育研究集会

※ 「第52回全国社会教育研究大会福島大会」との合
同開催

(1) 主催

（社）全国社会教育委員連合 東北地区社会教育委員連
絡協議会 福島県市町村社会教育委員連絡協議会 第5
2回全国社会教育研究大会福島大会実行委員会 福島県
教育委員会 郡山市教育委員会

(2) 主管

第52回全国社会教育研究大会福島大会実行委員会

（福島県市町村社会教育委員連絡協議会）

(3) 期日

平成22年10月27日（水）～29日（金）

(4) 会場

全体会：郡山ユラックス熱海
分科会：郡山ユラックス熱海 ホテル華の湯

(5) 参加対象

都道府県・政令指定都市・区市町村の社会教育委員及び
社会教育関係者、生涯学習・社会教育に関心のある方

(6) 参加人数

924名（うち福島県425名）

(7) 基調講演講師

NPO法人ライフマネジメントセンター理事長・山形
大学工学部客員教授（株式会社タカラトミー創業者）
佐藤 安太
演題「未来設計システム思考技術で日本国民・日本国家
の輝かしい未来を設計し再生復活をめざす」

(8) 分科会

- ア 第1分科会「家庭教育支援」会場：ホテル華の湯
・ 事例発表者
NPO法人子どもネットワークすてっぷ（青森県）
野呂 美奈子
タムタムスクール実行委員会会長（鳥取県）
ト蔵 久子
・ スーパーバイザー
福島大学人間発達文化学類教授 浜島 京子
イ 第2分科会「地域の教育力向上」会場：郡山ユラック
ス熱海
・ 事例発表者
八街市社会教育委員会会議議長（千葉県）
林 修三
利府町教育委員会生涯学習課生涯学習振興班長
（宮城県）
蛭名 博人
・ スーパーバイザー
元福島学院短期大学教授 塚本 繁
ウ 第3分科会「生涯学習の振興」会場：ホテル華の湯
・ 事例発表者
恵庭市教育委員会生涯学習課社会教育主事（北海道）
藤野 真一郎
金ヶ崎町中央生涯教育センター副主幹兼地域協働
推進係長（岩手県）
高橋 文浩
・ スーパーバイザー
東北大学大学院教育学研究科准教授
石井山 竜平
エ 第4分科会「社会教育委員の役割」会場：郡山ユラッ
クス熱海
・ 事例発表
指宿市社会教育委員の会議議長（鹿児島県）
山下 明
中能登町社会教育委員（石川県）
久保 勝康
・ スーパーバイザー
八戸大学ビジネス学部教授 内海 隆
オ 第5分科会「社会教育施設」会場：ホテル華の湯
・ 事例発表者
平川市社会教育委員議長（青森県）
武田 英子
郡山市立大島地域公民館館長（福島県）
星 晃明

- ・ スーパーバイザー
宇都宮大学生涯学習教育研究センター准教授
佐々木 英和

6 社会教育指導員の設置

(1) 設置数

ア 県北	58名
イ 県中	19名
ウ 県南	11名
エ 会津	48名
オ 南会津	7名
カ 相双	17名
キ いわき	6名
合 計	166名

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会（年2回）

ア 第1回

- (ア) 期日 平成22年5月10日（月）
- (イ) 場所 郡山市公会堂
- (ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員
- (エ) 参加者数 143名
- (オ) 講師 社会教育課長

イ 第2回

- (ア) 期日 平成22年10月13日（水）
- (イ) 場所 白河地方職業訓練センター（白河市）
- (ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員、青少年教育指導員、社会教育主事、公民館職員等社会教育関係者
- (エ) 参加人数 126名
- (オ) 講師
国立那須甲子青少年自然の家所長 佐藤 修
演題「天地人と私～社会教育指導員に期待すること」

7 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

8 社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員
社会教育関係者

域内	期 日	実施市町村	参加者	担 当
県北	5月19日	大玉村	48	双里
	6月8日	伊達市	45	関
	7月26日	本宮市	38	関
県中	6月11日	須賀川市	12	木村
	7月13日	須賀川市	11	仁科
	10月13日	田村市	21	瀬谷
県南	5月11日	鮫川村	19	木村
	8月31日	矢祭町	17	仁科
会津	7月16日	西会津町	16	緑川
	11月17日	会津美里町	35	緑川
	12月3日	会津坂下町	25	関
南会津	6月21日	南会津町	14	門脇
	7月9日	只見町	21	門脇
相双	7月8日	新地町	14	仁科
	7月23日	葛尾村	30	門脇
	8月24日	大熊町	37	双里
いわき	5月20日	いわき市	11	緑川
	6月25日	いわき市	12	増子

合計18箇所 参加者426名

9 東北地区公民館大会（兼）福島県公民館研究集会

(1) 期日

平成22年9月30日（木）～10月1日（金）

(2) 会場

バルセイイざか

(3) 参加対象

公民館職員、公民館運営審議会委員等

(4) 参加人数

400名

(5) 講師

国立大学法人福島大学人間発達文化学類教授 白石 豊
演題「本番に強くなる～プレッシャーとどう戦うか～」

10 福島県公民館主事部会研修会

(1) 期日

平成22年7月13日（火）

(2) 会場

富岡町文化交流センター 「学びの森」

(3) 参加対象

公民館職員等

(4) 参加人数

19名

(5) 講師

いわき明星大学人文学部現代社会学科教授 神山 敬章
演題「今後の公民館活動のあり方について」

11 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

- ア 主催 東北大学教育学部
イ 期日 平成 22 年 6 月 23 日(水)～8 月 6 日(金)
ウ 受講者数 19 名
エ 修了者名

域内	氏名	勤務先
県北 (4)	後藤 浩信 嶋原 啓 鈴木 基之 橋本 健	福島市立吾妻中学校 福島市立佐倉小学校 福島市立土湯小学校 福島市立佐原小学校
県中 (3)	成田 剛俊 矢吹 進 歌川 公一	浅川町立浅川小学校 石川町教育委員会 郡山市教育委員会
県南 (0)		
会津 (3)	佐々木 剛 鈴木 亮 大坂興太郎	北塩原村教育委員会 会津若松市立日新小学校 会津若松市立鶴城小学校
南会津 (0)		
相双 (4)	遠藤 隆一 武内 雅之 國分 伸志 佐藤 慎治	相馬市立八幡小学校 富岡町立富岡第二小学校 南相馬市立原町第三小学校 南相馬市立原町第三中学校
いわき (4)	岩崎 秀幸 沼田 洋之 丹野 光樹 高木 浩子	いわき市立湯本第一小学校 いわき市立勿来第一小学校 いわき市教育委員会 いわき市文化財団
県立 (1)	古山 智行	福島県立安達東高等学校

(2) 国立教育政策研究所主催講習

- ア 社会教育主事講習
(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
(イ) 期日
a A講習 平成 22 年 7 月 21 日(水)～8 月 25 日(水)
b B講習 平成 23 年 1 月 19 日(水)～2 月 24 日(水)
(ウ) 受講者数
a A講習 0 名
b B講習 2 名
(エ) 修了者名

域内	氏名	勤務先
A講習(0)		
B講習(2)	赤石 克 守谷新一郎	福島市教育委員会 福島市中央学習センター

イ 専門講座等

講座名	期間	受講者数
社会教育主事専門講座	9 月 15 日(水) ～17 日(金)	1 名
生涯学習機関等の連携に関する実践研究交流会	12 月 16 日(木) ～17 日(金)	1 名

12 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	発行部数
社会教育 No. 331	社会教育	A 4	8	2,000
十七字のふれあい入賞作品集	青少年教育	A 4	16	2,000
学校支援地域本部事業事業実施報告書	地域教育	A 4	24	200
家庭教育サポートブック	家庭教育	A 5	32	25 万

第 2 節 地域教育力の向上

1 概要

子どもたちの育ちを支援するためには、地域社会全体で支え合うことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう努めた。

2 体験活動・ボランティア推進センター事業

(1) 目的

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた体験活動やボランティア活動の機会の充実を図ることを目的に情報提供やコーディネート等を行う推進センターを県に設置し、市町村並びに市町村センターにおける体験活動・ボランティア活動の推進体制を支援する。

(2) 内容

- ア 本部センターの設置
(ア) 構成
・センター長（社会教育課長）
・副センター長（社会教育課主幹）
・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）
(イ) 内容
・各種研修会に関すること
・連絡調整、情報収集、調査研究に関すること
・人材登録に関すること
・地域センターの統括、指導助言に関すること

イ 地域センターの設置

- (ア) 構成

- ・センター長（教育事務所総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関する事
- ・連絡調整、情報収集、調査研究に関する事
- ・人材登録に関する事
- ・市町村センターとの連携に関する事

ウ 学校における推進体制の整備

(ア) 体験活動等推進委員会の開催

(イ) 推進委員会主任（教頭または社会教育主事有資格者等）の配置

エ 学習支援・読書支援・ノートテイク・病院訪問学習支援・家庭教育支援ボランティアの登録推進

(ア) 目的

青少年の体験活動の支援にあたるボランティアの登録を促進するとともに、学校内外における青少年の体験活動支援することにより、地域の教育力の向上に寄与する。

(イ) 対象

ボランティアを推進する県民一般

(ウ) 内容

学習支援ボランティア、読書活動ボランティア、ノートテイクボランティア、病院訪問学習支援ボランティア、家庭教育支援ボランティアの登録や活動を支援する。

- ・学習支援ボランティア登録人数 1, 0 0 4 名
- ・読書活動ボランティア登録人数 2 1 6 名
- ・ノートテイクボランティア登録人数 6 名
- ・病院訪問学習支援ボランティア登録人数 5 1 名
- ・家庭教育支援ボランティア登録人数 2 6 名
- 計 1, 3 0 3 名

3 放課後子どもプラン (放課後子ども教室推進事業)

(1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

(2) 県事業

ア 推進委員会の設置

(ア) 推進委員会委員 1 0 名

NO.	委員名	役職名	備考
1	阿部 律子	須賀川市児童厚生員	
2	岩淵 百合	南会津町たけの山クラブ活動指導員	
3	柿崎 浩一	福島テレビ株式会社報道制作局長	
4	沢 宏一	社会教育課長	
5	草野 拓郎	いわき地区社会教育委員連絡協議会会長	
6	遠藤 俊男	二本松市福祉部参事兼子育て支援課長	
7	野川 清和	子育て支援課長	
8	原野 明子	福島大学人間発達文化学類准教授	
9	山本 和宏	福島市立森合小学校長	
10	吉田 泰久	田村市教育委員会生涯学習課主任主査兼社会教育主事	

(イ) 推進委員会の実施 年2回

- a 第1回 平成22年 7月12日
- b 第2回 平成23年 2月7日

イ 研修会の実施

(ア) 放課後子どもプラン地区研修会「7箇所」

a 期日・場所・人数・内容

- <県北地区>平成22年7月30日
福島県男女共生センター 92人
「児童期における子どもとのかかわり方・分科会」
- <県中地区>平成22年8月24日
福島県郡山自然の家 78人
「事例発表・情報交換・演習・実技」
- <県南地区>平成22年9月13日
中島村生涯学習センター輝ら里 71人
「コーチング・情報交換会・全体会」
- <会津地区>平成22年11月10日
会津若松市北会津公民館 65人
「活動紹介・情報交換・相談会・実技演習」
- <南会津地区>平成22年9月15日
御蔵入交流館 46人
「本の読み聞かせ方・子どもの理解とその対応・情報交換」
- <相双地区>平成22年9月4日
福島県相馬海浜自然の家 74人
「読み聞かせのコツ・レクリエーション」
- <いわき地区>平成22年11月25日
福島県いわき海浜自然の家 26人
「心肺蘇生法・応急手当対処法・レクリエーション」

- ウ 放課後子ども教室の実施
 県立特別支援学校 (5教室)
- ・ 福島県立盲学校
 - ・ 福島県立聾学校福島分校
 - ・ 福島県立聾学校平分校
 - ・ 福島県立郡山養護学校
 - ・ 福島県立平養護学校

(3) 市町村事業

- ア 運営委員会の実施
 イ 子ども教室の実施
 34市町村 126教室実施

4 学校支援地域本部事業(文部科学省委託事業)

(1) 目的

地域人材や団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。

(2) 県学校支援事業運営協議会

- ア 県運営協議会の設置
 (ア) 委員 14名

NO.	委員名	役職名	備考
1	木暮 照正	国立大学法人福島大学准教授	委員長 副委員長
2	早川 敬介	元福島県PTA連合会会長	
3	工藤 信一	郡山市立大槻東地域公民館長	
4	進士 徹	NPO法人あぶくまエヌエスネット理事長	
5	香内 一宏	福島市立立子山中学校長	
6	高橋 正美	三春町立三春小学校長	
7	作田 純一	大玉村教育委員会生涯学習課社会教育係長	
8	増田 英子	田村市常葉地区コーディネーター	
9	本間 稔	学習指導課長	
10	吉田 尚	学校生活健康課長	
11	井戸川恵理子	特別支援教育課長	
12	久保田範夫	学校経営支援課長	
13	国井 裕一	スポーツ課長	
14	沢 宏一	社会教育課長	

(イ) 運営協議会の実施(年3回)

- a 第1回運営協議会
 (a) 期日 平成22年7月26日(月)
 (b) 場所 ふくしま中町会館
 (c) 内容
 ・平成22年度事業内容等について
- b 第2回運営協議会
 (a) 期日 平成22年11月12日(金)
 (b) 場所 鏡石町営鳥見山陸上競技場
 (c) 内容
 ・学校支援活動の現場視察

- c 第3回運営協議会
 (a) 期日 平成23年2月1日(火)
 (b) 場所 ふくしま中町会館
 (c) 内容
 ・平成22年度のまとめについて
 ・平成23年度の取組みについて

(ウ) 市町村担当者会議

- a 期日 平成22年9月3日(金)
 b 場所 ビッグパレットふくしま
 c 内容
 ・事業実施報告書について
 ・平成23年度の取組みの方向性
 ・市町村担当者と事務所担当者との情報交換

d 参加者数 27名

(エ) 実践事例研究会の実施

- a 第1回研修会
 (a) 期日 平成22年8月21日(土)
 (b) 場所 いわき市生涯学習プラザ
 (c) 内容

○講演「今ある課題を確認し、さらに前進する知恵を絞ろう」

青森中央学院大学教授 高橋 興

○事例発表

・「いわき市(内郷地区)における学校支援地域本部事業について」

いわき市内郷公民館副館長 永井賢一郎

いわき市内郷地区学校支援地域本部

地域コーディネーター 三室千鶴子

・「学校支援推進状況と今後の推進構想」

相馬市学校支援地域本部

地域コーディネーター 鈴木 則久

○グループ討議

「これからの学校支援のあり方」

(d) 参加者 35名

- a 第2回研修会
 (a) 期日 平成22年8月28日(土)
 (b) 場所 須賀川市文化センター
 (c) 内容

○講演「これからの学校支援の在り方について」

国立大学法人福島大学地域創造支援センター

准教授 木暮 照正

○事例発表

・「大玉村学校支援地域本部事業 みんなで支えみんなで育てる大玉村の教育」

大玉村教育委員会生涯学習課

社会教育係長 作田 純一

・「田村市常葉地区学校支援地域本部事業」ときわっこサポーター」～これからの学校支援の在り方について～

田村市常葉地区学校支援地域本部

コーディネーター 増田 英子

○グループ討議

「これからの学校支援の在り方」

(d) 参加者 31名

a 第3回研修会

(a) 期日 平成22年9月12日(日)

(b) 場所 会津大学

(c) 内容

○講演「今ある課題を確認し、さらに前進する知恵を絞ろう」

青森中央学院大学教授 高橋 興

○事例発表

・「西会津町学校支援地域本部事業」

西会津町教育委員会教育課

生涯学習係長 佐藤 広悦

・「檜沢地域学校支援地域本部事業」

南会津地区檜沢地域学校支援地域本部

地域コーディネーター 佐藤 秀幸

○グループ討議

「これからの学校支援の在り方」

(d) 参加者 45名

(3) 市町村委託

13の市町村(桑折町、大玉村、本宮市、川俣町、郡山市、鏡石町、田村市、三春町、西郷村、西会津町、南会津町、相馬市、いわき市)で16の学校支援地域本部を設置して実施した。

第3節 家庭教育

1 概要

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。

しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、家庭教育の自主性を尊重しつつ、家庭教育についての学習機会の提供や『保護者のための家庭教育資料 家庭教育サポートブック』の発行など子育てを支援する取組みの推進に努めた。

2 家庭教育支援推進事業

地域で活動する家庭教育支援者等に対して、地域社会における家庭教育支援の充実に向けた学習の機会として、地域での家庭教育支援のあり方等の家庭教育に関する課題に向けたセミナーを開催することにより家庭や地域の教育力の向上に努めた。

また、『保護者のための家庭教育資料 家庭教育サポートブック』を作成し、各家庭で活用していただくことで支援の充実を図った。

(1) 家庭教育サポートセミナー

ア 県 北 平成23年 1月23日(日)
福島県青少年会館(福島市) 82人参加

イ 県 中 平成22年12月15日(水)
ビッグパレットふくしま(郡山市) 68人参加
ウ 県 南 平成23年 1月29日(土)
白河地域職業訓練センター(白河市) 146人参加

エ 会 津 平成23年 1月20日(木)
会津大学(会津若松市) 265人参加

オ 南会津①平成23年 2月 5日(土)
御蔵入交流館(南会津町) 80人参加

②平成23年 2月19日(土)
御蔵入交流館(南会津町) 96人参加

カ 相 双 平成23年 2月19日(土)
道の駅南相馬(南相馬市) 66人参加

キ いわき 平成23年 2月26日(土)
中央台公民館(いわき市) 55人参加

(2) 『保護者のための家庭教育資料 家庭教育サポートブック』の発行

対象者：保護者(小学校・幼稚園・保育園に子どもがいる保護者)

発行部数：25万部

第4節 青少年教育

1 概要

青少年の豊かな人間性や社会性をはぐくむためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。

そのために、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう努めた。

2 十七字のふれあい事業

(1) 目的

家庭・学校・地域が連携を進め、地域ぐるみで子どもの体験活動を奨励し、子どもと大人が共通の体験から得た思いや感動を十七音で表現する作品づくりを通して、子どもの豊かな心を育成する。

(2) 内容

ア 応募期間 7月1日～9月30日
イ 応募総数 44, 387組
ウ 最終審査会 11月25日
エ 審査員 津村 栄、塚本 繁、坂本 忠雄
オ 表彰式 平成23年1月20日(木) 自治会館
カ 入賞数 最優秀賞5組、優秀賞5組、佳作10組
学校賞7校(新設)

(3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等に掲示用チラシ・応募用紙(チラシ)を配布した。また、社会教育課のホームページに掲載した。

イ 事後の広報

社会教育課においては、入賞作品集を作成し、各学校や社会教育施設等へ配布した。各教育事務所においては、域内で入選した作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第5節 成人教育

1 概要

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組みと関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

第6節 子どもの読書活動推進

1 概要

平成22年3月に策定した「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」を踏まえるとともに、平成22年が国民読書年にあたることもあり、機会をとらえて子どもの読書活動の推進キャンペーンを実施したり、研修会を開催したりするなど啓発、広報に努めた。

また、子ども読書活動を推進するため、ボランティアの育成等を目指し、「子ども読書活動事例研修会」を2回実施した。

2 子ども読書活動推進会議の設置

(1) 目的

福島県子ども読書活動推進計画に沿って、読書活動推進に向けた取組み等について協議・評価を行う。

(2) 子ども読書推進会議委員

氏 名	職業等	区 分
生駒 恭子	ほうとく幼稚園副園長	幼稚園又は保育所等の関係者
相楽 悦子	郡山市立明健小学校校長	学校図書館関係者
小野間幸一	本宮市しらさわ夢図書館館長	公立図書館等の関係者
高野 保夫	国立大学法人福島大学特任教授	学識経験者
平野 澄子	読み聞かせボランティア	公募
山田 典子	元 福島県 PTA 連合会母親代表	社会教育関係者

3 子ども読書活動推進環境整備事業

(1) 子ども読書活動事例研修会

平成22年9月2日（木） 13：00～16：40

県立図書館 参加者118名

(2) 「子どもの読書活動」キャンペーン

平成22年4月23日（金）～4月28日（水）

参加者45名

平成22年10月27日（水）～11月5日（金）

参加者69名

(3) 親と子のおはなし会フェスティバル

平成22年11月27日（土） 13：10～15：45

郡山女子大学建学記念講堂 参加者312名

(4) 読み聞かせ実践講座

平成22年12月16日（木）

会津若松市文化センター 参加者242名

平成23年2月15日（火）

富岡町文化交流センター 参加者153名

第7節 ユネスコ活動

1 概要

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるとともに研修の機会を提供して、ユネスコ活動の充実発展に努めた。

本県には、以下の9つの協会が組織され、県内の各地において国際平和と人類の福祉に貢献する民間活動が展開されている。県教育委員会としても、積極的に普及の啓発と民間ユネスコ運動の支援に努めた。

2 ユネスコ協会設立状況

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	岩田悦次郎	市教委生涯学習課内 須賀川市八幡町135	橋本 恵光	46.9.13
いわきユネスコ協会	草野 拓郎	市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	佐久間静子	51.10.23
郡山ユネスコ協会	過足 満雄	学校法人尚志学園高等学校内 郡山市大槻町字担ノ腰2	宗像 金三	53.1.24
白河ユネスコ協会	小野 利廣	市教委生涯学習課内 白河市八幡町7-1	飯泉 雅之	53.11.19
福島ユネスコ協会	河田 亨	市中央学習センター内 福島市松木町1-7	阿部 隆	55.7.19
会津ユネスコ協会	佐藤 誠次	市教委生涯学習課内 会津若松市栄町5-17	黒沼 淳子	55.11.16
相馬ユネスコ協会	植村 恵治	相馬市坪田字八幡前173	大谷 彰	63.7.15
いたてユネスコ協会	荻津 容子	飯館村役場内 飯館村伊丹字伊丹沢571	佐藤 俊雄	H4.3.7
川俣ユネスコ協会	佐藤 好弘	町教育委員会内 伊達郡川俣町字樋ノ口11	遠藤貴美子	H16.11.26
福島県ユネスコ連絡協議会	河田 亨	福島市笹谷字道場29-9 境野啓二宅	境野 啓二	56.12.5

3 東北ブロック・ユネスコ活動研究会（兼）
福島県ユネスコ活動研修会

(1) 目的

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に一層広めるとともに、研修の機会を提供して、本県ユネスコ活動の充実発展に努める。

(2) 期日・会場

平成22年10月30日（土）～31日（日）

須賀川市総合福祉センター ホテル虎屋

(3) 参加者

一般県民、学校教育関係者、社会教育関係者、PTA、教育行政関係者、ボランティア関係者、ユネスコ活動関係者等

(4) 参加者数

200名

(5) 内容

ア 基調講演「みちのく、須賀川の文人たち」

講師 須賀川市立博物館長 横山 大哲

イ 特別講演「東北ブロックの無形文化遺産」

講師 文化庁文化財部文化財国際協力室
室長補佐 田中 健太郎

ウ 報告・発表会

- ・ ふるさとの自然を取り戻す活動
須賀川に清流を取り戻す市民の会・須賀川市立第三小学校
- ・ ユネスコスクール
宮城県白石市立小原中学校 鈴木 誠治

第8節 公民館等社会教育施設

1 概要

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動や図書館サービスが行われるよう助言した。

2 公民館を除く主な社会教育施設

(1) 図書館の設置状況

	名 称	所在地・電話番号	設置者
県立	福島県立図書館	福島市森合字西養山1 024-535-3218	福島県
	福島市立図書館	福島市松木町1-1 024-531-6551	福島市
	福島市西ロライブラリー	福島市三河南町1-20 024-525-4023	福島市
	福島市子どもライブラリー	福島市早稲町1-1（こむこむ内） 024-526-4200	福島市
市立	伊達市立図書館	伊達市箱崎字川端7 024-551-2132	伊達市
	二本松市立二本松図書館	二本松市本町1丁目102番地 0243-23-5082	二本松市
	二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町242番地 0243-55-3255	二本松市
	しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎500 0243-44-2112	本宮市
	郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目5-25 024-923-6601	郡山市
	郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘1-5 024-961-1600	郡山市
	郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目38 024-946-8850	郡山市
	郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎 181-1 024-921-0030	郡山市
	須賀川市図書館	須賀川市八幡町134 0248-75-3309	須賀川市
	須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町85 0248-67-2138	須賀川市
	須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前22番地 0248-65-3549	須賀川市
	鏡石町図書館	鏡石町旭町440-6 0248-62-1288	鏡石町
	古殿町図書館	古殿町松川字横川235 0247-53-2305	古殿町

名 称	所在地・電話番号	設置者
三春町民図書館	三春町字大町 1 2 番地の 1 0 2 4 7 - 6 2 - 3 3 7 5	三春町
小野町ふるさと文化の館・図書館	小野町大字小野新町字中通 2 0 2 4 7 - 7 2 - 2 1 2 0	小野町
田村市図書館	田村市船引町船引字扇田 1 9 0 2 4 7 - 8 2 - 1 0 0 1	田村市
田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町 4 8 - 1 0 2 4 7 - 7 8 - 2 0 0 1	田村市
田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字元池 8 7 - 5 0 2 4 7 - 7 9 - 2 1 6 1	田村市
田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏 1 番地 0 2 4 7 - 7 7 - 2 2 1 1	田村市
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字遠下前 8 7 0 2 4 7 - 7 5 - 2 0 6 3	田村市
白河市立図書館	白河市手代町 2 2 番地 1 0 2 4 8 - 2 3 - 3 2 5 0	白河市
白河市東図書館	白河市東釜子字狐内 4 7 番地 0 2 4 8 - 3 4 - 1 1 3 0	白河市
中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田 2 5 0 2 4 8 - 4 6 - 3 6 1 4	白河市
矢吹町図書館	矢吹町小松 4 8 1 0 2 4 8 - 4 4 - 3 5 9 5	矢吹町
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館 2 4 - 9 0 2 4 8 - 5 3 - 4 7 7 9	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字城跡 2 6 - 2 0 2 4 7 - 3 3 - 4 3 4 2	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町 6 8 - 6 0 2 4 7 - 4 3 - 0 8 0 8	塙町
矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東館字石田 2 5 0 2 4 7 - 4 6 - 4 6 4 6	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字新宿 6 4 - 2 0 2 4 7 - 2 9 - 1 1 5 0	鮫川村
会津若松市立会津図書館	会津若松市城東町 2 番 3 号 0 2 4 2 - 2 7 - 1 7 8 4	会津若松市
喜多方市立図書館	喜多方市字柳原 7 5 0 3 番 地の 1 0 2 4 1 - 2 2 - 1 8 5 5	喜多方市
南会津町図書館	南会津町田島字宮本東 2 2 番地 0 2 4 1 - 6 2 - 5 5 2 2	南会津町

名 称	所在地・電話番号	設置者
相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町 6 5 - 1 6 0 2 4 4 - 3 7 - 2 6 3 0	相馬市
新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田 4 0 - 1 0 2 4 4 - 6 2 - 5 0 3 1	新地町
南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁 目 7 - 1 0 2 4 4 - 2 3 - 7 7 8 9	南相馬市
南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田 2 2 - 1 0 2 4 4 - 4 6 - 5 1 1 6	南相馬市
南相馬市立小高図書館	南相馬市小高区本町二丁目 8 9 - 1 0 2 4 4 - 4 4 - 3 0 4 9	南相馬市
浪江町図書館	浪江町権現堂字矢沢町 6 - 1 0 2 4 0 - 3 4 - 5 0 2 4	浪江町
双葉町図書館	双葉町大字長塚字鬼木 1 0 2 4 0 - 3 3 - 4 2 1 4	双葉町
大熊町図書館	大熊町大字下野上字大野 6 6 9 - 3 0 2 4 0 - 3 2 - 3 0 1 1	大熊町
富岡町図書館	富岡町大字本岡字王塚 6 2 2 番地の 1 0 2 4 0 - 2 1 - 3 6 6 5	富岡町
いわき市立総合図書館	いわき市平字田町 1 2 0 0 2 4 6 - 2 2 - 5 5 5 2	いわき市
いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下 4 0 - 1 0 2 4 6 - 4 5 - 1 0 3 0	いわき市
いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜字愛宕上 7 - 2 0 2 4 6 - 5 4 - 9 2 5 7	いわき市
いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田 1 0 2 4 6 - 4 4 - 6 2 1 8	いわき市
いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町 1 丁目 2 - 2 0 2 4 6 - 6 2 - 7 4 3 1	いわき市
いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一丁目 5 0 0 2 4 6 - 3 2 - 5 9 8 0	いわき市
法人 クローバー子供図書館	郡山市開成 6 - 3 4 6 - 1 0 2 4 - 9 3 2 - 2 1 1 8	(財) 金 森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館及び相当施設

名 称	所在地・電話番号	設置者 種別 登録・指定年月日
福島県立美術館	福島市森合字西養山1 024-531-5511	福島県 美術博物館 59. 7. 16
福島県立博物館	会津若松市城東町 1-25号 0242-28-6000	福島県 総合博物館 61. 11. 28
須賀川市立博物館	須賀川市池上町6番地 0248-75-3239	須賀川市 歴史博物館 46. 7. 10
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町4番 地の4 0246-25-1111	いわき市 美術博物館 59. 9. 3
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地 130-2 024-956-2200	郡山市 美術博物館 平5. 1. 20
南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出 口194 0244-23-6421	南相馬市 総合博物館 平8. 5. 9
登野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前 田81 0242-65-2319	(財)野口英世記念会 歴史博物館 29. 10. 21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前 田33-1 0242-65-2600	(財)会津民俗館 歴史博物館 55. 10. 3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八 幡字弁天下33 0242-24-9170	(財)白虎隊記念館 歴史博物館 63. 6. 30
相国会津博物館	南会津町糸沢字西沢山 3692-20 0241-66-3077	南会津町 歴史博物館 平21. 6. 16
当諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ 峰1093番23 0241-37-1088	(財)諸橋近代美術館 美術博物館 平11. 8. 17
設藤田記念博物館	白河市五郎窪37-1 0248-24-1780	(財)藤田教育振興会 美術博物館 昭54. 9. 1
やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙 187 0241-42-3630	柳津町 美術博物館 平11. 9. 28
龍が城美術館	いわき市平字旧城跡27 0246-22-1601	(財)白龍会 美術博物館 30. 2. 10
会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石 山字院内1番地 0242-28-2525	(株)会津武家屋 敷歴史博物館 56. 11. 25
安積歴史博物館	郡山市開成5-25- 63 024-938-0778	(財)安積歴史博物館 歴史博物館 59. 9. 8
磐梯山噴火記念館	北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36 0241-32-2888	(株)ゴールドハウス目黒 科学博物館 平5. 7. 1
會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野 字高塚山10番地 0242-75-2525	(株)会津武家屋 敷歴史博物館 平12. 11. 28

イ 類似施設

名 称	所在地・電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町50 0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段86 0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町5-54 024-534-9193	福島県
ふれあい歴史館（福島市資料展示室）	福島市上町5-1 024-521-5318	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内 024-593-5249	福島市
福島市古関裕而記念館	福島市入江町1-1 024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町11-36 024-534-9777	福島市
UFOふれあい館	福島市飯野町大字青木字小手神 森1-299 024-562-2002	福島市
民俗資料展示室	福島市飯野町大字明治字北小戸明 利60	福島市
川俣町織物展示館	川俣町鶴沢字東13-1 024-565-4889	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町10 024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇265 024-575-1615	伊達市
霊山子どもの村遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1 024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町1-102 0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町36 0243-22-6151	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵183 0243-48-2569	大玉村
歴史民俗資料館	本宮市字南町裡130 0243-33-2546	本宮市
白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎494-44 0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成3-3-7 024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山1-8-3 024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町3-5 024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前2-11-1ビッグ アイ20F～24F 024-936-0201	郡山市
須賀川市歴史民俗資料館	須賀川市長沼字門口186 0248-67-2030	須賀川
古殿町郷土文化保存伝習施設	古殿町大字松川字横川235 0247-53-2305	古殿町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石1-2 0248-81-1030	天栄村
石川町歴史民俗資料館	石川町字高田200-2 0247-26-3768	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地 144-6	浅川町

名 称	所在地・電話番号	設置者
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下 2 8 7 0 2 4 7 - 3 6 - 4 1 2 9	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷 5 0 2 4 7 - 6 2 - 5 2 6 3	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町 3 0 0 2 4 7 - 6 2 - 7 0 5 3	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通 2 0 2 4 7 - 7 2 - 2 1 2 0	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前 1 9 6 番地	田村市
白河市歴史民俗資料館	白河市市中田 7 - 1 0 2 4 8 - 2 7 - 2 3 1 0	白河市
白河集古苑	白河市郭内 1 - 7 3 0 2 4 8 - 2 4 - 5 0 5 0	白河市
中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田 2 5 0 2 4 8 - 4 6 - 3 6 1 4	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田 2 5 0 2 4 8 - 4 6 - 3 6 1 4	白河市
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館 2 4 - 9 0 2 4 8 - 5 3 - 4 7 7 7	泉崎村
あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元 8 6 - 1 0 2 4 7 - 4 2 - 2 5 1 0	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田 2 5	矢祭町
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町 8 - 1 0 2 4 2 - 2 7 - 2 4 7 2	会津若松市
若松城天守閣	会津若松市追手町 1 - 1 0 2 4 2 - 2 7 - 4 0 0 5	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町 1 - 1 0 2 4 2 - 2 7 - 4 0 0 5	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町 2 - 8 - 8 0 2 4 2 - 2 2 - 8 6 8 6	会津若松市
いなわしろ淡水魚館	猪苗代町大字長田字東中丸 3 4 4 - 4 0 2 4 2 - 6 5 - 2 4 8 1	財団法人
喜多方市郷土民俗館	喜多方市柳原 7 5 0 3 - 1 0 2 4 1 - 2 2 - 4 1 5 4	喜多方市
喜多方蔵の里	喜多方市市押切 2 丁目 1 0 9 0 2 4 1 - 2 2 - 6 5 9 2	喜多方市
喜多方市美術館	喜多方市押切 2 丁目 2 0 2 4 1 - 2 3 - 0 4 0 4	喜多方市
喜多方市高郷郷土資料館	喜多方市高郷町上郷字天神後戊 4 1 7 0 2 4 1 - 4 4 - 2 7 6 5	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下 8 4 2 0 2 4 2 - 8 4 - 1 2 3 3	会津坂下町
ほっと i n やないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙 1 5 1 - 1 0 2 4 1 - 4 1 - 1 0 7 7	柳津町
会津美里町民俗資料館	会津美里町米田字堂ノ後甲 1 4 9 0 2 4 2 - 7 8 - 2 0 0 7	会津美里町
三島町交流センター山びこ	三島町名入字諏訪ノ上 4 1 8 0 2 4 1 - 5 2 - 2 1 6 5	三島町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原 1 0 2 4 1 - 5 8 - 1 6 7 7	昭和村
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲 4 6 8 1 0 2 4 1 - 6 2 - 3 8 4 8	南会津町

名 称	所在地・電話番号	設置者
久川城資料館	南会津町青柳字久川 2 4	南会津町
奥会津南郷民俗館	南会津町界字川久保 5 5 2 0 2 4 1 - 7 3 - 2 8 2 9	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原 8 8 7 - 2 0 2 4 1 - 7 5 - 2 3 4 2	檜枝岐村
会津只見考古館	只見町大字大倉字窪田 3 3 0 2 4 1 - 8 6 - 2 1 7 5	只見町
河井継之助記念館	只見町大字塩沢字上ノ台 8 5 0 - 5 0 2 4 1 - 8 2 - 2 8 7 0	只見町
相馬市歴史民俗資料館	相馬市中村字大手先 1 3 0 2 4 4 - 3 7 - 2 1 9 1	相馬市
鹿島歴史民俗資料館	南相馬市鹿島区西町 3 - 1 0 2 4 4 - 4 6 - 4 2 8 1	南相馬市
埴谷島尾記念文学資料館	南相馬市小高区本町二丁目 8 9 - 1 0 2 4 4 - 4 4 - 3 0 4 9	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合 1 1 0 2 4 0 - 2 9 - 2 0 0 8	葛尾村
双葉町歴史民俗資料館	双葉町大字新山字本町 2 7 - 1 0 2 4 0 - 3 3 - 4 7 6 3	双葉町
大熊町民俗伝承館	大熊町大字下野字上野大野 6 6 9 - 3 0 2 4 0 - 3 2 - 3 0 1 1	大熊町
富岡町歴史民俗資料館	富岡町大字本岡字王塚 6 2 2 - 1 0 2 4 0 - 2 2 - 2 6 2 6	富岡町
檜葉町歴史資料館	檜葉町大字北田字鐘突堂 5 - 4 0 2 4 0 - 2 5 - 2 4 9 2	檜葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田 3 - 1 0 2 4 6 - 4 2 - 3 1 5 5	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢 6 - 1 0 2 4 6 - 6 5 - 6 1 6 6	財団法人
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房 1 4 7 - 2 0 2 4 6 - 8 2 - 4 5 6 1	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐湯本町手這 5 0 - 1 0 2 4 6 - 4 3 - 0 3 9 1	いわき市
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道 1 - 3 9 0 2 4 6 - 8 3 - 0 0 0 5	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内 6 - 1 0 2 4 6 - 8 3 - 0 0 0 5	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野 1 4 - 1 6 0 2 4 6 - 2 9 - 2 2 3 0	いわき市
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚 3 - 1 8 3 0 2 4 - 5 9 3 - 0 6 3 9	財団法人
種徳美術館	桑折町字陣屋 1 2 0 2 4 - 5 8 2 - 5 5 0 7	桑折町
東北サファリパーク	二本松市沢松倉 1 0 2 4 3 - 2 4 - 2 3 3 6	株式会社
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内 4 1 0 2 4 - 9 7 1 - 3 9 0 0	私人
ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台 1 0 0 0 2 4 8 - 8 9 - 1 1 2 0	財団法人
(有)大桑原つつじ園	須賀川市大桑原字竹ノ花 1 3 0 2 4 8 - 7 6 - 5 8 5 7	有限会社
(株)エイトファーム三春ハーブガーデン	三春町大字斎藤字仁井道 1 2 6 0 2 4 - 9 4 2 - 7 9 3 9	株式会社

名 称	所在地・電話番号	設置者
リカちゃんキ ャッスル	小野町小野新町中通 5 1 - 3 0 2 4 7 - 7 2 - 6 3 6 4	株式会社
フラワーワ ールド	白河市南湖 5 9 0 2 4 8 - 2 3 - 2 1 0 0	私人
南湖神社宝 物館	白河市字菅生館 2 0 2 4 8 - 2 3 - 3 0 1 5	私人
木の博物館	塙町大字伊香字松原 1 6 0 - 1 3 0 2 4 7 - 4 3 - 1 4 8 0	有限会社
会津酒造歴 史館	会津若松市東栄町 8 - 7 0 2 4 2 - 2 6 - 0 0 3 1	株式会社
会津葵シル クロード文 明館	会津若松市追手町 4 - 6 0 2 4 2 - 2 7 - 1 0 0 1	株式会社
(社) 福島県 伝統産業会 館	会津若松市大町 1 - 7 - 3 0 2 4 2 - 2 4 - 5 7 5 7	社団法人
大和川酒造 北方風土館	喜多方市寺宇町 4 7 6 1 0 2 4 1 - 2 2 - 2 2 3 3	私人
喜多方蔵品 美術館	喜多方市梅竹 7 2 9 4 - 4 0 2 4 1 - 2 4 - 3 5 7 6	私人
桐の博物館	喜多方市押切南 2 - 1 2 0 2 4 1 - 2 2 - 1 9 1 1	私人
うるし美術 博物館	喜多方市宇東町 4 0 9 5 0 2 4 1 - 2 4 - 4 1 5 1	株式会社
御蔵入細井 家資料館	南会津町静川字風下甲 1 7 5 0 2 4 1 - 6 2 - 0 9 0 6	私人

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

種別	施設名	所在地・電話番号	設置者
県 設 置	福島県郡山 自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山 4 6 0 2 4 - 9 5 7 - 2 1 1 1	福島県
	福島県会津 自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山 4 4 9 5 - 1 0 2 4 2 - 8 3 - 2 4 8 0	福島県
	福島県相馬 海浜自然の 家	相馬市磯部字大洲 3 8 番地の 3 0 2 4 4 - 3 3 - 5 2 2 4	福島県
	福島県いわ き海浜自然 の家	いわき市久之浜町田之網字向山 5 3 0 2 4 6 - 3 2 - 7 7 0 0	福島県
教 育 施 設	国立那須甲 子青少年自 然の家	西郷村大字真船字村火 6 - 1 0 2 4 8 - 3 6 - 2 3 3 1	文部科学 省
	国立磐梯青 少年交流の 家	猪苗代町字五輪原 7 1 3 6 - 1 0 2 4 2 - 6 2 - 2 5 3 0	文部科学 省
	市町村 (条 例) 設置	3 9 施設 (別掲)	
	他県設置等	1 2 施設 (別掲)	

《市町村 (条例) 設置 3 9 施設》

名称	所在地・電話番号	設置者
福島県青少年 会館	福島市黒岩字田部屋 5 3 - 5 0 2 4 - 5 4 6 - 8 3 1 1	財団法人
福島市社会教 育会館「こぶ し荘」	福島市庭坂字砥石山 4 0 - 1 3 0 2 4 - 5 9 1 - 3 3 6 6	福島市
福島市社会教 育会館「立子 山自然の家」	福島市立子山字金井作 1 0 2 4 - 5 9 7 - 2 9 5 1	福島市
福島市勤労青 少年ホーム	福島市入江町 1 - 1 0 2 4 - 5 3 1 - 6 2 2 1	福島市
福島市子ども 夢を育む施設	福島市早稲町 1 - 1 0 2 4 - 5 2 4 - 3 1 3 1	福島市
二本松市青年 の家	二本松市榎戸 1 - 9 2 0 2 4 3 - 2 3 - 5 1 2 1	二本松市
二本松市二本 松勤労青年ホ ーム	二本松市榎戸 1 - 9 2 0 2 4 3 - 2 3 - 5 1 2 1	二本松市
二本松市安達 勤労青少年ホ ーム	二本松市油井字濡石 3 - 1 0 2 4 3 - 2 3 - 3 7 2 1	二本松市
本宮市勤労青 少年ホーム	本宮市字矢来 3 9 - 1 0 2 4 3 - 3 3 - 2 6 1 1	本宮市
郡山市青少年 会館	郡山市大槻町字漆棒 8 2 0 2 4 - 9 6 1 - 8 2 8 2	郡山市
郡山市少年湖 畔の村	郡山市湖南町横沢字村西 1 1 2 0 2 4 - 9 8 2 - 2 1 1 5	郡山市
郡山勤労青少 年ホーム	郡山市麓山 1 丁目 8 - 4 0 2 4 - 9 3 2 - 3 0 2 7	郡山市
須賀川市市民 の森	須賀川市塩田字音森 2 0 0 2 4 8 - 7 9 - 2 1 8 7	須賀川市
須賀川市勤労 青年ホーム	須賀川市和田字柏崎 4 4 0 2 4 8 - 6 3 - 2 1 5 4	須賀川市
須賀川市ふれ あいセンター	須賀川市長緑町 7 9 0 2 4 8 - 7 2 - 0 2 0 0	須賀川市
鏡石町勤労青 少年ホーム	鏡石町中央 5 9 0 2 4 8 - 6 2 - 2 1 1 5	鏡石町
鏡石町ふれあ いの森公園	鏡石町小栗山 7 1 0 2 4 8 - 8 3 - 2 3 8 1	鏡石町
三春町児童生 活センター	三春町大字 7 番 1 号 0 2 4 7 - 6 2 - 8 6 6 6	三春町
田村市船引児 童館	田村市船引町船引字石田 1 5 1 0 2 4 7 - 8 2 - 0 6 9 0	田村市
小野町勤労青 少年ホーム	小野町大字小野新町字中道 2 0 2 4 7 - 7 2 - 2 1 2 5	小野町
石川町勤労青 少年ホーム	石川町当町 4 1 8 - 1 0 2 4 7 - 2 6 - 2 5 6 6	石川町
聖ヶ岩ふるさ との森	白河市大信限戸 5 7 及び 5 9 林班地内 0 2 4 8 - 4 6 - 2 4 7 1	白河市
会津若松市勤 労青少年ホー ム	会津若松市城東町 1 4 - 5 2 0 2 4 2 - 2 6 - 6 6 6 2	会津若松 市
会津若松市少 年の家	会津若松市城東町 1 5 - 6 2	会津若松 市
青少年研修セ ンター(わら び学園)	喜多方市熱塩加納町加納字村前乙 5 4 9	喜多方市
喜多方市勤労 青少年ホーム	喜多方市舞台田 3 1 1 9 - 1 0 2 4 1 - 2 2 - 1 4 0 3	喜多方市
びわ沢原森林 公園	猪苗代町字琵琶沢原 7 0 9 5 0 2 4 2 - 6 2 - 3 2 9 1	猪苗代町
三島町生涯学 習センター森 の校舎カタク リ	三島町西方字上原 3 5 8 0 0 2 4 1 - 4 8 - 5 5 7 7	三島町
御蔵入の里会 津山村道場	南会津町系沢字西沢山 3 6 9 2 - 2 0 0 2 4 1 - 6 6 - 2 1 0 8	南会津町

名称	所在地・電話番号	設置者
野外活動施設 (開墾小屋)	南会津町多々石字多々石入872-216	南会津町
針生青少年旅行村	南会津町針生字宮ノ下1734-10241-62-6200	南会津町
南相馬市勤労青少年ホーム	南相馬市原町区三島町2-450244-22-2047	南相馬市
南相馬市鹿島B &G海洋センター	南相馬市鹿島区鳥崎字牛島30244-46-4848	南相馬市
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里15-10244-62-3106	新地町
双葉町青年婦人会館	双葉町長塚字谷沢町560240-33-2083	双葉町
グリーンフィールド富岡	富岡町小浜3040240-22-5566	富岡町
富岡町合宿センター	富岡町小浜3430240-22-7000	富岡町
檜葉町サイクリングターミナル 展望の宿天神	檜葉町北田字上ノ原27-290240-25-3113	檜葉町
いわき市勿来勤労青少年ホーム	いわき市金山町朝日台10246-63-2879	いわき市

参考 ※ いわき市生涯学習プラザ

いわき市平1丁目1番地ティーワンビル
4・5階

※ 財団法人福島県産業振興センター産業交流館
(ビッグバレットふくしま)

郡山市安積町日出山字北千保19-8

《他県設置等12施設》

名 称	所在地・電話番号	設置者
天栄村羽鳥湖畔 オートキャンプ場	天栄村羽鳥字芝草2-40248-85-2033	財団法人
矢祭山友情の森	矢祭町大字山下字下河原1-10247-46-2162	矢祭町
只見町青少年旅行村いこいの森	只見町大字只見字向山2832-20241-82-2432	只見町
高清水自然公園	南会津町界字長池沢口4298-120241-73-2115	南会津町
小野田自然塾	東京都中央区佃1-10-503-3533-7895	財団法人
越谷市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班0243-24-2561	越谷市
羽生市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班之小班0243-24-2859	羽生市
葛飾区立あだたら高原学園	二本松市永田字長坂国有林14林班0243-24-2206	葛飾区
中野区常葉少年自然の家	田村市常葉町山根字鰯5-290247-77-2098	中野区
朝霞市立猪苗代湖自然の家	会津若松市湊町大字赤井字戸ノ口530242-94-2434	朝霞市
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山2847-10241-78-2311	さいたま市
S Y Dばんだい ふれあいびあ	北塩原村桧原字南黄連沢山1157-1920241-33-2335	財団法人

第9章 文化

第1節 概要

近年、生活水準の向上、自由時間の増大及び生涯学習の進展を背景として、心の豊かさを実感できる生活の実現を求める県民意識が高まりをみせており、新たな文化を創造、発展させることが求められている。

このため、県教育委員会では、県民の自主性と創造性を尊重しながら、“地域文化を創造し伝承する”を目標に、また、「文化活動の振興」、「文化財の愛護と伝統文化の継承」、「文化施設の整備充実」を施策の3本の柱として、文化活動をさらに活発にするための条件整備を積極的に展開しているが、その成果は次のとおりである

1 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

また、平成23年に開催される第35回全国高等学校総合文化祭に向け、総合開会式、パレード、各部門のプレ大会を実施するとともに、各種広報や所要の準備作業を進めた。

2 文化の伝承の充実

(1) 文化財保護体制の充実

文化財保存管理の万全を期するため、文化財保護指導委員に13名を委嘱し、文化財パトロールの充実に努めた。

(2) 文化財保存調査

文化財を指定して保存するため、県指定にかかる文化財保存調査を実施した。

また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による県内指定文化財等の被害調査に着手した。

(3) 埋蔵文化財の保存の充実

開発事業に対して、事前の表面調査と試掘調査を実施するとともに、事業者側と協議を行い、可能な限り埋蔵文化財の現状保存に努めながら、記録の保存のための発掘調査を行った。

(4) 文化財防災設備等の整備促進

文化財防災設備、保存施設等の整備を促進するとともに、所有者又は管理団体等に対し日常的管理の強化を図るよう指導に当たった。

(5) 文化財保存助成の充実

国・県指定文化財の保存修理及び埋蔵文化財保存調査と一体となって、文化財を広く県民へ公開する「指定文化財保存活用事業」により助成を行った。

(6) 文化財の愛護と公開の推進

文化財に対する県民の理解と愛護精神の高揚を図るため文化・スポーツ局と連携を図ったほか、文化財伝承活動顕彰事業を実施するなど、文化財の伝承活動の推進に努めた。

また、北海道・東北地方に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開するために「第52回北海道・東北ブロック民俗芸能大会」を福島市で開催した。

3 文化施設の整備充実

(1) 県立美術館の整備充実

常設展、企画展等を開催するとともに、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図る施設として、各事業の充実に努めた。

第2節 文化活動の振興

1 芸術文化活動発表機会の充実

(1) 福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。(補助対象事業費計：3,870千円、補助金額計：1,000千円)

ア 平成22年度福島県高等学校文化連盟

役員

役職名	氏名	職	所属校	役職名	氏名	職	所属校
会長	杉 昭 重	校長	安積黎明高等学校	幹事	今 泉 勝 行	教諭	安 積 高 等 学 校
副会長(私立)	森 涼	校長	学法石川高等学校	幹事	小 野 竜 哉	教諭	勿来工業高等学校
副会長(県北)	星 浩 次	校長	福島南高等学校	幹事	飯 豊 利 子	教諭	白河旭高等学校
副会長(県南)	鈴 木 仁	校長	安 積 高 等 学 校	幹事	安 斎 泉	教諭	須賀川桐陽高等学校
副会長(会津)	田 辺 英 憲	校長	坂 下 高 等 学 校	幹事	中 原 久 美 子	教諭	郡山商業高等学校
副会長(いわき)	鈴 木 則 喜	校長	平工業高等学校	幹事	深 瀬 幸 一	教諭	橘 高 等 学 校
副会長(相双)	伊 藤 裕 隆	校長	小高工業高等学校	幹事	山 崎 由 起 子	講師	安積黎明高等学校
理事長	和 田 直 也	教諭	安積黎明高等学校	幹事	渡 部 貴 子	養護	安積黎明高等学校
事務局長	清 野 浩 幸	教諭	安積黎明高等学校	幹事	穂 積 清 康	事務員	安積黎明高等学校
監事	猪 狩 幸 一	校長	須賀川高等学校	顧問	笠 原 裕 二	室長	全国高等学校総合文化祭推進室
監事	渡 部 亮	教諭	坂 下 高 等 学 校				

専門部会長・専門部委員長

専門部	部会長	職	所属校	部委員長	職	所属校
演 劇	山ノ内 壽太郎	校長	磐 城	猪 狩 恭 博	教諭	磐 城
高 音 連	荒 井 一 成	校長	猪 苗 代	近 藤 和 子	教諭	四 倉
合 唱	鈴 木 仁	校長	安 積	鈴 木 和 明	教諭	安 積
吹 奏 楽	雪 下 芳 昭	校長	湯 本	橋 本 葉 司	教諭	湯 本
器楽管弦楽	東 陽 一	校長	郡 山 商	鈴 木 敦	教諭	郡 山 商
日 本 音 楽	鈴 木 浩 一	校長	いわき総合	瀬 谷 浩 子	教諭	いわき総合
吟詠剣詩舞	渡 部 裕 一	校長	会 津	山 内 誠	教諭	会 津
郷土芸能	二本松 義公	校長	相 馬 農	齋 藤 勝 文	教諭	相 馬 農
マーチング・B・バトンT	岩 渕 賢 美	校長	福 島 商	佐 藤 聖 倫	教諭	福 島 商
美術・工芸	若 林 吉 男	校長	福 島 北	吉 沢 順 子	教諭	白 河
書 道	遠 藤 光	校長	相 馬 東	鹿 山 俊	教諭	相 馬 東
写 真	荒 井 光 廣	校長	会 津 学 鳳	永 峯 秀 明	教諭	会 津 学 鳳
放送文化	遠 藤 秀 雄	校長	郡 山	高 橋 俊 男	教諭	郡 山
囲 碁	菅 田 健 夫	校長	保 原	鈴 木 仁 孝	教諭	橘
将 棋	富 田 昭 夫	校長	福 島	渡 辺 洋 生	教諭	福 島
弁 論	湯 田 嘉 朗	校長	白 河 旭	太 田 克 弘	教諭	白 河 旭
小倉百人一首かるた	玉 川 一 郎	校長	郡 山 東	千 葉 佳 子	教諭	郡 山 東
新 聞	新 田 銀 一	校長	葵	猪 狩 利 一	教諭	いわき光洋
文 芸	齋 藤 貢 一	校長	小 高 商	橋 本 忠 広	教諭	湯 本
自 然 科 学	湯 田 嘉 朗	校長	白 河 旭	長谷川 幸子	教諭	福 島 西
農 業	水 野 晴 夫	校長	磐 城 農	坂 井 聖 治	教諭	磐 城 農
工 業	兼 田 信 男	校長	郡 山 北 工	我 妻 和 夫	教諭	郡 山 北 工
商 業	岩 渕 賢 美	校長	福 島 商	川 岸 正 人	教諭	福 島 商
家 庭	雪 下 芳 昭	校長	湯 本	水 添 智 子	教諭	湯 本
定 通	渡部 勢津子	校長	いわき翠の杜	大 友 育 也	教諭	いわき翠の杜
特別支援学校	渡 邊 恵 一	校長	石 川 養 護	秋 元 良 介	教諭	石 川 養 護
国 際 教 育	志 賀 一 成	校長	須賀川桐陽	泉 田 一 喜	教諭	須賀川桐陽
J R C	小 浜 宗 一 郎	校長	喜 多 方 東	松 本 靖 弘	教諭	喜 多 方 東

イ 第29回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、平成22年5月から平成22年12月まで、専門部の行事を開催するとともに、平成22年11月4日に郡山市民文化センターにおいて総合開会式を開催した。

部 門	期 日	場 所	内 容
総 合 開 会 式	11月4日(木)	郡山市民文化センター	第35回全国高等学校総合文化祭プレ総合開会
パ レ ー ド	11月13日(土)	郡 山 市 さ く ら 通 り	第35回全国高等学校総合文化祭プレパレード
演 劇	12月24日(金) ～26日(日)	福 島 県 文 化 セ ン タ ー	第35回全国高等学校総合文化祭演劇部門プレ大会
合 唱	6月17日(木) ～20日(日)	南相馬市民文化会館 「ゆめはっと」	第35回全国高等学校総合文化祭合唱部門プレ大会
吹 奏 楽			第35回全国高等学校総合文化祭吹奏楽部門プレ大会
器 楽・管 弦 楽			第35回全国高等学校総合文化祭器楽・管弦楽部門プレ大会
日 本 音 楽	11月5日(金)	須賀川市文化センター	第35回全国高等学校総合文化祭日本音楽部門プレ大会
吟 詠 剣 詩 舞	12月18日(土)	會 津 風 雅 堂	第35回全国高等学校総合文化祭吟詠剣詩舞部門プレ大会
郷 土 芸 能	11月26日(金)	南相馬市民文化会館 「ゆめはっと」	第35回全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門プレ大会
マーチングバンド・ バトントワリング	8月26日(木)	福 島 県 営 あ づ ま 総 合 体 育 館	第35回全国高等学校総合文化祭マーチングバンド・バトントワリング部門プレ大会
美 術・工 芸	11月17日(水) ～19日(金)	福島市国体記念体育館	第35回全国高等学校総合文化祭美術・工芸部門プレ大会
書 道	11月2日(火) ～3日(水)	ビッグパレットふくしま	第35回全国高等学校総合文化祭書道部門プレ大会
写 真	8月10日(火) ～11日(水)	国 立 磐 梯 青 少 年 交 流 の 家	第35回全国高等学校総合文化祭写真部門プレ大会
	12月9日(木) ～12日(日)	会津若松市文化センター	
放 送	1月22日(土) ～23日(日)	ビッグパレットふくしま	第35回全国高等学校総合文化祭放送部門プレ大会
囲 碁	9月24日(金) ～25日(土)	パ ル セ い い ざ か	第35回全国高等学校総合文化祭囲碁部門プレ大会
将 棋	11月17日(水) ～18日(木)	パ ル セ い い ざ か	第35回全国高等学校総合文化祭将棋部門プレ大会
弁 論	11月10日(水)	白河市東文化センター	第35回全国高等学校総合文化祭弁論部門プレ大会
小 倉 百 人 一 首 か る た	11月11日(木)	須 賀 川 ア リ ー ナ	第35回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門プレ大会
新 聞	11月18日(木) ～19日(金)	ホ テ ル い づ み や	第35回全国高等学校総合文化祭新聞部門プレ大会
文 芸	10月21日(木) ～22日(金)	いわき市文化センター	第35回全国高等学校総合文化祭文芸部門プレ大会
自 然 科 学	11月6日(土) ～7日(日)	日 本 大 学 工 学 部	第35回全国高等学校総合文化祭自然科学部門プレ大会
特 別 支 援 学 校	7月10日(土) ～11日(日)	いわき市文化センター	第35回全国高等学校総合文化祭特別支援学校部門プレ大会
JRC・ボランティア	8月5日(木) ～7日(土)	国立磐梯青少年交流の家	第35回全国高等学校総合文化祭JRC・ボランティア部門プレ大会
産 業・交 流	11月13日(土)	コ ラ ッ セ ふ く し ま	第35回全国高等学校総合文化祭産業・交流部門プレ大会

ウ 第34回全国高等学校総合文化祭への派遣

平成22年8月1日から8月5日まで、宮崎県で開催された文化祭に参加する228名を派遣した。

〔参加部門等及び参加生徒数〕

演劇6名、合唱37名、吹奏楽72名、器楽・管弦楽16名、日本音楽6名、郷土芸能22名、美術・工芸5名、書道5名、写真9名、放送16名、囲碁5名、将棋6名、弁論2名、小倉百人一首かるた9名、新聞4名、文芸5名、国際・ボランティア3名

エ 平成22年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

(7) 団体

専門部	大会名	成績	学校名
合唱	第63回全日本合唱コンクール全国大会	金賞(文部科学大臣賞)	安積
		金賞(兵庫県知事賞)	安積黎明
		銀賞	橘
		銀賞	郡山
	第77回NHK全国学校音楽コンクール全国大会	銅賞	会津
吹奏楽	第58回全日本吹奏楽コンクール	金賞(文部科学大臣賞)	安積黎明
マーチング B・パトント	全国高等学校ダンスドリル選手権大会2010	銀賞	磐城
放送文化	第57回NHK杯全国高等学校放送コンテスト	7位(POM部門)	富岡
		テレビドキュメント部門 優秀賞	西会津
小倉百人一首かるた	第32回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会	創作ラジオドラマ部門 優良賞	磐城
新聞	第14回全国高校年間紙面審査賞	4位	安積黎明
文芸	第25回全国高等学校文芸コンクール	最優秀賞	福島
工業	本田宗一郎杯・Hondaエコマイレッジチャレンジ2010 第30回全国大会	奨励賞	会津
	世界青少年発明工夫展	優秀賞(一ツ橋文芸教育振興会賞)	磐城
商業	第57回全国珠算・電卓競技大会	グループⅡ(高等学校クラス)第1位	学法松栄
	平成22年度全国簿記競技大会	WIPO賞	郡山北工業
家庭	第57回全国珠算・電卓競技大会	電卓部門 団体3等	郡山商業
	平成22年度全国簿記競技大会	優勝	若松商業
定通	第58回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会	学校家庭クラブ活動部門 福岡県教育委員会賞	双葉

(1) 個人

専門部	大会名	成績	学校名	氏名
書道	第34回全国高等学校総合文化祭書道部門	奨励賞	郡山東	添田あかね
写真	第34回全国高等学校総合文化祭写真部門	奨励賞	郡山東	栗城みなみ
放送文化	第34回全国高等学校総合文化祭放送部門	奨励賞	磐城	加古奈保美
		優秀賞	郡女大附属	笹山佳会
	第57回NHK杯全国高校放送コンテスト	優秀賞	葵	遠藤みゆき
		入選	郡山	石山怜那
弁論	第55回文部科学大臣杯全国青年弁論大会	入選	郡山	日下実明
小倉百人一首かるた	第34回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門	優秀賞	郡女大附属	古川ほのか
農業	第61回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技会	読手コンクール第2位(優秀賞)	安積黎明	渡辺真緒
		食品科学 最優秀賞	福島明成	佐藤友美
		優秀賞	福島明成	佐藤百子
		優秀賞	岩瀬農業	加藤美香
		優秀賞	修明	安田有希
		優秀賞	磐城農業	兼田成満
		畜産 優秀賞	福島明成	武藤美鈴
		優秀賞	福島明成	田島英理
工業	第68回全日本学生児童発明くふう展	優秀賞	福島明成	土屋香菜
		園芸 優秀賞	福島明成	樹沼新平
		農業土木 優秀賞	岩瀬農業	榊沼新平
		内閣総理大臣賞	郡山北工業	遠藤啄郎
商業	第57回全国高等学校珠算・電卓競技大会	2等	郡山商業	熊田郁美
		電卓・応用計算 3等	郡山商業	松崎ひかる
		電卓・伝票算 3等	郡山商業	富山幸奈
		3等	郡山商業	松崎ひかる
		3等	郡山商業	三本松優香
		電卓 個人総合3等	郡山商業	松崎ひかる
		珠算 個人総合3等	郡山商業	武田英大
		平成22年度全国簿記競技大会 個人総合競技 優勝	若松商業	栗田千春
家庭	第58回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会	3位	若松商業	吉田博子
		ホームプロシエクト部門 産業教育中央会賞	いわき総合	鈴木さおり
定通	第58回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会	厚生労働省職業能力開発局長賞	いわき翠の杜	草野有香

オ 平成22年度福島県高等学校文化連盟表彰

(7) 優秀団体

No.	団 体 名	所属校名	専 門 部	全 国 大 会 等 で の 成 績
1	安 積 高 校 団 体 安 積 合 唱	安 積 合 唱	合 唱	第63回全日本合唱コンクール全国大会 金賞 文部科学大臣賞 (全国大会第1位相当)
2	安 積 黎 明 高 校 コ ー ラ ス 部	安 積 黎 明	合 唱	第77回NHK全国学校音楽コンクール 金賞 (全国大会第1位相当) 第63回全日本合唱コンクール全国大会 金賞 兵庫県知事賞 (全国大会第2位相当)
3	安 積 黎 明 高 校 ク ラ シ ッ ク 部	安 積 黎 明	器 楽 管 弦 楽	第48回全国学校合奏コンクール全国大会 優良賞 (全国大会第3位相当)
4	西 会 津 高 校 放 送 部	西 会 津	放 送 文 化	第57回NHK杯全国高等学校放送コンテスト テレビドキュメント部門優秀賞 (全国大会第3位相当)
5	福 島 高 校 梅 章 委 員 会	福 島	新 聞	第14回全国高校新聞年間紙面審査賞 最優秀賞 (全国大会第1位相当)
6	磐 城 高 校 文 学 部	磐 城	文 芸	第24回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門 優秀賞 (全国大会第2位相当)
7	松 栄 高 校 エ コ ノ パ ワ ー 研 究 会	学 法 松 栄	工 業	本田宗一郎杯Hondaエコマイレッジチャレンジ2010 第30回全国大会 グループII優勝 (全国大会第1位相当)
8	若 松 商 業 高 校 簿 記 研 究 部	若 松 商 業	商 業	平成22年度全国簿記競技大会 優勝 (全国大会第1位相当)
9	双 葉 高 校 家 庭 ク ラ ブ	双 葉	家 庭	第58回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 学校家庭クラブ活動部門 福岡県教育委員会賞 (全国大会第3位相当)

(イ) 優秀個人

No.	氏 名	所属校名(学年)	専 門 部	全 国 大 会 等 で の 成 績
1	添 田 あ か ね	郡 山 東 (3年)	書 道	第34回全国高等学校総合文化祭書道部門 奨励賞 (全国大会第1位相当)
2	笹 山 佳 会	郡 山 女 子 大 学 附 属 (3年)	放 送 文 化	第34回全国高等学校総合文化祭放送部門 朗読部門 優秀賞 (全国大会第1位相当)
3	遠 藤 み ゆ き	葵 (3年)	放 送 文 化	第34回全国高等学校総合文化祭放送部門 朗読部門 優秀賞 (全国大会第1位相当)
4	渡 辺 真 緒	安 積 黎 明 (3年)	小 倉 百 人 一 首 か る た	第34回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門 読手コンクールの部 優秀賞 (全国大会第2位相当)
5	佐 藤 友 美	福 島 明 成 (3年)	農 業	第61回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技会 食品科学 最優秀賞 (全国大会第1位相当)
6	遠 藤 啄 郎	郡 山 北 工 (3年)	工 業	第68回全日本学生児童発明くふう展 内閣総理大臣賞 (全国大会第2位相当)
7	熊 田 貴 大	郡 山 北 工 (3年)	工 業	第68回全日本学生児童発明くふう展 内閣総理大臣賞 (全国大会第2位相当)
8	栗 田 千 春	若 松 商 (3年)	商 業	平成22年度全国簿記競技大会 個人総合競技 優勝 (全国第1位相当)
9	吉 田 博 子	若 松 商 (3年)	商 業	平成22年度全国簿記競技大会 個人総合競技 3位
10	熊 田 郁 美	郡 山 商 (3年)	商 業	第57回全国高等学校珠算競技大会 応用計算競技(電卓の部) 第2位
11	鈴 木 さ お り	い わ き 総 合 (3年)	家 庭	第57回全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 ホームプロジェクト部門 産業教育中央会賞 (全国大会第2位相当)

(ウ) 優秀指導者

No.	氏 名	所属校名	専 門 部	指 導 歴 等
1	邊 見 陽 一	郡 山 商	J R C	指導歴16年
2	松 岡 百 合 子	尚 志	J R C	指導歴37年

(エ) 第29回福島県高等学校総合文化祭テーマ及びポスター原画

部 門	受 賞 者	所 属 校 (学 年)
テ ー マ	最 優 秀 賞 川 口 恭 平	安 積 (3年)
	『うつくしまふくしま！未来へ届けみんなのハーモニー』	
ポ ス タ ー 原 画	最 優 秀 賞 梶 沼 理 穂	郡 山 女 子 大 学 付 属 (3年)

2 第35回全国高等学校総合文化祭

(1) 第35回全国高等学校総合文化祭準備

第35回全国高等学校総合文化祭の開催に向け、総合開会式、パレード、各部門のプレ大会を開催するとともに、生徒実行委員会委員によるPRイベントの実施や所要の準備を行った。

ア 第35回全国高等学校総合文化祭プレ大会等の開催

次年度開催の第35回全国高等学校総合文化祭の円滑な運営と周知を目的として、全県内において、平成22年6月から平成23年1月まで、開催部門のプレ大会を開催するとともに、プレ総合開会式、プレパレードを開催した。

イ 第2期生徒実行委員会委員（平成22年6月10日～平成23年9月30日）

業務別生徒委員会（大会全般・総合開会式・パレードの企画運営）

委 員 会	所 属 校	氏 名	委 員 会	所 属 校	氏 名
総 務	福 島 南	佐久間 奈津美	パ レ ー ド	安 積	佐原 慎之介
総 務	福 島 南	佐 藤 季	パ レ ー ド	安 積	田 母 神 綾
総 務	安 積	遠 藤 顕 雄	パ レ ー ド	須 賀 川 桐 陽	沼 田 結 花
総 務	耶 麻 農 業	山 浦 央 暉	パ レ ー ド	須 賀 川 桐 陽	根 本 亜 季
総 務	福 島 北	高 橋 順 一	パ レ ー ド	光 南	佐 浦 佳 恵
総 務	相 馬 東	浜 野 慎 也	パ レ ー ド	磐 城	井 澤 志 歩
総 務	相 馬 東	目 黒 妃 呂 美	パ レ ー ド	磐 城	鈴 木 麻 友
総 務	帝 京 安 積	柳 沼 雅 之	パ レ ー ド	帝 京 安 積	深 谷 翔 也
総 合 開 会 式	福 島	渡 辺 晶 子	国 際 交 流	福 島 南	紺 野 茉 莉 香
総 合 開 会 式	福 島 南	菅 野 真 耶 加	国 際 交 流	安 積	安 西 美 穂
総 合 開 会 式	安 積 黎 明	阿 部 ひ かり	国 際 交 流	郡 山 東	小 島 彩 花
総 合 開 会 式	安 積 黎 明	穂 積 真 希	国 際 交 流	会 津 学 鳳	遠 藤 里 英 子
総 合 開 会 式	安 積 黎 明	鈴 木 望 友	国 際 交 流	会 津 学 鳳	横 田 栞
総 合 開 会 式	光 南	横 田 武	国 際 交 流	南 会 津	渡 部 由 希
総 合 開 会 式	会 津 学 鳳	長 岡 輝 晶	国 際 交 流	富 岡	三 浦 俊 輝
総 合 開 会 式	学 校 法 人 福 島	東 海 林 藍	記 録 編 集	福 島 商 業	伊 藤 さ や か
総 合 開 会 式	郡 山 女 子 大 学 附 属	橋 本 茜	記 録 編 集	福 島 商 業	齋 藤 杏 菜
総 合 開 会 式	郡 山 女 子 大 学 附 属	古 賀 美 範	記 録 編 集	福 島 南	武 藤 百 夏
広 報 デ ザ イ ン	福 島	渡 部 葵	記 録 編 集	安 積 黎 明	吉 成 史 織
広 報 デ ザ イ ン	橋	田 村 優 介	記 録 編 集	安 積 黎 明	大 坪 静 香
広 報 デ ザ イ ン	福 島 南	根 本 亜 梨 沙	記 録 編 集	郡 山	羽 川 拓 利
広 報 デ ザ イ ン	光 南	鈴 木 志 織 里	記 録 編 集	郡 山	森 口 み さ き
広 報 デ ザ イ ン	い わ き 総 合	渡 邊 洵	記 録 編 集	相 馬 東	宇 佐 見 拓
広 報 デ ザ イ ン	い わ き 総 合	鈴 木 ひ と み			
広 報 デ ザ イ ン	会 津 養 護	佐 藤 優 璃 恵			
広 報 デ ザ イ ン	学 校 法 人 石 川	大 越 愛 香			

部門別生徒部会（各部門の企画運営）

部 会	所 属 校	氏 名	部 会	所 属 校	氏 名
演 劇	福 島 明 成	高 山 内 妙	吹 奏 楽	平 工 業	梶 原 翔 司
演 劇	福 島 明 成	矢 吹 茜	吹 奏 楽	平 商 業	酒 井 優 介
演 劇	福 島 西	佐 藤 椋 一	吹 奏 楽	い わ き 総 合	小 野 莉 加
演 劇	福 島 西	中 村 佐 知 絵	吹 奏 楽	湯 本	渡 辺 樹 生
演 劇	福 島 西	長 谷 部 隆 太	吹 奏 楽	小 名 浜	町 島 悟 史
演 劇	福 島 東 稜	齋 藤 美 咲	吹 奏 楽	勿 来 工 業	佐 藤 志 保
演 劇	福 島 東 稜	平 田 望 美	器 楽 ・ 管 弦 楽	安 積	阿 部 友 紀
合 唱	福 島	菊 地 海 杜	器 楽 ・ 管 弦 楽	安 積	伊 東 静 香
合 唱	福 島	穴 戸 鉦 二 朗	器 楽 ・ 管 弦 楽	安 積 黎 明	佐 久 間 夏 花
合 唱	橋	岩 淵 愛 衣	器 楽 ・ 管 弦 楽	安 積 黎 明	高 野 あ み
合 唱	橋	近 野 美 羽	器 楽 ・ 管 弦 楽	郡 山 商 業	熊 耳 哲 也
合 唱	福 島 西	大 橋 夏 実	器 楽 ・ 管 弦 楽	郡 山 商 業	宗 形 佳 奈
合 唱	福 島 西	菅 野 さ や か	日 本 音 楽	磐 城 桜 が 丘	安 藤 冴 香
合 唱	福 島 東	大 内 惇 史	日 本 音 楽	磐 城 桜 が 丘	大 和 田 凌 子
合 唱	福 島 東	草 野 宏 季	日 本 音 楽	磐 城 桜 が 丘	根 本 香 菜 子
吹 奏 楽	磐 城	新 妻 一 昭	日 本 音 楽	い わ き 総 合	我 妻 花 奈
吹 奏 楽	磐 城 桜 が 丘	猪 狩 瞳	日 本 音 楽	い わ き 総 合	遠 藤 智 子

部 会	所 属 校	氏 名	部 会	所 属 校	氏 名
日 本 音 楽	四 倉	荻 野 華 子	将 棋	福 島	廣 野 翔 大
日 本 音 楽	四 倉	吉 田 里 鶴	将 棋	安 積	清 水 頌 子
日 本 音 楽	浪 江	小 松 美 香	将 棋	安 積	村 越 俊 貴
吟 詠 剣 詩 舞	会 津	小 林 昌 司	将 棋	清 陵 情 報	佐 藤 昇 司
吟 詠 剣 詩 舞	会 津	菅 一 生	将 棋	磐 城	西 山 裕 司
郷 土 芸 能	南 会 津	五 十 嵐 泉	弁 論	白 河	旭 大 竹 彩 里 沙
郷 土 芸 能	南 会 津	齋 藤 い ず み	弁 論	白 河	旭 菊 地 彩
郷 土 芸 能	平 商 業	田 中 春 奈	弁 論	白 河	旭 小 山 実 華
郷 土 芸 能	平 商 業	吉 田 美 鈴	弁 論	白 河	旭 齋 藤 瞳
郷 土 芸 能	相 馬	石 塚 出 海	弁 論	白 河	旭 佐 川 愛
郷 土 芸 能	相 馬	河 野 詠 美	弁 論	白 河	旭 清 藤 瑞 穂
郷 土 芸 能	相 馬 農 業	大 杉 真 利 奈	弁 論	白 河	旭 豊 田 み どり
郷 土 芸 能	相 馬 農 業	鈴 木 つ か さ	小 倉 百 人 一 首 か る た	本 宮	北 山 千 紘
マーチングバンド・パト ンワリ	福 島	新 井 沙 織	小 倉 百 人 一 首 か る た	安 積 黎 明	堀 田 千 裕
マーチングバンド・パト ンワリ	郡 山 女 子 大 学 附 属	島 田 陽 子	小 倉 百 人 一 首 か る た	郡 山 東	遠 藤 匡 浩
美 術 ・ 工 芸	橋	齋 藤 真 亜 子	小 倉 百 人 一 首 か る た	郡 山 東	橋 蘭
美 術 ・ 工 芸	保 原	岩 崎 駿 也	新 聞	会 津	小 鮒 由 唯
美 術 ・ 工 芸	郡 山 東	津 守 晃 弘	新 聞	葵	秋 山 香 澄
美 術 ・ 工 芸	白 河	高 橋 優 希	新 聞	葵	小 林 裕 太
美 術 ・ 工 芸	会 津	早 川 佳 実	新 聞	会 津 学 鳳	三 浦 貴 之
美 術 ・ 工 芸	会 津 工 業	小 檜 山 裕 太	新 聞	喜 多 方	山 本 晃 帆
美 術 ・ 工 芸	小 名 浜	大 島 美 奈	新 聞	大 沼	寺 島 美 幸
美 術 ・ 工 芸	小 名 浜	橋 本 風 薫	新 聞	大 沼	町 田 愛
書 道	安 積 黎 明	遠 藤 渚 左	文 芸	福 島 西	阿 曾 千 春
書 道	安 積 黎 明	松 浦 華 穂	文 芸	安 積 黎 明	横 堀 真 由
書 道	郡 山 東	内 ケ 崎 春 佳	文 芸	須 賀 川	平 江 遙
書 道	郡 山 東	柳 沼 貴 寛	文 芸	葵	長 谷 川 桃
書 道	郡 山 商 業	安 藤 弓 起	文 芸	磐 城	猪 狩 彩 夏
書 道	郡 山 商 業	穴 戸 亮 太	文 芸	平 商 業	鯨 岡 紀 恵
書 道	白 河	我 妻 千 亜 紀	文 芸	湯 本	永 沼 か お り
書 道	白 河	荒 川 郁 子	自 然 科 学	須 賀 川 桐 陽	蕪 木 優 菜
写 真	安 積 黎 明	角 田 真 琴	自 然 科 学	須 賀 川 桐 陽	斎 藤 捺 樹
写 真	会 津	森 瑞 季	自 然 科 学	須 賀 川 桐 陽	佐 藤 充 泰
写 真	会 津 学 鳳	佐 藤 一 貴	自 然 科 学	日 本 大 学 東 北	岡 亮 太
写 真	会 津 学 鳳	堀 底 成 美	自 然 科 学	日 本 大 学 東 北	佐 々 木 健 太
写 真	会 津 学 鳳	宮 森 杏 菜	自 然 科 学	日 本 大 学 東 北	鈴 木 智 久
写 真	湯 本	石 俊 樹	自 然 科 学	日 本 大 学 東 北	武 田 健 嗣
写 真	湯 本	高 橋 亜 貴 絵	特 別 支 援 学 校	西 郷 養 護	栗 原 雪 乃
放 送	安 積	川 崎 文 也	特 別 支 援 学 校	西 郷 養 護	小 針 智 恵 里
放 送	郡 山	渡 辺 育 恵	特 別 支 援 学 校	西 郷 養 護	橋 正 道
放 送	葵	生 江 も ゆ	特 別 支 援 学 校	西 郷 養 護	角 田 悠 真
放 送	磐 城	小 松 崎 里 紗	特 別 支 援 学 校	石 川 養 護	阿 部 祐 太
放 送	原 町	大 内 彩 加	特 別 支 援 学 校	石 川 養 護	板 橋 香 奈
放 送	桜 の 聖 母 学 院	佐 々 木 愛	特 別 支 援 学 校	石 川 養 護	大 越 真 奈 美
囲 碁	福 島	赤 間 広 樹	特 別 支 援 学 校	石 川 養 護	吉 田 匠
囲 碁	福 島	山 口 雷 人	JRC ・ ホ ー ラ ン テ ィ ア	本 宮	伊 藤 有 香
囲 碁	橋	久 保 友 理 恵	JRC ・ ホ ー ラ ン テ ィ ア	本 宮	遠 藤 奈 津 美
囲 碁	橋	藤 原 真 奈 美	JRC ・ ホ ー ラ ン テ ィ ア	本 宮	渡 邊 智 絵
囲 碁	橋	渡 辺 杏 珠			

第3節 文化財の愛護と伝統文化の継承

1 文化財保護体制の充実

(1) 指定文化財保護体制の充実(文化財パトロール)

文化財保護の万全を期すため、民間の有識者13名を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その実態把握に努めた。また、この巡視結果に基づいて、市町村教育委員会の協力を得ながら文化財の所有者等に対し指導・助言を行うとともに、文化財保護の啓発普及に努めた。

文化財保護指導委員

教育 事務所	担 当 地 区	氏 名	所 属 ・ 職 業 等
県北	福島 ・伊達	高橋圭次	川俣町文化財保護審 議会委員
	安達	遠藤嘉一	本宮市文化財調査委員
県中	郡山	日塔とも子	郡山市こおりやま文学 の森資料館
	岩瀬 ・石川	奥河敏男	元須賀川市参与
	田村	廣田吉三郎	日本考古学
県南	県南	畠山真一	協会員
会津	若松	長尾修	日本考古学
	両沼	五十嵐稔	協会員
	耶麻	山崎四朗	会津若松ザベリオ学園
南会津	南会津	小林宗一	三島町文化財専門委員 日本考古学協会員
相双	相馬	二上裕嗣	南会津町文化財保護審 議会委員
	双葉	佐藤和子	南相馬市文化財保護審 議会委員
いわき	いわき	脇坂省吾	富岡町文化財保護審議 会委員 いわき市公園緑地観光 公社

平成22年度文化財パトロール実施件数

教 育 事 務 所	地 区	市 町 村 数	パ ト ロ ー ル 対 象 箇 所 数	管 内 計	パ ト ロ ー ル (年1回)
県北	福島・伊達	2	15	24	24
	安達	1	9		
県中	郡山	1	9	33	33
	岩瀬・石川	2	15		
	田村	2	9		
県南	県南	3	18	18	18
会津	若松	1	12	45	45
	両沼	3	15		
	耶麻	4	18		
南会津	南会津	2	9	9	9
相双	相馬	3	18	24	24
	双葉	3	6		
いわき	いわき	1	18	18	18
計		28	171	171	171

(2) 文化財保護指導者講習会

ア 趣旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、県文化財センター白河館が実施主体となり、文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てることを目的とする。

イ 期日及び場所

平成22年7月22日(木)～23日(金)

会津若松市・会津美里町

ウ 内容

(7) 講義内容及び講師

- a 「向羽黒山城と会津の歴史」
福島県立博物館 主任学芸員 高橋 充
- b 「向羽黒山城跡の調査と整備」
会津美里町教育委員会 主任主査 梶原 圭介
- c 「福島県の文化財保護行政の現状」
福島県教育庁文化財課 主幹兼副課長 大平 好一
- d 「森に生き山に遊ぶ」
福島県立博物館 専門学芸員 榎 陽介

(1) 現地研修

- a 松平家墓所(会津若松市)
- b 向羽黒山城跡(会津美里町)

(3) 市町村文化行政担当者会議

ア 趣旨

県内市町村の文化財行政担当者が職務を遂行するうえでの必要な知識の習得を図り、また、実務上の疑問点や問題点等について質疑・意見交換することによって、より円滑に文化財行政を推進させることを目的とする。

イ 期日及び場所

平成22年5月19日(水) 自治会館

ウ 内容

- (ア) 文化財行政の動向について
- (イ) 指定文化財について
- (ウ) 文化財保存事業費補助金について
- (エ) 指定文化財保存活用事業について
- (オ) 文化財伝承活動顕彰事業について
- (カ) 埋蔵文化財の保護について
- (キ) 埋蔵文化財周知事業について
- (ク) 文化財パトロールについて
- (ケ) 銃砲刀剣類の登録制度について
- (コ) 文化財センター白河館の研修について

ア 平成22年度福島県指定文化財指定調査

種 別		名 称	員 数	所 在 の 場 所	所有者（保護団体）
重 要 文 化 財	歴 史 資 料	佐久間庸軒和算関係資料	一括	田村市船引町石森字戸屋140番地	佐久間 求
	重要有形民俗文化財	伊南の歌舞伎衣裳と道具	一括	南会津郡南会津町糸沢字西沢山3692番地20 奥会津博物館	南会津町

イ 平成22年度福島県指定文化財追加指定調査

種 別		名 称	員 数	所 在 の 場 所	所有者（保護団体）
重 要 文 化 財	考 古 資 料	松野千光寺経塚出土品	一括	喜多方市字柳原7503番地の1	喜多方市
				喜多方市郷土民俗館	
				会津若松市城東町1番25号	
				福島県立博物館	

ウ 平成22年度福島県指定文化財の追加指定及び名称変更

重要無形民俗文化財	二本松の提灯祭り		二本松市本町1丁目61 二本松神社	二本松神社例大祭提灯祭保存会
-----------	----------	--	----------------------	----------------

3 埋蔵文化財の保護の充実

(1) 埋蔵文化財保護体制

県の歴史と文化を物語る文化財や県内の遺跡への関心は、県民の中で着実に高まっており、福島県教育委員会は、埋蔵文化財(遺跡)についても保存保護のため調査体制の充実を図ってきた。(財)福島県文化振興事業団遺跡調査部がこれらの役割を担うため、事業団職員23名、派遣嘱託職員3名、計26名で調査にあたった。

福島県文化振興事業団遺跡調査部職員数

年度	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7
人員	26	26	30	40	44	47	47	55	60	60	62	62	62	62
年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
人員	62	62	68	68	76	61	40	40	40	40	41	40	38	32
年度	22													
人員	26													

(平成14年度までは遺跡調査課定数)

2 文化財保存調査の推進

(1) 文化財指定調査

歴史上、芸術上又は学術上価値の高い文化財の中から重要なものを選定し、指定のための調査を行った。

なお、県文化財保護審議会の答申に基づき、平成23年6月10日付けをもって、次の文化財を県指定重要文化財等として指定した。

(2) 開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、①遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」の結果により、②事業者と遺跡を保護するための「保存協議」を行い、③現状保存ができない場合は、発掘調査により「記録保存」し、その成果を調査報告書としてまとめることで対応している。

ア 分布調査

分布調査は、開発地内の表面調査・試掘調査を行い、遺跡を保護するための情報を収集することを目的としている。平成22年度の試掘調査は、常磐自動車8箇所、阿武隈川右岸築堤事業2箇所、一般国道118号バイパス1箇所、阿賀川狭窄事業1箇所、会津縦貫北道路1箇所、一般国道289号南倉沢バイパス1箇所について実施した。

イ 保存協議

昨年度の継続協議を含め、次の事業について関係機関と保存協議を実施した。

常磐自動車、阿武隈川右岸築堤事業、一般国道 118 号バイパス、阿賀川狭窄事業、会津縦貫北道路の各事業関係機関、国道・県道の工事事務所等。

ウ 発掘調査

福島県教育委員会では、開発に伴う発掘調査（記録保存調査）を（財）福島県文化振興事業団に委託した。調査した遺跡は下記のとおり。

常磐自動車道

いわき工区：大谷上ノ原遺跡 4 次調査（檜葉町）

1,800 m²

相馬工区：南萱倉遺跡外 4 遺跡（相馬市・新地町）

9,100 m²

会津縦貫北道路：桜町遺跡 3 次調査（湯川村） 11,000 m²

阿賀川狭窄事業：小田高原遺跡（喜多方市） 15,800 m²

なお、県内市町村においても開発に伴う発掘調査が各市町村教育委員会によって実施しているが、遺跡の重要性や調査体制の実情に応じ、適時県教委が指導助言している。

(3) 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

ア 福島県文化財センター白河館文化財研修

毎年実施している「福島県埋蔵文化財発掘技術者研修会」は、平成 13 年度から（財）福島県文化振興事業団へ委託し、福島県文化財センター白河館研修事業とし実施している。

イ 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者専門研修

平成 22 年度研修を受けた者は、以下のとおり。

研修名称	期 日	氏 名	所 属
出土文字資料調査 課程	1 月 17 日～ 1 月 21 日	福田 秀生	（財）福島県文化振興事業団
中近世城郭調査整備 課程	1 月 27 日～ 2 月 3 日	鈴木 一寿 後藤 尚子	白河市教育委員会 桑折町教育委員会

(4) 埋蔵文化財保護普及活動

平成 22 年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は以下のとおり。

ア 福島県内遺跡分布調査報告 17

イ 常磐自動車道遺跡調査報告 60

ウ 常磐自動車道遺跡調査報告 61

エ 常磐自動車道遺跡調査報告 64

オ 常磐自動車道遺跡調査報告 65

カ 会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告 10

キ 阿武隈東道路遺跡発掘調査報告 3

ク 福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告 21

(5) 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

この事業は、県内の市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査等について、市町村教育委員会からの要請に

より県教育委員会が埋蔵文化財の調査等に必要な技術を協力・支援する事業である。

調査等に必要な技術の協力・支援を行う職員は、県教育委員会の依頼により（財）福島県文化振興事業団が選任した事業団職員で、表面調査、試掘確認調査、小規模な発掘調査及び出土遺物の整理や報告書作成に関する技術の協力・支援を行う。

平成 22 年度の技術協力の実績は、以下のとおり。

市町村	遺 跡 名	協 力 内 容
南会津町	行司遺跡	試掘調査
古殿町	竹貫城跡	試掘調査
湯川村	堂後遺跡（勝常寺 地内遺跡）	調査指導・試掘調査・発掘調査
〃	沼ノ上・上田谷地遺跡	試掘調査
只見町	七十苧遺跡	発掘調査
川俣町	新助館跡	調査指導
金山町	雀ヶ城跡	試掘調査
〃	玉縄城跡	工事立会
平田村	逢田館跡	工事立会
矢吹町	明新館跡	試掘調査
三島町	大石田居平遺跡	試掘調査
飯館村	村内分布調査	表面調査
鮫川村	赤坂館跡	試掘調査
矢祭町	前平遺跡	試掘調査

(6) 文化財センター整備事業

福島県教育委員会は、平成 14 年 3 月に「福島県文化財センター安達館（仮称）及び福島県文化財センター白河館文化財保存研究施設（仮称）基本計画」を決定した。これは、収蔵、保管、研修、教育普及及び展示、野外体験を行う白河館と、調査機能を担う安達館の 2 館により福島県教育委員会の埋蔵文化財保護体制の充実を図る計画であるが、安達館の建設については、未整備である。

その中で出土文化財の保存処理及び調査・研究機能については、渡利の県施設を活用し整備事業の一機能をまかないながら、事業進捗に応じている。主な業務として金属製品や木製品等脆弱な出土文化財の保管管理と劣化防止措置、出土した遺物の整理・梱包・搬送・文化財データベース入力を実施している。

(7) 平成22年度開発事業に伴う試掘確認調査件数

(平成22年4月～23年3月)

No.	調査原因	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
1	道路建設	3	5	2	11	1	8	5	35
2	河川ダム空港	2	3	0	1	0	0	0	6
3	学校建設	0	4	0	0	0	0	0	4
4	その他の建物	36	64	3	5	0	8	9	125
5	宅地造成	10	2	0	0	0	0	0	12
6	都市計画等	0	1	0	1	0	1	2	5
7	公園造成など	0	0	2	0	0	0	0	2
8	ゴルフ場	0	0	0	0	0	0	0	0
9	農業関係	5	0	0	5	0	2	0	12
10	電気ガス水道	0	0	1	0	4	0	2	7
11	その他	3	9	1	3	0	0	1	17
	計	59	88	9	26	5	19	19	225

※ 東日本大震災に伴う原子力災害のため役場機能を移転した相双地区6町3村については調査実施せず

※ 試掘確認調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したもの14件、市町村教育委員会が実施したもの211件です。

(8) 平成22年度発掘調査件数

(平成22年4月～23年3月)

No.	調査原因	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
1	道路建設	1	1	3	2	0	6	1	14
2	河川ダム空港	0	0	0	1	1	0	0	2
3	学校建設	0	2	0	0	0	0	0	2
4	その他の建物	3	3	0	1	0	2	0	9
5	宅地造成	2	0	0	0	0	0	0	2
6	都市計画等	0	1	0	0	0	0	1	2
7	公園造成など	0	0	0	0	0	0	0	0
8	ゴルフ場	0	0	0	0	0	0	0	0
9	農業関係(国県団体)	0	0	0	1	1	1	0	3
10	電気ガス水道	0	0	0	0	0	0	0	0
11	その他	1	0	0	1	0	0	1	3
	小計	7	7	3	6	2	9	3	37
12	史跡整備	5	0	1	4	0	2	0	12
13	学術調査	0	0	0	1	0	1	0	2
	合計	12	7	4	11	2	12	3	51

※ 東日本大震災に伴う原子力災害のため役場機能を移転した相双地区6町3村については調査実施せず

※ 発掘調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したもの8件、市町村教育委員会が実施したもの41件、大学等研究機関が実施したもの2件です。

※ 史跡整備等には、史跡整備・遺跡整備・保存目的の範囲内容確認調査が含まれます。

※ 開発に伴う事前協議のための試掘確認調査は含まれていません。

(9) 平成22年度開発事業に伴う試掘調査(周知の遺跡)

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	対象面積	調査面積	時 代	種 別	調査原因
1	南諏訪原遺跡	福島市松川町南諏訪原	福島市教委	4 月 20 日 ～ 5 月 28 日	3,279 m ²	228 m ²	縄文～近世	散布地	介護施設
2	腰浜廃寺跡	福島市腰浜町地内	福島市教委	4 月 21 日 ～ 5 月 21 日	1,503 m ²	130 m ²	平安	社寺跡	住宅
3	本内館跡	福島市本内字館地内	福島市教委	4 月 26 日 ～ 5 月 11 日	856 m ²	10 m ²	中世	城館跡	個人住宅
4	山ノ下遺跡	福島市渡利字山ノ下地内	福島市教委	5 月 19 日 ～ 5 月 25 日	150 m ²	16 m ²	縄文～平安	散布地	個人住宅
5	岩田遺跡	福島市鳥谷野字天神町地内	福島市教委	5 月 27 日 ～ 6 月 7 日	308 m ²	34 m ²	古墳・平安	散布地	個人住宅
6	勝口前畑遺跡	福島市野田町字上谷地地内	福島市教委	6 月 3 日 ～ 6 月 8 日	1,597 m ²	82 m ²	縄文～近世	その他	宅地造成
7	川面遺跡	福島市岡部字川面地内	福島市教委	6 月 28 日 ～ 6 月 29 日	1,004 m ²	24 m ²	奈良・平安	その他	個人住宅
8	富山遺跡	福島市庭坂字富山地内	福島市教委	6 月 24 日 ～ 6 月 28 日	661 m ²	43 m ²	縄文	散布地	宅地造成
9	勝口前畑遺跡	福島市野田町字上谷地地内	福島市教委	7 月 13 日 ～ 7 月 22 日	268 m ²	14 m ²	縄文～近世	その他	個人住宅
10	勝口前畑遺跡	福島市野田町字上谷地地内	福島市教委	7 月 13 日 ～ 7 月 22 日	253 m ²	20 m ²	縄文～近世	その他	個人住宅
11	丸子条里制遺構	福島市丸子字東前地内	福島市教委	6 月 15 日 ～ 6 月 18 日	251 m ²	16 m ²	縄文～近世	その他	個人住宅
12	鎧塚遺跡	福島市吉倉字桜内地内	福島市教委	6 月 15 日 ～ 6 月 17 日	305 m ²	23 m ²	縄文～平安	散布地	個人住宅
13	堂宮敷遺跡	福島市小倉寺字堂宮敷地内	福島市教委	8 月 30 日 ～ 9 月 1 日	309 m ²	18 m ²	平安	散布地	個人住宅
14	杉ノ内遺跡	福島市鳥谷野字宮畑地内	福島市教委	9 月 7 日 ～ 9 月 24 日	505 m ²	20 m ²	奈良・平安	散布地	その他建物
15	山ノ下遺跡	福島市渡利字山ノ下地内	福島市教委	9 月 17 日 ～ 10 月 13 日	371 m ²	12 m ²	奈良・平安	散布地	宅地造成
16	北屋敷遺跡	福島市南沢又字北屋敷地内	福島市教委	10 月 5 日 ～ 10 月 6 日	338 m ²	20 m ²	奈良・平安	散布地	個人住宅
17	木曽内裡遺跡	福島市松川町字木曽内裡地内	福島市教委	10 月 26 日 ～ 11 月 2 日	368 m ²	20 m ²	縄文～平安	散布地	個人住宅
18	丸子条里制遺構	福島市丸子字東前地内	福島市教委	11 月 15 日 ～ 11 月 26 日	720 m ²	36 m ²	縄文～近世	その他	宅地造成
19	丸子条里制遺構	福島市丸子字東前地内	福島市教委	11 月 15 日 ～ 11 月 26 日	476 m ²	20 m ²	縄文～近世	その他	宅地造成
20	杉ノ内遺跡	福島市鳥谷野字杉ノ内地内	福島市教委	11 月 16 日 ～ 11 月 19 日	177 m ²	18 m ²	奈良・平安	散布地	個人住宅
21	南光原遺跡	福島市鳥谷野字南光原地内	福島市教委	12 月 6 日 ～ 12 月 15 日	1,070 m ²	78 m ²	平安	散布地	その他建物
22	月崎A遺跡	福島市飯坂町字月崎地内	福島市教委	2 月 24 日 ～ 3 月 4 日	139 m ²	10 m ²	縄文～平安	散布地	個人住宅
23	月崎A遺跡	福島市飯坂町字月崎地内	福島市教委	2 月 24 日 ～ 3 月 4 日	143 m ²	10 m ²	縄文～平安	散布地	個人住宅
24	山ノ下遺跡	福島市渡利字馬場町地内	福島市教委	2 月 23 日 ～ 2 月 25 日	417 m ²	16 m ²	縄文～平安	散布地	個人住宅
25	沖町遺跡	福島市渡利字中角地内	福島市教委	3 月 28 日 ～ 月 日	674 m ²	14 m ²	平安	散布地	住宅
26	古屋敷遺跡	福島市方木田字古屋敷地内	福島市教委	9 月 15 日 ～ 10 月 6 日	993 m ²	80 m ²	奈良・平安	散布地	住宅
27	二ツ石遺跡	福島市黒岩字竹ノ内地内	福島市教委	11 月 24 日 ～ 12 月 9 日	1,023 m ²	60 m ²	縄文～平安	散布地	その他建物
28	二ツ石遺跡	福島市黒岩字竹ノ内地内	福島市教委	11 月 24 日 ～ 12 月 9 日	727 m ²	60 m ²	縄文～平安	散布地	その他建物
29	御山千軒遺跡	福島市御山字中屋敷地内	福島市教委	1 月 13 日 ～ 1 月 26 日	795 m ²	60 m ²	縄文～平安	散布地	宅地造成
30	南沢又城跡	福島市南沢又字北屋敷地内	福島市教委	1 月 19 日 ～ 2 月 17 日	2,998 m ²	68 m ²	平安・中世	城館跡	宅地造成

31	西原前遺跡	福島市南沢又字西原前地内	福島市教委	1 月 19 日 ～ 2 月 17 日	3,277 m ²	40 m ²	古墳～中世	散布地	宅地造成
32	六丁目条里遺構	桑折町大字北半田字国重地内	桑折町教委	5 月 17 日 ～ 5 月 21 日	20,000 m ²	500 m ²	古代	条里遺構	国道拡張
33	坊ノ内遺跡	桑折町大字成田字堰上地内他	桑折町教委	9 月 15 日 ～ 月 日	70 m ²	8 m ²	奈良・平安	散布地・城館跡	個人住宅
34	下手度藩陣屋跡	伊達市月舘町下手度字天平	伊達市教委	6 月 8 日 ～ 6 月 17 日	m ²	10 m ²	近世	陣屋跡	東屋設置
35	東土橋遺跡	伊達市梁川町字東土橋	伊達市教委	7 月 20 日 ～ 7 月 28 日	816 m ²	37 m ²	平安～近世	集落跡・散布地	道路改良
36	梁川城跡	伊達市梁川町字桜ヶ丘	伊達市教委	9 月 9 日 ～ 月 日	72 m ²	3 m ²	縄文・中世	城館跡	個人住宅
37	根田館跡	伊達市字根田	伊達市教委	10 月 19 日 ～ 月 日	387 m ²	5 m ²	中世	城館跡	個人住宅
38	町谷川遺跡	伊達市梁川町字町谷川	伊達市教委	11 月 16 日 ～ 月 日	901 m ²	5 m ²	縄文・平安・近世	散布地	個人住宅
39	町谷川遺跡	伊達市梁川町字町谷川	伊達市教委	2 月 16 日 ～ 月 日	m ²	8 m ²	縄文・平安・近世	散布地	個人住宅
40	郡山台遺跡	二本松市長者宮	二本松市教委	4 月 13 日 ～ 4 月 16 日	770 m ²	48 m ²	奈良・平安	集落跡・官衙跡	個人住宅
41	郡山台遺跡	二本松市長者宮	二本松市教委	12 月 20 日 ～ 月 日	289 m ²	10 m ²	奈良・平安	集落跡・官衙跡	個人住宅
42	裏山遺跡	二本松市岳温泉三丁目	二本松市教委	4 月 19 日 ～ 4 月 20 日	276 m ²	20 m ²	縄文	散布地	駐車場
43	小手森城跡	二本松市針道字愛宕山他	二本松市教委	5 月 10 日 ～ 5 月 17 日	4,700 m ²	100 m ²	中世	城館跡	農道工事
44	舘野遺跡	二本松市舘野三丁目	二本松市教委	7 月 12 日 ～ 月 日	31 m ²	6 m ²	奈良・平安	散布地	火の見櫓
45	行人壇塚群2号塚	二本松市成田字清水	二本松市教委	8 月 20 日 ～ 8 月 30 日	100 m ²	100 m ²	不明	塚	土砂採取
46	トロミ遺跡	二本松市南トロミ	二本松市教委	10 月 13 日 ～ 10 月 15 日	114 m ²	20 m ²	奈良・平安	散布地	個人住宅
47	トロミ遺跡	二本松市南トロミ	二本松市教委	10 月 15 日 ～ 10 月 18 日	541 m ²	16 m ²	奈良・平安	散布地	農業用倉庫
48	トロミ遺跡	二本松市南トロミ	二本松市教委	10 月 19 日 ～ 10 月 21 日	184 m ²	20 m ²	奈良・平安	散布地	農業用倉庫
49	トロミ遺跡	二本松市南トロミ	二本松市教委	11 月 29 日 ～ 11 月 30 日	214 m ²	20 m ²	奈良・平安	散布地	個人住宅
50	トロミ遺跡	二本松市南トロミ	二本松市教委	12 月 1 日 ～ 12 月 2 日	411 m ²	30 m ²	奈良・平安	散布地	農業用倉庫
51	古山舘跡	二本松市小沢字石倉	二本松市教委	10 月 27 日 ～ 10 月 28 日	9,801 m ²	20 m ²	中世	城館跡	土砂採取
52	谷地舘跡	二本松市油井字谷地	二本松市教委	12 月 7 日 ～ 12 月 14 日	6,544 m ²	398 m ²	中世	城館跡	宅地造成
53	台田遺跡	大玉村玉井字山城223	大玉村教委	5 月 21 日 ～ 月 日	223 m ²	35 m ²	縄文	散布地	携帯基地局
54	久遠壇古墳	大玉村大山字仲ノ内	大玉村教委	2 月 14 日 ～ 月 日	1,981 m ²	110 m ²	古墳	古墳	宅地造成
55	南町遺跡	大玉村玉井字馬場101-1	大玉村教委	3 月 9 日 ～ 月 日	433 m ²	47 m ²	弥生～奈良	散布地	個人住宅
56	古担遺跡	郡山市富久山町久保田字古担	郡山市教委	4 月 15 日 ～ 月 日	376 m ²	10 m ²	古墳	散布地	住宅
57	河内屋敷舘跡	郡山市逢瀬町河内字屋敷	郡山市教委	4 月 19 日 ～ 月 日	242 m ²	20 m ²	中世	城館跡	個人住宅
58	阿良久遺跡	郡山市大槻町字花輪前	郡山市教委	4 月 21 日 ～ 月 日	182 m ²	8 m ²	古墳～平安	散布地	個人住宅
59	大槻城跡	郡山市大槻町字城ノ内	郡山市教委	4 月 26 日 ～ 月 日	1,029 m ²	50 m ²	中世	城館跡	住宅
60	乙高遺跡	郡山市富久山町久保田字大久保	郡山市教委	4 月 27 日 ～ 月 日	570 m ²	12 m ²	縄文	散布地	住宅

61	並木遺跡	郡山市並木四丁目	郡山市教委	5月10日～月日	364 m ²	20 m ²	縄文・平安	散布地	個人住宅
62	十文字遺跡	郡山市富田町十文字	郡山市教委	5月13日～月日	332 m ²	24 m ²	古墳・平安	散布地	個人住宅
63	神明町遺跡	郡山市神明町	郡山市教委	5月14日～月日	331 m ²	14 m ²	奈良・平安	散布地	個人住宅
64	東笹原遺跡	郡山市安積町日出山字南台	郡山市教委	5月17日～月日	334 m ²	24 m ²	平安	散布地	住宅
65	陣場遺跡	郡山市富久山町福原字陣場	郡山市教委	5月25日～月日	482 m ²	21 m ²	平安	散布地	個人住宅
66	郡山館跡	郡山市西ノ内一丁目	郡山市教委	5月27日～月日	330 m ²	20 m ²	中世	城館跡	住宅
67	太郎殿前遺跡	郡山市富久山町久保田字太郎殿前	郡山市教委	6月2日～月日	569 m ²	40 m ²	古墳・平安	散布地	個人住宅
68	阿良久遺跡	郡山市大槻町字東阿良久	郡山市教委	6月3日～月日	461 m ²	16 m ²	古墳・平安	散布地	個人住宅
69	南田遺跡	郡山市富久山町久保田字南田	郡山市教委	6月3日～月日	315 m ²	20 m ²	古墳	散布地	その他開発
70	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	6月4日～月日	187 m ²	13 m ²	奈良・平安	官衙跡	個人住宅
71	中台遺跡	郡山市富久山町久保田字中台	郡山市教委	6月7日～月日	880 m ²	40 m ²	古墳・平安	散布地	その他開発
72	中台遺跡	郡山市富久山町久保田字中台	郡山市教委	6月10日～月日	2,015 m ²	17 m ²	古墳・平安	散布地	その他開発
73	古担遺跡	郡山市富久山町久保田字太郎殿前	郡山市教委	6月11日～月日	265 m ²	20 m ²	古墳	散布地	その他開発
74	古担遺跡	郡山市富久山町久保田字太郎殿前	郡山市教委	6月11日～月日	328 m ²	20 m ²	古墳	散布地	その他開発
75	八雲遺跡	郡山市荒井字方八丁他	郡山市教委	6月15日～6月18日	7,576 m ²	286 m ²	古墳・平安	散布地	店舗
76	守山城跡	郡山市田村町守山字三の丸	郡山市教委	7月5日～7月9日	1,162 m ²	122 m ²	中世	城館跡	学校建設
77	水見台遺跡	郡山市桜木二丁目	郡山市教委	7月8日～月日	156 m ²	12 m ²	縄文・奈良・平安	散布地	個人住宅
78	天神南遺跡	郡山市富田町字五輪下	郡山市教委	7月22日～月日	358 m ²	15 m ²	古墳・奈良・平安	散布地	個人住宅
79	音路遺跡	郡山市富田町字音路	郡山市教委	7月22日～月日	174 m ²	9 m ²	鎌倉・南北朝	寺院跡	個人住宅
80	清水内遺跡	郡山市大槻町字人形担東	郡山市教委	7月30日～月日	530 m ²	21 m ²	古墳・平安	散布地	個人住宅
81	西原遺跡群	郡山市富田町字墨染	郡山市教委	8月5日～月日	255 m ²	11 m ²	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
82	庚担原古墳群	郡山市片平町字庚担原	郡山市教委	8月6日～月日	1,209 m ²	12 m ²	古墳	古墳	個人住宅
83	守山城跡	郡山市田村町守山字三の丸	郡山市教委	8月9日～8月13日	600 m ²	600 m ²	中世	城館跡	学校建設
84	大鎗館跡	郡山市富久山町福原字大鎗	郡山市教委	8月26日～月日	911 m ²	60 m ²	中世	城館跡	その他開発
85	山王林遺跡	郡山市富田町字山王林	郡山市教委	9月2日～月日	460 m ²	27 m ²	平安	散布地	土地区画整理
86	西原遺跡群	郡山市富田町字墨染	郡山市教委	9月3日～月日	654 m ²	39 m ²	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
87	柏山遺跡	郡山市大槻町字柏山	郡山市教委	9月10日～9月14日	3,356 m ²	39 m ²	弥生	散布地	住宅
88	辰巳田遺跡	郡山市静町	郡山市教委	9月15日～月日	223 m ²	10 m ²	平安	散布地	個人住宅
89	鎗ヶ池遺跡	郡山市安積町荒井字鎗ヶ池	郡山市教委	9月29日～月日	240 m ²	10 m ²	奈良・平安	散布地	個人住宅
90	宮前遺跡	郡山市大槻町字上柵	郡山市教委	9月30日～月日	177 m ²	9 m ²	縄文	散布地	個人住宅

91	郡山館跡	郡山市西ノ内一丁目	郡山市教委	10月19日～10月20日	997 m ²	93 m ²	中世	城館跡	宅地造成
92	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	10月27日～月日	628 m ²	13 m ²	奈良・平安	官衙跡	個人住宅
93	中ノ沢A遺跡	郡山市熱海町中山字新田	郡山市教委	11月2日～月日	160 m ²	11 m ²	縄文	散布地	その他開発
94	三御堂C遺跡	郡山市富久山町久保田字三御堂	郡山市教委	11月16日～11月17日	1,277 m ²	63 m ²	平安	散布地	道路
95	大槻城跡	郡山市大槻町字原ノ町	郡山市教委	11月24日～月日	1,026 m ²	63 m ²	中世	城館跡	宅地造成
96	西原遺跡群	郡山市富田町字墨染	郡山市教委	11月25日～月日	262 m ²	9 m ²	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
97	郡山館跡	郡山市桜木町一丁目	郡山市教委	11月29日～月日	200 m ²	9 m ²	中世	城館跡	個人住宅
98	南田遺跡	郡山市富久山町久保田字南田	郡山市教委	12月1日～月日	697 m ²	30 m ²	古墳	散布地	住宅
99	中台遺跡	郡山市富久山町久保田字中台	郡山市教委	12月2日～月日	185 m ²	6 m ²	古墳・平安	散布地	その他開発
100	向館跡	郡山市富久山町字向館	郡山市教委	12月7日～月日	312 m ²	12 m ²	中世	城館跡	個人住宅
101	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	12月8日～月日	397 m ²	12 m ²	奈良・平安	官衙跡	個人住宅
102	堀込遺跡	郡山市日和和田町原町	郡山市教委	12月10日～月日	319 m ²	11 m ²	平安	散布地	個人住宅
103	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	12月17日～月日	489 m ²	15 m ²	奈良・平安	官衙跡	その他建物
104	亀田遺跡群	郡山市字上亀田	郡山市教委	12月24日～月日	273 m ²	11 m ²	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
105	大槻城跡	郡山市大槻町字原ノ町	郡山市教委	1月14日～月日	170 m ²	12 m ²	中世	城館跡	個人住宅
106	高倉遺跡	郡山市日和和田町高倉字高倉	郡山市教委	2月22日～2月24日	4,600 m ²	87 m ²	平安	散布地	河川
107	野毛館遺跡	郡山市小原田二丁目	郡山市教委	3月2日～月日	1,186 m ²	77 m ²	古墳～平安	散布地	住宅
108	高倉遺跡	郡山市日和和田町高倉字高倉	郡山市教委	3月3日～月日	745 m ²	8 m ²	平安	散布地	個人住宅
109	虎丸遺跡	郡山市虎丸町	郡山市教委	3月8日～月日	122 m ²	8 m ²	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
110	堀込遺跡	郡山市田村町岩作字古道	郡山市教委	3月24日～月日	676 m ²	12 m ²	古墳～平安	散布地	個人住宅
111	西原遺跡群	郡山市富田町字墨染	郡山市教委	3月31日～月日	818 m ²	30 m ²	縄文・古墳～平安	散布地	その他建物
112	死人窪遺跡	須賀川市滝字新田道東3-1	須賀川市教委	8月2日～月日	70 m ²	18 m ²	平安	散布地	携帯電話無線基地局建設
113	猿池遺跡	須賀川市仁井田字毘沙門地内	須賀川市教委	1月26日～1月27日	629 m ²	80 m ²	縄文	散布地	道路
114	蓬田館跡	平田村大字上蓬田字館ノ前	平田村教委	9月27日～月日	20 m ²	5 m ²	中世	城館跡	村道改良
115	竹貫城跡	古殿町お字松川字桑原328	古殿町教委	5月17日～5月18日	72 m ²	72 m ²	中世	城館跡	デジタルテレビ基地局設置
116	長草遺跡	田村市滝根町広瀬字矢大臣	田村市教委	11月25日～11月29日	1,500 m ²	100 m ²	縄文・弥生	散布地	工場資材置き場設置
117	仲作田遺跡	田村市船引町門沢字仲作田	田村市教委	12月6日～月日	32 m ²	10 m ²	奈良・平安	散布地	携帯電話無線基地局建設
118	来光院跡	三春町字大町	三春町教委	2月7日～2月8日	1,500 m ²	89 m ²	近世	社寺跡	河川改修
119	小峰城跡	白河市大手町5-3	白河市教委	4月6日～月日	626 m ²	20 m ²	近世	城館跡	集合住宅建設
120	桜山遺跡	白河市金勝寺31-2他	白河市教委	4月13日～4月21日	3,250 m ²	230 m ²	縄文～近世	集落跡	都市計画道路改修

121	会津街道跡	白河市萱根足洗場7-2他	白河市教委	9月9日～10月8日	4,443 m ²	151 m ²	近世	道路跡	工業団地造成
122	関根遺跡	西郷村大字熊倉字関根他	西郷村教委	9月15日～月日	250 m ²	85 m ²	縄文・古墳	散布地	公共施設解体・建設
123	明新館跡	矢吹町大字明神字明新下	矢吹町教委	9月21日～9月22日	m ²	154 m ²	中世	城館跡	送電線設置
124	松並平遺跡	棚倉町大字下山字松原25	棚倉町教委	10月20日～11月1日	1,463 m ²	120 m ²	古墳～平安	散布地	店舗
125	前平遺跡	矢祭町大字中石井字小野沢	矢祭町教委	2月1日～2月2日	4,175 m ²	289 m ²	平安	散布地	基幹農道整備
126	赤坂館跡	鮫川村大字赤坂中野字館山	鮫川村教委	1月6日～月日	5,870 m ²	65 m ²	縄文・中世	城館跡	公園造成
127	門田条里制跡	会津若松市門田町堤沢	会津若松市教委	10月12日～12月8日	50,000 m ²	1,000 m ²	弥生・奈良・平安	散布地	農業基盤整備
128	慧日寺跡	磐梯町大字磐梯字本寺八幡	磐梯町教委	7月21日～7月30日	160 m ²	21 m ²	平安～近世	寺院跡	町道舗装整備
129	土津神社跡	猪苗代町字見弥山13	猪苗代町教委	8月5日～8月13日	37 m ²	35 m ²	縄文・近世	社寺跡	道路側溝設置
130	猪苗代城跡	猪苗代町字古城町132-3他	猪苗代町教委	12月6日～12月9日	1,573 m ²	110 m ²	近世	城館跡	町道改修工事
131	黒瀬館跡	喜多方市岩月町入田付字黒瀬山	喜多方市教委	5月28日～5月31日	3,235 m ²	17 m ²	中世	城館跡	採石
132	治里南遺跡	喜多方市岩月町入田付字治里南	喜多方市教委	6月24日～6月25日	44 m ²	11 m ²	縄文	集落跡	携帯電話無線基地局建設
133	高森山遺跡	喜多方市塩川町常世字上村	喜多方市教委	11月25日～月日	130 m ²	15 m ²	奈良・平安	散布地	携帯電話無線基地局建設
134	花畑遺跡	会津坂下町大字長井字花畑他	会津坂下町教委	7月8日～8月10日	30,000 m ²	145 m ²	縄文	散布地	農業関係
135	上高野遺跡	会津坂下町大字勝字上高野	会津坂下町教委	7月30日～8月6日	4,200 m ²	22 m ²	縄文・弥生	散布地	無線局建設
136	勝常寺	湯川村大字勝常寺字代舞	湯川村教委	7月5日～7月24日	280 m ²	141 m ²	弥生・奈良～中世	散布地	車庫・駐車場建設
137	上田谷地遺跡	湯川村大字笈川字仲田	湯川村教委	7月12日～7月13日	250 m ²	24 m ²	奈良・平安	散布地	県道改良工事
138	笈川館跡	湯川村大字笈川字上本町221	湯川村教委	8月10日～月日	230 m ²	29 m ²	中世	城館跡	県道改良工事
139	堂後遺跡	湯川村大字勝常寺字堂後	湯川村教委	8月30日～9月7日	1,300 m ²	1,300 m ²	縄文・弥生・奈良～近世	散布地	墓地造成
140	高田館跡	会津美里町字新布才地	会津美里町教委	5月17日～8月5日	11,000 m ²	1,087 m ²	平安・中世	城館跡	町内再開発
141	伊佐須美神社跡	会津美里町字宮林地内	会津美里町教委	9月27日～10月29日	270 m ²	71 m ²	近世	社寺跡	社殿建設
142	家ノ下上遺跡	会津美里町氷玉字家ノ下	会津美里町教委	2月23日～3月17日	2,284 m ²	179 m ²	縄文	散布地	県道建設
143	雀ヶ城跡	金山町大字西谷字雀ヶ城1479-3	金山町教委	7月12日～7月13日	65,000 m ²	10 m ²	中世	城館跡	NHK局舎建設
144	行司C遺跡	南会津町田島字行司	南会津町教委	5月10日～6月1日	600 m ²	108 m ²	弥生	散布地	ガス・電気・水道
145	行司C遺跡	南会津町田島字行司	南会津町教委	12月13日～12月15日	400 m ²	20 m ²	弥生	散布地	ガス・電気・水道
146	行司C遺跡	南会津町田島字行司	南会津町教委	2月7日～2月9日	400 m ²	12 m ²	弥生	散布地	ガス・電気・水道
147	行司C遺跡	南会津町田島字行司	南会津町教委	3月14日～3月17日	400 m ²	m ²	弥生	散布地	ガス・電気・水道
148	朴木原遺跡	新地町福田字朴木原1	新地町教委	7月12日～12月24日	240 m ²	m ²	縄文	散布地	畑地造成
149	谷地小屋要害遺跡	新地町谷地小屋字升形	新地町教委	1月24日～3月11日	120 m ²	m ²	近世	城館跡	駅前開発
150	諏訪原遺跡	南相馬市小高区塚原字諏訪前	南相馬市教委	5月13日～月日	258 m ²	30 m ²	古墳	散布地	携帯電話無線局

151	南町遺跡	南相馬市原町区 南町1丁目	南相馬市教 委	8月23日～8月31日	3,100 m ²	291 m ²	旧石器	散布地	店舗
152	四ツ栗遺跡	南相馬市小高区 川房字四ツ栗	南相馬市教 委	12月17日～月日	120 m ²	20 m ²	奈良・平安	散布地	携帯電話 無線局
153	広平遺跡	南相馬市原町区 金沢字広平	南相馬市教 委	12月6日～月日	1,584 m ²	60 m ²	縄文	散布地	個人住宅
154	八幡林遺跡	南相馬市鹿島区 寺内字八幡林	南相馬市教 委	12月8日～3月3日	478 m ²	20 m ²	縄文	集落跡	個人住宅
155	中島館跡	南相馬市小高区 飯崎字中島	南相馬市教 委	9月30日～3月11日	3,000 m ²	30 m ²	弥生～中世	集落跡・ 城館跡	農業基盤 整備
156	桜台遺跡	いわき市植田町桜 台39-2	いわき市教 委	5月13日～月日	30 m ²	12 m ²	弥生～近世	館跡・集 落跡	携帯電話 無線基地 局
157	北境遺跡	いわき市勿来町酒 井字北境18-1	いわき市教 委	5月20日～5月21日	88 m ²	23 m ²	平安以降	集落跡	個人住宅
158	堀ノ内館跡	いわき市平北白土 字西ノ内6	いわき市教 委	7月7日～7月8日	846 m ²	40 m ²	近・現代	散布地	集合住宅 建設
159	和具B遺跡	いわき市四倉町下 柳生字根振78	いわき市教 委	7月15日～月日	536 m ²	20 m ²	古墳～平安	散布地	携帯電話 無線基地 局
160	根岸遺跡	いわき市平下大越 字岸前13	いわき市教 委	7月23日～月日	330 m ²	12 m ²	古墳～平安	官衙跡	個人住宅
161	泉町C遺跡	いわき市泉町滝尻 字泉町地内	いわき市教 委	7月29日～7月30日	700 m ²	77 m ²	古墳～平安	集落跡	土地整理 区画
162	平城跡	いわき市平字六間 門2他	いわき市教 委	7月29日～8月2日	837 m ²	31 m ²	平安・近世	城館跡	個人住宅
163	松ノ下遺跡	いわき市川部町松 ノ下84-3	いわき市教 委	8月31日～月日	123 m ²	20 m ²	縄文	散布地	携帯電話 無線基地 局
164	北郡遺跡	いわき市勿来町大 高北郡75-2・3	いわき市教 委	9月1日～月日	266 m ²	22 m ²	不明	散布地	個人住宅
165	中塩館跡	いわき市平中塩字 岸58-1他	いわき市教 委	9月8日～9月10日	1,217 m ²	64 m ²	縄文～弥 生、近・現 代	城館跡・ 遺物包含 層	墓地造成
166	酢釜B遺跡	いわき市平上平窪 字酢釜102	いわき市教 委	9月14日～月日	93 m ²	20 m ²	縄文	集落跡	携帯電話 無線基地 局
167	湯長谷館跡・磐崎 中学校遺跡	いわき市常磐下湯 長谷町字家中跡 地内	いわき市教 委	10月1日～月日	420 m ²	28 m ²	江戸～明治	集落跡・ 城館跡	市道改良
168	御前田A遺跡・泉 町A遺跡	いわき市泉町滝尻 字泉町地内	いわき市教 委	10月26日～月日	1,700 m ²	115 m ²	古墳～平安	集落跡	土地整理 区画
169	窪田馬場遺跡・窪 田外城跡	いわき市勿来町窪 田字馬場地内	いわき市教 委	12月21日～12月23日	45 m ²	21 m ²	縄文、古墳 ～平安、 近・現代	城館跡・ 散布地	合併処理 浄化槽
170	上山田館跡	いわき市山田町字 堀ノ内地内	いわき市教 委	12月24日～月日	24 m ²	21 m ²	中世	城館跡	合併処理 浄化槽
171	小茶円遺跡	いわき市平山崎字 鼠内他	いわき市教 委	2月7日～2月9日	2,800 m ²	35 m ²	古墳～平 安、中近世	集落跡	市道改良
172	御堂遺跡	いわき市小川町上 小川字清水地内	いわき市教 委	2月22日～月日	713 m ²	29 m ²	近・現代	散布地	市道改良
173	川和久遺跡	いわき市平下高久 字川和久地内	いわき市教 委	2月23日～2月24日	1,136 m ²	38 m ²	古墳～平安	集落跡	市道改良
174	朴木原遺跡	新地町福田字朴 木原	福島県教委	11月4日～11月26日	6,900 m ²	1,016 m ²	縄文	散布地	高速道路
175	北狼沢A遺跡	新地町谷地小屋 字北狼沢	福島県教委	4月19日～10月8日	7,400 m ²	634 m ²	縄文・近世	散布地	高速道路
176	南狼沢遺跡	新地町谷地小屋 字南狼沢	福島県教委	11月9日～11月10日	5,000 m ²	381 m ²	縄文	散布地	高速道路
177	大槻遺跡	新地町杉目字大 槻	福島県教委	4月22日～5月21日	17,000 m ²	1,220 m ²	縄文・平安	散布地	高速道路
178	赤柴遺跡	新地町駒ヶ嶺字赤 柴	福島県教委	5月31日～10月28日	22,600 m ²	2,762 m ²	縄文・平安	散布地	高速道路
179	赤柴前遺跡	新地町駒ヶ嶺字赤 柴	福島県教委	5月25日～5月31日	4,400 m ²	423 m ²	縄文	散布地	高速道路
180	桜町遺跡	湯川村大字桜町 字千苺	福島県教委	4月19日～11月19日	1,400 m ²	127 m ²	弥生・平 安、中近世	散布地	高速道路
181	トロミ遺跡	二本松市北トロミ・ 南トロミ	福島県教委	6月22月～8月18月	5,600 m ²	536 m ²	弥生・奈 良・平安	散布地	高速道路

(10)平成22年度開発事業に伴う試掘調査(未周知範囲)

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	対象面積	調査面積	時 代	種 別	調査原因
1	湧水地区	国見町大字大木戸字湧水2	国見町教委	10 月 18 日 ～ 10 月 19 日	2,400 m ²	35 m ²			溜池堤体改修
2	湧水地区	国見町大字大木戸字湧水2	国見町教委	10 月 17 日 ～ 月 日	2,400 m ²	45 m ²			堰水路溝畔補修
3	方八丁・横塚地区	郡山市方八町二丁目	郡山市教委	5 月 6 日 ～ 月 日	1,292 m ²	60 m ²			学校建設
4	大槻前畑地区	郡山市堤一丁目167	郡山市教委	5 月 20 日 ～ 5 月 21 日	2,405 m ²	60 m ²			店舗
5	方八丁・横塚地区	郡山市方八町一丁目	郡山市教委	5 月 27 日 ～ 月 日	225 m ²	6 m ²			個人住宅
6	方八丁・横塚地区	郡山市方八町一丁目	郡山市教委	5 月 31 日 ～ 月 日	277 m ²	8 m ²			個人住宅
7	方八丁・横塚地区	郡山市字榎ノ木	郡山市教委	6 月 17 日 ～ 月 日	204 m ²	7 m ²			その他建物
8	大槻前畑地区	郡山市大槻町字池上西	郡山市教委	6 月 21 日 ～ 6 月 22 日	2,903 m ²	160 m ²			住宅
9	大槻前畑地区	郡山市堤三丁目	郡山市教委	6 月 25 日 ～ 月 日	851 m ²	40 m ²			住宅
10	方八丁・横塚地区	郡山市芳賀二丁目	郡山市教委	7 月 13 日 ～ 月 日	341 m ²	4 m ²			学校建設
11	大槻前畑地区	郡山市大槻町字北中野下	郡山市教委	7 月 16 日 ～ 月 日	165 m ²	7 m ²			個人住宅
12	方八丁・横塚地区	郡山市本町二丁目	郡山市教委	7 月 29 日 ～ 月 日	221 m ²	12 m ²			その他建物
13	田村金屋地区	郡山市田村町上行合字西川原	郡山市教委	8 月 20 日 ～ 月 日	596 m ²	15 m ²			住宅
14	方八丁・横塚地区	郡山市横塚二丁目	郡山市教委	8 月 30 日 ～ 月 日	172 m ²	5 m ²			個人住宅
15	田村金屋地区	郡山市安積町日出山字一本松	郡山市教委	9 月 6 日 ～ 月 日	492 m ²	26 m ²			住宅
16	方八丁・横塚地区	郡山市方八町二丁目	郡山市教委	10 月 5 日 ～ 月 日	718 m ²	50 m ²			住宅
17	大槻前畑地区	郡山市堤一丁目	郡山市教委	11 月 8 日 ～ 月 日	459 m ²	16 m ²			住宅
18	大槻前畑地区	郡山市鳴神三丁目	郡山市教委	11 月 9 日 ～ 月 日	514 m ²	11 m ²			住宅
19	田村金屋地区	郡山市田村町金屋字新家	郡山市教委	11 月 11 日 ～ 月 日	1,004 m ²	59 m ²			住宅
20	田村金屋地区	郡山市安積町日出山字神明下	郡山市教委	11 月 12 日 ～ 月 日	482 m ²	17 m ²			個人住宅
21	大槻前畑地区	郡山市堤二丁目	郡山市教委	12 月 9 日 ～ 月 日	1,002 m ²	49 m ²			住宅
22	喜久田堀之内地区	郡山市喜久田町堀之内字北原	郡山市教委	12 月 13 日 ～ 月 日	872 m ²	18 m ²			個人住宅
23	方八丁・横塚地区	郡山市芳賀町二丁目	郡山市教委	12 月 14 日 ～ 月 日	182 m ²	12 m ²			個人住宅
24	方八丁・横塚地区	郡山市横塚六丁目	郡山市教委	1 月 28 日 ～ 月 日	151 m ²	8 m ²			個人住宅
25	本町一丁目	郡山市本町一丁目	郡山市教委	2 月 15 日 ～ 月 日	300 m ²	104 m ²			道路
26	来光院跡	三春町字大町	三春町教委	8 月 3 日 ～ 8 月 5 日	1,500 m ²	8 m ²	近世	社寺跡	河川改修
27	赤坂館跡	鮫川村大字赤坂中野字館山	鮫川村教委	1 月 6 日 ～ 月 日	m ²	24 m ²	縄文・中世	城館跡	公園造成
28	諏訪ノ宮遺跡隣接地	喜多方市熊倉町都宇寺内	喜多方市教委	5 月 27 日 ～ 5 月 28 日	3,000 m ²	23 m ²			県道歩道整備
29	香隈山Ⅰ地区	喜多方市慶徳町豊岡字香隈山	喜多方市教委	9 月 27 日 ～ 月 日	38,000 m ²	4 m ²			県道改良工事
30	香隈山Ⅱ地区	喜多方市慶徳町豊岡字香隈山	喜多方市教委	9 月 29 日 ～ 10 月 22 日	38,000 m ²	136 m ²	古墳	古墳	県道改良工事

31	香隈山Ⅲ地区	喜多方市慶徳町豊岡 字香隈山	喜多方市教委	10月20日～10月22日	38,000㎡	11㎡			県道改良工事
32	駒形第二地区(家 西地区2次)	喜多方市塩川町常世 字家西	喜多方市教委	12月2日～月日	27,190㎡	68㎡	奈良・平安	集落跡	経営体基盤整備
33	駒形第二地区(宮 腰地区3次)	喜多方市塩川町五合 字宮腰	喜多方市教委	12月6日～月日	38,126㎡	50㎡	奈良・平安	集落跡	経営体基盤整備
34	駒形第二地区(家 西地区4次)	喜多方市塩川町中屋 沢竹屋	喜多方市教委	9月15日～12月1日	244,541㎡	1145㎡	縄文・弥生・奈良・平安・中世	集落跡	経営体基盤整備
35	中村城跡	相馬市中村字北町 51-1	相馬市教委	5月18日～6月22日	7,500㎡	420㎡	近世	城館跡	市民会館建設
36	中村城跡	相馬市中村字北町 51-1	相馬市教委	7月1日～9月28日	1,500㎡	116㎡	近世	城館跡	市民会館建設
37	錦町地区	南相馬市原町区錦町 2丁目	南相馬市教委	6月7日～月日	5,458㎡	36㎡			店舗
38	久ノ浜バイパスH・I 地区	いわき市久之浜町字 静他	いわき市教委	3月8日～3月11日	45,700㎡	23㎡	弥生時代		国道建設
39	ST-B⑧	新地町福田字朴木原	福島県教委	11月4日～11月26日	1,100㎡	177㎡	縄文・近世		高速道路
40	ST-B⑦	新地町真弓字原畑	福島県教委	11月11日～11月12日	2,400㎡	124㎡			高速道路
41	NM-B1	二本松市北トロミ	福島県教委	6月22日～8月18日	8,700㎡	375㎡			河川改修
42	K1-B2	鏡石町蒲之沢町	福島県教委	12月14日～12月16日	3,500㎡	356㎡			一般国道
43	KT-B1	喜多方市慶徳山科字 古屋敷	福島県教委	10月14日～10月22日	3,200㎡	152㎡			河川改修
44	CG-B7	下郷町南倉沢字猪馬 場平	福島県教委	9月21日～10月1日	1,800㎡	32㎡			一般国道

(11) 平成22年度発掘調査一覧

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調 査 実 施 期 間	調査面積	時 代	種 別	調査原因
1	本内館跡	福島市本内字館地内	福島市教委	5月11日～6月3日	127㎡	中世	城館跡	個人住宅
2	腰浜廃寺跡	福島市腰浜町地内	福島市教委	7月5日～7月30日	100㎡	縄文～近世	社寺跡	宅地造成
3	南諏訪原遺跡	福島市松川町南諏訪原地内	福島市教委	7月26日～8月24日	483㎡	縄文～近世	散布地	その他建物
4	富塚前遺跡	福島市丸子字富塚前地内	福島市教委	3月4日～3月31日	145㎡	古墳～中世	散布地	宅地造成
5	櫛森遺跡	川俣町飯坂字水境向9-5 他	川俣町教委	8月9日～12月27日	2,300㎡	縄文	集落跡	県道建設
6	新助館跡	川俣町大字鶴沢字西崎	川俣町教委	5月10日～11月9日	8,000㎡	縄文～平安・近世	城館跡	工場
7	史跡桑折西山城跡	桑折町大字万正寺字本丸	桑折町教委	5月27日～11月4日	980㎡	中世	城館跡	史跡整備
8	宮脇遺跡	伊達市霊山町大石字宮脇	伊達市教委	7月26日～12月26日	3,000㎡	中世・近世	社寺跡	内容確認調査
9	阿津賀志山防塁	国見町大字石母田字国見山 下	国見町教委	5月10日～6月1日	66㎡	中世	防塁跡	内容確認調査
10	阿津賀志山防塁	国見町大字石母田字国見山 下	国見町教委	10月12日～11月19日	75㎡	中世	防塁跡	内容確認調査
11	二本松城跡	二本松市郭内三丁目	二本松市教委	6月21日～7月27日	400㎡	中世・近世	城館跡	保存目的
12	行人壇塚群2号塚	二本松市成田字清水	二本松市教委	8月31日～9月3日	100㎡	不明	塚	土砂採取
13	神明町遺跡	郡山市神明町	郡山市教委	6月8日～7月15日	86㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
14	守山城跡	郡山市田村町守山字三ノ丸	郡山市教委	7月21日～3月31日	1,162㎡	中世	城館跡	学校建設
15	山王林遺跡	郡山市富田町字山王林	郡山市教委	9月17日～3月18日	250㎡	平安	散布地	道路
16	西原遺跡群	郡山市富田町字若木下	郡山市教委	9月27日～11月12日	94㎡	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
17	中台遺跡	郡山市富久山町久保田字宮 田	郡山市教委	10月14日～11月30日	52㎡	古墳・平安	散布地	個人住宅
18	守山城跡	郡山市田村町守山字三ノ丸	郡山市教委	11月18日～12月28日	40㎡	中世	城館跡	学校建設
19	徳定A・B遺跡	郡山市田村山徳定字西ノ内	郡山市教委	1月17日～3月18日	378㎡	縄文～平安	散布地	土地区画整理
20	桜山遺跡	白河市金勝寺31-2・7	白河市	5月27日～7月7日	497㎡	縄文～近世	集落跡	都市計画道路改修

21	舟田境遺跡	白河市舟田舟見94	白河市	7月15日～9月2日	720 m ²	古墳・近世	集落跡・古墳	県道建設
22	大塚遺跡	白河市板橋大塚7-5他	白河市	10月20日～12月21日	1,760 m ²	古墳	集落跡・古墳	県道建設
23	白川城跡	白河市藤沢山5-1	白河市	11月10日～12月7日	215 m ²	中世	城館跡	範囲内要確認
24	若松城郭内武家屋敷跡 梁瀬元次郎邸跡	会津若松市栄町	会津若松市教委	5月6日～6月2日	100 m ²	近世	武家屋敷跡	老人ホーム建設
25	篠山原No.16遺跡	会津若松市湊町大字赤井字笹山原	会津若松市教委	5月8日～5月25日	100 m ²	旧石器・縄文・奈良・平安	散布地	学術調査
26	郡山遺跡	会津若松市河東町郡山	会津若松市教委	8月30日～11月12日	1,200 m ²	縄文～中世	散布地	範囲内要確認
27	慧日寺跡	磐梯町大字磐梯字本寺八幡	磐梯町教委	6月28日～12月21日	1,250 m ²	平安～近世	寺院跡	史跡整備
28	八幡山古墳群2号墳	喜多方市塩川町金橋字八幡山	喜多方市教委	7月26日～9月2日	150 m ²	古墳	古墳	堰改修
29	堂後遺跡	湯川村大字勝常字堂後	湯川村教委	5月12日～6月26日	350 m ²	縄文・弥生・奈良～近世	散布地	内容確認調査
30	堂後遺跡	湯川村大字勝常字堂後	湯川村教委	9月8日～10月29日	851 m ²	縄文・弥生・奈良～近世	散布地	墓地造成
31	盗人沢遺跡	会津坂下町大字船杉字盗人沢乙	会津坂下町教委	5月6日～7月23日	560 m ²	縄文・古墳	集落跡	道路
32	亀ヶ森古墳	会津坂下町大字青津字館ノ腰	相馬市教委	8月30日～10月21日	190 m ²	古墳	古墳	史跡整備
33	明神遺跡	下郷町大字豊成字明神	下郷町教委	5月10日～8月20日	1,508 m ²	縄文・弥生	集落跡	
34	七十苺遺跡	只見町大字小林字七十苺	只見町教委	6月14日～12月14日	2,151 m ²	縄文・弥生	散布地	河川改修
35	中村城跡	相馬市中村字北町51-1	相馬市教委	2月1日～3月11日	1,500 m ²	近世	城館跡	市民会館建設
36	浦尻貝塚	南相馬市小高区浦尻字台ノ前	南相馬市教委	7月16日～2月28日	120 m ²	縄文	貝塚	史跡整備
37	中島館跡	南相馬市小高区飯崎字中沖	南相馬市教委	11月1日～3月11日	3,000 m ²	弥生～平安	集落跡	農業基盤整備
38	小高城跡	南相馬市小高区小高字古城	南相馬市教委	11月2日～12月28日	132.00 m ²	中世	城館跡	範囲内容確認
39	荒神前遺跡	南相馬市小高区片草字荒神前	南相馬市教委	7月27日～8月18日	113 m ²	奈良・平安	集落跡	個人住宅
40	勸請内古墳	南相馬市小高区飯崎字勸請内	南相馬市教委	7月25日～8月7日	200 m ²	古墳	古墳	学術調査
41	大場D遺跡	いわき市大久町小久字大場地内	いわき市教委	6月10日～7月22日	230 m ²	縄文・古墳	集落跡・散布地	市道改良
42	泉町C遺跡	いわき市泉町滝尻字泉町内	いわき市教委	9月13日～11月16日	700 m ²	古墳～平安	集落跡	土地区画整理
43	餓鬼堂横穴群	いわき市平薄磯字北ノ作地内	いわき市教委	12月20日～2月24日	13 基	古墳	横穴	復旧治山事業
44	大谷上ノ原遺跡	楡葉町大谷上ノ原・山根地内	福島県教委	4月12日～5月28日	1,800 m ²	旧石器・縄文・平安	生産遺跡	高速道路建設
45	南萱倉遺跡	相馬市初野字萱倉	福島県教委	4月13日～8月20日	2,000 m ²	弥生・平安・近世	集落跡	高速道路建設
46	弘川遺跡	相馬市初野字弘川	福島県教委	8月2日～9月17日	800 m ²	平安	生産遺跡	高速道路建設
47	赤柴前遺跡	新地町駒ヶ嶺字赤柴前	福島県教委	7月7日～9月9日	2,500 m ²	縄文・平安	狩猟場	高速道路建設
48	大槻遺跡	新地町杉目字大槻	福島県教委	9月7日～12月10日	1,000 m ²	縄文・平安・近世	集落跡	高速道路建設
49	北狼沢A遺跡	新地町谷地小屋字北狼沢	福島県教委	11月8日～1月21日	2,800 m ²	縄文・平安	集落跡	高速道路建設
50	桜町遺跡	湯川村大字桜町字千苺	福島県教委	4月19日～11月19日	11,000 m ²	弥生・平安・中世～近世	集落跡	高規格道路建設
51	小田高原遺跡	喜多方市啓徳町山科字古屋敷他	福島県教委	5月13日～12月24日	15,800 m ²	縄文・奈良・平安・近世	集落跡	河川改修

4 平成22年度文化財保存助成の充実

文化財の修理・防災・整備・調査・管理、埋蔵文化財保存調査等の事業（保存事業）とそれらの文化財を活用した事業（活用事業）を一体的に行った事業（保存活用事業）に対し、国指定文化財の管理に関する事業に対して、次のとおり助成を行った。

(1) 国指定文化財等

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	飯野八幡宮	飯野八幡宮宝蔵・楼門	重要文化財（建造物・美術工芸品）	半解体修理	7,134,388	4,550,000	450,000	2,134,388
史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備	桑折町	桑折西山城跡	史跡	発掘調査	20,783,228	9,952,000	1,050,000	9,781,228
史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備	横山操	旧滝沢本陣	史跡	保存修理	6,690,310	4,613,000	200,000	1,877,310
史跡等総合整備活用推進	福島市	宮畑遺跡	史跡	復元的整備	54,830,000	27,200,000	2,500,000	25,130,000
計	4 件				89,437,926	46,315,000	4,200,000	38,922,926

(2) 埋蔵文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
発掘調査等	国見町	町内遺跡	史跡	各種開発確認	4,077,094	2,000,000	250,000	1,827,094
発掘調査等	白河市	市内遺跡		史跡内容確認	4,884,446	2,400,000	250,000	2,234,446
発掘調査等	会津美里町	町内遺跡		範囲内容確認	6,572,809	3,225,000	350,000	2,997,809
発掘調査等	会津坂下町	町内遺跡	史跡	範囲内容確認	10,150,091	5,000,000	550,000	4,600,091
計	4 件				25,684,440	12,625,000	1,400,000	11,659,440

(3) 県指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	金山町	旧五十島家住宅	重要文化財（建造物・美術工芸品）	屋根葺替	9,670,967	0	3,220,000	6,450,967
建造物保存修理	南会津町	旧南会津郡役所	重要文化財（建造物・美術工芸品）	部分修理	8,183,930	0	1,900,000	6,283,930
天然記念物再生	永泉寺のサクラ保存会	永泉寺のサクラ	天然記念物	保護増殖	1,031,865	0	340,000	691,865
計	3 件				18,886,762	0	5,460,000	13,426,762

(4) 指定文化財管理

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
指定文化財管理	宗教法人八葉寺	八葉寺阿弥陀堂	重要文化財（建造物・美術工芸品）	防災保守点検	387,000	96,000	97,000	194,000
指定文化財管理	宗教法人延命寺	延命寺地藏堂	重要文化財（建造物・美術工芸品）	防災保守点検等	262,000	66,000	65,000	131,000
指定文化財管理	飯盛正徳	旧正宗寺三匠堂	重要文化財（建造物・美術工芸品）	防災保守点検等	491,000	122,000	123,000	246,000
指定文化財管理	横山操	旧滝沢本陣横山家住宅	重要文化財（建造物・美術工芸品）	防災保守点検等	218,001	55,000	54,000	109,001
指定文化財管理	勝福寺観音堂保存会	勝福寺観音堂	重要文化財（建造物・美術工芸品）	防災保守点検等	431,100	108,000	107,000	216,100
指定文化財管理	宗教法人熊野神社	熊野神社長床	重要文化財（建造物・美術工芸品）	防災保守点検等	1,144,300	286,000	286,000	572,300
指定文化財管理	宗教法人円満寺	円満寺観音堂	重要文化財（建造物・美術工芸品）	防災保守点検等	895,000	221,000	222,000	452,000
計	7 件				3,828,401	954,000	954,000	1,920,401

5 文化財の愛護と公開の推進

(1) 第52回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知させるとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

ア 期 日 平成22年10月30日 リハーサル
実行委員会
31日 開会式

民俗芸能公開

イ 場 所 福島県文化センター(福島県福島市)

ウ 公開演目 派遣団体 2 団体

「金沢黒沼神社の十二神楽」 黒沼神社の十二神楽保存会(福島市)

「鶺鴒の早乙女踊」 鶺鴒早乙女踊り保存会(南会津町)

(2) 文化財保護強調週間の実施

文化財保護の一層の推進を図るために、11月1日から11月7日までの文化財保護強調週間にチラシを作成、配布し、県民に対し啓発を行った。

(3) 文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者、管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1月26日の文化財防火デーを中心に、チラシを作成、配布するなど啓発を行った。

また、各市町村教育委員会においては、消防署等の協力を得て、防火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

6 銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品としての価値のある刀剣類の登録審査会を次のとおり実施した。

(1) 登録審査委員

鈴木俊一、陳内直史、塚本憲司、佐藤安弘

(2) 登録審査会の実施状況

期 日	会 場	審査数	失格数	登録数	左 の 内 訳	
					刀 剣	銃 砲
5月13日	いわき合同庁舎	50	0	50	50	0
7月 2日	郡山市労働福祉会館	22	2	20	19	1
9月24日	会津若松合同庁舎	55	1	54	54	0
1月19日	福 島 県 庁	36	0	36	36	0
2月24日	郡山市労働福祉会館	51	1	50	44	6
計		214	4	210	203	7

※ 再交付に係る審査を除く。

(3) 銃砲刀剣類の譲り受け・相続等の届け出状況

区 分	銃 砲 等	刀 剣 類
譲 り 受 け	13	331
相 続	2	77
貸 付 け	0	0
保 管 の 委 託	0	0
計	15	408

第4節 財団法人福島県文化振興事業団による文化財保護の推進

1 埋蔵文化財調査事業

(1) 分布調査事業

事業内容	所在地	遺跡名	調査期間	調査面積	事業成果
				試掘(㎡)	
常磐自動車道遺跡分布調査 範囲確認調査	新地町	朴木原	11/4～11/26	6,900	遺跡を確認した
		S T - B ⑧	11/4～11/26	1,100	遺跡を確認した
		S T - B ⑦	11/11～11/12	2,400	遺跡を確認できず
		北狼沢A	4/19～4/22, 10/4～10/8	7,400	遺跡を確認できず
		南狼沢	11/9～11/10	5,000	遺跡を確認できず
		大槻	4/22～5/21	17,000	遺跡を確認した
		赤柴	5/31～6/2, 9/13～10/28	22,600	遺跡を確認した
		赤柴前	5/25～5/31	4,400	遺跡を確認できず
阿武隈川右岸築堤事業 遺跡分布調査	二本松市	N H - B 1	6/22～8/18	8,700	遺跡を確認できず
		トロミ	6/22～9/2	5,600	遺跡を確認した
一般国道118号バイパス 遺跡分布調査	鏡石町	K I - B 2	12/14～12/16	3,500	遺跡を確認できず
阿賀川狭窄事業 遺跡分布調査	喜多方市	K T - B 1	10/14～10/22	3,200	遺跡を確認できず
地域高規格道路（会津縦貫北道路） 遺跡分布調査	湯川村	桜町	9/28, 10/27～11/11	1,400	遺跡を確認した
一般国道289号南倉沢バイパス 遺跡分布調査	下郷町	C G - B 7	9/21～10/1	1,800	遺跡を確認した
合 計				91,000	

(2) 発掘調査事業

ア 発掘調査

事業名	遺跡名	所在地	主な検出遺構と出土遺物	調査期間	調査面積㎡
常磐自動車道 (相馬工区) 遺跡発掘調査	赤柴前	新地町	土坑 6	7/7～9/9	2,500
	大槻		竪穴住 2 土坑 5 性格不明 1 溝 1	9/7～12/10	1,000
	北狼沢 A		竪穴住 1 土坑 6 焼土 1	11/8～1/18	2,800
	南萱倉	相馬市	竪穴住 2 掘立柱 3 土坑 4 溝 5 柱列 1 井戸 1 性格不明 1	4/13～8/20	2,000
	弘川		土坑 4	8/2～9/17	800
	5 遺跡	小 計			9,100
常磐自動車道 (いわき工区) 遺跡発掘調査	大谷上ノ原	檜葉町	土坑 6	4/12～5/28	1,800
	1 遺跡	小 計			1,800
会津縦貫北道路 遺跡発掘調査	桜町	湯川村	掘立柱 16 土坑 41 溝 14	4/19～11/19	11,000
	1 遺跡	小 計			11,000
阿賀川狭窄事業 遺跡発掘調査	小田高原	喜多方市	竪穴住 13 須恵窯 3 土坑 35 溝 9 焼土 1 竪穴状 1 畝状 1 小穴 26	5/13～12/17 3/7～3/11	15,800
	1 遺跡	小 計			15,800
合 計	8 遺跡	5 市町村			37,700

イ 報告書刊行

事業名	報告書名	収録遺跡名	頁数
遺跡分布調査	福島県内遺跡分布調査報告 17 (県教委発行)	試掘調査 13 遺跡・表面調査 1 事業	39
常磐自動車道 遺跡発掘調査	常磐自動車道遺跡調査報告 60	横大道遺跡 第 1 分冊	406
		第 2 分冊	485
	常磐自動車道遺跡調査報告 61	中山 C・西内・菖蒲沢・榎木沢遺跡	413
	常磐自動車道遺跡調査報告 64	宿仙木 A 遺跡 (2 次)・西原遺跡	213
	常磐自動車道遺跡調査報告 65	大谷上ノ原遺跡 (4 次)	47
会津縦貫北道路 遺跡発掘調査	会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告 10	桜町遺跡 (2 次)	389
阿武隈東道路 遺跡発掘調査	阿武隈東道路遺跡発掘調査報告 3	荻平 (3 次)・小田原 B 遺跡	244
あぶくま南道路 遺跡発掘調査	福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告 21	煙石 A・煙石 F 遺跡	149
合 計	8 冊	13 遺跡	2,385

2 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

No.	市町村名	遺 跡 名	時 期	遺 構	遺 物	期 間	業 務 内 容		備 考
							現地調査	報 告 書	
会 津	① 南会津町	行司C遺跡	縄文・弥生	なし	弥生土器	5/10～12 5/31～6/2	試掘調査	実績報告	公共下水道事業
		行司C遺跡	縄文・弥生	なし	なし	12/13～15 2/7～9	工事立会	実績報告	公共下水道事業
	② 金山町	雀ヶ城跡	中世	なし	なし	7/12～14	試掘調査	実績報告	地上デジタルテレビ基地局設置
		中丸城跡	中世	なし	なし	7/14	現地確認	—	整備確認
		玉縄城跡	中世	整地層	なし	11/29	工事立会	実績報告	生活基盤緊急改善工事（急傾斜地崩壊防止対策工事）
	③ 只見町	七十茹遺跡	縄文・弥生・古代	掘立柱建物跡・溝跡・土坑	縄文・弥生・土師器	6/14～25 11/8～19	発掘調査	—	河川改修工事
	④ 湯川村	上田谷地遺跡	古代	なし	なし	7/20	試掘調査	実績報告	県道改修
		堂後遺跡	古代・中世	掘立柱建物跡・溝跡・土坑	土師器・須恵器・白磁・石製品	6/4	現地協力	—	範囲確認調査
		(仮称) 勝常寺遺跡	弥生・古代・中世	溝跡・掘立柱建物跡・土坑	弥生土器・土師器・青磁・石製品・木製品	6/15・16 6/21～23	試掘調査	—	車庫・駐車場造成
		堂後遺跡	縄文・中近世	掘立柱建物跡・土坑・溝跡・柱穴	縄文土器・土師器・須恵器・白磁・石製品・木製品	9/6～17 9/29～10/29 2/14～17	発掘調査 整理協力	報告書作成	墓地造成・現地説明会開催
	⑤ 三島町	大石田居平遺跡	縄文	土坑	縄文土器・石器・土製品	11/4・5	試掘調査	実績報告	携帯電話基地局設置
中 通 り	⑥ 川俣町	櫛森遺跡	縄文	なし	なし	4/15	現地協力	—	調査開始前現地打合せ
		新助館跡	縄文・古代・中世	竪穴住居跡・土坑・平場・土塁・掘立柱建物跡	縄文土器・鉄製品	6/29・30 7/8・9・26・27 8/2・3・23・25 9/2・3 1/18	発掘調査 整理協力	—	緊急雇用対策
	⑦ 古殿町	竹貫城跡	中世	なし	なし	5/17・18	試掘調査	実績報告	地上デジタルテレビ基地局設置
	⑧ 平田村	蓬田館跡	古代？・中世	柱穴	土師器	9/27・28	試掘調査	実績報告	村道拡張
	⑨ 矢祭町	前平遺跡	古代	竪穴住居跡・土坑・柱穴	土師器・須恵器・縄文土器	2/1・2	試掘調査	実績報告	県道建設
	⑩ 鮫川村	赤坂館跡	中世	土坑	なし	1/5・6	試掘調査	実績報告	公園内遊具設置
	⑪ 矢吹町	松房A遺跡	縄文	土坑・ピット	縄文土器・石器	6/9	工事立会	実績報告	圃場整備に伴う水道管移設
		明新館跡	中世	なし	なし	9/21・22	試掘調査	実績報告	送電線建設
浜 通 り	⑫ 飯館村	—				12/21・22・24 1/12～14 2/4	範囲確認	—	埋蔵文化財周知事業
計	8町4村（会津：4町1村，中通り：4町2村，浜通り：1村） 20遺跡（地点・地区含む）								

3 文化財センター整備業務

業 務 名	期 間	内 容	数 量
出土品の整理・搬送	平成22年4月～ 平成23年3月	出土品の点検	常磐自動車道遺跡調査後作A遺跡など721箱
		出土品の梱包	常磐自動車道遺跡調査後作A遺跡など721箱
		出土品等の搬送	常磐自動車道遺跡調査後作A遺跡など771箱
文化財データ入力	平成22年4月～ 平成23年3月	遺跡データベース入力	大田和広畑遺跡など502件
		遺物データベース入力	小池田遺跡など6,235件
		写真データベース入力	割田E遺跡など2,000件
		既入力遺物データベース整理	21,254件
		既入力写真データベース整理	9,796件
出土品の劣化防止	平成22年4月～ 平成23年3月	劣化防止処理	上吉田遺跡など木質遺物3,540件
			上吉田遺跡など金属質遺物7,070件
			上吉田遺跡などその他の資料1,520件
		保存処理	沼ノ上遺跡など 80件

4 緊急雇用創出基金事業

業 務 名	期 間	内 容	数 量
県内遺跡出土木質遺物の 樹種同定業務	平成22年5月～ 平成23年2月 (臨時職員3名雇用)	顕微鏡観察用切片 (プレパレート)の作成	プレパレート600点
			劣化防止処理1点

第10章 体育・健康

第1節 概要

学校体育の充実については、従来行ってきた文部科学省と県による小・中・高の全学年対象抽出方式の体力・運動能力調査に加え、平成20年度から新たに開始された小学校5年生と中学校2年生を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査に参加し、児童生徒の体力等の実態を把握するとともに、子どもの体力向上指導者養成研修等を開催し、運動を楽しみながら体力の向上を目指す授業の普及に努めた。

また、体育の授業のさらなる充実と運動部活動の一層の活性化を図るため、地域スポーツ人材の活用実践支援事業により、中学校の武道・ダンスの授業と中・高等学校の運動部活動に専門的な技能を有する地域のスポーツ人材を指導者として派遣し、教員との連携による効果的な指導の実践に努めた。

健康教育の充実・普及については、平成16年度から実施している「うつくしまっすこやか事業」の中で、平成19年度より「学校すこやかプラン」を展開し、関係機関との連携や地域を巻き込んだ学校保健委員会の活性化を目指して取り組んでいる。さらに児童生徒の自ら健康的な生活を営む実践力を育むための指導の在り方について研究を深め、関係機関と一体となって児童生徒の健康課題解決を目指している。また、食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、さらに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

1 学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動の充実を図るため、体育担当者を対象とした各種研修会や研究会を通して指導者の資質の向上と児童生徒の体力及び技能の向上に努めた。

また、子どもの体力向上指導者養成研修会を開催し、体力向上のための手立てや生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育成する学習指導の在り方など、今日的な課題の解決方法について広く普及に努めた。

さらに、本県児童生徒の実態を把握するため体力・運動能力調査を行い、その結果を分析し活用・改善を図るために「子どもの体力向上支援委員会」を設置し、子どもの発達段階に応じた体力づくりの推進に努めた。

次に小学校運動競技奨励事業や地域スポーツ人材の活用実践支援事業を実施し、運動に親しむ児童生徒の育成を図るとともに、体力・運動能力の向上と運動部活動の活性化に努めた。

2 学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、自らの健康は自らで築くというヘルスプロモーションの理念に基づく各

種事業を推進している。「学校すこやかプラン」は、平成22年度も、保健学習担当者研修会・専門医等派遣事業・心の健康教育セミナーの3つの柱で展開した。保健学習担当者研修会では、県内3か所で、各小学校、中学校及び特別支援学校の担当者が保健学習の進め方等について研修を深めた。専門医等派遣事業は、希望する学校に専門家を派遣し、教員への助言や児童生徒に対し講演会を実施した。心の健康教育セミナーでは、心の健康づくりの中心となる養護教諭の資質向上を目指し、健康相談活動の充実を図った。

また、顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良学校表彰」を行った。ここでは、自校の健康教育にかかわる課題を的確に捉え、地域と連携し、組織的・計画的に課題解決に向けた取組みを行うとともに、児童・生徒の主体的な活動が行われた学校を表彰した。

3 食育の推進

学校における食育の方向を示す「ふくしまっすこ食育指針」に基づき、食べる力、感謝の心、郷土愛を育み、望ましい食習慣を形成することを目指し、給食の時間や特別活動、各教科等教育活動全体で食に関する指導の充実を図るとともに、「朝食摂取率100%週間運動」、「農業高校と連携した豊かな食育体験」等、栄養教諭を中核とした食に関する諸体験活動を通し、学校・家庭・地域の協働による食育の推進を図った。

4 学校給食の充実

本年度の学校給食の実施状況を児童生徒数で見ると、食物アレルギー等で給食を受けない児童生徒を除き、完全給食は小学校99.9%、中学校97.0%、ミルク給食は小学校0.1%、中学校3.0%の実施率となっている。

米飯給食の週当たりの実施回数は学校1校あたり小学校3.30回、中学校3.36回、小・中学校平均で3.32回の実施となっている。学校給食費は、一食当たり小学校262円64銭、中学校308円31銭となっている。

次に、学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新採用・経験者(10年研)を実施するとともに、財団法人福島県学校給食会が、学校給食法の改正等を受け、学校給食や食に関する指導の充実を図るため改訂した「学校給食の手引～食育の充実のために～」を監修した。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成21年4月1日に施行された「学校給食衛生管理基準」(文部科学省告示第64号)の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導・助言のため、各教育事務所の指導主事を中心として、単独校調理場44校、共同調理場18施設及び県立学校22施設について、学校給食施設訪問実施状況点検を実施した。

第2節 表彰

1 体育関係

(1) 福島県教育委員会表彰

ア 学校保健功労者

氏 名	役職名
車田 憲哉	(現) 塙町立塙小学校 学校医
遠藤 松夫	(現) いわき市立川前中学校 学校歯科医
小汲 喜郎	(元) 県立喜多方商業高等学校 学校歯科医

イ 保健体育功績顕著団体

学校名	校長名
湯川村立勝常小学校	渡部 隆一

ウ 特別功績者(児童・生徒・団体) の部

団体名	校長名
富岡町立富岡第一中学校	相良 昌彦

(2) 財団法人日本学校体育研究連合会表彰

ア 最優秀校 該当なし

イ 優良校

学校名	校長名
福島市立吉井田小学校	渡邊 和夫

ウ 功労者

職 名	氏 名	学校・所属名
校長	立石ひとみ	郡山市立三町目小学校
〃	菅野 正行	福島県立田村高等学校
主幹	吉田 務	福島市教育委員会学校教育課

(3) 福島県学校体育研究連合会表彰

ア 優良校

学校名	校長名
福島市立鎌田小学校	菅野 晴雄

イ 功労者

職 名	氏 名	学校名
校長	常法寺萬人	会津若松市立川南小学校
〃	山野辺政次	いわき市立小川小学校
〃	小柴 久市	(前) 会津若松市立一箕中学校
〃	松本 良三	(前) 檜葉町立檜葉中学校
〃	嶋原 由光	郡山市立二瀬中学校
〃	菅野 正行	福島県立田村高等学校
教諭	大内 悟	福島県立福島明成高等学校
〃	桐生 良勝	福島県立いわき光洋高等学校

2 学校保健・学校安全関係

(1) 文部科学大臣表彰

ア 学校保健

区 分	氏 名	勤務校
学校医	関谷 光彦	いわき市立内郷第二中学校
学校薬剤師	野崎 英典	福島県立福島商業高等学校

イ 学校安全ボランティア奨励賞

区分	氏 名	団体名
学校安全	齋藤 勇夫	絹の里見守り隊

(2) 平成22年度歯科衛生図画・ポスター・書写・標語コンクール表彰

<最優秀入賞者>

ア 図画の部

学 年	学 校 名	氏 名
小学校1年	須賀川市立長沼東小学校	小林 叫実
小学校2年	須賀川市立長沼東小学校	遠藤 澄音
小学校3年	南相馬市立原町第三小学校	福山 雄紀
小学部2年	県立須賀川養護学校郡山分校	塚野 栞菜

イ ポスターの部

学 年	学 校 名	氏 名
小学校4年	白河市立白河第二小学校	橋爪 紀人
小学校5年	いわき市立江名小学校	太 雪乃
小学校6年	白河市立みさか小学校	小峰 光由
中学校1年	矢吹町立矢吹中学校	影山 沙絵
中学校2年	矢吹町立矢吹中学校	渡辺 花音
中学校3年	福島市立福島第一中学校	谷津ともえ
小学部6年	県立会津養護学校竹田分校	長谷川 岳

ウ 書写の部

学 年	学 校 名	氏 名
小学校1年	白河市立白河第二小学校	目黒 恭涼
小学校2年	白河市立白河第二小学校	齋藤 海杏
小学校3年	南会津町立館岩小学校	大山 成美
小学校4年	会津若松市立川南小学校	高嶋 優希
小学校5年	白河市立白河第二小学校	有賀 大希
小学校6年	喜多方市立第二小学校	大竹 由子
中学校全学年	南会津町立館岩中学校	大山 美花
中学部2年	県立会津養護学校竹田分校	伊藤ひかる

エ 標語の部

学 年	学 校 名	氏 名
小学校1年	須賀川市立第一小学校	小山 咲姫
中学部3年	県立会津養護学校竹田分校	鴻巣 珠聡

(3) 福島県学校歯科保健優良校表彰

ア 特別表彰 なし
 イ 栄誉賞 なし
 ウ 最優秀賞 7校

No.	域内	学 校 名
1	県南	西郷村立米小学校
2		西郷村立羽太小学校
3	会津	喜多方市立第一小学校
4		喜多方市立姥堂小学校
5		三島町立三島小学校
6	相双	浪江町立請戸小学校
7	特支	福島県立盲学校（小学部）

エ 優秀賞 18校

◎小学校（11学級以下） 10校

1	県北	福島市立水保小学校
2		二本松市立小浜小学校
3	県中	須賀川市立白方小学校
4		天栄村立大里小学校
5		平田村立蓬田小学校
6	県南	古殿町立論田小学校
7		棚倉町立社川小学校
8		南会津町立館岩小学校
9	南会津	南会津町立伊南小学校
10	相双	葛尾村立葛尾小学校

◎小学校（12学級以上） 3校

1	県北	福島市立清水小学校
2	県南	白河市立白河第二小学校
3		矢吹町立善郷小学校

◎中学校（11学級以下） 4校

1	県北	福島市立立子山中学校
2	県中	須賀川市立長沼中学校
3		玉川村立須釜中学校
4	南会津	南会津町立館岩中学校

◎特別支援学校（中学部） 1校

1	特支	福島県立盲学校
---	----	---------

オ 努力賞 46校

◎小学校（11学級以下） 27校

1	県北	川俣町立福田小学校
2		国見町立小坂小学校
3		国見町立森江野小学校
4		国見町立大木戸小学校
5	県中	石川町立沢田小学校
6		石川町立母畑小学校
7		石川町立中谷第一小学校
8		石川町立中谷第二小学校
9		玉川村立須釜小学校
10		平田村立永田小学校

No.	域内	学 校 名
11	県中	古殿町立大久田小学校
12		田村市立広瀬小学校
13		田村市立上大越小学校
14		田村市立芦沢小学校
15	県南	田村市立緑小学校
16		白河市立大屋小学校
17		西郷村立川谷小学校
18	会津	喜多方市立熊倉小学校
19		喜多方市立熱塩小学校
20		北塩原村立裏磐梯小学校
21		西会津町立新郷小学校
22	南会津	湯川村立勝常小学校
23		南会津町立南郷第二小学校
24	相双	双葉町立双葉南小学校
25		双葉町立双葉北小学校
26	いわき	いわき市立好間第四小学校
27		いわき市立渡辺小学校

◎小学校（12学級以上） 7校

1	県北	福島市立御山小学校
2		伊達市立掛田小学校
3		桑折町立醸芳小学校
4	県中	須賀川市立柏城小学校
5		石川町立石川小学校
6	相双	浪江町立浪江小学校
7	いわき	いわき市立郷ヶ丘小学校

◎中学校（11学級以下） 6校

1	県北	伊達市立松陽中学校
2	県南	白河市立東中学校
3		白河市立東北中学校
4		鮫川村立鮫川中学校
5	会津	三島町立三島中学校
6	相双	葛尾村立葛尾中学校

◎中学校（12学級以上） 3校

1	県中	石川町立石川中学校
2	県南	西郷村立西郷第一中学校
3	いわき	いわき市立中央台南中学校

◎特別支援学校（小学部） 1校

1	特支	福島県立郡山養護学校
---	----	------------

◎特別支援学校（中学部） 2校

1	特支	福島県立郡山養護学校
2		福島県立石川養護学校

カ 活動奨励賞 2校

◎活動奨励賞 2校

1	会津	喜多方市立熊倉小学校
2	県中	石川町立石川中学校

(4) 福島県学校保健会表彰

ア 学校保健優良学校（5校）			
No.	学 校 名	校 長 名	
1	川俣町立福田小学校	菅野 藤雄	
2	郡山市立芳賀小学校	皆川 晃	
3	いわき市立郷ヶ丘小学校	古川 啓一	
4	郡山市立郡山第六中学校	伊東 豊	
5	浪江町立津島中学校	糺田 祐子	
イ 学校保健功労者（25名）			
No.	職 名	氏 名	勤 務 校
1	学校医	池田 良彦	郡山市立安積第二小学校
2	〃	手代木康一	喜多方市立第一小学校 他
3	〃	平田 慶肇	南相馬市立原町第二小学校
4	〃	奥山 孝	南相馬市立石神中学校
5	〃	児山 孝	いわき市立平第三小学校 他
6	〃	鈴木 侑信	いわき市立平第一中学校 他
7	学校歯科医	野木 啓充	古殿町立大久田小学校 他
8	〃	小汲三代太	会津若松市立東山小学校 他
9	〃	松崎 賢治	喜多方市立第三中学校 他
10	〃	中島 輝哉	会津坂下町立第一中学校
11	〃	羽生 賢次	南相馬市立原町第二小学校
12	〃	平井 清武	いわき市立平第五小学校 他
13	学校薬剤師	櫻井 英夫	川俣町立川俣小学校 他
14	〃	影山 勝三	郡山市立郡山第一中学校 他
15	〃	関 孝一	会津若松市立永和小学校 他
16	〃	清水 純子	喜多方市立第一中学校 他
17	〃	藤田 毅義	福島県立須賀川高等学校 他
18	校 長	根本 眞	福島市立岳陽中学校
19	〃	鈴木美代子	田村市立常葉小学校
20	保健主事	縫 洋子	郡山市立小泉小学校
21	〃	馬場 廣明	須賀川市立第一中学校
22	養護教諭	柳内 和子	郡山市立東芳小学校
23	〃	伊藤美津子	西郷村立米小学校
24	〃	斎須 博子	泉崎村立泉崎第一小学校
25	〃	渡部 知江	福島県立喜多方桐桜高等学校

ウ 学校保健感謝状（9名）			
No.	職 名	氏 名	勤 務 校
1	学校医	伊藤 照雄	(前)西会津町立野沢小学校 他
2	養護教諭	後藤つね子	(前)福島市立湯野小学校
3	〃	佐藤 悦子	(前)須賀川市立第三小学校
4	〃	力丸ヒロ子	(前)須賀川市立第二中学校
5	〃	高橋 孝子	(前)鏡石町立鏡石中学校
6	〃	庄野 直美	(前)檜葉町立檜葉南小学校
7	〃	大橋八重子	(前)福島県立保原高等学校
8	〃	馬場 晶子	(前)福島県立西会津高等学校
9	〃	酒井 麻里	(前)福島県立只見高等学校

3 学校給食関係

(1) 文部科学大臣表彰

ア 学校給食優良学校等		
学校・共同調理場名		校長・施設長名
天栄村学校給食センター		武田 國男
イ 学校給食功労者		
職 名	氏 名	所 属
栄養教諭	土屋 久美	本宮市立本宮第二中学校

(2) 財団法人福島県学校給食会会長・福島県学校給食研究会
会長表彰

ア 学校給食優良団体		
団体名		校長・施設長名
会津若松市立謹教小学校		佐藤 玄
鮫川村学校給食センター		芳賀伊津子
会津坂下町立学校給食センター		大竹 真至
いわき市立小名浜学校給食共同調理場		平野 幹雄
イ 学校給食功労者		
職 名	氏 名	所 属
作業長兼技能主査	八巻 啓二	福島市東部学校給食センター
主任栄養技師	岩部 光子	郡山市立富田小学校
栄養教諭	泉 政子	玉川村立玉川第一小学校
物資課長	三浦 初男	財団法人福島県学校給食会

4 食育関係

(1) 平成22年度食育推進実践校表彰表彰校

＜最優秀賞＞	三春町立沢石小学校
＜優秀賞＞	福島市立清水小学校
	田村市立芦沢小学校
	白河市立大信中学校
	浪江町立津島中学校
＜優良賞＞（幼稚園）	平田村立永田幼稚園
（小学校）	川俣町立飯坂小学校
	古殿町立大久田小学校
	矢吹町立中畑小学校
	矢祭町立関岡小学校
	会津坂下町立金上小学校
	只見町立只見小学校
	新地町立福田小学校
	いわき市立平第三小学校
（中学校）	二本松市立小浜中学校
	新地町立尚英中学校

(2) わたしが作る朝ごはんコンテスト入賞者

＜最優秀賞＞	
いわき市立郷ヶ丘小学校	箱崎 翔大
＜優秀賞＞	
福島市立清水小学校	菅野 拓海
平田村立小平小学校	関根 実紅
小野町立小野新町小学校	上遠野萌恵
白河市立みさか小学校	小峰 光由
いわき市立平第三小学校	荒川 瑞希
いわき市立好間第一小学校	金成 綾音
＜優良賞＞	
福島市立鎌田小学校	佐藤 知那
福島市立大森小学校	山科 海翔
郡山市立橋小学校	西村 和香
棚倉町立山岡小学校	須藤 和輝
会津若松市立河東学園小学校	相澤 朋英
下郷町立江川小学校	横山 瑞季
相馬市立中村第一小学校	佐藤美沙希
＜アイディア賞＞	
福島市立青木小学校	廣野 あみ
二本松市立東和小学校	木口 空哉
郡山市立橋小学校	佐川 里子
石川町立石川小学校	片野 里菜
鮫川村立鮫川小学校	青戸 励
猪苗代町立猪苗代小学校	大木 ゆら
下郷町立江川小学校	室井 夢香
南相馬市立小高小学校	木暮真之祐
いわき市立小名浜第一小学校	石塚 愛未
いわき市立鹿島小学校	門馬 桃子

第3節 学校体育

1 学校体育関係各種研修

(1) 東部地区子どもの体力向上指導者養成研修

ア 主催	独立行政法人教員研修センター
イ 共催	文部科学省
	神奈川県教育委員会
ウ 期日	平成22年5月25日～28日
エ 会場	神奈川県横浜市、川崎市
オ 参加都道府県	北海道、東北、関東の15都道府県
カ 参加者数	本県より13名

(2) 東部地区子どもの体力向上指導者養成研修福島県中央研修

ア 主催	福島県教育委員会
イ 期日	平成22年7月1日（木）
ウ 会場	あづま総合運動公園
エ 参加者数	66名

(3) 子どもの体力向上指導者養成研修各地区研修

ア 主催	福島県教育委員会
イ 期日	平成22年7月～8月
ウ 会場	各教育事務所ごとに会場を設営

エ 各教育事務所ごとの実施状況

平成22年度子どもの体力向上指導者養成研修地区別研修

地区	種目（学校種）	期 日	会 場	参加者		講師			
				小学校	中・高	教員	派遣	他	計
県北	(小) いろいろな動き、走・跳の動き、ボール動き、リズム動	7月30日 (金)	福島体育館	60		4			4
	(中) 運動計画、機械・器具、ボール操作、リズム動き、剣道、柔道、運動等の日				35	7			7
県中	(小) いろいろな動き、走・跳の動き、ボール動き、リズム動	7月14日 (水)	郡山総合体育館	47		4			4
	(中) 運動計画、機械・器具、ボール操作、リズム動き、剣道、柔道、運動等の日				47	7			7
県南	(小) いろいろな動き、走・跳の動き、ボール動き、リズム動	8月19日 (木)	白河市立表郷中学校	47		4			4
	(中) 運動計画、機械・器具、ボール操作、リズム動き、剣				24	7			7
会津・南会津	(小) いろいろな動き、走・跳の動き、ボール動き、リズム動	8月12日 (木)	あいづ総合体育館	84		4			4
	(中) 運動計画、機械・器具、ボール操作、リズム動き、剣				59	7			7
相双	(小) いろいろな動き、走・跳の動き、ボール動き、リズム動	8月18日 (水)	南相馬市スポーツセンター	35		4			4
	(中) 運動計画、機械・器具、ボール操作、リズム動き、剣道、柔道、運動等の日				27	7			7
いわき	(小) いろいろな動き、走・跳の動き、ボール動き、リズム動	8月18日 (水)	いわき市立総合体育館	51		4			4
	(中) 運動計画、機械・器具、ボール操作、リズム動き、剣道、柔道、運動等の日				42	7			7

(4) ダンス・表現指導者養成研修会

ア 主催 福島県教育委員会、福島県女子体育連盟、福島市教育委員会

イ 期日 平成22年8月2日（月）

ウ 会場 福島市国体記念体育館

エ 参加者

小学校	中学校	高等学校	一般	合 計
17	12	15	11	55

(5) 学校フォークダンス指導者養成研修会

ア 主催 福島県教育委員会、福島県女子体育連盟

イ 共催 玉川村教育委員会

ウ 期日 平成22年11月12日（金）

エ 会場 たまかわ文化体育館

オ 参加者

小学校	中学校	高等学校	一般	合 計
6	16	12	10	44

(6) 中学生の体力向上・武道指導研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 平成22年8月～10月

ウ 会場 各教育事務所ごとに会場を設定

エ 参加者 234名

2 福島県高等学校体育連盟

(1) 平成22年度福島県高等学校体育連盟役員

顧問(歴代会長)	折 笠 常 弘(15代) 早 川 俊 一(16代) 齋 藤 久(18代) 砂子田 敦 博(19代)	
	杉 原 陸 夫(20代) 高 城 俊 春(21代) 齋 藤 和 也(22代) 古 市 孝 雄(23代)	
	富 田 孝 志(24代) 星 本 文(25代) 新井田 大(26代)	
	吉 田 尚(県教育庁学校生活健康課長)	
参与(歴代理事長)	陸 勤(7代) 高 橋 充 雄(9代) 浅 尾 晃 左(11代) 菅 野 一 治(12代)	
	渡 辺 正 昭(13代) 赤 沼 健 一(14代)	
会 長	富 田 昭 夫 (福島高校長)	
副会長(地区会長)	渡 邊 州 (梁川高校長) 菅 野 正 行 (田村高校長) 新 田 銀 一 (葵高校長)	
	鈴 木 則 喜 (平工業高校長) 遠 藤 光 (相馬東高校長)	
理 事 長	渡 邊 正 仁 (福島)	
副 理 事 長	梶 本 哲 哉 (福島商業)	
常 任 理 事	鈴 木 義 祐 (学校生活健康課) 渡 辺 知 幸 (福島北) 高 橋 英 彰 (川俣)	
	長谷川 智 彦 (郡山萌世 (通信制))	
常任理事・理事	県 北	☆◎ 梶 本 哲 哉 (福島商業) ☆○ 石 田 智 宏 (福島西) ☆ 柳 沼 恵 子 (二本松工業) ☆ 山 下 訓 史 (梁川) ☆ 齋 藤 智 也 (聖光学院) △ 伊 藤 成 美 (安達東)
	県 南	☆◎ 齋 藤 靖 (安積黎明) ○ 佐 藤 譲 敬 (湖南) 植 田 久美子 (光南) 水 澤 耕 一 (須賀川桐陽) △ 目 黒 正 真 (光南)
	会 津	☆◎ 星 信 一 (会津学鳳) ○ 齋 藤 真 人 (葵) 宮 田 智 史 (会津工業) △ 五十嵐 和貴子 (喜多方東)
	いわき	☆◎ 菅 野 長 敏 (磐城桜が丘) ○ 阿 部 秀 幸 (平工業) 谷田部 俊 幸 (いわき総合) △ 鈴 木 美 奈 (磐城桜が丘)
	相 双	☆◎ 奥 村 修 平 (原町) ○ 服 部 芳 裕 (双葉翔陽) 大 堀 均 (富岡) △ 原 田 祥太郎 (原町)
監 事	山 家 勝 憲 (原町) 佐 藤 静 子 (福島西高校長)	
会 長 指 名 理 事	鈴 木 義 祐 (学校生活健康課)	
幹 事	須 田 雅 人 (福島) 岩 倉 徹 (福島商業) 中 村 俊 之 (福島工業)	
(財)福体協理事	富 田 昭 夫 (福島高校長)	
同 評 議 員	渡 邊 正 仁 (福島) 齋 藤 靖 (安積黎明) 星 信 一 (会津学鳳)	
	菅 野 長 敏 (磐城桜が丘) 奥 村 修 平 (原町)	
(財)全国高体連評議員	富 田 昭 夫 (福島高校長)	
東北高体連会長	富 田 昭 夫 (福島高校長)	
同 常 任 理 事	渡 邊 正 仁 (福島)	
同 理 事	梶 本 哲 哉 (福島商業)	

☆常任理事 ◎地区理事長 ○地区副理事長 △地区生徒理事

(2) 第56回福島県高等学校体育大会日程・会場

開催 地区	No.	種目名	日 程			会 場	参加 人数
			6/5(土)	6/6(日)	6/7(月)		
県 北	1	卓 球	○	○	□	福島体育館	611
	2	ハンドボール	○	○	□	あづま総合体育館 橘高校 福島商業高校	630
	3	水 泳 競 泳	6月25日(金)～27日(日)			郡山カルチャーパークプール	462
	4	弓 道	○	○	□	福島明成高校弓道場	485
	5	登 山	6月2日(水)～5日(土)			安達太良山	194
	6	フェンシング	○	□		福島商業高校	15
	7	カヌー競技	○			二本松市阿武隈漕艇場	21
	8	ライフル射撃	5月30日(日)			二本松市総合射撃場	16
県 南	9	陸 上 競 技	5月28日(金)～31日(月)			開成山陸上競技場	1,655
	10	テ ニ ス	○	○	□	郡山庭球場 牡丹台庭球場	353
	11	ソフトボール	○	○	□	男子 石川町民グラウンド 女子 東風の台運動公園	700
	12	水泳 飛 込	7月8日(木)			郡山カルチャーパークプール	3
	13	空 手 道	○	□		清陵情報高校	82
	14	自転車競技(トラック)	6月4日(金)～5日(土)			泉崎国際サイクルスタジアム	48
		自転車競技(ロード)		○		西郷村小田倉台上の周回コース	
	15	ウエイトリフティング	○	□		田村高校	38
	16	ホ ッ ケ ー	○			ルネサンス棚倉ホッケー場	未実施
	17	スケート フィギュア	12月10日(金) 11月28日(日)			磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場 磐梯熱海アイスアリーナ	10
会 津	18	アーチェリー	○			三春町貝山多目的広場	21
	19	バスケットボール	○	○	□	あいづ総合体育館 会津・会津学鳳・葵高校	928
	20	ソフトテニス	○	○	□	会津総合運動公園テニスコート	762
	21	相 撲	○	□		会津農林高校	22
	22	体操 新体操	○	□		鶴ヶ城体育館 男子 鶴ヶ城体育館 女子 河東総合体育館	107
	23	ボ ー ト	○	□		福島県営荻野漕艇場	104
	24	ボ ク シ ン グ	○	□		会津工業高校	18
	25	レ ス リ ン グ	○	□		田島高校	45
	26	ス キ ー	23年1月13日(木)～15日(土)			アルペン：だいくらスキー場 クロカン：七入公認距離コース	46
	27	な ぎ な た		○		会津学鳳高校	24
い わ き	28	駅 伝 競 走	10月22日(金)			猪苗代町駅伝コース	596
	29	バレーボール	○	○	□	磐城・磐城桜が丘・平商業・平工業・いわき光洋高校	1,246
	30	サ ッ カ ー	5月29日(土)～5月31日(月) 6月5日(土)			21世紀の森公園いわきグリーンフィールド・多目的広場 いわき明星大学 いわき陸上競技場 市内高校	500
	31	ラグビーフットボール	10月23日(土)・24日(日)・30日(土)・11月6日(土)			いわき市21世紀の森公園内グリーンフィールド・多目的運動場	267
	32	剣 道	○	○	□	いわき市総合体育館	588
相 双	33	ヨ ッ ト	5月29日(土)～30日(日)			いわきサンマリーナ	11
	34	サ ッ カ ー	5月29日(土)～5月30日(日)			富岡高校(女子)	500
	35	バドミントン	○	○	□	大熊総合スポーツセンター	560
	36	柔 道	○	○	□	南相馬市スポーツセンター	505
	37	馬 術	5月29日(土)～30日(日)			南相馬市馬事公苑	45
	38	軟 式 野 球	7月10日(土)～12日(日)			泉崎村さつき公園野球場	79
特殊専門部	定 時 制 通 信 制		6月12日(土)～13日(日)			郡山市総合体育館 郡山市庭球場 福島工業高校 ふるさとの森スポーツパーク軟式野球場 郡山萌世高校	536

3 福島県中学校体育連盟

(1) 平成22年度福島県中学校体育連盟役員

役職名	氏名	所属名	地区名
会 長	伊東 豊	郡 山 六 中	県 中
副 会 長	尾形 博	信 陵 中	県 北
	佐々木祐司	安 積 二 中	県 中
	下重 秀俊	白 河 二 中	県 南
	穂積 武夫	若 松 三 中	会 津
	村井 弘	小 名 浜 一 中	い わ き
	大原 正義	中 村 一 中	相 双
理 事 長	関場 俊宏	福 島 三 中	県 北
理 事	宗形 俊二	県教育庁学校生活健康課	
	小林 隆	安 達 中	県 北

役職名	氏名	所属名	地区名
理 事	佐藤弘四郎	西 田 中	県 中
	小出 義則	白 河 二 中	県 南
	荒川 洋樹	若 松 三 中	会 津
	山際 裕之	植 田 中	い わ き
	秋元 伸一	小 高 中	相 双
監 事	香内 一宏	西 信 中	県 北
	北林 正紀	東 中	県 南
	児島 正志	会 北 中	会 津
顧 問	高羽 博樹	前 会 長	
事務局長	福地 誠志	川 俣 中	県 北

(2) 第53回福島県中学校体育大会

競技種目		競 技 場	期 日	参加人数
陸 上 競 技		県営あづま陸上競技場	7月5日(月)～7月7日(水)	1,386
水泳競技	競泳	会津水泳場	7月22日(木)～7月24日(土)	5,269
	飛び込み	郡山カルチャーパークプール	7月8日(木)	
軟 式 野 球		あいづ球場	7月22日(木)～7月24日(土)	
		鶴沼球場	7月22日(木)・7月23日(金)	
		押切川公園球場	7月22日(木)	
		会津若松市営第二球場	7月22日(木)	
ソフトボール		ふるさとの森スポーツパークソフトボール場	7月23日(金)・7月24日(土)	
		ふるさとの森スポーツパーク野球場	7月23日(金)・7月24日(土)	
		ふるさとの森スポーツパークスポーツ広場	7月23日(金)・7月24日(土)	
バスケットボール		いわき明星大学体育館	7月23日(金)・7月24日(土)	
		いわき市立総合体育館	7月23日(金)	
バレーボール		福島市国体記念体育館	7月23日(金)・7月24日(土)	
		福島第二中学校体育館	7月23日(金)	
		信陵中学校体育館	7月23日(金)	
ソフトテニス		双葉総合運動公園テニスコート	7月23日(金)・7月24日(土)	
		富岡町営テニスコート	7月23日(金)・7月24日(土)	
		富岡ふれあいドーム	7月23日(金)・7月24日(土)	
卓 球		白河市中央体育館	7月23日(金)・7月24日(土)	
バドミントン		いわき南の森スポーツパーク南部アリーナ	7月23日(金)・7月24日(土)	
		勿来体育館	7月23日(金)・7月24日(土)	
サッカー		鏡石町営鳥見山陸上競技場	7月22日(木)～7月24日(土)	
		鏡石町営鳥見山多目的広場	7月22日(木)～7月24日(土)	
		福島空港公園緑のスポーツエリア	7月22日(木)・7月23日(金)	
ハンドボール		県営あづま総合体育館	7月22日(木)～7月24日(土)	
		福島体育館	7月22日(木)・7月23日(金)	
柔 道		あいづ総合体育館	7月23日(金)・7月24日(土)	
剣 道		南相馬市スポーツセンター	7月23日(金)・7月24日(土)	
相 撲		福島市営相撲場	7月22日(木)・7月23日(金)	
新 体 操		西部体育館	7月23日(金)・7月24日(土)	
体 操 競 技		郡山総合体育館	7月23日(金)・7月24日(土)	
駅 伝 競 走		南相馬市馬事公苑コース	10月5日(火)・10月6日(水)	711
ス ケ ー ト		磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	12月10日(金)	17
ス キ ー		猪苗代スキー場ミネロ	1月12日(水)～1月14日(金)	519
		猪苗代町クロスカントリースキーコース	1月12日(水)～1月14日(金)	

4 小学校運動競技奨励事業

(1) 対 象

小学校 4・5・6年

(2) 実施期間

22年6月～10月

(3) 奨励種目

ア 陸上競技会

- 100 m 走(4・5・6年)
- 走り幅跳び
- 走り高跳び
- ソフトボール投げ
- 4×100 m リレー
- 1,000 m 走(男)
- 800 m 走(女)

イ 水泳競技会

- 50 m 平泳ぎ
- 50 m バタフライ
- 50 m 背泳ぎ
- 50 m 自由形
- 100 m 自由形
- 4×50 m リレー

(4) 実施の状況

種 目 項 目	種 目	
	陸上競技会	水泳競技会
実 施 市 町 村	54市町村	29市町村
参 加 児 童 数	21,287人	9,948人

第4節 学校保健・学校安全

1 学校保健・学校安全研修会等

事 業 名	期 日	会 場	参加人数
新 規 採 用 養 護 教 諭 研 修	校内研修(15日間) 校外研修(14日間) ・地区別研修 A(6日間) ・地区別研修 B(2日間) 宿泊研修 前期5月31日(月) ～6月2日(水) 後期10月27日(水) ～29日(金)	学校の計画による 各教育事務所 の計画による 各市町村教育委 員会の計画による 磐梯青少年交 流の家 教育センター	23名
	養 護 教 諭 経 験 者 研 修 I	校内研修(3日間) 校外研修(3日間) 宿泊研修 8月2日(月) ～4日(水)	13名
養 護 教 諭 経 験 者 研 修 II	校内研修(4日以上) 校外研修(6日以上) 宿泊研修 9月14日(火) ～16日(木)	学校の計画による 各教育事務所・ 学校の計画による 教育センター	5名
保 健 学 習 担 当 者 研 修 会	7月8日(木) 7月14日(水) 7月15日(木)	県庁西庁舎 白河合同庁舎 郡山市労働福 祉会館	67名 107名 47名
心 の 健 康 教育セミナー	10月5日(火)	安積総合学習 センター	75名

2 児童・生徒の健康管理費補助

(1) 要保護児童生徒援助費補助金(医療費)

学校安全保健法第25条の規定に基づく補助金の交付状況は次のとおりである。

ア 県立学校

対象児童生徒数(人)		設置者が援助 した額(円)	補 助 金 確 定 額
区 分	特別支援学校		
要 保 護	2	165,870	52,000
計	2	165,870	52,000

イ 市町村立学校

対 象 児 童 生 徒 数 (人)				設 置 者 が 援助した額 (円)	補助金 確定額 (円)
区 分	小学校	中学校	特別支援学校		
要保護	101	22		3,397,632	1,215,000
計	101	22		3,397,632	1,215,000

3 教職員の健康管理

教職員の健康管理を適正に行うため、雇入時健康診断、教職員定期健康診断、教職員結核健康診断を実施した。

(1) 雇入時健康診断結果

教育庁及び県立学校等の新規採用教職員

ア 健康診断実施状況の内訳

受診者数	要注意者数		要精密検査者数	
	人数	割合	人数	割合
158	47	29.7%	45	28.5%

イ 精密検査の内訳

検査項目	聴力	血圧	貧血	血中脂質	肝機能	血糖	尿	心電図	胸部
受診者数	158	158	157	157	157	157	155	158	155
要精密検査者数	3	9	4	23	11	4	11	4	0
要精密検査率	1.9%	5.7%	2.5%	14.6%	7.0%	2.5%	7.1%	2.5%	0.0%

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(2) 教職員定期健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

ア 健康診断実施状況の内訳

区 分 年 齢 ・ 性 別		受 診 者 数	要 注 意 者 数		要 精 密 検 査 者 数	
		人 数	人 数	割 合 (%)	人 数	割 合 (%)
35歳以上	男 性	3,323	898	27.0%	1,923	57.9%
	女 性	1,786	675	37.8%	746	41.8%
	計	5,109	1,573	30.8%	2,669	52.2%
35歳未満	男 性	803	285	35.5%	270	33.6%
	女 性	895	242	27.0%	209	23.4%
	計	1,698	527	31.0%	479	28.2%
合 計	男 性	4,126	1,183	28.7%	2,193	53.2%
	女 性	2,681	917	34.2%	955	35.6%
	計	6,807	2,100	30.9%	3,148	46.2%

イ 要精密検査の内訳

検査項目	聴 力		血 圧		貧 血		血 中 脂 質		肝 機 能		腎 機 能	
年 齢	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受 診 者 数	1,690	5,082	1,693	5,098	1,693	5,105	1,693	5,105	1,693	5,105	1,693	5,047
要精密検査者数	23	284	64	696	64	243	253	1,199	122	590	41	206
要精密検査率	1.4%	5.6%	3.8%	13.7%	3.8%	4.8%	14.9%	23.5%	7.2%	11.6%	2.4%	4.1%
検査項目	血 糖		尿		心 電 図		胃 エ ク ス 線		大 腸 が ん		眼 底	
年 齢	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受 診 者 数	1,693	5,105	1,667	5,047	／	5,072	／	4,348	／	4,777	／	5,003
要精密検査者数	7	223	108	349		207		307		289		147
要精密検査率	0.4%	4.4%	6.5%	6.9%		4.1%		7.1%		6.0%		2.9%

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(3) 教職員結核健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

受診者数	要精密検査者数	要精密検査率
6,466人	65人	1.0%

4 福島県学校保健会

(1) 会 員

- ア 県内小・中学校及び高等学校の児童生徒
- イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

(2) 財 政

平成 22 年度予算額 5,289,396 円

(3) 事 業 概 要

- ア 学校保健講習会の開催(県内 21 支部単位)
- イ 第 35 回福島県養護教諭研究大会の開催
- ウ 学校保健優良学校・学校保健功労者表彰
- エ 各種研究大会、講習会等への派遣
- オ 刊行物の発行
学校保健会報 第 41 号

5 独立行政法人日本スポーツ振興センター

(1) 災害共済給付契約加入状況

県立学校の平成 22 年度の加入幼児児童生徒数は 53,860 人で、前年度に比べ 802 人減少した。
児童生徒は、一部の長期欠席者等を除き全員加入している。

(2) 災害共済給付状況

県立学校において、平成 22 年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、給付件数では 6,979 件(平成 21 年度 7,248 件)、給付金額では 88,753,757 円である。
給付件数では 269 件減少し、給付金額では 4,718,706 円減少した。
なお、災害共済給付状況の詳細は次表のとおりである。

(3) 平成22年度県立学校災害共済給付状況

区 分		医 療 費		障害見舞金		死亡見舞金		供 花 料		合 計	
		(発生件数) 給付件数	給 付 額	給付 件数	給 付 額	給付 件数	給 付 額	給付 件数	給 付 額	(発生件数) 給付件数	給 付 額
小 学 校		(15) 32	円 252,473	件 0	円 0	件 0	円 0	件 0	円 0	(15) 32	円 252,473
中 学 校		(47) 88	874,278	0	0	0	0	0	0	(47) 88	874,278
高 等 学 校	全日制	(3,048) 6,807	71,834,014	4	15,110,000	0	0	0	0	(3,048) 6,811	86,944,014
	定時制	(25) 48	682,992	0	0	0	0	0	0	(25) 48	682,992
	通信制	(0) 0	0	0	0	0	0	0	0	(0) 0	0
合 計		(3,135) 6,975	73,643,757	4	15,110,000	0	0	0	0	(3,135) 6,979	88,753,757

(4) 学校安全支援事業

- ア 刊行物の発刊
支所機関誌「杜のたより 学校安全 第 6 号」
- イ 各種研修会等への講師派遣

第5節 学校給食

1 学校給食実施状況

平成22年5月1日現在の学校給食の形態別実施状況は、次のとおりである。

(1) 学校数・児童生徒数

学校 種類別	教育事務 所別	学校数 (校)	児童生徒数 (人)	完 全 給 食				ミ ル ク 給 食			
				学校数 (校)	児童生徒数 (人)	実 施 率		学校数 (校)	児童生徒数 (人)	実 施 率	
						学校数 ベース (%)	児童生徒数 ベース (%)			学校数 ベース (%)	児童生徒数 ベース (%)
小学 校	県 北	112	27,569	112	27,569	100.0	100.0				
	県 中	136	32,560	136	32,560	100.0	100.0				
	県 南	46	9,110	46	9,110	100.0	100.0				
	会 津	69	14,375	68	14,303	98.6	99.5	1	72	1.4	0.5
	南 会 津	16	1,445	16	1,445	100.0	100.0				
	相 双	49	11,188	49	11,188	100.0	100.0				
	い わ き	77	19,865	77	19,865	100.0	100.0				
	県 計	505	116,112	504	116,040	99.8	99.9	1	72	0.2	0.1
中学 校	県 北	42	14,165	42	14,165	100.0	100.0				
	県 中	63	16,689	57	15,265	90.5	91.5	6	1,424	9.5	8.5
	県 南	18	4,749	18	4,749	100.0	100.0				
	会 津	36	7,614	35	7,586	97.2	99.6	1	28	2.8	0.4
	南 会 津	9	831	6	476	66.7	57.3	3	355	33.3	42.7
	相 双	24	5,826	24	5,826	100.0	100.0				
	い わ き	44	10,519	44	10,519	100.0	100.0				
	県 計	236	60,393	226	58,586	95.8	97.0	10	1,807	4.2	3.0

※ 県内の公立小・中学校においては、平成12年度以降、補食給食を実施していない。

※ 児童生徒数には、食物アレルギー等により、給食を受ける予定のない人数は含まない。

※ 上記集計には県立中学校は含まれていない。

(2) 米飯給食週当たりの実施回数（加重平均）

<学校1校あたり>

(単位：回)

区分	県 北	県 中	県 南	会 津	南 会 津	相 双	い わ き	計
小学校	3.20	3.39	3.50	3.46	3.63	3.24	3.00	3.30
中学校	3.39	3.33	3.50	3.61	4.25	3.29	3.00	3.36
計	3.25	3.38	3.50	3.51	3.80	3.26	3.00	3.32

<児童生徒一人あたり>

(単位：回)

区分	県 北	県 中	県 南	会 津	南 会 津	相 双	い わ き	計
小学校	3.17	3.38	3.42	3.40	3.51	3.21	3.00	3.26
中学校	3.35	3.32	3.48	3.65	4.04	3.23	3.00	3.32
計	3.23	3.36	3.44	3.49	3.65	3.22	3.00	3.28

※ 上記集計には、いずれも県立中学校を含む。

2 学校給食に関する研修会

名 称	開催月日	会 場	参加人数
学校給食担当者会議	6 月 10 日	農業総合センター	74 名
新規採用学校 栄養職員研修	校内研修1～2学期 各 15 日	所属校・ 勤務共同調理場	5 名
	校外研修1～2学期 グループ研修 A 4 日 グループ研修 B 3 日	教育事務所の計画による 市町村教育委員会の計画による	
	宿泊研修 A 3 日 5 月 31 日～ 6 月 2 日	磐梯青少年交流の家	
	宿泊研修 B 3 日 7 月 21 日～23 日	教育センター	
	校内研修 4 日以上	所属校・勤務共同調理場	
学校栄養職員 経験者研修Ⅱ	校外研修 8 日以上	各教育事務所・ 域内企業 等	9 名
	宿泊研修 3 日 7 月 28 日～30 日	教育センター	

3 学校給食用パン品質調査

学校給食用パン品質を良好にして、学校給食の食事内容の充実向上に役立たせるため実施した。

教 育 事 務 所	調 査 件 数
県 北	7 件
県 中	2 1 件
県 南	8 件
会 津	5 件
南 会 津	2 件
相 双	5 件
い わ き	1 0 件
合 計	5 8 件

4 学校給食費

	1 人当たり 平均月額(円)	1 食当たり 平均単価(円)	年間実施 予定回数	備 考
小学校 (低学年)	4,331	262.77	181.3	対象は完全給食実施校のみ。 平均月額は年間徴収予定額を11で除した額。 1食当たり平均単価は年間徴収予定額を年間実施予定回数で除した額。
小学校 (中学年)	4,344	262.82	181.8	
小学校 (高学年)	4,324	262.33	181.3	
中学校	4,882	308.31	174.2	

※ 中学校の集計には県立中学校を含む。

5 食育に関する研修会等

(1) 食育推進コーディネーター研修会

地 区	期 日	会 場
県中(郡山地区)	7 月 30 日 (金)	サンフレッシュ郡山
いわき	8 月 2 日 (月)	いわき合同庁舎
県 南	8 月 4 日 (水)	白河地域職業訓練センター
県中(岩瀬・石川・田村)	8 月 5 日 (木)	須賀川市産業会館
会 津	8 月 6 日 (金)	新鶴公民館
相 双	8 月 9 日 (月)	南相馬市文化センター
県北(福島地区)	8 月 10 日 (火)	自治会館
県北(安達・伊達)	8 月 11 日 (水)	自治会館
南会津	8 月 20 日 (金)	御蔵入交流館

(2) 栄養教諭研修会

- 日 時 平成22年 2 月 17 日 (木)
- 会 場 自治会館
- 対象者 栄養教諭28名

7 学校給食関係の国庫助成実績

平成 18 年 7 月 13 日付け 18 文科施第 186 号文部科学大臣裁定「安全・安心な学校づくり交付金要綱」に基づく交付金の状況は、次のとおりである。

平成 22 年度「安全・安心な学校づくり交付金」（学校給食施設）

設置者名	交 付 額	学校又は共同調理場名	事 業 名	児童生徒数	構 造	交付面積	実施面積㎡
白河市	千円 8,506	白河第二小学校 (Ⅰ期工事)	単独校調理場(新增築改築)	人 732	鉄筋コンクリート 造(R)	㎡ 72	㎡ 72
田村市	千円 90,985	田村市学校給食センター	共同調理場 (新增築改築)	人 3,423	鉄筋コンクリート 造(R)	㎡ 912	㎡ 3,480
南会津町	千円 45,920	田島地域中学校共同調理場	共同調理場 (新增築)	人 359	鉄骨造(S)	㎡ 278	㎡ 732
会津坂下町	千円 62,648	会津坂下町学校給食センター	共同調理場 (新增築改築)	人 1,600	鉄骨造(S)	㎡ 526	㎡ 1,290
檜葉町	千円 13,787	檜葉中学校	単独校調理場(新增築改築)	人 255	鉄筋コンクリート 造(R)	㎡ 134	㎡ 205
福島県	千円 7,134	大笹生養護学校 (Ⅱ期工事)	単独校調理場 (新增築)	人 150	鉄筋コンクリート 造(R)	㎡ 58	㎡ 245
計	千円 228,980	6 件					

第 6 節 体育施設

1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）

(1) 水泳プール（屋外）

設 置 者 名	施 設 名	水面積 (㎡)	交付金額 (千円)
伊達市	保原小学校 (Ⅰ期工事)	1 2 0	4, 0 4 0

(2) 中学校武道場

設 置 者 名	施 設 名	面積 (㎡)	交付金額 (千円)
西郷村	西郷第一中学校 (Ⅰ期工事)	8 4	7, 0 0 2

第 1 1 章 福 利 厚 生

[福利厚生事業]

第 1 節 概 要

教職員の福利厚生については、教職員の生活の安定と福祉の向上を目指し、県教育委員会、公立学校共済組合及び財団法人福島県教職員互助会の3者が緊密な連携を保ち、各事業を実施した。

また、教職員自らが生涯設計を確立し実現することを支援するため、「第3期福島県教職員生涯生活設計推進計画」に基づき、各種事業の推進を図った。

保健・厚生事業については、特定健康診査等を実施すると

ともに、教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや大腸がん検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成事業等を実施した。

また、教職員の生涯生活設計の推進のためのライフプラン講座、家庭における在宅介護術を身につけるための実技を中心とした在宅介護講座、心とからだの健康づくりのためのメンタルヘルスセミナーのほか、生活習慣病予防セミナーや女性のための健康セミナーなど各種講座を開催するとともに、教職員向けの健康相談事業として「こころとからだの健康相談」および「こころの休憩室」を実施した。

第 2 節 保健・厚生事業

1 保健事業

(1) 特定健康診査等（共済組合）

平成22年度中に、40～74歳となった公立学校共済組合員（任意継続組合員も含む）とその被扶養者を対象に、特定健康診査を実施した。特定健康診査の結果、生活習慣病のリスクが高い場合、その程度に応じて特定保健指導を実施した。

対象者数	受診者数	受診率	保健指導
A	B	B / A	対象者
17,600人	12,981人	73.8%	2,737人

(2) 人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

ア 教職員人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成21年4月1日現在、満35・38・40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、人間ドック（脳ドックを含む）を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	要治療
6,661人	5,558人	5,483人	83.4%	82.3%	98.7%	5.7%	34.4%	39.9%	20.0%

イ 配偶者人間ドック（共済組合・互助会）

平成21年4月1日現在、満40歳以上の被扶養配偶者を対象に、人間ドックを実施した。

申込者数	受診者数	受診率	検診結果			
A	B	B / A	異常なし	要注意	要精検	要治療
269人	243人	90.3%	6.2%	32.9%	41.1%	19.8%

ウ 定年退職予定者人間ドック（互助会）

平成22年4月1日現在、満59歳の教職員を対象に、人間ドックを実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	要治療
260人	214人	211人	82.3%	81.2%	98.6%	2.8%	20.9%	27.0%	49.3%

(3) 大腸がん検診（共済組合・互助会）

平成 22 年 4 月 1 日現在、満 35 歳以上の教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、大腸がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率	受診率		検診結果			
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	要治療
16,956 人	1,089 人	1,015 人	6.4 %	6.0 %	93.2 %	63.9 %	28.8 %	4.4 %	2.9 %

(4) 乳がん・子宮がん検診（県・公立大学法人・共済組合）

平成 22 年 4 月 1 日現在、満 20 歳以上の女性教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、乳がん・子宮がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率	受診率		検診結果	
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要精検
7,320 人	4,439 人	4,247 人	60.6 %	58.0 %	95.7 %	83.9 %	16.1 %

(5) 脳ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成 22 年 4 月 1 日現在、満 40・43・45・48・50・53・55・58 歳、61 歳以上の教職員を対象に、脳ドックを実施した。

※申込者数及び受診者数は教職員人間ドックの内数で、検診結果は人間ドック項目を除いた項目の構成比率である。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率	受診率		検診結果			
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	要治療
5,461 人	638 人	618 人	11.7 %	11.3 %	96.9 %	65.5 %	15.7 %	18.8 %	0.0 %

(6) 脳検診（共済組合・互助会）

平成 22 年 4 月 1 日現在、満 40・43・45・48・50・53・55・58 歳、61 歳以上の教職員を対象に、脳検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率	受診率		検診結果	
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要精検
5,461 人	2,285 人	2,171 人	41.8 %	39.8 %	95.0 %	85.0 %	15.0 %

(7) 肺がん検診（共済組合・互助会）

平成 22 年 4 月 1 日現在、満 40 歳以上の教職員を対象に、肺がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率	受診率		検診結果	
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要精検
13,350 人	2,069 人	2,013 人	15.5 %	15.1 %	97.3 %	76.9 %	23.1 %

2 厚生事業

(1) 厚生事業

ア ライフプラン講座（共済組合・互助会）

教職員一人ひとりが、生涯にわたり健やかで充実したゆとりある生活を送ることができるよう、退職後の生活を視野に入れた生涯生活設計づくりとその実現を支援するため、ライフプラン講座を開催した。

平成 22 年 8 月 4 日		
会 場	ビッグパレットふくしま	
プログラム	生涯生活充実コース ○家族・夫婦関係セミナー 「あなたのライフプラン」(財団法人地方公務員等ライフプラン協会 鎌田 重道氏) ○生涯経済プランセミナー 「教育費・住宅費についての講演」 ○生涯生活設計セミナー 「ライフプラン設計の演習」	退職準備コース ○家族・夫婦関係セミナー 「あなたのライフプラン」(財団法人地方公務員等ライフプラン協会 鎌田 重道氏) ○生涯経済プランセミナー 「退職後の経済プランについての講演」 ○生涯生活設計セミナー 「ライフプラン設計の演習」
	受講者数 110 名	170 名

イ 在宅介護講座（共済組合）

組合員を対象に、在宅介護に必要な知識や技術を身につけるための実技中心の 1 日介護講座を実施した。

日 程	平成 22 年 7 月 28 日	平成 22 年 8 月 3 日
会 場	福島県男女共生センター	
プログラム	(1) 講義「介護の心構え」 (2) 実技Ⅰ「自立のための移動介助」 (3) 実技Ⅱ「食事の介助とその工夫」 (4) 実技Ⅲ「排泄のお世話とその方法」 (5) 実技Ⅳ「清潔を保つための方法」 7 月 28 日 (福島県介護福祉士会 小山田米子 氏)	(1) 講義「介護の心構え」 (2) 実技Ⅰ「自立のための移動介助」 (3) 実技Ⅱ「食事の介助とその工夫」 (4) 実技Ⅲ「排泄のお世話とその方法」 (5) 実技Ⅳ「清潔を保つための方法」 8 月 3 日 (福島県介護福祉士会 寺岡孝文 氏)
	受講者数 19 人	20 人

日 程	平成 22 年 8 月 5 日	平成 22 年 8 月 10 日
会 場	福島県男女共生センター	
プログラム	(1) 講義「介護の心構え」 (2) 実技Ⅰ「自立のための移動介助」 (3) 実技Ⅱ「食事の介助とその工夫」 (4) 実技Ⅲ「排泄のお世話とその方法」 (5) 実技Ⅳ「清潔を保つための方法」 8 月 5 日 (福島県介護福祉士会 影山泰幸 氏)	(1) 講義「介護の心構え」 (2) 実技Ⅰ「自立のための移動介助」 (3) 実技Ⅱ「食事の介助とその工夫」 (4) 実技Ⅲ「排泄のお世話とその方法」 (5) 実技Ⅳ「清潔を保つための方法」 8 月 10 日 (福島県介護福祉士会 八巻健一 氏)
	受講者数 16 人	14 人

ウ 管理・監督者メンタルヘルス講習会（県）

管理・監督者に対し、メンタルヘルスクアに関する基礎知識や職場環境等の改善方法を習得させるため、講習会を実施した。

日 程	平成 22 年 4 月 20 日	平成 22 年 7 月 6 日
会 場	自治会館	自治会館
講 師	教職員相談員 清野 要 氏	国立大学法人福島大学 教授 五十嵐 敦 氏
受講者数	157 人	115 人

エ メンタルヘルスセミナー（共済組合）

組合員の心の健康を保持増進するため、メンタルヘルスに関する基礎知識を習得するための講座を開催した。

日 程	平成 22 年 7 月 26 日	平成 22 年 7 月 27 日	平成 22 年 8 月 12 日	平成 22 年 8 月 13 日
会 場	ビッグパレットふくしま	ビッグパレットふくしま	会津自然の家	J-Village
プログラム	○講話 「教職員のためのメンタルヘルス」 ～応援します！心の元気力アップ～ ○演習 「アロマセラピー」 ○実技 「ここからからだを元気にする！ソフトピラティス」 (株式会社カイトック) 講師：皆川芳弘 氏 (7 月 26 日) 講師：樋口恵子 氏 (7 月 27 日、8 月 12 日、13 日) 実技：杉島小百合 氏 (7 月 26 日、27 日、8 月 12 日) 実技：藤巻陽子 氏 (8 月 13 日)			
	受講者数 130 人	93 人	44 人	38 人

オ 女性のための健康セミナー（共済組合）

女性組合員を対象に、健康意識の向上を図るため、女性特有の病気についての知識や予防法等を習得する講演、実技を行うセミナーを開催した。

日 程	平成 22 年 8 月 2 日
会 場	ビッグパレットふくしま
プログラム	(1) 講演 「女性の健康増進のための最新情報について」 ((株)カイトック講師 樋口恵子 氏) (2) 演習 「アロマセラピー」 ((株)カイトック講師 樋口恵子 氏) (3) 実技 「ヨガストレッチ」 ((株)カイトック講師 杉島小百合 氏)
	受講者数 190 人

カ 生活習慣病予防セミナー（共済組合）

組合員を対象に、生活習慣病の認識と予防法等を習得するための講座を開催した。

日 程	平成 22 年 8 月 17 日 ～ 18 日	平成 22 年 8 月 19 日 ～ 20 日
会 場	飯坂保養所 パルセ飯坂	飯坂保養所 パルセ飯坂
プ ロ グ ラ ム	(1) 講話「生活習慣病予防のために」 北福島医療センター医師 佐藤喜三郎 (2) 講話「生活習慣病と食生活」 北福島医療センター栄養士 山際佐和子 (3) 運動体験 スタジオプログラム等 (日東紡績(株)ニッポースポーツ・ルネサ ンス福島 フィットネストレーナー 佐々木恵 氏)	
受講者数	4 4 人	4 1 人

キ 保育補助（共済組合）

平成 22 年度内に出産し又は出産を予定する女性組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品を出生児 1 人につき 1 セット交付した。

区 分	内 容	交付件数
A セット	短肌着 (60 サイズ) コンビ肌着 (60 サイズ) 肌着 (ボディミニ) (70 サイズ) 肌着 (ボディオール) (80 サイズ)	9 6 件
B セット	ベビー食器セット ミニタオル (2 枚)	2 1 2 件
C セット	ベビー綿毛布 ベビーバスタオル ベビー枕 スタイ (2 枚)	1 0 9 件
D セット	月刊「赤ちゃん和妈妈」 1 2 冊 お誕生号 1 冊 単行本 「赤ちゃんのつぶやき」 1 冊 「やさしい離乳食」 1 冊 冊子 「お医者さんにかかるまでに」 1 冊	2 8 件
計		4 4 5 件

ク 銀婚祝賀（共済組合）

平成 22 年度内に銀婚を迎えた組合員 4 7 4 名に対し、飯坂保養所ペア宿泊券を贈呈した。

ケ 教職員健康相談事業（共済組合）

（こころとからだの健康相談）

健康上の不具合や心身の悩みについて相談を受けられるよう、20 医療機関に相談業務を委託。

のべ利用件数 9 件

コ こころの休憩室（共済組合）

日常のストレスやこころの悩みを専門のカウンセラーに

相談できる機会を提供するため、カウンセリングルームに業務を委託。

のべ利用件数 1 4 8 件

サ 保養所等利用助成（共済組合）

組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用した場合、利用料金の一部を助成した。

○ あづま荘利用助成

区分	助成対象	助成内容	助成件数
宿 泊 利用助成	組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖母が宿泊したとき	1 人 1 泊 1 食 まで 2,000 円 1 人 1 泊 2 食 3,000 円 等	13,460 件
会 議 室 利用助成	組合員が開催する諸会議	会議室料金の 2 分の 1 の額	85 件
結 婚 式 利用助成	新郎・新婦が組合員のとき	1 組 200,000 円	0 件
	新郎・新婦の一方あるいは親が組合員のとき	1 組 100,000 円	0 件
会 食 利用助成	組合員が 5 名以上で、かつ 1 人 5,000 円以上の会食を行ったとき	1 人 1,000 円	40 件
法 要 利用助成	組合員及び直系親族が法要を行うとき	利用額の 30 % (上限 70,000 円)	5 件
年金受給者等利用助成	福島支部発行の「宿泊施設特別利用者証」の交付を受けた者が宿泊したとき	1 人 1,000 円	375 件

○ 他支部保養所等利用助成

県内 2、県外 14 の指定宿泊施設利用に対し、1 人 1 泊 1,500 円、計 1,603 件の助成を行った。

シ 指定旅館利用助成（互助会）

会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（25 施設）、県外（11 施設）の宿泊施設を指定し、会員が利用したとき、利用料金の一部を助成した。

区 分	助成件数	金 額
宿泊利用助成	19,172 件	48,884 千円
会食利用助成	40 件	40 千円
計	19,212 件	48,924 千円

ス 弔慰供花（共済組合）

在職中に死亡した組合員の霊前に供花を行い、哀悼の意を表した。

供花件数 8 件

セ リフレッシュ助成（互助会）

勤続 10 年及び 20 年の節目に心身のリフレッシュを図るための助成（旅行券又は宿泊施設利用券）を実施した。

実施件数 1、1 2 9 件

ソ 永年勤続リフレッシュ助成（互助会）

30 年勤続会員及び 20 年以上 30 年未満勤続し退職し

た会員に対し、助成品（旅行券、宿泊施設利用券、図書券又は文箱）を交付した。

30年勤続（永年勤続表彰）の会員 693名

20年以上30年未満勤続し退職した会員 16名

タ 災害対策見舞金（互助会）

災害救助法が適用された地域内で被災（地域外で同一の事由での被災を含む。）し、短期給付の災害見舞金の給付該当会員に見舞金を支給する。

該当者 0名

(2) 公益事業

ア ヘき地等教育事業助成（互助会）

県人事委員会指定の特地以上のヘき地学校及び特別支援学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これらの学校に図書を贈呈した。

対 象 校 136校

児童生徒数 8,199人

イ 教育塔合祀遺族助成（互助会）

教育塔に合祀された教職員等の遺族が教育祭（大阪市で開催）に出席した際の経費の一部を助成した。

参加者 5名

ウ 互助会文庫（互助会）

県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

一般・児童生徒用 2,058冊（累計 52,060冊）

第3節 貸付事業

1 共済組合

平成22年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付け（介護構造部分貸付けを含む。）をはじめ、一般、教育、医療、結婚、葬祭、高額医療貸付けの7種類の貸付けを行った。

(1) 貸付けの状況

種類別貸付けの状況は次のとおりである。

（単位：件、千円）

種類別	件数	金額	金額割合
一般貸付け	248	304,154	35.1
住宅貸付け	49	400,738	46.3
教育貸付け	80	145,909	16.8
医療貸付け	1	500	0.1
結婚貸付け	9	14,600	1.7
計	387	865,901	100.0

(2) 住宅貸付けの事由別内訳

（単位：件、千円）

事由	件数	金額	金額割合
新築	7	66,700	16.6
増改築・修理	22	174,900	43.7
住宅の購入	1	12,300	3.1
敷地の購入	4	28,600	7.1
住宅及び敷地購入	3	35,800	8.9
他共済への返済	12	82,438	20.6
計	49	400,738	100.0

第4節 宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として、飯坂保養所「あづま荘」を開設しているが、平成22年度の利用状況は、次のとおりである。

種 別		施 設
利 用 人 員	宿 泊	あづま荘
		17,555 人
	会 議	3,821 人
	宴 会	476 人
	婚 礼	0 人
	休 憩	73 人
利 用 率	計	21,925 人
	宿 泊	54.2 %
	宿 泊 外	3.3 %

※利用率

・ 宿泊＝
$$\frac{\text{利用人員（宿泊）}}{\text{宿泊延定員（宿泊定員×営業日数）}} \times 100$$

・ 宿泊外＝
$$\frac{\text{利用人員（会議・宴会・婚礼）}}{\text{宿泊外延定員（宿泊外定員×営業日数）}} \times 100$$

第5節 児童手当（特例給付、小学校修了前特例給付を含む）及び子ども手当

家庭における生活の安定と児童の健全な育成及び資質の向上に資することを目的とする「児童手当法」、次代の社会を担う子どもの健やかな育ちを支援することを目的とする「平成22年度における子ども手当の支給に関する法律」に基づき、児童手当及び子ども手当を支給した。

受給資格者の認定状況及び支給状況は次のとおりである。
(単位: 人、円)

	平成23年3月の 認 定 状 況		支給額	
	受給 資格者数	支給対象 児 童 数	児童手当	子ども 手 当
本庁・教育機関等	123	185	1,540	23,699
小学校	1,761	3,026	29,034	387,813
中学校	1,544	2,678	26,530	342,669
高等学校	1,366	2,391	24,260	303,636
特別支援学校	316	555	6,065	70,281
計	5,107	8,835	87,429	1,128,098

第6節 財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、平成22年度における契約状況は次のとおりである。

財産形成貯蓄契約状況

◎貯蓄種類別契約件数（平成23年3月31日現在）
(単位: 件)

	期日指定 定期預金	金 銭 ・ 貸付信託	公社債投 資信託	積立保険	計
一 般 貯 蓄	8,503	106	200	729	9,538
年 金 貯 蓄	2,094	72	83	368	2,617
住 宅 貯 蓄	798	24	36	90	948
計	11,395	202	319	1,187	13,103

契約者数 10,000 人

[福利給付事業]
第7節 概要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、財団法人福島県教職員互助会において、組合員（会員）に対する各種の給付事業を実施した。

一方、長期給付事業については、教職員等への退職手当、恩給及び共済年金の支給を行った。

また、共済年金の主な改正については、平成19年4月1日から（平成16年法改正）離婚時の合意による年金分割が適用され、平成20年4月1日以降の離婚においては、合意を要しない第3号被保険者期間（平成20年4月1日以降の期間）の年金分割制度が導入された。

なお、年金額については改正はなく、平成20年度に引き続き据え置きとなった。

また、平成21年度の恩給年額についても、平成20年度に引き続き据え置きとなった。

第 8 節 短期給付

1 共済組合

平成 22 年度末現在における組合員数は、現職組合員数 19,639 人（前年同期比 117 人減）、任意継続組合員 497 人（同 2 人増）の計 20,136 人（同 115 人減）である。

また、被扶養者数は、20,672 人（同 305 人減）、組合員 1 人当たりの被扶養者数は、1,027 人となっている。

平成 22 年度の共済組合短期給付の給付総額は、5,513,656 千円で、前年度対比 112,907 千円の増加となった。

総額に占める割合は、法定給付 96.3 %、附加給付 3.7 %となっており、給付の内訳は次のとおりである。

法 定 給 付				附 加 給 付			
種 別		件 数 （ 件 ）	給付額(千 円)	種 別		件 数 （ 件 ）	給付額 (千 円)
医 療 給 付	本 人 医 療 費	170,426	1,638,940	医 療 給 付 そ の 他 の 給 付	家 族 療 養 費	1,520	46,826
	家 族 医 療 費	168,446	1,657,280		出 産 費	324	16,200
	高 額 療 養 費	2,332	262,683		家 族 出 産 費	160	8,000
	薬 剤	143,699	799,646		埋 葬 料	14	350
	移 送 費	1	13		家 族 埋 葬 料	11	275
	小 計	484,904	4,358,562		傷 病 手 当 金	84	22,697
そ の 他 の 給 付	出 産 費	382	160,366		災 害 見 舞 金	7	2,602
	家 族 出 産 費	170	72,062		結 婚 手 当 金	276	22,080
	埋 葬 料	14	700		入 院 附 加 金	1025	6,580
	家 族 埋 葬 料	11	550				
	傷 病 手 当 金	320	90,055				
	出 産 手 当 金	12	3,855				
	休 業 手 当 金	0	0				
	育 児 休 業 手 当 金	3,382	613,932				
	介 護 休 業 手 当 金	58	5,665				
	弔 慰 金	0	0				
	家 族 弔 慰 金	0	0				
	災 害 見 舞 金	6	3,909				
	小 計	4,355	951,094				
① 法 定 給 付 計		489,259	5,309,656	② 附 加 給 付 計		3,421	125,610

③ 一 部 負 担 金 払 戻 金	2,548	78,390
短期給付合計 (① + ② + ③)	495,228	5,513,656

2 互助会

平成 22 年度末現在の互助会の会員数は、18,127 人（前年同期比 160 人減）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業の内訳については、次表のとおりである。

(1) 短期給付金

種 別	件数 (件)	給付額 (千円)
医療補助金 (被扶養者)	37,377	101,006
死亡弔慰金 (会員)	9	450
(被扶養者)	13	650
災害見舞金	5	3,610
出産見舞金 (会員)	274	13,700
(被扶養者)	143	4,290
計	37,821	123,706

(2) 厚生給付金

種 別	件数 (件)	給付額 (千円)
医療給付金	77,979	216,789
死亡給付金	495	27,260
出産給付金	147	4,500
結婚祝金	218	10,900
入学祝金	907	45,350
入院療養見舞金	1,925	22,722
障がい見舞金	87	4,350
在宅療養見舞金	0	0
育児休業給付金	2,278	65,795
介護休暇給付金	73	4,055
計	84,109	401,721

第9節 長期給付

平成22年度の教職員等に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

1 恩給

(1) 恩給の受給者数及び支給の状況

ア 支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

平成22年度末現在の受給者数は197人（前年度比27人減）、平成22年度における支給総額は306,183千円（同30,202千円減）となっており、受給者の高齢化に伴い、いずれも減少傾向にある。

学校種別	普通恩給		扶 助 料		退 隠 料		遺 族 扶 助 料		計	
	人 員	支 給 額	人 員	支 給 額	人 員	支 給 額	人 員	支 給 額	人 員	支 給 額
	人	千 円	人	千 円	人	千 円	人	千 円	人	千 円
小 学 校	35	74,164	101	141,738	3	4,948	1	280	140	221,130
中 学 校	5	10,720	40	63,112	3	3,518	0	0	48	77,350
特別支援学校	0	0	1	1,147	0	0	1	114	2	1,261
高 等 学 校	0	0	0	0	0	0	3	1,608	3	1,608
教育庁その他	0	0	3	3,889	0	0	1	945	4	4,834
計	40	84,884	145	209,886	6	8,466	6	2,947	197	306,183

イ 裁定及び失権

裁定を受けた者及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。

（単位：人）

恩給種別	裁 定	失 権	左のうち 完全失権
普通恩給	0	10	10
扶 助 料	1	17	16
退 隠 料	0	1	1
遺族扶助料	0	0	0
計	1	28	27

2 退職手当

(1) 退職手当の支給人員及び支給額

退職手当の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

学校種別	人員（人）	支給額（千円）
教育庁・その他	10	171,610
小 学 校	1,073	3,308,855
中 学 校	563	1,346,790
高 等 学 校	668	3,129,702
特別支援学校	309	318,303
計	2,623	8,275,260

(2) 恩給年額の概要

平成20年度における国家公務員給与の改定、消費者物価の動向その他諸事情を総合的に勘案の上、検討が進められた結果、恩給の有する国家補償的性格等にかんがみ、平成21年4月からの恩給年額及び寡婦加算等の加算額は据え置かれることとなった。

普通恩給等の最低保障額

普通恩給 1,132,700円

扶 助 料 792,000円

(2) 失業者の退職手当

退職手当のうち「失業者の退職手当」の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

学校種別	人員（人）	支給額（千円）
教育庁・その他	1	6
小 学 校	40	12,989
中 学 校	31	10,250
高 等 学 校	5	1,752
特別支援学校	9	2,835
計	86	27,832

3 共済年金

(1) 進達件数

退職共済年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

(単位 : 件)

進達区分	旧共済法による年金		新共済法による年金					計
	退職年金	障害年金	退職共済年金	退職共済年金 (特別)	退職共済年金 (繰上)	障害共済年金	遺族共済年金	
決定請求	0	0	9	308	0	15	5	337
改定請求	0	0	0	235	0	0	0	235

(2) 支給人員及び支給額

退職共済年金等の平成22年度末現在における支給人員は21,337人で、平成22年度における支給額は443億3,641万5千円、平均年齢は76.0歳である。

前年度に比較して人員で161人増加するも、支給額では4億7,912万2千円の減少となっている。

年金種別		受給者数(人)			平均年齢	平均支給額 (円)	支給額 (円)
		男	女	計			
新共済年金	退職共済年金	6,600	3,431	10,031	74.0	2,025,440	20,317,188,640
	退職共済年金(特別)	1,171	971	2,142	62.1	1,720,340	3,684,968,280
	退職共済年金(繰上)	0	0	0	—	0	0
	障害共済年金	132	111	243	57.7	1,220,172	296,501,796
	遺族共済年金	404	3,767	4,171	79.2	1,765,246	7,362,841,066
	小計	8,307	8,280	16,587	73.6		31,661,499,782
旧共済年金	退職年金	1,229	2,514	3,743	85.0	2,969,762	115,819,166
	減額退職年金	33	168	201	79.5	2,048,163	411,680,763
	通算退職年金	6	33	39	89.2	745,172	29,061,708
	障害年金	30	31	61	73.6	2,340,010	142,740,610
	遺族年金	28	675	703	82.7	1,386,669	974,828,307
	通算遺族年金	0	3	3	88.3	261,267	783,801
	小計	1,326	3,424	4,750	84.4		12,674,914,355
合計		9,633	11,704	21,337	76.0		44,336,414,137

(3) 年金額の改定

平成21年平均の全国消費者物価指数(生鮮食品を含む総合指数)の対前年比変動率はマイナス1.4%、対前年度比名目手取り賃金変動率はマイナス2.6%であった。本来水準の額の算定については、物価変動率、名目手取り賃金変動率がともにマイナスで物価変動率を上回る場合には物価変動率で改定することとなるため1.4%引き下げることとなった。一方、特例水準の額については、物価が下落した場合、最近の減額改定が行われた年の前年の物価水準を下回った場合のみ改定を行うことになっている。平成21年の物価水準は、改定の基準となる直近の減額改定があった平成18年の前年(平成17年)の物価水準を以前0.3%上回っていることから平成21年度と同じ額に据え置かれた。(平成16年改正法附則第4条、第7条)

また、「国民年金法による改定率の改定等に関する政令(平成17年政令第92号。)」の改正により、平成22年度の国民年金法による改定率は「0.986」とされた。

第12章 福島県教育センター

第1節 概要

教育センターは、教育に関する専門的・技術的事項の調査と研究、教育関係職員の研修、情報教育、教育相談及び教育図書・資料の作成・収集・提供等、本県の学校教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

また、カリキュラムセンター業務として、学校や教職員及び市町村教育委員会をはじめとする教育機関等を対象に、学校経営を含む教育活動全般について、研究成果・資料・情報を提供するとともに、要請に応じて指導主事の派遣等の支援を行ってきた。

事業概要は、次のとおりである。

1 調査・研究事業

教育センターの使命、役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとしての期待に十分こたえられるようにするとともに、本県の教育推進上の課題や学校教育の在り方に対応するために、本県学校教育の諸課題の解決に役立つ先導的・実証的な調査・研究を進めてきた。

(1) 調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集し分析した。更に、その調査結果を教育センターでの研究に生かし、各学校や教育機関等へ提供した。

(2) 研究

「学校での様々な実践に生かす」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実証的な研究を行った。

研究の推進に当たっては、研究調査のためのチームを組織し、また、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究協力者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。

調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームがそれぞれ共同研究を行い、教員研修チームにおいて1名の指導主事が個人研究を行った。

これらの研究成果は、「教育センターWebページ」「研究紀要」「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、平成22年11月30日(火)に実施した「福島県教育研究発表会」においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

2 研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「平成22年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修講座を実施した。

従来、本庁各課及び各教育事務所が行っていた幼稚園教諭、学校栄養職員、養護教諭等の研修が、平成21年度から教育センターに移管され、基本研修（初任者・新規採用者研修、経験者研修Ⅰ、経験者研修Ⅱ、経験者研修Ⅲ）の一元化が図られた。

基本研修、職能研修（職能研修Ⅰ、職能研修Ⅱ）、専門研修（専門研修Ⅱ）について、平成22年度の実績は、次のとおりであった。

○講座数	57 講座
○講座開設数	124 回
○講座研修者数	4,144人(延べ人数)
○講座開設期間	平成22年4月5日～平成23年2月17日

前年度比

講座数	13 増
講座開設数	12 増
講座研修者数	42 減

3 情報教育事業

福島県内667の学校・教育関係機関を接続する「ふくしま教育総合ネットワーク(FKS)」において、安全・安心なサービス提供のためのネットワーク基盤の運用・整備や保守対応、テレビ会議システムの再構築を行った。また、青少年期における情報リテラシーを育むための「教育の情報化のインフラ」として、有害情報のフィルタリングやウイルス除去を行うとともに、FKSの利用方法の相談・問い合わせに対する対応・回答を行った。

情報教育研修では、「情報化に対応できる人材の育成」に向けて、専門研修の内容充実にも努めた。また、基本研修や職能研修等とおして、「情報セキュリティ」のスキル向上への取り組みや、「情報モラル教育」について情報の発信を行った。

「情報セキュリティ」に関しては、公立学校事務研究会の要請を受けて指導助言を行い、個人情報扱いの重要性や情報セキュリティ上の課題の認識とその対応への理解が得られた。また、校内研修等を利用し、職員の意識向上が図られるように働きかけた。

「情報モラル教育」については、各種研究会の要請を受けて研修会を実施し、携帯電話の利用等の現状把握と適切な情報を提供することで予防的指導が図られるように取り組んだ。これとともに、Web上で学校に提供している保護者啓発リーフレットや情報モラルパッケージ教材を、基本研修・専門研修等において、「役立つ情報モラル教育の指導資料」として広報に努め、児童生徒への指導の徹底及び保護者の協力体制を高めるように働きかけた。

4 教育相談事業

幼児及び児童生徒の教育上の諸問題について相談を受け、問題の改善・解決を目指した来所相談、電話相談を行った。

主訴別では、不登校や学校生活の相談が上位を占めているが、発達障がいに関する様々な情報が広がってきている現状から、専門的な診断を願う相談も増えており、委嘱の専門医や心理判定員の助言を得ながら相談を進めた。いずれの相談でも、本人や保護者への支援ばかりでなく、必要に応じて当該校と連絡を取るとともに、関係専門機関との連携も図りながら相談に当たった。

教職員の資質向上のための校内研修会や事例研究会の持ち方等について、担当教員や管理職からの相談も増えている。

5 教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・分類・整理に努め、データベース化して教育センターWeb (<http://www.center.fks.ed.jp/>)に掲載し、図書検索を可能にした。また、文献資料利用相談への対応並びに貸し出し等のサービスも行い、教職員の研修・研究活動を援助してきた。

教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第159号、160号及び「研究紀要」第40集を発行した。

第2節 調査・研究事業

1 調査・研究

(1) 調査研究チームによる研究

ア eラーニングの特性を生かした教員研修に関する研究
～テレビ会議システムを活用した研修支援を通して～

本研究は、平成19年度より、これまでの指導力向上支援体制における現状や課題を踏まえ、テレビ会議システムを活用しての「校内研修への支援」について検証し、県下への普及・啓発を図ることを目的として行ったものである。

研究最終年度となる平成22年度は、これまでの3年間の研究の成果をもとに、各学校及び教員の実態やニーズに応じてテレビ会議システムを活用した研修支援を積極的に行い、その効果的な在り方と有効性を検証し、県下への普及・啓発を図りたいと考えた。主な研究内容は、次のとおりである。

- ① テレビ会議システムの利用契約(複数ライセンスの取得)及び関係周辺機器の整備等、**本県の情報インフラに適した研修支援体制を整備する。**
- ② Webを通した「テレビ会議システム活用の手引(二訂版)」、「活用促進リーフレット」の配信や各種研修会や会議等における配付及び積極的な広報等、**県内の各学校及び教員に対する積極的な広報によってテレビ会議システムの活用を促す。**
- ③ 福島県中山間地域連携事業との連携、「言語活動の充実」に関する研究協力校における活用、カリキュラムセンター業務としての全県下を対象とした研修支援等、**各学校における実践を通じた事例の収集、研修支援モデルの修正・改善を行い、県下への普及・啓発を図る。**

その結果、次のような研究の成果と課題が確認された。
成果として、

- 複数の利用ライセンスの取得、周辺機器の整備・補充によって、より各学校の支援要請に応じやすくなるなど、テレビ会議システムを活用した研修支援体制の整備が推進された。また、実践を通して研修支援モデルの修正と改善が図られた。
- テレビ会議システムの活用を促す資料のWeb配信、各種研修会等における配付によって、研究協力校以外の学校からの接続依頼や問い合わせが寄せられるようになるなど普及が推進された。
- 電子黒板に映像を映して事後研究会を行うなど各学校のICT機器を活用したより効果的な研修支援モデルが構築されつつある。
- 今後の課題として、
- 教員の指導力の向上のためには、PDCAサイクルを生

かした事前研究会→授業実践→事後研究会という流れが効果的である。テレビ会議システムを有効に活用した事前研究会及び事後研究会の実践事例やその効果を紹介し、県内の各学校に普及していきたい。

- 事前研究会や授業研究会等の研修支援としての活用に比べ、学校間の「交流授業」における活用に抵抗を感じている教員が多い。今後、学校間はもとより、学校と博物館や美術館等の教育文化施設等を結んだ授業モデルを提案し、より効果的な活用の仕方・実践事例を示していきたい。
- これまで教育センターが行ってきた利用ライセンスや周辺機器の管理を各教育事務所の一部移管するなど、各学校がより活用しやすくなるためのシステムの再構築を図りたい。(※本研究の成果をもとに、平成23年度より、「FKS テレビ会議システム事業」が構築された。)
- イ 「言語活動の充実」を図る学習指導の在り方に関する研究～研究協力校における実践的な取組みを通して～

本研究の目的は、新学習指導要領において各教科等を貫く改善の視点となっている「言語活動の充実」に視点を当てた実践研究を行うことを通して、福島県の児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に寄与することである。本研究は2年間の継続研究であり、平成21年度は、「言語活動の充実」と学力の向上との関連性を明らかにしたり、「言語活動の充実」を図るための手立てを提案したりするなどの成果を上げ、同時に福島県教育委員会と共に『「言語活動の充実」実践事例集』を発行し、各教科ごとに1単位時間内における言語活動の実践事例を紹介することができた。

平成22年度は、研究協力校14校と連携し、「1単位時間内での言語活動の工夫」から「日々の授業の中での意識的な取組み」に視点を移して研究を進めることで、「言語活動の充実の日常化」を図る上で必要な授業の要素や手立て等を明らかにした。研究の概要及び内容は次のとおりである。

- ① 研究協力校における授業実践を通して、「言語活動の充実」を図る上で必要な授業の要素や視点、手立て等を明らかにし、具体化・一般化を図る。
- ② 「言語活動の充実」にかかわる意識・実態調査を研究協力校の教師・児童生徒に実施し、意識や実態等の変容をとらえることで、有効な手立てを見いだす。
その結果、次のような研究の成果と課題が確認された。
成果として、

- 「言語活動の充実」が図られた授業は、次の四大要素によって支えられていることが明らかになった。
 - ・ 言語活動が位置付けられた指導計画・単元計画
 - ・ 学びがよい魅力的な学習課題
 - ・ 教師によるコーディネート
 - ・ 親和的な学級集団
- 「言語活動の充実」は、日々の授業の充実、すなわち一人一人が思考し、判断し、表現する授業の積み重ねであることが確認できた。
- 研究協力校の授業実践をもとに、「言語活動の充実の日常化」を図る上で必要な授業要素(授業改善の視点)と、授業改善に向けての10のポイントを具体的に提案することができた。
 - ・ 知識・技能を活用する学習活動・時間の設定(単元構想の工夫・改善)
 - ・ ペアや少人数による話し合い

- ・ 話し合い、かかわり合いを促すツール
- ・ 「思考力・判断力・表現力」の評価規準の策定 等

今後の課題として、

- 本年度提案した「言語活動の充実の日常化」を図る上で必要な手立てや授業の要素（授業改善の視点）を、教育センターでの研修や広報誌・Web等への掲載を通して広く県内に普及していく。
- 授業を支える教育環境の形成として、言語環境の整備や学校図書館の有効活用等「学校生活全体における言語活動の充実」についても研究を深めていく必要がある。

(2) 研究・研修部内のチーム等における研究

ア 研修内容の改善・充実のための調査研究

～研修者のメンタルヘルスの現状把握と分析を通して～
(教育相談チーム)

本研究では、基本研修受講者を対象に、研修者の心身の調子やストレスの程度、性格・行動特性や充実感・やりがいにつながる事等について調査を行うとともに、それら相互の関連性について分析を行った。併せてその結果に基づき、研修内容の改善・充実を図るための視点や研修者のメンタルヘルスの維持・向上を図る上で当教育センターや各学校、各研修者が取り組むべき内容について提案した。

イ グループウェア活用による校務の情報化に関する研究
～NetCommonsの活用を通して～

(情報教育チーム)

教育の情報化を推進するために、本県では校務用のコンピューターの配備や校内ネットワークの整備が進んでいる。教育の情報化の1つの側面である校務の情報化の目的は、効率的な校務処理を行うことにより児童生徒と向き合う時間を確保し、教育活動の質を改善することにある。校内にグループウェアを導入することにより、各種文書の共有や掲示板機能等の利用を通じた情報の共有化によって校務の効率化が図られる。本研究は、各学校でのグループウェアの利用推進及び普及を目的として、次世代の情報共有基盤システム「NetCommons」の有用性について検証した。

ウ 教員研修チーム所属員の個人研究

体育の授業における教師の働きかけ
ー授業場面で用いられる教師の「ことば」とオノマトペー
(指導主事 山本 秀和)

体育科の授業場面において、教師は子どもに対して様々な働きかけを行っている。働きかけの中でも、教師からの言葉かけは、子どもに対する影響が非常に顕著である。本研究では、教師の言葉かけと子どもの形成的授業評価との相関を調査した。また、スポーツオノマトペ（体育の指導場面における擬音語・擬態語の総称）の使用頻度を分析することにより、体育の指導における「ことば」の重要性とこれからの指導の在り方について考察した。

(7) 幼稚園教諭

- a 園内における研修(10日)
- b 園外における研修(10日)
 - ・ 宿泊研修(郡山自然の家：3泊4日)
 - ・ 地区別研修①～③(各地区)

(4) 小学校・中学校教諭

- a 校内における研修(180時間以上)
- b 校外における研修(25日)
 - ・ 宿泊研修A(磐梯青少年交流の家：2泊3日)
 - ・ 宿泊研修B(教育センター：2泊3日)
 - ・ グループ研修A(各地区)
 - 一般研修、授業研修①②、へき地校研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修
 - ・ グループ研修B(各教育委員会が計画する)
 - 一般研修、企業等体験研修、研究発表集会等研修、社会奉仕体験活動研修、他校種園参観研修

(5) 高等学校教諭

- a 校内における研修(180時間以上)
- b 校外における研修(25日)
 - ・ 基本研修(教育センター：1泊2日)
 - ・ 一次研修(教育センター：2泊3日)
 - ・ 二次研修(教育センター：2泊3日)
 - ・ 教科別研修(教科ごとに初任者配置校を会場として実施)
 - ・ 地区別研修A(各地区)
 - 一般研修ⅠⅡ、企業等体験・社会奉仕等体験研修Ⅰ～Ⅳ、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
 - ・ 地区別研修B(各学校が計画する)
 - 特別支援学校研修、他校での授業参観等研修

(6) 公立学校実習助手(主管は、学校経営支援課。高等学校初任者研修と合同開催)

- a 校内における研修(2日程度)
- b 校外における研修(12日)
 - ・ 基本研修(教育センター：1泊2日)
 - ・ 地区別研修A(各地区)
 - 一般研修ⅠⅡ、企業等体験・社会奉仕等体験研修Ⅰ～Ⅳ、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修

(7) 小・中学校 養護教諭

- a 校内における研修(15日)
- b 校外における研修(14日)
 - ・ 宿泊研修[前期](共通研修)(磐梯青少年交流の家：2泊3日)
 - ・ 宿泊研修[後期](専門研修)(教育センター：2泊3日)
 - ・ グループ研修A(各地区)
 - 一般研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修、学校訪問研修①②
 - ・ グループ研修B(各教育委員会が計画する)
 - 一般研修、企業等体験研修

(8) 高等学校 養護教諭

- a 校内における研修(15日)
- b 校外における研修(14日)
 - ・ 宿泊研修[前期](共通研修)(磐梯青少年交流の家：2泊3日)

第3節 研修事業

1 研修講座の概要

(1) 基本研修

ア 新規採用者・初任者研修

教職員としての基礎・基本を習得する研修である。

- ・宿泊研修[後期](専門研修)(教育センター：2泊3日)
- ・地区別研修A(各地区)
 - 一般研修、カウンセリング研修、企業等体験・社会奉仕等体験研修
- ・地区別研修B(各学校が企画する)
 - 特別支援学校研修、学校訪問研修
- (キ) 特別支援学校 養護教諭
 - a 校内における研修(15日)
 - b 校外における研修(14日)
 - ・養護教育センター研修
 - 基本研修、カウンセリング研修、情報教育研修
 - ・宿泊研修[前期](共通研修)(磐梯青少年交流の家：2泊3日)
 - ・宿泊研修[後期](専門研修)(教育センター：2泊3日)
 - ・地区別研修
 - 企業等体験研修、特別支援学校参観研修
- (ク) 学校栄養職員
 - a 学校等内における研修(15日)
 - b 学校等外における研修(13日)
 - ・宿泊研修Ⅰ(共通研修・専門研修)(磐梯青少年交流の家：2泊3日)
 - ・宿泊研修Ⅱ(共通研修・専門研修)(教育センター：2泊3日)
 - ・グループ研修A(各地区)
 - 一般研修、特別支援学校研修、単独校実地研修、共同調理場実地研修
 - ・グループ研修B(各教育委員会が計画する)
 - 一般研修、他校園参観研修、企業等体験研修
- イ 経験者研修Ⅰ

在職期間が5年に達した教職員を対象とし、専門的知識と技能を高め、資質の向上を図る研修である。

- (ア) 小学校・中学校教諭
 - a 校内における研修(5日)
 - b 校外における研修(3日)
 - ・宿泊研修(教育センター：2泊3日)
- (イ) 高等学校教諭
 - a 校内における研修(5日)
 - b 校外における研修(3日)
 - ・宿泊研修(教育センター：2泊3日)
- (ウ) 養護教諭(小・中・高・特別支援学校)
 - a 校内における研修(3日)
 - b 校外における研修(3日)
 - ・宿泊研修(教育センター：2泊3日)
- (エ) 学校栄養職員
 - a 学校等内における研修(2日)
 - b 学校等外における研修(2日)
 - ・宿泊研修(教育センター：1泊2日)
- ウ 経験者研修Ⅱ

在職期間が10年に達した教職員を対象とし、幅広い識見に基づき、組織の中核として運営に資する人材の育成と職能の更なる向上を図る研修である。

- (ア) 幼稚園教諭
 - a 園内における研修(7日)
 - b 園外における研修(5日)
 - ・地区別研修(各地区)
- ・社会体験研修
- ・保育専門研修(教育センター：1泊2日)
- (イ) 小・中学校教諭
 - a 校内における研修(15日)
 - b 校外における研修(10日)
 - ・教科指導研修(教育センター：2泊3日)
 - ・共通研修(各地区)
 - ・生徒指導研修(各地区)
 - ・道徳、特別活動コース別選択研修(各地区)
- (ウ) 高等学校教諭
 - a 校内における研修(15日)
 - b 校外における研修(10日)
 - ・共通研修(教育センター：1日)
 - ・教科指導Ⅰ・生徒指導研修(教育センター：1泊2日)
 - ・教科指導研修Ⅱ(教育センター：1泊2日)
 - ・選択研修(地区別特別活動研修、専門研修 等)
- (エ) 養護教諭(小・中・高・特別支援学校)
 - a 校内における研修(4日)
 - b 校外における研修(6日)
 - ・宿泊研修(教育センター：2泊3日)
 - ・共通研修(各地区)
 - ・選択研修(地区別特別活動研修、専門研修 等)
- (オ) 学校栄養職員 ※隔年実施。平成21年度は実施せず。
 - a 校内における研修(4日)
 - b 校外における研修(8日)
 - ・宿泊研修(教育センター：2泊3日)
 - ・共通研修(各地区)
 - ・実地研修(各地区)
 - ・社会体験研修Ⅰ(各地区)
- エ 経験者研修Ⅲ

教務主任、学年主任等の中堅教員に対する学校管理運営上の諸問題の解決や、専門的な職能の向上を図る研修である。

- (ア) 市町村公立小・中・特別支援学校教諭

会場 教育センター(2泊3日)
- (イ) 県立高等学校教諭

会場 教育センター(2泊3日)
- (ウ) 養護教諭

※隔年実施。平成22年度は実施せず。
- (2) 職能研修**

新任の校長・教頭・教務主任等に対しての職能研修Ⅰ及び学校の教育活動が円滑に展開できるよう担当教員の職責・職能に応じた研修を実施する職能研修Ⅱを実施した。

- ア 職能研修Ⅰ
 - (ア) 市町村公立小・中・特別支援学校新任校長研修会
 - (イ) 県立学校新任校長研修会
 - (ウ) 市町村公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会
 - (エ) 県立学校新任教頭研修会
 - (オ) 新任教務主任研修会
- イ 職能研修Ⅱ
 - (ア) 複式学級担当教員研修会
 - (イ) 免許外教科担任教員研修会
- (3) 専門研修**

専門職としての識見や力量を高めることを目的とする専門研修Ⅱを実施した。

個に即応した指導力の向上を図るために、情報教育、学校教育相談（基礎、実践、予防・開発的教育相談）、道德教育実践（小・中）、各教科（小・中・高）、高等学校理科実習実技などの各講座を実施した。

2 研修講座

(1) 平成22年度研修講座数・受講者数

ア 基本研修					
	基本研修				計
	初任研	経験Ⅰ	経験Ⅱ	経験Ⅲ	
講座数	6	4	6	2	18
(延べ数)	46	6	21	2	75
延べ受講者数	1, 862	176	550	107	2, 695

イ 職能研修			
	職能研修		計
	職能研修Ⅰ	職能研修Ⅱ	
講座数	6	5	11
(延べ数)	13	6	19
延べ受講者数	265	655	920

ウ 専門研修			
	専門研修		計
	専門研修Ⅱ		
講座数	28		28
(延べ数)	30		30
延べ受講者数	529		529

エ 総計				
	研 修			計
	基本研修	職能研修	専門研修	
講座数	18	11	28	57
(延べ数)	75	19	30	124
延べ受講者数	2, 695	920	529	4, 144

(2) 平成22年度研修講座実施状況

ア 基本研修				
	講座名	班	期 日	受 講 者 数
初任者研修	幼稚園	郡山自然の家	8月16日 ～8月19日	32
	小学校	磐青センター	5月31日 ～6月2日	56
			8月10日 ～8月12日	56
	中学校	磐青センター	5月31日 ～6月2日	31
			7月28日 ～7月30日	31
	高等学校	(基本)	4月5日 ～4月6日	85
		(1次)	4月21日 ～4月23日	85
		(2次)	2月15日 ～2月17日	85
	養護教諭	磐青センター	5月31日 ～6月2日	23
			10月27日 ～10月29日	23

	講座名	班	期 日	受 講 者 数
初任者研修	栄養職員	磐青センター	5月31日 ～6月2日	4
			7月21日 ～7月23日	5
	地区別研修	幼・小・中高・養・栄(34講座)	各地区で実施	1346
経験者研修Ⅰ	小学校	1	6月14日 ～6月16日	62
	中学校	1	10月18日 ～10月20日	26
		2	10月20日 ～10月22日	29
	高等学校	1	10月18日 ～10月20日	27
		2	10月20日 ～10月22日	19
	養護教諭	センター	8月2日 ～8月4日	13
	栄養職員	隔年実施のため平成22年度は実施せず		
経験者研修Ⅱ	幼稚園	センター	6月10日 ～6月11日	13
	小学校	センター	10月6日 ～10月8日	40
	中学校	センター	9月1日 ～9月3日	35
	高等学校	共通 教科Ⅰ・生徒指導 教科Ⅱ(1班) 教科Ⅱ(2班)	4月13日	73
			7月14日 ～7月15日	68
			2月7日 ～2月8日	32
			2月9日 ～2月10日	36
	養護教諭	センター	9月14日 ～9月16日	5
	栄養職員	センター	7月28日 ～7月30日	9
	地区別研修	小・中・高・養・栄(12講座)	各地区で実施	239
経験者研修Ⅲ	小・中	センター	9月14日 ～9月16日	36
	県立学校	センター	10月27日 ～10月29日	71
	養護教諭	隔年実施のため平成22年度は実施せず		

イ 職能研修			
	講座名	期 日	受 講 者 数
職能研修Ⅰ	市町村公立小・中・特別支援学校 新任校長研修会	5月13日 ～5月14日	59
	市町村公立小・中・特別支援学校 新任教頭研修会	5月20日 ～5月21日	51
	県立学校新任校長研修会	5月10日 ～5月11日	18
	県立学校新任教頭研修会	5月17日 ～5月18日	28
	市町村公立小・中学校新任教務主任 研修会	各教育事務所の日程	89
	県立高等学校新任教務主任研修会	各教育事務所の日程	20

講 座 名		期 日	受 講 者 数
職 能 研 修 Ⅱ	複式学級担当教員研修会	5月27日 ～5月28日	47
	1 班	5月10日 ～5月11日	49
	2 班	5月17日 ～5月18日	49
職 能 研 修 Ⅱ	校長のためのマネジメント講座	6月1日 ～6月2日	78
	小・中学校におけるキャリア教育 実践講座	11月18日 ～11月19日	40
	小学校外国語活動中核教員研修	7月22日 ～8月11日	392

ウ 専門研修			
講 座 名		期 日	受 講 者 数
校 種 共 通 （ 小 ・ 中 ・ 高 ・ 特 支 ）	思考力・表現力を高める国語作問 力養成講座	8月19日 ～8月20日	14
	資料の活用能力を高める社会（地 歴・公民）科作問研究講座	8月19日 ～8月20日	10
	言語活動を生かした音楽鑑賞の授業 づくりと表現に生かす指揮法講座	11月18日 ～11月19日	11
	創造性をはぐくむ図画工作・美術 の鑑賞指導法講座	11月18日 ～11月19日	10
	英語における「書くこと」の指導 と評価実践講座	10月4日 ～10月5日	18
	思考力・判断力をはぐくむ球技指 導講座	6月23日 ～6月24日	15
	声の表現と音楽文化に重点を置いた 伝統音楽講座	9月13日 ～9月14日	13
	児童生徒理解に生かす学校教育 相談基礎講座	7月29日 ～7月30日	52
	前期	6月29日 ～6月30日	22
	事例研究を中心に 児童生徒理解を深める 学校教育相談実践講座	中期 10月5日 ～10月6日	22
	後期	2月21日 ～2月22日	21
	人間関係づくりに生かす予防・ 開発的教育相談講座	6月4日	58
	校務効率化のための表計算（関数） 講座	8月9日	42
	校務効率化のための表計算（統計 ・マクロ）講座	10月14日	31
	授業効果を高めるプレゼンテーション 作成講座	6月29日 ～6月30日	16
	情報セキュリティを強化する校内 ネットワークの管理と運用講座	9月14日 ～9月15日	15
	ICT活用能力を高めるマルチメディア 教材作成講座	11月18日 ～11月19日	18
	豊かな心をはぐくむ道德教育実践 講座	9月13日 ～9月14日	13
小 学 校	言語活動の充実を図る国語指導力 向上講座	6月24日	24
	学習や生活の基盤となる知識・ 技能の習得と活用を図る社会科 指導講座	6月23日 ～6月24日	8
	創造性をはぐくむ図画工作科 指導法講座	6月23日 ～6月24日	8
	「からだづくり運動」の趣旨を踏 まえた体育指導力向上講座	8月6日	26

講 座 名		期 日	受 講 者 数
中 学 校	単元構想に基づく思考力をはぐく む数学指導講座	11月4日 ～11月5日	9
	「材料と加工に関する技術」を磨 くものづくり技能アップ講座	8月11日 ～8月12日	6
	保育学習に関する指導力向上講座	11月4日 ～11月5日	5
高 等 学 校	教科指導力を高める数学問題作成 講座	8月19日 ～8月20日	9
	科学的探究の過程を授業に生かす 指導講座	10月4日 ～10月5日	13
	理科の実技・実習を通して探究力 を高める指導講座	6月10日 ～6月11日	5
	住生活の充実向上を図る実践指導 講座	11月18日 ～11月19日	4
	発想と技法を学ぶ書道実技講座	9月16日 ～9月17日	11

第4節 情報教育事業

公立小・中・高等学校・特別支援学校の情報教育に関する教員研修の概要は以下のとおりである。講座はすべて、授業に役立つ教材作成や校務処理の効率化をねらいとしたものである。

- (1) ネットワークを活用するための講座（小・中・高・特支）
 - 情報セキュリティを強化する校内ネットワークの管理と運用講座
- (2) デジタル教材を制作・活用する講座（小・中・高・特支）
 - ア 授業効果を高めるプレゼンテーション作成講座
 - イ ICT活用能力を高めるマルチメディア教材作成講座
- (3) 校務の効率化を目指す講座（小・中・高・特支）
 - ア 校務効率化のための表計算（関数）講座
 - イ 校務効率化のための表計算（統計・マクロ）講座

基本研修においては、国や県の情報教育の施策に基づき情報教育の意義や重要性を強調し、また、個人情報扱いや情報セキュリティについても、その重要性・緊急性について言及した。情報に関する専門講座においては、講座数が昨年度の4講座から5講座に増加した。また、テキストの刷新を図り、学校のニーズに対応するよう努めた。

パソコン研修室の利用においては、昨年度と同様、基本研修の各教科での利用や研修の一元化により各種講座でパソコンやプロジェクト等ICT機器の活用機会が増えているため、利用者数は多い。

更に、一般社団法人「福島県情報産業協会」と連携して、中学生を対象に「子どものためのロボット・ワークショップ」を土曜講座として、7月31日に18組の中学生とその保護者の参加により実施した。コンピュータを用いた簡単なロボットの制御を体験させることを通し、プログラミングの基礎をはじめ、コンピュータ活用に関する興味を向上させることができた。中学校技術の新学習

指導要領対応の参考になるよう中学校教員の見学も実施した。
また、同じ土曜講座として、表計算入門講座を6月12日に各地から14名の参加を得て実施した。

パソコン研修室利用状況					
利用区分		講座数	利用日数	実人数	延べ人数
教育センター研修		60	256	2,569	5,299
講座	専門研修	23	41	402	701
	基本研修	30	203	1,798	3,972
	職能研修	7	12	369	626
教育庁研修		4	15	213	635
学習指導課		4	15	213	635
学校生活健康課		0	0	0	0
その他		13	21	510	620
合計		77	292	3,292	6,554

第5節 教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による相談を受けている。
来所相談には3名のチーム員で、月、水、金曜日の午後に相談に当たった。電話相談は、2名の学校教育相談員とチーム員3名で対応した。
今年度の相談の概要は、以下のとおりである。

- 1 対象別
- 来所相談件数・人数、電話相談回数
- ※ 対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談では本人と直接相談するケースも多いが、電話相談では保護者や教員との相談がほとんどである。来所相談日数は86日、電話相談日数は244日であった。

対象		幼	小	中	高	一般	教員	計
来所相談	件数	0	21	16	43	1	1	82件
	人数	0	27	19	46	1	1	94人
電話相談	回数	5	126	190	93	9	16	439回

- 2 区分別
- 来所相談件数・人数、電話相談回数
- ※ 対象の区分で数値の高い「性格行動」には「不登校」の相談、「教育一般」には「いじめ」の相談が含まれる。

対象		知能学業	性格行動	身体神経	進路適性	教育一般	その他	計
来所相談	件数	6	60	7	1	6	2	82件
	人数	6	71	8	1	6	2	94人
電話相談	回数	5	125	7	26	203	73	439回

3 地区別来所相談件数

県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
29	24	9	15	0	5	0	0	82件

4 月別相談件数・回数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
来所相談	4	1	25	0	3	1	24	2	1	0	21	0	82件
電話相談	55	42	44	39	34	40	41	29	36	21	35	23	439回

第6節 教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や所報「窓」を刊行した。

1 教育図書・教育資料の収集

・教育図書購入冊数	69冊
・寄贈教育図書等（VTRを含む、教科書は除く）	23冊
・定期刊行図書購入冊数	29冊
・研究紀要寄贈冊数	443冊
・恵贈定期刊行物数	39冊

2 教育資料の刊行

・研究紀要	第40集
・所報ふくしま「窓」	第159号～第160号

付記

平成16年度より、教育センターにおいて、指導が不適切である教員等に対して長期特別研修を開始し、平成20年度から「指導が不適切である教員等の取扱いに関する要綱」に基づき、指導改善研修を実施している。平成22年度該当者なし。

第13章 福島県養護教育センター

第1節 概要

昭和61年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・研究、図書・資料の収集・提供広報・啓発等の事業を行ってきた。

本年度は、早期からの教育的支援、小・中学校の通常の学級並びに高等学校に在籍するLD、ADHD等の特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援、情報教育の浸透等に伴う理解推進等、それぞれのニーズに応じた事業の充実に努めてきた。

1 教育相談事業

障がい等の心配のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談機関として、本人、保護者（家族）、保育所・幼稚園、小・中・高・特別支援学校等関係者、教育委員会等からの依頼に応じ、疑問や悩みを一緒に話し合い、特別支援教育の専門的観点からの成長を促す相談を行った。相談者の心情に寄り添い、相談を通して、子どもへの支援・援助について共に見つけだすようにした。また、面接、行動観察、必要に応じて心理検査等を行い、関係機関との連携を図りながら専門的・総合的観点からの相談を進めた。

センター相談での相談受理件数は463件（昨年度比64%）、延べ件数は1,295件（昨年度比88%）であった。障がい種別による相談実件数では、情緒障がい（発達障がいを含む）に関する相談が最も多く約68%を占めている。知的障がいに関する相談は約22%であり、合わせると実件数の全体の90%を占める。相談者は、保護者、教員、保育士、介助員、学童保育指導員等である。

また、学校等の力量を高めることを目的とし、学校等に出向き、支援を必要としている子どもに対し、適切な支援と指導が行えるよう必要な支援や助言を行った。学校等のニーズに応じ、ケース検討会や校内研修会等の教育実践への支援を行った。さらに、地域における教育相談機能の質的向上を図るため、学校等と保健福祉、教育委員会、教育事務所、医療機関等との適切な連携を支援し、地域の支援体制の整備を進めた。

2 教職員研修事業

特別支援学校の基本研修（初任者研修、経験者研修Ⅰ・Ⅱ）は、「地域で共に学び、共に生きる教育」の理念の実現に向け、社会の変化を踏まえた基礎・基本的な事項の理解に重きを置いている。また小・中・高・特別支援学校の教員を対象とする職能研修は、その職責に応じた力量の向上を目指し、専門研修の各講座では、特別な配慮を要する幼児、児童、生徒の正しい理解や教育的対応、授業改善や充実、さらに、最新の知見を取り入れた各種講座を設けた。

基本研修の受講者総数は92名（初任者研修41名、経験Ⅰ24名、経験Ⅱ27名）、職能研修の受講者総数は445名（特別支援学級等新任担当教員研修会65名、小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会184名、高等学校特別支援コーディネーター研修会96名、特別支援学校コーディネーター研修会38名、特別

支援学校養護教諭研修会27名、通級指導教室担当教員研修会35名）、専門研修講座（13講座）の総受講者は485名であった。また、研修の機会を広く提供する公開講座（5講座）の聴講者総数は75名であった。

3 教育調査・研究事業

本県が当面している特別支援教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の調査・研究等を行った。

(1) 調査

【幼稚園等における調査報告】

県内の公私立の幼稚園、保育所、認定こども園、全673園を対象に、就学前における特別支援教育の現状と課題に関する調査を実施し、本県の幼稚園等における特別支援教育の現状と課題を明らかにした。

【特別支援学校における調査報告】

障がいの重度・重複化、多様化に応じた指導の充実を図るため、特別支援学校における「重度・重複障がい教育」と「自閉症教育」の現状と課題を明らかにすることを目的に調査を行った。

(2) 研究

【プロジェクト研究】

昨年度に引き続き、「一人一人のニーズに応じた一貫した指導・支援を目指して」というテーマで、二つの研究を行った。

一つ目は、「早期からのニーズに応じた子育てを目指して（第2年次）」を主題として、子どもの発達支援、保護者の相談支援、そして就学移行支援を効果的に進めていくための支援体制整備について考察した。

二つ目は、「一人一人の子どもの学びをもとにした指導の充実を目指して（第2年次）」を主題として、特別な支援を要する子どもも、どの子にもわかる授業づくりについて、前年度作成した「わかる授業のための授業改善モデル」を活用した実践について考察した。

4 教育図書・資料の収集・提供事業

本県特別支援教育の中心的施設としての機能の充実をめざして広く特別支援教育関係図書・資料の収集に努め、関係教職員等が活用できるよう、整備、充実を図った。

本年度は、特に、特別支援教育並びにLD・ADHD・高機能自閉症等の指導に関する図書の充実と教育資料の収集、Webページによる紹介、コンピュータによる簡易検索機能の利用を推進した。

なお、3月末日現在での特別支援教育関係図書の蔵書数は7,653冊、逐次刊行物10種、教育資料数3,670点である。

5 広報・啓発事業

特別支援教育に関する情報や資料及び当センターの事業内容の紹介を定期刊行の広報誌や各種発行物として、教職員や関係諸機関等に配付し、特別支援教育に対する啓蒙や理解の促進を図り、「研究紀要第25号」の発行を行った。また「教育ふ

くしま」・各教育事務所広報紙等への広報を行うとともに、マスメディアの活用を通して特別支援教育等について理解・認識を深めるよう広報活動を行った。

6 情報教育事業

研修講座を中心に、障がいのある児童生徒の学習を支援するソフトウェアの作成支援を行った。また、スイッチ教材等の支援機器の情報提供や作成支援等を行った。

養護教育センターのWebページの内容の充実を図るため、専門研修講座報告のページ充実を図った。

第2節 障がい児の教育相談事業

1 相談対象

相談は、障がいのあるまたはその心配のある乳幼児・児童・生徒及びその保護者や関係者を対象として実施し、相談の種類は次のとおりである。

- 視覚にかかわる相談 ○病弱虚弱にかかわる相談
- 聴覚にかかわる相談 ○言語にかかわる相談
- 知的発達にかかわる相談
- 肢体不自由にかかわる相談
- 重複した障がいにかかわる相談
- 情緒(LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群、自閉症、緘黙、不登校等)にかかわる相談

2 形態

(1) センター相談

電話での申し込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、相談者の来所による教育相談を行った。また、相談の内容によっては電話による相談も行った。

(2) 要請を受けての相談

困難な事例や特に必要な場合には学校等に出向き、現地においての相談を行った。また小・中学校・高等学校から支援要請を受け、事例研究を通しての相談を行った。

3 現状と課題

学習障がい(LD)、注意欠陥／多動性障がい(ADHD)、高機能自閉症等と診断された子どもや、その心配のある「情緒にかかわる相談」が多い。それらの多くは小・中学校の通常の学級や高等学校に在籍している子どもの相談であり、学校等(担任)に具体的な支援策を提供することができるように相談の充実を図った。今後は、学校等の要請に応じた相談の質の充実が求められる。

また、発達障がいについては、一貫した対応と継続した支援が求められ、進路として義務教育を終え高等学校へ進学する機会が多いことから、幼稚園等から高等学校までの相談支援体制の整備が求められている。

<年齢・学校別相談件数>

年齢・学校		乳幼児(歳)		小学校(年)						中学校(年)			高等学校(年)			一般	計
		0~4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	他	
センター 相 談	実件数	38	47	31	52	26	42	34	56	52	22	23	12	13	10	5	463
	延件数	81	96	68	140	96	96	98	128	141	63	118	31	21	42	76	1,295

<障がい種別相談件数>

障がい		視 覚 障がい	聴 覚 障がい	知 的 障がい	肢 体 不自由	病 弱 虚 弱	言 語 障がい	情 緒 障がい	重 複 障がい	その他	計
センター 相 談	実件数	2	23	102	8	2	10	316	0	0	463
	延件数	5	63	244	15	3	16	949	0	0	1,295

<地区>	県 北	県 中	県 南	会 津	南会津	相 双	いわき	その他	計
センター相談	343	617	118	111	7	24	73	2	1,295

第3節 教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上をめざし、講座内容の一層の充実を図った。

- (1) 専門研修講座を13講座を設け、そのうち5講座を公開講座とし、受講者のニーズに応えるようにした。
- (2) 講座は講義を中心としながらも、演習や実技、協議等に重点を置いて構成し、研修内容・方法に工夫を加えた。研修を通して、受講者が自らの課題に気づき、その解決に主

体的に取り組もうとする意欲を高め、具体的に取り組める具体的な方策についても研修内容に取り入れるようにした。

- (3) 特別支援教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的な実践をしている教員などを招へいして、新たな知見を広げたり具体的な実践に触れたりする機会の充実を図った。
- (4) 調査研究や教育相談等の成果を基にして、特別支援教育に関する専門的知識・技能の習得とともに、真摯に実践に取り組む資質の向上に努めた。

1 教職員の研修講座

(1) 専門研修

講 座 名	区 分	期 間	受講者数(人)
すすめよう！発達障がい理解と支援策づくり(県北)		7月27日	
すすめよう！発達障がい理解と支援策づくり(県中)		7月28日	
すすめよう！発達障がい理解と支援策づくり(県南)		7月29日	
すすめよう！発達障がい理解と支援策づくり(会津・嶺南)		8月2日	
すすめよう！発達障がい理解と支援策づくり(相双)		8月4日	
すすめよう！発達障がい理解と支援策づくり(いわき)		8月3日	
6地区合計			210
充実させよう！特別支援学校のセンター的機能	公開講座	6月25日	38
取り組もう！一人一人を大事にした授業づくり ー教育的アセスメントを通してー	公開講座	6月29日～30日 1月26日	6
障がい幼児教育講座 ー取り組もう早期からの支援ー		7月22日	44
めざせ！教材教具の達人 ー教材教具作製実技ー		8月18日～19日	38
深めよう！担任としての教育相談		9月2日～3日	19
取り組もう！ 自立活動の指導を充実させるためのケース検討 ー視・聴・肢・病コースー ー知的障がいコースー		9月8日～9日 9月16日～17日	16 12
スキルアップ！コーディネーター ー支援が必要な児童生徒及び保護者との相談ー		9月29日～30日	21
考えよう！自閉症の特性に応じた支援 ー自立活動の視点からー	公開講座	10月7日～8日	18
高め合おう！授業力ー知的障がい教育における教科指導 (国語コース／算数・数学コース)ー		10月14日～15日	18
高め合おう！授業力 ー領域・教科を合わせた指導ー	公開講座	10月20日～21日	15
指導に生かそう！WISC-Ⅲ		10月27日～28日	17
受け止めよう！子どものおもい ー重度・重複障がい児の指導や支援ー	公開講座	11月4日～5日	13
計			485 (公開講座75)

(2) 基本研修

講座名	区分	期間	受講者数(人)
特別支援学校初任者研修 基本研修		4月13日～14日	41
特別支援学校初任者研修 カウンセリング研修		5月12日～13日	41
特別支援学校初任者研修 宿泊研修(一次研修)		8月4日～6日	41
特別支援学校初任者研修 情報教育研修	1班	6月16日	21
	2班	6月23日	20
特別支援学校初任者研修 宿泊研修(二次研修)		2月23日～25日	39
特別支援学校経験者研修Ⅰ「基本研修」		5月18日～20日	24
特別支援学校経験者研修Ⅱ「基本研修」		6月8日～10日	24
特別支援学校経験者研修Ⅱ「教科(領域)指導研修」		11月25日～26日	27

職能研修

研修名	期間	受講者数(人)
特別支援学級等新任担当教員研修会	共通：4月27日～28日 地区別：11月	65
小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会	6地区(5月25日～6月3日)	184
高等学校特別支援コーディネーター研修会	6地区(6月15日～7月2日)	96
特別支援学校コーディネーター研修会	8月31日	38
特別支援学校養護教諭研修会	8月9日	27
通級指導教室担当教員研修会	7月21日 12月21日	35

第4節 教育調査・研究事業

1 調査研究

(1) 幼稚園等における特別支援教育の現状と課題に関する調査

県内の公私立の保育所・幼稚園に所属する、園長、特別支援教育コーディネーター、5歳児の担任、支援員にそれぞれ回答してもらった。結果と考察は、以下の通りである。

ア 幼稚園等の現状

回答のあった幼稚園等に在籍する5歳児のうち、障がいのあるなしにかかわらず特別な支援が必要な幼児が4.8%在籍していることが明らかになった。「特別支援教育を意識している」と回答した園長が約8割という結果になったことも併せて園内にいる特別な支援を必要とする幼児への支援を行うために、特別支援教育を推進していく必要性を感じているという幼稚園等の現状がうかがえる。

イ 園内支援体制

特別支援教育コーディネーターは、園内において園や連鎖が理解されつつあり、研修会等への参加を通して、自身の専門性を高めながら、担任のサポートを中心に活動していることが分かった。園内研修を計画している園は7割を超えた一方で、担任は「適切な支援が分からない」と悩んでいるケースが多く、目の前の子どもに関するより具体的な支援について研修したいというニーズが高い。園内委員会については、

計画的ではないものの特別な支援が必要な幼児について話し合う時間を設けている園は、約8割という結果になった。

ウ 保護者との連携

コーディネーターは、保護者との密接な関わりを大切にしながら、相談窓口として重要な役割を果たしていることが明らかになった。その一方、保護者との連携や理解促進に困難を感じているコーディネーターが多く、保護者との連携は大きな課題であることが分かる。

エ 関係機関との連携

幼稚園等では、入園に際し、乳幼児検診の結果等の情報を持つ保健師とのつながりが深い。また、次に多かったのは「小学校」「市町村教育委員会」であり、入園・就学に関して連携する機会が多いと推察できる。園が、今、困っていることを相談できる機関として、特別支援学校のセンター的機能の発揮が期待できる。

オ 支援員の活用

支援員は、時間がない中でも担任と共通理解を持って支援を進めていこうという意識があり、支援員が園内で担う役割は大きい。しかし、「適切な支援が分からない」と感じている支援員が多く、研修はまだ十分とはいえない現状にある。今後は、貴重な人的リソースを有効に活用するためにも、園内外での研修を含めた支援員へのサポートも重要である。

カ 個別の支援計画・個別の指導計画の作成

担任や支援員は、特別な支援が必要な幼児に対して、個別

に声をかけ、実態の把握をし、記録をとっているにも関わらず、適切な支援に結びついていないと感じている現状が明らかになった。一方、個別の支援計画を作成している園は、「日々の保育」や「複数の保育担当者との共通理解を図る」ために活用しているという意見が多く、チームによる園内支援、保護者や関係機関との連携のために、有効に活用されていることが推察できる。このように、個別の支援計画・指導計画を活用している園の実践を広め、その意義・役割等について適切に認識されていく必要があると考える。今後は、園内体制を更に機能させるために、「個別の支援計画の作成・活用」と「地域に根ざした支援体制の構築」を連動させていくことが望まれる。

(2) 特別支援学校における教育の現状と課題に関する調査

特別支援学校の「重度・重複障がい」及び「自閉症」の幼児児童生徒にかかわっている学部主事(または教務主任)、学級担任、担任外の方々に回答してもらった。結果と考察は以下の通りである。

ア 教育の現状及び教育課程編成・指導計画作成について
(学部主事による回答)

現在の教育の現状について、重度・重複障がい教育については74%、自閉症教育については59%が「適切である」と回答しており、自閉症教育の方にやや困難さを感じている現状がうかがえる。

「教育課程編成が適切か」と「実態に応じた指導計画が作成されているか」の項目を比較すると、双方の調査とも、前者の項目に比べ「実態に応じた指導計画が作成されているか」の項目が30ポイント減っていることから、実際の指導内容の選定や段階的な配列、指導方法の選択等、具体的な指導計画作成に関して、学部の課題としてとらえていることがうかがわれる。

イ アセスメントについて(重度・重複障がい教育)

実態把握にあたって、アセスメントやチェックリスト等を利用しているとの回答が、他の項目に比べてかなり少ない。保護者や関係機関からの情報や行動観察、引き継ぎ等で得られた情報等は、必要不可欠なものであると考えられるが、児童生徒の実態を客観的に捉える上で、アセスメントやチェックリスト等の活用が必要であると思われる。

ウ 自立活動の指導について(自閉症教育)

自立活動の指導に関して、「個別の目標達成へ向け、段階的に指導を計画すること」が最も難しいと回答している。実態に応じた指導計画の作成に関しても改善が必要であるとの回答も8割程度あることから、児童生徒の総合的な理解や課題の分析(実態のとらえ)等に難しさがあがり、具体的な指導計画の作成段階で困難さを感じていると考えられる。一人一人の児童生徒を総合的に理解するために、認知の特性やコミュニケーション、社会性等にかかわる発達段階を押さえることが重要であり、今後、当センターの研修講座等で取り上げていく必要性がある。

エ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成と活用について

個別の教育支援計画や個別の指導計画にかかわる課題設定については、学級担任だけで設定していると回答した割合が双方の調査とも3分の1あった。医療的ケアの必要な児童生徒にかかわる看護師の事例検討会への参加についても、約7割が参加が難しいと回答している。設定された課題をより適切なものにするためにも、TTやケース会議等、看護師も含めた複数の教師による話し合いの場が持たれることが必要であるとする。

「個別の事例検討会の運営」に関しては、「話し合う内容の明確化が必要である」との回答が4割以上あった。情報交換のみにとどまらず、児童生徒一人一人の課題やその背景を明確にする、課題や背景を押さえた目標を設定する、目標達成のための指導内容や方法を明確にする等、有効な協議にしていけることが大切である。

(3) 当センターでの今後の取り組み

今回の調査結果を基に、当センターは、プロジェクト研究の充実・成果の波及に努めるとともに、次のように事業の改善・充実に取り組んでいく。

ア 「幼稚園等における特別支援教育の現状と課題」に関する調査を受けて

○市町村教育委員会等、地域が主体となって実施する研修や体制整備への協力等を教育事務所と連携して積極的にサポートする。

○幼稚園等に対し、特別支援学校のセンター的機能の活用に関する情報を提供すると共に、個別の教育支援計画の作成・活用が推進されるよう、研修や相談を通して働きかける。

イ 「特別支援学校における教育の現状と課題」に関する調査を受けて

○研修講座等において、自閉症や重度・重複障がいのある児童生徒の発達や特性に関する考え方やアセスメントの方法等、具体的な研修を実施する。

○特別支援学校の授業づくり支援を行いながら、児童生徒一人一人の課題分析の仕方や事例検討会の持ち方等、具体的な提案をする。

2 プロジェクト研究

(1) 「早期からの子どものニーズに応じた子育てを目指して(第2年次)」

幼児期の子どもの発達に関する悩みは、支援者・保護者ともに「子どもの理解」をどのように進めるかについて共通している。さらに、一人一人の子どものニーズに応じ効果的な支援を行い就学移行につなげていくためには、「子どもの理解」を支援者・保護者が共有していくことが不可欠である。

支援の基盤となる「子どもの理解」においては、客観的な事実の整理とともに事実に基づいた推測が大切である。事実と推測を収集し、推測を確認するために実際の支援と振り返りを繰り返すことが必要である。また、本人中心の支援となるためにも、子ども本人の思いや意欲を含めて理解していくことが重要である。

そして、保護者の障がい受容には多くの段階や葛藤があ

ることを十分に配慮した上で、必要なことは支援者と保護者が子どもの姿を共有することであると考えた。子どもに必要な支援と成長を繰り返し確認していくことが、保護者の子どもの理解の助けとなる。

一方、幼稚園等においては、社会性の発達に重要な意味を持つ幼児期であることをふまえ、個のニーズに応じつつ個別対応だけでなく、集団保育の中でどのように関わるかの視点が大切である。

このような子どもの発達支援や保護者の相談支援を各機関が連携して進めるために、「個別の支援計画」は有効なツールとなる。「個別の支援計画」を使うことで、効果的な支援の振り返り、子どもの理解に結びつくことが期待できる。

早期の発達支援を充実させ、子どもの理解を基盤として就学相談を進める。これにより保護者が納得して就学先を決定することができる。しかし、就学段階では、保護者と子どもの理解を一致させられなかったり、就学以降、子どもが大きく変化したりすることがある。この場合にも、就学前に子どもの理解をベースにして個に応じた支援を行い、就学後もその支援を継続することが大変重要になる。保護者に対しても、早期から相談支援を行い、子どもの理解を進めておくことの意味が非常に大きい。

これらの支援は、地域の対応が基本である。これらの基本対応やシステムは、地域の状況や地域の子どもたちに対応できるように整備されることがのぞまれる。障がいのあるなしにかかわらず、子どもの理解を共有して支援することが期待される。子どもの理解に基づいた支援の連携は、就学前に限らず、全てのライフステージにおいて同様である。障がいのあるなしにかかわらず、全ての子どもたちが、自分たちを受け入れてもらっているという実感を持てるように支える地域支援システムが望まれる。

(2) 「一人一人の子どもの学びの実際をもとにした指導の充実を目指して（第2年次）」

「特別な支援を要する子どもも、どの子どももわかる授業づくり」は通常の学級で実践を進める際に、学力向上を目指す上でも大切なテーマであり、本年は2年次の取り組みである。県内のF小学校では、学校ぐるみで【事前研究】→【事中研究（授業実践）】→【事後研究】を継続してきた。各研究段階で明確になったことについて述べる。

【事前研究】では「どの子もわかる授業」の前提として、特に支援を要する子どもの指導をどうするかという検討の前に、学級集団全体の授業設計をどうするかということから吟味していく。1）本時で身につける力は何か。2）本時のねらいをどのように提示するか。3）子ども自身が本時で何をどう学べばいいのか自覚できる授業構想かということについて、検討していく。学び合いの場を取り入れておくことも重要である。

【事中研究（授業実践）】では、授業観察の子どもを参観者で分担しつつ、全体の子どもの学びの様子を具体的に記録しておく。子どもの活動の取り組み状況や表情も含めてとらえられるよう記録する。デジタルカメラで記録しておくことも有効である。

【事後研究】の進め方は二段構成である。【事前研究】で

考えていたこと、繰り返しになるが1）本時で身につける力は何か。2）本時のねらいをどのように提示するか。3）子どもたち自身が本時で何をどうすればいいのか自覚できているかを授業者と参観者で改めて言葉で確認し合う。この過程を共有し合うことが、授業で目指す姿を共有し合うことになる。ここが確認し合えることで、その後の協議も焦点化されることにつながる。

その後「子どもの学びの実際」について話し合っていく。それぞれが観察していた子どもの様子でよく学べていたこと、つまづいていたこと、つまづいていたといってもどこまでできていて、どこからわからなくなっていたかの検討を観察をもとにしていく。語る子どもの姿は、特に支援を要する子どものみならず、個々の子どもの学びや、学び合いの様子である。

これらの協議を積み重ねることで、授業者と参観者が実感できることは、「課題についてできたできないという結果」だけでなく、「子どもが課題に対してどう考えていたか」という見取りの重要性である。そこをよりきめ細やかに協議していくことで、学習場面における子ども理解がすすみ、支援のあり方もより具体的になっていく。

上記のような子ども理解は、通常の教育の中でも、特別支援教育の中でも大切にされてきたことであり、すべての子どもに対してわかる授業をするためには上記のような振り返りが欠かせないものである。「子どもの学びの実際」を自分一人の見方だけでなく、複数の目で子どもを丁寧に見取り、学力をつけていくには最適の方法であると考えている。今後、F小学校の取り組みは、小学校で広がることはもちろん、中学校、高等学校等での実践研究も推進していくことが必要であると考えている。

第5節 教育図書・資料の収集・提供事業

1 教育図書・資料の収集・整理

(1) 教育図書の収集・整理

教育図書については、特別支援教育に関する専門図書の充実に努め、本年度118冊の新規購入及び寄贈の結果、蔵書数は7,653冊になった。その種類は、障がい児の教育関係図書が1,839冊、その他の図書が5,814冊である。障がい児関係図書については、利用しやすいように障がい別（視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、言語、情緒、重複障がい等）に配架している。

(2) 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物は10種類購入し、いつでも閲覧できるように分類・配架した。

(3) 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、本年度収集した118冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

第6節 広報・啓発事業

1 所報「特別支援教育」(63号)

(1) 内容

- ア 所長挨拶「3. 11に学ぶ」
- イ 第25回研究発表会報告
 - (ア) プロジェクト研究Ⅰ
「早期からのニーズに応じた子育てを目指して（第2年次）」
 - (イ) プロジェクト研究Ⅱ
「一人一人の子どもの学びをもとにした指導の充実を目指して（第2年次）」
 - (ウ) 調査研究
 - ・幼稚園等における調査報告
 - ・特別支援学校における調査研修
 - (エ) 実践発表
「個に応じた指導の工夫(LD通級指導教室の実践)」
- ウ 平成22年度教育相談の報告
 - ・相談件数、相談年齢、相談内容
- エ 平成22年度研修の報告
 - ・研修の実際
 - ・研修講座の受講者数

(2) 規格、ページ等

- ア 規格 A4判
- イ ページ数 6ページ
- ウ ホームページで公開

2 研究紀要「第25号」

(1) 内容

- ア プロジェクト研究Ⅰ
「早期からのニーズに応じた子育てを目指して（第2年次）」
- イ プロジェクト研究Ⅱ
「一人一人の子どもの学びをもとにした指導の充実を目指して（第2年次）」
- ウ 調査研究
 - ・「幼稚園等における特別支援教育の現状と課題に関する調査」
 - ・「特別支援教育における教育の現状と課題に関する調査」
 - (ア) 重度・重複障がい
 - (イ) 自閉症

(2) 規格、ページ、部数

- ア 規格 A4判
- イ ページ数 41ページ
- ウ ホームページで公開

第7節 情報教育事業

1 ソフトウェア開発と活用

研修講座を中心に、障がいのある児童生徒の学習を支援するソフトウェア（パワーポイントやムービーメーカー等）の作成支援を行った。

2 情報機器活用

研修講座を中心に、スイッチ教材等、支援機器に関する情報提供や作成支援、貸出を行った。

3 情報教育ネットワークとWebページの充実

特別支援教育に関する情報発信をするために、本センター Web サイトの運営管理を行った。また、Web ページ内容の充実を図るため、専門研修講座報告のページの充実を図った。

- ・本センター Web ページアクセス件数

…… 107,808 件(平成23年3月31日現在)

第14章 福島県立図書館

第1節 概要

1 運営の概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した福島県立図書館『学びの環境づくり』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに「図書館の図書館」として市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成19年度には『学びの環境づくり』を実現するために、重点的に取り組むべき施策として、5つの柱を中心に『県民を支える図書館 アクションプラン』（平成20年度～24年度）を策定した。本プランは、実行期間を概ね5年間とし、年度ごとに事業評価を行い、必要に応じて改訂を行うものである。

また、平成21年3月に策定された「福島県子ども読書活動推進計画（2次）」（平成22年度～26年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

『県民を支える図書館 アクションプラン』5つの柱

(1) 「図書館の図書館」として図書館振興を図ります

- ・市町村立図書館支援
- ・図書館未設置町村支援
- ・学校図書館支援
- ・高等教育機関図書館・類縁機関との連携
- ・情報・物流ネットワークの整備

(2) 県民の暮らしのお役に立ちます

- ・県民の暮らしに役立つ情報提供
- ・地域や世代による情報格差の解消
- ・多様なメディア活用による情報提供
- ・情報提供環境の整備

(3) 働く人のお役に立ちます

- ・働く人に役立つ情報提供
- ・これから働く人への情報提供
- ・各種団体・企業への情報支援
- ・行政機関への情報支援

(4) 地域と文化を育むお手伝いをします

- ・文化事業の開催
- ・読書普及活動
- ・地域資料の収集・提供及びデジタル化
- ・ボランティアとの連携
- ・デポジットライブラリーの整備

(5) 学ぶすべての人を応援します

- ・児童サービス
- ・ヤングアダルトサービス
- ・一般成人サービス
- ・障がい者サービス
- ・多文化サービス
- ・来館できない人のためのサービス

2 図書館協議会

(1) 図書館協議会委員名

[任期：平成21年10月21日～平成23年10月20日]

区分	氏 名	所 属 団 体 等 (主な役職名等)
学 識 経 験 者	中田 スウラ	福島大学人間発達文化学類長
	二宮 和比古	郡山女子大学短期大学部教授
	鞍 田 炎	(株)福島民報社
	加 藤 卓 哉	福島民友新聞(株)
	原 孝 江	公募(主婦、福島土と命を守る会代表)
	白 川 明 美	公募(主婦、福島ゾンタクラブ理事)
家 庭 教 育	伊 藤 美 千 代	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事
社 会 教 育	佐 久 間 典 子	福島県公共図書館協会（郡山市富久山図書館長）
学 校 教 育 関 係	星 浩 次	福島県高等学校長協会（福島県立福島南高等学校長）
	川 崎 康 宏	福島県中学校長会（福島市立福島第三中学校長）

(会長) 中田スウラ (副会長) 星 浩次

(2) 会 議

第1回 平成22年12月9日 於：県立図書館
(議題等)

- ・平成21年度・22年度4月～10月分利用実績について
- ・「県民を支える図書館」アクションプラン事業進捗状況について
- ・資料宅配サービスについて
- ・「国民読書年記念事業」実績報告について

第2節 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「県民を支える図書館アクションプラン」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために多様な分野の基本資料の収集と迅速な整理に努めた。

1 図書館資料の収集

(1) 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。年鑑白書等の継続資料を見直すとともに、調査相談に対応する各種参考書の充実を図った。

(2) 地域資料の収集

福島県に関する資料と福島県人著作の網羅的収集を基本方針に、非売品等の資料については個人・団体・機関等からの寄贈により収集を行った。

平成22年度の重点収集として、地域の歴史や文化に関する資料、企業や経済活動に関する資料、県や市町村発行の行政資料等の収集に努めた。

(3) 地域視聴覚資料の収集

全国トップレベルの実力を誇る合唱・吹奏楽の全国大会入賞CDや伝統芸能、民話、地元新聞のCD-ROMなど視聴覚資料として保存価値の高いものを収集した。

(4) 児童資料・研究資料の収集

ア 児童資料

こどものへや(市町村のモデル児童室)の資料として、乳幼児から中学生ぐらいまでを対象とした資料を収集した。また、市町村から要求される資料の充実と保存図書館としての機能強化を図った。

イ 研究資料

児童図書研究室の資料として、児童図書に関する研究資料、児童の読書や児童サービスに関する資料をはじめ、受賞図書、比べ読み絵本、バリアフリー絵本などの研究用児童資料まで収集した。また、子どもの読書活動推進のために読み聞かせ用大型紙芝居・ビッグブック等資料の整備・充実を図った。

ウ その他、児童用の新聞や雑誌や児童図書研究用の雑誌についても、前年に引き続き収集した。

(5) 逐次刊行物の収集と整備

新聞については従来から継続している全国紙と地元紙、業界紙の継続を維持するために、県議会図書室と連携をはかった。また、本年(平成22年度)緊急雇用創出基金事業「新聞電子化作業」により『福島民報』『福島民友』の地方版(昭和20年代以降)、及び『福島民友』(昭和50・51年)

の2年分のデジタル化が実現した。

雑誌については資料価値を重視し、専門的かつ高度な調査相談に対応できる資料を継続収集した。

(6) 市町村支援用資料の収集

移動図書館などの市町村支援資料は、図書館環境から遠方にある過疎・中山間地域の県民サービスに役立つ新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況 (単位: 種)

区 分	購 入	寄贈・他	計
新 聞	23	57	80
雑 誌	269	755	1,024
官 報 等	3	0	3
合 計	295	812	1,107

資料受入状況 (単位: 冊)

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	2,076	3,253	5,329
地 域・行 政 資 料	447	3,793	4,240
児 童 図 書	980	272	1,252
児 童 図 書 研 究 書	344	103	447
市 町 村 支 援 資 料	0	2,448	2,448
合 計	3,847	9,869	13,716

資料受入状況・推移 (単位: 冊)

平成20年度	平成21年度	平成22年度
28,348	40,766	13,716

分 類（区 分）		21年度累計	22年度増加	22年度除籍	利用替え	22年度累計
一般資料	0 総 記	29,775	296	22	3	30,052
	1 哲 学	23,608	208	41	0	23,775
	2 歴 史	57,397	1,059	64	-3	58,389
	3 社 会 科 学	92,482	1,311	82	1	93,712
	4 自 然 科 学	32,326	308	54	0	32,580
	5 工学・工業	30,735	397	54	-1	31,077
	6 産 業	25,286	281	30	0	25,537
	7 芸 術	35,269	398	59	0	35,608
	8 語 学	8,399	262	8	0	8,653
	9 文 学	86,592	809	97	0	87,304
	計	421,869	5,329	511	0	426,687
地域資料	0 総 記	12,688	344	3	1	13,030
	1 哲 学	2,260	79	2	0	2,337
	2 歴 史	29,593	924	3	0	30,514
	3 社 会 科 学	49,659	1,235	9	0	50,885
	4 自 然 科 学	6,934	199	0	0	7,133
	5 工学・工業	9,345	224	1	0	9,568
	6 産 業	17,590	415	1	0	18,004
	7 芸 術	11,819	297	3	0	12,113
	8 語 学	727	10	1	0	736
	9 文 学	21,189	513	4	0	21,698
	計	161,804	4,240	27	1	166,018
児童資料	研 究 資 料	31,913	447	15	0	32,345
	児 童 図 書	92,863	1,252	85	-11	94,019
	計	124,776	1,699	100	-11	126,364
逐次刊行 物資料	雑 誌	125,974	4,728	36	-1	130,665
	新 聞 合 本	13,823	231	0	0	14,054
	新聞記事ファイル	3,823	0	0	0	3,823
	計	143,620	4,959	36	-1	148,542
特 殊 文 庫		61,753	0	0	0	61,753
館 内 用 計		913,822	16,227	674	-11	929,364
市 町 村 支 援 計		71,090	2,448	1,586	11	71,963
合 計		984,912	18,675	2,260	0	1,001,327

※本年発行分から「逐次刊行物資料」（3区分）のデータを加えました。

第3節 館内奉仕

入館者は232,133人、開館日は269日、1日平均863人の利用があった。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により、3月12日より休館した。

入館者数・推移（単位：人）

平成20年度	平成21年度	平成22年度
235,007	237,729	232,133

入館者数

開館日数	269日
入館者数	232,133人
（1日平均）	863人

1 調査相談（レファレンス）

県内外から、口頭・電話・文書・FAX・Eメール等により調査相談を受けている。インターネットの普及により簡易な調査が減少し、多様かつ専門的な調査が寄せられるようになってきた。調査相談件数は、平成20年度末行ったカウンター編成により一時落ち込んでいたがやや上向きに回復しつつあるようだ。

調査相談件数 (単位：件)

	一般・地域・逐刊	児童資料	小 計
口 頭	8,907	1,554	10,461
電 話	1,740	143	1,883
文 書	28	0	28
F A X	49	1	50
電子メール	169	0	169
合 計	10,893	1,698	12,591

調査相談件数・推移 (単位：件)

平成20年度	平成21年度	平成22年度
13,478	11,106	12,591

ホームページアクセス件数 (単位：件)

区 分	平成20年度	平成21年度	平成22年度
ト ッ プ ペ ー ジ	169,714	142,697	171,916
蔵 書 検 索	96,994	103,732	174,859
横 断 検 索	43,591	72,138	113,701
デジタルライブラリー	4,404	4,756	5,055
こ だ も の へ や	3,453	3,338	3,885
県内図書館(業務用)	22,980	21,631	19,318

2 館内サービス

「県民を支える図書館アクションプラン」を踏まえ、暮らしに役立つ情報の提供や各種講座を開催し、図書館資料の提供に努めた。時事コーナーでは、「近代文学に親しむ」「エジプトまるかじり！本で旅する2週間」「明治という時代」など展示や話題性に富んだ5つのテーマで資料を紹介した。加えて「茶の湯を楽しむ」「森と人のつながりをたどる」など社会教育施設の展示等と連携した資料やタイムリーな話題など31テーマのミニ展示を行い利用促進に努めた。

蔵書端末機の使い方や参考図書の使い方の講座を開催し図書館利用の啓発を図った。さらに、開催された各種講座等に合わせてパスファインダー「本の森への道しるべ」を作成し、有効的な情報の提供に努めた。

3 館外個人貸出

館外個人貸出冊数は187,663冊、登録者は17,865人、館外貸出利用者数は延べ50,457人であった。貸出冊数・延べ人数とも増加し、震災後の休館期間を考慮しても前年度を上回っている。分野別に見ると児童資料が約4割、文学が1割強を占め前年度と変わらないが全体的に増加した。

6月より相双・会津2地区で資料宅配サービス（有料）を開始、併せて郵送による利用登録申請を可能にし、距離や時間の都合等で当館を利用しにくかった利用者の拡大を図った。

館外個人貸出状況

分 類	冊数	構成比(%)	分 類	冊数	構成比(%)
総 記	2,331	1.2	語 学	1,925	1.0
哲学・宗教	5,976	3.2	文 学	25,305	13.5
歴史・地理	9,470	5.0	地 域 資 料	7,601	4.1
社 会 科 学	15,872	8.5	雑 誌	10,137	5.4
自 然 科 学	9,791	5.2	小 計	113,279	60.4
工学・工業	9,152	4.9	児 童	74,384	39.6
産 業	5,569	3.0	合 計	187,663	100.0
芸 術	10,150	5.4			

館外個人貸出状況・推移

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
冊 数	176,424	186,868	187,663
の べ 人 数	38,772	45,341	50,457

館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年）

(単位：人)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	合 計
新 規	3,616	4,173	4,171	11,960
更 新 者	2,259	1,815	1,831	5,905
合 計	5,875	5,988	6,002	17,865

館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人)

平成20年度	平成21年度	平成22年度
17,950	17,803	17,865

4 特別貸出

類縁機関での展示等の貸出を行う制度であり、対象者・資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸 出 先	件 数	冊 数
官 公 庁 関 係	5	8
図 書 館 そ の 他	6	861
会 社 ・ 事 業 所	6	169
報 道 関 係	3	4
学 校	1	24
計	21	1,066

特別貸出状況・推移 (単位：冊)

平成20年度	平成21年度	平成22年度
271	261	1,066

5 地域資料

調査相談は県内外の個人・団体・公的機関等から多種多様な問い合わせが寄せられ、迅速な対応を心がけつつ、的確な回答を導き出せるよう地道な資料の調査に取り組んだ。

『天地明察』にて吉川英治文学新人賞、2010年本屋大賞を受賞した福島県ゆかりの作家・沖方丁氏の作品を紹介する「沖方丁の世界」、「ふくしまを知る子どもの本」などミニ展示を4テーマ開催し地域資料の紹介と利用促進に努めた。

6 逐次刊行物

ビジネス支援や利用者の多角的ニーズに応えるべく、昨年度に続き『ビジネス支援通信』『新聞でみる県内の図書館と読書活動』を発行した。また今年度も『現行購入雑誌保存年限および保存指定館・現行受入新聞一覧』をまとめ、県内公立図書館間の分担収集の徹底を図った。

雑誌・新聞記事の調査は、インターネット及びオンラインデータベースにより迅速かつ正確な調査が可能となってきた。平成22年度より「官報情報検索サービス」の利用ができるようになった。

7 児童サービス

子どもの読書活動を推進するために以下の活動を行った。

- (1) こどものへやでは、資料の貸出・調査相談をはじめ、推奨する資料の展示・紹介をした。乳幼児と保護者のための「ちいさなおはなしかい」や児童のための「おはなしかい」を定期的に開催し、絵本を通じた親子のふれあいや本の楽しさを知らせる機会を提供した。夏休みには、県立美術館と連携して美術をテーマにした「アートなおはなしかい」を開催し、美術に触れる楽しさや美術書に親しむ機会を提供するとともに双方施設の利用活性化を図ることができた。また、図書館見学等で訪れる子どもたちには、施設見学や利用案内、読書への動機づけとして読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会を提供した。さらに、思春期の子どもたちのためには読書案内誌『LITTLE BIG』を発行し読書普及に努めた。
- (2) 児童図書研究室では児童サービス関係者や児童図書研究者への資料の貸出・調査相談を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動に関人たちに対して積極的な情報提供を行い、活動の支援に努めた。さらに、『児童図書研究室ニュース』を発行し、県内外の児童サービス関連情報を提供した。

8 複写サービス

昨年度と同じような利用傾向である。インターネットの普及により多方面から情報が引き出せるようになったことが、当館の複写サービスにも影響していると考えられる。

複写利用状況

区 分	件 数	枚 数
自 館 処 理	5,847	73,138

複写利用状況・推移

(単位：枚)

平成20年度	平成21年度	平成22年度
67,860	75,211	73,138

9 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやに2台設置し、情報提供への便宜を図っている。数台だが機器の更新を行い、当館職員による「はじめてのインターネット講座」を実施等により利用が促進された。しかし利用のマナーが問題にもなっている。

インターネット利用状況

区 分	件 数
一 般	8,824
児 童	325
合 計	9,149

インターネット利用状況・推移

(単位：人)

平成20年度	平成21年度	平成22年度
9,149	10,278	9,149

10 展 示

(1) 展示コーナー

ア「“晴れ着”を着せた日本の近代文学～ブックカバーとのコラボレーション～」(4月2日～6月30日)

明治初期から昭和期(戦前)の各時代に活躍した作家たちの名作・名著を刊行時の姿で再現した「初版本の復刻」と、郡山市在住の橋本佳園子氏が製作したブックカバーの展示を企画。併せて、ギャラリートーク「文学を着物地で表現する」ワークショップ「オリジナルブックカバーをつくろう」を開催した。

イ「青い目の人形」に見る資料展」(7月2日～10月6日)

近隣の小学校に現存する青い目の人形3体を中央に配置し、当館所蔵の地元新聞資料を中心に県内小学校の記念誌、市史、町村史、児童書などを展示した。

昭和の初期、アメリカから日本に贈られた青い目の人形たちは日米の子どもたちの心を結ぶ“親善使節”であったが、その時代背景には日米関係の悪化がある。

当時の地元新聞などが、人形に込められた友情や交流への願いをどのように伝えたか。また、戦争という状況

下で人々の心がいかに変わっていったかということ、子どもたちも考える展示とした。

期間中には、博物館学芸員による「日米人形交流史 昭和2年の青い目の人形と答礼人形」と題する連携講座を行なった。(9月11日 当館第一研修室)

ウ「ふくしまの名著展～先人たちが遺した活字の世界」
(10月8日～1月5日)

『ふくしまの名著』として福島県文化センターの広報誌に連載、紹介した出版物の中から藩史・地誌・文芸作品を中心に展示を行い、併せて『展示資料一覧および解説』を作成し来館者・関係機関へ配布した。

また、関連事業として『ふくしまの名著』執筆者・菅野俊之氏(元福島県立図書館総括司書)による講演会「ふくしまの名著を語る」を開催した。

エ「赤羽末吉展～昔話絵本の魅力」(1月7日～4月6日)

「国際アンデルセン賞・画家賞」を受賞した日本を代表する絵本作家赤羽末吉についての展示を行った。

福島県をはじめ東北各地を取材して描いたという『かさじぞう』『つるにようぼう』などの昔話絵本を中心に紹介。また、50歳を過ぎて絵本画家としてデビューした赤羽氏の昔話絵本制作に寄せた熱き思いを伝える資料や取材時のスケッチなどの資料を展示した。さらに、昔話絵本に関する研究書なども紹介した。

期間中に、昔話をテーマにした「ふゆのおはなしかい」を開催した。

(2) ロビー展示

情報発信活動の一環として、作品発表の場を提供する県民参加型の企画。広報のためチラシを作成し募集を行った。

ア「花見山～ふくしま四季倶楽部写真展②」4月2日～5月5日

内容：ふくしま花案内人仲間による花見山の写真展

イ「第1回えがく会展」5月7日～6月2日

内容：ヨークカルチャー福島日曜油絵の会による作品展

ウ「FTVカルチャーセンター写真講座作品展」6月4日～6月30日

内容：デジタル写真講座受講生による作品展

関連講座：「ゼロから一眼レフ」初心者デジタルカメラ体験講習会 6月27日

エ「色々な字体と作品展2」7月2日～8月4日

内容：村上書道教室の生徒による作品展

オ「水彩画と絵手紙展」8月6日～9月1日

内容：「かたくりの花の仲間会」による作品展

カ「第2回網代澄亭と一門による刻字展」9月3日～10月6日

内容：刻字作品展

関連講座：講習会「刻字をやってみませんか」9月12日

キ「押し花合同作品展～この花咲くや時空(とき)を越え

て～」10月8日～11月3日

内容：額装された押し花の作品展

ク「動物～マーブル・Style展～」11月5日～12月1日

内容：羊毛フェルト人形とパステル画作品展

ケ「福島信夫ライオンズクラブ 平和ポスターコンテスト」
12月3日～1月5日

内容：小学生による平和ポスター応募画作品展

コ「さとう静岳手作り書道アート展 1月7日～2月2日

内容：条幅漢字を中心とした作品展

サ「被害者に優しい「ふくしまの風」運動パネル展」2月25日～3月11日(※4月6日までの予定が震災のため休止)

内容：被害者遺族の手記・メッセージ、遺品等の写真
や被害者支援センターの活動紹介パネル展
(※関連講座も震災のため中止)

第4節 館外奉仕

1 移動図書館「あづま号」

図書館未設置町村の、図書館活動の促進を図ることを目的として、資料の援助や公民館図書室の運営相談を行った。

本年度の利用状況は次のとおりである。

平成22年度移動図書館「あづま号」利用状況

地 区	延べ 日数	対象市 町村数	貸出冊数
県 北	8	3	2,295
県 中	4	3	3,502
県 南	5	3	3,982
会 津	17	11	12,111
南会津	7	4	4,150
相 双	6	5	5,272
合 計	47	29	31,312

2 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に図書の貸出を行い、図書館・公民館図書室の活性化を図った。

本年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	2,400冊
川俣町教育委員会	713冊
鮫川村教育委員会	481冊
只見町教育委員会	485冊
西郷村教育委員会	719冊
南会津町教育委員会	500冊
平田村教育委員会	500冊
泉崎村教育委員会	3,299冊
伊達市教育委員会	907冊
中島村教育委員会	170冊
西会津町教育委員会	340冊
合 計	10,514冊

3 福島県立図書館資料の譲与

資料の再活用が充分見込まれる図書館や公民館等に対して、福島県立図書館の資料を譲与し、蔵書の強化、充実の援助を行った。

本年度の利用状況は次のとおりである。

猪苗代町教育委員会	488冊
湯川村教育委員会	300冊
只見町教育委員会	316冊
会津若松市教育委員会	300冊
平田村教育委員会	200冊
合 計	1,604冊

4 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校（県立盲学校を除く）の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出を行い、学校図書館の活性化を図った。

本年度の利用状況は次のとおりである。

県立いわき総合高等学校	326冊
県立郡山萌世高等学校	200冊
県立石川高等学校	227冊
県立須賀川高等学校	93冊
県立須賀川養護学校	279冊
福島成蹊高等学校	100冊
県立喜多方桐桜高等学校	39冊
合 計	1,264冊

5 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、114タイトル（延べ269セット）を編成し貸出を行った。

本年度の利用状況は、40団体（延べ51件）に対し86セット（3,130冊）を貸し出した。

6 読書会用文庫

生涯学習時代を迎え、図書館・公民館及び学校活動の一環として、各地で読書会が活動している。

当館ではそれら読書会用として幅広くテキストを備え援助を行った。本年度の利用はなかった。

7 広報資料の発行

(1) 館報「あづま」

第61巻（通巻第265号）を発行し、市町村教育委員会、図書館、公民館等に配布した。

発行部数 1,700部

(2) 平成22年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書

県内公共図書館・公民館図書室の実態を把握し、図書

館活動の振興に資するため、昭和54年度から毎年実施し、報告書にまとめ、県内市町村教育委員会、図書館、公民館等にデータの提供を行うと共に、県立図書館ホームページに掲載した。

平成22年4月1日現在の主要な結果をあげると、市町村図書館と公民館図書室を合わせた蔵書冊数は5,882,203冊で、県民1人当たり2.89冊（前年度2.84冊）、年間増加冊数は278,154冊である。

また、21年度中の貸出図書冊数は、7,615,418冊（県民1人当たり3.74冊）であり、前年度と比べると総冊数では、811,185冊の増である。

(3) 福島県郷土資料情報

当館の地域資料で所蔵する貴重資料や福島の児童文学者などを紹介した第51号を発行し、県内の図書館や関係機関へ配布した。

発行部数 240部

第5節 図書館協力

1 相互協力と遠隔地返却

相互貸借の資料発送を週2回から週1回に変更したためか件数の減少は見られたが、システム加盟館からのWEB上からの簡易な申し込み方法により相互貸借冊数は増加傾向にある。

遠隔地返却冊数については、県内公共図書館に加え公民館、さらに福島大学図書館との連携により返却できる箇所が増え利用促進につながった。

相互貸借状況						
区 分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸 出	1,102	5,736	506	783	1,608	6,519
借 用	127	169	107	135	234	304
小 計	1,229	5,905	613	918	1,842	6,823

相互貸借状況・推移 (単位：冊)		
平成20年度	平成21年度	平成22年度
8,179	8,746	6,823

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数）

(単位：冊)		
平成20年度	平成21年度	平成22年度
4,587	5,861	6,794

2 県内図書館職員研修会

図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

(1) 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

- ア テーマ 「図書館サービスの基本について」等
- イ 期 日 平成22年5月26日
- ウ 会 場 県立図書館
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 48名
- オ 講 師 県立図書館職員

(2) 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

- ア テーマ 「図書館に求められる書評と解題の技術～本を紹介することから考える図書館サービス」
- イ 期 日 平成22年12月8日
- ウ 会 場 県立図書館
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 66名
- オ 講 師 青山学院大学 教授 小田 光宏 氏

(3) 子ども読書活動事例研修会

地域で子どもの読書活動を推進している関係者を対象に実施。人材の育成とスキルアップに取り組んだ他、学校・家庭における取り組みへの働きかけを行った。

- ア 期 日 平成22年9月2日
- イ 会 場 県立図書館
- ウ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員・図書館ボランティア等 118名
- ウ 講 師 県立図書館職員

3 県内大学図書館間相互利用制度

県内の大学図書館と公共図書館との協力体制として「福島県内大学図書館間相互利用制度」があり、その制度の主な柱は、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」である。

この制度利用参加市町村立図書館は、県立図書館を含め福島県市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館の20館である。

第 15 章 福島県立美術館

第1節 概要

1984 年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての芸術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

1 美術館運営協議会

(1) 委員

久 保 恵美子	福島県中学校教育研究会美術部総務 (平成 15.1.1 ～)
松 本 良 子	福島県高等学校教育研究会美術工芸部会会員 (平成 19.1.1 ～)
富 田 孝 志	財団法人福島県文化振興事業団理事長 (平成 21.1.1 ～)
草 野 拓 郎	福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長 (平成 23.1.1 ～)
酒 井 昌 之	福島県美術協会副会長 (平成 19.1.1 ～)
佐々木 光 政	日本放送協会福島放送局長 (平成 21.1.1 ～)
遠 藤 久 美	蔵のまちアートぶらりー実行委員会事務局長 (平成 21.1.1 ～)
雪 山 行 二	和歌山県立近代美術館長 (平成 15.1.1 ～)
辻 み どり	福島大学行政政策学類教授 (平成 17.1.1 ～)
阿 部 泰 宏	公募 (平成 15.1.1 ～)

(2) 協議会の開催

- ア 期日 平成 23 年 2 月 16 日(水)
- イ 内容 ・運営協議会会長及び副会長の選出
・平成 22 年度事業実績の概要
・平成 23 年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

2 他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体

- ・全国美術館会議 (理事)
- ・美術館連絡協議会 (理事)
- ・日本博物館協会 (会員)
- ・日本博物館協会東北支部 (監事)

- ・東北地区博物館協会 (監事)
- ・福島県博物館連絡協議会 (理事)

第2節 美術品の収集・保存

後世に伝えるべき美術作品を収集し、保存することは美術館の基本的機能である。購入、受贈等の方法により、美術作品および関連資料の充実に努めている。

1 収蔵作品点数(平成23年3月31日現在)

海外作品	4 3 1 点	
日本画	2 8 9 点	
洋 画	4 7 1 点	
版 画	9 8 5 点	
立 体	8 5 点	
工 芸	1 4 7 点	
書	3 7 点	
素描・下絵	9 1 点	
写 真	3 6 3 点	
<hr/>		
計	2, 8 9 9 点	美術資料 2 8 件

2 収集評価委員会

(1) 委員

村 田 哲 朗	町田市立国際版画美術館館長 (平成 8.11.21 ～)
真 室 佳 武	東京都美術館館長 (平成 8.11.21 ～)
尾 崎 正 明	京都国立近代美術館館長 (平成 15.12.1 ～)
長谷川 三 郎	前宮城県美術館館長 (平成 17.12.1 ～)
山 梨 俊 夫	神奈川県立近代美術館館長 (平成 17.12.1 ～)

(2) 委員会の開催

- ア 期日 平成 23 年 2 月 1 日(火)
- イ 内容 ・平成 21 年度収集作品の報告
・平成 22 年度収集候補作品について

3 平成22年度収蔵作品

(1) 美術作品及び美術資料の収集

国内・絵画	斎 藤 隆	1点
	大岩オスカー	1点
	加 藤 学	2点
	高 橋 克 之	4点
	西 村 榮 悟	2点

	村 上 善 男	2点
	吉 井 忠	1点
	山 中 現	5点
	小 川 千 甕	1点
	酒 井 三 良	1点
国内・版画	長谷川 雄 一	5点
	丸 山 浩 司	1点
	山 中 現	24点
国内・彫刻	北 郷 悟	1点
	計	51点

(2) 図書資料の収集(平成23年3月31日現在)

収蔵図書数 47,700 冊

4 保存修復

(1) 虫菌害モニタリングと環境測定の実施

ア 時期

7月21日～8月6日 9月24日～10月7日

イ 場所

収蔵庫、搬入口、展示室およびその他の館内

(2) 美術作品の修復

ルオー、コロー、ルノワール作品の額改良と低反射ガラスへの交換

第3節 展示事業

1 常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。

常設展については、より多くの県民が利用できるように、無料観覧日を設けている。

今年度は春に〈25年目のおくりもの〉と題して、新収蔵作品公開の特別展示を開催した。また第4期展示は、3月11日に発生した東日本大震災の影響により当初予定の会期を待たずに終了となった。

(1) コレクション展

ア 「25年目のおくりもの」展～コロー、ルノワールから郷土の美術家まで～ 4月17日～7月4日

海外作品：コロー ルノワール ルオー ドーミエ

郷土の美術：橋本堅太郎 室井東志生 西村榮悟ほか

イ コレクション展Ⅰ 7月10日～10月3日

戦後の具象絵画：須田国太郎 吉井忠ほか

近代の銅版画：長谷川潔 駒井哲郎

ウ コレクション展Ⅱ 10月5日～12月26日

酒井三良と近代の日本画

関根正二と近代の洋画

木口木版画の表現：日和崎尊夫、柄澤齊

エ コレクション展Ⅲ 1月5日～3月11日

*震災前予定会期 1月5日～3月31日

現代日本の陶芸：加茂田章二 清水卯一 鈴木治

郷土の彫刻家：佐藤朝山 赤堀信平、

近代の創作版画：恩地孝四郎 平塚運一ほか

(2) 無料観覧日

ア 全観覧者常設展無料日

5月5日(こどもの日) 8月21日(県民の日)、

9月17日(敬老の日) 11月3日(文化の日)

イ 小・中・高校生企画展無料日

11月1日～11月7日(ふくしま教育週間)

(3) 移動美術館

当館所蔵作品の一部を、県内の文化施設で公開展示する事業で、開催館との協働でテーマ、作品選定から実務までを行う。今年度は天栄村で開催した。

展覧会名 「日本と世界の名作展」

会期 11月3日(水)～11月28日(日)

会場 天栄村生涯学習センター ふるさと文化伝承館

展示作品 (生涯学習センター)

大山忠作『母子像』 斎藤清『会津の冬』『野仏』

斎藤隆『貌』 室井東志生『僚』

酒井三良『沖縄風俗』 結城天童『阿武隈川源流』

石井泊亭『水車場』 斎藤与里『裏磐梯』

関根正二『神の祈り』 吉井忠『麦の穂を持つ女』

(ふるさと文化伝承館)

ピカソ『二人の裸婦』より

シャガール『少年時代の思い出』より

ルオー『流れる星のサーカス』より

ベントン『日曜日の朝』『麦を収穫する』

シャーン『マルテの手記』より

佐藤朝山『麝香猫』 橋本堅太郎『慈光』

合計39点

関連事業 ギャラリー・トーク

11月3日(水) 当館学芸課長 伊藤匡 20名

11月14日(日) 当館学芸課長 伊藤匡 30名

観覧者数 1,850名(26日間 一日平均71.2名)

2 企画展

多様化する芸術文化に対応して、さまざまな分野、テーマ、切ロで作品を鑑賞する機会が企画展である。今年度は6回の企画展を開催した。

(1) 美のふるさと 秋田県立近代美術館名品展

会期 4月17日(土)～5月16日(日)

分野 近世絵画 近代日本画

展示数 77点

主催 福島県立美術館 秋田県立近代美術館

観覧料 一般・大学生800円(640円) 高校生600円(480円) 小・中学生400円(320円)

観覧者数 3,971名

関連事業

講演会

4月29日(木) 「知られざる大作—小田野直武《不忍池図》を追跡する」

今橋理子氏(学習院女子大教授)

70名

ギャラリートーク

4月17日(土) 山本丈志氏(秋田県立近代美術館学芸員)

50名

4月24日(土) 堀宜雄(当館主任学芸員)

20名

5月 8日(土) 堀宜雄(当館主任学芸員)

20名

展覧会観賞ガイド(A4判カラー) 無償配布

概要

近隣美術館との交換展第三弾。重要文化財2点を含む、秋田県立近代美術館所蔵の珠玉の名品を、4部構成で展示し、秋田蘭画から戦後にいたる日本画の流れを展望した。おもな作家は、横山大観、下村観山、鏑木清方、小田野直武、平福徳庵、寺崎廣業、平福百穂、福田豊四郎など。会期中、秋田県立近代美術館より鑑賞シートを無償提供いただいたので、アンケート回答者にプレゼントする企画を行い、観覧者の半数を超える2,120名より回答をえた。

なお、当館の所蔵品展は、「洋画のキラキラ 福島県立美術館名品展」として2010年6月26日(土)～8月1日(日)に開催された。

(2) 世界で一番美しい庭 アンドレ・ボーシャン展

会期 5月29日(土)～7月4日(日)

分野 海外 絵画

展示数 85点

主催 福島県立美術館

後援 NHK 福島放送局

協賛 福島日仏協会

協力 ギャラリーためなが

企画協力 アプトインターナショナル

観覧料 一般・大学生800円(640円) 高校生600円(480円) 小・中学生400円(320円)

観覧者数 5,209名

関連事業

オープニングコンサート

5月29日(土) 「クラヴサンの雅なる宴」

村木洋子氏(チェンバロ奏者)

キッズ・レクチャー〈ボーシャンおじさんの庭を探検!〉

6月 6日(日) 橋本淳也(当館主任学芸員)

15名

ギャラリートーク〈ボーシャンの庭を散策〉

5月29日(土) 吉村有子(当館主任学芸員)

20名

6月12日(土) 吉村有子(当館主任学芸員)

30名

友の会会員、福島日仏協会会員のためのギャラリートーク〈ボーシャンの庭を散策〉

6月 5日(土) 吉村有子(当館主任学芸員)

10名

概要

フランス素朴派の画家アンドレ・ボーシャン(1873—1958)の初期作品から最晩年の作品まで85点を一堂に展示。園芸師だったボーシャンの代表作である花を描いた作品をはじめ、神話画、歴史画、肖像画など、バラエティに富む85点の作品によって、建築家ル・コルビュジエや画家オザンファンらに称賛された天真爛漫な創作世界を紹介した。

会期中には、大人向けのギャラリートークの他に、子供向けのキッズ・レクチャーを開催。当館と郡山市立美術館が共同で開発した美術鑑賞用補助教材「アート・キューブ」を使い、ゲーム感覚で楽しく展覧会を見学した。

(3) 「胸騒ぎの夏休み イチハラ×やなぎ×ヤノベ×小沢=∞、美術館で熱くなれ!」展

会期 7月17日(土)～8月29日(日)

分野 現代美術

展示数 90点

主催 福島県立美術館

共催 福島県立美術館協力会

助成 芸術文化振興基金 株式会社資生堂

観覧料 一般・大学生600(480)円 高校生300(240)円
小・中学生200(160)円

観覧者数 4,747人

関連事業

対談

7月17日(土) 「婆が笑う」

やなぎみわ氏(出品作家)

内藤正敏氏(写真家・民俗学者) 50名

ワークショップ

8月1日(日) 「わくわくドキドキ世界一決定戦—FINAL」

企画 イチハラヒロコ氏(出品作家)

講師 美術家・京都造形大学講師

箭内新一氏 武田俊彦氏 20名

ラッキードラゴン・デー

8月6日(金)13:30～16:00

ワークショップ&ファイヤー・パフォーマンス「ラッキードラゴンとトラやんの夏休み」

橋本淳也(当館主任学芸員) 33名

17:00～18:30

アーティストトーク「ラッキードラゴンに出会うまで」

ヤノベケンジ氏(出品作家) 50名

19:00～20:00

コンサート&ファイヤー・パフォーマンス「ラッキードラゴンのおはなし」

進行 ヤノベケンジ氏
 映像 青木兼治氏
 演奏 LUCKY DRAGON UNLIMITED IM
 AGINATION TRIO
 (ヤマダタツヤ+ヤマダアン
 ナ+成井幹子) 200名

アーティストトーク

8月8日(日) 13:30～15:00

「アーティストの旅」

小沢剛氏(出品作家) 30名

ふくしまFM・吉田慶子「一枚の写真から」公開録音

8月8日(日) 15:30～17:00

出演 吉田慶子氏(ボサノヴァ歌手)

小沢剛氏(出品作家)

中村由利子氏(作曲家・ピアニスト) 200名

学校連携共同ワークショップ

「ベジタブル・ウェポン プロジェクト」《中学生対象》

講師 小沢剛氏(出品作家)

【双葉郡檜葉町立檜葉中学校】

6月29日(火) 7月6日(火)

2年生27名 担当教諭 廣川豪氏

【福島市立福島第四中学校】

7月5日(月) 7月14日(水)

美術部25名 担当教諭 高萩弘一氏

「わくわくドキドキ世界一決定戦！」《高校生対象》

講師 箭内新一氏(美術家・京都造形大学講師)

武田俊彦氏(美術家・京都造形大学講師)

企画 イチハラヒロコ氏(美術家・出品作家)

【福島県立福島明成高等学校】

7月8日(木)

3年生63名 担当教諭 伊藤靖幸氏

担当教諭 小田孝二氏

【福島県立福島西高等学校】

7月9日(金)

1～3年生13名 担当教諭 赤城修司氏

概要

国内外で活躍する現代作家4人の展覧会。

今を生きる女性の本音を、「愛と笑い」に満ちた言葉によって表現してきたイチハラヒロコ。老若あるいは生と死やジェンダーをテーマにした演劇性の強い写真や映像を制作するやなぎみわ。核の存在を常に意識せざるを得ない終末的な現代社会を生きのびるための、ユニークな機械彫刻を作り出してきたヤノベケンジ。アートによって世界を身近な視点から捉え直してみようと、奇想天外なプロジェクトを实践する小沢剛。アートと現代社会の関わりを考える展覧会。夏休みということもあり、ワークショップやイベントを通して楽しく、アートに触れる機会を提供した。

(4) 古代エジプト 神秘のミイラ展

会期 9月18日(土)～12月5日(日)

分野 絵画 彫刻 工芸

展示数 200点

主催 福島県立美術館 福島民報社 福島テレビ

企画・監修 オランダ国立古代博物館

観覧料 一般1,200(1,000)円 高校・大学生 800(600)円 小・中学生600(400)円

観覧者数 64,700名

関連事業

記念講演

10月2日(土) 「古代エジプト研究最前線」

近藤二郎氏(早稲田大学文学学術院教授) 100名

特別講義1

9月25日(土) 「パンとビールの国～古代エジプトを味わう」

中野智章氏(中部大学准教授) 30名

特別講義2

11月13日(土) 「古代エジプトの言葉と文字ー展示品のヒエログリフを読んでみようー」
永井正勝氏(筑波大学准研究員)100名

実技講座

「失われた画術ーエンカウスティック：ミイラ達の絵画技法」

4回連続 10月9日(土) 10月10日(日)

10月16日(土) 10月17日(日)

赤木範陸氏(横浜国立大学教育人間科学部准教授) 12名

鑑賞講座

9月30日(木) 10月23日(土) 11月27日(土)

計120名

概要

オランダ国立考古学博物館所蔵資料のなかでも世界屈指のエジプト・コレクション。その中から大変貴重な史料200点を借用し、公開した。2650年前のミイラをはじめ、美術品としても素晴らしい副葬品や華麗な装飾品、美しい「死者の書」、そしてヒエログリフを解読した学者・シャンポリオンの原稿など、古代エジプト人の死生観をめぐる謎と神秘に迫った。

(5) 追悼・伊砂利彦展

会期 1月15日(土)～2月13日(日)

分野 工芸

展示数 45点

主催 福島県立美術館

観覧料 無料

概要

2010年3月に85歳で死去した伊砂利彦の一周忌にあたり、その活動を回顧。

自然を深く観察することをとおして生み出された斬新

な模様は、京都の作家ならではの的確な技術で形にされ、日本の染織界に新たな創造の世界を提示した。当館所蔵の45点によってその活動の全容を紹介するものとなった。

関連事業

ギャラリートーク

1月15日(土) 佐治ゆかり(当館主任学芸員) 15名

1月29日(土) 佐治ゆかり(当館主任学芸員) 15名
コンサート

2月6日(日) 青柳いづみこ氏(ピアノ奏者) 250名

(6) スタジオジブリ・レイアウト展

会期 2月26日(土)～3月11日(金)

分野 絵画(素描)

展示数 1,300点

主催 福島県立美術館 福島民友新聞社

観覧料 一般・大学生1,200(1,000)円 中・高校生
900(700)円 小学生600(400)円

観覧者数 8,831名

概要

「風の谷のナウシカ」などで知られるスタジオジブリ映画の創作の秘密に迫る展覧会。日本テレビ、ジブリ美術館他の企画による全国巡回展で、福島民友新聞社との実行委員会方式によって開催した。

スタジオジブリは、高畑勲、宮崎駿両監督の作品を中心に、質の高いアニメーション映画を制作して国民的な人気を博している。本展では、ジブリ映画の制作過程において重要な位置を占める「レイアウト」と呼ばれる画稿を展示した。県内のみならず東北各地から熱心なジブリファンが訪れ大きな反応があったが、駐車場不足や観客誘導など、今後に向けて課題も残したといえる。

なお、本展は3月11日発生の東日本大震災の影響により会期途中で臨時休館を余儀なくされたが、関係機関の協力により会期を延長して再開することとなった。

※震災前の会期 2月26日(土)～5月22日(日)

※震災後の会期 4月26日(火)～7月3日(日)

第4節 調査研究事業

1 調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

2 重点調査研究事項

昨年度に引き続き、版画家斎藤清関連資料(書簡、下絵等)の調査を重点的に行った。

第5節 普及事業

ものをつくる楽しみ、美術をより深く知る喜びを得る機会を提

供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、美術館への年賀状展、学校と連携しての出張実技講座を行っている。

1 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

団体総数は170件6,559名、そのうち解説を行ったのは96団体4,543名である。

2 美術館・学校教育連携事業

(1) 先生のための美術館入門

県内の先生を対象として広く参加者を募り、学校と美術館を取りまく現状や問題点を直接話し合い、情報交換する中で、実践的で継続的な連携活動が展開できる密接な関係を築く目的で開催している。

今年度は先生の研究会や研修会に会期を揃えて開催した。「教師のための優しい美術館ガイドブック「美術館を楽しもう!」をもとに美術館の利用方法や活動実践例を紹介し、鑑賞用補助教材「アート・キューブ」の使用実践例を報告・検証した。そして開催中の展覧会を鑑賞しながら内容と見どころを解説した。

7月22日(木) 胸さわぎの夏休み展 小学校教員53名

8月5日(日) 胸さわぎの夏休み展 中学校教員40名

11月18日(木) 古代エジプト・神秘のミイラ展
中学校教員11名(福島県教育センター共催)

(2) 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに、美術館と学校と作家が共同で開催する先進的な連携活動である。具体的には、子どもたちが作家と交流する生の機会として、学校を会場とした実技を含む「出張ワークショップ」を開催している。通常の学校の授業ではあまり扱われていない新しい技法や手法、素材などに触れるとともに、クラス単位にこだわらずに活動できる場を設定するなど、子ども達の興味・関心を高めるよう配慮している。また、美術館も学校を訪問することで協力関係をより密にし、美術館への来館を促す一方、通常美術館を利用しづらい地域の学校への文化事業の還元を図る。

今年度は企画展「胸さわぎの夏休み」に関連して開催。完成した生徒作品は企画展示室で展示した。

「ベジタブル・ウェポン プロジェクト」《中学生対象》

講師 小沢剛氏(出品作家)

【双葉郡檜葉町立檜葉中学校】

6月29日(火) 7月6日(火)

2年生27名 担当教諭 廣川豪氏

【福島市立福島第四中学校】

7月5日(月) 7月14日(水)

美術部25名 担当教諭 高萩弘一氏

「わくわくドキドキ世界一決定戦!」《高校生対象》

講師 箭内新一氏(美術家・京都造形大学講師)

武田俊彦氏(美術家・京都造形大学講師)
企画 イチハラヒロコ氏(美術家・出品作家)

【福島県立福島明成高等学校】

7月8日(木)

3年生63名 担当教諭 伊藤靖幸氏
担当教諭 小田孝二氏

【福島県立福島西高等学校】

7月9日(金)

1~3年生13名 担当教諭 赤城修司氏

3 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導している。

7月27日(火)~8月1日(日) 6日間 9名

4 その他の事業

(1) 県立図書館との連携事業

「アートなおはなし会」

内容

小学生とその保護者を対象にした、図書館での絵本の読み聞かせ、本の紹介と美術館展示室でのアート・キューブを使った鑑賞会

講師 佐藤真理恵氏・小林沙織氏(福島県立図書館司書)
真柴毅氏(教材開発者・福島県立本宮高等学校教諭)
富岡進一氏(郡山市立美術館学芸員)
吉村有子・橋本淳也(当館主任学芸員)

7月31日(日) 午前 小学生31名
午後 小学生18名 保護者8名

5 鑑賞講座

(1) 館長特別講座

毎月1回 年間11回(4~2月)開催

〈近代の日本美術を語る〉

講師 酒井哲朗(当館館長) 延べ150名

(2) キッズ・レクチャー

当館開発の美術鑑賞用教材〈アート・キューブ〉を使って、美術館コレクション展を楽しむ小学生対象の講座。

講師 橋本淳也(当館主任学芸員)

2月13(日) 小学生4名(保護者4名)

*アンドレ・ボーシャン展関連

6月6日(日) 小学生8名(保護者7名)

6 実技教室

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術創作と鑑賞の理解を深める一助とする目的で、各種プログラムを実施している。

(1) 実技講座

「裸婦を描く」

講師 北折整氏(東北生活文化大学生活美術科教授)

5月30日(日) 6月6日(日) 6月13日(日)

6月20日(日) 12名

「失われた美術 - エンカウスティーク: ミイラ達の絵画技法」

講師 赤木範陸氏(横浜国立大学人間科学部准教授)

10月9日(土) 10月10日(日) 10月16日(土)

10月17日(日) 9名

「木彫で作る身近な生き物」

講師 新井浩氏(福島大学人間発達文化学類教授)

10月30日(土) 10月31日(日) 11月7日(土)

11月14日(日) 11月21日(日) 11月28日(日) 8名

(2) 技法講座

「紙で作るポップなオブジェ」

講師 安座上真紀子氏(造形作家)

8月28日(土) 8月29日(日) 13名

(3) 親と子の美術教室

「紙でつくる夢の家-私がハウスプランナーだったら」

講師 三浦浩喜氏(福島大学人間発達文化学類教授)

5月5日(水) 小学生とその親9組21名

「ビックリ工作連発大会」

講師 芳賀哲氏(角田幼稚園園長)

9月26日(日) 小学生とその親7組16名

「金属でつくる Xmasキャンドルスタンド」

講師 佐々木里恵氏(金属造形作家「空工房」主宰)

12月23日(日) 小学生とその親7組20名

(4) わんぱくミュージアム

企画展「胸さわぎの夏休み展」関連ワークショップ&ファイヤーパフォーマンス

「ラッキードラゴンとトラやんの夏休み」

講師 橋本淳也(当館主任学芸員)

大学生ボランティアスタッフ

8月6日(土) 33名

県立美術館・図書館にアクアマリンがやってくる! 関連ワークショップ

「アートな水族館」

講師 橋本淳也(当館主任学芸員)

11月20日(土) 21名

(5) 一日創作教室

「超軽量粘土で作る~彫刻のスピードレシピ」

講師 久慈 伸一(当館主任学芸員)

7月18日(日) 12名

「スクラッチボードによる表現」

講師 久慈 伸一(当館主任学芸員)

12月2日(日) 5名

(6) 親子で安心・手作りアート教室

「糸のこで作る木のおもちゃ」

講師 中井秀樹氏(木のおもちゃ作家)

2月6日(日) 5組11名

「七宝でつくるアートな動物」

講師 春田幸彦氏(七宝彫金造形作家)

3月6日(日) 6組16名

7 美術館への年賀状展

県内の小中学生から寄せられた心のこもった手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示。

会期 1月10日(月)～1月30日(日)

応募数 小学生710枚 中学生10枚 学年不明その他3枚
合計 723枚

8 友の会、協力会との連携

(1) 友の会対象の鑑賞講座、ギャラリー・トーク

企画展ごとに各1回開催

(2) ミュージアム・コンサート

友の会との共催

5月28日(金) 「華麗なるチェンバロの響き」
村木洋子氏(チェンバロ奏者)
林裕希氏(楽器製作者 楽器解説)
2月6日(日) 「音とかたちの出会い・青柳いづみこのドビュッシー」
青柳いづみこ氏(ピアノ)

(3) 友の会対象の研修旅行

5月29日(土) 新潟県立近代美術館・北方文化博物館 29名
11月14日(日) 松島・瑞巖寺、宮城県美術館探訪 17名

(4) 友の会対象の実技講座

「スクラッチボードに描く」

講師 久慈伸一(当館主任学芸員)

9月11日(土) 友の会会員10名

「アクリル技法Ⅱ」

講師 久家三夫氏(郡山女子短期大学部教授)

1月22日(土)・1月23日(日)

友の会会員10名

(5) アート・チャリティーバザー

11月23日(月) 於：福島大学如春荘

第 16 章 福島県立博物館

第 1 節 概要

1 運営の概要

福島県立博物館は資料収集・保存管理・常設展・企画展・調査研究・教育普及事業を中心に内容の充実を図っている。

今年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

2 運営協議会

(1) 委員

学校教育	古川 満里子	県小学校長会代表
	渡部 裕二	県中学校長会代表
	渡部 裕一	県高等学校長協会代表
社会教育	富田 孝志	財団法人福島県文化振興事業団理事長
	外島 正弘	県公民館連絡協議会代表
学識経験者	佐藤 弘子	公立大学法人会津大学非常勤講師
	伊藤 豊松	喜多方市文化財保護審議会会長
	井上 禮子	会津若松市教育委員会委員
	渡辺 紀子	公募による選任
	新国 勇	公募による選任

(2) 会議

平成 22 年 6 月 25 日

ア 平成 22 年度事業計画について

イ その他

平成 23 年 2 月 18 日

ア 平成 22 年度事業の実施概要について

イ 平成 23 年度事業計画について

ウ 福島県立博物館の中期目標について

エ その他

第 2 節 調査研究事業

1 展示資料調査研究

(1) 考古資料の材質・製作技法に関する研究

ア 県内古墳出土鉄製品の復元的研究

(2) 展示室における効果的な歴史理解に資する歴史資料の研究

ア 古代：県域の地名、人名、社寺名等が見られる古代史資料の所在調査

イ 中世：本県ゆかりの武将関係資料および絵図類の所在調査

ウ 近世：本県ゆかりの大名関係・地方関係資料の所在調査、幕末資料の所在調査

エ 近・現代：本県出身の著名人の関連資料調査、近・現代の行政・政治・教育資料調査ほか

(3) 福島県における衣生活文化の研究

ア 県内各教育委員会等施設所蔵資料の調査

イ 関連する伝承技術等の調査

(4) 福島県域の大名文化に関する研究

ア 県域諸藩の大名ゆかりの工芸品調査

イ 県域社寺所蔵の工芸品調査

(5) 恐竜時代のふくしまに関する研究

ア 相馬地域に分布するジュラ～白亜紀の相馬中村層群の野外地質調査

イ ジュラ～白亜紀の貝類化石のコレクション調査

第 3 節 収集整理事業

1 収集展示委員会

博物館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12名の委員を委嘱している。

(1) 収集展示委員会委員

氏 名	役 職 名	備 考
岡 田 茂 弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	委員長
有 賀 祥 隆	元東北大学教授	委員
入間田 宣夫	東北芸術工科大学教授	〃
野 沢 謙 治	郡山女子大学短期大学部教授	〃
岡 田 清 一	東北福祉大学教授	〃
斎 藤 常 正	元東北大学理学部教授	〃
平 川 南	国立歴史民俗博物館館長	〃
原 田 一 敏	東京国立博物館上席研究員	〃
村 川 友 彦	福島県史学会会長	〃
佐々木 利和	国立民族学博物館教授	〃
柳 田 俊 雄	東北大学総合学術博物館教授	〃
渡 邊 一 雄	福島県考古学会顧問	〃

(2) 審議内容

平成22年度は会議の開催は休止され、書面による審議を行った。

ア 平成 22 年度事業の実施概要について

イ 平成 23 年度事業計画について

ウ 平成 23 年度の企画展について

エ 平成 23 年度の特集展について

オ 中期目標、および使命について

カ その他

2 資料調査員会議

博物館資料の収集等に関する県内の詳細な情報を得るため、平成 20 年度まで、毎年 14 名の資料調査員を委嘱し、情報の提供を受けてきた。しかし、平成 21 年度に引き続き、本年度も予算規模縮小により、資料調査員の委嘱及び調査員会議の開催は休止された。

3 資料収集

(1) 受贈・受託資料

ア 歴史資料

*受贈	漆器資料 他	2 件	個人
	東都高名会席盡し 他	11 件	個人
	日乗（石井研堂日記） 他	27 件	個人
	東海道五十三次 他	13 件	個人
	文机	1 件	個人
	扇風機	1 件	個人
*受託	篠澤家文書	一括	個人
	盛秀知行免許状 他	2 件	個人
	紙本着色蒲生氏郷像	1 件	西光寺
	絹本着色飯豊山山道絵図 他	4 件	飯豊山神社
	第三十一国立銀行券五円券 他	3 件	個人
	松平容保和歌短冊・書状	1 件	個人
	牛澤組絵図 他	3 件	個人
	牛澤組絵図 他	3 件	
	会津坂下町教育委員会教育長		

イ 美術資料

*受贈	蒔絵図案集、会津漆器図案集	2 件	個人
*受託	芋銭落款「鎌風来図」	1 件	個人
	渡辺東郊「白虎隊自刃図」	1 件	個人
	朱塗瓶子 他	3 件	個人

ウ 民俗資料

*受贈	棺台	1 件	個人
	子ども綿入れ 他	2 件	個人
	炭火アイロン 他	7 件	個人
	8 ミリ映写機 他	5 件	個人
	8 ミリフィルム「哀しみの蒸気機関車」	1 件	個人
	8 ミリフィルムカメラ 他	2 件	個人
	板かるた	1 件	個人
	嶋台 他	2 件	個人
	8 ミリフィルム映写機 他	3 件	個人
	8 ミリフィルムエディター 他	4 件	個人

エ 考古資料

*受贈	三葉環刀把頭 他	2 件	個人
*受託	荒屋敷遺跡出土資料	一括	
	三島町教育委員会教育長		

オ 自然資料

*受贈	布沢層 コシオリエビ化石	1 件	個人
	玉山層産動物化石 他	286 件	個人
	反射実体鏡	1 件	個人
	気象観測機器	4 件	
	（個人 3 件、若松測候所 1 件）		
	若松測候所関連資料（写真）	10 件	
	若松測候所		
*受託	南極観測試料および器材	67 件	個人

(2) 購入資料

ア 一次資料

*美術資料	浦上秋琴筆「秋溪独釣図」	1 件
*自然資料	硬骨魚類化石	2 件
	古生代サンゴ化石 他	18 件

イ 二次資料

*図 書	考古分野 43 冊、歴史分野 34 冊、美術分野 33 冊、民俗分野 38 冊、自然分野 54 冊、保存分野 14 冊、その他 2 冊	計 218 冊
------	---	---------

第4節 保存管理事業

1 収集資料数

資料受入れ時点における件数(概数)の、現在までの累計を示す。

(平成 23 年 3 月 31 日現在)

分野	件数	備 考
考古	18,488	土器・石器・金属器ほか
民俗	12,719	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	20,940	書跡・文書資料ほか
美術	6,108	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	48,023	化石・岩石・鉱物ほか
合計	106,278	

2 資料の整理

データベース入力済みの登録資料の件数を示す。

(平成 23 年 3 月 31 日現在)

分野	資料データ入力件数 (平成22年度)	資料データ入力件数 (累 計)
考古	397	10,833
民俗	729	13,833
歴史	3,093	35,507
美術	468	6,211
自然	619	21,875
合計	5,306	87,802

3 資料の保存

(1) 防虫作業等

ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、室内塵埃中昆虫、気相（酸・アルカリ度、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの濃度）及び温度、

湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の変化を確認するため、7月6日～7月23日、11月16日～12月10日の2回にわたり実施した。

イ 燻蒸庫による燻蒸

第1回(5月28日)～第3回(3月25日)まで、新収蔵資料および企画展出品資料を中心に約416件の燻蒸をした。

4 資料撮影

(1) マイクロフィルム撮影 2,200 コマ

5 資料の貸出

資料名	貸出先	期間	展覧会名
桜井遺跡出土遺物 54点	南相馬市博物館	4月1日～平成23年3月31日	同館常設展
三貫地貝塚出土骨角器 5点	福島県文化財センター白河館(まほろん)	4月1日～平成23年3月31日	同館常設展「暮らしをささえた道具たち」
新生代植物化石 14点	ふくしま海洋科学館(アクアマリンふくしま)	4月1日～平成23年3月31日	同館常設展「いわき地方の化石」
パレオパラドキシア築川標本関連資料 18点	仙台市科学館	7月1日～8月31日	「タイムスリップ!!絶滅ホニウ類ワールド～恐竜にかわる地球の支配者たち～」
福島市穴田遺跡出土猪形土製品 1点・三島町荒屋敷遺跡出土木製品(斧柄) 2点・トチの実 20点・磨製石斧復元品・森の写真パネル 1点	福島県文化財センター白河館(まほろん)	6月18日～9月3日	ふくしま森林文化企画展「原始・古代の森と人との共生」
三貫地貝塚出土資料 4点	大阪府立弥生文化博物館	7月3日～9月20日	特別展「MASKー仮面の考古学ー」
松平定信像	栃木県立博物館	9月23日～11月23日	改革と学問に生きた殿様ー黒羽藩主大関増業ー

資料名	貸出先	期間	展覧会名
日新館教授之図(詞書・素読学習図・礼法学習図・槍術稽古図)・沢田名垂和歌	若松城天守閣郷土博物館	10月10日～11月30日	秋期企画展「日新館」
阿弥陀寺関係資料 17件 28点	南相馬市博物館	10月27日～12月9日	特別展「鹿島の寺院展ー指定文化財を中心にしてー」
大窪横穴墓群出土資料 18点・真野古墳群出土資料 14点・黒木田遺跡出土資料 1点	南相馬市博物館	平成23年1月8日～3月6日	企画展「国史跡指定記念 古代陸奥国・行方の郡家ー国史跡・泉官衙遺跡ー」
須賀川市跡見塚古墳出土ガラス玉・管玉・切子玉・勾玉 8件 318点	須賀川市立博物館	平成23年1月25日～平成24年1月24日	常設展「須賀川の歴史」

第5節 展示事業

1 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間のテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。部門展示の歴史美術は常設展示の中ではギャラリー的な役割を受け持ち、年間7～8回のテーマに沿ったミニ展示を開催している。

平成20年度から始まったテーマ展とポイント展という展示が定着してきた。各分野がそれぞれ工夫した展示を展開することによって、常設展に新しさや変化を加えることができた。

常設展示内では展示資料を固定化しないという開館当初からの考えがあったし、また、これまでも部分的な展示替えが行われてきた。しかし、各分野がそれぞれにテーマ展やポイント展を工夫することによって、常設展を全体的に少しずつリフレッシュさせる効果をだすことができた。

なお、考古分野では、部門展示室を用いて、「ふるさとの考古シリーズ」を約1年間を単位として開催することとなった。平成22年度は「会津若松市遺跡探訪」として、会津若松市教育委員会の発掘調査資料の主要なものを同市教育委員会の協力を得て展示し好評を博することができた。

(ア) テーマ展

常設展エリア内において、収蔵品を中心として特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。

ア 「会津の茶の湯－会津本郷焼と会津漆器の名品－」(部門展示室歴史・美術)

平成22年4月17日(土)～5月30日(日)

イ 「ふるさとの考古資料Ⅰ 会津若松市遺跡探訪」(部門展示室考古) 会津若松市教育委員会との共催

平成22年5月29日(土)～平成23年5月15日(日)

ウ 「昭和のくらし－あの頃の家電製品－」(総合展示室近・現代)

平成22年6月8日(火)～平成23年3月21日(月)

エ 「白虎隊の図像学」(部門展示室歴史・美術歴史)

平成22年6月12日(土)～8月1日(日)

オ 「けんぱくの宝2010」(部門展示室歴史・美術)

平成22年8月7日(土)～9月12日(日)

カ 「相馬地域の干拓」(総合展示室自然と人間)

平成22年9月7日(火)～平成23年3月31日(木)

キ 「ふくしまの画人たち～遍歴の画人春日光親～」(部門展示室歴史・美術)

平成22年12月4日(土)～平成23年1月9日(日)

ク 「書に込めた心」(部門展示室歴史・美術、エントランスホール)

平成23年1月15日(土)～2月13日(日)

ケ 「天神さま－絵巻物から郷土玩具まで－」(部門展示室歴史・美術)

平成23年2月26日(土)～4月17日(日)

(イ) ポイント展

常設展エリア内において、収蔵品を中心として特別に資料を公開する「ポイント展」を実施した。

ア 「笹山原遺跡群の旧石器」(総合展示室原始)

平成22年4月20日(火)～5月28日(金)

イ 「三角縁神獣鏡と会津の銅鏡」(総合展示室古代)

平成22年4月20日(火)～9月26日(日)

ウ 「恵日寺絵図」(総合展示室古代)

平成22年4月22日(木)～5月26日(水)

エ 「腕足類ってなに？」(部門展示室自然)

平成22年4月24日(土)～6月4日(日)

オ 「化石でみるブナ林－落葉広葉樹帯の起源をさぐる－」(部門展示室自然)

平成22年7月6日(火)～9月5日(日)

カ 「風船爆弾の気球」(総合展示室近・現代)

平成22年7月7日(水)～9月14日(火)

キ 「落下傘でつくった着物」(部門展示室民俗)

平成22年7月22日(木)～8月22日(日)

ク 「沼沢出雲守家臣連判状－時を超えた主従の絆－」(収蔵資料展示室)

平成22年9月2日(木)～9月26日(日)

ケ 「相馬岡田文書－鎌倉武士の実像－」(総合展示室中世)

平成22年9月2日(木)～10月11日(月)

コ 「桧原湖の埋没林－磐梯山の噴火で埋没した旧桧原村落周辺の樹林－」(総合展示室自然と人間)

平成22年9月7日(火)～平成23年3月27日(日)

サ 「死者を見守る顔」(総合展示室原始)

平成22年9月11日(土)～10月31日(日)

シ 「和同開珎」(総合展示室古代)

平成22年9月11日(土)～11月23日(火)

ス 「あの世に旅立つとき」(部門展示室民俗)

平成22年10月1日(金)～11月30日(金)

セ 「ふくしま教育のあゆみ－謄写版印刷の道具－」(総合展示室近・現代)

平成22年10月19日(火)～11月30日(火)

ソ 「国会開設とふくしま」(部門展示室歴史・美術)

平成22年10月19日(火)～12月19日(日)

タ 「おばあちゃんの記憶－こたつ掛け－」(部門展示室民俗)

平成22年12月1日(水)～平成23年1月30日(日)

チ 「塩沢上原 A 遺跡の石器」(総合展示室原始)

平成22年12月4日(土)～平成23年3月27日(日)

ツ 「会津孝子伝」(総合展示室近世)

平成23年1月13日(木)～3月30日(水)

テ 「小さな雛まつり」(部門展示室民俗)

平成23年2月22日(火)～4月3日(日)

2 企画展示

(1) 春の企画展「千少庵と蒲生氏郷」

平成22年4月17日(土)～5月30日(日)

入館者数 7,578 人

千利休の茶の精神やそれを受け継いだ千少庵と蒲生氏郷の茶の湯をゆかりの品から紹介するとともに、会津を治めた蒲生氏郷と同時代の武将たちの足跡を紹介した。

・講演会「千家の再興－少庵と氏郷－」

講師 茶道資料館副館長 筒井紘一氏

5月1日(土)13:30～15:00

・展示室講座第1回「氏郷の生涯－『蒲生記』を読む1」

講師 学芸員 高橋充

4月17日(土)13:30～15:00

・展示室講座第2回「会津の茶の湯」

講師 学芸員 小林めぐみ

4月29日(木)13:30～15:00

・展示室講座第3回「氏郷以降の蒲生家－『蒲生記』を読む2」

講師 学芸員 高橋充

5月8日(土)13:30～15:00

・展示室講座第4回「茶の湯にみるやきもの」

講師 茶道資料館学芸員 降矢哲男氏

5月30日(土)13:30～15:00

・展示解説会

講師 学芸員 小林めぐみ・高橋充

4月25日(日)15:30～16:30

5月3日(月)13:30～14:30

- ・まちなか茶会第 1 回「野口英世青春通りおもてなし茶会」
講師 福島県立会津工業高校生・教諭他
5 月 8 日(土)13:30～15:30
会場 紀州屋「1934」
(会津若松市野口英世青春通り)
- ・まちなか茶会第 2 回「野口英世青春通りおもてなしトーク」
講師 きむらとしろうじんじん氏(陶芸家・美術家)
佐藤正道氏(会津工業高校教諭)
5 月 23 日(月)13:30～16:00
会場 紀州屋「1934」
(会津若松市野口英世青春通り)
- ・御薬園茶懐石講座「江戸時代後期の会津の茶会記から」
講師 伝統料理研究家 平出美穂子氏
学芸員 小林めぐみ
5 月 9 日(日)11:00～14:00
会場 御薬園
- ・「アクアマリンふくしま潮風アート茶会」
5 月 16 日(日)11:00～15:00
会場 アクアマリンふくしま(いわき市)

(2) 夏の企画展「森に生き山に遊ぶ！ーふくしまの森林文化ー」

平成 22 年 6 月 26 日(土)～8 月 22 日(日)

入館者数 12,588 人

森林環境税による展示会で、県内 5 つの文化施設(福島県文化センター、福島県文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、うつくしま県民の森フォレストパークあだたら)が連携して開催した。

- ・オープニングセレモニー
出席者 福島県知事、参加 5 館館長他
6 月 26 日(土)9:30～10:00
会場 博物館エントランスホール
- ・オープニングトーク「森林から未来へ」
出席者 参加 5 館館長
10:30～12:00
会場 博物館講堂
- ・記念トーク「明日を素敵に生きるには」
講師 福島県しゃくなげ大使 安藤和津氏
13:00～14:30
会場 博物館講堂
- ・アクアマリン移動水族館
6 月 26 日(土)11:00
- ・樹木観察会「鶴ヶ城の樹木」
福島県植物研究会会員・会津生物同好会員 蓮沼憲二氏
7 月 11 日(土) 10:00～12:00
場所 鶴ヶ城
- ・対談「山の技術と資源の活用ー吉野と熊野のフィールドからー」
講師 東北学院大学講師 加藤幸治氏
奈良県教育委員会 森本仙介氏

7 月 17 日(土) 13:30～15:00

会場 博物館講堂

講演「森は動いているー樹木の長い一生を科学するー」

講師 東北大学大学院生命科学研究科教授 中静 透氏

7 月 18 日(日) 13:30～15:00

会場 博物館講堂

・対談「会津の森を語りあかそう」

講師 山口大学教授 湯川洋司氏

当館専門員 佐々木長生

会場 博物館講堂

8 月 1 日(日) 13:30～15:00

・実演「いろいろ実演いろいろ体験 手挽きろくろ」

講師 木地師 紀 治男氏

木地師研究家 金井 晃氏

協力 奥会津博物館

8 月 8 日(日) 11:00～15:00

会場 博物館実習室・体験学習室

(3) 秋の企画展「漆のチカラ」

平成 22 年 10 月 9 日(土)～11 月 28 日(日)

入館者数 4,013 人

縄文時代から現代に至るまで連綿と続く会津と漆の関係を振り返りながら、漆文化の奥深さを紹介するとともに、現在活躍する漆を素材として用いている作家の作品から、これからの漆表現の可能性を探った。

・アーティストトーク

講師 藤田敏彰氏(漆造形家)、松島さくら子氏(漆造形家)、中島靖高氏(現代美術家)、保井智貴氏(現代美術家)

10 月 9 日(土) 13:30～15:00

・第 2 回三島学フォーラム 荒屋敷遺跡～漆とものづくり文化～「フィールドワーク」

講師 森幸彦(当館学芸員)、小松順太郎氏(三島町文化財専門委員)、五十嵐文吾氏(伝統工芸氏)、二瓶新永氏(伝統工芸士)

10 月 29 日(金) 13:00～

会場 道の駅みしま宿ビューポイント展望台→荒屋敷遺跡発掘箇所→大登地区

・第 2 回三島学フォーラム 荒屋敷遺跡～漆とものづくり文化～「座学」

講師 四柳嘉章氏(石川県輪島漆芸美術館長)、赤坂憲雄(当館館長)、森幸彦(当館学芸員)

11 月 23 日(月) 13:30～15:00

会場 三島町交流センター山びこ

・講演会「漆の文化史ー9000 年の時を超えて」

講師 四柳嘉章氏(石川県輪島漆芸美術館長)

10 月 31(日) 13:30～15:00

・「The Voice of (漆)」リーディングパフォーマンス

講師 吉増剛造氏(詩人)

11 月 2 日(火) 16:30～

会場 アルテマイスター保志(会津若松市本町)

- ・新作 Cine初公開「The Voice of (漆)－会津にて」
講師 吉増剛造氏（詩人）
11月3日（水） 13：30～
会場 アルテマイスター保志（会津若松市本町）
- ・ギャラリートーク
講師 小林めぐみ・大竹正浩（当館学芸員）
11月7日（日） 13：30～14：30
- ・ワークショップ「漆絵で my 箸を作ろう」
講師 めしもり山工房
11月13日（土） 13：30～15：00 時
11月14日（日） 10：30～12：00

(4) 特集展

企画展示室で企画展に準じた大規模な展示「特集展」を実施した。

ア 冬の特集展（まほろん移動展）「ふくしまの土偶」
平成22年12月7日（火）～平成23年1月30日（日）
入場者 1,804人

福島県文化財センター（まほろん）の移動展として、福島県内出土の土偶264点を展示した。

- ・講演会「土偶のはなし」
講師 前弘前大学人文学部教授 藤沼邦彦氏
平成23年1月16日（土）13：30～15:00

- ・展示解説会
講師 当館学芸員 森 幸彦
平成23年1月16日（土）15：10～16：30

イ 春の特集展「永山亘コレクション展－集め続けて30年、資料が語る炭鉱(ヤマ)のくらしー」
平成23年3月5日（土）～5月15日（日）
いわき市在住の永山亘氏が収集して、当館に寄贈した炭鉱関係資料の主要なものを展示した。採炭技術や炭鉱に生きた人々の生活などを紹介し、常磐炭田が戦後の経済復興に果たした役割などを取り上げた。
入館者数 5,762人（会期中の常設展入館者数）

- ・展示解説会
講師 常磐炭田史研究会 野木和夫氏
いわきヘリテージ・ツーリズム協議会 熊沢幹夫氏
平成23年4月30日（土）13：30～14：30

(5) 移動展「金冠塚古墳と勿来地区の飛鳥時代」

平成22年4月21日（水）～8月31日（火）
場所 いわき市考古資料館
入場者数 5,320人

福島県立博物館所蔵の金冠塚出土遺物と関連資料を展示して、勿来地区の飛鳥時代の歴史を探る。

講演会「金冠塚古墳と勿来地区の古墳時代」

- 講師 当館学芸員 横須賀倫達
平成22年4月25日（日）13：30～15：30
展示解説会

講師 いわき市考古資料館館長 樫村友延氏
平成22年4月25日（日）15時30分～16時

第6節 平成22年度行事

1 講座等

(1) 木曜の広場

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
『遠野物語』を読む1	赤坂憲雄	館長	4月1日(木)	111
『遠野物語』を読む2	赤坂憲雄	館長	5月6日(木)	118
『遠野物語』を読む3	赤坂憲雄	館長	6月3日(木)	99
『遠野物語』を読む4	赤坂憲雄	館長	7月1日(木)	83
『遠野物語』を読む5	赤坂憲雄	館長	8月5日(木)	76
『遠野物語』を読む6	赤坂憲雄	館長	9月2日(木)	86
『遠野物語』を読む7	赤坂憲雄	館長	10月7日(木)	82
『遠野物語』を読む8	赤坂憲雄	館長	11月4日(木)	71
『遠野物語』を読む9	赤坂憲雄	館長	12月2日(木)	79
『遠野物語』を読む10	赤坂憲雄	館長	1月6日(木)	70
『遠野物語』を読む11	赤坂憲雄	館長	2月3日(木)	88
『遠野物語』を読む12	赤坂憲雄	館長	3月3日(木)	80

(2) 考古学講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
考古学講座「土器作り1」	大竹正浩 他	学芸員	7月24日(土)	17
考古学講座「土器作り2」	大竹正浩 他	学芸員	7月25日(日)	17
考古学講座「高校生のための考古学集中講座1」	田中 敏 他	学芸員	8月4日(水)	3
考古学講座「高校生のための考古学集中講座2」	田中 敏 他	学芸員	8月5日(木)	3
考古学講座「高校生のための考古学集中講座3」	田中 敏 他	学芸員	8月6日(金)	3
考古学講座「土器の野焼き」	大竹正浩 他	学芸員	9月26日(日)	30
考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」	横須賀倫達 他	学芸員	12月11日(土)	17

(3) 民俗講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
映像から学ぶ民俗学①「千歯扱き」	佐々木長生	学芸員	6月13日(日)	12
映像から学ぶ民俗学②「奥会津の木地師」	榎 陽介	学芸員	7月10日(土)	30
映像から学ぶ民俗学③「茂庭のくらし」	二瓶浩伸	学芸員	8月22日(日)	24
映像から学ぶ民俗学④「会津の初市」	佐々木長生	学芸員	1月8日(土)	28

(4) 歴史講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
漆の歴史シリーズ1「縄文時代漆の考古学」	森 幸彦	学芸員	6月5日(土)	56
漆の歴史シリーズ2「会津の戦国大名と漆」	高橋 充	学芸員	6月12日(土)	53
漆の歴史シリーズ3「築田家文書と漆」	阿部綾子	学芸員	6月19日(土)	58
漆の歴史シリーズ4「明治期子ども読み物に見える漆器」	佐藤洋一	学芸員	6月27日(日)	32
人物シリーズ1「戦国大名輩名氏と沼沢出雲守」	高橋 充	学芸員	9月4日(土)	112
人物シリーズ2「柴四朗・東海散士を読む」	佐藤洋一	学芸員	10月2日(土)	58
人物シリーズ3「国会開設と代議士・河野広中の誕生」	星 幸	学芸員	11月6日(土)	41
人物シリーズ4「書で読む戊辰戦争」	阿部綾子	学芸員	1月22日(土)	85
歴史講座「天神さま信仰の流れ」	真壁俊信	歴史学博士	3月5日(土)	37

(5) 美術講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
展示室講座1「白虎隊の図像学」	川延安直	学芸員	7月4日(日)	35
展示室講座2「けんぱくの宝2010」	川延安直・小林めぐみ	学芸員	9月11日(土)	18

(6) 自然史講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
野外講座「郡山で化石をさがそう」※郡山市ふれあい科学館との連携事業	竹谷陽二郎・相田 優	学芸員	5月22日(土)	40
みどりの地球をつくった植物たち—木村達明コレクションの中生代植物化石	小澤義春	学芸員	9月25日(土)	9
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司	鳥類研究家	11月14日(日)	8

(7) 指導者向け研修講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
福島県立博物館研修講座	二瓶浩伸 他	学芸員	8月19日(木)	11

(8) 実技講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
須賀川の絵のぼり製作・小旗作り	大野青峯・大野久子	伝統技術保持者	5月5日(水)	10
三島の編み組細工①「山ぶどう細工」	菅家藤一	伝統技術保持者	6月20日(日)	20
三島の編み組細工②「ひろろ細工」	菅家藤一	伝統技術保持者	9月12日(日)	21
布ぞうり作り①	土田晶子	エコの種代表	1月23日(日)	3
布ぞうり作り②	土田晶子	エコの種代表	2月27日(日)	2

(9) 実演

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
昔語り①	横山幸子	語り部	5月2日(日)	25
昔語り②	山田登志美	語り部	6月6日(日)	6
昔語り③	横山幸子	語り部	8月29日(日)	19
昔語り④	山田登志美	語り部	9月26日(日)	11

(10) 企画展開連行事

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
企画展開連展示「会津若松城・麟閣に捧げる会津ゆかりの四人展」(会場:会津若松城内・茶室麟閣)			5月12日(水)～ 5月27日(木)	
展示室講座第1回「氏郷の生涯—『蒲生記』を読む1」	高橋 充	学芸員	4月17日(土)	73
展示室講座第2回「会津の茶の湯」	小林めぐみ	学芸員	4月29日(木)	54
展示室講座第3回「氏郷以後の蒲生家—『蒲生記』を読む2」	高橋 充	学芸員	5月8日(土)	75
展示室講座第4回「茶の湯にみるやきもの」	降矢哲男	茶道資料館学芸員	5月30日(日)	103
「千少庵と蒲生氏郷」展示解説会	高橋 充・小林めぐみ	学芸員	4月25日(日)	24
「千少庵と蒲生氏郷」展示解説会	高橋 充・小林めぐみ	学芸員	5月3日(月)	30
「千少庵と蒲生氏郷」記念講演会	筒井絃一	茶道資料館副館長	5月1日(土)	220
野口英世青春通りおもてなしトーク 第1部:きむらとしろうじんじんさんトーク「野点屋さんの魅力」 第2部:高校生が作った天目茶碗〜会津工業高校の取り組み	きむらとしろうじんじんさん・佐藤正道	陶芸家・会津工業高校教諭	5月23日(日)	40
アクアマリンふくしま・福島県立博物館共催事業 アクアマリン・潮風アート茶会			5月16日(日)	300
御薬園茶懐石講座「江戸時代の会津の茶会記から」	平出美穂子・小林めぐみ	伝統料理研究家・学芸員	5月9日(日)	12
森林文化展オープニングトーク「森から未来へ」	藤本強・富田孝志・安部義孝・櫻村利道・赤坂憲雄	福島県文化財センター白河館長・福島県歴史資料館長・ふくしま海洋科学館長・ふくしまフォレスト・エコライフ財団理事長・福島県立博物館長	6月26日(土)	123
森林文化展記念トーク「明日を素敵に生きるには」	安藤和津	福島県しゃくなげ大使・エッセイスト	6月26日(土)	138
樹木観察会「鶴ヶ城の樹木」	蓮沼憲二	福島県植物研究会、会津生物同好会	7月11日(日)	25
森林文化展記念講演会「山の技術と資源の活用—吉野と熊野のフィールドから—」	加藤幸治・森本仙介	東北学院大学専任講師・天理大学非常勤講師	7月17日(土)	55
森林文化展記念講演会「森は動いている—樹木の長い一生を科学する—」	中静 透	東北大学大学院生命科学科学研究科教授	7月18日(日)	64
森林文化展記念講演会「会津の森を語り明かそう」	湯川洋司・佐々木長生	山口大学教授・学芸員	8月1日(日)	28
森林文化展実演「手引きろくろ」	紀 治男・金井 晃	技術保持者	8月8日(日)	30
アーティストトーク	藤田敏彰・松島さくら子・中島靖高・保井智貴	漆造形家・漆造形家・現代美術家・現代美術家	10月9日(土)	42
第2回三島学フォーラム 荒屋敷遺跡〜漆とものづくり文化〜「フィールドワーク」	森 幸彦・小松順太郎・五十嵐文吾・二瓶新永	学芸員・三島町文化財専門委員・伝統工芸士・伝統工芸士	10月29日(金)	50
第2回三島学フォーラム 荒屋敷遺跡〜漆とものづくり文化〜「座学」	四柳嘉章・赤坂憲雄・森幸彦	石川県輪島漆芸美術館長・福島県立博物館長・学芸員	10月30日(土)	50

講演会「漆の文化史—9000年の時を超えて」	四柳嘉章	石川県輪島漆芸美術館長	10月31日(日)	67
「The Voice of (漆)」リーディングパフォーマンス	吉増剛造	詩人	11月2日(土)	38
映像パフォーマンス「The Voice of (漆) —会津にて—」	吉増剛造	詩人	11月3日(水)	48
「漆のチカラ」ギャラリートーク	小林めぐみ・大竹正浩	学芸員・学芸員	11月7日(日)	22
ワークショップ「漆絵でmy箸を作ろう」	めしもり山工房のみなさん		11月13日(土)	17
ワークショップ「漆絵でmy箸を作ろう」	めしもり山工房のみなさん		11月14日(日)	17

(11) 特集展・テーマ展開連行事

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
テーマ展「ふるさとの考古資料1」関連講演会・報告会	穴沢咏光 他	前福島県考古学会長	7月31日(土)	165
講演会「土偶のはなし」	藤沼邦彦	前弘前大学教授	1月16日(日)	54

(12) ミュージアムイベント

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
(福島県立博物館・(財)会津若松文化振興事業団共催事業)「音の化石—イマジネーション」会津風雅堂ワークショップコンサート	会津市民オーケストラの皆さん・ワークショップ参加の子どもたち	会津市民オーケストラ	4月25日(日)	150
国際博物館の日記念事業「玄如節と会津の民謡」	玄如節顕彰会の皆さん	玄如節顕彰会	5月15日(土)	70
「ナイトミュージアム」for KIDS	各分野学芸員	学芸員	8月21日(土)	60
「コシエル ラ ムジカ セピア色の音楽会」	安ヶ平由希絵・神田由布子・渡部史子	コシエル ラ ムジカ	9月18日(土)	165
「友の会文化祭」	友の会の皆さん	友の会	10月17日(日)	450
クリスマスジャズコンサート「古代の千年後!？」	天田 透 他	ジャズフルーティスト	12月18日(土)	150
真冬の学習①「ふくしまの近代化遺産」	荒木 隆	福島県教育庁文化財課	1月15日(土)	27
真冬の学習②「会津の鉱山と近代化」	佐藤一男	元福島県近代化遺産総合調査委員会調査員	2月19日(土)	110

(13) for KIDS プログラム

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
「夏休み宿題相談会」①	各分野学芸員	学芸員	7月28日(水)	5
「夏休み宿題相談会」②	各分野学芸員	学芸員	7月29日(木)	12

(14) 会津漆の芸術祭関連事業

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
ワークショップ うぶすなアートラボ〜カミタマン！お子様は神様なんだな〜	出町光識	招待作家	7月12日(月)	50
ワークショップ うぶすなアートラボ〜カミタマン！お子様は神様なんだな〜	出町光識	招待作家	7月13日(火)	17
ワークショップ 漆の木を知ろう	辻 けい・谷口 吏	招待作家	7月16日(金)	17
ワークショップ「うるしのこぼしさん ぬりぬりお手伝い会」	はと	参加作家	8月28日(土)	40
ワークショップ「うるしのこぼしさん ぬりぬりお手伝い会」	はと	参加作家	8月29日(日)	38
坂内まゆこ(昭和村)ワークショップ	坂内まゆこ	招待作家	9月6日(月)	15
いらはらみつみ(三島町)ワークショップ	いらはらみつみ	招待作家	9月7日(火)	21
いらはらみつみ(三島町)ワークショップ	いらはらみつみ	招待作家	9月7日(火)	46
坂内まゆこ(昭和村)ワークショップ	坂内まゆこ	招待作家	9月8日(水)	8
ワークショップ 新聞紙を丸めて子豚を作ろう	山本伸樹	参加作家	9月13日(月)	50
ワークショップ 新聞紙を丸めて子豚を作ろう	山本伸樹	参加作家	9月15日(水)	50
オープニングセレモニー			10月2日(土)	226
赤坂憲雄ディレクターとめぐる会津・漆の芸術祭	赤坂憲雄	福島県立博物館長	10月2日(土)	8
パフォーマンス「空っぽの風景」+即興パフォーマンスライブ「SHINCOSHU」	山本伸樹・千葉瑠依子・中里広太・水沼慎一郎	参加作家・コンテナー・ボラリーダンサー・演奏家・演奏家	10月3日(日)	40
食と酒と漆の祭典			10月5日(火)	
山下裕二さんと語る「会津・漆の芸術祭」	山下裕二・赤坂憲雄	明治学院大学教授・福島県立博物館長	10月10日(日)	23
漆の楽器コンサート	ブルース・ヒューバー、カーティス・バスターソン	尺八奏者・箏奏者	10月16日(土)	113
ワークショップ「うるしころ」	井波 純・吾子可苗・会津大学短期大学部学生	招待作家・招待作家	10月16日(土)	17
ワークショップ「うるしころ」	井波 純・吾子可苗・会津大学短期大学部学生	招待作家・招待作家	10月17日(日)	21
会津・漆の旅(会津若松展示会場/工房編)	小林めぐみ	学芸員	10月17日(日)	6

トークイベント「漆で表現する」	青木千絵・青木洋介・吾子可苗・伊能一三・岩田俊彦・立岩朝子・早崎小夜子	各招待作家	10月23日(土)	37
パフォーマンス「漆(しつ)と雪(ゆき)と」	吉増剛造・杉原信幸・山形淑華	詩人・参加作家・参加作家・参加作家	11月2日(火)	31
ワークショップ「うるしころ」	井波 純・吾子可苗・会津大学短期大学部学生	招待作家・招待作家	11月3日(水)	25
会津・漆の旅(喜多方展示会場/漆植栽地見学)	川延安直・NPO法人はるなか漆部会のみなさん	学芸員	11月6日(土)	6
ワークショップ「うるしのこぼしさん むりぬりお手伝い会」	はと	参加作家	11月13日(土)	30
ワークショップ「うるしのこぼしさん むりぬりお手伝い会」	はと	参加作家	11月14日(日)	40
劇団きらく座公演「漆屋傳兵衛」	劇団きらく座	参加作家	11月14日(日)	129
帰ってきたくじら祭～パート2～	出町光識・南 阿豆	招待作家・田楽師	11月14日(日)	24
蔵元歳時記 えびす講+漆の楽器コンサート	会津能楽会会員		11月15日(月)	100
シンポジウム「福島・会津・いわきアートトライアングルを語る」	吉田重信・渡邊晃一・赤坂憲雄	いわきアートトリエンナーレディレクター・福島現代アートビエンナーレディレクター・福島県立博物館長	11月20日(土)	30
会津・漆の旅(会津若松展示会場/工房編)	金澤文利	学芸員	11月21日(日)	20
辻けいさんと語る会	辻 けい	招待作家	11月21日(日)	30
食と酒と漆の祭典ーフィナーレイベントー			11月23日(火)	
シンポジウム「会津・漆・アート」	樋田豊次郎・山下裕二・赤坂憲雄	秋田公立美術工芸短期大学長・明治学院大学教授・福島県立博物館長	11月23日(火)	101

(16) その他の後援事業

テーマ	講師	講師所属	期日	参加者
NPO法人はるなか桜守養成講座	佐藤光信・芳賀滋介	NPO法人はるなか理事長・興農園代表	5月9日(日)	10
青木山を守る会講演会「山の暮らしとこれから」	結城登美雄	宮城教育大学非常勤講師	5月16日(日)	45
まほろん文化財保護指導者研修会	高橋 充 他	学芸員	7月22(木)	91
会津史学会歴史文化講演会「保科正之とその時代」	阿部綾子	学芸員	10月24日(日)	225
会津工芸新生会講演会「自然から学んできたこと」	根本曠子	日本工芸会正会員	10月30日(土)	52
青木山を守る会講演会「青木山にいだかれた人々」	佐々木長生	専門員	11月7日(日)	32
放送大学福島学習センター公開講演会「福島の貴重な食文化」	近藤榮昭	放送大学客員教授	12月5日(日)	53
会津史談会文化史講座公開講演会「中世期の会津」	高橋 充	学芸員	12月9日(木)	144
NPO法人はるなか講演会「田中玄宰と寛政の改革」	中村彰彦	歴史小説家	12月11日(土)	250
北日本近世城郭検討会「上杉景勝の築いた神指城と当時の東北地方の城を探る」	鈴木 啓 他	北日本近世城郭検討会長 他	1月30日(日)	220
ゆめ寺子屋講座「犯罪の現状と対策」		会津若松警察署	2月10日(木)	257
ゆめ寺子屋講座「明治維新と白虎隊」	早川廣中	白虎隊記念館長	2月24日(木)	350
NPO法人はるなか講座「綿繰り・糸紡ぎ講習会」	榎 陽介	学芸員	2月20日(日)	33
NPO法人はるなか生物調査発表会「里山と鳥獣害」	小金澤正昭	宇都宮大学教授	2月26日(日)	104

第17章 福島県自然の家

第1節 沿革及び所在地

1 沿革

昭和 47 年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも 3 番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県郡山少年自然の家」を開設。

昭和 50 年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和 56 年県立少年自然の家 2 施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。

平成 8 年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型 2 施設の管理運営を行うこととなる。

平成 10 年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内 4 施設の管理運営を行うこととなる。

平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、平成 20 年度までの 3 年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり 4 施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成 20 年度末をもって解散したため、平成 21 年度から 4 施設とも県の直営による管理運営となる。

2 所在地

(1) 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46
〒963 - 0213 TEL 024 - 957 - 2111
FAX 024 - 957 - 2112
URL <http://www.koriyama-nc.fks.ed.jp/>

(2) 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 の 1
〒969 - 6504 TEL 0242 - 83 - 2480
FAX 0242 - 83 - 2481
URL <http://www.aizu-nc.fks.ed.jp/>

(3) 福島県相馬海浜自然の家

福島県相馬市磯部字大洲 38 の 3
〒979 - 2501 TEL 0244 - 33 - 5224
FAX 0244 - 33 - 5225
URL <http://www.souma-nc.fks.ed.jp/>

(4) 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山 53
〒979 - 0335 TEL 0246 - 32 - 7700
FAX 0246 - 32 - 7730
URL <http://www.iwaki-nc.fks.ed.jp/>

第2節 教育目標及び基本的視点

1 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

- (1) 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
- (2) 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- (3) 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

2 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- (1) 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- (2) 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- (3) 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- (4) 民間の指導者の協力や高校生・大学生等のボランティアの受け入れを得るように努める。
- (5) 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

第3節 各施設の利用者数

(1) 福島県郡山自然の家

平成 19 年度 35,140 人
平成 20 年度 39,488 人
平成 21 年度 31,391 人
平成 22 年度 28,461 人

(2) 福島県会津自然の家

平成 19 年度 43,639 人
平成 20 年度 46,260 人
平成 21 年度 44,107 人
平成 22 年度 41,063 人

(3) 福島県相馬海浜自然の家

平成 19 年度 33,422 人
平成 20 年度 38,687 人
平成 21 年度 38,077 人
平成 22 年度 34,294 人

(4) 福島県いわき海浜自然の家

平成 19 年度 81,829 人
平成 20 年度 76,309 人
平成 21 年度 69,605 人
平成 22 年度 66,611 人

平成22年度自然の家利用統計							
		平成22年度			延べ人数推移		
		団体数	利用人数	① 延べ人数	19年度	20年度	② 21年度
4月	郡 山	29	1,020	1,514	2,176	2,664	1,576
	会 津	19	1,622	2,484	2,228	2,372	2,906
	相 馬	35	1,774	3,398	2,539	2,984	4,010
	いわき	22	1,772	2,976	3,188	2,543	2,472
	計	105	6,188	10,372	10,131	10,563	10,964
5月	郡 山	34	1,187	1,824	2,063	1,928	2,427
	会 津	44	1,975	3,001	4,498	4,574	3,944
	相 馬	31	2,169	3,498	3,183	2,503	3,752
	いわき	43	2,989	6,668	7,718	9,158	7,949
	計	152	8,320	14,991	17,462	18,163	18,072
6月	郡 山	43	2,210	3,947	4,907	5,230	4,602
	会 津	64	2,878	4,661	5,507	5,496	6,162
	相 馬	45	1,981	4,124	4,409	3,429	4,911
	いわき	75	4,575	12,284	12,479	12,156	11,387
	計	227	11,644	25,016	27,302	26,311	27,062
7月	郡 山	60	3,000	4,798	5,055	5,314	4,327
	会 津	69	3,519	6,381	6,096	8,056	5,850
	相 馬	74	3,670	6,299	4,013	7,368	5,558
	いわき	100	5,159	11,575	13,923	13,520	12,204
	計	303	15,348	29,053	29,087	34,258	27,939
8月	郡 山	38	1,455	3,053	4,900	4,320	3,669
	会 津	47	2,170	5,204	4,638	5,094	4,752
	相 馬	74	2,123	4,495	4,599	4,996	5,347
	いわき	66	2,523	5,930	9,297	8,098	6,144
	計	225	8,271	18,682	23,434	22,508	19,912
9月	郡 山	44	2,673	4,442	5,380	6,822	4,732
	会 津	56	2,632	4,163	5,135	5,785	4,865
	相 馬	73	2,118	4,015	3,649	5,088	3,754
	いわき	95	4,939	11,560	13,913	11,703	10,839
	計	268	12,362	24,180	28,077	29,398	24,190
10月	郡 山	55	2,990	4,677	4,895	6,247	4,250
	会 津	60	3,725	4,577	5,098	5,166	4,133
	相 馬	44	2,517	3,364	3,280	4,490	2,852
	いわき	54	4,262	9,190	9,414	9,192	8,300
	計	213	13,494	21,808	22,687	25,095	19,535
11月	郡 山	34	903	1,199	966	1,680	1,180
	会 津	30	876	996	1,484	1,850	1,033
	相 馬	33	1,045	1,272	1,200	1,831	2,004
	いわき	24	1,018	2,038	3,804	2,809	3,461
	計	121	3,842	5,505	7,454	8,170	7,678
12月	郡 山	28	680	982	1,041	1,446	1,216
	会 津	25	504	746	900	898	990
	相 馬	21	775	1,134	814	1,294	891
	いわき	15	781	1,349	1,518	1,594	2,354
	計	89	2,740	4,211	4,273	5,232	5,451
1月	郡 山	33	434	575	886	634	620
	会 津	47	2,286	3,583	2,995	3,419	2,861
	相 馬	19	809	1,041	1,128	939	797
	いわき	19	860	1,243	1,484	1,553	899
	計	118	4,389	6,442	6,493	6,545	5,177
2月	郡 山	42	824	1,360	1,776	1,715	1,261
	会 津	53	2,358	4,002	3,663	2,637	4,749
	相 馬	20	625	1,089	1,939	1,465	1,364
	いわき	23	963	1,310	1,815	2,176	1,816
	計	138	4,770	7,761	9,193	7,993	9,190
3月	郡 山	13	85	90	1,095	1,488	1,531
	会 津	5	537	1,265	1,397	913	1,862
	相 馬	8	396	565	2,669	2,300	2,837
	いわき	11	443	488	3,276	1,807	1,780
	計	37	1,461	2,408	8,437	6,508	8,010
累計	郡 山	453	17,461	28,461	35,140	39,488	31,391
	会 津	519	25,082	41,063	43,639	46,260	44,107
	相 馬	477	20,002	34,294	33,422	38,687	38,077
	いわき	547	30,284	66,611	81,829	76,309	69,605
	合 計	1,996	92,829	170,429	194,030	200,744	183,180

福島県相馬海浜自然の家

第1節 概要

福島県相馬海浜自然の家は、昭和50年4月に「福島県海浜青年の家」として開所し、その後、平成8年4月から「福島県相馬海浜自然の家」に名称を変更して今日に至っている。

管理運営は、開所当初から、福島県教育委員会より委託を受けた財団法人福島県海浜青年の家が行ってきた。当該財団法人は、平成8年4月に名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に改め、新設された「福島県いわき海浜自然の家」も併せて管理運営を行い、さらに平成10年4月からは名称を「財団法人福島県自然の家」（以下「財団法人」という。）に改めて、従来福島県教育委員会が直接管理運営していた「福島県郡山少年自然の家」と「福島県会津少年自然の家」を加えた4つの自然の家の管理運営を行ってきた。財団法人は、平成18年度から平成20年度の3年間、福島県教育委員会から指定管理者の指定を受けて相馬海浜自然の家を含む4つの自然の家の管理運営を行ってきたが、平成21年3月31日をもって財団法人が解散したことから、平成21年4月より、開所以来初めて、設置者である福島県教育委員会が相馬海浜自然の家の管理運営を行っている。なお、相馬海浜自然の家は、平成21年3月末の財団法人の解散まで、財団本部として4つの自然の家の管理運営の取りまとめを行ってきた。

相馬海浜自然の家は、「青年の家」としてスタートしたため、子ども向けの遊具がないことや、4つの研修室を持ち研修機能が充実していることなど、他の3施設と施設ハード面で大きな違いがある。その結果、他の3施設と比較して、利用者全体に占める高校や大学、青年層の割合が高くなっている。

開所以来の延利用者数は平成12年5月10日をもって100万人に達し、平成23年3月末では135万1,575人となっている。

1 職員組織

職	所	次	主任 社会 教育 主事	社会 教育 主事	主 事	計
員	長	長				
人員	1	1	1	2	1	6名

2 平成22年度重点目標と成果

「来る人には楽しみを来た人には喜び（ハレ・レ）を」を昨年度に引き続きスローガンとして、以下の重点目標掲げて管理運営に努めた。

(1) 利用者に豊かな自然体験活動を提供し、満足感と成就感を得ることができるよう適切な指導・支援に努める。

ア 専門職員として利用者の研修のねらいに応じた相談機能や支援機能を発揮し、研修目的の達成に貢献できた。

また、利用者と専門職員の役割分業型による活動の充実を図ることができた。

イ 利用者に合わせた担当職員の配置を行ったことで、利用者と職員の双方にとって有益なふれあいと感動の深まりを生むことができた。また、スタッフの明朗・親切・丁寧な言動と迅速かつ柔軟な対応が、利用者アンケートにおける高い評価につながったことは大きな成果である。

ウ 県北域内市町村教育委員会等に対して、平成21年度より継続した取組として「複数学校による宿泊体験活動の合同実施」を提案した結果、昨年度同様合同実施による利用申込みが増加した。

エ 専門職員としての資質と技術力をさらに高め、より一層利用者の研修の充実に貢献できるよう計画的な職員研修が必要である。

(2) 地域との結びつきを深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

ア 地域の関係機関・団体との連携や地域人材の協力による企画事業の試みなど、自然体験活動及び学習実践の場の提供に積極的に努め、生涯学習施設としてその機能を発揮できた。

イ 広報に関しては、事業案内等のメール配信やHPの充実を図ったが年間の実利用者増までにはいたらなかった。今後、関係機関を含め様々なネットワークを活用した利用拡大策を検討実施し、身近に利用できる生涯学習施設としての認知度の向上が課題である。

ウ 地域のボランティア人材の養成・活用は、野外の環境整備や活動支援等に必要不可欠ではあるが、交通手段や予算面での問題もありなかなか進まない。しかしながら、今後の施設運営を考えると、早急に解決しなければならない課題である。

(3) 利用者の「安全・安心」に向けて、危機管理意識のもと事故の絶無に努める。

ア 全職員による週1回の安全点検を実施して、施設内外の危険箇所の早期発見と対応に努め、利用者の「安全」確保を図ることができた。

イ 活動プログラムの見直しを行って安全指導の留意点等をまとめ、利用者へ周知し事前指導に活用することで、大きな事故の未然防止を図ることができた。

ウ 宿泊利用者に参加いただき、実際に夜間の時間帯において、夜間警備員2名体制における防災訓練を実施し、課題と対応策を検討することができた。

エ 多様な利用団体の中には、安全に対する意識が乏しい指導者も多い。「安全・安心」は、利用者と施設の両者が協力して取り組んで初めて確保できることを訴え続ける必要がある。

(4) 経費節減の中、運営事務の見直しや指導・総務の一体化により、施設の適切な維持管理と円滑な運営に努める。

ア 総務から、予算面に関する定期的な資料・情報提供を

行うことにより、職員の経費節減やエコに対する意識付けは進んだが、利用者に対する意識の浸透までには至らなかった。今後、利用者に対する訴求方法を工夫する必要がある。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

相馬市磯部字大洲 38 番地の 3

2 宿泊定員

- 本館定員 198 名 (ベッド室 21 室、
身障者用ベッド室 1 室、和室 2 室)
- キャンプ場定員 100 名 (4 人用テント 25 張)

3 敷地面積

- 200,000 m²

4 建物面積

- 4,333.63 m²
管理研修棟、宿泊棟、体育館、総合研修館、乾燥室、
エレベーター、温水シャワー室、身障者用トイレ・
浴室・シャワー室、屋外トイレ (キャンプ場) 他

5 運動広場面積

- 18,000 m²

6 設備・備品

- キャンプ場
(キャンプ用品一式、炊事場、トイレ、冷蔵庫、他)
- 運動広場
(野球場 1 面、ソフトボール場 1 面、
ゲートボール場 2 面、グラウンドゴルフ場 2 面設
置可、カヌー倉庫、他)
- 野外活動コース
(各種オリエンテーリングコース、ウォークラリー
コース、ナイトハイキングコース、他)
- 体育館
(バレーボールコート 1 面、バスケットボールコー
ト 1 面、バドミントンコート 2 面、他)
- 総合研修館
(ステージ、ピアノ、ビデオプロジェクター、放送
関係一式、卓球台、他)
- 研修室 3 室 (40 ～ 90 人用)
(黒板、テレビ、ビデオデッキ、スクリーン、他)
- 温水シャワー室 (男女各シャワー 10 個)
- その他
(サイクリング用自転車 100 台、釣り竿 100 本、カ
ヌー 15 艇、視聴覚機器、天体望遠鏡、双眼鏡、
液晶プロジェクター、バーベキュー用釜・鉄板他)

第3節 利用状況

1 月別利用状況

月	種別 区分	学 校 教 育 団 体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
4	団 体 数	0	5	7	6	0	0	7	2	3	1	0	4	35
	実利用者	0	318	496	323	0	0	72	28	252	148	0	137	1,774
	延利用者	0	366	1,093	558	0	0	100	59	937	148	0	137	3,398
5	団 体 数	2	3	7	2	0	0	2	4	4	1	2	4	31
	実利用者	235	174	645	207	0	0	46	210	249	186	11	206	2,169
	延利用者	235	364	1,243	207	0	0	69	527	439	186	22	206	3,498
6	団 体 数	0	28	1	0	1	0	5	0	7	1	0	2	45
	実利用者	0	1,138	95	0	17	0	185	0	371	108	0	67	1,981
	延利用者	0	2,962	95	0	34	0	403	0	455	108	0	67	4,124
7	団 体 数	0	24	3	0	0	0	37	0	3	1	4	3	75
	実利用者	0	914	112	0	0	0	1,173	0	346	93	24	1,008	3,670
	延利用者	0	2,335	262	0	0	0	2,062	0	478	93	61	1,008	6,299
8	団 体 数	0	6	0	0	0	0	43	7	6	1	11	0	74
	実利用者	0	128	0	0	0	0	1,486	158	215	62	74	0	2,123
	延利用者	0	349	0	0	0	0	3,074	548	282	62	180	0	4,495
9	団 体 数	0	23	21	0	4	0	13	2	5	4	0	1	73
	実利用者	0	760	331	0	62	0	566	65	176	132	0	26	2,118
	延利用者	0	1,968	659	0	93	0	760	153	198	132	0	52	4,015
10	団 体 数	2	17	2	2	2	0	7	0	4	6	0	2	44
	実利用者	34	521	253	280	46	0	405	0	205	191	0	582	2,517
	延利用者	34	857	253	310	91	0	595	0	451	191	0	582	3,364
11	団 体 数	0	9	6	0	0	0	11	0	1	2	0	4	33
	実利用者	0	213	32	0	0	0	478	0	47	151	0	124	1,045
	延利用者	0	213	32	0	0	0	705	0	47	151	0	124	1,272
12	団 体 数	0	0	0	0	0	0	9	2	6	2	0	2	21
	実利用者	0	0	0	0	0	0	461	17	87	135	0	75	775
	延利用者	0	0	0	0	0	0	803	34	87	135	0	75	1,134
1	団 体 数	0	0	0	0	0	0	6	1	10	1	0	1	19
	実利用者	0	0	0	0	0	0	313	18	333	105	0	40	809
	延利用者	0	0	0	0	0	0	471	52	333	105	0	80	1,041
2	団 体 数	0	1	0	0	0	0	5	0	13	1	0	0	20
	実利用者	0	26	0	0	0	0	191	0	309	99	0	0	625
	延利用者	0	26	0	0	0	0	323	0	641	99	0	0	1,089
3	団 体 数	0	1	0	0	0	0	3	0	1	3	0	0	8
	実利用者	0	180	0	0	0	0	104	0	35	77	0	0	396
	延利用者	0	180	0	0	0	0	208	0	100	77	0	0	565
合計	団 体 数	4	117	47	10	7	0	148	18	63	24	17	23	478
	実利用者	269	4,372	1,964	810	125	0	5,480	496	2,625	1,487	109	2,265	20,002
	延利用者	269	9,620	3,637	1,075	218	0	9,573	1,373	4,448	1,487	263	2,331	34,294

2 利用団体別・宿泊日数利用状況

(1) 利用者数 ()はキャンプ等の内数 (2) 利用者受け入れ日数

項目	団体数	実利用者	延利用者
利用者数	478	20,002	34,294
(キャンプ)	(22)	(604)	(1465)

項目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	288	257	241	153
(キャンプ)	(109)	(27)	(95)	(20)

(3) 利用者区分

泊 数	種別 区分	学校教育団体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
1 泊 1 日	団 体 数	4	38	14	7	3		52		49	24	1	21	213
	実利用者	269	1,294	702	608	47		2,176	9	1,810	1,487	22	2,199	10,623
	延利用者	269	1,294	702	608	47		2,176	9	1,810	1,487	22	2,199	10,623
1 泊 2 日	団 体 数		21	11	2	3		66	7	8		10	2	130
	実利用者		908	851	139	63		2,630	195	426		51	66	5,329
	延利用者		1,816	1,702	278	126		5,260	390	852		102	132	10,658
2 泊 3 日	団 体 数		58	22	1	1		27	8	1		3		121
	実利用者		2,170	411	63	15		596	232	102		21		3,610
	延利用者		6,510	1,233	189	45		1,788	696	306		63		10,830
3 泊 4 日	団 体 数							2	1	1		1		5
	実利用者							41	22	25		5		93
	延利用者							164	88	100		20		372
4 泊 5 日	団 体 数							1	2	3		1		7
	実利用者							37	38	192		4		271
	延利用者							185	190	960		20		1,355
5 泊 以 上	団 体 数									1		1		2
	実利用者									70		6		76
	延利用者									420		36		456
合 計	団 体 数	4	117	47	10	7		148	18	63	24	17	23	478
	実利用者	269	4,372	1,964	810	125		5,480	496	2,625	1,487	109	2,265	20,002
	延利用者	269	9,620	3,637	1,075	218		9,573	1,373	4,448	1,487	263	2,331	34,294

3 研修活動の分類と実施団体数

※津波でデータ流失のため、作成不可

第4節 企画事業

1 利用促進事業

(1) 指導者事前研修会

ア 趣旨

当自然の家での研修をより効果的に実施するための事前研修。研修活動の企画・立案から諸手続きまでを研修する。

イ 対象

利用予定団体の担当者

ウ 期日

第1回：学校団体 4月20日（日） 日帰り
第2回：学校団体 4月21日（月） 日帰り
第3回：社教団体 6月13日（日） 日帰り
第4回：学校団体 7月21日（水） 日帰り

エ 内容

(ア) 所内および周辺の活動エリア視察
(イ) 研修活動の企画・立案と検討、プログラム調整
(ウ) 利用に関する諸手続きの研修

(2) 相馬地方の歴史を訪ねて

ア 趣旨

相馬地方の史跡を訪ねてまわり、郷土や自然についての理解を深める。

また、生涯学習施設としての自然の家の地元における認知度を高めるために地域との連携強化を図る。

イ 対象

○ 中学生から一般
(1, 2回が日立木地区 3, 4回が八幡地区)
○ 日立木・八幡公民館教室生

ウ 期日

第1回日立木編 4月18日（日）
第2回日立木編 5月 9日（日）
第3回八幡編 11月 7日（日）
第4回八幡編 11月21日（日）

エ 内容

相馬地方の旧所・名跡の探訪（日立木・八幡編）

(3) 鹿狼山ハイキング

ア 趣旨

季節の鹿狼山ハイキングを通して自然を満喫するとともに、松川浦の環境と森林との関係について理解を深める。

イ 対象

一般（子どもから高齢者まで）

ウ 期日

4月11日（日）・11月14日（日）

エ 内容

ハイキング

(4) 磯と干潟の生物観察シリーズ① ～海の仲間出合い編～

ア 趣旨

原釜の人工磯や松川浦の干潟の生物を観察しながら、

自然への親しみと理解を深める。

イ 対象

一般（子どもから高齢者まで）

ウ 期日

5月30日（日）

エ 内容

(ア) 人工磯での生物観察とカニ釣り
(イ) 松川浦の干潟の生物観察

(5) 磯と干潟の生物観察シリーズ②

～絶滅危惧種ヒヌマイトトンボ編～

ア 趣旨

松川浦に生息する絶滅危惧種のヒヌマイトトンボの観察を通して環境問題に理解を深める。

イ 対象

一般（子どもから高齢者まで）

ウ 期日

7月11日（日）

エ 内容

ヒヌマイトトンボの観察

(6) 海の日企画 思いっきり海浜チャレンジ2010

ア 趣旨

カヌーや海釣りなどの海浜型のメイン活動を体験することにより、自然の家の特色やよさを理解してもらう。

イ 対象

一般（子どもから高齢者まで）

ウ 期日・参加者数

7月19日（月）

エ 内容

(ア) カヌーや海釣りなどの海浜型活動の体験
(イ) フリーマーケット、クラフト作成等への参加

(7) とことん自然塾 ～わくわくチャレンジ体験～

ア 趣旨

松川浦を中心とした自然の中で野外活動の基本を学び、冒険的活動を通してたくましい心や体を育む。
(キャンプ生活)

イ 対象

小学校4, 5, 6年生及び中学生

ウ 期日

9月11日（土）～12日（日） 1泊2日

エ 内容

(ア) カヌー
(イ) 野外炊飯、テント泊
(ウ) 川遊び、磯遊び など

(8) 松川浦クリーンアップウォーク

ア 趣旨

ゆったりと徒歩で散策することで県立自然公園である松川浦の景観や松川浦歌碑の素晴らしさに気付くとともに、ゴミ拾いをして県立自然公園の環境整備を行う。

イ 対象

一般（子どもから高齢者まで）

ウ 期日

10月17日（日）

- エ 内容
5 K m のコース上でウォーキングとゴミ拾い。

(9) 秋の感謝デー・磯部公民館学習発表会

- ア 趣旨
公民館を中心とした地元の協力を得て、体験・展示コーナーやふれあい広場を開催し、地域と共に歩む「生涯学習拠点」としての自然の家に対する理解を深める。
- イ 対象
一般（子どもから高齢者まで）
- ウ 期日
10月24日（日）
- エ 内容
(ア) 生花、手芸、書道、絵画等の作品展示
(イ) 各種体験コーナー（森のクラフト、キーホルダー製作、サイクリング、スコアオリエンテーリング、ストラックアウト 等）
(ウ) 歌謡、舞踊、コーラス、3 B 体操、カラオケ発表等
(エ) 食べるコーナー、遊ぶコーナー

(10) 森のようちえん ※台風のため中止

- ア 趣旨
幼児と親と一緒に、森林などの自然の中でめいっぱい楽しく遊び、自然に親しむとともに親子の絆を深める。
- イ 対象
幼児とその保護者
- ウ 期日
10月31日（日）
- エ 内容
(ア) ゲーム等による親子、子ども同士のふれ合い
(イ) ターザンロープ、ブランコ、クラフト作り

(11) ～満天の星との出会い～ 冬の星空観察会

- ア 趣旨
天体や星座の観察を通して、自然の素晴らしさや新たな発見・感動を味わうとともに自然に親しむ機会とする。さらに、星座などに関心・意欲を高めながら自然を愛する心情を育む。
- イ 対象
一般（子どもから高齢者まで）
- ウ 期日
12月11日（土）
- エ 内容
月や冬の星座の観察

(12) お正月を飾ろう ～門松づくり～

- ア 趣旨
ミニ門松の手作りに親子などで挑戦する。
- イ 対象
小学生以上
- ウ 期日
12月25日（土）
- エ 内容
ミニ門松の手作り

(13) ものづくりを楽しもう！

- ア 趣旨

日本の伝統的なたこ作りの活動を通して、高齢者と子ども達のふれあいを深める。

- イ 対象
一般（子どもから高齢者まで）

- ウ 期日
12月26日（日）

- エ 内容
たこづくり・たこ揚げ

(14) ボランティア研修会

- ア 趣旨
当所でのボランティア活動を希望する人がボランティアとして必要な知識や心構えについて研修を図る。
- イ 対象
高校生から一般まで
- ウ 期日
5月23日（日）
- エ 内容
(ア) 研修 講話：自然の家所長 説明会
(イ) 体験 テント設営

2 4 所協力による企画事業

(1) 福島県冬！ウィンターフェスティバル

- ア 趣旨
雪国ならではの雪と親しむ活動の体験を通して、冬の福島の風情や自然の雄大さに触れながら県内各地からの参加者相互の交流を深める。
- イ 対象
小・中学生とその家族
- ウ 期日
1月29日（土）～30日（日） 1泊2日
- エ 内容
(ア) 会津坂下町営スキー場でのスキー体験や雪遊び
(イ) 会津自然の家での宿泊体験

福島県いわき海浜自然の家

第1節 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族など、あらゆる年齢層の人達に利用されている。

本年度も、本所の立地条件（海浜型・林間型）を活かした活動内容の検討を行うとともに、小・中学生とその保護者を対象とした「遊ぼう！初夏の海で（釣り・磯遊び）」や地域に開かれた施設として「オープンデー」を実施するなど、利用者のニーズに即した企画事業を開催した。

また、ボランティア養成講座の開催するとともに、環境ボランティアや支援ボランティア（養成講座修了者が登録）の育成に努め、年間を通して延べ242名のボラティアの方に協力をいただいた。

本年度の利用状況は、546団体、延べ利用者数が66,611人となり、平成22年7月には開所以来の利用者数が100万人を突破した。

1 平成22年度重点目標と成果

利用者が自然体験活動や研修活動等を通して、新たな発見や感動が得られ、満足感・充実感を味わうことにより、所期の目的が達成されるよう次の目標に取り組んだ。

(1) 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

ア 学校団体については、教育施設として、青少年健全育成を目的とした利用のあり方を概ね達成できた。社会教育団体についても代表者打合せや受付時を活用し、周知に努めた。

イ オリエンテーションや放送での呼びかけを通して、社会的集団的ルール の定着を図ってきた。

ウ 利用団体の指導者への啓発的支援を通して、青少年の自主的自律的な態度の育成を図った。

エ 閑散期の企画事業が充実し、利用の促進につなげることができた。

(2) 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

ア 幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発に努めた。

イ 指導者ガイドブックの作成など、利用者のニーズに応じた活動支援の在り方を研究し、利用者の自主性・主体性を助長できるよう、工夫・改善に努めた。

(3) 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

ア 日頃から危機管理意識をもって、週一回、アスレチックコース等の安全点検を行い、事故防止に努めた。

イ 受付やオリエンテーション、活動支援において安全のための適切な助言や指導を行った。

ウ 所内活動や海浜活動中における自然災害等での避難方法をマニュアル化し、人命の安全と被害防止に努めた。

エ 学校団体、社教団体ともに事前研修会を実施し、安全で有効、適切な施設の活用について周知徹底するとともに、利用団体の指導者に対して適切な依頼、指示を行い安全面の徹底を図った。

オ 事故発生時の緊急対応及び連絡体制を明確にし、情報の共有化を徹底し、危機管理体制の充実に努めた。

(4) 定期的な業務内容の点検と改善に努める。

ア 計画的かつ定期的な評価により、改善点の明確化を図り、密度の高い施設運営に努めた。

イ 多面的多角的な視点から業務遂行の在り方について検討し、開かれた施設運営に努めた。

ウ 利用者へのアンケート結果を参考に、業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援や管理運営に努めた。

(5) 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

ア ボランティア養成と活動の場を的確に位置づけ、地域に根ざした施設づくりに努めた。

イ 支援ボランティアに企画事業の活動の一部を任せるなど、活用場の開拓に努めた。

ウ 公民館、支所、消防署、派出所等、関係機関との連携を十分に図ることができた。

エ 環境ボランティアが年間を通してプランターや花壇の除草、花の植え替えを行い、来所者の目を楽ませることができた。

オ オープンデーを地域諸団体等の協力を得て開催した。

カ いわき教育事務所との連携の下に、地域の生涯学習の推進に努めた。また、企画事業においては関係諸機関との連携を図ることができた。

2 職員組織

職名	所長	次長	主査	主事	主任社会教育主事	指導主事	社会教育主事	計
人員	1	1	1	0	1	0	4	8

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 5 3

2 宿泊定員

- 本館定員 300 名（和室 28 室）
- ロッジ定員 160 名（10 棟）
- テント定員 100 名（25 張）

3 敷地面積

- 350,171 m²

4 建物面積

- 6,696.97 m²
- 中心施設
本館（宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等）
体育館
- 野外施設
管理棟、ロッジ、便所等

5 野外活動施設面積

- つどいの広場 7,000 m²
- 多目的広場 8,890 m²
- 自然観察園 4,050 m²
- みんなの広場 4,700 m²

6 設備備品等

- 体育館（バレーボールコート 2 面、バスケットボールコート 1 面、バトミントンコート 2 面、卓球台 3 台、ピアノ 1 台他）
- 野営場（野外炊飯、キャンプ用品一式、冷蔵庫他）
- 野外活動設備（フィールドアスレチックコース、冒険の森歩道、トリムコース、営火場 7 ヲ所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース 他）
- 多目的広場（サッカー、ソフトボール、マウンテンバイクコース他）
- その他（視聴覚機器、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、釣り用具一式、海浜活動用具一式）

第3節 利用状況

1 月別利用状況

月	種別	学 校 教 育 団 体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
	区分	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
4	団体数	1	4	1	5	0	0	6	1	1	0	1	2	22
	利用人員	25	239	174	800	0	0	347	13	20	0	3	151	1,772
	延人数	25	239	174	1,597	0	0	694	26	20	0	6	195	2,976
5	団体数	0	29	2	0	2	0	2	2	0	0	2	4	43
	利用人員	0	2,380	278	0	88	0	33	69	0	0	13	128	2,989
	延人数	0	5,438	556	0	264	0	66	138	0	0	24	182	6,668
6	団体数	0	64	0	0	0	0	8	0	0	0	1	2	75
	利用人員	0	4,342	0	0	0	0	191	0	0	0	9	33	4,575
	延人数	0	11,915	0	0	0	0	299	0	0	0	18	52	12,284
7	団体数	12	41	0	4	3	0	31	0	0	0	6	3	100
	利用人員	708	2,242	0	177	108	0	1,770	0	0	0	40	114	5,159
	延人数	1,379	5,652	0	325	216	0	3,798	0	0	0	91	114	11,575
8	団体数	0	16	1	2	0	0	31	2	0	0	13	1	66
	利用人員	0	953	36	30	0	0	1,362	29	0	0	74	39	2,523
	延人数	0	2,597	108	70	0	0	2,856	52	0	0	169	78	5,930
9	団体数	1	69	3	0	1	0	11	0	2	0	5	3	95
	利用人員	43	3,827	367	0	36	0	496	0	65	0	38	67	4,939
	延人数	43	9,970	367	0	70	0	870	0	65	0	76	99	11,560
10	団体数	0	39	0	1	1	0	4	2	1	0	3	3	54
	利用人員	0	2,689	0	8	57	0	175	84	308	0	13	928	4,262
	延人数	0	7,033	0	8	114	0	301	132	616	0	26	960	9,190
11	団体数	2	8	2	0	0	1	7	0	1	2	0	1	24
	利用人員	39	383	78	0	0	12	428	0	26	38	0	14	1,018
	延人数	39	1,025	78	0	0	24	787	0	26	38	0	21	2,038
12	団体数	0	2	0	0	0	0	10	0	0	0	1	2	15
	利用人員	0	127	0	0	0	0	567	0	0	0	5	82	781
	延人数	0	127	0	0	0	0	1,048	0	0	0	10	164	1,349
1	団体数	4	2	0	0	0	0	7	2	0	0	1	2	18
	利用人員	179	51	0	0	0	0	368	199	0	0	4	59	860
	延人数	218	51	0	0	0	0	679	199	0	0	8	88	1,243
2	団体数	11	1	0	0	0	0	5	1	1	0	0	4	23
	利用人員	501	32	0	0	0	0	233	46	57	0	0	94	963
	延人数	501	96	0	0	0	0	460	92	57	0	0	104	1,310
3	団体数	5	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	11
	利用人員	232	25	0	0	0	0	63	0	0	17	0	106	443
	延人数	232	25	0	0	0	0	108	0	0	17	0	106	488
合	団体数	36	277	9	12	7	1	123	10	6	3	33	29	546
	利用人員	1,727	17,290	933	1,015	289	12	6,033	440	476	55	199	1,815	30,284
計	延人数	2,437	44,168	1,283	2,000	664	24	11,966	639	784	55	428	2,163	66,611

2 利用団体別・宿泊日数利用状況

(1) 利用者数

項 目	団 体 数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	546	30,284	36,327	66,611
(キャンプ)	(2)	(61)	(61)	(122)
(ロッジ)	(164)	(9399)	(9399)	(18948)

(2) 利用者受け入れ日数

項 目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	290	253	230	161
(キャンプ)	(102)	(2)	(90)	(2)
(ロッジ)	(151)	(110)	(121)	(97)

※ () はキャンプ、ロッジの内数

(3) 利用者区分

泊 数	種別	学校教育団体										ファミリー	企画事業	合計
	区分	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
1 泊 日	団 体 数	23	15	6	3	0	0	10	3	5	3	1	16	85
	実利用者数	1,066	774	619	80	2	0	784	241	168	55	10	1,467	5,266
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	1,066	774	619	80	2	0	784	241	168	55	10	1,467	5,266
1 泊 2 日	団 体 数	10	101	2	7	5	1	99	7	1	0	25	13	271
	実利用者数	612	6,154	278	885	199	12	4,565	199	308	0	149	348	13,709
	延宿泊者数	612	6,154	278	885	199	12	4,565	199	308	0	149	348	13,709
	延利用者数	1,224	12,308	556	1,770	398	24	9,130	398	616	0	298	696	27,418
2 泊 3 日	団 体 数	3	161	1	2	2	0	14	0	0	0	7	0	190
	実利用者数	49	10,362	36	50	88	0	684	0	0	0	40	0	11,309
	延宿泊者数	98	20,724	72	100	176	0	1,368	0	0	0	80	0	22,618
	延利用者数	147	31,086	108	150	264	0	2,052	0	0	0	120	0	33,927
3 泊 4 日	団 体 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 泊 5 日	団 体 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 泊 6 日	団 体 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	団 体 数	36	277	9	12	7	1	123	10	6	3	33	29	546
	実利用者数	1,727	17,290	933	1,015	289	12	6,033	440	476	55	199	1,815	30,284
	延宿泊者数	710	26,878	350	985	375	12	5,933	199	308	0	229	348	36,327
	延利用者数	2,437	44,168	1,283	2,000	664	24	11,966	639	784	55	428	2,163	66,611

3 研修活動の分類と実施団体数

分類	番号	種別 プログラム名	学 校 教 育 団 体						社 会 教 育 団 体				ファミリー	企画事業	合 計
			幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
環境 プロ	1	自然(海浜)散策・観察	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
	2	ネイチャーゲーム	0	16	1	0	2	0	1	0	0	0	0	3	23
	3	ネイチャーラリー	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	6
	4	ボンファイア	0	7	0	0	0	0	4	1	0	0	4	0	16
	5	ナイトハイキング	1	173	2	0	2	0	26	0	0	0	7	5	216
	6	グリーンアドベンチャー	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	7	スターウォッチング	0	3	0	0	0	0	5	0	1	0	9	0	18
野 外 ・ 海 浜	8	磯遊び	2	157	0	0	3	0	26	0	0	0	13	7	208
	9	魚釣り	0	29	0	0	1	0	9	0	0	0	5	7	51
	10	いかだ作り・乗り	0	84	0	1	1	0	23	0	0	0	2	3	114
	11	カヌー	0	8	0	0	0	0	14	1	0	0	3	0	26
	12	海水浴	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	12	0	19
	13	ボディボード	0	87	0	0	0	0	34	1	0	0	2	2	126
	14	砂の芸術	3	64	1	0	0	0	6	0	0	0	0	3	77
野 外 ・ エ リ ア 内	15	ビーチバレー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16	冒険の森散策	1	53	1	0	1	0	5	0	2	0	5	0	68
	17	ハイキング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18	スコアオリエンテーリング	0	84	1	1	0	0	11	0	0	0	3	2	102
	19	ポイントオリエンテーリング	0	2	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	8
	20	ビンゴオリエンテーリング	0	12	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	17
	21	動物オリエンテーリング	0	0	0	0	1	0	8	0	0	0	3	0	12
	22	自然の家探検ラリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	海岸ウォークラリー	0	25	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	29
	24	フィールドアスレチック	1	60	0	0	0	0	15	0	0	0	7	0	83
	25	野外炊飯	3	133	4	7	3	0	30	3	1	0	6	5	195
	26	キャンプファイア	3	127	0	1	1	0	26	2	0	0	0	2	162
	27	マウンテンバイク	0	23	0	0	0	0	7	1	0	0	9	0	40
	28	ペタンク	0	17	0	0	0	0	4	0	0	0	1	2	24
	29	トレッキング(二ツ箭山登山)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	30	グランドゴルフ	0	15	0	1	0	0	5	1	1	0	2	0	25
	31	ターゲットバードゴルフ	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	32	陣取りゲーム・旗取りゲーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	33	野外ゲーム・ロープコース	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	3
	34	フライングディスク(フリスビー)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	35	トリムランド	6	10	0	0	1	0	4	0	0	0	1	0	22
	36	テント設営・撤収	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4

室内・創作	37	貝飾り	0	8	0	0	0	0	0	1	0	1	0	10	
	38	貝壁飾り	1	10	0	0	2	0	1	0	0	0	2	0	16
	39	ストーンアート	0	5	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	9
	40	紙飛行機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	41	キーホルダー	1	2	0	0	0	0	4	0	1	0	1	0	9
	42	七宝焼き	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	43	しおり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	44	草木染め	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	45	木製コースター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	46	飛ぶ輪っか	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	47	貝の絵ろうそく	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
	48	木彫るだー	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3
	49	自主製作・その他の製作	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	4
室内・ゲーム	50	キャンドルファイア	3	68	0	1	5	0	8	1	1	0	0	4	91
	51	室内ゲーム	5	8	0	0	2	0	17	1	2	0	5	1	41
	52	室内オリンピック	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	53	室内スポーツ(卓球・バドミントン)	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	0	6
	54	室内ビンゴオリエンテーリング	0	43	0	0	2	0	8	0	0	0	1	3	57
	55	室内ペタンク	0	14	0	0	1	0	8	1	0	0	2	2	28
	56	ストラックアウト	10	19	0	0	1	0	12	1	0	1	2	4	50
	57	フリーブロー	0	15	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	19
	58	輪投げ	12	19	0	0	1	0	3	0	0	1	0	1	37
	59	インディアカ・キンボール・ドッチビー	9	8	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	25
	60	伝承遊び	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	7
	61	海浜なんでもチャンピオン	11	15	0	0	2	0	3	0	0	1	0	4	36
その他	62	サイクリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	63	移動体験学習・活動	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	5
	64	学習(研修・講義等)	0	1	2	31	0	0	24	13	1	0	0	10	82
	65	スポーツ(練習等)	0	0	3	0	0	0	20	1	1	2	0	1	28
	66	合唱・合奏等練習	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合　　計	73	1,464	18	44	34	0	419	28	15	7	123	81	2,306

第4節 企画事業

1 指導者の研修

(1) 学校団体

ア 目的

当自然の家での研修をより効果的に実施するための事前研修。研修活動の企画・立案から諸手続き、実技までを研修する。

イ 期日・対象・参加者数

(第1回)

- (ア) 期日 平成22年4月22日(木)～23日(金)
- (イ) 対象 平成22年6月15日(火)～8月11日(水)
に利用する学校の教職員
- (ウ) 参加者数 83名

(第2回)

- (ア) 期日 平成22年4月27日(火)～4月28日(水)
- (イ) 対象 平成22年8月26日(木)～9月18日(土)
に利用する学校の教職員
- (ウ) 参加者数 68名

(第3回)

- (ア) 期日 平成22年5月11日(火)～12日(水)
- (イ) 対象 平成22年9月24日(金)～11月19日(金)
に利用する学校の教職員
- (ウ) 参加者数 58名

(第4回)

- (ア) 期日 平成23年2月17日(木)～18日(金)
- (イ) 対象 平成23年4月1日(金)～6月11日(土)
に利用する学校の教職員
- (ウ) 参加者数 60名

合計 269名

ウ 研修内容

- (ア) 施設見学 本館、野営場、ロッジ等
- (イ) 実技研修 各種オリエンテーリング、磯遊び、釣り体験、ネイチャージョゲーム、キャンプファイア、ナイトハイク、野外炊飯等
- (ウ) 活動計画作成 活動プログラムの立案、同時期利用校との活動場所調整

(2) 社会教育団体

ア 目的

当自然の家での研修をより効果的に実施するための事前研修。研修活動の企画・立案から諸手続き、実技までを研修する。

イ 期日・対象・参加者数

- (ア) 期日 平成22年5月29日(土)～5月30日(日)
- (イ) 対象 平成22年度に利用する10名以上の社会教育関係団体の引率者
- (ウ) 参加者数 38名

ウ 研修内容

- (ア) 施設見学 本館、野営場、ロッジ等
- (イ) 実技研修 山の活動体験、野外炊飯、キャンプファイア、ナイトハイク、海の活動体験

2 利用促進事業

(1) 目的

様々な自然体験学習を実施することにより、人との交流や親子のふれあいを深め、自主性・創造性・社会性を育てるとともにボランティア活動の場とする。

(2) 内容

ア 遊ぼう！初夏の海で ～釣り・磯遊び～

- (ア) 期日 平成22年7月11日(日)
- (イ) 対象 県内の小・中学生とその保護者
- (ウ) 参加者数 75名
- (エ) 活動内容 四倉港での防波堤(港)釣り、舟戸海岸での磯釣りと磯遊び体験

イ 第6回いわき海浜自然の家オープンデー

- (ア) 期日 平成22年10月24日(日)
- (イ) 対象 小・中学生とその保護者、地域の方々
- (ウ) 参加者数 887名
- (エ) 活動内容 海浜フレンドパーク、海浜オリエンタリング大会、海浜なんでもチャンピオン、海浜ペタンク大会、グランドゴルフ大会、野外炊飯、クラフト体験、海浜フォトギャラリー、ボランティア企画等

ウ 親子のつどい(ファミリーウィンターランド)

- (ア) 期日 平成22年12月4日(土)～5日(日)
- (イ) 対象 県内の小・中学生とその保護者
- (ウ) 参加者数 72名
- (エ) 活動内容 クラフト制作、親子交流会、親子アウトドアクッキング

エ クラフトを楽しむつどい

- (ア) 期日 ・第1回 平成23年1月27日(木)
・第2回 平成23年2月3日(木)
- (イ) 対象 県内の成人
- (ウ) 参加者数 ・第1回 30名
・第2回 23名
- (エ) 活動内容 つるかご作り、竹細工、ストーンアート、ペーパークラフト

オ 森の音楽会

- (ア) 期日 平成23年3月4日(金)
- (イ) 対象 県内の成人、家族
- (ウ) 参加者数 101名
- (エ) 活動内容 サクソフォンアンサンブル公演

3 啓発的事業

(1) 心に翼・ふれあい夏キャンプ

ア 目的

自然体験活動を通して交流を深め、自然や人とふれあう喜びを体得するとともにお互いの理解を深める。

イ 期日 平成22年8月7日(土)～8日(日)

- ウ 対象 県内の小・中学生、特別支援学校に在籍する児童・生徒
- エ 参加者数 39名
- オ 内容 ふれあいゲーム、ニュースポーツ、クラフト、ヨーヨー釣り、海浜チャンピオン、キャンプファイア、ボディボード、いかだ乗り、カヌー、タイヤチューブ乗り、スイカ割り、

(2) 心に翼・ふれあい秋キャンプ

- ア 目的
不登校の児童・生徒を対象に自然体験や交流体験等を通して協調性・自立性・社会性を養う。
- イ 期日・対象・参加者数
- (ア) 期日 平成22年10月2日(土)～3日(日)
- (イ) 対象 県内の不登校傾向の小・中学生とその保護者
- (ウ) 参加者数 32名
- (エ) 内容 開講式、二ツ箭山登山、キャンドルファイア、ボランティア活動体験、閉講式

4 その他の企画事業

(1) ボランティア養成講座

- ア 目的
当所の果たす役割について理解を深め、自然体験活動を支援する上で必要な知識と技能を習得するとともに、当所の施設ボランティアとして活動できるようにする。
- イ 期日・対象・参加者数
- (第1回)
- (ア) 期日 平成22年6月12日(土)～13日(日)
- (イ) 対象 高校生、大学生、専門学校生及び一般社会人で当施設のボランティアとして活動に関心のある者
- (ウ) 参加者数 19名
- (エ) 内容 開講式
講話「施設とボランティアの役割」
演習「グループワーク(人間関係づくり・ボランティアとしてのあり方)」
「貝の壁飾り」
「キャンプファイア」、「ナイトハイク」
「部屋点検研修」
「釣り・磯遊びの支援」
- (第2回)
- (ア) 期日 平成22年7月4日(日)
- (イ) 対象 高校生、大学生、専門学校生及び一般社会人で当施設のボランティアとして活動に関心のある者
- (ウ) 参加者数 27名
- (エ) 内容 施設案内(野営場)
講義「肢体不自由児者への理解とサポートの仕方について」
演習「肢体不自由児者とのかかわり方」

「『遊ぼう！初夏の海』について」
「『オープンデー』について」

(第3回)

- (ア) 期日 平成22年9月12日(日)
- (イ) 対象 高校生、大学生、専門学校生及び一般社会人で当施設のボランティアとして活動に関心のある者
- (ウ) 参加者数 15名
- (エ) 内容 演習「『ニュースポーツ』、『海浜チャンピオン』等」
「グループワーク(秋キャンプ・オープンデーに向けて)」

(第4回)

- (ア) 期日 平成22年11月13日(土)～14日(日)
- (イ) 対象 高校生、大学生、専門学校生及び一般社会人で当施設のボランティアとして活動に関心のある者
- (ウ) 参加者数 14名
- (エ) 内容 ボランティアの登録について
演習「ボランティア活動」
「グループワーク(今年度の反省と来年度に向けて)」
閉講式

5 協力事業

(1) 福島の冬！ ウィンターフェスティバル

(主催：会津自然の家)

- ア 目的
福島冬の風情や伝統文化のすばらしさを発見させるとともに参加者相互の交流を図る。
- イ 期日・対象・参加者数
- (ア) 期日 平成23年1月29日(土)～30日(日)
- (イ) 対象 小・中学生とその保護者
- (ウ) 参加者数 29名(当所からの参加者)

福島県郡山自然の家

第1節 概要

郡山自然の家は、昭和 47 年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、小・中学校の宿泊体験学習の場として開所して以来 38 年が経過し、平成 21 年 10 月には、延べ利用者が 150 万人に達した。

本施設は、郡山駅より 11km、郡山南インターより車で 8 分という交通の便に恵まれ、しかも豊かな自然環境に囲まれている都市近郊型の自然の家であり、心身共に健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした教育施設である。

平成 20 年度まで 11 年間、県内 4 つの自然の家を運営してきた財団法人福島県自然の家が解散し、平成 21 年度から県直営としての運営形態に変わり 2 年目を終了した。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多様多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開してきた。

さらに本所は生涯学習の拠点として、広く県民の皆様にご利用いただけるような施設を目指し、施設の改築・改修や本館の段差を解消するなど障がい者にもやさしい施設づくりを進めてきた。

また、幼稚園から高齢者までの幅広い年齢層に対応し、多くの人に活用されるよう、多種多様な企画事業を展開するとともに、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

なお、平成 23 年 3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」(M9.0) 及びその後の東京電力福島第一原子力発電所の事故では、当所は幸い大きな被害を受けることはなかったが 3 月 12 日より臨時休所、3 月 15 日からは一次避難所となり最大約 270 名の被災者の受入を行った。

その結果、年間の利用状況は例年と比較しやや少なくなり、利用団体数 453 団体、延べ利用者数 28,461 人となった。

1 職員組織

職員組織は、下の通りである。

職名	所長	次長	主査	主任指導主事	社会教育主事	指導主事	計
人員	1	1	1	1	1	1	6

2 平成22年度重点目標と成果

(1) 利用団体への支援

ア 団体が主体的に活動できるようにするために、学校利用指導者研修会や社会教育団体利用指導者研修会の充実を図るなど、利用団体の指導者との連携を密にしてきた。

研修会では施設の概要を説明し、研修のねらいや活動計画の立案に対しての指導・援助を行った。また、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるように支援した。両研修会とも諸般の事情により日帰り開催としている。

イ 活動計画の作成に当たっては、利用団体がより主体的に活動できるように、利用団体の目的やニーズに応じて、弾力的に支援した。

さらに、利用者が自然や友達とのふれあいをより深め、新たな発見や気づきを重視した活動ができるよう、ゆとりある日程の作成を働きかけた。

(2) 利用者の声を生かす

ア 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、活動環境の充実やプログラムの開発、運営に生かした。

イ 学校利用指導者研修会や社会教育団体利用指導者研修会参加者の声やアンケートをもとに、その後の運営の改善を図った。

(3) 環境保護の視点に立った環境整備

ア 手入れが行き届いた施設設備を目指して、日常点検や活動開始前の点検を常に心掛けた。

イ 自然保護に配慮したコース案内板等の補修及び更新を行ってきた。また、樹木にやさしくという考えに立って、針金等による補修を行わないようにした。同時に、エリア内美化活動への参画を利用団体にも啓発した。(利用学校へのボランティア活動の推進)

ウ 館内については、季節ごとの掲示に心がけるなど変化のある計画的な掲示に努めた。

(4) 多様なニーズに対応できるプログラムの開発

ア 利用団体の研修のねらいも年々多様になってきており、団体のニーズに応じて弾力的に対応できるように努めた。

また、本所外でのプログラムとして、ふれあい科学館やムシテックワールド、猪苗代スキー場など、近隣施設との連携を図り、プログラムに広がりをもたせた。

イ 既存の活動種目を見直し、改善を加えた。特に、プログラムの内容が実態に合っているかという観点から再吟味して、より多くの利用者が楽しむことが可能な内容に改めた。

(5) 広報活動の展開

ア 多くの利用者に利用してもらえるよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行ってきた。学校利用の拡大については、地区校長会議での P R 活動を通して数多く

の学校に利用いただけるよう多様な利用方法について説明を行った。

イ 企画事業案内、ホームページ等の改善・充実、携帯サイトの充実、電子メールを利用した広報などを積極的に活用し、自然の家のPRに努めた。

ウ 企画事業などでは、報道機関を通じた周知活動や広報活動を積極的に行い、利用拡大を推進してきた。

(6) 特色ある企画事業の開発

ア 9月下旬には、『第9回郡山自然の家オープンデー』を実施し、地域と共に歩む自然の家を目指し、本所を開放して自然体験プログラムを体験していただいた。

2月には、『わくわく！ファミリー冬のつどい』を実施し、猪苗代スキー場で親子でスキーやそり滑りを体験するとともに、夜はクラフト体験を行い、親子のふれあいを深めた。

イ 本所のメイン事業である『夢冒険キャンプ』は、様々な困難に打ち勝つことのできる子どもたちの育成をテーマに、2泊3日で実施した。1日目は所内での活動を中心にオリジナルのスコアOLや野外炊飯を実施した。2日目は御霊櫃登山を実施し、夜はキャンプファイヤーを実施した。最終日の3日目は猪苗代湖でのいかだ体験などを行った。3日とも天候に恵まれ子どもたちにとって貴重な体験になった。また、森の中での活動、湖での活動、山での活動と様々な自然活動を体験することができ、子どもたちは大きく成長した。なお、この事業に実施にあたっては、福島大学を中心とした多くの学生ボランティアの支援により運営している。

ウ 会津自然の家の企画事業『福島の冬！ウインターフェスティバル』は、郡山、相馬海浜、いわき海浜の各自然の家が協力する形で実施した。各自然の家が県内各担当エリアで募集・引率をした。会津自然の家に親子で宿泊し、会津の冬の風情や伝統文化のすばらしさを体感していただいた。

(7) 安全対策の充実

「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても働きかけ、積極的に安全対策を行ってきた。

新型インフルエンザ対策にはマニュアルを作成し、所内での感染を未然に防ぐための対策を講じてきた。

食中毒防止については、「手洗い・アルコール消毒の徹底」を図ってきた。食事を提供する給食業者や利用者の意識も高く、大きな問題は無かった。

スズメバチ対策については、捕虫装置を設置してハチを捕獲する対策を講じてきた。特に、今年度は設置箇所を増やしたり、コース点検を強化したりするなどして対応してきた。巣を発見した場合は、必要に応じて郡山市公園緑地課と連携を図りながら、早期の駆除に努めた。また、松食い虫による被害木も数多く見られ、全活動エリア内の被害状況調査を行うとともに、可能な限り伐採

に努めた。

防火に対しては、火を使う機会が多いので、利用者を交えた避難訓練を実施するとともに、日常の点検を怠ることのないように努めてきた。

また、不審者の侵入防止を図るため、マニュアルを作成し職員研修を深めた。常に来所者に声をかけ、車止めや施設の施錠の完全を期すなどして、安全管理に努めてきた。

(8) 施設設備等の充実

利用者に快適に利用してもらえるように、現在の施設環境のもとで、できることは何かを考えながらハード面ソフト面の両面から改善を行ってきた。

また、安全対策として、利用者が利用するフィールドアスレチックなどの遊具全般の点検と併せて必要な補修整備に努めてきた。

(9) 地元施設等との連携

ア 10月11日(月)に実施された浄土松公園祭りに出展し、参加者が自由に体験できる「木の枝クラフト」を実施し324名が参加した。

イ 郡山市観光協会逢瀬支部との連携を図り、「逢瀬町パークファイブ」(仮称)の実施に向けて検討を図ってきた。これは、逢瀬地区にある5つの公園施設(逢瀬公園、郡山自然の家、高篠山森林公園、浄土松公園、清水池公園)が連携を図り、各施設の事業をスタンプラリーで結ぶという計画である。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

〒963-0213

郡山市逢瀬町多田野字中丸山46番地

2 宿泊定員

○ 本館166名(14部屋)

○ ロッジ126名(9棟)

3 敷地面積

237,587.59㎡

4 建物面積

延床面積 3,806.08㎡

本館(管理棟・宿泊室・研修室・浴室)、体育館、食堂、総合活動館、野外活動センター、ロッジ等

5 設備備品等

野外活動設備(フィールドアドベンチャー設備、アーチェリー場、マウンテンバイク、スコアオリエンタリングコース、フィールドワークコース、営火場等)、野外炊飯場、天体望遠鏡、運動及び野外活動用具、視聴覚機器、インターネット接続大型液晶テレビ等

第3節 利用状況

郡山自然の家の利用者は、次のように大別される。

- 保育所、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校の園児や児童生徒及び引率者
- スポーツ少年団、子ども会育成会、学校・学級PTA等の社会教育団体に所属する児童生徒及び引率者

○ 家族等その他のグループ等

本年度の利用団体数は453団体、利用者数は、実利用者が17,461人、延べ利用者28,461人であり利用状況の詳細は、次のとおりである。なお、3月12日以降の震災及び原発事故による避難者は利用者数には含まれていない。

1 月別利用状況

月	種別	学 校 教 育 団 体						社 会 教 育 団 体				ファミリー	企画事業	合 計
	区 分	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少 年	青 年	一般成人	高齢者			
4	団体数	1	0	0	1	0	0	13	6	2	0	3	3	29
	利用人員	10	0	0	210	0	0	394	103	33	0	13	257	1,020
	延人数	10	0	0	420	0	0	611	160	38	0	18	257	1,514
5	団体数	9	6	0	0	0	1	5	1	5	1	6	0	34
	利用人員	236	259	0	0	0	135	224	26	245	40	22	0	1,187
	延人数	299	605	0	0	0	135	407	52	264	40	22	0	1,824
6	団体数	3	21	0	1	2	0	7	0	3	1	3	2	43
	利用人員	326	1,287	0	44	109	0	248	0	36	40	24	96	2,210
	延人数	482	2,552	0	44	218	0	434	0	50	40	31	96	3,947
7	団体数	8	13	0	0	0	1	29	2	4	1	1	1	60
	利用人員	503	1,170	0	0	0	4	1,051	41	171	36	5	19	3,000
	延人数	1,004	1,687	0	0	0	8	1,772	96	171	36	5	19	4,798
8	団体数	1	1	0	0	0	0	20	4	8	0	3	1	38
	利用人員	24	39	0	0	0	0	786	131	426	0	19	30	1,455
	延人数	45	78	0	0	0	0	1,591	383	814	0	52	90	3,053
9	団体数	1	20	0	0	3	0	12	2	3	0	1	2	44
	利用人員	252	1,329	0	0	56	0	530	22	53	0	5	426	2,673
	延人数	252	2,569	0	0	112	0	939	57	69	0	5	439	4,442
10	団体数	6	13	0	2	2	0	21	4	6	0	1	0	55
	利用人員	225	1,455	0	41	103	0	680	64	416	0	6	0	2,990
	延人数	391	2,599	0	41	103	0	996	104	437	0	6	0	4,677
11	団体数	0	2	1	2	0	1	20	3	1	0	3	1	34
	利用人員	0	193	5	34	0	50	498	69	9	0	8	37	903
	延人数	0	193	5	34	0	50	750	113	9	0	8	37	1,199
12	団体数	2	0	0	0	0	0	15	2	3	0	5	1	28
	利用人員	165	0	0	0	0	0	234	29	206	0	18	28	680
	延人数	319	0	0	0	0	0	326	80	206	0	23	28	982
1	団体数	0	1	0	0	0	0	25	2	2	0	2	1	33
	利用人員	0	19	0	0	0	0	302	45	26	0	13	29	434
	延人数	0	38	0	0	0	0	394	45	27	0	13	58	575
2	団体数	8	2	0	0	0	0	29	0	1	0	0	2	42
	利用人員	281	42	0	0	0	0	448	0	1	0	0	52	824
	延人数	463	86	0	0	0	0	721	0	3	0	0	87	1,360
3	団体数	0	0	0	0	0	0	12	1	0	0	0	0	13
	利用人員	0	0	0	0	0	0	80	5	0	0	0	0	85
	延人数	0	0	0	0	0	0	80	10	0	0	0	0	90
合	団体数	39	79	1	6	7	3	208	27	38	3	28	14	453
	利用人員	2,022	5,793	5	329	268	189	5,475	535	1,622	116	133	974	17,461
計	延人数	3,265	10,407	5	539	433	193	9,021	1,100	2,088	116	183	1,111	28,461

2 利用団体別・宿泊日数利用状況

(1) 利用者数

項 目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	453	17,461	11,000	28,461
(キャンプ)	(5)	(142)	(163)	(305)
(ロッジ)	(27)	(1,044)	(1,094)	(2,138)

(2) 利用受け入れ日

項 目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	275	263	233	136
(キャンプ)	(172)	(12)	(140)	(8)
(ロッジ)	(186)	(45)	(151)	(26)

(3) 利用者区分

泊 数	種 別 区 分	学 校 教 育 団 体						社 会 教 育 団 体				ファミリー	企画事業	合 計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
1 日	団体数	16	17	1	5	2	2	125	7	25	3	23	10	236
	実利用者数	953	1375	5	119	103	185	2088	177	1389	116	103	867	7480
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	953	1375	5	119	103	185	2088	177	1389	116	103	867	7480
2 泊	団体数	13	58	0	1	5	1	75	11	6	0	3	3	176
	実利用者数	895	4222	0	210	165	4	3228	151	66	0	17	77	9035
	延宿泊者数	895	4222	0	210	165	4	3228	151	66	0	17	77	9035
	延利用者数	1790	8444	0	420	330	8	6456	302	132	0	34	154	18070
3 泊	団体数	10	4	0	0	0	0	8	9	6	0	1	1	39
	実利用者数	174	196	0	0	0	0	159	207	101	0	6	30	873
	延宿泊者数	348	392	0	0	0	0	318	414	202	0	12	60	1746
	延利用者数	522	588	0	0	0	0	477	621	303	0	18	90	2619
4 泊	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	66	0	7	0	73
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	198	0	21	0	219
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	264	0	28	0	292
5 泊	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 泊 以 上	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	団体数	39	79	1	6	7	3	208	27	38	3	28	14	453
	実利用者数	2022	5793	5	329	268	189	5475	535	1622	116	133	974	17461
	延宿泊者数	1243	4614	0	210	165	4	3546	565	466	0	50	137	11000
	延利用者数	3265	10407	5	539	433	193	9021	1100	2088	116	183	1111	28461

3 研修活動の分類と実施団体数

活動分類			学校教育利用団体						社会教育 利用団体	合 計
			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大 学		
野 外 活 動	キ ャ ン プ 活 動	ロ ッ ジ 泊	2	2	0	2	0	1	25	32
		テ ン ト 泊	0	0	0	0	0	0	3	3
		キャンピング(テント設営・撤収)	0	0	0	0	0	0	0	0
		野 外 炊 飯	2	10	1	8	4	2	46	73
		キャンプファイヤー	8	20	0	0	3	0	19	50
		キャンドルフアイヤー	5	7	0	0	2	0	4	18
	自 然 ふ れ あ い 活 動	自 然 散 策	20	12	0	3	3	0	6	44
		ネ イ チ ャ ー ゲ ー ム	1	9	0	0	0	0	6	16
		フ ィ ー ル ド ワ ー ク	1	45	0	0	3	0	8	57
		フィールドアドベンチャー	3	36	0	2	1	0	22	64
		スコアオリエンテーリング	0	16	0	1	0	1	8	26
		ス タ ンプ ラ リ ー	0	4	0	0	1	0	7	12
		ウ ォ ー ク ラ リ ー	0	1	0	0	0	0	0	1
		沢 遊 び	0	0	0	0	0	0	2	2
		ハ イ キ ン グ	0	1	0	0	0	0	4	5
		登 山	0	2	0	0	0	0	4	6
		雪 遊 び ・ そ り す べ り	0	6	0	0	0	0	10	16
		ナ イ ト ハ イ ク	1	23	0	1	0	0	9	34
	星 空 ウ ォ ッ チ ン グ	0	9	0	0	1	0	2	12	
	レ ク ・ ゲ ー ム	伝 承 遊 び	0	3	0	0	0	0	0	3
		旗とりゲーム	0	9	0	0	0	0	0	9
		室 内 ス ポ ー ツ	13	8	7	12	0	0	68	108
		室内サーキット	5	19	2	1	6	0	57	90
		アーチェリー	0	46	0	1	1	0	20	68
		マウンテンバイク	0	33	0	1	1	0	8	43
		インラインスケート	0	40	0	1	1	0	6	48
		フリスビーゴルフ	0	22	0	0	0	0	13	35
		グランドゴルフ	0	5	0	0	0	0	5	10
フロッカー		0	4	0	0	0	0	0	4	
室 内 活 動	文 化 活 動	施 設 を 訪 ね て	0	3	0	0	0	0	0	3
		室内研修	5	6	1	45	2	13	91	163
		ボランティア	0	16	0	0	0	0	1	17
	ク ラ フ ト 活 動	張 り 子 面	0	0	0	0	0	0	6	6
		森 の 標 本 箱	3	7	0	0	2	0	4	16
		押 し 花 ア ー ト	0	0	0	0	0	0	6	6
		焼 き 板	0	5	0	0	0	0	4	9
		草 木 染 め	0	1	0	0	0	0	3	4
		革 細 工	0	6	0	0	1	0	8	15
		プラ板キーホルダー	1	0	0	0	1	0	2	4
絵 手 紙	0	0	0	0	0	0	2	2		
森 林 環 境 学 習 プ ロ グ ラ ム			0	2	0	0	0	0	2	
職 場 体 験 学 習 プ ロ グ ラ ム			0	0	0	0	0	0	0	
高 齢 者 対 応 ク ラ フ ト 教 室			0	0	0	0	0	0	0	
合 計			70	438	11	78	33	17	489	1,136

第4節 企画事業

1 研修会事業

(1) 学校利用指導者研修会（第1回、第2回）

ア 目的

当所を主体的に利用することができるようにするため、活動計画の立て方や研修の進め方について研修し、指導者としての資質を高める。

イ 期日・対象校及び参加者数

(ア) 第1回

期 日 平成22年4月28日（水）
対象校 4月～8月までの利用学校
参加者 43名

(イ) 第2回

期 日 平成22年6月29日（火）
対象校 9月～3月までの利用学校
参加者 35名

ウ 研修内容（第1回、第2回ともに同じ内容）

- ・本所プログラムの紹介
- ・施設案内
- ・実技研修（フィールドワーク、スコアOLなど）
- ・活動プログラムの作成（各学校の子どもの実態に応じて）
- ・活動プログラムの調整（所バス利用調整を含む）

(2) 社会教育団体利用指導者研修会（第1回、第2回）

ア 目的

当所を主体的に利用できるようにするため、研修計画の立て方や研修の進め方について研修し、指導者としての資質を高める。

イ 期日・対象者及び参加者数

(ア) 第1回

期 日 平成22年6月 6日（日）
対 象 7月までの利用団体の指導者
参加者 61名

(イ) 第2回

期 日 平成22年7月11日（日）
対 象 8月からの利用団体の指導者
参加者 19名

ウ 研修内容

- ・全体会（講義…充実した活動をするために）
- ・活動プログラムの調整及び作成（同日利用団体との打ち合わせ・調整）

(3) ボランティア研修会

ア 目的

当所でのボランティア希望者の研修を通して、本所のボランティアの資質の向上を図る。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成22年5月15日（土）
対象者 ボランティア希望者
参加者 中止（希望者がいないため）

ウ 研修内容

- ・講話、テントの張り方、野外炊飯等

2 利用拡大事業

(1) サクラ・カタクリ週間

ア 目的

所内の桜やカタクリの群生地、自然の家のプログラムを体験し春の自然を満喫するとともに、家族の絆を深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成22年4月11日（日）～25日（日）
対象者 一般（家族単位の参加を基本として）
参加者 214人

ウ 活動内容

- ・桜やカタクリの観賞、プログラムの体験

(2) さくらウォーク

ア 目的

春の野山や田園地帯を歩きながら草花や樹木を観賞することを通して、自然に親しみ、人とのふれあいを深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成22年4月18日（日）
対象者 小学生から一般
参加者 中止（降雪のため）

ウ 活動内容

- ・三穂田町千本桜までのウォーク（ロングコース 10km とショートコース 5km の選択）

(3) 夢冒険キャンプ

ア 目的

キャンプ生活を通して、自然との共存を図りながら、様々な困難に打ち勝つことの出来る子どもたちを育成する。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成22年8月18日（水）～20日（金）
対象者 小学5年生～中学3年生
参加者 30名

ウ 活動内容

(ア) 第1日目 8月18日（水）

- ・結団式・オリエンテーション
- ・スコアOL
- ・テント設営
- ・野外炊飯

(イ) 第2日目 8月19日（木）

- ・安積山登山
- ・キャンプファイヤー

(ウ) 第3日目 8月20日（金）

- ・猪苗代湖湖水浴
- ・イカダレース

(4) 第9回郡山自然の家オープンデー

ア 目的

自然の家の理解を深めるとともに、体験活動を通して

利用拡大を図る。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成22年9月26日（日）
対象者 一般（家族単位の参加を基本として）
参加者 426名

ウ 活動内容

- ・開会式
- ・アトラクション（柴宮幼稚園児による柴宮太鼓の演奏、うねめ太鼓保存会によるうねめ太鼓の演奏）
- ・コーナープログラム（丸太切り、アーチェリー、マウンテンバイク、いかだ乗り体験、インラインスケート体験など）・施設開放

(5) ふかまる秋！まるごと体験

ア 目的

自然の家の周辺にある木の実や倒木等の自然素材を生かしたクラフト活動などを通して、自然への理解や家族の交流を図る。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成22年11月21日（日）
対象者 一般（だれでも）
参加者 37名

(6) 手作りクリスマス

ア 目的

自然の家の周辺にあるツルを編んでキャンドルホルダーを作るクラフト活動を通して、自然とのふれあいを深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成22年12月11日（土）
対象者 一般（だれでも）
参加者 28名

(7) わくわく！ファミリー冬のつどい

ア 目的

スキー教室を通して、白銀の世界を体感するとともに、家族の絆を深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成23年2月5日（土）～6日（日）
対象者 小学生を含む家族
参加者 35名

ウ 活動内容

猪苗代スキー場でのスキー体験、クラフトづくり

(8) 冬の文化祭「クラフトまつり」

ア 目的

自然の家のクラフト（革細工・森の標本箱）や食堂での食事を体験することを通して利用拡大を図る。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成23年2月20日（日）
対象者 一般（だれでも）
参加者 17名

3 協力事業

(1) 福島の冬！ウィンターフェスティバル（会津自然の家）

ア 期日・参加者数

期 日 平成23年1月29日（土）～30日（日）
参加者 29名（当所からの参加者数）

第5節 その他

平成23年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」（M9.0）及びその後の東京電力福島第一原子力発電所の原子力災害による避難者受け入れを3月15日に開始した。平成22年度中の避難者の受け入れの状況は次の通りである。

(1) 入退所者数の推移

	入所者数	退所者数	宿泊者数
3月15日	266		266
3月16日	7	26	247
3月17日	2	26	223
3月18日	1	34	190
3月19日	6	16	180
3月20日		16	164
3月21日	7	15	156
3月22日		15	141
3月23日		2	139
3月24日	5	10	134
3月25日		7	127
3月26日	23	1	149
3月27日	6	21	134
3月28日	1	12	123
3月29日		3	120
3月30日	1	8	113
3月31日		2	111
計	325	214	

(2) 出身市町村別避難者数

3月31日までの入所者325名の出身市町村別数は次の通りである。

いわき市	145	南相馬市	13
川内村	49	双葉町	9
富岡町	47	小野町	7
田村市	25	檜葉町	2
大熊町	13	広野町	2
浪江町	13		

計 11市町村 325名

福島県会津自然の家

第1節 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした社会教育施設である。

昭和56年4月に開所し、今年度末で30年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

今年度は、次の3つの重点目標を掲げ、その達成に努めるとともに、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した社会教育施設の役割に積極的に取り組んできた。

〈重点目標〉

- (1) 利用団体を支援する体制を整備する。
→ 利用による付加価値を高める。
- (2) 利用者層の拡大に努める。
→ 生涯学習施設としての役割を担う。
- (3) 環境の整備に努める。
→ 事故ゼロを目指す。

1 職員組織

職 名	所 長	次 長	主 査	主任指導主事	社会教育主事	指導主事	体験活動指導員	嘱託運転手	労 務 員	計
人員	1	1	1	1	2	1	3	1	2	13

2 平成22年度重点目標と成果

- (1) 利用団体を支援する体制を整備する。
→ 利用による付加価値を高める。

＜取り組みの重点＞

ア 利用団体、特に幼稚園、学校での目的と活動の整合性を図る。

- ・ 事前打ち合わせ等で利用団体の活動のねらいをしっかりと聞き取り、活動プログラムのねらいとの整合性を図る。

イ 信頼関係づくりゲーム、森林環境学習等の出前講座の充実を図る。

- ・ 信頼関係づくりゲーム、森林環境学習のプログラムを敷衍すると共に、出前講座を積極的に推進する。

ウ 専門的知識・技能、経験等を有する講師を活用できるよう、コーディネートする。

＜取り組みの結果＞

ア 幼稚園、学校での利用目的の差はみられるが各プログラム終了後の振り返りの時間を設定する団体は少しずつ増えてきており、今後も事前研修会、受入時打合せなどの機会を活用し声をかけていきたい。利用者アンケートの結果によれば、利用者の満足度は高く、支援の体制は整ってきたと判断される。

イ 自然の家に来られない場合には、学校周辺の環境を活用して森林環境学習を実施できる旨を伝え、信頼関係作りゲームのよさを体感してもらうために、事前研修会や企画事業のオリエンテーションなどを実施して周知してきた。その結果、信頼関係作りゲームを雨の時の活動として設定する団体が増えてきた。森林環境学習については実施する団体が少ないため、今後のさらなる働きかけが必要である。

ウ 民話の語り部、自然観察、スキー講師、星空案内人など、各種プログラム、企画事業においての活用は定着してきている。また、企画事業のサポート、コース・施設環境の整備において、一般、高校生のボランティア活動も充実してきており、支援体制の充実が図られてきている。

- (2) 利用者層の拡大に努める。

→ 生涯学習施設としての役割を担う。

＜取り組みの重点＞

ア ホームページの充実にも努め、随時更新し、最新の情報発信を行うとともに、主催事業等においては、広報誌、新聞社等への記事提供を行うなど、積極的な広報に努める。

イ 「会津自然の家だより」を定期的に発行し関係機関に配布するとともに、地域の広報誌、マスコミ等を積極的に活用する。

ウ 学校関係以外の機関や地域の各種サークル等への広報活動も積極的に推進する。

＜取り組みの結果＞

ア ホームページの随時更新、県内の教育委員会、公民館はもとより関東圏の教育委員会へのPR活動などを行い、積極的に広報活動に努め、特に冬場のスキー学習での利用を増やすことができた。

イ 自然の家だよりの季刊発行、地域情報紙（2紙）への掲載依頼、さらには、アスレチック、その無料開放デーを設けることにより利用拡大を図ることができた。

ウ 学校関係以外の機関、サークルへの周知活動は十分ではなかった。合唱団体などのサークル、老人会、大学等への利用拡大を図っていきたい。

- (3) 環境の整備に努める。

→ 事故ゼロを目指す。

＜取組みの重点＞

ア 常に整理整頓、定物定位置を心がけ、美しい環境作りに努める。

イ 事故発生予防に努める。

- ・ 定期的な点検の充実に努める。
- ・ 防火防災等安全に係る計画を見直し、改善を図る。

＜取組みの結果＞

ア 正規の職員数は減ったが、臨時労務員の確保により、コースや周辺環境の整備には、これまで以上に取り組むことができた。

イ 毎月の定期点検はもとより、各種プログラムの実施の中でも常に気を配り、補修箇所、危険箇所については即座に対応し、事故発生の予防に努めた。

ウ 防火防災等安全に関わる「危機対応マニュアル」や利用団体に配付する「もしものときのために」の内容の検討を行い、より広範囲にわたる困難な状況に対応ができるように改善を図った。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

- 河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1

2 宿泊定員

- 本館 25室 290名（うち1室障がい者用）
- ロッジ 10棟 150名
- テント 20張 120名

3 敷地面積

- 251,432 m²

4 建物面積

- 延床面積 5,462.7365 m²
 - ・ 管理研修棟（鉄筋造2階建）
 - ・ 宿泊棟（鉄筋造2階建）
 - ・ プレイホール（鉄筋造）
 - ・ アセンブリホール（鉄筋造）
 - ・ 機械棟（鉄筋造3階建）
 - ・ ロッジ（木造平屋建）
 - ・ 野外活動管理センター（鉄筋造）
 - ・ 炊飯場（鉄筋造）
 - ・ 薪置場（コンクリートブロック造）
 - ・ 車庫（鉄筋造）・野外便所（鉄筋造）

5 運動広場面積

- 8,500 m²

6 設備備品等

- ・ フィールドアスレチック ・ アルペンスキー
- ・ 歩くスキー（クロカンスキー） ・ そり ・ かんじき
- ・ 野外活動用具 ・ 野外炊飯用具 ・ 運動用具
- ・ 双眼鏡 ・ 天体望遠鏡 ・ テレビ ・ VTR
- ・ 16mm映写機 ・ 液晶プロジェクター ・ ピアノ
- ・ オルガン ・ CDカセットプレーヤー
- ・ 伝承遊びセット ・ クラフト用具
- ・ 各種OL用具 ・ 営火場（4箇所）
- ・ 諸活動コース ・ その他

第3節 利用状況

○ 当施設を利用できる対象者は、次のとおりである。

- (1) 学校団体（小学校、中学校、特別支援学校、高校、大学、高等専門学校、幼稚園等の構成員及びその指導者
- (2) 社会教育団体（公民館、子ども会、保育所、スポーツ少年団体、家族、老人会、勤労青少年団体等）の構成員及びその指導者
- (3) その他、教育長が適当と認めた者

○ 本年度の利用団体数は 519 団体、実利用者数は 25,082 人、延利用者数は 41,063 人である。

○ 月別利用状況、利用団体別・宿泊日数別利用状況、研修活動の分類と実施団体数についての詳細は、次の表のとおりである。

1 月別利用状況

(平成23年3月31日現在)

月	種別	学校教育団体						社会教育団体				家族	企画事業	合計
	区分	幼稚園等	小学校	中学校	高校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般	高齢者			
4	団体数	1	1	2	5	0	1	2	1	3	0	0	3	19
	利用人員	24	119	347	356	0	35	108	43	27	0	0	563	1,622
	延人数	24	238	693	598	0	70	212	43	43	0	0	563	2,484
5	団体数	6	13	3	0	0	0	12	1	7	1	0	1	44
	利用人員	311	754	367	0	0	0	339	20	102	26	0	56	1,975
	延人数	311	1,518	367	0	0	0	492	60	115	26	0	112	3,001
6	団体数	7	24	2	0	0	0	20	0	8	0	0	3	64
	利用人員	265	1,092	348	0	0	0	975	0	65	0	0	133	2,878
	延人数	308	2,373	654	0	0	0	1,093	0	100	0	0	133	4,661
7	団体数	9	12	0	0	2	0	35	1	6	0	4	0	69
	利用人員	478	916	0	0	28	0	1,958	12	105	0	22	0	3,519
	延人数	932	2,180	0	0	56	0	3,041	22	114	0	36	0	6,381
8	団体数	3	5	0	1	0	0	29	0	7	0	1	1	47
	利用人員	150	624	0	54	0	0	1,031	0	291	0	5	15	2,170
	延人数	283	1,760	0	162	0	0	2,331	0	608	0	15	45	5,204
9	団体数	6	20	3	1	0	0	13	2	8	0	1	2	56
	利用人員	176	1,193	97	57	0	0	555	39	82	0	4	429	2,632
	延人数	176	2,419	106	114	0	0	649	120	142	0	8	429	4,163
10	団体数	9	20	1	0	1	0	14	0	14	0	0	1	60
	利用人員	485	935	136	0	69	0	670	0	209	0	0	1,221	3,725
	延人数	485	1,391	136	0	276	0	814	0	254	0	0	1,221	4,577
11	団体数	1	10	1	0	0	0	8	0	5	0	1	4	30
	利用人員	33	408	43	0	0	0	208	0	73	0	2	109	876
	延人数	33	408	43	0	0	0	326	0	75	0	2	109	996
12	団体数	0	0	1	0	0	0	10	0	8	0	2	4	25
	利用人員	0	0	35	0	0	0	247	0	56	0	4	162	504
	延人数	0	0	70	0	0	0	357	0	56	0	8	255	746
1	団体数	19	9	2	0	1	0	10	0	4	0	0	2	47
	利用人員	865	365	345	0	66	0	447	0	34	0	0	164	2,286
	延人数	1,045	463	1,035	0	66	0	617	0	42	0	0	315	3,583
2	団体数	17	6	2	0	0	0	16	0	7	0	1	4	53
	利用人員	629	403	267	0	0	0	578	0	94	0	3	384	2,358
	延人数	629	1,208	801	0	0	0	874	0	103	0	3	384	4,002
3	団体数	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	5
	利用人員	55	0	0	204	0	0	117	0	11	0	0	150	537
	延人数	55	0	0	816	0	0	200	0	44	0	0	150	1,265
合計	団体数	80	120	17	8	4	1	170	5	77	1	10	26	519
	利用人員	3,471	6,809	1,985	671	163	35	7,233	114	1,149	26	40	3,386	25,082
	延人数	4,281	13,958	3,905	1,690	398	70	11,006	245	1,696	26	72	3,716	41,063

前年対比

期 間	区 分	21 年 度	22 年 度	増 減
4 月 ～ 3 月	団体数	510	519	9
	実利用者	26,498	25,082	-1,416
	延利用者	44,107	41,063	-3,044

2 利用団体別・宿泊日数利用状況

(1) 利用者数 () はキャンプ内数

項 目	団 体 数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	519	25,082	15,981	41,063
(キャンプ)	(4)	(111)	(266)	(266)
(ロッジ)	(24)	(547)	(1,218)	(1,218)

(2) 利用者受け入れ日数

項 目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	278	249	228	1581
(キャンプ)	(175)	(8)	(146)	(5)
(ロッジ)	(175)	(61)	(146)	(43)

(3) 利用者区分

泊	種 別	学 校 教 育 団 体						社 会 教 育 団 体				家 族	企 画 事 業	合 計
	区 分	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般	高齢者			
1	団体数	65	38	8	2	1	0	84	1	56	1	3	21	280
	実利用者数	2,782	1,501	830	114	66	0	4,353	45	929	26	13	3,071	13,730
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	2,782	1,501	830	114	66	0	4,353	45	929	26	13	3,071	13,730
2	団体数	10	61	4	4	2	1	65	2	13	0	6	4	172
	実利用者数	568	3,699	390	299	28	35	2,165	28	121	0	22	300	7,655
	延宿泊者数	568	3,699	390	299	28	35	2,165	28	121	0	22	300	7,655
	延利用者数	1,136	7,398	780	598	56	70	4,330	56	242	0	44	600	15,310
3	団体数	5	19	5	1	0	0	17	1	1	0	1	1	51
	実利用者数	121	1,377	765	54	0	0	615	20	8	0	5	15	2,980
	延宿泊者数	242	2,754	1,530	108	0	0	1,230	40	16	0	10	30	5,960
	延利用者数	363	4,131	2,295	162	0	0	1,845	60	24	0	15	45	8,940
4	団体数	0	2	0	1	1	0	2	1	1	0	0	0	8
	実利用者数	0	232	0	204	69	0	51	21	17	0	0	0	594
	延宿泊者数	0	696	0	612	207	0	153	63	51	0	0	0	1,782
	延利用者数	0	928	0	816	276	0	204	84	68	0	0	0	2,376
5	団体数	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	0	0	6
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	20	0	11	0	0	0	31
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	80	0	44	0	0	0	124
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	100	0	55	0	0	0	155
6	団体数	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	29	0	63	0	0	0	92
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	145	0	315	0	0	0	460
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	174	0	378	0	0	0	552
合 計	団体数	80	120	17	8	4	1	170	5	77	1	10	26	519
	実利用者数	3,471	6,809	1,985	671	163	35	7,233	114	1,149	26	40	3,386	25,082
	延宿泊者数	810	7,149	1,920	1,019	235	35	3,773	131	547	0	32	330	15,981
	延利用者数	4,281	13,958	3,905	1,690	398	70	11,006	245	1,696	26	72	3,716	41,063

3 研修活動の分類と実施団体数

(平成23年3月31日現在)

(1) 野外活動

No.	プログラム名	学校	社教	計
1	アルペンスキー	28	14	42
2	フィールド・アスレチック	35	28	63
3	野外炊飯	23	18	40
4	キャンプファイヤー	20	15	35
5	どきどきナイトハイク	22	5	27
6	そり・チューブ滑り	32	12	44
7	星空ウォッチング	24	5	29
8	宇宙大作戦	31	5	36
9	散策	22	11	33
10	U F O ゴルフ	6	9	15
11	会津の歴史・町並みハイク	8	1	9
12	地層と化石の観察	17	0	17
13	アニマルランドの冒険	12	0	12
14	火起こし体験	14	8	22
15	樹木オリエンテーリング	18	1	19
16	カヌー	12	3	15
17	バームクーヘン	2	12	14
18	森林環境学習	7	0	7
19	昆虫ウォッチング	9	0	9
20	かにの沢で遊ぼう	5	5	10
21	雪遊び	1	1	2
22	自然観察	8	1	9
23	ネイチャー・ゲーム	2	0	2
24	登山	4	2	6
25	ビンゴオリエンテーリング	1	0	1
26	森遊び	5	6	11
27	バーベキュー	1	3	4
28	草滑り	1	0	1
29	雪像づくり	2	2	4
30	どうぶつ村の大運動会	3	0	3
31	史蹟めぐり	2	0	2
32	アニマルトラッキング	3	0	3
33	川の学習	1	3	4
34	ハイキング	4	6	10
35	雪上ハイキング	0	3	3
36	ダッチオープン〈ピザ〉	3	6	9
37	ウォークラリー	0	1	1
38	すごろくオリエンテーリング	1	2	3

(2) 室内活動

No.	プログラム名	学校	社教	計
1	クラフト	27	23	50
2	室内ゲーム	26	18	44
3	信頼関係づくりゲーム	11	7	18
4	会津の民話	13	5	18
5	キャンドルファイヤー	14	2	16
6	パソコン	0	9	9
7	ケーキづくり	0	5	5
8	読み聞かせ	4	0	4
9	伝統工芸	4	0	4
10	テーブルマナー教室	0	2	2
11	そば打ち体験	0	2	2
12	紙しばい	1	0	1

*クラフトには、森の生きものたち、ストーンペインティングも含む

第4節 企画事業

1 指導者の研修

(1) 学校団体指導者事前研修会

ア 目的

当所の設立の趣旨・教育目標・方針・利用のねらい及び運営方法を理解し、児童・生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう、屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解し、効果的な活動計画が作成できるようにする。また、集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう、同時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図る。

イ 期日・対象・参加者数

第1回：平成22年4月20日（火）

5～6月に利用する学校の教職員27名参加

第2回：平成22年4月27日（火）

6～7月に利用する学校の教職員37名参加

第3回：平成22年6月22日（火）

9～10月に利用する学校の教職員31名参加

第4回：平成22年11月25日（木）

1～3月に利用する学校の教職員12名参加

ウ 研修内容

- (ア) 利用の仕方及び利用日までの手続き、準備物の確認
- (イ) 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- (ウ) プログラム及び活動内容・指導方法の理解
- (エ) 施設及び避難経路の確認

(2) 社会教育団体指導者研修会

ア 目的

社会教育団体が行う集団宿泊生活の充実や施設の安全な使用のために、施設の紹介や所内生活における基本的な生活ルールの周知を行うとともに、活動プログラムの作成・調整を行う。

イ 期日・対象・参加者数

第1回：平成22年6月13日（日）

7月21日～8月1日に利用する団体の引率者49名参加

第2回：平成22年6月20日（日）

8月2日～8月22日に利用する団体の引率者58名参加

ウ 研修内容

- (ア) 当所施設等の見学と安全確認
(避難経路の確認を含む)
- (イ) 当所の利用方法及び生活の仕方の研修
- (ウ) プログラム編成・同時期利用団体との調整

2 利用促進事業

(1) 森で遊ぼう！ファミリーキャンプ

ア 目的

親子によるキャンプ生活を通して、親子のふれあいや他

家族との交流を図り相互の親睦を深める。

自然体験活動を実施することにより、子どもたちの自主性と創造性を育成する。

イ 期日・対象・参加者数

(ア) 平成22年5月29日（土）～30日（日） 1泊2日

(イ) 幼稚園（年中以上）小・中学生とその家族等56名参加

ウ 活動内容

- (ア) 親子で仲良く野外泊
- (イ) 参加者選択による自然体験活動
 - A 森に秘密基地を作ろう！
 - B 木と仲良しになろう！
 - C 森を探検しよう！
- (ウ) ナイトハイクに挑戦
- (エ) 朝の自然散策
- (オ) 火おこし体験・野外クッキングに挑戦
 - A ダッチオーブンでのピザとポトフづくり

(2) 大自然わくわくキャンプ

ア 目的

会津自然の家及び近隣の豊かな自然の中での体験活動を通して、自然に親しむ心を養う。

活動を最後までやり遂げることを通して、達成感・満足感を味わわせる。

宿泊体験活動を通して参加者同士の交流を図る。

イ 期日・対象・参加者数

(ア) 平成22年8月2日（月）～4日（水） 2泊3日

(イ) 小学校5年生～中学校1年生 15名参加

泳力20メートル以上で水の冷たさに耐えられる健康な方

ウ 活動内容

- (ア) テント設営・カヌー体験
- (イ) きもだめし・花火大会
- (ウ) 裏磐梯中津川溪谷沢歩き
- (エ) 星空・昆虫ウォッチング
- (オ) 火起し体験・野外クッキング

(3) 第7回会津自然の家あったかふれあいまつり

ア 目的

自然の家オープンデーを実施することにより、県民に活動プログラムを体験できる場を提供し、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深める。

関係機関・団体との連携により利用団体の目的に即した体験活動の充実を図る。

イ 期日・対象・参加者数

(ア) 平成22年10月16日（土）

(イ) 地域住民を中心とした一般1,221名参加

ウ 活動内容

- (ア) プログラム体験コーナーⅠ（無料）・Ⅱ（有料）
- (イ) 協力団体等体験コーナー
- (ウ) 協力団体による模擬店販売
- (エ) 昼食販売他

(オ) 施設開放

(4) 打って食べて大満足 新そばにチャレンジ

ア 目的

そば打ち体験を通して、郷土の食生活、食の大切さを理解し、参加者同士の交流を深める。

イ 期日・対象・参加者数

(ア) 平成22年11月13日（土）・14日（日） 2日間

(イ) 小・中学生の親子57名参加

ウ 活動内容

(ア) そば打ち実演

(イ) そば茹で実演

(ウ) そば口上実演

(エ) そば打ち体験

(オ) 試食

(5) 手作り森のクリスマス

ア 目的

クリスマスケーキ・クラフト作りを通して、手作りのよさや自然素材のよさを味わせるとともに、家族やグループ間の交流を図る。

イ 期日・対象・参加者数

(ア) 平成22年12月11日（土）・12日（日）

(イ) 小・中学生の親子や知人69名参加

ウ 活動内容

(ア) ケーキ職人の技披露

生地づくり

ロールの仕方

デコレート

(イ) ケーキ作り体験

(ウ) クリスマスクラフトの飾り作成

(エ) 試食会

(6) 福島の冬！ウィンターフェスティバル

ア 目的

福島県会津自然の家での集団宿泊活動、雪国ならではの雪と親しむ活動、民話等の伝統文化的な活動を通して、福島の冬の風情や伝統文化のすばらしさを発見させるとともに、参加者相互の交流を深める。

イ 期日・対象・参加者数

(ア) 平成23年1月29日（土）～30日（日） 1泊2日

(イ) 小・中学生の親子122名参加

ウ 活動内容

(ア) 雪像づくり

(イ) そり滑り、チューブ滑り、スノーシュー

(ウ) アルペンスキー、クロスカントリースキー

(エ) 会津の民話

3 その他の企画事業

(1) 第7回 高寺山山開き

ア 目的

いにしへのロマンと豊かな自然を有する高寺山の山開きを行い、登山者の安全を願うとともに、町の教育・観光資源を広く内外に広報し地域振興に資する。

参加者同士が共に汗を流し登山することにより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

イ 期日・対象・参加者数

(ア) 平成22年4月11日（日）

(イ) 一般361名参加

ウ 活動内容

(ア) ばんげの歴史

(イ) 山開きの式

安全祈願(神事)

(ウ) 高寺山登山

(2) 冬休み学習宿!!

ア 目的

自然の家での活動を通して、他の参加者との交流を深め、自分から進んで生活や学習する態度を身につける。

イ 期日・対象・参加者数

(ア) 平成22年12月25日（土）～26日（日） 1泊2日

平成22年12月26日（日）～27日（月） 1泊2日

(イ) 小学3年～6年生90名参加

ウ 活動内容

(ア) 学習（国語、算数、理科、社会）

(イ) 毛筆書写

(ウ) 交流事業(ドッジビー)

(3) お月見コンサート2010

ア 目的

中秋の名月の時期に天体望遠鏡で月面を鑑賞し、年中行事としての「お月見」の体験をする。

「お月見」にふさわしい音楽や民話の語りを聴き、世代を越え共に秋の夜長を心ゆくまで楽しみ、交流を深める。

イ 期日・対象・参加者数

(ア) 平成22年9月18日（土） 日帰り

(イ) 一般参加者・スタッフ350名参加

ウ 活動内容

(ア) 月の調べ ～ オープニング ピアノ演奏

(イ) 月面鑑賞 ～ 天体望遠鏡による月面観察

(ウ) 声楽とピアノによる演奏

(エ) 合唱による演奏

(4) もみじ自然観察会

ア 目的

会津自然の家周辺のコース内で紅葉を主としてた自然

観察をしながら歩くことにより、自然のすばらしさを味わうとともに参加者相互の交流を深める。

イ 期日・対象・参加者数

(ア) 平成22年11月7日（日） 1日

(イ) 健康な方39名参加

ウ 活動内容

(ア) 会津自然の家周辺活動コース

「杉の沢コース」「北の尾根コース」

第 18 章 福島県文化財センター白河館

第 1 節 白河館の運営状況

1 利用者数

(平成23年3月31日現在)

	入館者数 (人)	ホームページ・データベースアクセス件数 (件)
4 月	2,779	111,827
5 月	3,376	37,698
6 月	2,582	29,654
7 月	2,953	36,304
8 月	3,053	28,203
9 月	2,845	16,227
10 月	2,874	25,451
11 月	2,038	29,232
12 月	1,791	33,368
1 月	1,210	58,161
2 月	1,984	45,186
3 月	746	23,173
計	28,231	474,484

2 入館者の内訳と傾向

1 日平均来館者数	4 月：107人	5 月：130人
	6 月：99人	7 月：102人
	8 月：102人	9 月：109人
	10 月：106人	11 月：85人
	12 月：81人	1 月：53人
	2 月：83人	3 月：75人

地域別利用状況 県内者82%（うち白河市38%）
県外者18%

年齢層別利用状況 入館者全体のうち、児童生徒（高校生以下）が40%、団体入館者が35%を占める。

3 団体利用者の内訳と傾向

(単位 人) (平成23年3月31日現在)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
幼稚園・保育園	団体数			1	1	1		1						4
	入館者数			58	23	35		52						168
小学校	団体数	16	12	18	9		11	9	2	1	1	1		80
	入館者数	917	574	769	652		870	646	78	32	30	28		4,596
中学校	団体数	3	1		1	1	6	3	5	1				21
	入館者数	299	56		4	59	121	59	93	20				711
高等学校	団体数			1	1		1	1	1		1	1		7
	入館者数			32	12		9	33	41		3	14		144
養護学校	団体数						2				1			3
	入館者数						47				7			54
大学	団体数				1	1		1	2			1		6
	入館者数				24	4		32	51			75		186
幼小中高PTA (保護者のみ)	団体数				1									1
	入館者数				30									30
幼小中高PTA (保護者と児童生徒)	団体数		1	3	2		1		1			1		9
	入館者数		30	200	55		68		59			41		453

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研 究 会	団体数		1				1							2
	入館者数		8				40							48
子 ど も 会	団体数				9	1				1				11
	入館者数				369	18				18				405
公 民 館 等	団体数		5	2	7	5	2	7	6	1	2			37
	入館者数		161	62	206	193	59	202	109	8	49			1,049
福祉施設・ デイケアサービス	団体数			1		1		2	4		2	3		13
	入館者数			18		33		24	50		26	36		187
資 料 館 等	団体数		1		2									3
	入館者数		33		68									101
歴史研究団体	団体数	1	1	1			1		1				1	6
	入館者数	39	30	25			32		31				30	187
県・市町村・ 教委・審議会等	団体数				3	2	1		3			1		10
	入館者数				56	83	27		55			13		234
そ の 他	団体数	2	4	7	1	3	7	12	10	7	3	2	5	63
	入館者数	35	61	159	13	45	156	255	147	143	50	58	329	1,451
計	団体数	22	26	34	38	15	33	36	35	11	10	10	6	276
	入館者数	1,290	953	1,323	1,512	470	1,429	1,303	714	221	165	265	359	10,004
総入館者に占める 団体入館者の割合％		46	28	51	51	15	50	45	35	12	13	13	48	35

4 情報発信事業の利用者

文化財データベースアクセス件数427,934件

(平成23年3月31日現在)

(文化財データベース公開件数327,175件、文化財情報提供システム406件をインターネット上で公開し、白河館のイベント情報等もホームページで紹介している。)

5 資料管理業務

県教育委員会による調査の出土品約46,644箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理。

写真掲載・転載の申し込み39件、出土品借受の申し込み11件。収蔵庫保管品の館内閲覧20件。

6 研修事業の状況

埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

区 分	研修対象者	研 修 内 容
基礎研修	教職員・市町村職員等	主に発掘調査技術の向上と整理技術の向上などをめざす
専門研修	教職員・市町村職員等	考古資料を基に、深く細やかな指導を行うための知識や技術の習得と、総合的な歴史価値判断能力の習得などをめざす。
特別研修	教職員・市町村職員等	上記以外の研修(教職員を主な対象とする発掘調査研修、市町村職員等の要望に応じて随時実施する研修、無形の文化財に関する研修など)

平成22年度研修実施状況	(平成23年3月31日現在)		
＜期日指定研修＞	参加者：合計417名		
基礎研修「考古学基礎講座Ⅰ」	5月15日	参加者15名	
基礎研修「考古学基礎講座Ⅱ」	6月19日	参加者20名	
特別研修「臨時館内研修」棚倉町	6月29日～30日 参加者 6名		
基礎研修「考古学基礎講座Ⅲ」	7月10日	参加者14名	
専門研修「文化財保護指導者研修会」	会津若松市・会津美里町 7月22日～23日 参加者138名		
特別研修「職員派遣研修」古殿町	7月29日	参加者16名	
専門研修「考古学と関連科学」	7月31日	参加者 8名	
基礎研修「教職員発掘調査体験研修」喜多方市	8月4日～6日 参加者24名		
基礎研修「体験学習支援研修Ⅰ」	8月28日	参加者 6名	
基礎研修「調査技術基礎研究」	9月11日	参加者11名	
特別研修「博物館学外実習」	9月14日～18日 参加者25名		
専門研修「専門考古学講座Ⅰ」	9月25日	参加者30名	
基礎研修「考古学基礎講座Ⅳ」	10月2日	参加者12名	
基礎研修「体験学習支援研修Ⅱ」	10月16日	参加者 4名	
専門研修「土器復元研修」	10月20日	参加者11名	
専門研修「専門考古学講座Ⅱ」	11月13日	参加者25名	
専門研修「専門考古学講座Ⅲ」	12月11日	参加者16名	
特別研修「臨時館内研修」福島市	12月18日	参加者 1名	
基礎研修「文献資料と地方史研修」	1月15日 参加者10名		
基礎研修「無形の文化財基礎研修」	2月5日	参加者25名	

7 体験学習事業の状況

過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。

活動を行うための施設として、屋内に体験活動室、別棟として体験学習館を設けている。また、野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代竪穴住居、前方後円墳、奈良時代竪穴住居、奈良時代高床式倉庫、平安時代製鉄炉、中世館を復元展示しているが、これを利用して古代の生活の体験活動ができるようにしている。

(1) 常時体験型体験学習

事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体で体験学習を希望する場合を対象とするものを用意している。内容は、火おこし、勾玉づくり、土器づくりなどである。

常時体験型体験活動状況 (平成23年3月31日現在)

	来館者数(人)	体験者数(人)	率(%)
4月	2,779	2,075	74.7
5月	3,376	3,989	118.2
6月	2,582	1,926	74.6
7月	2,953	3,027	102.5

8月	3,053	2,666	87.3
9月	2,845	2,034	71.5
10月	2,874	1,720	59.8
11月	2,038	1,021	50.1
12月	1,791	1,492	83.3
1月	1,210	427	35.3
2月	1,984	655	33.0
3月	746	106	14.2
計	28,231	21,138	74.9

※ 体験者数は1人で複数メニューを体験した場合も合算した延べ人数である。

(2) 募集型体験学習

事前に参加者を募集して土器づくり・石器づくり・古代機織りなどの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集し、関連性・継続性のあるメニューを年間7回(のべ8日)実施する「まほろん森の塾」などのプログラム。

・まほろん森の塾

第1回「結団式と古代の畑・水田作物植え」

5月22日 参加者 6名

第2回「鹿角アクセサリーづくり」

6月19日 参加者 8名

第3回「古代の技術・遊び体験」7月12日 参加者11名

第4回「お食事会」9月18日 参加者 7名

第5回「土偶づくり」10月16日 参加者 8名

第6回「土偶の野焼き」11月27日 参加者 8名

第7回「解団式」12月18日 参加者 7名

・実技講座

「第1回からくり劇場」5月 5日 参加者59名

「まっ茶茶わんをつくろう①」5月15・16日 参加者27名

「まっ茶茶わんをつくろう②」6月13日 参加者13名

「古代の弓づくり」6月27日 参加者 6名

「カラムシから布をつくろう①」7月 3日 参加者15名

「カラムシから布をつくろう②」7月17日 参加者14名

「家族で縄文土器を造ろう①」7月24日 参加者12名

「古代の染色にちょうせん」8月 8日 参加者17名

「家族で縄文土器を造ろう②」8月21日 参加者12名

「カラムシから布をつくろう③」9月 4日 参加者15名

「第2回からくり劇場」9月23日 参加者 8名

「古代の鍛冶体験」10月 9日 参加者 9名

「古代の印章づくり」10月23日 参加者 7名

「家族で土偶・土面をつくろう①製作」

11月 6日 参加者14名

「家族で土偶・土面をつくろう②野焼き」

11月27日 参加者11名

「第3回からくり劇場」12月19日 参加者60名

「家族で門松をつくろう」12月23日 参加者32名

「縄文土器づくり上級編①形づくり」

1月22日 参加者15名

「縄文土器づくり上級編②文様付け」

1月29日 参加者15名

「第4回からくり劇場」 1月30日 参加者96名
「古銭づくり」 2月20日 参加者24名
「縄文土器づくり上級編③野焼き」 3月12日 中止

(3) まほろんイベント

「GWまほろんまつり」 5月1日～6日 参加者1,591名
「まほろん夏まつり」 8月 1日 参加者 121名
「まほろんを描こう」 9月18日～20日 参加者 51名
「餅つき大会」 12月 5日 参加者 731名
「第7回双六大会」 1月10日 参加者 27名
「まほろん冬まつり」 2月20日 参加者 623名
「第8回毬杖大会」 3月12日 中止

(4) 「おでかけまほろん」

文化財センター白河館の職員が、土器や体験学習器材を携えて、学校や公民館などの教育機関を訪問し、体験学習の支援をしたり、先生方と連携して授業を進めるプログラム。平成22年度は27ヵ所で実施。参加者数は、延べ920名。

(平成22年度実績：西会津町尾野本小学校、伊達市懸田小学校、郡山市桑野小学校、猪苗代町緑小学校、二本松市原瀬小学校、いわき市上遠野小学校、いわき市川部小学校、いわき市好間第四小学校、いわき市平養護学校、会津若松市門田小学校、西郷村川谷小学校、田村市菅谷小学校、いわき市小白井小・中学校、いわき市川前小・中学校、伊達市月館小学校、田村市船引小学校、郡山市根木屋小学校、会津若松市湊小学校 昭和村昭和小学校、田村市要田小学校、伊達市大石小学校、伊達市泉原小学校、喜多方市高郷小学校、本宮市本宮小学校、須賀川市稲田小学校、塙町塙小学校、いわき市久乃浜台小学校)

(5) まるごとまほろん

文化財センター白河館に所蔵する発掘資料を、発掘調査をした付近の施設で展示するとともに、火おこし、勾玉づくりなどの体験学習も実施するプログラム。平成22年度は南相馬市で実施予定であったが、震災のため中止となった。

(6) 講座・講演会

館長の講演会、白河館の学芸員などが講師となる「まほろん文化財講座」を開催した。

・館長講演会 シリーズ『私の世界文化遺産散歩』イタリア編

第1回「ローマと周辺の世界文化遺産」 4月24日 聴講者 42名

第2回「ボンペイと周辺の世界文化遺産」 5月22日 聴講者 59名

第3回「イタリア南部の世界文化遺産」 7月 3日 聴講者 31名

・文化財講演会
「法正厩遺跡縄文文化時代の世界」 磐梯町アルツ磐梯 7月31日 観覧者 63名

「縄文土偶の世界」 10月17日 観覧者 58名

・文化財に関する上映会
第1回「男山八幡神社のお浜下り」

1月29日 観覧者 14名
第2回「金沢の羽山ごもり・カラムシと麻」
3月5日 観覧者 7名

8 常設展事業

常設展示室では、収蔵遺物や復元品を、「見て、触れて、考え、学ぶ」というプロセスを通じて理解しやすい形で展示している。

常設展示では、次の各展示コーナーにより構成される。「話題の遺跡」、「みんなの研究ひろば」、「しらかわ歴史名場面」「ふくしまの宝物」については年間数回程度の展示替えを行っている。

- めぐみの森(導入部)
- 暮らしのうつりかわり
- 暮らしをささえた道具たち
- 遺跡を掘る
- 話題の遺跡(最新の話題になった遺跡の発掘調査成果等を紹介する)
- みんなの研究ひろば(体験学習などを通して得られた成果や、児童、生徒、一般研究家の研究成果等の発表の場として活用する)
- ふくしまの文化財
- のぞいてみよう福島遺産
- しらかわ歴史名場面(白河地方の文化財を集め、白河地方の歴史の一こまを展示する)
- クイズふくしま歴史発見

9 企画展事業

特別展示室では、指定文化財展・収蔵資料展などの企画展を開催している。

(1) 企画展

・収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之八 宇田郡」
平成22年3月13日～5月16日 観覧者 4,918名
(平成22年度観覧者)

・ふくしま里帰り展「ふくしまの土偶」
9月25日～11月28日 観覧者 5,341名
・指定文化財展「ふくしまの重要文化財 関和久官衙遺跡」
1月15日～2月20日 観覧者 2,404名

(2) 移動展

・「法正厩遺跡国指定重要文化財」磐梯町慧日寺資料館
6月19日～8月17日 観覧者 4,620名
・ふくしま里帰り展「ふくしまの土偶」 会津若松市県立博物館
12月 7日～1月31日 観覧者 1,058名

(3) 復元品製作研究

「まほろん」では、出土した埋蔵文化財を分かりやすく展示するため、出土資料と復元資料とを並列して展示する方法を採用している(「復元資料並列展示」)。これは、「まほろん」独自の展示手法として、館の目玉となっている。このための復元製作研究をしている。

- ・平成22年度 古墳時代馬具（胸繫、面繫）の復元製作
（いわき市中田横穴出土）

10 ボランティア運営事業

(1) 「まほろんボランティア」の活動状況

- ・施設・展示の案内
- ・縄文・奈良時代の家の火番
- ・体験学習用機材の整備など
- ・ボランティア連絡会（2回開催）

(2) 登録数

個人ボランティア 43名

第19章 文化スポーツ局

※ 平成19年度まで教育庁が所管していた事業等を掲載。

第1節 組織

文化やスポーツは、人々の暮らしに潤いや生きがいをもたら
らし、豊かな感性や創造性を持った人づくり、魅力ある地域
づくりの原動力になることから、文化・スポーツの教育的側
面に配慮しつつ、本県の個性豊かな文化を再認識し、守り、
伝え、はぐくみ、生かしていくため、平成20年度から知事
部局（企画調整部文化スポーツ局）において所管し、全庁を
挙げて総合的に展開することとした。

○ 文化スポーツ局 局長 森合 正典
次 長 佐藤 正史

課 室 名	職 名	課長等名
文化振興課	部参事兼課長 総括主幹兼副課長 主幹	高野 浩二 金子 達也 土屋 広治
生涯学習課	課長 主幹兼副課長	山田 常雄 吉田 清一
スポーツ課	課長 主幹兼副課長	国井 裕一 小松 一彦 (～6月) 米沢 修志 (～10月)

第2節 附属機関

1 福島県文化振興審議会

根拠法 福島県文化振興条例（平成16年福島県条例第45号）

目的 福島県文化振興条例の規定に定められた事項を審議
するとともに、知事の諮問に応じ、文化振興に関する
事項を調査審議する。

(1) 福島県文化振興審議会委員

任期：平成22年11月7日～平成24年11月6日

氏 名	役 職 名	備 考
安 部 な か	沼尻鉱山と軽便鉄道を語り継ぐ会事務局長	(公 募)
大 迫 徳 行	福島県民俗学会会長	
佐々木 吉 晴	いわき市立美術館参事兼副館長	
嶋 原 明 寿	福島県芸術文化団体連合会副会長	(副 会 長)
新 城 希 子	元福島県人事委員会委員長	
鄭 玄 実	NPO法人ふくかねつと理事長	
平 田 公 子	福島大学人間発達文化学類教授	
深 谷 笑 子	郡山女子大学家政学部准教授	
星 野 瑛 二	福島大学共生システム理工学類教授	(会 長)
溝 口 俊 夫	(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団	

2 福島県生涯学習審議会

根拠法 生涯学習の振興のための施策の推進体制の整備に関
する法律(平成2年6月29日法律第71号)第10条及び福島
県生涯学習審議会条例(平成3年10月5日条例第65号)

目的 生涯学習の振興に資するための施策の総合的な推進
に関する重要事項を調査・審議する。

(1) 福島県生涯学習審議会委員(第10期)

任期：平成22年2月18日～平成24年2月17日(五十音順)

氏 名	役 職 名	備 考
安 部 かよ子	白河ユネスコ協会副会長	
磯 上 久仁子	いわき市磐崎婦人会会長	副会長
伊 藤 宏 之	福島大学名誉教授	会長
岩 下 哲 雄	福島県社会福祉協議会副会長	
菊 地 昌 彦		(公募)

氏 名	役 職 名	備 考
久 保 美由紀	会津大学短期大学部准教授	
小 松 真 弓	NHK文化センター郡山支社長	
近 藤 真紀子	NPO法人うつくしまふくしま子育て支援理事	
坂 田 敦 志	日本青年会議所福島ブロック副会長	
豊 田 猛 夫	日本銀行福島支店長	
中 村 瑛 子	福島レクリエーション協会人材開発・支援委員会委員長	
中 山 恵 理	郡山市美術館主任学芸員	
新 田 実	雇用・能力開発機構福島センター訓練第一課長	
真 船 義 行		(公 募)
渡 辺 仁	福島県公民館連絡協議会会長	(H23.2 ～)

３ 福島県スポーツ振興審議会

根拠法 スポーツ振興法(昭和36年法律第141号)第18条及びスポーツ振興審議会条例(平成12年福島県条例第94号)

目的 教育委員会又は知事の諮問に応じて、スポーツの振興に関する重要事項について調査審議し、これらの事項に関して教育委員会又は知事に建議する。

(１) 平成20・21年度福島県スポーツ振興審議会委員

任期 平成20年9月1日～平成22年8月31日

領 域	氏 名	役 職 名	備 考
学識経験者	中 澤 謙	公立大学法人会津大学文化研究センター准教授	
	守 山 貴 裕	福島青年会議所こころの豊かさ探求委員会委員長	
	渡 辺 美智子	生きいきこおりやま21推進協議会分科会委員	
	白 石 豊	国立大学法人福島大学教授	
	水 戸 眞由子	福島新体操クラブ代表	
	氏 家 美代子	川俣町体育指導委員	(公 募)
	平 野 牧 子	上級指導員(水泳)	(公 募)
	滝 田 国 男	深渡戸アグリ生産組合事務局長	(公 募)
体育団体代表	片 平 俊 夫	財団法人福島県体育協会常務理事	
	菊 池 辰 夫	財団法人福島県体育協会スポーツ医・科学委員	
	増 子 恵 美	財団法人福島県障がい者スポーツ協会書記	
	新 谷 崇 一	福島県レクリエーション協会副会長	
	高 橋 光 子	福島県体育指導委員連絡協議会副会長	
	渡 邊 征 子	福島県スポーツ指導者協議会理事	
	新井田 大	福島県高等学校体育連盟会長	県立福島高等学校長
	高 羽 博 樹	福島県中学校体育連盟会長	いわき市立中央台北中学校長
市町村代表	遠 藤 雄 幸	福島県町村会副会長	川内村村長
	木 村 孝 雄	福島県都市教育長協議会副会長	郡山市教育委員会教育長

(2) 平成22・23年度福島県スポーツ振興審議会委員

任期 平成22年9月1日～平成24年8月31日

領 域	氏 名	役 職 名	備 考
学識経験者	中 澤 謙	公立大学法人会津大学文化研究センター准教授	
	白 石 豊	国立大学法人福島大学教授	
体育団体代表	片 平 俊 夫	財団法人福島県体育協会常務理事	
	菊 池 辰 夫	財団法人福島県体育協会スポーツ医・科学委員	
	増 子 恵 美	財団法人福島県障がい者スポーツ協会書記	
	安 藤 まゆみ	福島県レクリエーション協会理事	
	高 橋 光 子	福島県体育指導委員連絡協議会副会長	
	班 目 秀 雄	JOCナショナルコーチ（自転車）	
	富 田 昭 夫	福島県高等学校体育連盟会長	県立福島高等学校長
	伊 東 豊	福島県中学校体育連盟会長	郡山市立郡山第六中学校
	斎 藤 道 子	NPO法人うつくしまスポーツルーターズ事務局員	
	山 崎 有理子	公立藤田総合病院栄養管理室長	
	須 藤 一 夫	福島県町村会副会長	
市町村・ 公益団体	佐 藤 俊市郎	福島県都市教育長協議会副会長	
	若 狭 照 子	会津若松商工会議所女性会会長	
公募	青 木 春 弥	NPO法人さくらスポーツクラブクラブマネジャー	
	浅 野 文 子	郡山インターナショナルスイミングクラブクラブ長	
	氏 家 美代子	会社員（川俣町体育指導委員）	

(2) 審議

ア 第1回審議会

期日 平成22年7月9日(金)

会場 福島県自治会館 702 会議室

内容 ふくしまスポーツ元気創造プランの推進について

イ 第2回審議会

期日 平成23年2月8日(火)

会場 ふくしま中町会館 北会議室

内容 ふくしまスポーツ元気創造プランの推進方策について

第3節 表彰

- 1文化功労賞受賞者（2名）
芸術部門（文化活動）佐藤昌志
芸術部門（文芸）村野井幸雄
- 2第63回福島県文学賞受賞者（ ）本名
(1)小説・ドラマ部門(4名)
文学賞「こころの石はきえない」佐藤大介
奨励賞「喋る男」三坂淳一
(清水正)
奨励賞「雄子沢」富田國衛
青少年奨励賞「サプライズパーティー」鈴木聡実
- (2)エッセー・ノンフィクション部門(4名)
準賞「風にむかって－ハナヨ・こんな昭和史もあつた－」五十嵐一男
奨励賞「彼の岸 此の岸」田辺賢行
奨励賞「KBS45」松本勝也
(菅野勝也)
青少年奨励賞「自転車と感情」大橋春香
- (3)詩部門(4名)
文学賞「燃やすもの」高坂光憲
準賞「幸福論」手塚美奈子
奨励賞「安田文野刀自命」安田純子
青少年奨励賞「想いは天上へ昇る」鈴木杏奈
- (4)短歌部門(5名)
準賞「稲穂の海」小林和子
準賞「五つの仮面」三瓶弘次
奨励賞「パーツ」鎌田智恵人
奨励賞「メモワール」大越巖
青少年奨励賞「飛べない鳥」根本爽花
- (5)俳句部門(4名)
文学賞「今年米」齋藤耕心
(齋藤一)
準賞「白餅」須田君代
青少年奨励賞「散らかったサンダル」笠井ルリ子
青少年奨励賞「月曜の朝」関根尚樹

- 3文化・スポーツ知事感謝状受賞者（4名、2団体）
文化部門坂本勇
文化部門原町メンネル・コール
スポーツ部門若杉浩通
スポーツ部門結城勝夫
スポーツ部門松川貴志
スポーツ部門岩瀬郡市陸上競技協会

4 体育・スポーツ関係

- (1)叙勲
氏名役職名
熊坂寛福島県バレーボール協会名誉会長
(福島市)
- (2)文部科学大臣表彰
ア生涯スポーツ功労者表彰
氏名役職名
熊坂寛福島県バレーボール協会名誉会長
(福島市)
増子トキ福島県レディースバドミントン連盟
(郡山市)名誉会長
イ優良団体
団体名代表者
みやたクラブ宮田英夫
(いわき市)
郡山ソフトボール協会吉田岳夫
(郡山市)
- ウ体育指導委員功労者
氏名役職名
柳沼湧郡山市体育指導委員会会長
(郡山市)
齋藤徹大玉村体育指導委員会委員長
(大玉村)
- (3)体育指導委員表彰
ア全国体育指導委員連合功労者表彰
No.支部名市町村名氏名
1福島福島市高橋光子
2安達二本松市菅野敬
3両沼湯川村高倉好博
4いわきいわき市山口征子
イ全国体育指導委員連合優良団体表彰
No.支部名市町村名氏名
1耶麻喜多方市喜多方市体育指導委員会

ウ 全国体育指導委員連合３０年勤続表彰

No.	支部名	市町村名	氏 名
1	安 達	大玉村	斎藤 徹
2		二本松市	菅野 力雄
3	西白河	西郷村	小針 孝廣
4	東白川	塙町	鈴木 文男
5	両 沼	湯川村	高倉 好博
6		柳津町	二瓶 伸博
7		金山町	菅家靖一郎
8	両 沼	金山町	坂内 孝一
9	いわき	いわき市	坂本 満恵
10		いわき市	会川 新平
11		いわき市	古川 兼良
12		いわき市	山口 征子
13		いわき市	鈴木 武司

エ 東北地区体育指導委員協議会功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏 名
1	福 島	川俣町	黒澤 敏雄
2	伊 達	伊達市	佐藤 英章
3	安 達	二本松市	伊藤 賢一
4	郡 山	郡山市	渡辺 京子
5	田 村	田村市	舞木 和弘
6	西白河	矢吹町	塩田 瑞
7	東白川	矢祭町	本多 春子
8	北会津	猪苗代町	二瓶 芳雄
9	両 沼	湯川村	小林 信房
10	南会津	南会津町	梁取 新助
11	双 葉	富岡町	鈴木 重利
12	相 馬	南相馬市	米津とき子
13	いわき	いわき市	渡辺 国一

オ 福島県体育指導委員連絡協議会功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏 名
1	福 島	福島市	茂木 善勝
2			沢田三十四
3			松本 隆男
4		川俣町	遠藤 和典
5	伊 達	伊達市	菅野 秀子
6	安 達	二本松市	阿部 ハツ
7			服部 洋子
8			佐久間伸一
9		大玉村	伊藤 健彌
10			伊藤 秋義
11			渡辺 崇
12			菊地 義子

No.	支部名	市町村名	氏 名
13	岩 瀬	須賀川市	塩谷 光子
14			須田 邦裕
15	石 川	古殿町	佐藤アキイ
16			生田目秀一
17		平田村	吉田 喜尚
18			藁谷 浩
19	田 村	田村市	石井 康正
20			二瓶 徳善
21			大原 定信
22			押部 啓子
23	西白河	白河市	桑澤 英子
24			竹内 豊
25		泉崎村	吉田 晴美
26		中島村	有松 保則
27			野木 俊明
28	東白川	矢祭町	白坂 浩一
29	北会津	会津若松市	和田あき子
30			目黒 充博
31			伊藤 俊朗
32			伊藤富士江
33		磐梯町	鈴木 賢二
34			鈴木 祐美
35	耶 麻	喜多方市	舟城 敬子
36			上野 幸男
37			小澤 貴子
38	両 沼	会津坂下町	佐藤 文康
39		会津美里町	山田 英彦
40		湯川村	磯部美津子
41		昭和村	栗城 三市
42	双 葉	大熊町	佐々木三男

カ 福島県体育指導委員感謝状贈呈者

No.	支部名	市町村名	氏 名
1	耶 麻	喜多方市	阿部 輝雄

(4) 財団法人福島県体育協会表彰

ア 優秀選手賞（個人）

競技名	氏 名	所 属
陸上競技	伊 藤 彩	喜多方高校 3年
〃	齋 藤 衿 香	会津学鳳高校 3年
〃	田 村 飛 鳥	田村高校 3年
〃	山 平 紗 代	磐城高校 3年
〃	五 十 嵐 麻 央	会津学鳳高校 3年
〃	千 葉 麻 美	ナチュリル
〃	青 木 沙 弥 佳	ナチュリル
〃	渡 辺 真 弓	ナチュリル
〃	佐 藤 真 有	ナチュリル
〃	記 野 友 晴	福岡大学 3年
〃	梶 将 徳	早稲田大学 2年
〃	岡 崎 達 也	福島市立福島第四中学校 3年
〃	増 田 優 太	会津農林高校 3年
〃	佐 藤 宏 樹	金透TAC
〃	伊 藤 丈 晃	福島市立福島第一中学校 2年
〃	宗 像 善 也	郡山市立郡山第五中学校 1年
〃	佐 久 間 幸 希	二本松市立東和中学校 1年
ソフトテニス	佐 川 裕 太	田村高校 3年
〃	福 本 良 隆	田村高校 3年
サッカー	浜 田 遥	JFAアカデミー福島(富岡高校3年)
〃	和 田 奈 央 子	JFAアカデミー福島(富岡高校2年)
〃	川 島 は る な	JFAアカデミー福島(富岡高校2年)
〃	田 中 陽 子	JFAアカデミー福島(富岡高校2年)
〃	本 多 由 佳	JFAアカデミー福島(富岡高校2年)
卓球	遊 佐 充 裕	南相馬市役所
剣道	鶴 岡 貴 大	湯本高校 3年
水泳	小 林 千 桜	福島市立北信中学校 3年
〃	安 部 翔 一 郎	SW大教小名浜
〃	服 部 翼	福島SS
〃	加 藤 樹	福島SS
〃	小 松 桃 子	SW大教小名浜
〃	山 口 雅 文	ミズノ株式会社
〃	加 藤 和	山梨学院大学 3年
〃	吉 田 佳 世	日本体育大学 1年
〃	小 林 和 真	筑波大学 1年
〃	宗 像 康 誠	福島ダイビングクラブ
〃	稲 澤 隆 輝	福島ダイビングクラブ
〃	福 島 慧	福島ダイビングクラブ
自転車競技	橋 本 龍 弘	日本大学 4年
〃	古 河 麻 美	日本体育大学 2年

競技名	氏 名	所 属
自転車競技	緑 川 竣 一	学法石川高校 3年
〃	樋 口 晴 香	白河実業高校 3年
〃	窪 木 一 茂	日本大学 3年
〃	久 保 田 元 気	学法石川高校 3年
〃	我 妻 優 弥	学法石川高校 3年
〃	小 酒 大 勇	平工業高校 2年
ホッケー	生 方 育 志	修明高校 3年
相撲	薄 勇 樹	東京農業大学 4年
バドミントン	高 上 麟 龍	GPWジュニア
〃	齋 藤 亘	富岡町立富岡第一中学校 教員
〃	塚 野 美 和 子	福島県バドミントン協会
〃	齋 藤 勝 明	富士通グループ
〃	五 十 嵐 敏 幸	富士通グループ
〃	大 堀 均	富岡高校 教員
〃	添 田 喜 紀	福島県バドミントン協会
〃	石 井 正 男	福島県バドミントン協会
〃	吉 田 邦 男	(株)ゼビオ
〃	遠 藤 夫 美 子	福島県バドミントン協会
〃	桃 田 賢 斗	富岡高校 1年
〃	木 村 百 花	富岡高校 2年
〃	齋 藤 太 一	富岡高校 2年
〃	渡 辺 勇 大	富岡町立富岡第一中学校 1年
〃	西 豊	富岡町立富岡第一中学校 2年
アマチュアボクシング	齋 藤 大	財団法人福島市スポーツ振興公社
〃	東 城 伸 治	野宮フィットネスボクシング
〃	片 山 聡 一 郎	東洋大学 3年
柔道	大 和 田 巧	田村高校 2年
〃	深 谷 実 紀	仙台大学 1年
〃	岩 崎 康 介	いわき市立四倉中学校 3年
体操	石 井 侑 佑	会津工業高校 3年
スキー	井 上 賢 之 介	早稲田大学 1年
馬術	横 山 奈 緒 美	小高商業高校 2年
〃	宮 野 将 太 郎	勿来工業高校 1年
ウエイトリフティング	清 野 裕 司	福島明成高校 教員
〃	鈴 木 宗 徹	田村高校 教員
〃	黒 江 雄 治	本宮高校 教員
〃	八 卷 靖	平成国際大学 4年
〃	吉 田 真 弘	平成国際大学 2年
〃	吉 田 大 祐	福島県警
〃	官 野 由 佳	平成国際大学 2年

ウエイトリフティング	小 湊 和 輝	日本大学 4年
レスリング	長 島 和 幸	クリナップ株式会社
〃	福 田 広 樹	自衛隊体育学校
〃	五 十 嵐 大 介	男山酒造
〃	渡 部 広 章	田島高校 3年
〃	星 翔 也	田島高校 3年
フェンシング	廣 瀬 新	桜の聖母学院小学校 6年
アーチェリー	西 田 昌 司	アストラゼネカ(株)
なぎなた	栗 城 太 雅	会津学鳳高校 3年
〃	原 田 瞳	会津若松市立第二中学校 3年
〃	西 村 真 法	会津若松市立第一中学校 3年
〃	小 杉 一 騎	会津若松市立第一中学校 3年
〃	古 舘 佳 樹	会津若松市立鶴城小学校 4年
〃	道 明 佳 保	会津若松市立第二中学校 3年
〃	二 瓶 未 夢	会津若松市立第二中学校 3年
〃	佐 藤 里 咲	会津若松市立第四中学校 1年
〃	栗 城 桃	会津若松市立第一中学校 2年
〃	滝 澤 李 穂	会津若松市立謹教小学校 4年
〃	佐々木 つづる	会津坂下町立坂下小学校 4年
〃	松 村 俊 祐	大正大学 3年
ゴルフ	酒 井 美 紀	

イ 優秀指導者賞

競技名	氏 名	所 属
陸上競技	川 本 和 久	福島大学 教授
〃	下 重 庄 三	田村高校 教員
〃	雪 下 良 治	会津学鳳高校 教員
野球	橋 本 幸 三	常磐軟式野球スポーツ少年団
ソフトテニス	大 貫 雄 二	西郷ソフトテニス協会
卓球	荒 井 孝 芳	富久山卓球クラブ
〃	金 澤 勝 彦	本宮卓球クラブ
〃	五 十 嵐 修 二	喜多方卓球ランド
自転車競技	矢 吹 靖 弘	学法石川高校 教員

カヌー	久 野 綾 香	(株)久野製作所
〃	宮 田 悠 佑	鹿屋体育大学 1年
〃	國 嶋 諭	日本体育大学 4年
〃	根 本 孝 幸	日本体育大学 4年
〃	和 田 恭 平	専修大学 4年
〃	三 浦 翔 太	専修大学 1年
トライアスロン	石 塚 祥 吾	神奈川大学 3年
車椅子バスケットボール	増 子 恵 美	(財)福島県障がい者スポーツ協会
〃	佐 藤 聡	(株)ダイユーエイト
〃	豊 島 英	東京電力(株)福島第一原子力発電所
柔道	遠 藤 瑛 穂	郡山萌世高校 通信制
陸上競技	鎌 田 悠 暉	郡山萌世高校 定時制
ボート	小 瀧 和 徳	会津高校 3年
〃	五 十 嵐 優	会津高校 2年
バドミントン	小 林 優 吾	富岡町立富岡第一中学校 3年
〃	古 賀 穂	富岡町立富岡第一中学校 2年
〃	山 角 太 佑	富岡町立富岡第一中学校 3年
〃	保 木 卓 朗	富岡町立富岡第一中学校 3年
〃	大 堀 彩	富岡町立富岡第一中学校 2年
〃	星 千 智	富岡町立富岡第一中学校 3年

競技名	氏 名	所 属
バドミントン	大 堀 均	富岡高校 教員
〃	齋 藤 亘	富岡町立富岡第一中学校 教員
ソフトボール	簀 野 一 典	エプソントヨコム(株)
空手道	本 間 大 造	松韻学園福島高校 教員
〃	松 本 晃	福島県空手道連盟
カヌー	軽 部 英 敏	安達高校 教員
〃	山 田 博 史	二本松市立東和中学校 教員
綱引	山 田 秀 衡	ヤングブラザーススポーツ少年団
〃	桜 本 喜 也	木幡べんてんJr

ウ 優秀選手賞（団体）

競技名	団 体 名	実 績
陸上競技	会津学鳳高校	平成22年度全国高等学校総合体育大会陸上競技女子4×400mR 第2位
〃	ナチュリル	第58回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会女子4×100mR 第1位
〃	ナチュリル	第94回日本陸上競技選手権リレー競技大会女子4×100mR 第1位
〃	ナチュリル	第94回日本陸上競技選手権リレー競技大会女子4×400mR 第1位
〃	ナチュリル	第58回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会女子総合 第1位
〃	福島県	天皇盃第15回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 第2位
野球	常磐軟式野球スポーツ少年団	高円宮賜杯第30回記念全日本学童軟式野球大会 第1位
ソフトテニス	福島県女子選抜	第27回全日本小学生ソフトテニス選手権大会 第3位
卓球	富久山卓球クラブ	第29回全日本クラブ卓球選手権大会男子小中学生の部 第3位
〃	本宮卓球クラブ	第29回全日本クラブ卓球選手権大会女子小中学校の部 第3位
水泳	福島SS	第32回JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会競泳競技 男子200mリレー 第1位
〃	福島SS	第32回JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会競泳競技 男子200mメドレーリレー 第1位
自転車競技	学法石川高校	平成22年度全国高等学校総合体育大会自転車競技4kmチームパーシュート 第3位
〃	福島県	第65回国民体育大会自転車競技4km団体追抜競走 第3位
バドミントン	福島県	第10回全日本中学生バドミントン選手権大会 第1位
〃	福島県	第65回国民体育大会バドミントン競技 少年男子 第2位
ソフトボール	スマイル福島	第31回全日本クラブ女子ソフトボール選手権大会 第3位
〃	福島県成年男子	第65回国民体育大会ソフトボール競技 成年男子 第1位
空手道	松韻学園福島高校	第29回全国高等学校空手道選抜大会 男子団体形 第2位
〃	いわき市立四倉中学校	第18回全国中学生空手道選手権大会 男子団体形 第1位
カヌー	二本松市立東和中学校	JOCジュニアオリンピックカップ平成22年度全国中学生カヌー大会 C-2 500m 第2位
〃	二本松市立東和中学校	JOCジュニアオリンピックカップ平成22年度全国中学生カヌー大会 WK-2 500m 第4位
〃	二本松工業高校	平成22年度全国高等学校総合体育大会カヌー競技 K-2 500m 第4位
〃	安達高校	平成22年度全国高等学校総合体育大会カヌー競技 K-4 500m 第4位
〃	福島県カヌー協会	平成22年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会 K-4 500m 第2位
〃	二本松市立東和中学校	JOCジュニアオリンピックカップ平成22年度全国中学生カヌー大会 K-4 500m 第3位
〃	福島県カヌー協会	JOCジュニアオリンピックカップ平成22年度全国中学生カヌー大会 WK-4 500m 第4位
綱引	ヤングブラザーススポーツ少年団	2010全日本ジュニア綱引選手権大会ジュニア280kg以下クラス 第2位
〃	木幡べんてんJr	2010全日本ジュニア綱引選手権大会男子ジュニア360kg以下クラス 第2位
福島県高等学校体育連盟	富岡高校	平成22年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技男子団体 第3位
福島県高等学校体育連盟	富岡高校	平成22年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技女子団体 第3位
福島県中学校体育連盟	富岡町立富岡第一中学校	平成22年度全国中学校体育大会バドミントン競技男子団体 第1位
福島県中学校体育連盟	富岡町立富岡第一中学校	平成22年度全国中学校体育大会バドミントン競技女子団体 第2位

エ スポーツ功労賞

所属団体	氏 名	市町村名
ソフトテニス	武山 上雄	南相馬市
バスケットボール	渡部 高英	いわき市
柔道	佐藤 良宗	南相馬市
ラグビーフットボール	加藤 昭三	郡山市
スキー	鷗巣 守	猪苗代町
スケート	須藤 勇二	石川町
ソフトボール	国分 洋	須賀川市
レスリング	若杉 浩通	会津若松市
スポーツチャンバラ	阿部 武市	いわき市
いわき市体育協会	吉野 純一	いわき市

第4節 文化

1 概要

(1) 文化活動の振興

- ア 文化振興による地域づくりの気運の醸成
県全体の文化振興を図るため、平成21年度を「文化振興による地域づくり元年」と位置づけ、文化の光が新たな元気を生み出すという思いを込め、ふくしま文化元気ルネサンス大会において、「ふくしま文化元気ルネサンス宣言」を行った。
- イ 芸術文化活動発表機会の充実
県総合美術展覧会、県文学賞の内容を充実し、作品の応募の奨励を図るとともに、文化団体が主体となり運営している県芸術祭の充実並びに県高等学校文化連盟の育成・援助に努めた。
また、平成23年3月に第4回の声楽アンサンブルコンテスト全国大会を開催予定であったが、震災の影響により中止となった。平成23年度の第35回全国高等学校総合文化祭の開催に向け、第35回全国高等学校総合文化祭開催準備委員会及び開催準備企画運営委員会を設置し準備体制の整備等を行った。
- ウ 芸術鑑賞の機会の確保
次世代を担う子どもの文化芸術体験事業等を実施し、優れた芸術鑑賞の機会の確保に努めた。
- エ 文化振興基金の充実と活用
文化団体の育成と県民の自主的な文化活動の活発化を図るため、福島県文化振興基金の充実と活用を促進した。

(2) 文化施設の整備充実

- 県文化センターの施設・設備を整備し充実させるとともに、文化情報の収集・提供などの機能の充実に努めた。

2 文化活動の振興

(1) 文化振興による地域づくりの気運の醸成

- 文化振興による地域活性化推進事業
- (ア) 趣旨
文化的地域資源を活用して地域づくりを行う団体を公募し、9団体について有識者（文化振興による地域活性化検討会委員）を交え、活動の方向等について協働検討を行った。
- (イ) 文化振興による地域活性化検討会委員
赤坂 憲雄、安部 義孝、伊藤 芳雄、薄 崇雄、遠藤由美子、小椋 唯一、小野 佳秀、懸田 弘訓、酒井 哲朗（五十音順）
- (2) 芸術文化活動発表機会の充実
- ア ふくしま文化元気ルネサンスフェスタ
- (ア) 趣旨
全国トップレベルにある県内の文化芸術活動の発表と鑑賞の場を設け、県内で行われている文化活動に対する理解を深める。
- (イ) 期日

- 平成22年9月19日（日）
- (ウ) 会場
いわきアリオス大ホール
- (エ) プログラム
- ・マーチングバンド いわき市立平第三小学校
 - ・吹奏楽 福島県立磐城高等学校
福島県立湯本高等学校
 - ・伝統芸能 石井の七福神と田植踊（二本松市）
喜多方の祭囃子（喜多方市）
 - ・演劇＋ダンス＋吹奏楽のコラボレーション
いわき青春座
エクスペディションD. S.
福島県立小名浜高等学校
福島県立磐城高等学校
 - ・フラダンス・フラメンコ
レイモミ小野フラスクール
エミフラメンコアカデミア
- イ ふくしま文化元気ルネサンスオータムキャンペーン
主に9～11月の期間中に県内各地で実施される文化行事をパンフレットに取りまとめ、集中的に広報を行った。
- ウ 第63回福島県文学賞
- (ア) 趣旨
県民から作品を公募して優秀作品を顕彰し、本県文学の振興と地方文化の進展をはかる。

- (イ) 応募数
小説・ドラマ61点、エッセー・ノンフィクション43点、詩71点、短歌45点、俳句78点、計298点

(ウ) 受賞者数種別

種別	文学賞	準賞	奨励賞	青少年奨励賞	計
部門					
小説・ドラマ	1	0	2	1	4
エッセー・ノンフィクション	0	1	2	1	4
詩	1	1	1	1	4
短歌	0	2	2	1	5
俳句	1	1	0	2	4
計	3	5	7	6	21

(エ) 審査委員

- (小説・ドラマ)
松村 栄子、勝倉 壽一、宍戸 芳夫
- (エッセー・ノンフィクション)
八百板洋子、小野 浩、佐藤 洋一
- (詩) 長田 弘、斎藤 久夫、長久保鐘多
- (短歌) 小池 光、酒井 義勝、佐藤 文一
- (俳句) 黒田 杏子、鈴木 正治、結城 良一
- (オ) 企画委員
高見沢 功、嶋原 靖彦、齋藤 貢一、遠藤 たか子、江井 芳朗、鞍田 炎、高野 浩二

エ 第64回福島県総合美術展覧会

(ア) 趣旨

県内および県出身者から作品を公募して展覧し、本
県美術の振興を図る。

(イ) 会期

日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書(5部門1期開催)
平成22年6月18日(金)～6月27日(日)

(ウ) 会場

福島県文化センター

(エ) 運営委員

青田道雄、安堵蒼樹、伊藤匡、岩崎道弘、大石尚
片野一、加藤美恵子、神野忠和、斎藤鶴龍

佐藤功、佐藤幸代、高野浩二、富田孝志

坂内憲勝、平原春嶺、渡邊重治 (五十音順)

(オ) 審査員

(日本画) 今井珠泉、榊田隆一、諸星美喜

(洋画) 五十嵐二郎、酒井昌之、高杉和真
富樫京子、渡辺雄彦

(彫刻) 舟生厚、三坂制、吉野ヨシ子

(工芸美術) 近藤学、佐藤幹、佐藤達夫

角田純一、山崎泰子、横山尚人

(書) 佐々木折柴、村上皓南、渡部會山

(各部五十音順)

(カ) 出品表

区分 部門	招待等			公 募				合 計	前年度 出品数	増 減	本年度公募陳列数				本年度 総陳列数	前年度 総陳列数
	招 待	依 嘱	計	無監査	一般	青少年	計				無監査	一 般	青少年	計		
日本画	19	6	25	0	87	1	88	113	104	9	0	67	1	68	93	85
洋 画	46	20	66	0	222	159	381	447	474	▲27	0	158	49	207	273	273
彫 刻	21	6	27	1	32	0	33	60	66	▲6	1	26	0	27	54	56
工 芸 美 術	32	6	38	1	58	8	67	105	107	▲2	1	45	7	53	91	90
書	25	23	48	1	205	17	223	271	290	▲19	1	164	5	170	218	217
計	143	61	204	3	604	185	792	996	1,041	▲45	3	460	62	525	729	721
前年度 出品数	139	60	199	4	620	218	842	1,041								
増 減	4	1	5	▲1	▲16	▲33	▲50	▲45								

(キ) 受賞者数

区分 部門	県立美術館長賞	県美術大賞	県美術準大賞	福島県美術賞	福島県美術 奨励賞	佳作	青少年美術 奨励賞	計
日 本 画	1			1	2	4	1	9
洋 画	2		1	2	6	12	12	35
彫 刻	1	1		1	1	2	0	6
工芸美術	1			1	2	2	1	7
書	2			2	6	11	1	22
計	7	1	1	7	17	31	15	79

オ 県芸術祭

県芸術文化団体連合会が主体となって9月から11月までの3か月間を開催期間として実施された。主催行事は会津地区を中心
に26行事が、また、参加行事は、全県内において55行事が実施された。

(7) 平成22年度福島県芸術祭行事参加状況（主催行事）

区分	行事名	開催月日	開催場所
開幕行事	『絆～響け輝け世代をこえて!』	9月5日	会津風雅堂
全県組織 文化団体 行事	第78回福島県美術協会展	11月5日～11月14日	福島県文化センター
	第48回福島県彫刻会展	11月5日～11月14日	福島県文化センター
	第38回福島県写真展	9月21日～9月26日	福島県文化センター
	第64回福島県合唱コンクール	8月27日～8月29日	福島市音楽堂
	第48回福島県吹奏楽コンクール	8月5日～8月8日	福島県文化センター
	福島県三曲連盟演奏会	10月10日	会津風雅堂
	第27回福島県「現代吟詠のつどい」 in会津若松大会	10月2日	会津若松市文化センター
	福島県吟剣詩舞道第44回大会	10月17日	会津風雅堂
	福島県俳句大会	10月22日	会津若松市ワシントンホテル
	第58回福島県短歌祭	10月10日	会津若松市文化センター
	詩祭・講演と朗読のつどい	10月17日	会津若松市文化センター
	第49回福島県芸術祭川柳大会, 第32回あいづ川柳大会	9月5日	会津若松市ホテルニューパ レス
	第46回福島県おかあさん合唱祭	10月10日	福島県文化センター
	ふくしま民謡のつどい	9月26日	猪苗代町 学びいな
	福島県書作家連盟第29回展	10月29日～10月31日	福島県文化センター
	第50回福島県書道協会展	11月19日～11月21日	福島県文化センター
	第38回福島県観世流謡曲大会	10月17日	下郷ふれあいセンター
	第27回福島県声楽協会演奏会	11月3日	福島テルサ
	第36回福島県日本画協会展	9月15日～9月19日	福島県文化センター
	福島県宝生流謡曲大会	11月3日	会津能楽堂
	福島オペラ協会第5回メンバーズコンサート	10月31日	福島市音楽堂
	第34回福島県書道連盟選抜展	9月9日～9月12日	福島県文化センター
	第22回福島県篆刻会展	9月20日～9月26日	コラッセふくしま
	第19回福島県日本画連盟展	8月24日～8月29日	福島県文化センター
	第34回福島県版画展	8月18日～8月22日	福島県文化センター
	26行事		

(イ) 参加行事

部門 区分	行事数	参加者数（点）数
音楽	11	10,359
演劇	2	504
美術	22	25,928
文学	1	206
舞踊	6	5,004
総合	8	64,003

生活	4	1,515
その他	1	97
計	55	107,616

(3) 声楽アンサンブルコンテスト全国大会開催事業

ア 趣旨

全国的に活躍している本県の合唱活動の更なる発展を図るため、継続的に全国規模のコンクールを開催し、「合唱王国ふくしま」を全国に発信する。

平成22年度は、震災の影響により事業中止となった。以下は、予定していた内容である。

イ 第4回大会の開催

(ア) 期日 平成23年3月19日(土)～21日(月・休)

(イ) 部門 中学校部門・高等学校部門・一般部門

(ウ) 出演団体数 99団体(推薦78団体、公募21団体)

中学校部門 33団体

高等学校部門 33団体

一般部門 33団体

(4) (財)福島県文化振興基金事業の充実と活用

(財)福島県文化振興基金では、県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう個人又は文化団体等の活動に対する支援を行った。

また、文化活動に関し、優れた成績を収め、本県文化の普及・向上・保存及び伝承に貢献した個人及び団体を表彰した。

ア 助成状況

種 別	件 数	金 額
成 果 発 表 事 業	84件	7,545千円
発表会等への参加事業	7 "	1,131 "
文化団体への事業費	6 "	7,710 "
特 認 事 業	1 "	1,467 "
文化財保護事業	3 "	309 "
文化振興による地域づくり事業	5 "	1,048 "
伝統文化の保存・継承・発展事業	1 "	150 "
文化交流事業	3 "	1,500 "
計	110件	20,860千円

イ 顕彰者(団体)

部 門	氏 名
音 楽	会津民謡協会(邦楽)
郷土史誌	船引地方史研究会
文化財の保護	小豆畑 清種
生活文化	立谷 純一
文 学	丹治 重一【泉水】(川柳)
郷土史誌	渡部 力夫
美術	安堵 是【蒼樹】

敬称略。【】内は雅号。

第5節 生涯学習

1 概要

いつでも、どこでも、だれでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会、すなわち生涯学習社会を目指し、県民の学習活動を支援する県全域を対象とした総合的な広域的学習サービス提供システム「県民カレッジ(ふくしま学習空間・夢まなびと)」を運営・推進し、県民の学習活動を支援した。

また、第20回全国生涯学習フェスティバル成果継承事業である「福島こどものみらい映画祭」と「青春エムンドライブ」を開催することにより、学びの場及び成果発表の場の提供を行い、生涯学習活動の振興を図った。

さらに、福島に育つ青少年の「将来にわたる文化の担い手の育成」を図るため、「詩の寺子屋」や「伝統芸能交流会」を実施し、青少年の文化活動を促進した。

2 生涯学習の推進体制

(1) 福島県生涯学習審議会の開催

日時 平成23年2月9日(水)

場所 福島テルサ「つきのわ」

内容 福島県生涯学習基本計画の推進について

3 生涯学習情報提供及び啓発

(1) 県民カレッジ(ふくしま学習空間・夢まなびと)の推進

県と市町村、高等教育機関、民間事業者及びNPO等市民団体とが連携し、様々な学習機会を体系化し、県民に提供する、県全域を対象とした総合的な広域的学習サービス提供システム「県民カレッジ」を運営・推進し、県民の学習活動に対する支援を行った。

ア 生涯学習情報提供システムの整備・運営

県内各地域におけるさまざまな生涯学習関連情報をインターネットにより一元的かつ効率よく提供し、県民の生涯学習活動を支援する。

アクセス状況 109,319件

ホームページアドレス

<http://www.yumemanabito.gr.fks.ed.jp/>

イ 主催講座の開催

・インターネット配信講座(e-夢・まなびと)

県民がいつでもどこでも学べるインターネットによる講座を配信した。

現代的課題・地域のすがたを学習する講座

31講座83回

・地域づくりにつながる人づくり連携強化モデル事業

県内7つの生活圏毎に地域に密着した学習テーマで講座を開設した。(※県北地区は東日本大震災のため未実施)

受講者数 352名

ウ 連携講座

県と市町村、高等教育機関、民間事業者、NPO等市民団

体の学習実施機関とが連携し、様々な講座を体系化し、提供した。

連携機関 128団体

提供講座数 986講座

(2) 学習成果の活用支援

県民の学習成果を様々な社会参加活動に活かす取組みを支援する。

ア 学習記録手帳(夢まな時間通帳)の配布

県民カレッジでの学習内容を記録し、学習時間を単位として評価することにより、県民の継続的な学習活動を支援した。

配布数 7,203冊(平成23年3月まで累計)

(3) 学習情報交流誌「夢まなびと」の発行

県民カレッジの主催講座や連携講座を体系的に整理するなど、見やすい紙面で情報誌を作成し、県民が立ち寄る公民館や店舗等に配置・提供した。

・発行部数 10,000部

・配布先 ヨークベニマル県内全店舗(63)、市町村

公民館(314)、県生涯学習施設(13)など

4 第20回全国生涯学習フェスティバルの成果継承

(1) 夢わくわく「学ぶんジャー」プロジェクトの実施

平成20年度に実施した「第20回全国生涯学習フェスティバル」が一過性のイベントで終わることなく、開催後においても「ふくしま」らしい学び「共生・共学」の理念が受け継がれるよう、「夢わくわく「学ぶんジャー」プロジェクト」を実施し、学びの場及び成果発表の場を提供し、生涯学習活動の推進を図った。

ア ふくしまシネマカルチャー総合講座

(福島こどものみらい映画祭)

・ふくしま映画塾

日時 平成22年9月18日(土)～20日(月)

会場 ホテル白雲荘

撮影数 5作品

・参加型映画上映

日時 平成22年9月21日(火)～24日(金)

会場 福島フォーラムほか 上映数:5作品

・シンボルイベント

日時 平成22年9月25日(土)

会場 国見町観月台文化センター

参加来場者数 2,000名

イ ライブステージクリニック講座

(青春エムドライブ)

・オーディション合格バンドによるライブとノンドクリニック

日時 平成22年11月20日(土)～21日(日)

会場 福島市公会堂

参加来場者数 1,300名

ウ 福島の映像アーカイブ事業の実施

県民から提供された映像フィルム数 744本

デジタル修復したフィルム数 309本

エ ふくしま子育ての知恵発信事業の実施

子育てに関する映像コンテンツの制作

ふくしま親学チャンネル「ほっとHUG」の開設

5 将来にわたる文化の担い手の育成

(1) 21世紀ふくしま文化担い手育成事業の実施

福島に育つ青少年は、将来にわたって豊かな文化を築く担い手としても期待される存在であることから、身近な地域や学校において、その地域で育まれてきた文化を始め、多彩な文化に接する機会を拡充し、積極的、主体的に文化活動を行うことができるよう環境整備を図り、青少年の文化活動を促進した。

ア ふくしま文化少年倶楽部の開講

(詩の寺子屋)

・夏講座の実施

日時 平成平成22年7月23日(金)～25日(日)

会場 県立図書館、信夫山

参加者数 28名

・冬講座の実施

日時 平成平成23年1月7日(金)～9日(日)

会場 県立図書館、飯坂町

参加者数 34名

イ 伝統芸能交流会の開催

日時 平成平成22年11月27日(土)～28日(日)

会場 石川町八坂神社、郡山自然の家

参加者数 130名

第6節 スポーツ

1 概 要

本県にゆかりのある選手は、アジア・世界の舞台で活躍を見せた。第16回のアジア大会では、マリーゼの鮫島彩・長船加奈選手を擁するなでしこジャパンが優勝し、アジアの女王となっている。若い力も成長しており、自転車競技の窪木一茂（日本大学3年）は、ACCトラックアジアカップ2010大会の4km団体追抜競走で優勝し、同世代の中では突出した力がある。ジュニアでは、久保田元気選手（学法石川高校3年）が、アジア選手権で2冠に輝いた。また、富岡町の中高一貫指導体制が成果をあげている。中でも注目される選手が、バドミントン競技の桃田賢斗選手（富岡高校1年）である。U17のナショナルチームに選抜されており、ANAアジアユース選手権大会で高校1年生ながら優勝を果たした。こうしたゴールデンエイジらの活躍から新しい躍動感を感じる話題のある年であった。

さて、社会が急速に変化する中、心身ともに健康な生活を送るためには、正しい生活習慣の定着と豊かなスポーツライフの実現が重要であり、より一層のスポーツの振興とさらなる健康教育の充実が求められている。

スポーツの振興については、平成15年3月に策定した「うつくしまスポーツプラン2010」を基に各種事業を展開している。生涯スポーツに関しては、平成14年度にあづま総合体育館内に「うつくしま広域スポーツセンター」を、Jヴィレッジ内に「浜通り広域スポーツセンター」を、平成15年度には、玉川村たまかわ文化体育館内に「中通り広域スポーツセンター」を、平成16年度には、会津若松市ふれあい広場ふれあい体育館内に「会津広域スポーツセンター」を設置した。その後、平成17年度に「うつくしま広域スポーツセンター」を（財）福島県体育協会内に、平成18年度に「浜通り広域スポーツセンター」を富岡町教育支援センターにそれぞれ移転し、県内4つの広域スポーツセンターが中心となり、地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの育成・定着を図った。また、競技力向上に関しては、本県競技力の維持・向上を図るために、ジュニア期からの長期的・計画的な指導を行う「競技力向上総合システム」の構築に向け、「うつくしまスポーツキッズ発掘事業」等の事業を展開し、一貫指導体制の確立を図っているところである。

また、新しい福島県総合計画が1年前倒しで策定されたことから、それに合わせ、平成22年3月に新しいスポーツ振興基本計画「ふくしま元気創造プラン」を策定。30年後を展望しながら、平成26年度までの5年間のスポーツ振興の指針とした。

2 生涯スポーツ・競技スポーツの振興

○ 生涯スポーツ

県民の誰もが、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢、興味関心、目的等に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しみ、豊かなスポーツライフを実現するため、

「うつくしまスポーツプラン2010」に基づき、広域スポーツセンター事業を展開した。

具体的には、県北地区の市町村やクラブのサポートと各広域スポーツセンターの統括センター機能を併せ持つ、「うつくしま広域スポーツセンター」と浜通りの各市町村をサポートする「浜通り広域スポーツセンター」、県中地区と県南地区をサポートする「中通り広域スポーツセンター」、会津地区をサポートする「会津広域スポーツセンター」の4センター体制で、総合型地域スポーツクラブの設立・育成・定着の全県的展開を行ってきた。

その結果、平成23年3月末現在、県内48市町村に83の総合型地域スポーツクラブが立ち上がり、それぞれの地域で新たなスポーツ環境を提供しながら住民主導による活発な活動を展開している。各クラブが会員となる平成23年2月6日にうつくしま総合型スポーツクラブユニオンを設立し、クラブのネットワークを図り、魅力あるクラブを目指している。なお中通り広域スポーツセンターは、平成22年3月末に閉所となり、平成22年度からは、3センターで総合型地域スポーツクラブの創設と運営支援の事業に取り組むこととなったが現在は、震災の影響により、浜通り広域スポーツセンターは、うつくしま広域スポーツセンターに機能を移し事業を進めている。

○ 競技スポーツ

本県の競技選手が国際大会や各種全国大会において活躍し、好成績を収めることを目的に、（財）福島県体育協会をはじめ、関係競技団体等と連携し、競技力向上体制の整備はもとより、指導者の計画的養成・確保及び選手の育成・強化などに加え、発掘から強化までの一貫指導体制の確立を目指し、各種事業の推進に努めた。

特に、一貫指導体制の発掘部分を担う「うつくしまスポーツキッズ発掘事業」は4年目を迎え、今年度は、県内6地区で実施された第1ステージに延べ517名の参加があり、その中から選考された50名と、昨年度からの継続20名を加えた70名が、第2ステージのクロストレーニングに進んだ。様々な種目のトレーニング（9回8競技）を経験することにより総合的な身体能力の発掘をねらうクロストレーニングとして行われる第2ステージは、今後の種目適性の判断にも重要であり、参加者は熱心に受講していた。

また、駅伝等本県が誇るスポーツ財産をさらに大きく伸ばし、福島県に元気のあるものとする方策について検討するため、学識経験者やスポーツに関する有識者12名による「うつくしまスポーツ元気創造懇話会」から提言を受け、本年度より、①指導者育成事業②地域別指導事業③トップアスリートによる指導事業の3事業から成る、「陸上王国福島」基盤整備事業を開催した。

(1) スポーツ団体の状況

ア 財団法人福島県体育協会（平成22年度）役員一覧

役 職	氏 名	備 考	役 職	氏 名	備 考
会 長	佐藤 雄平	県知事	理事	渡部 孝美	県スキー連盟会長（H22. 8. 8より）
副会長	本宿 尚	県バスケットボール協会名誉会長	理事	太田 豊秋	県馬術連盟会長・県クレ－射撃協会会長
副会長	宗形 守敏	県ハンドボール協会会長	理事	渡辺 勝	県ゴルフ連盟会長
副会長	御代田公男	いわき市体育協会（地域連合会）長	理事	森崎 俊紘	県トライアスロン協会副会長
副会長	富田 昭夫	県高等学校体育連盟会長	理事	橘 政弘	県北地域連合会副会長
副会長	杉山 純一	県議会議員代表	理事	安藤 喜勝	県中地域連合会長
専務理事	国井 裕一	スポーツ課長	理事	櫻井 和朋	県南地域連合会長
常務理事	片平 俊夫	福島陸上競技協会会長	理事	猪股 純一	南会津地域連合会長
常務理事	菅野 泰典	県水泳連盟会長	理事	堀川 直人	相双地域連合会長
常務理事	佐藤 祀男	県バレーボール協会会長	理事	砂子田敦博	県スポーツ少年団本部長
常任理事	菅野 一治	県ウエイトリフティング協会会長	理事	佐藤 政隆	県議会議員代表
常務理事	山本 和子	県なぎなた連盟理事長	理事	甚野源次郎	県議会議員代表
常務理事	古川 雄一	会津地域連合会長	監事	須佐 喜夫	県商工信用組合理事長
常務理事	伊東 豊	県中学校体育連盟会長	監事	佐藤 英壽	県スケート連盟副会長
常務理事	白石 豊	大学代表	監事	深谷 秀三	県卓球協会会長

イ 財団法人福島県体育協会加盟団体の登録状況

(7) 競技団体

団 体 名	登録人数	団 体 名	登録人数	団 体 名	登録人数
福島陸上競技協会	6,344	ラグビーフットボール協会	964	ゴルフ連盟	629
野球連盟	18,666	体操協会	376	カヌ－協会	76
ソフトテニス連盟	10,699	スキー連盟	663	ゲートボール協会	5,372
テニス協会	2,573	スケート連盟	73	少林寺拳法連盟	1,060
サッカー協会	12,681	馬術連盟	14	トランポリン協会	55
ハンドボール協会	1,783	ソフトボール協会	5,895	オリエンテーリング協会	65
卓球協会	9,103	バレーボール協会	11,964	パワーリフティング協会	10
剣道連盟	6,529	ウエイトリフティング協会	91	ダンススポーツ連盟	965
ボート協会	190	レスリング協会	118	武術太極拳連盟	1,267
水泳連盟	1,867	フェンシング協会	58	綱引連盟	490
自転車競技連盟	95	山岳連盟	1,164	トライアスロン協会	319
ホッケー協会	139	銃剣道連盟	1,539	グラウンドゴルフ協会	6,428
相撲連盟	95	クレ－射撃協会	46	野球協会	759
ライフル射撃協会	79	セーリング連盟	－	テコンドー協会	52
バスケットボール協会	13,079	空手道連盟	632	バウンドテニス協会	319
バドミントン協会	5,684	アーチェリー協会	155	ハンググライディング連盟	101
アマチュアボクシング連盟	38	なぎなた連盟	209	スポーツチャンバラ協会	530
柔道連盟	3,767	アイスホッケー連盟	239	障がい者スポーツ協会	－
弓道連盟	2,945	ボウリング連盟	236	合 計	139,289

(イ) 福島県スポーツ少年団登録状況

平成22年9月現在

	市町村	団数	指導者数			団員数					市町村	団数	指導者数			団員数			
			計	男	女	計	小	中	高				計	男	女	計	小	中	高
	県北支部										会津支部								
1	福島市	165	946	777	169	3,566	2,699	849	18	30	会津若松市	68	541	410	131	1,846	1,335	464	47
2	川俣町	15	121	107	14	290	214	74	2	31	磐梯町	4	17	11	6	84	71	8	5
3	桑折町	11	67	60	7	245	195	47	3	32	猪苗代町	15	192	146	46	489	419	60	10
4	伊達市	52	359	290	69	1,108	897	206	5	33	会津坂下町	26	115	88	27	496	393	98	5
5	国見町	8	58	51	7	193	155	38	0	34	湯川村	4	29	29	0	83	75	7	1
6	二本松市	46	418	327	91	1,215	988	223	4	35	柳津町	2	50	42	8	161	74	87	0
7	大玉村	6	44	41	3	137	137	0	0	36	会津美里町	12	91	79	12	330	271	59	0
8	本宮市	30	204	170	34	647	532	110	5	37	三島町	4	19	16	3	62	52	10	0
	計	333	2,217	1,823	394	7,401	5,817	1,547	37	38	金山町	1	15	15	0	29	27	2	0
										39	喜多方市	48	249	193	56	1,229	885	340	4
県中支部										40	北塩原村	4	41	36	5	114	93	21	0
9	郡山市	140	1,144	993	151	3,796	3,141	614	41	41	西会津町	9	43	38	5	200	145	55	0
10	三春町	16	136	114	22	313	270	40	3		計	197	1,402	1,103	299	5,123	3,840	1,211	72
11	小野町	12	55	44	11	236	222	14	0	南会津支部									
12	田村市	34	263	225	38	672	591	68	13	42	南会津町	26	192	164	28	765	502	258	5
13	須賀川市	35	261	224	37	987	819	147	21	43	下郷町	9	58	47	11	167	110	52	5
14	鏡石町	8	36	28	8	237	203	34	0	44	桧枝岐村	1	5	5	0	35	31	4	0
15	天栄村	1	19	15	4	75	75	0	0	45	只見町	7	56	50	6	178	118	59	1
16	石川町	9	74	64	10	230	217	11	2		計	43	311	266	45	1,145	761	373	11
17	玉川村	4	33	29	4	133	100	33	0	相双支部									
18	平田村	6	40	36	4	84	77	7	0	46	広野町	1	61	50	11	130	106	24	0
19	浅川町	2	42	36	6	126	126	0	0	47	檜葉町	8	50	40	10	129	97	32	0
20	古殿町	3	20	15	5	49	42	7	0	48	富岡町	17	117	98	19	383	271	104	8
	計	270	2,123	1,823	300	6,938	5,883	975	80	49	川内村	4	13	8	5	70	34	36	0
県南支部										50	大熊町	9	67	61	6	357	249	103	5
21	棚倉町	17	107	91	16	403	334	67	2	51	双葉町	8	70	63	7	186	107	78	1
22	塙町	10	89	79	10	250	196	54	0	52	浪江町	22	111	104	7	413	288	122	3
23	矢祭町	2	6	6	0	40	30	10	0	53	葛尾村	1	18	13	5	38	30	7	1
24	鮫川村	5	22	19	3	86	83	2	1	54	新地町	14	84	78	6	253	152	89	12
25	白河市	43	344	295	49	1,131	852	278	1	55	相馬市	34	174	150	24	679	437	235	7
26	西郷村	22	106	96	10	415	295	120	0	56	南相馬市	76	409	326	83	1,370	993	342	35
27	中島村	6	27	26	1	105	88	13	4	57	飯館村	6	24	23	1	122	83	39	0
28	矢吹町	7	53	47	6	225	182	43	0		計	200	1,198	1,014	184	4,130	2,847	1,211	72
29	泉崎村	5	36	32	4	144	110	34	0										
	計	117	790	691	99	2,799	2,170	621	8										

いわき支部

58	いわき市	172	772	602	170	3,548	2,625	910	13
平成22年度合計		1,332	8,813	7,322	1,491	31,084	23,943	6,848	293
	平成21年度	1,369	8,819	7,356	1,463	32,115	24,674	7,135	306
	比較	-37	-6	-34	28	-1,031	-731	-287	-13

役職員数

合計	市町村役職員数	県役職員数
390	366	24

ウ スポーツ安全協会傷害保険加入状況

この傷害保険は、スポーツ及び社会教育活動の普及・振興に寄与することを目的として、昭和46年に事業を開始して以来、現在（2011年3月）では約31万団体、988万人の人々が加入する世界に類のない大型保険である。本県の加入者は、6,474団体、180,469人で全人口の11.3%となっている。誰でも安心してスポーツ活動や社会教育活動に専念できるよう、なお一層普及に力を注いでいく必要が

ア 国体・東北総体選手選考会等

No.	競技名	開催市町村	期 日	会 場	参加人数
1	陸上競技	福島市	7/8(木)～11(日)	あづま総合運動公園陸上競技場	1,707
2	軟式野球	会津若松市	6/14(日)・20(土)～21(日)	あいづ球場・鶴沼球場	333
3	ソフトテニス	福島市	6/12(土)～6/13(日) (一般男女・成年男女) 7/9(金)～11(日) (少年男女)	あづま運動公園テニスコート	899
4	テニス	天栄村 福島市	7/10(土)～12(月)	羽鳥湖高原レジーナの森テニスコート(少年男女) 福島市庭球場・十六沼公園テニスコート(成年男女)	976
5	サッカー	富岡町 会津若松市	4/16(金)～18(日) 7/24(土)～25(日) 7/17(土)～18(日) 8/1(日)	富岡町総合スポーツセンター多目的グラウンド(少年男子) 会津総合運動公園サッカー場(成年男子) 会津陸上競技場(女子) 会津レクリエーション公園(壮年)	462
6	ハンドボール	石川町	7/10(土)～12(月)	石川町総合体育館・学法石川高校体育館	596
7	卓球	猪苗代町	7/8(木)～10(土) 7/11(日)	猪苗代町カメリーナ(少年男女) 〃(成年・壮年・教職員男女)	653
8	剣道	郡山市 会津若松市	6/13(日) 7/3(土)～4(日)	郡山西部第二体育館(成年男女・高齢者) あいづ総合体育館(少年男女)	742
9	ボート	喜多方市	7/2(金)～4(日) 6/4(金)～6(日)	県営荻野漕艇場(少年男女) 〃(成年男女)	161
10	水泳	郡山市 いわき市	7/31(土)～8/1(日)	郡山カルチャーパークプール(飛込) いわき市民プール(競泳)	768
11	自転車競技	泉崎村 西郷村	7/8(木)～10(土) 7/11(日)	泉崎国際サイクルスタジアム(トラック) 東京女子医大セミナーハウス発着周回コース(ロード)	156
12	ホッケー	棚倉町	7/11(日)	ルネサンス棚倉多目的広場	129
13	相撲	会津若松市	7/11(日)	会津若松市相撲場(鶴ヶ城内)	82
14	ライフル射撃	福島市 二本松市	7/10(土) 7/11(日)	県警察学校拳銃射撃場(CP) 二本松市総合射撃場内ライフル棟	137
15	バスケットボール	郡山市	7/9(金)～12(月)	郡山総合体育館・郡山西部体育館・郡山北工業高校・安積高校・郡山高校・あさか開成高校	2,409
16	バドミントン	いわき市	7/3(土)～4(日) 7/14(水)～16(金)	いわき市総合体育館(一般) 〃(少年男女)	598
17	ボクシング	伊達市	7/9(金)～11(日)	伊達市保原体育館(成年・少年男子)	82
18	柔道	福島市	7/18(日)	福島体育館(成年・少年男女)	615
19	弓道	会津若松市	7/8(木)～10(土) 7/11(日)	あいづ総合体育館弓道場(少年男女・遠的・近的) 〃(成年男女・遠的・近的)	667
20	ラグビーフットボール	福島市	5/28(金)～30(日) 6/4(金)～5(土) 6/6(日)・13(日) ・20(日)・27(日)	あづま総合運動公園補助陸上競技場・スポーツイベント広場(少年) あづま総合運動公園スポーツイベント広場(成年)	624
21	体操	福島市	7/9(金)～10(土)	あづま総合体育館(体操競技) 福島市国体記念体育館(新体操)	414

(2) 第63回福島県総合体育大会

国民体育大会・東北総合体育大会選手選考会等、スポーツ少年団体育大会、県民スポーツ大会の三本柱で行われる本件最大のスポーツイベントで、県内11市11町3村において開催された。国民体育大会・東北総合体育大会選手選考会等は53競技、スポーツ少年団体育大会は19競技、県民スポーツ大会は7地域7競技を実施した。

No.	競 技 名	開催市町村	期 日	会 場	参加人数
22	ス キ ー	猪苗代町	1 / 1 9 (水) ~ 2 2 (日)	猪苗代スキー場・昭和の森クロスカントリーコース (成年・少年男女)	438
23	ス ケ ー ト	郡 山 市	1 1 / 2 8 (日)	磐梯熱海アイスアリーナ (フィギュア)	78
			1 2 / 1 1 (土)	磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場 (スピード)	
24	馬 術	南相馬市	6 / 1 2 (土) ~ 1 3 (日)	南相馬市馬事公苑	43
25	ソ フ ト ボ ー ル	会津若松市	6 / 1 9 (土) ~ 2 0 (日) ・ 2 6 (土)	会津総合運動公園多目的広場 (成年男子)	1,260
			6 / 2 6 (土)	〃 (成年女子)	
		喜多方市	7 / 1 0 (土) ~ 1 1 (日)	押切川野球場・雲雀ヶ丘野球場 (少年男子)	
				会津総合運動公園多目的広場他 (少年女子)	
26	バ レ ー ボ ー ル	福 島 市	7 / 9 (金) ~ 1 0 (土)	福島高校・福島西高校・福島東高校・福島明成高校 (少年男女)	1,337
			7 / 1 0 (土) ~ 1 1 (日)	福島高校・福島西高校 (成年6人制)	
				福島工業高校 (成年9人制)	
27	ウエイトリフティング	南相馬市	7 / 1 0 (土) ~ 1 1 (日)	相馬農業高校格技場 (成年・少年男子)	123
28	レ ス リ ン グ	南会津町	7 / 1 0 (土) ~ 1 1 (日)	田島高校体育館 (成年・少年男子)	93
29	フ ェ ン シ ン グ	川 俣 町	7 / 1 0 (土) ~ 1 1 (日)	川俣町体育館 (成年・少年男女)	132
30	山 岳	郡 山 市	6 / 2 0 (日)	郡山市トレイルロック (成年・少年男女)	73
31	銃 剣 道	郡 山 市	7 / 1 1 (日)	郡山駐屯地体育館 (成年・少年男女)	113
32	ク レ ー 射 撃	二本松市	7 / 1 1 (日)	二本松市総合射撃場 (成年男子)	50
33	セ ー リ ン グ	いわき市	7 / 1 0 (土) ~ 1 1 (日)	いわきサンマリーナ (成年・少年男女)	45
34	空 手 道	下 郷 町	7 / 4 (日)	下郷町大川ふるさと公園コミュニティセンター (成年・少年男女)	213
35	ア ー チ ョ ー	三 春 町	7 / 1 0 (土) ~ 1 1 (日)	三春町運動公園運動場 (成年・少年男女)	94
36	な ぎ な た	会津若松市	7 / 1 1 (日)	鶴ヶ城体育館 (成年・少年女子)	163
37	アイスホッケー	郡 山 市	1 1 / 6 (土) ~ 7 (日)	磐梯熱海アイスアリーナ (成年・少年男子)	102
38	ボ ウ リ ン グ	郡 山 市	5 / 9 (日)	ボウルアピア郡山	105
39	ゴ ル フ	須賀川市	5 / 2 0 (木)	ローレルバレイカントリークラブ	140
40	カ ヌ ー	二本松市	5 / 2 2 (土)	阿武隈川島山コース (スラローム・ワイルドウォーター)	108
			6 / 6 (日)	阿武隈漕艇場コース (スプリント)	
41	ゲ ー ト ボ ー ル	南相馬市	7 / 1 8 (日)	高見公園多目的広場	284
42	少 林 寺 拳 法	須賀川市	6 / 2 7 (日)	須賀川アリーナ	339
43	ト ラ ン ポ リ ン	福 島 市	7 / 1 9 (月)	福島市国体記念体育館	63
44	オリエンテーリング	二本松市	7 / 1 1 (日)	城山第二体育館	56
45	パワーリフティング	福 島 市	1 0 / 2 4 (日)	あづま総合運動公園陸上競技場トレーニング場	29
46	ダンススポーツ	川 俣 町	7 / 4 (日)	川俣町体育館	129
47	武 術 太 極 拳	福 島 市	1 0 / 3 0 (土) ~ 3 1 (日)	福島市国体記念体育館	267
48	トライアスロン	福 島 市	9 / 1 2 (日)	福島市中央市民プール・阿武隈川サイクリングロード	114
49	綱 引	南相馬市	7 / 1 1 (日)	南相馬市スポーツセンター	98
50	グラウンド・ゴルフ	郡 山 市	7 / 1 4 (水)	郡山市西部サッカー場	471
51	バウンドテニス	郡 山 市	7 / 1 1 (日)	郡山市サンフレッシュ郡山	117
52	ハング・パラグライダー	田 村 市	8 / 2 8 (土) ~ 2 9 (日)	田村市仙台平 (パラグライダー・ハンググライダー)	50
53	スポーツチャンバラ	福 島 市	7 / 4 (日)	福島市国体記念体育館	468

イ スポーツ少年団体育大会

No.	競 技 名	開 催 市 町 村	期 日	会 場	参 加 人 数
1	軟 式 野 球	猪 苗 代 町	6／19（土）～20（日）	猪苗代球場（少年）	176
		南 会 津 町	6／26（土）～27（日）	びわのかげ球場・下郷球場（スポ少）	
2	ソ フ ト テ ニ ス	福 島 市	6／26（土）	あづま総合運動公園テニスコート	490
3	テ ニ ス	福 島 市	7／31（土）～8／2（月）	あづま総合運動公園テニスコート	207
4	サ ッ カ ー	会 津 若 松 市	7／24（土）～25（日）	会津総合運動公園多目的広場（小学生男子）	411
			7／31（土）	富士通若松工場グラウンド（小学生女子）	
5	卓 球	猪 苗 代 町	7／11（日）	猪苗代カメリーナ	182
6	剣 道	郡 山 市	8／1（日）	郡山西部体育館	333
7	自 転 車 競 技	泉 崎 村	7／10（土）	泉崎国際サイクルスタジアム（トラック）	46
		西 郷 村	7／11（日）	東京女子医大セミナーハウス発着周回コース（ロード）	
8	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	白 河 市	7／17（土）～18（日）	白河市中央体育館（小学生の部）	750
		郡 山 市	7／31（土）～8／1（日）	郡山市内中学校体育館（中学生の部）	
9	柔 道	い わ き 市	9／19（日）	いわき市立南部アリーナ	206
10	ラグビーフットボール	い わ き 市	9／12（日）	いわき明星大学	198
11	体 操	福 島 市	7／10（土）～11（日）	あづま総合体育館（体操競技）	400
				福島市国体記念体育館（新体操）	
12	ス キ ー	猪 苗 代 町	1／19（水）～23（日）	昭和の森クロカンコース	517
		金 山 町	1／28（金）～29（土）	フェアリーランドかねやま	
13	ス ケ ー ト	郡 山 市	11／28（日）	磐梯アイスアリーナ（フィギュア）	84
			12／11（土）	磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	
14	馬 術	南 相 馬 市	6／12（土）～13（日）	南相馬市馬事公苑	9
15	ソ フ ト ボ ー ル	会 津 若 松 市	6／5（土）～6（日）	町民グラウンド（男子）	596
			7／3（土）～4（日）	須賀川市民スポーツ広場（女子）	
16	バ レ ー ボ ー ル	喜 多 方 市	7／31（土）～8／1（日）	押切川公園体育館他	908
17	フ ェ ン シ ン グ	川 俣 町	7／10（土）～11（日）	川俣町体育館	93
18	な ぎ な た	会 津 若 松 市	7／4（日）	鶴ヶ城体育館	199
19	レ ス リ ン グ	南 会 津 町	7／10（土）	田島高校体育館	81

ウ 県民スポーツ大会

地区	開催市町村	競技名	開催期日	競技会場	参加人数
県北	福島市	壮年ソフトボール	7 / 1 8 (日)	十六沼スポーツ広場	742
		卓球		福島市東部体育館	
		ソフトテニス		十六沼テニスコート	
		バドミントン	7 / 2 5 (日)	福島市西部体育館	
		家庭バレーボール		福島市国体記念体育館	
		硬式テニス	8 / 1 (日)	十六沼テニスコート	
県中	郡山市	壮年ソフトボール	8 / 2 2 (日)	ふるさとの森スポーツパーク	628
		ソフトテニス	8 / 2 9 (日)	郡山庭球場	
		バドミントン		郡山市東部体育館	
		家庭バレーボール		郡山総合体育館	
県南	西郷村	壮年ソフトボール	8 / 2 2 (日)	西郷村多目的運動場	378
		卓球		熊倉小学校講堂	
		ソフトテニス		西郷村営テニスコート	
		バドミントン		西郷村民体育館	
		家庭バレーボール		西郷第二中学校	
会津	会津若松市	壮年ソフトボール	8 / 1 (日)	会津総合運動公園多目的A Bグラウンド	493
		卓球		会津総合体育館メインアリーナ	
		ソフトテニス		会津総合運動公園テニスコート	
		バドミントン		会津総合体育館メインアリーナ	
		家庭バレーボール		会津総合体育館サブアリーナ	
		テニス		会津総合運動公園テニスコート	
南会津	只見町	壮年ソフトボール	8 / 2 2 (日)	只見町町下グラウンド	340
	南会津町	卓球		農村環境改善センター	
		バドミントン		伊南地域交流センター	
		家庭バレーボール		南郷体育館	
	下郷町	グラウンド・ゴルフ		大川ふるさと公園	
相双	広野町	壮年ソフトボール	8 / 8 (日)	総合グラウンド・広野中学校校庭	532
		卓球		広野町中央体育館	
		ソフトテニス		総合グラウンド・ニッ沼総合公園テニスコート	
		バドミントン		広野小学校体育館	
		家庭バレーボール		広野中学校体育館	
いわき	いわき市	壮年ソフトボール	8 / 2 2 (日)	好間多目的広場	842
		ソフトテニス		平テニスコート	
		家庭バレーボール		いわき市総合体育館	
		グラウンド・ゴルフ		いわき市陸上競技場	

(3) 第37回東北総合体育大会

東北総合体育大会は、岩手県内11市5町1村及び青森県西目屋村で開催された。本県は、本部役員16名、監督・選手1330名が参加し、サッカー、自転車競技、軟式野球、柔道、ソフトボール、ボウリング、なぎなたの7競技で総合優勝を果たした。

主会期 平成22年8月20日(金)～22日(日)

No.	競 技 名	競技期間	派 遣 場 所		派遣人数
1	水 泳 (シンクロイズム・スイミング)	7/18～19	盛岡市	盛岡市立総合プール	3
2	ボート	7/16～18	花巻市	田瀬湖ボート場	41
3	カヌー (スラローム・ワイルド ウォーター)	6/25～26	青森県 西目屋村	岩木川カヌースラローム・カヌーワイルド ウォーター競技場	5
	カヌー (スプリント)	7/16～18	盛岡市	岩手県立御所湖漕艇場	13
4	ボウリング	7/2～4	盛岡市	ビックハウススーパーレーン	16
5	ゴルフ	6/23～24	岩手町	ローズランドカントリークラブ	7
6	陸上競技	8/21～22	北上市	岩手県北上総合運動公園北上陸上競技場	140
7	サッカー	8/13～15	盛岡市 滝沢市	盛岡南公園球技場A、盛岡南公園球技場 B 滝沢総合公園陸上競技場	61
8	テニス	8/21～22	盛岡市	盛岡市宮太田スポーツセンターテニスコート 岩手県営運動公園テニスコート	23
9	ホッケー	8/20～22	岩手町	岩手町ホッケー場 岩手町総合グラウンド	71
10	ボクシング	8/20～22	奥州市	奥州市立水沢体育館	13
11	バレーボール	8/21～22	一関市	一関市総合体育館ユードーム 東山総合体育館	88
12	体操競技	8/27～29	一関市	一関市総合体育館	46
	新体操	8/27～29	北上市	北上総合体育館	
13	バスケットボール	8/20～22	奥州市	水沢総合体育館	64
14	レスリング	8/28～29	宮古市	宮古市民総合体育館	25
15	ウエイトリフティング	8/21～22	奥州市	奥州市江刺中央体育館	21
16	ハンドボール	8/19～22	花巻市	花巻市総合体育館 花巻市民体育館	65

17	自 転 車 競 技	8 / 2 0 ~ 2 2	紫 波 町	紫波町自転車競技場 紫波町東部特設ロードコース	27
18	ソ フ ト テ ニ ス	8 / 2 1 ~ 2 2	北 上 市	北上市和賀川グリーンパークテニスコート	45
19	卓 球	8 / 2 0 ~ 2 2	大 船 渡 市	大船渡市民体育館	26
20	軟 式 野 球	8 / 2 1 ~ 2 2	宮 古 市 山 田 町	宮古運動公園野球場 山田町総合運動公園野球場	17
21	相 撲	8 / 2 8 ~ 2 9	八 幡 平 市	八幡平市松尾相撲場	20
22	馬 術	8 / 1 4 ~ 1 5	奥 州 市	水沢競馬場 馬術競技場	15
23	フ ェ ン シ ン グ	8 / 2 0 ~ 2 2	一 関 市	サン・アビリティーズ一関 一関武道場	18
24	柔 道	8 / 2 1 ~ 2 2	久 慈 市	久慈市民体育館	23
25	ソ フ ト ボ ー ル	8 / 2 0 ~ 2 2	花 巻 市	石鳥谷ふれあい運動公園	66
26	バ ド ミ ン ト ン	8 / 2 0 ~ 2 2	北 上 市	北上市総合体育館	63
27	弓 道	8 / 2 1 ~ 2 2	盛 岡 市	岩手県営武道館弓道場	24
28	ラ イ フ ル 射 撃	8 / 2 0 ~ 2 2	八 幡 平 市	八幡平市田山射撃場 八幡平市矢神体育館屋内射撃場	34
29	剣 道	8 / 2 1 ~ 2 2	八 幡 平 市 二 戸 市	八幡平市田山スポーツ交流館 二戸市総合スポーツセンター	40
30	ラ ク ・ ヒ ャ ー フ ッ ト ホ ー ル	8 / 2 0 ~ 2 2	八 幡 平 市 釜 石 市	上寄木グラウンド 釜石市陸上競技場	60
31	山 岳	7 / 2 3 ~ 2 5	盛 岡 市	岩手県営運動公園登はん競技場 屋外クライミングウォール 屋内ボルタリング場	12
32	ア ー チ ョ ー	8 / 2 1 ~ 2 2	雫 石 町	雫石町総合運動公園陸上競技場	15
33	空 手 道	8 / 2 1 ~ 2 2	盛 岡 市	岩手県営武道場	30
34	銃 剣 道	8 / 2 2	雫 石 町	雫石町営体育館	19
35	ク レ ー 射 撃	8 / 2 2	花 巻 市	花巻市クレー射撃場	11
36	な ぎ な た	8 / 2 1 ~ 2 2	一 戸 町	一戸町体育館	10
37	ゲ ー ト ボ ー ル	7 / 2 4 ~ 2 5	花 巻 市	日居城野陸上競技場	15
38	ア イ ス ホ ッ ケ ー	1 2 / 4 ~ 5 1 2 / 1 1 ~ 1 2	盛 岡 市	盛岡市アイスアリーナ	38

(4) 国民体育大会

ア 第65回国民体育大会

第65回国民体育大会において、本県は、冬季・本大会に570名の選手団を派遣し、男女総合成績第43位715.5点、女子総計総合44位365.5点の成績であった。

陸上競技、ボクシング、自転車競技、ソフトボール、馬術において優勝するなど活躍が見られた。

なお、参加状況、競技成績については、下記のとおりである。

(ア) 参加状況

大会	区分	会 期	開 催 地	団 長	参 加 競技数	派 遣 人 数			
						役 員	監 督	選 手	合 計
冬季大会	スケート アイスホッケー 競技会	H22. 1/27(水) ～1/31(日)	北 海 道 市 北 釧 路 市	山 口 勇	1	13	4 (1)	18	35 (1)
	スキー競技会	H22. 2/25(木) ～2/28(日)	北 海 道 市 北 札 幌 市	渡 部 孝 美	1	10	9	47	66
本 大 会		H22.9/25(土)～10/5(火) (水泳:9/8(水)～12(日)) (ゴルフ:9/22(水)～23(木))	千 葉 県 千 葉 市 他	杉 山 純 一	37	19	68 (87)	382 (17)	469 (104)

※1 派遣人数の()は競技団体派遣者で外数

(イ) 競技成績

大会	区分	天 皇 杯				皇 后 杯			
		競技得点	参加得点	得点合計	順 位	競技得点	参加得点	得点合計	順 位
	スケート競技会	4.0点	10点	14.0点	21位	4.0点	10点	14.0点	19位
	アイスホッケー競技会	0.0点	10点	10.0点	10位	—	—	—	—
	スキー競技会	9.0点	10点	19.0点	16位	0.0点	10点	10.0点	18位
本大会		302.5点	370点	672.5点	42位	61.5点	280点	341.5点	46位
合計		315.5点	400点	715.5点	43位	65.5点	300点	365.5点	44位

(ウ) 入賞状況

a 冬季大会

スケート競技		競技得点 4.0点		天皇杯 21位		皇后杯 19位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名		所 属	
少 年 女 子	スピード 2000mR	5	4	福島県			
				長谷部 美桜		郡山商業高等学校 3年	
				長谷部 美菜		郡山商業高等学校 3年	
				吾妻 優		郡山商業高等学校 2年	
				渡邊 唯		郡山商業高等学校 2年	

スキー競技		競技得点 9.0点		天皇杯 16位		皇后杯 18位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名		所 属	
少 年 男 子	ジャイアントスラローム	2	7	井上 賢之介		猪苗代高等学校 3年	
少 年 男 子	コンバインド	9	※2	渡部 剛弘		猪苗代高等学校 1年	

※9位であるが、上位8名以内に同県選手が4名入っており、規則により、上位2名のみ点数を与えるということになっているため2点が与えられた。

b 本大会

陸上競技		競技得点 56.0点		天皇杯 14位	皇后杯 8位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子	1500m	5	4	佐 藤 大 樹	日 立 電 線
	400mハードル	2	7	記 野 友 晴	福 岡 大 学 3 年
成 年 女 子	400m	3	6	千 葉 麻 美	ナ チ ュ リ ル
少 年 男 子 A	5000m	5	4	今 井 憲 久	学 法 石 川 高 等 学 校 3 年
少 年 男 子 共 通	800m	3	6	増 田 優 太	会 津 農 林 高 等 学 校 3 年
少 年 女 子 A	100m	1	8	伊 藤 彩	喜 多 方 高 等 学 校 3 年
	100mハードル	1	8	伊 藤 彩	喜 多 方 高 等 学 校 3 年
	400m	3	6	齋 藤 衿 香	会 津 学 鳳 高 等 学 校 3 年
	走幅跳	4	5	五十嵐 麻 央	会 津 学 鳳 高 等 学 校 3 年
成 年 少 年 女 子	4 × 100mリレー	7	2	國 井 朋 花	植 田 中 学 校 3 年
				伊 藤 彩	喜 多 方 高 等 学 校 3 年
				渡 部 美 来	会 津 学 鳳 高 等 学 校 2 年
				千 葉 麻 美	ナ チ ュ リ ル

剣道競技		競技得点 7.5点		天皇杯 18位	皇后杯 12位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 女 子		5	7.5	松 永 美 弥	福 島 県 警 察
				篠 原 愛	社会福祉法人育成会いわき希望の園
				佐 藤 さとみ	福 島 県 剣 道 連 盟

ボート競技		競技得点 1.0点		天皇杯 35位	皇后杯 25位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 女 子	シングルスカル	8	1	鈴 木 芽 生	鹿 屋 体 育 大 学 1 年

ライフル射撃競技		競技得点 4.0点		天皇杯 32位	皇后杯 32位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
少 年 男 子	10mエア・ライフル立射(20発)	5	4	捧 徳 之	日 大 東 北 高 等 学 校 3 年

水泳競技		競技得点 27.0点		天皇杯 21位	皇后杯 20位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子	100m背泳ぎ	2	7	山 口 雅 文	ミ ズ ノ
成 年 女 子	200m個人メドレー	2	7	加 藤 和	山 梨 学 院 大 2 年
少 年 女 子 A	200mバタフライ	6	3	佐 藤 礼 菜	福 島 成 蹊 高 等 学 校 3 年
少 年 女 子 B	100mバタフライ	6	3	小 林 千 桜	北 信 中 学 校 3 年
成 年 男 子	高飛込	4	5	小 林 和 真	筑 波 大 学 1 年
成 年 女 子	高飛込	7	2	吉 田 佳 世	日 本 体 育 大 学 1 年

バドミントン競技		競技得点 21.0点		天皇杯 10位	皇后杯 15位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
少 年 男 子		2	21	小 森 洋 佑	富 岡 高 等 学 校 3 年
				桃 田 賢 斗	富 岡 高 等 学 校 1 年
				松 居 圭 一 郎	富 岡 高 等 学 校 1 年

なぎなた競技		競技得点 3.0点		天皇杯 18位	皇后杯 18位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
少 年 女 子	試合競技	8	3	須 藤 志 帆	会 津 学 鳳 高 等 学 校 3 年
				古 舘 千 佳	会 津 学 鳳 高 等 学 校 3 年
				大 井 川 舞 奈	会 津 学 鳳 高 等 学 校 3 年

サッカー競技		競技得点 20. 0点		天皇杯 12位	皇后杯 9位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
少 年 男 子		5	20	高 野 聡 生	富 岡 高 等 学 校 1 年
				飯 干 雄 斗	富 岡 高 等 学 校 1 年
				板 津 勇 垂	富 岡 高 等 学 校 1 年
				松 本 昌 也	富 岡 高 等 学 校 1 年
				平 澤 俊 輔	富 岡 高 等 学 校 1 年
				高 見 優	富 岡 高 等 学 校 1 年
				本 田 裕 樹	富 岡 高 等 学 校 1 年
				丹 羽 啄 望	富 岡 高 等 学 校 1 年
				阿 部 祐 機	富 岡 高 等 学 校 1 年
				三 瓶 陽	尚 志 高 等 学 校 2 年
				羽 鳥 貴 之	郡 山 高 等 学 校 1 年
				新 井 伶 治	聖 光 学 院 高 等 学 校 2 年
				菅 島 竜 斗	聖 光 学 院 高 等 学 校 1 年
				黒 木 達 也	湯 本 高 等 学 校 1 年
				飛 田 風 太 郎	湯 本 高 等 学 校 1 年
				山 本 龍 之 介	湯 本 高 等 学 校 1 年

ボクシング競技		競技得点 18. 0点		天皇杯 14位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子	ライトフライ級	5	2. 5	片 山 聡 一 郎	東 洋 大 学 3 年
	フライ級	1	8	齋 藤 大	福 島 市 スポ ー ツ 振 興 公 社
	バンタム級	5	2. 5	渡 部 哲 也	駒 澤 大 学 1 年
少 年 男 子	ライト級	5	2. 5	阿 部 麗 也	会 津 工 業 高 等 学 校 3 年
	ミドル級	5	2. 5	高 橋 潤	福 島 東 高 等 学 校 3 年

自転車競技		競技得点 26. 0点		天皇杯 11位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子 男 子	ポイント・レース	1	8	窪 木 一 茂	日 本 大 学 3 年
	4km団体追抜競走	3	18	橋 本 龍 弘	日 本 大 学 4 年
				窪 木 一 茂	日 本 大 学 3 年
				久 保 田 元 気	学 法 石 川 高 等 学 校 3 年
				緑 川 竣 一	学 法 石 川 高 等 学 校 3 年

ウェイトリフティング競技		競技得点 20. 0点		天皇杯 27位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子	62kg級クリーン&ジャーク	6	3	黒 江 雄 治	本 宮 高 等 学 校 講 師
	77kg級クリーン&ジャーク	3	6	八 巻 靖	平 成 国 際 大 学 4 年
少 年 男 子	105kg級スナッチ	6	3	小 湊 和 輝	日 本 大 学 4 年
	85kg級スナッチ	8	1	荒 金 晃 太 朗	田 村 高 等 学 校 3 年
	85kg級クリーン&ジャーク	8	1	荒 金 晃 太 朗	田 村 高 等 学 校 3 年
	94kg級スナッチ	6	3	山 田 将	福 島 工 業 高 等 学 校 3 年
	94kg級クリーン&ジャーク	6	3	山 田 将	福 島 工 業 高 等 学 校 3 年

馬術競技		競技得点 11. 0点		天皇杯 26位	皇后杯 25位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子 少 年	スピードアンドハンディネス	6	3	菅 野 仁	ホライゾンスポーツホース
	団体障害飛越	1	8	宮 野 将 太 郎	勿 来 工 業 高 等 学 校 1 年
				横 山 奈 緒 美	小 高 商 業 高 等 学 校 2 年

レスリング競技		競技得点 25.5点		天皇杯 20位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子	フリースタイル84kg級	3	5.5	五十嵐 大 介	男 山 酒 造
	グレコローマンスタイル60kg級	5	2.5	水 野 雄 太	水 野 工 務 店
	グレコローマンスタイル96kg級	5	2.5	福 田 広 樹	自 衛 隊 体 育 学 校
	フリースタイル74kg級	5	2.5	神 田 光 司	喜多方桐桜高等学校3年
	グレコローマンスタイル66kg級	2	7	渡 部 広 章	田 島 高 等 学 校 3 年
	グレコローマンスタイル96kg級	3	5.5	星 翔 也	田 島 高 等 学 校 3 年

ソフトボール競技		競技得点 36.0点		天皇杯 8位	皇后杯 16位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子		1	36	佐 藤 真 一	郡山第七中学校教員
				斎 藤 誠	(医)崇敬会桜美苑
				菅 野 崇	(有)岡田屋製麺工場
				続 橋 貴 文	(株)福島ガス保安センター
				長谷川 雅 人	国 士 館 大 学 4 年
				平 井 恭史郎	協 和 ボ ー リ ン グ (株)
				鈴 木 恭 平	関 東 学 園 大 学 3 年
				今 泉 信 吾	国 士 館 大 学 2 年
				長谷川 佑 弥	田 村 消 防 署 都 路 分 署
				大 谷 直 人	自衛隊福島協力本部白河地域事務所
				小 松 亮	日東紡績富久山事業センター
				穴 戸 金 光	桃 陵 中 学 校 教 員

空手道競技		競技得点 2.5点		天皇杯 27位		皇后杯 21位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名		所 属	
成 年 男 子	組手重量級	5	2.5	香 川 幸 允		福 島 県 空 手 道 連 盟	

カヌー競技		競技得点 12.0点		天皇杯 27位	皇后杯 29位
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子	スプリント・カヤックシングル(500m)	6	3	宮 田 悠 佑	鹿 屋 体 育 大 学 1 年
少 年 男 子	スプリント・カヤックシングル(200m)	4	5	佐 藤 貴 充	安 達 高 等 学 校 3 年
	スプリント・カヤックシングル(500m)	5	4	佐 藤 貴 充	安 達 高 等 学 校 3 年

フェンシング競技		競技得点 12.0点		天皇杯 17位		皇后杯 16位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名		所 属	
成 年 男 子	サーブル	5	12	田 代 大 幸		佐 藤	商 事
				高 木 芳 健		福 島	キ ヤ ノ ン
				佐 藤 直 輝		法 政	大 学 2 年

相撲競技		※個人戦は競技得点対象外			
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子	個人戦	3		薄 勇 樹	東 京 農 業 大 学 4 年

トライアスロン競技		※公開競技のため得点なし			
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属
成 年 男 子		7		石 塚 祥 吾	神 奈 川 大 学 3 年

イ 第66回国民体育大会

第66回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会では、男女総合成績第24位、スキー競技会では男女総合第12位の成績を収め、冬季大会における男女総合成績は、第26位で本大会に引き継いだ。

(ア) 参加状況

大会	区分	会 期	開 催 地	団 長	参 加 競技数	派 遣 人 数			
						役 員	監 督	選 手	合 計
冬季大会	スケート アイスホッケー 競技会	H23. 1/26(水) ～1/30(日)	青 森 県 市 八 戸 市	佐藤 憲保	2	10	5	30	45
	スキー競技会	H23. 2/12(土) ～2/15(火)	秋 田 県 市 鹿 角 市	渡部 孝美	1	10	10	47	67

(イ) 競技成績

大会	区分	天 皇 杯				皇 后 杯			
		競技得点	参加得点	得点合計	順 位	競技得点	参加得点	得点合計	順 位
スケート競技会		3. 0点	10点	13. 0点	24位	3. 0点	10点	13. 0点	19位
アイスホッケー競技会		0. 0点	10点	10. 0点		—	—	—	—
スキー競技会		15. 0点	10点	25. 0点	12位	5. 0点	10点	15. 0点	13位
合計		18. 0点	30点	48. 0点	26位	8. 0点	20点	28. 0点	22位

(ウ) 入賞状況

a 冬季大会

スケート競技		競技得点 3. 0点		天皇杯 24位		皇后杯 19位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名		所 属	
少 年 女 子	スピード 2000mR	6	3	福島県			
				渡 邊 唯		郡山商業高等学校3年	
				吾 妻 優		郡山商業高等学校3年	
				佐 藤 万 純		郡山商業高等学校3年	
				古 川 栞 有		郡山商業高等学校1年	
				平 泉 絵 理		郡山商業高等学校1年	

スキー競技		競技得点 15. 0点		天皇杯 16位		皇后杯 18位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名		所 属	
成 年 女 子 B	ジャイアントスラローム	5	4	田部井 裕 美		沼 尻 高 原 ロ ッ ジ	
少 年 男 子	ジャイアントスラローム	3	6	大 山 瑠		猪 苗 代 高 等 学 校 2 年	
成 年 男 子 C	クロスカントリー個人	8	1	金 丸 哲		ゴ ー ル ド リ ン ク	
成 年 女 子 B	クロスカントリー個人	8	1	宗 像 千 佳		郡 山 自 衛 隊	
少 年 男 子	コンバインド	6	3	渡 部 剛 弘		猪 苗 代 高 等 学 校 2 年	

(5) 第23回全国スポーツ・レクリエーション祭

広く国民にスポーツ・レクリエーション活動を全国的な規模で実施する場を提供することにより、国民一人ひとりのスポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起し、もって国民の生涯を通じたスポーツ・レクリエーション活動の振興に資することを目的とする。

参加状況

期 日 平成22年10月16日～19日4日間
会 場 富山県内各施設
参加者 本部役員7名・監督・選手等152名 計159名

No.	種 目 名	会場地	人数	No.	種 目 名	会場地	人数
1	グラウンド・ゴルフ	高岡市	10	10	年齢別ソフトテニス	高岡市	6
2	ゲートボール	富山市	12	11	バウンドテニス	滑川市	6
3	壮年サッカー	富山市	18	12	年齢別バドミントン	高岡市	8
4	ソフトバレーボール	射水市	8	13	壮年ボウリング	富山市	4
5	女子ソフトボール	射水市	13	14	マスターズ陸上競技	富山市	15
6	ラージボール卓球	高岡市	6	15	インディアカ	南砺市	10
7	ターゲット・バードゴルフ	砺波市	4	16	フォークダンス	氷見市	10
8	男女混合綱引	射水市	11	17	トランポリン	立山町	5
9	年齢別テニス	富山市	6				

(6) 各種共催行事(スポーツ課関係)

行 事 名	主 催 者 名	場 所
第63回福島県総合体育大会	福島県総合体育大会実行員会	県内各地
第22回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会	福島民報社	白河市～福島市
第4回市町村対抗福島県軟式野球大会	市町村対抗福島県軟式野球大会実行委員会	県営あづま球場

(7) 平成22年度国際大会出場選手一覧

平成22年4月1日～平成23年3月31日

No.	競技名	参加大会名	派遣選手名 (所属)	開催場所	期 間	種目・成績
1	バドミントン	2010世界ジュニアバドミントン選手権大会	桃田 賢斗 (富岡高校1年)	メキシコ グアダラハラ	4/16～25	団体戦 5位 シングルス 2回戦敗退・ミックスダブルス 1回戦敗退
2	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	桃田 賢斗 (富岡高校1年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U17男子シングルス 1位
3	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	小林 優吾 (富岡第一中学校3年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U17男子シングルス 3位 U17男子ダブルス 2回戦敗退
4	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	松居 圭一郎 (富岡高校1年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U17男子ダブルス 2位
5	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	保木 卓朗 (富岡第一中学校3年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U17男子ダブルス 2位
6	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	古賀 穂 (富岡第一中学校2年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U15男子シングルス 2位 U15男子ダブルス 準々決勝敗退(ベスト8)
7	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	西 豊 (富岡第一中学校2年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U15男子シングルス 3回戦敗退 U15男子ダブルス 準々決勝敗退(ベスト8)
8	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	渡辺 勇大 (富岡第一中学校1年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U15男子シングルス 3回戦敗退 U15男子ダブルス 準々決勝敗退(ベスト8)
9	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	光島 理貴 (富岡第一中学校1年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U15男子シングルス 3回戦敗退 U15男子ダブルス 準々決勝敗退(ベスト8)
10	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	三橋 健也 (富岡第一中学校1年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U15男子シングルス 1回戦敗退 U15男子ダブルス 3位
11	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	星 千智 (富岡第一中学校3年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U17女子シングルス 1回戦敗退 U17女子ダブルス 第3位
12	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	早川 紗保里 (富岡高校1年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U17女子ダブルス 1回戦敗退
13	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	原田 なつみ (富岡高校1年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U17女子ダブルス 1回戦敗退
14	バドミントン	ANAアジアユースU17&U15バドミントン選手権大会	大堀 彩 (富岡第一中学校2年)	日本 千葉県	10/30～11/1	U15女子シングルス 1位 U15女子ダブルス 3位
15	サッカー	AFC女子アジアカップ2010	鮫島 彩 (マリーゼ)	中国 四川省	5/19～30	3位
16	サッカー	第16回アジア大会	鮫島 彩 (マリーゼ)	中国 広州	11/21～27	1位
17	サッカー	FIFA U-20女子ワールドカップドイツ2010	山根 恵里奈 (マリーゼ)	ドイツ	7/13～8/1	1勝1敗1分でグループリーグ突破ならず
18	サッカー	FIFA U-20女子ワールドカップドイツ2010	安本 紗和子 (マリーゼ)	ドイツ	7/13～8/1	1勝1敗1分でグループリーグ突破ならず
19	サッカー	FIFA U-17女子ワールドカップトリニダード・トバゴ2010	和田 奈央子 (JFAアカデミー福島)	トリニダード・トバゴ	9/5～25	2位
20	サッカー	FIFA U-17女子ワールドカップトリニダード・トバゴ2010	浜田 遥 (JFAアカデミー福島)	トリニダード・トバゴ	9/5～25	2位
21	サッカー	FIFA U-17女子ワールドカップトリニダード・トバゴ2010	川島 はるな (JFAアカデミー福島)	トリニダード・トバゴ	9/5～25	2位

22	サッカー	FIFA U-17女子ワールドカップ トリニダード・トバゴ2010	本多 由佳 (JFAアカデミー福島)	トリニダード・トバゴ	9/5～25	2位
23	サッカー	FIFA U-17女子ワールドカップ トリニダード・トバゴ2010	田中 陽子 (JFAアカデミー福島)	トリニダード・トバゴ	9/5～25	2位
24	サッカー	AFCU-16選手権2010	松本 昌也 (JFAアカデミー福島)	ウズベキスタン	10/24～ 11/7	3位
25	サッカー	第16回アジア大会	長船 加奈 (マリーゼ)	中国 広州	11/21～27	1位
26	自転車競技	第30回アジア自転車競技選手権大会	渡辺 一成 (社)日本競輪選手会	アラブ首長国連邦 シャルジャ	4/9～17	チームスプリント 2位 ケイリン 1位、スプリント 5位
27	自転車競技	第16回アジア大会	渡辺 一成 (社)日本競輪選手会	中国 広州	11/15～19	チームスプリント 2位 ケイリン 4位
28	自転車競技	2010-2011 UCIトラック・ ワールドカップ・クラシックス 第1戦	渡辺 一成 (社)日本競輪選手会	オーストラリア メルボルン	12/2～4	チームスプリント 5位 ケイリン 6位、スプリント 18位予選敗退
29	自転車競技	2010-2011 UCIトラック・ ワールドカップ・クラシックス 第2戦	渡辺 一成 (社)日本競輪選手会	コロンビア カリ	12/16～18	ケイリン 予選敗退
30	自転車競技	2010-2011 UCIトラック・ ワールドカップ・クラシックス 第3戦	渡辺 一成 (社)日本競輪選手会	中国 北京	1/21～24	チームスプリント 4位 ケイリン 19位
31	自転車競技	2010-2011 UCIトラック・ ワールドカップ・クラシックス 第4戦	渡辺 一成 (社)日本競輪選手会	イギリス マンチェスター	2/16～22	ケイリン 11位 チームスプリント 6位
32	自転車競技	2011年トラック世界 選手権大会	渡辺 一成 (社)日本競輪選手会	オランダ アペルドールン	3/23～27	チームスプリント 10位 スプリント 19位
33	自転車競技	第30回アジア自転車競技選手権大会	新田 祐大 (社)日本競輪選手会	アラブ首長国連邦 シャルジャ	4/9～17	チームスプリント 2位 1kmタイムトライアル 3位、スプリント 3位
34	自転車競技	第16回アジア大会	新田 祐大 (社)日本競輪選手会	中国 広州	11/15～19	チームスプリント 2位 スプリント 3位
35	自転車競技	2010-2011 UCIトラック・ ワールドカップ・クラシックス 第2戦	新田 祐大 (社)日本競輪選手会	コロンビア カリ	12/16～18	スプリント 17位
36	自転車競技	2010-2011 UCIトラック・ ワールドカップ・クラシックス 第3戦	新田 祐大 (社)日本競輪選手会	中国 北京	1/21～24	チームスプリント 4位 1kmタイムトライアル 11位
37	自転車競技	2010-2011 UCIトラック・ ワールドカップ・クラシックス 第4戦	新田 祐大 (社)日本競輪選手会	イギリス マンチェスター	2/16～22	スプリント 26位 チームスプリント 6位
38	自転車競技	2011年トラック世界 選手権大会	新田 祐大 (社)日本競輪選手会	オランダ アペルドールン	3/23～27	チームスプリント 10位 スプリント 37位、1kmタイムトライアル 16位
39	自転車競技	第30回アジア自転車競技選手権大会	成田 和也 (社)日本競輪選手会	アラブ首長国連邦 シャルジャ	4/9～17	チームスプリント 2位 ケイリン 2位
40	自転車競技	第16回アジア大会	成田 和也 (社)日本競輪選手会	中国 広州	11/15～19	チームスプリント 2位
41	自転車競技	2010-2011 UCIトラック・ ワールドカップ・クラシックス 第4戦	成田 和也 (社)日本競輪選手会	イギリス マンチェスター	2/16～22	スプリント 43位
42	自転車競技	第30回アジア自転車競技選手権大会	窪木 一茂 (日本大学3年)	アラブ首長国連邦 シャルジャ	4/9～17	4km団体追抜競走 7位 スクラッチ 6位

43	自転車競技	A C Cトラックアジア カップ2010日本ラウンド	窪木 一茂 (日本大学3年)	日本 北海道函館市	6/12～14	4 k m団体追抜競走 1位
44	自転車競技	2010-2011 UCIトラック・ ワールドカップ・クラシク ス 第3戦	窪木 一茂 (日本大学3年)	中国 北京	1/21～24	オムニウム 19位 ポイントレース 15位
45	自転車競技	第31回アジア自転車競 技選手権大会	窪木 一茂 (日本大学3年)	タイ ナコンラチャシマ	2/9～	エリート男子 4 k m個人追抜競走 3位 4 k m団体追抜競走 3位、マディソン 3位
46	自転車競技	第18回アジアジュニア 自転車競技選手権大会	久保田 元気 (学法石川高校3年)	タイ ナコンラチャシマ	2/9～	ジュニア男子 スクラッチ 1位 4 k m団体追抜競走 1位、個人ロードレース 18位
47	陸上競技	第16回アジア大会	千葉 麻美 (ナチュリル)	中国 広州	11/21～27	400m 2位 4×400mR 4位
48	陸上競技	第16回アジア大会	青木 沙弥佳 (ナチュリル)	中国 広州	11/21～27	4×400mR 4位
49	陸上競技	第16回アジア大会	渡辺 真弓 (ナチュリル)	中国 広州	11/21～27	4×100mR 3位
50	陸上競技	第16回アジア大会	村上 康則 (富士通)	中国 広州	11/21～27	1500m 9位
51	陸上競技	世界ハーフマラソン選手 権	今井 正人 (トヨタ自動車九州)	中国 南寧	10/16	個人 21位 団体 4位
52	陸上競技	世界ハーフマラソン選手 権	圓井 彰彦 (マツダ)	中国 南寧	10/16	個人 65位 団体 4位
53	陸上競技	アジア・クロスカントリー 選手権大会	今井 憲久 (学法石川高校3年)	ネパール カトマンズ	2/20	ジュニア男子の部 ※大会の延期により派遣中止
54	水泳 (競泳)	パンパシフィック選手権	加藤 和 (山梨学院大学2年)	アメリカ アーバイン	8/18～21	400m個人メドレー 4位 200m個人メドレー 8位
55	水泳 (競泳)	F I N Aワールドカップ東京 2010	加藤 和 (山梨学院大学2年)	東京 東京辰巳国際水泳場	10/20～21	200m個人メドレー 2位 400m個人メドレー 2位
56	水泳 (競泳)	第16回アジア大会	加藤 和 (山梨学院大学2年)	中国 広州	11/13～18	200m個人メドレー 4位 400m個人メドレー 5位
57	水泳 (競泳)	パンパシフィック選手権	山口 雅文 (ミズノ)	アメリカ アーバイン	8/18～21	50m背泳ぎ 9位、100背泳ぎ 10位 200背泳ぎ 16位、50自由形 38位
58	水泳 (競泳)	F I N Aワールドカップ東京 2010	山口 雅文 (ミズノ)	東京 東京辰巳国際水泳場	10/20～21	50m背泳ぎ 7位 100m背泳ぎ 8位
59	水泳 (競泳)	第10回世界短水路選手 権	山口 雅文 ミズノ	U A E ドバイ	12/15～ 12/19	50M背泳ぎ 17位 4×100メドレーリレー予選5位 100M 背泳ぎ 15位
60	水泳 (競泳)	第4回J rパンパシフィッ ク	渡辺 聡 (学法福島)	アメリカ ハワイ・マウイ	8/26～29	100mバタフライB決 4位 200mバタフライB決 2位 200m個人メドレー 22位
61	水泳 (飛込み)	International CAMO Invitational	稲澤 隆輝 郡山市立郡山第六中学校	カナダ モントリオール	12/9～ 12/12	男子C 1m飛板飛込 5位 男子C 高飛込 7位
62	柔道	アジアジュニア・ユース 選手権大会	深谷 実紀 (仙台大学1年)	タイ バンコク	4/30～5/2	女子44kg級 ※現地クーデターのため出場ボイコット
63	柔道	フランスジュニア国際大 会	深谷 実紀 (仙台大学1年)	フランス リヨン	5/16～17	女子44kg級 1位
64	柔道	世界ジュニア選手権大会	深谷 実紀 (仙台大学1年)	モロッコ アガディール	10/21～24	女子44kg級 1回戦敗退
65	レスリング	レスリング世界選手権大 会	長島 和幸 (クリナップ)	ロシア モスクワ	9/6～12	フリースタイル74kg級 1回戦敗退
66	レスリング	第16回アジア大会	長島 和幸 (クリナップ)	中国 広州	11/21～26	フリースタイル74kg級 2位

67	硬式野球	少年硬式野球ポニーリーグ アジア太平洋地域選手権大会	佐藤 昌平 (月館中3年)	フィリピン マニラ	7/17～28	1位
68	硬式野球	少年硬式野球ポニーリーグ 世界選手権大会	佐藤 昌平 (月館中3年)	アメリカ ワシントン	8/7～15	2位
69	バスケット ボール	第16回アジア大会	高橋 礼華 (日本航空JALジュニア)	中国 広州	11/13～25	3位
70	バスケット ボール	第16回FIBA女子バス ケットボール世界選手権大会	高橋 礼華 (日本航空JALジュニア)	チェコ	9/23～ 10/3	10位
71	カヌー	カヌーワールドカップ 第1戦	久野 綾香 (久野製作所)	フランス ヴィッシー	5/7～9	1000mWK-2A 9位、500mWK-2B 8位 500mWK-4A 9位
72	カヌー	カヌーワールドカップ 第2戦	久野 綾香 (久野製作所)	ハンガリー セゲド	5/28～30	500mWK-2B 8位、500mWK-4 準決勝敗退 200mWK-2 準決勝敗退
73	カヌー	カヌースプリント世界選 手権大会	久野 綾香 (久野製作所)	ポーランド ボズナン	8/11～22	500mWK-4 準決勝敗退
74	カヌー	第16回アジア大会	久野 綾香 (久野製作所)	中国 広州	11/22～26	WK-4 3位
75	ボウリング	第24回東アジア・パシ フィック選手権	伊藤 丈 (東北美装)	グアム	6/7～13	男子ダブルス戦 3位、トリオ戦 3位 5人チーム戦 3位
76	ハンド ボール	女子ジュニア世界選手権	山根 エレナ (日本体育大学)	韓国	7/17～28	16位
77	ホッケー	ユースインターナショナル トーナメント	生方 育志 (修明高校3年)	オランダ	5/22～24	1位 1得点、3アシスト
78	オリエン テーリング	世界オリエンテーリング 選手権大会	番場 洋子 (堀場製作所)	ノルウェー トロンハイム	8/7～15	予選敗退
79	トランボリ ン	トランボリン世界年齢別 選手権大会	菊地 智周 (向陽中学校2年)	フランス	11/17～20	ダブルミニトランボリン13歳～14歳の部 17位(予選落ち)
80	トライ アスロン	2010 ITU トライアスロン ワールドカップ 石垣大会 (NTTトライアスロン ジャパンカップ第1戦)	菊池 日出子 (村上塾・ブレイブ)	日本 沖縄県	4/25	12位
81	トライ アスロン	アジア選手権フィリピン・スービック大会	阿部 有希 (福島西高校2年)	フィリピン スービックベイ	5/1	ジュニア男子 19位
82	トライ アスロン	アジア選手権フィリピン・スービック大会	佐藤 志帆 (会津学鳳高校2年)	フィリピン スービックベイ	5/1	ジュニア女子 7位
83	トライ アスロン	アジア選手権フィリピン・スービック大会	石塚 祥吾 (神奈川大学3年)	フィリピン スービックベイ	5/2	U23男子 3位
84	トライ アスロン	アジア選手権フィリピン・スービック大会	菅原多美代 (日本女子体育大学3年)	フィリピン スービックベイ	5/1	U23女子 6位
85	ボクシング	第16回アジア大会	須佐 勝明 (自衛隊体育学校)	中国 広州	11/25～26	男子フライ52kg級 3位
86	ライフル 射撃	第16回アジア大会	佐藤 絹子 (警視庁)	中国 広州	11/11～20	10mエアピストル 15位 25mスタンダードピストル 25位
87	軟式野球	2010" A " アジア野球 選手権大会 (12歳以下)	常磐軟式野球 スポーツ少年団	日本 岡山県倉敷市	12/24～28	2位
88	フェン シング	2011アジア・ジュニア ・カデ選手権大会	佐々木陽菜 (福島成蹊中2年)	タイ バンコク	3/5～8	カデ女子サーブル 5位
89	フェン シング	2011世界ジュニア・カデ・ フェンシング選手権大会	三浦菜都美 (川俣高校 2年)	ヨルダン	3/29～4/6	ジュニア女子エペ ※ヨルダンの治安悪化により派遣中止
90	フェン シング	2011世界ジュニア・カデ・ フェンシング選手権大会	佐々木陽菜 (福島成蹊中2年)	ヨルダン	3/29～4/6	カデ女子サーブル ※ヨルダンの治安悪化により派遣中止

№89・90については、派遣中止のため国際大会出場選手数にカウントしない。

91	車いすバスケットボール	2010イギリス・バーミンガム世界車椅子バスケットボール選手権大会	増子 恵美 (（財）福島県障害者スポーツ協会)	イギリス バーミンガム	7/7～17	7 位
92	車いすバスケットボール	2010イギリス・バーミンガム世界車椅子バスケットボール選手権大会	佐藤 聡 (（株）ダイユーエイト)	イギリス バーミンガム	7/7～17	1 0 位
93	車いすバスケットボール	2010イギリス・バーミンガム世界車椅子バスケットボール選手権大会	豊島 英 (東京電力(株)福島第一原子力発電所)	イギリス バーミンガム	7/7～17	1 0 位
94	スキー	第7回アジア冬季競技大会	附田 雄剛 (ホテルリステル猪苗代)	カザフスタン アスタナ・アルマティ	1/30～2/6	フリースタイルモーグル 7 位
95	スキー	第7回アジア冬季競技大会	上野 修 (ホテルリステル猪苗代)	カザフスタン アスタナ・アルマティ	1/30～2/6	フリースタイルモーグル 2 位

※以下は本県ゆかりの選手

No.	競技名	参加大会名	派遣選手名 (所 属)	開催場所	期 間	種目・成績
1	サッカー	AFC女子アジアカップ2010	菅沢 優衣香 (アルビレックス新潟)	中国 四川省	5/19～30	3 位
2	陸上競技	第16回アジア大会	井村 久美子 (アイディアメンタルトレーニングセンター)	中国 広州	11/21～27	走幅跳 5 位
3	陸上競技	第16回アジア大会	久保倉 里美 (新潟アルビレックスランニングクラブ)	中国 広州	11/21～27	400mH 3 位 4×400mR 4 位
4	陸上競技	第16回アジア大会	川崎 真裕美 (富士通)	中国 広州	11/21～27	20km競歩 4 位
5	スケート	第7回アジア冬季競技大会	穂積 雅子 (ダイチ)	カザフスタン アスタナ・アルマティ	1/30～2/6	スピード女子3000m 1 位 ・ スピード女子マススタート 2 位 スピード女子5000m 1 位
6	スケート	世界選手権	穂積 雅子 (ダイチ)	カナダ カルガリー	2/12～2/13	スピード女子1500m 16位 ・ スピード女子5000m 1 位
7	スケート	ワールドカップ	穂積 雅子 (ダイチ)	オランダ ヘーレンフェイン	3/4～3/6	スピード女子3000m 14位
8	スケート	世界距離別選手権	穂積 雅子 (ダイチ)	ドイツ インツェル	3/10～3/12	スピード女子1500m 15位 ・ スピード女子5000m 4位

(参考) 国際大会出場選手数(平成10年度～平成22年度)

年度	人数	年度	人数
平成10年度	27	平成17年度	44
平成11年度	22	平成18年度	49
平成12年度	50	平成19年度	53
平成13年度	44	平成20年度	64
平成14年度	32	平成21年度	73
平成15年度	29	平成22年度	101
平成16年度	28		

(出場選手数は延べ人数)

3 体育・スポーツ施設

(1) 体育・スポーツ施設の管理及び利用状況

県営体育施設の効率的活用と施設管理の万全を期し、もって地域スポーツの振興を図るため、当該施設設置市町村等に管理を委託した。

ア 施設管理一覧

施設名	所在地	管理方法	受託者	摘要
福島体育館	福島市	事務委託	福島市	昭和49年4月1日より
福島体育館附属合宿所	〃	〃	〃	〃
クライミングウォール	〃	指定管理	(財)福島県都市公園・緑化協会	平成18年4月1日より
荻野漕艇場	喜多方市	事務委託	喜多方市	〃

※事務委託(地自法第252条の14第1項)

イ 施設の利用状況

施設の利用状況は、次のとおりである。

施設名		利用状況	摘要
荻野漕艇場	漕艇	1,383隻	
	トレーニング室	1,073時間	

3 体育・スポーツ施設

(1) 体育・スポーツ施設の管理及び利用状況

県営体育施設の効率的活用と施設管理の万全を期し、もって地域スポーツの振興を図るため、当該施設設置市町村等に管理を委託した。

ア 施設管理一覧

施設名	所在地	管理方法	受託者	摘要
福島体育館	福島市	事務委託	福島市	昭和49年4月1日より
福島体育館附属合宿所	〃	〃	〃	〃
クライミングウォール	〃	指定管理	(財)福島県都市公園・緑化協会	平成18年4月1日より
荻野漕艇場	喜多方市	事務委託	喜多方市	〃

※事務委託(地自法第252条の14第1項)

イ 施設の利用状況

施設の利用状況は、次のとおりである。

施設名		利用状況	摘要
荻野漕艇場	漕艇	1,383隻	
	トレーニング室	1,073時間	

ふくしま海洋科学館

第1節 施設の概要

1 本館施設

(1) 場所：いわき市小名浜字辰巳町50番地

(2) 施設：鉄骨・鉄筋コンクリート造

ア 階数：地上4階建て

イ 高さ：34m（展望室）

ウ 敷地面積：56,265.1㎡（駐車場含む）

エ 延床面積：13,701.81㎡
（本館 12,435.11㎡ えっぐ 1,266.7㎡）

オ 総水量：6,020 t（メイン水槽：潮目の大水槽2,050 t、
蛇の目ビーチ1,600t、IOBIOかっぱの里430t）

2 ふくしま海洋科学館子ども漁業博物館

(1) 場所：福島県いわき市小名浜字栄町87番地の1

(2) 施設：鉄骨造、平屋建

ア 延床面積 450.64㎡

3 水生生物保全センター

(1) 場所：いわき市小名浜字辰巳町47番地の1

(2) 施設：鉄筋コンクリート、鉄骨造

ア 階数：地上2階建て

イ 延床面積：925.09㎡

4 海水取水・送水施設

(1) 場所：いわき市小名浜下神白字松下

(2) 施設：

ア ろ過送水棟：1棟 180.04㎡

イ 取水ポンプ棟：1棟 84.43㎡

ウ 取水管：182.2m

エ 送水管：2,875.9m

オ 揚水管：146.0m

5 展示生物の収集、畜養施設

当施設の「黒潮水槽」等において展示をしている大型魚類の採集・畜養を行うため、海上生け簀を借り上げている。

(1) 場所：鹿児島県大島郡（奄美大島）瀬戸内町

(2) 施設：生け簀

第2節 各種事業

1 展示事業

(1) 常設展示

展示のメインテーマを「潮目の海～黒潮と親潮の出合い～」としている。

「福島県の海」において、最も特徴的な事象である黒潮と親潮の境界「潮目」をテーマとして取り上げ、豊かな生物相を中心とした潮目の海の自然、潮目の科学、人と海と

のかかわり合い、そして地球環境問題まで幅広い分野を紹介した。

(2) 企画展示

来館者サービスと館の広報を兼ね、常設展示を拡充させるとともに、テーマを定めた展示を以下の内容で実施した。

ア 琉球弧～黒潮の島々をめぐる旅～

（ア）第8回：「琉球玩具」

期間：平成21年11月19日～平成22年5月11日

（イ）第9回：「辺野古の海」

期間：平成22年5月25日～平成23年5月11日

概要：南西諸島の中で、大東諸島と尖閣諸島を

除いた島々は、太平洋に背を向けた弓

なりに曲がる弧状をなしていることから

「琉球弧」と呼ばれ、島毎に固有の文

化が育まれている。この企画展では、こ

れらの島々の自然や文化を紹介した。

イ 千島列島～親潮の島々を巡る旅～

期間：平成22年7月3日～平成23年10月10日

概要：親潮の源流域である千島列島の自然や文化を紹介

する企画展の第1弾として、エトピリカ、ウ

ミガラスの生態を紹介する写真展「北の海に生

きる」を開催した。

ウ 森と海

期間：平成22年4月1日～平成22年6月20日

概要：生物を中心とした森と海のつながり、土壌や

水中の栄養分の循環を紹介する展示により、

海洋環境と森林が相互に果たす役割とその重

要性について解説した。

エ 世界の水族館散歩

期間：平成22年7月15日～平成22年9月26日

概要：10周年を記念し、当財団が友好園結締を

している東京都葛西臨海水族園、モンレー湾

水族館、香港オーシャンパーク、パラオ国際サ

ング礁センター、新潟市水族館マリニピア日本

海をはじめ、世界の水族館を紹介した。

オ 太公望の世界～中国の釣魚迷

期間：平成22年10月9日～平成22年12月5日

概要：中国の釣り文化にスポットを当てるとともに、

淡水魚の紹介を行った。

カ 小名浜国際環境芸術祭

期間：平成22年9月11日～平成22年11月7日

概要：大漁旗をテーマとしたデザイン展を実施し、芸術を通して環境保全のメッセージを発信するとともに、芸術による地域交流を図った。

キ キッズアート展

期間：平成22年9月18日～平成22年11月7日

概要：幼稚園から小学生を対象にストーンアート作品を募集し、展示した。

ク 俳句の季コンテスト

期間：通年（作品展示は平成22年11月3日～平成22年12月12日）

概要：来館者に館内で俳句を詠んで投句してもらい、これを審査して掲示した。

ケ 海の男たちの盆栽展

期間：平成22年10月30日～平成22年11月7日

概要：黒松等の古木の迫力ある作品や秋の草花等による作品を展示した。

コ 干支展

期間：平成22年12月26日～平成23年1月23日

概要：干支のウサギに因み、アイゴ（ラビットフィッシュ）の仲間を展示した。

(3) 飼育展示活動

ア 飼育困難生物の調査研究

本施設では、21世紀に相応しい特色ある施設づくりを目指す一環として、これまで飼育が困難とされていた水生生物の飼育実験を行い、その研究成果を展示している。そのため、以下の調査・研究を行った。

(ア) 飼育困難生物(水族館では飼育展示が困難とされている生物)の展示を可能にするための飼育研究

(イ) 福島県下に生息している生物の調査

イ 南方系生物畜養事業

奄美大島の海上生け簀にて、キハダ、カツオの畜養、搬入を実施した。

ウ 水生生物保全センター運営事業

(ア) サンマの飼育：駿河湾においてサンマ幼魚を採集、畜養し、本館に飼育展示を実施した。

(イ) 県内希少生物の繁殖：イトヨ、メダカ、シナイモツゴ、タナゴ、タガメ、ゲンゴロウの繁殖を行った。

(ウ) 水生生物保全調査：福島県沖にてマルアオメエソの調査を行った。

エ 飼育生物管理事業

本館収容生物(植物を含む)の展示及び飼育管理並びに予備飼育水槽(水生生物保全センター)の飼育管理を実施した。

オ 研究交流事業

(ア) 学会・研究会等

a 平成22年7月22日～24日

生体制御機構の精密機構応用に関する国際シンポ

ジウムをマリンシアターを会場として開催した。

併せて7月22日～25日に関係するロボット類の展示をホワイエで行った。

b 平成22年7月25日

上記国際シンポジウムのサテライトシンポジウムとして「シーラカンスの謎に迫る2010」を一般講演として開催した。

(イ) 講演発表

a 平成22年10月28日

日本水産増殖学会第9回大会等

(ウ) 友好提携園館関連事業

a 平成23年1月より香港オーシャンパークの大水槽オープン準備支援として、飼育技術者を派遣し、大型サメ類とマグロ類の技術支援を実施した。

2 学習支援事業

ふくしま海洋科学館では、『学習支援の基本的な考え方(指針)』（平成11年3月教育委員会策定）に基づき、下記のとおり実施した。

(1) 解説活動

子どもから大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象に次のような解説活動を実施した。

ア 給餌解説

北の海の手海獣・水鳥コーナーに展示しているトド、セイウチ、水鳥への給餌に合わせ、分布や形態、生態等について解説を実施した。

イ タッチ・ラボ

館内で展示している生き物たちの分類や形態、生態等について実験やクイズを交えながら解説を実施した。

ウ バックヤードツアー

ボランティアが解説者となり、水族館の仕組みや職員の飼育業務などについて紹介した。（9時30分～16時に随時開催、参加料無料 平成22年度実施回数 5, 942回 参加者合計48, 063名）

エ マリンシアター

当館のシーラカンス調査やアクアマリンふくしま紹介DVDなどのオリジナルハイビジョン映像4本を30分間隔で交互に上映した。

オ マリンガイド

展示生物に関する解説、トピックス情報の提供を行い、関心や興味を高めた。

(2) 生涯学習・学校教育との連携事業

ア 教職員セミナー

県教育事務所、市町村教育委員会の職員及び県内の全小中学校の教員を対象に参加を募り、環境教育や総

合的な学習に資する内容として海岸の観察会、館内の展示を活用した見学及び学習方法などについて指導した。(8月3日～5日の3回開催、参加者数77名)

イ 館外授業(ゲストティーチャー・講師派遣)の実施
当館の職員を小中学校に派遣して授業を実施するゲストティーチャーを県内18カ所で実施し、928名を対象に講義を行った。

ウ ガイダンス

当館に来館した学校団体を対象に施設の展示概要の紹介と館利用上の注意点等を解説するガイダンスを実施した。(22回実施、対象者数1,442名)

エ 館内学習

当館のビオトープなどを利用して「環境の違い」「環境に適した生物のからだ」「命の教育」などをテーマとした体験学習を実施した。(39回実施、対象者数2,168名)

オ 教材等の貸し出し

当館の所有するビデオ、DVD、化石、その他標本類の貸し出しを4件実施した。

カ 移動水族館の実施

移動水族館専用車両(通称:アクアラバン)を用いて小学校・公共施設等において移動水族館を開催し、生物の観察や海の生き物に関するレクチャー、ハンズオン展示を実施し、内容の充実を図った。(6月9日～11月18日間で計26回 参加者数3,398名)

キ 職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習の実施

中学校、高等学校、大学の生徒・学生を対象に業務体験をととして職業観・勤労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習を実施した。

(ア) 中学校・高等学校生徒の職場体験

10回実施 対象生徒数39名

(イ) 大学生のインターンシップ

2回実施 対象生徒数 3名

(ウ) 大学生の博物館学芸員実習

1回実施 対象学生数 4名

ク 館内学習支援事業

いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送迎し、館内において学習活動を実施した。(小学校8校 185名)

(3) 情報提供事業

ア 情報コーナー

情報コーナー(2F)に自由に利用・閲覧できる情報検索装置、図書などを整備し、利用者の学習を支援した。

イ インターネットによる情報提供

ホームページのトップページをリニューアルするとともに随時更新を行いながら、企画展やイベントの案内、さまざまな生物の紹介等を行った。

ウ 機関誌の発行

水族館活動をはじめ、生物や海に関するさまざまな情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年4回発行した(発行部数5,500部/回)。

3 利活用促進事業

当館の特色を県内外に一層アピールするとともに、企画展開催の告知や誘客を図るため、各種媒体を活用した積極的な広報宣伝活動を展開した。

(1) 各種媒体等を活用した広報

ア テレビ・ラジオCMの制作

当館をテレビ及びラジオで広報する際に使用するCM放送素材を新たに制作した。

イ テレビCM

(ア) GW向け : 県内・宮城県・新潟県・山形県の各4局、栃木県・埼玉県・千葉県各1局で放映した。

(イ) 夏休み向け : 県内・宮城県・新潟県・山形県の各4局、埼玉県・栃木県・千葉県・群馬県・神奈川県各1局で放映した。

(ウ) 春休み向け : 県内・宮城県・新潟県・山形県の各4局で放映予定であったが、震災のため中止した。

ウ ラジオCM

(ア) GW向け : ラジオ福島・ふくしまFM・FMいわき・茨城放送・東北放送・DateFM・新潟放送・FM新潟・栃木放送で放送した。

(イ) 夏休み向け : ラジオ福島・ふくしまFM・FMいわき・東北放送・DateFM・新潟放送・FM新潟・茨城放送・FM栃木・栃木放送で放送した。

(ウ) 春休み向け : ラジオ福島・ふくしまFM、FMいわきで放送予定であったが、震災のため中止した。

エ 新聞

地元3紙及び隣県の地方紙などに、企画展開催の告知や観光シーズンにおける誘客を目的とした広告を掲載した。

オ 旅行誌等

「るるぶ」(JTB出版)、「じゃらん」(リクルート)、「まっぷる」(昭文社)、「ぴあ」(ぴあ)のほか、高速道路SAで配布される「ハイウェイウォーカー」(東日本高速道路)に企画展開催の告知や観光シーズンにおける誘客広告を掲載した。

カ JR関係

(ア) 電光掲示板

JR常磐線特急フレッシュひたち号において、電光掲示板を使って企画展開催の告知を実施した。

(イ) 車内広告掲出

ポスターを東武鉄道(ドア横)に掲示し告知を行った。(9月)

キ 看板

福島空港及びJR泉駅に広報看板等を掲出した。

ク その他

県内の新聞、情報誌においてパブリシティを活用した広報活動を積極的に展開した。

テレビの全国放送では、日本テレビ系「DON!」、NHK「サイエンスZERO」、TBS系「飛び出せ!科学くん」で当館の取組みが放送され、当館の取組みのPRとなった。

(2) ポスター・パンフレット等の作成・活用

ア 館内案内リーフレット

うおのぞきオープンに合わせて館内案内マップを改訂し、日本語版・英語版・中国語版・韓国語版を配置した。

イ 広報用イメージポスター

県内の公共施設等に配布・掲出した。

ウ 広報用リーフレット

県内外の観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布した。

エ イベントカレンダー

県内外の宿泊施設、旅行エージェント、公共施設等に配布した。

(3) 各種イベントへの参加・協賛

ア 「第20回いわきシーサイドウォーク」(後援)

イ 「うつくしま・みずウォーク2010」(後援、優待入館)

(4) 館内外における季節演出及び催事等の実施

ア かつおのぼり(4月)

イ AMF ゴールデンウィーク(4～5月)

計7日間、開館時間を午後7時まで延長し、蛇の目ビーチで潮干狩り大会等を実施した。

ウ 10周年記念イベント(7月)

7月15日の開館10周年記念日に合わせ、抽選会等を開催した。

エ AMF アクアマリンナイト(8月)

夜間開館「アクアマリンナイト」を計9日実施し、金魚祭(金魚すくい、金魚即売会)や生き物観察会を実施した。

オ 福島県民の日フェア(8月)

薪能を実施した。

カ 大漁祭(10月)

10月の3連休にサンマやホタテの炭火焼き提供や蛇の目ビーチでのイベントを実施した。

キ アクアマリンスターライト(11月～平成23年1月)

館内外をライトアップした。

ク クリスマスイベント(12月)

夜間開館「アクアマリンクリスマス」を計3日実施し、クリスマスプレゼントやコンサート等を実施した。

ケ お正月イベント(1月)

縁起物プレゼント、おさかなかるた大会等を実施した。

コ 正月飾り(唐人凧)。門松の設置(1月)

サ 炭火焼フェスティバル

干物・焼き芋の無料配布を実施した。

シ ひなまつりイベント(2～3月)

つるし雛装飾、ちりめん細工教室を開催した。

(5) アクアラバンを活用した営業・広報宣伝

移動水族館専用車両(通称:アクアラバン)により県内外のイベントに出展し、営業・広報宣伝を推進した。
出展か所数 20か所

4 地域交流事業

いわき港まつりへの協賛、小名浜まちづくり市民会議への参加や、小名浜魚市場活性化事業への協力、豊間海友会と協働した伝馬船製作事業など、周辺地域との交流を深めるとともに地域振興に貢献した。

5 海洋文化学習振興基金事業

(1) 海洋文化推進事業

平成22年11月6日から11月20日までインドネシア共和国パプア州ビアク島においてシーラカンス調査を実施し、5個体のシーラカンスを発見した。これによりインドネシアシーラカンスの新たな生息地の発見という貴重な成果をあげた。

また、平成22年12月5日から12月18日までインドネシア共和国北スラウェシ州マナド湾においてシーラカンス調査を実施し、2個体のシーラカンスを発見した。その様子はテレビで放映され、アクアマリンふくしまの活動を広く紹介すると同時に、シーラカンスの生態について紹介する教育普及活動として大きな効果を得た。

(2) スクール開催事業

ア 海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

キッズプログラム、ほっとプログラム

開催日	タイトル	個人	人数
7月 4日	親子で地引き網	小1～小6	53
7月27日	海で遊ぼう	小1～小3	20
7月28日	海で遊ぼう	小4～小6	6
8月20日	川でガサガサしてみよう	小1～小3	12
8月21日	川でガサガサしてみよう	小4～小6	8
10月9日	太公望釣り体験(家族)	小1～中3	35
10月16日	きのこ探し隊(親子)	小1～中3	12
1月 8日	わくわく飼育体験	小4～中3	7

ナイトプログラム

開催日	タイトル	個人	人数
12月27 ～28日	キッズナイトツアー	小4～中3	50
1月29日	おとなのプチナイトツアー		39
2月19 ～20日	おとなのナイトツアー		46
3月5～6日	親子でナイトツアー	未就学	52

イ チューター活動促進

平成15年度より登録を実施しているチューター（教育普及活動支援者）の活動の充実を図り、生き物相談員として4名が活動した。

(3) ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進した。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的に行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。

第1期から第12期ボランティア更新者 206名

第13期新規ボランティア登録者 31名

登録者数(平成23年3月31日現在) 237名

(4) うおのぞき子ども漁業博物館整備事業

小名浜漁港東魚市場内の「アクアマリンうおのぞき子ども漁業博物館」を開館し、既存の市場施設を利用しながらコンテナによる展示構成とした。

展示内容については、昨今の漁業不振で沈みがちな地元小名浜漁港に活気を取り戻すため、子どもたちが昔ながらの漁業の技術や文化を受け継ぎ、将来においても持続可能な漁業資源の利用を継続し、漁業を振興していくことを目的とした展示やプログラムを実施し、併せて小名浜港で水揚げされた魚などを観察し、生きた漁業の活動を背景に、福島県内の漁業を紹介しながら、「水産物に関する情報の発信」、「魚食に関する子どもたちへの普及啓発」を行うものとした。また、「海にまつわる語りべ」、「伝馬船を漕ぐ」、「塩作り」や「鰹節削り」などの体験コーナーなど、様々な体験を通して漁業とふれあえるプログラムを提供した。

第3節 月別入館者数

平成22年度における当館の入館者状況は次のとおりである。

月	開館日数	入館者数	個人	団体	無料
4月	30日	62,484	42,415	7,952	12,117
5月	31日	116,167	80,423	9,927	25,817
6月	30日	55,744	33,135	12,776	9,833
7月	31日	96,387	66,774	10,507	19,106
8月	31日	202,989	155,384	6,407	41,198
9月	30日	77,750	51,121	12,491	14,138
10月	31日	72,050	44,716	13,826	13,508
11月	30日	51,501	34,953	7,248	9,300
12月	31日	38,170	27,779	2,116	8,275
1月	31日	40,479	30,083	1,621	8,775
2月	28日	36,944	25,151	2,801	8,992
3月	11日	10,661	7,340	801	2,520
合計	345日	861,326	599,274	88,473	173,579

第4節 財団法人ふくしま海洋科学館の概要

1 財団法人の名称

財団法人ふくしま海洋科学館（設立当初の名称「財団法人ふくしま海洋学習館」。平成12年4月1日名称変更）

2 財団法人の目的

海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全等に関する教育普及を実施するとともに、本県にふさわしい地域特性を生かした生涯学習の振興を図り、もって本県教育・文化の振興と生涯学習社会の実現に寄与する。

3 財団法人の事業

本財団法人では、設立目的を踏まえ、以下の事業を行う。

- (1) 海洋生物（その他の水族を含む）の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業
- (2) 海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究事業
- (3) 海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及に関する事業
- (4) 海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業
- (5) 福島県が設置するふくしま海洋科学館の維持管理に関する事業
- (6) ふくしま海洋科学館及び水族に関する広報宣伝等、利活用に関する事業
- (7) 物品の販売等に関する事業
- (8) その他目的を達成するために必要な事業

4 基本財産

本財団法人は、県の社会教育施設を管理する組織となる性格に鑑み、設立の基礎となる基本財産については、県100%出捐の法人である。(出捐額 150,000千円)

5 組織（平成23年8月現在）

(1) 役員、評議員

- ア 役員、評議員の人数
理事10名、監事2名、評議員11名
- イ 役員及び評議員の任期
任期は2年とする。(現役員任期：平成24年3月31日)

(2) 事務局

- ア 部・課の設置
事務局に総務部、事業部を置く。総務部に総務課、地域交流課を置き、事業部に環境維持課、営業課、環境展示課、飼育管理課、命の教育課、グリーンアイプロジェクトを置く。
- イ 職員の人数
平成23年度の事務局体制は、館長（理事長兼務）、副館長（常務理事兼務）を含め、正規職員数（定数）47名。
この外、臨時的な職員を別に置く。
- ウ 職員の身分

	館長	副館長	総務部	事業部	計
財団職員	1		12	27	40
県派遣者		1	2	3	6
計	1	1	14	30	46

エ 役員、評議員名簿（敬称略）

【理事長】

ふくしま海洋科学館館長	安部 義孝
-------------	-------

【理事】

福島県企画調整部文化スポーツ局長	森 合正典
いわき市長	渡辺 敬夫
元日本魚類学会会長	上野 輝彌
東京農業大学教授	谷口 旭
武蔵野美術大学名誉教授	森 豪男
(株)生活構造研究所代表取締役特別顧問	松川 淳子
いわき商工会議所副会頭	大兼 勝彦
いわき明星大学教授	神山 敬章
ふくしま海洋科学館副館長	橋本 幸洋

【監事】

いわき経営者協会会長	鷺 佳弘
福島県企画調整部企画調整課長	久能 祐二

【評議員】

いわき市行政経営部長	大和田 正人
東京都葛西臨海水族園園長	西 源二郎
(財)日本交通公社研究調査部部長	梅川 智也
(社)いわき青年会議所理事長	吉田 憲一
小名浜まちづくり市民会議会長	作山 栄一
小名浜機船底曳網漁業協同組合代表理事組合長	野崎 哲
童謡のまちづくり市民会議会長	九頭見 淑子
冷泉寺住職	酒主 照之
F Mいわきパーソナリティー	馬場 典枝
福島県企画調整部文化スポーツ局次長	高野 浩二
アクアマリンふくしまボランティアの会会長	佐久間 昭

福島県文化センター

第1節 概要

福島県文化センターは、県民の文化振興を図るために設置されたもので、福島県文化会館及び福島県歴史資料館の2つの施設をもって構成されている。

この文化センターの管理運営は、県が財団法人福島県文化振興事業団に委託し、同法人はこの施設の設置目的に沿って県民の文化活動の場としてその利用に供し、利用者の便宜を図るとともに、各種の文化事業を展開し、あるいは歴史、文化関係資料の収集、整理、保管、調査研究を行っている。

1 業務内容

福島県文化センターを構成する施設の業務内容は、概ね次のとおりである。

(1) 福島県文化会館

- 文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術の振興に関すること。
- 社会科学、自然科学等の学術の振興に関すること。
- 文化会館の施設及びその付属設備の利用に関すること。

(2) 福島県歴史資料館

- 県に関する文書資料、考古資料、民俗資料、その他の歴史資料に関する調査研究及びその利用に関すること。
- 歴史資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の主催及びその開催の援助に関すること。

第2節 施設の概要

所在地	福島市春日町5-54
敷地面積	20,592 m ²
建築面積	4,951 m ²
建築延面積	12,400 m ²
構造	鉄骨・鉄筋コンクリート造り
	地下1階、地上3階、塔屋1階
竣工	昭和45年7月31日

1 福島県文化会館

地階	中央監視室、空調・電気機械室、奈落
1階	大ホール(1,752席)、小ホール(379席)、リハーサル室(107m ²)、和室(20畳2室)、楽屋(4室)、浴室、視聴覚室(108席)、会議室(49m ²)、事務室、収蔵庫など
2階	会議室兼展示室(466m ²)、託児室(42m ²)など
3階	展示室(505m ² ×2室)、ギャラリー(366m ²)、事務室、倉庫など

2 福島県歴史資料館

1階	展示室(180m ²)、事務室
2階	事務室、研究室、閲覧室、文書庫(252m ² ×3)など
3階	文化財収蔵庫(455m ²)

第3節 事業の実施状況

平成22年度に福島県文化センターが実施した事業の概要は、次の通りである。

1 管理運営事業

平成22年度における福島県文化センターの利用状況は、次のとおりである。

なお、東日本大震災の影響により、大ホール、3F展示室、給排水設備等に被害を受け、3月12日より休館となった。

(1) 福島県文化会館

施設名	大ホール		小ホール		視聴覚室		1F会議室		会議室兼展示室		3F展示室		3Fギャラリー		館外	合計	
	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数	入場者数	回数	入場者数
	日数		日数		日数		日数		日数		日数		日数			日数	
年間	133		145		66		207		124		20		4			699	
合計	228	156,142	209	36,302	89	2,690	206	2,334	237	32,637	168	33,569	62	11,311	27,325	1,199	302,310
稼働日数	208		188		89		206		237		168		62				
稼働率%	64		68		27		63		73		51		19		開館日数		327
															小ホール開館日数		278

(備 考)

- ・自主事業の分も含む。
- ・大会行事や美術展で数日間使用した催しは1回とした。
- ・大会に伴う分科会などで、一つの催しに複数施設を使用した場合の人数は、主となる施設に計上した。
- ・合計日数は延べ日数で表す。例えば、1日に別の催物が2件あった場合は2日にした。
- ・準備・リハーサルは公演日(本番)とは別の日に使用したもので、利用者とみなし入場者数も計上した。
- ・開館日数は休館日及び工事などの使用不可能日を除いたものとした。
- ・稼働率は稼働日数 ÷ 開館日数 × 100(%)で表わす。

(2) 福島県歴史資料館

ア 利用状況

種 別	利用件数	同冊(点)数	内 容
閲覧利用	1,248	5,228	会社員・公務員・教員・学生・研究者等
特別貸出利用	4	51	県立博物館、福島市、川俣町、昭和村
施設利用	12,103	-	入館者・事業参加者

イ 資料収蔵状況

種 別	搬 入	搬 出	合計(累計)	内 容
文書資料	91	0	208,625	諸家寄贈・寄託
文献	0	0	44,936	寄贈・購入等

2 文化情報の発信

県民それぞれが、それぞれの価値観に基づいて主体的に文化活動に参加し豊かな人生を楽しむことができるよう、文化情報誌の発行と、インターネット・ホームページによる文化情報の提供事業を実施している。

(1) 文化情報誌『ふくしま文化情報』の発行

編集方針：本県の文化行事に関する情報を幅広く収集し、広く県民に提供する。写真を多用して見やすい誌面構成に努めている。

発行部数：年9回、各号6,000部

内容：今月のお薦め催事を写真入りで紹介する「今月のピックアップ」、県内各地の文化イベントの中から、地域の特色を生かした行事に注目し、写真入りで紹介する「イベントアラカルト」など

配布先：県内の市町村教育委員会・公民館・高校・大学・文化施設・文化団体・報道機関など。送料負担の個人の希望者にも対応している。

(2) インターネットによる情報提供

平成13年7月からインターネットによる情報発信サービスを開始した。このことにより、ホームページにアクセスすれば、いつでもどこからでも事業団の事業と活動情報が瞬時に入手出来るようになった。

ホームページには『ふくしま文化情報』に載せている県内の文化イベント情報をさらに充実させて掲載している。「音楽」「展示」「演劇・舞台」「講演・講座」「自主上映」及び「その他」のジャンルごとに常時300件前後を掲載している。また、これらの情報にはなによりも新鮮さが要求されることから、各種文化団体

や文化施設と連絡を密にし、情報をいち早く入手して毎週(1回)更新を実施している。

また、当事業団が管理運営する各施設の企画事業情報及び県内の文化イベント情報を編集し、「福島県文化振興事業団メールマガジン」として毎月1回配信している。

3 歴史資料館事業

事業名	期日・開催場所・料金等	目的及び内容等	入場者数
収蔵資料テーマ展 「近代教科書のあゆみ」	4月10日～6月23日 県歴史資料館展示室	西洋の文化を積極的に取り入れた明治時代中頃、日清・日露戦争をはじめとする戦争が続いた明治時代後半、そして第2次世界大戦後など、時代を反映した教科書の歴史を解説。	1,606名
収蔵資料テーマ展 「ふくしまの名品」	9月11日～8月29日 県歴史資料館展示室	開館40年という節目を迎え、県指定重要文化財3点をはじめ、屏風・軸物等、通常の閲覧に供することのできないような名品や優品を一堂に展示。	3,519名
収蔵資料展 「新公開史料展2010」	1月8日～3月11日 県歴史資料館展示室	平成22年3月に刊行した「福島県歴史資料館収蔵資料目録」第41集に収録した新資料の中から、代表的な資料を抽出して展示。	1,117名
古文書講座①～③	①5月30日 ②8月14日 ③12月5日 県文化センター2階会議室	利用者の要望に応え、「古文書から近世のくらしを読む」をテーマに実施。江戸時代の村人の心構え・親の扶養・婚礼・離縁・病気・葬送などを古文書から理解していくという内容。講師は阿部俊夫氏（郡山女子大学講師）。	229名
フィルム上映会	①5月30日 ②8月28日 ③12月5日 県文化センター視聴覚室	民俗芸能や風土、歴史、伝統文化に関する記録映画を上映。「茂庭の炭焼き」、「漆かき職人の一年」、アイヌ生活文化再現マニュアルなど。	209名
歴史資料館友の会行事	4月～3月 計7回	総会、友の会講座、展示見学会、歴史散策、研修旅行などの実施を支援。	会員170名
校外学習協力	4回	中学校の校外学習、体験活動への協力を実施。	12名
生涯学習協力	5回	公民館等の生涯学習講座、大学講義等への講師派遣協力を実施。	101名
地域史研究講習会	23年2月11日県文化センター2階会議室	「篠川公方と稲村公方一室町時代の南奥羽をめぐる」、 「歴史資料の散逸防止について」、 「白水阿弥陀堂の修理と日本美術院一文化財保護と公文書の可能性」 「やきものから見たふくしまの歴史」などの講演を開催。	115名

4 受託事業

事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等	入場者数
緊急雇用創出基金事業	4月～3月	福島県からの受託事業として、失業者を雇用し、県庁行政文書の文書綴り再編作業200冊、目録カード作成及び電子データ入力作業5,838点の文書整理作業を実施した。	—
ふくしま森林文化企画展開催業務	6月26日～8月29日 県歴史資料館展示室ほか	ふくしま森林文化企画展実行委員会からの受託事業として企画展「森と人の歴史をたずねる」を実施。会期中、講演会「森を未来へ」発信フォーラムを開催（7月17日：県文化センター2階会議室）したほか、移動水族館「アクアラバン」をアクアマリンふくしまの協力により開催（7月26日：県文化センター駐車場）	3,213名

5 文化事業

(1) 自主文化事業

区分	事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等	入場者数
舞台芸術鑑賞	キッズシアター	6月1日～30日 県内12市町 15日間 12会場 19回公演	児童の情操涵養をねらいとした舞台芸術鑑賞事業。県教育委員会、開催地教育委員会との共催による移動事業として実施した。 出演・演目／オペラシアターこんにゃく座「セロ弾きのゴーシュ」	135校 合計 12,562名
	ファミリーシアター	〈音楽公演〉 5月27～28日 県内3町村 〈児童劇公演〉 9月2日～16日 県内8町村	本格的な文化施設を有しない地域に出向き、生の舞台芸術を巡回公演した。 音楽演目／「シルクロード・アンサンブル」 児童劇演目／劇団芸優座「グリムのハンスと大悪魔」、楽劇団いちょう座「リーダーズ・シアター お話しがいっぱい」	音楽公演 1,050名 児童劇公演 2,864名 合計3,914名
人材育成	第8回 マイホール・コンサート	23年2月5日 入場料／無料	県民に親しまれる施設づくりと、次代を担う演奏家の育成を目的に、一般公募により出演者と運営ボランティアを募集しコンサートを実施した。 出演／11団体	400名
	マイホール・コンサート運営ボランティア研修会	23年2月5日 大ホール	文化活動を支える人材育成を目的に、イベント運営や舞台技術に関する研修会を実施した。 講師／事業課職員	10名
会館利用促進	マンデーシネマ	8月9～10日 会場／小ホール 料金／500円 800円（2日通し券）	優れた映画の鑑賞機会を提供し、映画鑑賞人口の増と映画文化の振興を目的に実施した。文化庁優秀映画鑑賞推進事業による名作を(社)コミュニティシネマセンターの協力を得て上映した。 8/9「本日休診」「駅前旅館」、8/10「ニッポン無責任時代」「喜劇・女は男のふるさとヨ」	9日／307名 10日／398名 合計 705名
	子ども映画会	7月21日、7月24日、7月26日 3日間4回 会場／小ホール	幼児・児童の健全で有意義な余暇活動と、映画を通じての知識と情操の涵養を目的に、学校の夏休み期間に合わせて上映した。作品／「あらいぐまラスカル」「10びきのかえる」他	21日／324名 24日／143名 26日／435名 258名 合計1,160名
地域連携	舞台技術ワークショップ (平成22年度県北地区演劇研修会)	5月6日～7日 会場／小ホール 対象／高校生	県北地区高校演劇部の新入部員に、演技や舞台技術の基礎を身につけてもらうために、県高校演劇連盟県北支部と連携し研修会を実施した。	6日／67名 7日／64名 合計 131名

(2) 福島県文化センター40周年記念事業

事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等	入場者数
劇団東京ヴォードヴィル ショー「無頼の女房」公演	4月16日、18:30開演 会場／大ホール 料金／A席3,500円 B席2,500円	福島市出身の俳優佐藤B作が主宰する劇団東京ヴォードヴィルショーの公演を実施した。 作・演出／中島淳彦 出演／佐藤B作、あめくみちこ、山口良一他	1,104名
松竹大歌舞伎公演	11月3日、12:30、17:00開演 会場／大ホール 入場料金／S席6,500円、A席4,500円、B席2,000円、B席学生1,000円他	日本古来の伝統芸能の継承・普及を目的に、歌舞伎公演を実施した。また、歌舞伎への理解を深め公演をより楽しんでもらうため、歌舞伎講座も実施した。 出演／坂東三津五郎、尾上松緑他 演目／舞踊「浦島」、「身替座禅」他 歌舞伎講座1／葛西聖司（NHKアナ） 歌舞伎講座2／藤田洋（演劇評論家）	昼の部 724名 夜の部 683名 合計 1,407名 講座1／226名 講座2／260名 合計 486名
かわせみ座 「ことばのないおもちゃ箱」 公演	11月9～10日 9日／天栄村 10日／泉崎村	広く事業団の活動を知ってもらうために、生の舞台芸術鑑賞の機会が少ない地域に向き、開催地との共催により実施した。	9日 507名 10日 228名 合計 735名
事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等（共催の場合）主管団体	入場者数
40周年記念マNDERシネマ	23年1月17日 10:30、13:00上映開始 会場／大ホール 料金／500円	40年前の開館当時の時代を振り返り当時公開された作品を上映した。 作品／「潮騒」「戦争と人間 第1部 運命の序曲」	232名
40周年記念コンサート	23年2月6日 13:30開演 会場／大ホール 入場料／無料	福島県ゆかりのアーティストと過去にマイホールコンサートに出演した個人・団体によるコンサートを実施した。 出演／湯浅ジョウイチ、伊賀拓郎、星由佳子他	900名
ふくしま発信！歴史講演会	9月25日、10月16日、23年2月26日 会場／小ホール 入場料／無料	福島に関する考古・歴史の題材を取り上げ、日本史研究の第一人者を招いて、講演会とともにミニ展示を実施した。 講師／山田邦明（愛知大教授） 飯沼賢司（別府大教授） 村田晃一（東北歴史博物館学芸員）	9月25日162名 10月16日98名 2月26日163名 合計 423名
ベンチャーズ・コンサート	8月20日 大ホール	共催／ジー・アイ・ピー	1,540名
アフリカ音楽紀行／カメルーン国立民族舞踊団公演	9月17日 大ホール	共催／民主音楽協会	900名
ノエ・乾ヴァイオリン・リサイタル	10月8日 大ホール	共催／福島中央テレビ、福島民友新聞社	500名
ブロードウェイ・ミュージカル・カンパニー公演	11月28日 大ホール	共催／福島民報社	1,003名
由紀さおり＆安田祥子コンサート	12月12日 大ホール	共催／福島放送	936名
藤井フミヤ・コンサート	23年1月16日 大ホール	共催／テレビユー福島	1,500名

(3) 共催事業

事業名	期日・開催場所	主管団体	入場者数
国民読書年記念 「沖方丁・和合亮トーク ショー」	5月15日 小ホール	福島民報社 岩瀬書店	400名
第64回福島県総合美術展覧会	6月18～27日 2・3F展示室	福島県	6,038名
福島現代美術ビエンナーレ 2010 HANA	10月16～24日 3F展示室	福島現代美術ビエンナーレ実行委員会	1,850名
伝統文化ふれあい広場	10月17日 大ホール他	伝統文化ふれあい広場実行委員会	800名

第 5 節 財団法人福島県文化振興事業団の概要

- 1 財団法人の名称
財団法人福島県文化振興事業団
- 2 事業団の目的
芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、保存、活用等を図り、もって県民の教育、学術及び文化の振興に寄与する。
- 3 事業団の事業
 - 文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術文化事業
 - 文書、考古、民俗等の歴史資料の収集、研究、整理保管及び研修に関する事業
 - 埋蔵文化財の調査、研究、整理及び保存等の事業
 - 文化財保護の教育普及並びに文化財の展示、保管及び研修に関する事業
 - 委託を受けた文化センター及び文化財センター白河館の管理運営
 - 物品販売等に関する事業
 - その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 4 組織(平成23年3月31日現在)

(1) 役員、評議員
理事 9 名及び監事 2 名、評議員 10 名

(2) 組織体制
 - ・福島県文化センター(総務課、事業課、歴史資料課)
 - ・福島県文化財センター白河館(総務課、学芸課)
 - ・遺跡調査部(遺跡調査課)
となっており、職員は 58 名となっている。

役員名簿 (平成 23 年 3 月 31 日現在)		
職	氏 名	現 職
理事長	富田 孝志	福島県文化センター館長 福島県歴史資料館館長
副理事長	渡邊 和裕	福島商工会議所副会頭 ㈱山水荘代表取締役
理 事	菊池 徹夫	福島県文化財センター白河館長 一般社団法人日本考古学協会会長 早稲田大学名誉教授
〃	小野 利廣	白河地区経営者協会会長 福島県南土建工業㈱代表取締役
〃	新城猪之吉	末廣酒造㈱代表取締役社長
〃	須佐由起子	元福島県教育委員会委員長
〃	高萩阿都志	㈱タイヘイドライバーズスクール 代表取締役社長
〃	平田 公子	国立大学法人福島大学人間発達文化学類教授
〃	山口 哲子	宇都宮文星短期大学教授
監 事	齋藤 忠	公認会計士
〃	芳賀 裕	司法書士

評議員名簿 (平成 23 年 3 月 31 日現在)		
氏 名	現 職	
五十嵐 乃里枝	元三島町生涯学習課社会教育指導員	
石 河 清	元いわき短期大学教授	
伊 藤 喜 良	国立大学法人福島大学名誉教授	
懸 田 弘 訓	県文化財保護審議委員	
齋 藤 美保子	郡山女子大学短期大学部准教授	
澤 田 修	企業組合劇団風の子東北代表理事	
宗 田 利八郎	倉美館(棚倉町文化センター)運営協会監事	
新 妻 香 織	フー太郎の森基金理事長	
馬 目 順 一	いわき市教育委員会委員長	
湯 浅 孝 子	財団法人湯浅報恩会会長	

＊五十音順

平成22年度実績 教育年報

発 行 平成 24 年 2 月 16 日
編集発行 福島県教育委員会
 福島市杉妻町 2 － 16
 TEL (024) 521 － 7759
